眞のいのちの書

神聖なる師の教え

第12巻

第339～366の教え

全12巻からなる『真の生命の書』（Libro de la Vida Verdadera）は、全人類への遺産であり、
メキシコシティの「教育・公共事業省著作権総局（Dirección General del Derecho de Autor de la Secretaría de Educación Pública」に、登録番号26002、20111、83848として登録されています。

スペイン語版原書に関する詳細情報：
アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ヴェルダデラ、A.C.
Apartado Postal 888, México, D.F., - C.P. 06000

ドイツ語訳、ドイツ語版への序文、解説、脚注、注釈および本書に関する注記の責任者：
ヴァルター・マイヤーおよびトラウゴット・ゲルテンボート。

2017年1月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：
ブーフディンスト・ツム・レーベン
マンフレッド・ベーゼ
キルヒヴェーク5
D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0) 7371 929 66 42
Eメール：manfredbaese@gmx.de

『真の生命の書』は、この版を基にDeepL Translatorを用いて多くの言語に翻訳されています。

これらは、ゴットホルト・ゲルテンボートによって翻訳され、ライヒル出版社から出版された、著作権を有する真正かつオリジナルの著作物です。これらは本来の純粋な形で保存されなければならず、改変してはなりません。改変することは罪であり、神の裁きを招くことになります。

主がアンナ・マリア・ホスタに語られた言葉：
2017年3月25日
イエスは彼女にこう言われます。*「封印の時代」*……
…そしてこう言われます：
「これを活用しなさい。今日、わたしはあなたを選び、わたしの教えを受け取り、それを人々に伝えるようにしたのだ。」

この取り組みの責任者は、これらの書物の所有者である主イエス・キリスト、私たちの神の御名において、アンナ・マリア・ホスタが務めています。
（Eメール：hoanna64@yahoo.com　）
DeepL - ダウンロードリンク：www.DeepL.com/Translator（ビジネス版）
DeepLは現在100以上の言語に対応しており、デスクトップにダウンロード可能です。翻訳にはインターネット接続が必要です。

2026年9月現在

目次

『真のいのちの書 1
による序文 6
序文 8
教え 339 14
教え 340 25
教え 341 37
教え 342 49
教え 343 61
教え 344 73
教え 345 84
教え 346 106
教え 347 118
教え 348 130
教え 349 141
教え 350 153
教え 351 165
教え 352 178
教え 353 189
教え 354 200
教え 355 210
教え 356 222
教え 357 240
教え 358 249
教え 359 261
教え 360 274
教え 361 288

教え 362 299
教え 363 311
教え 364 322
教え 365 331
教え 366 342
目次 368
1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の教え 374

による序文

喜びと感謝の念を込めて、シリーズ『真のいのちの書』の最終巻である第12巻をご紹介いたします。本書は、他の巻と同様、トラウゴット・ゲルテンボート氏によって、スペイン語からドイツ語へと、細心の注意と深い理解をもって翻訳されました。 いつものように、キリストの言葉が持つ霊的な意味を十分に理解できるよう、心を静めて少しずつ読み進め、その都度読んだ内容について深く考えることをお勧めします。

あらゆる時代において、創造主の霊は様々な形でその被造物たちに語りかけてきました。第一の時代には、父は良心を通じて直接的な形で御自身を子供たちに知らしめ、さらに使者や導き手、預言者たちの口を通して語られました。主の僕たちによる予言と啓示は、人間の精神の向上する発展と、師の到来を告げていました。

パレスチナにおけるイエスの誕生をもって「第二の時代」が始まり、この時代には「御言葉」が神の子として受肉し、人々にこう語りかけました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」

イエス・キリストは、人間として過ごした33年間、自らの神聖な出自を証し続け、弟子たちに別れを告げる準備として、再び戻ってくると語りました。しかし、それは肉体をもってではなく、霊的なものを象徴する雲の中に、天使の軍勢に囲まれて戻ってくるのだと述べました。

メキシコにおける啓示は、神の御手によって賢明に準備されました。1866年、まず預言者エリヤの霊がロケ・ロハスの心を通じて現れ、「私は預言者エリヤである。タボル山で変容を遂げた者だ」と告げました。彼は集まった人々に、第三の時代、すなわち聖霊の時代が始まると明らかにしました。 数年後、共同体が成長し、キリストが働き手を準備された後、1884年に、キリストは初めて において、選ばれた働き手ダミアナ・オビエドの人間の知性を通じて御自身を現されました。その後、毎週日曜日、メキシコ全土のますます多くの、最終的には数百もの集会所で御自身を現されるようになりました。 神の御心により、メキシコでの啓示は1950年の終わりまで続きました。啓示の時代の最後の約20年間、およそ1930年頃から、主の教えの大部分は速記によって記録されました。 豊富な教え、教義、預言、啓示などは、全国各地に形成された数多くの異なる集会所でなされた。以前は「声の伝達者」 として奉仕し、聖霊の明確な指示に従って行動していた小さなグループが、宣べ伝えられた教えのうち366件をまとめて12巻に編纂した。彼らはこれに

タイトルを

「LIBRO DE LA VIDA VERDADERA」
ドイツ語訳：「真の生命の書」

これらの教えの一つひとつは、神の教えの調和のとれた統一体を成している。当時はメキシコの聴衆に向けられたものではあったが、その中で繰り返し強調されているように、それらは今日の人類全体、そして将来の世代への遺産である。

人を高揚させるのは、神の言葉の文字そのものではなく、その深く内面的な意味であり、それは飢えた魂のための糧であり、癒やしである。同時に、それは日常生活における行動の指針ともなる。

序文

以下の抜粋は、読者に本書の概要を伝える一助となるでしょう。括弧内の番号は、教えと聖句の番号を指しています。

『生命の大いなる書』――『第三の聖書』

わたしの言葉は永遠に書き残されるであろう。そこから、あなたがたは「第三の時代の書」、すなわち『第三の聖書』、父の最後のメッセージを編纂することになる。なぜなら、三つの時代すべてにおいて、神は人類にその知恵を遺すために、ご自身の「金の羽ペン」をお持ちだったからである。

モーセは、父が「最初の時代」の出来事を消えることのない文字で巻物に書き記すために用いた、最初の「金のペン」であった。モーセはエホバの「金のペン」であった。「第二の時代」の私の使徒たちおよび後継者たちの中で、イエスは四つの「筆」を持っており、それらはマタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネであった。これらは「神聖なる師」の「金の筆」であった。しかし、愛と認識、そして霊的進歩の絆によって「第一の契約」が「第二の契約」と結びつけられる時が来ると、それらは一つの書物となった。

今、あなたがたが再びわたしの言葉を受け取っている第三の時代において、わたしもまた、それが書物として残されるよう、「黄金のペン」を任命した。 時が来れば、あなたがたは一冊の書物を編纂することになるでしょう。そして、この第三の時代の書物は――その時が来れば――同様に、第二の時代と第一の時代の書物と統合されることになります。そうして、三つの時代の啓示、預言、そして言葉から、すべての魂を啓発するための**『大いなる命の書』**が生まれるのです。 その時、あなたがたは、すべての言葉――最初の一語から最後の一語に至るまで――が、、真実と御霊において成就したことを、また、すべての預言が、人類の父が啓示された、あらかじめ見通された歴史の成り行きであったことを悟るでしょう。なぜなら、これから起こる出来事を書き記させることができるのは、神のみだからです。預言者たちが語ったとき、語ったのは彼ら自身ではなく、神が彼らを通して語られたのです。

さて、私の深く愛する子供たちよ。あなたがたが編纂し始めたこの書物に、誰が重要性を認めるだろうか。実のところ――誰もいない！しかし、やがて人類が、渇望と好奇心に満ちて、あなたがたの書物を求めてくる時が来るだろう。その時、人々は目覚め、私の言葉を探究し、それについて議論するようになる。その思想の争いの中で、科学者、神学者、そして 哲学者といった各陣営が姿を現すだろう。 諸国には、あなたがたの言葉の証しと知恵の書がもたらされ、すべての人が私の教えについて語るようになる。これが新たな戦

い、すなわち言葉と思想、そしてイデオロギーの戦争の始まりとなるだろう。しかし、最終的に、すべての人々が真理と御霊によって、「生命の大いなる書」が主によって書かれたことを悟ったとき、彼らは兄弟のように抱き合い、私の御心通りに互いを愛し合うようになるだろう。

この御言葉が全世界を照らすためには、三つの書物が一つとなる必要がある。そうして初めて、人類はその光に従い、バベルの呪いは解かれるだろう。なぜなら、すべての人々が『真の命の大いなる書』を読み、皆が同じ教えに従い、霊と真理のうちに神の子として互いに愛し合うようになるからである。（358, 58-66）

キリストの霊の教えの効力

私の光が全世界に広がったことで、あらゆる教えの中に私の真理が求められるようになった。これこそが、人々がそれぞれの信仰や信念に基づいて行動する理由である。これは、かつて預言されたことの成就である。彼らの中で、誰が真理を体現しているのか？　誰が羊の皮を被った飢えた狼を隠しているのか？　*誰が清らかな*衣をまとい、自らの内面の絶対的な清らかさを保証しているのか？ あなたがたは、私の真理を発見するためにスピリチュアリズムを実践しなければならない。なぜなら、人類は、人間の思考の発展に応じて、数多くの信仰告白や世界観に分裂してきたからである。こうして、ますます多くの宗派や教派が形成されてきたため、あなたがたにとって、それらの一つひとつに含まれる真理の真偽を判断することは非常に困難になるだろう。

私の教えは人々の思考や観念を照らし出し、次第に誰もが、自らの行いを完成させ、より完全で高次の道へと導くための基礎を理解するようになるでしょう。（363、4-8）

イエスの奇跡

私はイエスを通して、多くの人々を驚かせるほど、その被造物たちを癒やすことを許した。イエスの力について語り聞かされ、その奇跡を知っていた不信仰者たちは、イエスを一瞬でも動揺させ、彼が決して誤らない存在ではないことを証明するために、最も困難な証拠を要求した。 しかし、悪霊に取りつかれた者たちを解放し、私が彼らに触れたり、見つめたり、あるいは命令の言葉を投げかけるだけで、彼らを普通の人間としての状態に戻し、その霊たちが彼らの な精神から離れ、両者が重い重荷から解放されるという事実が、彼らを困惑させた。

この力に直面して、パリサイ人、学者、律法学者、そして徴税人たちは、さまざまな反応を示した。ある者はイエスの権威を認めたが、ある者はその力を未知の影響によるものと見なし、またある者はそれについて何も言うことができなかった。しかし、癒やされた

病人は、イエスの御名を賛美した。
　ある者はたった一つの悪霊に取りつかれていたが、マグダラのマリアのように七つの悪霊に取りつかれていた者もいれば、その数があまりにも多いため、自分たちを「一軍団」だとさえ言う者もいた。
　師の生涯を通じて、霊的な顕現が次々と起こりました。その中には、十二人の弟子たち（ ）が目の当たりにしたものもあれば、野外や家々で民衆が体験したものもありました。それは奇跡、すなわち「不思議」が相次いだ時代でした。 男女は、あの世からのしるしや呼びかけを受け取った。老人や子供たちもまた、これらの現象の証人であり、救い主が十字架上で息を引き取る前の数日間、天の光が人々の心に差し込み、 霊界の存在たちは人々の心に呼びかけた。そして、師が人間としての最後の息を引き取り、その光があらゆる洞窟や隅々、物質的・霊的な住処へと浸透したその日、長い間彼を待ち望んでいた存在たちへの渇望をもって―― 物質化され、混乱し、病に伏し、道から迷い出た存在たち――良心の呵責という鎖に縛られ、不正の重荷を背負い、また、死んでいると思い込み、肉体に縛られていた他の魂たち――そのすべてが深い眠りから目覚め、命へと立ち上がった。（339, 21-22）

肉体的・精神的な苦しみからの癒やし
　わたしは、霊から霊へとあなたがたに語りかけ、その道を導いていく。しかし、あなたがたが人々のところへ教師として行く前に、まず医者として行くことを望む。そうして、あなたがたが彼らの痛みを和らげたとき、彼らはわたしの言葉という清らかな水の泉から飲むことができるのだ。まず傷や腫れ物、あるいは病を探し出し、彼らの苦しみを癒してから、その後に彼らの魂に向き合うようにしなさい。 第二の時代のイエスのように、あなたがたの同胞のもとへ行き、わたしの言葉に*先立*って癒しの香油を届けなさい。しかし、その香油とは何なのか、おお、弟子たちよ？　それは、祝福され、病人のための薬へと変えられる泉の水のことだろうか？　いいえ、民よ。わたしがあなたがたに語っているその香油は、あなたがたの心の中にあるのだ。 私はそれを貴重なエッセンスとしてそこに宿らせた。そして、愛だけがそれを解き放ち、 止まることなく溢れ出させるのだ。もしあなたがたが、ある病人の上にそれを注ぎたいと願うなら、癒すのはあなたがたの手ではなく、愛と慈悲と慰めに満ち溢れる 霊である。あなたがたが思いを向けるその場所で、奇跡は起こるのだ。
　自然の存在や要素には、あらゆる者に慰めをもたらすために、さまざまな方法で働きかけることができます。しかし、私はこうも言います。病を恐れてはならず、すべての人に対して忍耐強く、慈悲深くありなさい。

憑依された者や、人間の知性において混乱している者たちについても、あなたがたは同様に癒すことができます。なぜなら、あなたがたはその能力を持っており、絶望や忘却に陥った者たちのためにその能力を捧げるべきだからです。彼らを解放し、この権能を信仰を持たない者たちの前で明らかにしなさい。 闇のある場所に光をもたらし、あらゆる束縛と不正を打ち砕き、この世界が主を認識し、真理を完全に悟って自らの内面を見出すように導くこと――これこそが、この民の偉大な使命の一つである。（339、39-41）

天国と地獄

これらの啓示を前にして震えてはならない。それどころか、この言葉が、あなたがたが抱いていた「永遠の罰」という概念や、かつて「永遠の炎」について与えられてきたあらゆる解釈を打ち砕くのだと考えると、喜びなさい。

その「火」とは、魂を苦しめ、そして精錬する痛み、自責の念、そして悔恨の象徴であり、それはまるでるつぼの中で金が精錬されるかのようです。この痛みの中に私の意志があり、私の意志の中には、あなた方への私の愛があるのです。

もし、人間の罪を根絶するのが火であるというのが真実であるならば、罪を犯した者たちの肉体はすべて、この地上の生において火の中に投げ込まれなければならないはずである。なぜなら、死んでしまえばもはやそれを感じることができないからだ。 なぜなら、肉体は決して霊界へと昇ることはないからだ――それどころか、その役割を終えると、肉体は地球の内部へと沈み、そこから生命を授かった自然へと溶け込んでいくのである。

しかし、もしあなたがたが、いわゆる「永遠の火」が肉体のためではなく魂のためにあると信じるならば、それはさらなる重大な誤りである。なぜなら、霊界には物質的な要素は存在せず、火が魂に作用することもないからだ。物質から生まれたものは物質であり、霊から生まれたものは霊である。

私の言葉は、いかなる信仰の信念をも攻撃するために下されるものではない。そう考える者がいるなら、その者は大いに誤っている。私の言葉は、正しく解釈されてこなかったすべての事柄の内容を説明し、 それゆえに、人類の間で世代から世代へと受け継がれてきた誤りを生み出してきたものを明らかにするだろう。

もし私の律法と教えが、魂を誤りと罪から救い出すことができないのであれば、それらはどのような価値があるというのか。そして、もし多くの人々が、終わりのない贖罪の中で永遠に滅びなければならないというのであれば、人間としてこの世に私が現れたことに、いったいどのような意味があったというのか。（352, 44-48）

神の慈しみと助け

あなたがたは、決して見捨てられたまま生きてきたわけではない。あなたがたが命を得て以来、創世の初めから、あなたがたは私の愛という盾の下に守られてきたのである。

子供たちを慈しんで愛する人間の親たちよ。もし子供たちがこの世に生まれたばかりの頃、つまり、あなたの世話や献身、愛を最も必要としている時に、彼らを運命に任せることができるだろうか？

私は、あなたがたが、たとえ子供たちが成人した後であっても、彼らのことを心配しているのを見てきました。過ちを犯し、あなたがたを傷つけた者たちでさえ、あなたがたは最大の愛をもって気にかけているのです。

しかし、*あなたがた*がこのように子供たちの苦難に反応するならば——あなたがたが存在する前からすでに愛してくださった天の父の愛は、いったいどのようなものであろうか？

私は常にあなた方を助けにやってきました。そして今、あなた方の魂がより高い段階へと発展したこの時期に、、私は、悪の力を打ち砕くためにどのように戦わなければならないか、そして善の波動を増幅させる方法を、あなた方に教えてきました。（345、40-42）

完全な祈りの重要な側面

魂の完全性を獲得するために、奮闘し、奮闘しなさい。私は、この目標を達成するための道をあなた方に示した。私は、人生の道において陰険な攻撃からあなた方を守るために、あらゆる物質的な武器よりも優れた「武器」として、祈りをあなた方に託した。しかし、あなたがたが私の律法を全うするとき、最高の武器を手に入れることになる。

祈りとは何から成るのか。祈りとは、願い、執り成し、礼拝、そして霊的な黙想である。そのすべての要素は必要不可欠であり、一つは他から生じている。なぜなら、まことに、わたしはあなたがたに告げる。願いとは、人がわたしに、自分の望みを叶え、渇望を満たしてほしいと求めること——すなわち、その人が自分の人生において最も重要であり、救いになると考えるものを求めることである。そしてまことに、わが子らよ、父は願いを聞き入れ、それがその人の益となる限り、一人ひとりに最も必要なものを与えてくださる。しかし、あなたがたの魂の救いに反するようなものを願うことには、くれぐれも気をつけなさい。 なぜなら、物質的な富や肉体的快楽、はかない権力だけを願う者は、自らの魂を鎖で縛ることを願っているからである。

祈りの第二の形態である「執り成し」は、隣人への愛、すなわち私がこの世に降臨した際、師としてあなたがたに教えたその愛から生まれるものである。身近な兄弟姉妹のため、遠く離れた兄弟姉妹のため、そして、さまざまな国々で戦争の被害に遭い、この世の儚い支配者たちの暴政に耐えている人々のために祈りなさい。

さあ、わが子らよ、準備を整え、同胞たちのために祈りなさい。しかし、この執り成しにおいても、*正しく*祈ることを*知らなければなりません*。なぜなら、重要なのは魂だからです。兄弟や両親、あるいは子供たちが病気であるならば、彼らのために祈りなさい。しかし、それが魂にとって必要なことではないのであれば、彼らがこの世にとどまることを強要してはなりません。むしろ、その魂が解放され、苦しみの中で清められ、その痛みが魂の向上を促すよう祈りなさい。

三つ目の祈りの形態である「神聖な霊への崇敬」とは、あらゆる完全なものへの崇敬を意味します。なぜなら、この種の祈りを通じて、あなた方は完全性、すなわち全宇宙を包み込む愛と一つになることができるからです。礼拝において、あなたがたは皆が到達すべき完全性の境地を見出すことができ、その礼拝はさらに霊的黙想へと導いてくれます。この霊的黙想は、礼拝と相まって、永遠の命の源である神聖な御霊との合一へとあなたを導くのです——その源こそが、あなたがたに、父の御国に至るための力を日々与えてくれるのです。

このように祈りなさい。願いの祈りから始まり、霊的黙想に至るまで。これによって、あなたがたに力が与えられるでしょう。（358、10-16）

教え 339

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. あなたがたは、魂を整え、謙遜と柔和に満ちて、御子たちへの愛と永遠の赦しそのものである御方の扉を叩くために、わたしのところへやって来ます。そして、あなたがたは、痛みを和らげ、嘆きに応え、あるいは暗闇の中に光を灯して、あなたがたが幸福を感じられるようにしてくれる言葉を、切に待ち望んでいるのです。

2. 私は、あなたがたがさまざまな道からやって来るのを見ている。それぞれが異なる使命を果たしている。しかし、あなたがたは皆、同じ目標に向かって進み、完全さに近づくと感じるために、私と一つになろうとしている。そして、あなたがたは、私からの言葉を喜びをもって受け入れる。その言葉は、あなたがたを優しく包み込みつつも、同時に正してくれるものだ。あなたがたはその言葉を本来の意味で解釈し、私を心から愛し始める。 かつてのように、もはや私を恐れることはありません。なぜなら、今日、あなたがたは、私が完全な愛と正義そのものであり、私があなたがたを罰することはないことを知っているからです。恐れるべきは、あなたがた自身なのです。あなたがたは弱く、重大な過ちを犯してしまうからです。その過ちのために、後に涙を流さなければならず、非常に高い代償を払って償わなければならないのです。 しかし、この経験によって、魂を不安にさせ、苦しみを招くような過ちを避けるために、あなたがたは警戒心を持ちながら生きるようになるのです。

3. このように理解した者は皆、正しい道を進んでいる。あなたがたはまだ至高の完全さを備えた行いを成し遂げてはいないが、私の弟子である以上、それを成し遂げる道を進んでいるのだ。光はあなたがたの疑いを払拭し、魂の強さは弱さを克服し、信頼があなたがたを、真の愛をもって自らの使命の成就に専心させるのである。

4. 今や、あなたがたは知らず知らずのうちに、私が求めてきた「簡素さと誠実さ」に満ちた霊的な道を歩み始め、この新しい人生に満足を感じている。もはや、なぜ私があなたがたの元に戻ってきたのか、あるいは私の言葉が新たな道を指し示しているのかどうかを、自問することはなくなった。 今日、あなた方は、私が「第二の時代」に語ったことが、私が教えなければならなかったことのすべてではなかったこと、その教訓がまだ完結していなかったこと、 そして、私があなた方のために「恵みの時」を留保しており、その時に再び教えを再開し、霊的な生活へと導く道、私との真の対話、そして私があなた方の間に住んでいたあの時代に与えた、まだあなた方

が理解していなかった言葉の解説を示す必要があったことを、今やあなた方は知っています。

5. よく考えてみれば、やがて、あなたがたは、第一の時代にも第二の時代にも、これほど大きな教訓を 理解し、感じ取り、信じることができなかったのだと悟るだろう。 しかし、時間と永遠の主である父は、最大の忍耐と知恵をもって、いかなる性急さもなしに、人生の道においてあなたがたの手を導いてこられました。そして今日、あなたがたは新たな時代へと足を踏み入れたのです。

6. 今こそ、まもなくその頂点に達しようとしている聖霊の時代——多くの秘密のベールが取り除かれ、すべてが光と明瞭さとなる、偉大な啓示と正義の時代である！

7. わたしは、あなたがたがこれまで知っていたものを超え、わたしの宝庫に入ることができるように、あなたがたの目を開いた。なぜなら、わたし、父は、わたしの子供たちにとって謎ではないからだ。 私は、私があなた方を愛しているのと同じように、あなた方から完全かつ徹底的に認識され、愛されたいと願っている。私はまだ、私にふさわしい形で愛され、崇められてはいない。そして、あなた方は、律法に対する理解と敬意の一瞬が、私の御霊にどれほどの喜びをもたらすかを知らないのだ。

8. あなたがたが地上に来て以来、あなたがたは自分の理解力の範囲内でわたしの啓示を受けてきた。しかし、あなたがたが成長の道の第一歩を踏み出した頃、その理解力はまだ非常に乏しかった。それは、生まれたばかりの赤ん坊が小さいのと同じである。あなたがたにわたしを理解してもらうために、わたしが見られ、聞かれるよう、自らを制限せざるを得なかった。

9. 初期の頃、私が完全に姿を現さなかったのは、そうすれば*あなたがたの理性が*混乱し、あなたがたの存在全体が押しつぶされたように感じられたであろうからである。それゆえ、私は長い時代をかけてあなたがたを準備し、道の始まりに立たせ、一歩一歩その道を歩ませ、こうしてあなたがたが今日という時代に至り、父をよりよく理解し、愛することができるようになったのである。

10. 私はいつの時代も、この世に使者を遣わしてきた。彼らは、魂の存続、その不死性、そして魂が完全になったときに到達するより高い生命について語ってきたのである。

人間が地球に住み始めた初期の頃、無垢な特徴を備えていた時代もあれば、より大きな罪深さを帯びていた時代もあり、そして今、物質主義と誤った科学がはびこるこの時代においても、私の霊的な

使徒たちは、主との絶え間ない対話によって自らを保ち続けてきた魂が、いかに高い次元で生きているかという証拠を示してきた。

11. しかし、初期の使徒たちは、魂が経験する長い時間的経過や、来世における な生活について、人類に説明することができなかった。徳と創造主への愛をもって自らを保つことを知っていた先祖たちは、自らの家族、氏族、あるいは民族を正義と高潔さの道へと導くことに満足していた。 しかし、彼らは、霊的かつ普遍的な神の存在——来世における魂のより高次な生についての直感的な知識——を持っていたにもかかわらず、その知恵と徳を尽くしても、魂の発展の道や、魂が直面する大きな試練の理由を明らかにすることはできなかった。

12. 預言者たちは極めて誠実に語り、ほとんどの場合、混乱と迷いの時代にこの地上に遣わされた。彼らは人々に警告し、悔い改めと回心を求め、もし彼らが善へと向かわなければ、正義による大きな懲罰が下ると告げた。 また別の機会には、神の律法に従い、それに服従することへの祝福を予言した。

しかし、それらの預言者たちが語ったのは、善と正義、そして相互の尊重を実践するよう促す戒めでした。彼らは、魂の生命やその使命、そしてその発展については啓示しませんでした。私が自分の代理とするために選び、その仲介を通じて永遠の律法を授けたモーセでさえ、霊的な生命についてあなた方に語ったことはありませんでした。

13. 父の律法には知恵と正義が込められている。それは人々に、平和に生き、互いに愛し合い、尊重し合い、私の目から見て人間としてふさわしい者となるよう教えるものである。 しかし、モーセは人類に、肉体の死という境界の向こう側に何があるか、また、不従順な魂の償いがどのようなものか、あるいは、人生の使命において賢明で勤勉であった者たちへの報いがどのようなものかを示すことはなかった。

14. その後、霊の賜物と霊感に満ちたダビデが統治し、高揚した瞬間や恍惚のさなかに、彼は賛美歌や霊的な歌を聞き取り、それらをもとに詩篇を創作した。それらは、イスラエルの民を祈りに招き、主に対して心の最良の捧げ物を捧げるよう促すためのものであった。 しかし、ダビデは、その愛と霊感のすべてをもってしても、民に魂の驚くべき存在、その発展、そしてその目的を明らかにすることはできなかった。

15. そして、彼の後を継いで統治し、同様に、彼に授けられた知恵と力の偉大な賜物を示し、そのゆえに愛され、称賛され、その助

言、裁き、言葉が今日でも語り継がれているソロモン――もし彼の民が彼に立ち向かい、「主よ、 霊的な生命とはどのようなものなのでしょうか？ 死の向こうには何があるのか？　魂とは何なのか？」と尋ねていたら――ソロモンでさえ、そのすべての知恵をもってしても、それに答えることはできなかっただろう。

16. しかし、まことに、わたしはあなたがたに言う。 信仰への熱意と従順さを備えたモーセ、警告を発した預言者たち、模範を示した族長たち、そして有益な助言と正しい判断を下した顧問、学者、裁判官たちは、あなたがたに彼らの模範を残した。それは、あなたがたが彼らに倣うことによって、この地から「高き来世」の約束の地へと向かう道のりの最初の歩みを、確かなものにするためである。 あなたがたは、この世で善を行うことから始め、地上で正義を見出すために、互いに公正でなければならない。ここで、あなたがたは畑仕事の実りや収穫を得た。この住処は、当時の人々にとって、霊の永遠の命の反映であり、その写しであった。

17. その後、メシアは人間となって現れ、新たな時代を切り開き、人類に新たな教訓を与えた。その際、メシアは人類に大きな啓示を与え、「あなたがたは光の子らであり、わたしはあなたがたをわたしの弟子とする。まことに、あなたがたに告げる。わたしがしているのを見るすべてのことを、あなたがたも父の名によって行うことができる」と告げたのである。

そして実際、私の霊が顕現したメシアは、第二の時代への門を開く鍵と、命と知恵と正義と永遠の書に施された封印を解く力をもたらした。

18. 主の到来に先立ち、私は霊界が人間界を訪れることを許した。主の随行者の中には、光と高潔な精神を持つ霊たちもいれば、それほど高潔ではない霊たちもいた。当時、どちらの霊たちもそこに存在していた。前者は、献身的な謙虚な奉仕者として現れた。 その中には、マリアに、彼女の最も清らかな胎内に父なる神の「御言葉」を受け入れるという崇高な使命を告げた者もいた。また、別の者はベツレヘムの羊飼いたちを訪れ、救い主の誕生の知らせを伝え、さらに別の使者は聖家族に迫る危険を警告し、エジプトへの逃避行において彼らを導き、守った。

19. この時代、多くの顕現が、多くの人々の歓喜と信仰のうちに目撃された。しかし、霊的な生活に対して敵対的かつ不信仰な者たちは、この真理を疑い、否定した。それでも、四方八方に散らばっていた私の霊的な軍勢は、師が放つ光に引き寄せられた。

20. 神の御業に奉仕する光の存在たちと、反抗的で無知な者たちが至る所でその存在を顕わし、その人類の中には、科学でも解放することができず、民衆から追放された憑依された者たちが現れた。律法の教師たちも、科学者たちも、その病める者たちに健康を取り戻させることはできなかった。

21. しかし、これらすべては、あなたがたを教え、愛の証しを与えるために、わたしがあらかじめ定めていたことである。わたしは、多くの人々を驚かせるべく、イエスを通して、その被造物たちの癒やしをあなたがたに与えた。

イエスの力について語り聞かされ、その奇跡を知っていた不信仰者たちは、イエスを一瞬でも動揺させ、彼が決して間違いを犯さないわけではないことを証明するために、最も困難な証拠を要求した。 しかし、悪霊に取りつかれた者たちを解放し、私が彼らに触れたり、見つめたり、あるいは命令の言葉を投げかけるだけで、彼らの精神から悪霊を追い出し、両者をその重い重荷から解放し、正常な人間としての状態に戻したという事実は、彼らを困惑させた。

この力に直面して、パリサイ人、学者、律法学者、そして徴税人たちは、さまざまな反応を示した。ある者はイエスの権威を認めたが、ある者はその力を未知の影響によるものと見なし、またある者はそれについて何も言うことができなかった。しかし、癒やされた病人は、イエスの御名を賛美した。

ある者はたった一つの悪霊に取りつかれていたが、マグダラのマリアのように七つの悪霊に取りつかれていた者もいれば、その数があまりにも多く、自分たちを「一軍団」だとさえ言う者もいた。

22. 主の生涯を通じて、霊的な現れが次々と起こった。あるものは十二使徒たちの目の前で、またあるものは民衆の前で——野外でも家の中でも——目撃された。それは奇跡、すなわち「不思議」の時代であった。

男女は、あの世からのしるしや呼びかけを受け取った。老人や子供たちもまた、これらの現象を目の当たりにし、救い主が十字架上で息を引き取る前の数日間、天の光が人々の心に差し込んだ。 霊界の存在たちは人々の心に呼びかけた。そして、師が人間としての最後の息を引き取り、その光があらゆる洞窟や隅々、物質的・霊的な住処へと浸透したその日、長い間彼を待ち望んでいた存在たちへの渇望をもって—— 物質化され、混乱し、病み、道から迷い出た存在たち——良心の呵責という鎖に縛られ、不正の重荷 を背負い、また、死んでいると思い込み、肉体に縛られていた他の魂たち——そのすべてが深い眠りから目覚め、命へと立ち上がった。 しかし、彼ら

がこの地を去る前に、かつての親族たちに対し、自らの復活と存在の証しを伝えた。こうした一連の出来事を通じて、世界はその悲しみと苦痛に満ちた夜、これらの顕現を目の当たりにした。

人々の心は震え、子供たちは、長い間亡くなっていた者たちが、その日、ほんのひとときだけ戻ってきて、愛の種を蒔くために地上に降りてきたあの師について証しを立て、 同時に、彼もまた、数え切れないほどの魂が住む霊的な畑を耕し、彼らもまた彼の子供たちであり、彼は彼らを癒やし、無知から解放した。

23. これらの事実に関する知識は世代から世代へと受け継がれ、使徒たちは世界の各地を巡り、眠りについた人類の目を開かせ、より高次の生活へと導く道を示し、高き来世への道を開き、彼らの師の教えを説いた。 彼らもまた、悪霊に取り憑かれた者を解放し、肉体だけでなく魂の病も癒した。彼らは、この世に住む者たちにも、遠い世界に生きる者たちにも、励ましと憐れみの眼差しを向けた。愛する者にとって、他人の痛みも遠い痛みも存在しないからである。 準備を整えた者は、それがどこにあろうとも、嘆きや願い、あるいは苦難を感知することができる。そして、これらの弟子たちは、他の人々に教えを授け、彼らが地上の使命を果たす上で自分たちに続くよう導いた。

24. 私がこれらの顕現を許したのは、世界が深く考え、魂は死なず、その命は永遠であり、魂が住むあらゆる住処において、あらかじめ定められた道があり、その義務が課せられており、果たすべき使命があるということを悟るためであった。

25. 私は、自らの真理を証し、人類の不信仰を克服するために、十字架の死の後でさえも再び戻ってきた。そして、私の弟子たちの間ですら、私が「命」であり、私の命がすべての被造物の中に宿っていることを証明するために、自ら姿を現さなければならなかった。 私は、私の後継者たちが私を見、その指で私に触れるように導いた。それは、彼らを苦悩から解放するためであった。なぜなら、私がゴルゴタで私の業を成し遂げた後、彼らは動揺しており、私の臨在が彼らを慰め、励ます必要があったからである。 しかし、これがその出来事のすべての意味ではなかった。それは、私の再臨を に予見させるものであり、私が霊として現れ、愛する弟子たちを驚嘆と喜びで満たした際に、私があなたがたに与えた深遠な意味を持つ教訓であった。そこで彼らは、私がこのように――霊的な形で――すべてを説明し、あなたがたに新たなメッセージをもたらすためにやって来る時が来ることを悟ったのである。

26. 当時、私はあなたがたに次のように語った。「私があなたがたに語ったことは、私が教えなければならないことのすべてではない。あなたがたがすべてを知るためには、まず私が去り、真理の御霊をあなたがたに送らなければならない。そうして、その御霊が、私が語ったこと、行ったことすべてを説明してくれるのだ。試練の時には、慰め主をあなたがたに約束する。」 しかし、その慰め主、その説明者とは、まさに私自身のことであり、私はあなたがたを啓発し、過去の教えと、今私がもたらすこの新しい教えを理解できるよう助けるために、再び戻ってくるのである。

27. 第三の時代を切り開いたのは私である。それは、あなたがたが徹底的な研究を行うことによって、私のあらゆる顕現の根拠を認識し、私の啓示に対する理解を得られるようにするためである。

28. 第二の時代——私がこの世に生きていた年月において、私は超自然的な出来事や現象、そして存在たちに囲まれていました。そして、これらすべてが、この時代の重要性を、太古の昔から深く愛される人類に対してなされてきた私の約束の実現を物語っていたのです。 そして今日、私があなた方にさらなる教訓をもたらし、霊的な生活を知らしめるにあたり、私はあなた方に能力と賜物を授ける。それは、あなた方が魂の医者となり、その道において、たゆまぬ種まき人、真の知恵の教師となるためである。そしてこの使命のために、私はまず第一に「イスラエルの民」を選び、彼らこそが他の諸民族を導く者となるようにした。

29. 今日の人類は、あなたがたの目にはその数が膨大に見えるかもしれないが、人類を取り巻く霊界と比べれば、ごくわずかである。あの霊の軍勢は、いかなる力を持って人々の道に侵入していることか。しかし、人々は自分たちを取り巻くその世界を認識せず、感じもせず、聞くこともない。

30. わが弟子たちよ、わたしはあなたがたを準備している。それは、あなたがたがあらゆる魂の中に光を灯し、互いに真の友人、兄弟姉妹、助言者、そして癒し手となるためである。そして、あなたがたの直感が、誰があなたの周りにいるのか、その人々の苦難、使命、あるいは償いが何であるかを教えてくれるだろう。 しかし、この偉大な業に専心するあなたがたは、私があらゆる存在に与えた運命を尊重し、愛さなければならない。そして、私の慈悲があなたがたを置いた高みから、あなたがたを転落させるような学問に踏み込んではならない。

31. あなたがたはもはや無知ではない。今日、あなたがたは確かな足取りで歩んでいる。それは、あなたがたがずっと以前にすでに

その業を始めていたからである。 族長や預言者たちの時代から、そしてその後、あなたがたが賢明に導かれ、助言を受けたモーセの時代に至るまで、あなたがたのすべての行い、祈り、言葉は記録され、魂にその影響を及ぼしてきました。それらは、あなたがたが私の最初の偉大な啓示を受け取り、また私の到来を目の当たりにするにふさわしい者となるための始まりでした。

32. この時代のわたしの啓示は実を結ばないことはない。そして、わたしに耳を傾け、わたしの教えを活かした者たちにとって、それは味わい深い実りの宝となるであろう。 私が人間を通じて御自身を現すことをやめたとき、私は証人たち、すなわち弟子たちを残し、彼らは引き続き働き続けるでしょう。その後、私はこの民の懐から、この種を増やし続ける新しい世代の種蒔き人たちを現すでしょう。

33. わたしは、あなたがたに、先祖たちの幸福な日々を取り戻すよう招く。平和と繁栄、そして生きる喜びが支配していたあの時代のような、徳高く質素な生活を送っている自分を、ひととき想像してみてほしい。

信仰と徳によって、人は心身ともに健やかで力強くあり続け、正義と行動力、そして強さをもってわたしを体現していたあの幸福な時代を思い起こしてください――その時代、女性もまた、徳と優しさ、道徳的な力、そして魂と肉体の美しさに満ち、子宮であり揺りかごであり、 子供たちや夫、そして父親にとって、慈愛の源であり、敬虔さの模範であったあの時代を。

34. ある者の屋根が他者を守るために広がり、もてなしと慈悲、愛と配慮が存在していたあの時代を思い出してください。 もしあなたがたが再びそのような日々を経験し、隣人を愛し、仕え、あなたがたの民族の平和、あなたがたの心と家庭の平和を促進したいという願いを抱くようになったなら、私は他の民族たちを招き、この喜びを分かち合うようにするでしょう。ここ、あなたがたの仲間の中で、彼らは兄弟愛と友情を見出し、あなたがたの心の中に誠実さを見出すでしょう。 あなたがたの屋根の下では、彼らは高潔さと道徳を見出し、食卓には神の恵みが並び、言葉には光と真理が宿るでしょう。そして、平和を渇望するそれらの民族があなたがたを訪れ、あなたがたの精神的な理想を分かち合った後、彼らは 、それぞれの国へと、遠くても近くてもその道程を経て帰路につき、霊性と真実の足跡、模範を残していくでしょう。 彼らは、あなたがたのようにありたいという願望を抱くようになるでしょう。なぜなら、あなたがたが私の律法の履行と、あらゆる行いにおける簡素さ、高揚、そ

して真実さである霊性の中に発見した、平和、健康、そして生きる喜びの秘訣を、あなたがたの元で発見したからです。

35. 不確実さと苦痛の中で翻弄されているこの人類を見ますか？ あなたの惑星を包み込む、憂鬱と暗い予感という覆いを感じますか？　師はこう告げます。「私の再臨を知らず、また私の言葉に導かれて生きていないその世界は――なんと霊的な生活から遠く離れていることか！」 しかし、その住民たちが悟りを開くためにも、一つの証拠、一つの呼びかけがあれば十分であり、それによって彼らは立ち返り、地球上で彼らの魂が果たすべき唯一の使命は、私が彼らに与える試練を通じて自らを完成させることにあると悟るだろう。

36. 多くの人々は、この偉大な真理を、自らの肉体を地中に残し、すべての人を待ち受ける「あの谷」の敷居を越える前に理解するだろう。人類は「この悟りから、あと一歩のところ」にいるのだ。ベールは引き裂かれ、すべての人の目が開かれ、隠された知識と向き合うことになるだろう。そして、あなたがたがこれほど偉大だと考えているこの世界――その広大な大陸、果てしなく広がる海、そして砂漠、長い道のり、あなたがたには手の届かない人々、理解しがたい人種―― ある教え、ある言葉、ある啓示によって打ち負かされるだろう。しかし、それによって血や死、あるいは苦痛の痕跡は一切残らない。

37. 人間は、炎を焼き尽くす一つの言葉によって啓発されるであろう。 しかし、この炎は愛によって成り立ち、その道筋に残す痕跡は、生命、健康、慰め、そして平和で構成されるだろう。この教えは、私の律法であり、私の言葉であり、私が再び私の子供たちに差し出す永遠の業であり、それはすべての魂に刻まれており、その印は消えることがないため、すべての人の心から力強く湧き出るだろう。

38. この働きはどのように始まり、この知識はどのようにして人々に伝わるのか。私はすべてを完璧に準備した。その大部分を、私が自らの務めとして引き受ける。 しかし、あなた方と私の霊的な軍勢には、この業に参加させてやる。また、私が無限の使命を託した使者たちにも同様である。そうして、あなた方が光の軍団として旅立ち、 過去の時代および現在の時代に現実のものとなった霊的な啓示と説明を伝え、その重要性を予感していた者はごくわずかであった。 しかし、この光は、社会階級や人種を問わず、すべての人に届くべきである。なぜなら、あなたがたは、不信仰者たちの裁きや罰を恐れて、躊躇してはならないからである。

39. いつ働き始めるべきか、私はあなた方に指示を与える。なぜなら、それは非常に大きく明確なしるしが現れる時であり、あなた方は霊界の呼び声と、この世の呼び声を聞くことになるからだ。この世は、その出来事を通じて、あなた方の闘いの時が来たことを告げるだろう。私は霊から霊へとあなた方に語りかけ、その道を導いていく。

しかし、私は、あなたがたが人々のところへ教師として、あるいは医師として赴く前に、まず彼らの痛みを和らげてほしいと願っている。そうして初めて、彼らは私の言葉という清らかな水の泉から飲むことができるのだ。まず傷や腫れ物、あるいは病を探し出し、彼らの苦しみを癒してから、その後に彼らの魂に向き合うようにしなさい。

40. 第二の時代のイエスのように、あなたがたは隣人のもとへ行き、わたしの言葉とともに癒しの香油を届けなさい。しかし、その香油とは一体何なのか、おお、弟子たちよ？　それは、祝福され、病人のための薬へと変えられる泉の水のことだろうか？　いいえ、民よ。わたしがあなたがたに語っているその香油は、あなたがたの心の中にあるのだ。私はそれを貴重なエッセンスとしてそこに宿らせた。そして、愛だけがそれを解き放ち、止まることなく流れ出させるのだ。もしあなたがたが、ある病人の上にそれを注ぎたいと願うなら、癒すのはあなたがたの手ではなく、愛と憐れみと慰めに満ち溢れた御霊である。あなたがたが思いを向けるその場所で、奇跡が起こるのだ。

41. 自然の存在や要素には、あらゆる者に慰めをもたらすために、さまざまな方法で働きかけることができます。しかし、私はこうも言います。病を恐れてはならず、すべての人に対して忍耐強く、慈悲深くありなさい。

憑依された者や、人間の知性において混乱している者たちについても、同様に癒すことができます。なぜなら、あなた方にはその能力があり、絶望や忘却に陥った者たちのためにその能力を捧げるべきだからです。彼らを解放し、この権能を信仰を持たない者たちの前で明らかにしなさい。闇のある場所に光をもたらし、あらゆる束縛と不正を打ち砕き、この世界が主を認識し、真理を完全に悟って自らの内面を見出すように導くこと――これこそが、この民の偉大な使命の一つである。

42. この世にまだ属しているという妄想に囚われ、魂が乱れ、混乱して生きている者たちが、その大きな過ちから抜け出せるよう、

慈愛をもって助けよ。暴力を振るうことなく、すべての存在を正しく扱うために、あなたの心を優しさと憐れみで満たせ。

43. あなたがたは、こうした混乱した存在たちに、光も慰めももたらさなかったというのか？　いいえ、と師は言う。私がこの知識をあなたがたに授けて以来、あなたがたはこれらの被造物の道を照らしてきたのだ。しかし、これらの魂を改心させるためには、あなたがたの信仰と祈りがどれほど大きくなければならないことか。

44. 闇の勢力を打ち倒す戦いは、すでに世界から世界へと燃え広がっている。大いなる戦いは宇宙規模で繰り広げられており、人間がそのことを確信し、武器を手に取れるようになることが必要である。

世界が準備を整え、光をもたらすはずの最後の試練に向かっている間、あなたがたは祈り、見守り、苦しむすべての人々に癒しの香油を届けなさい。祈りの中で彼らのもとへ行き、あなたがたの霊的なマントの下で彼らを守りなさい。あなたがたが愛をもって自らの存在を注ぎ出す間、私は私の霊をもって全宇宙を包み込むからである。

45. 民よ、祈りなさい。私の別れが近づいているからといって、一瞬たりとも勇気を失ってはならない。私の言葉によって力を得て、諸国の平和を祈り求めなさい。

46. 今後は、かつて自分が何者であったか、また明日何者になるかを、もう知りたがるな。 ただ、あなたがたはかつてそこにいたこと、今そこにいること、そして再びそこにいることになること、そして私があなたがたのために示した道を通って私の元へたどり着くこと——あなたがたはイスラエルの霊であり、私の業の中で崇高な使命を担うために選ばれた民であることを、心に留めておきなさい。地上の平和と来世の至福を得るために、努力しなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 340

1. 愛と憐れみをもって、私はあなたがたに、第二の時代に私が与えた言葉を思い起こさせます。そのとき、私はあなたがたに互いに愛し合い、あなたがたの歩む道に私の愛の明確な痕跡を残すよう教えました。

2. 私は、あなたがたに、あらゆる被造物よりも神を愛するよう教えました。しかし、この第三の時代において、私は再びあなたがたの魂に語りかけ、私の愛と光と慈悲を授けようとしています。

3. わたしの懐から離れてはならない。なぜなら、未来が何をもたらすか、あなたがたにはわからないからだ。そして、その時にあなたがたが弱くなることを、わたしは望まない。 あなたがたは、世界に確かな道を示し、私があなたがたに託した教えを一語一語伝えていくために旅立つ、選ばれた民である。しかし、私の業は単なるもう一つの宗教ではない——宗教を、その知性に応じて作り出したのは人間たちであった。私の業は教えであり、私が太古の昔からあなたがたに伝えてきた法である。

4. 現代において、人類は苦難の杯を飲み干しながら、「これは神の罰だ」と言う。しかし、父はあなたがたにこう告げる。「私は愛であり、あなたがたを罰したりはしない。自ら清めを求めたのは、あなたがた自身なのだ。」

この時代、私はあなたがたに教えを与え、あなたがたは言葉、直感、予知の賜物、そして啓示を通じてそれを受け取っている。私は、常にあなたがたを光の道から逸らそうとする誘惑に、魂が不意を突かれないよう、あなたがたの魂を強めている。

5. 私は、心の奥底で「私たちを、あなたの使徒の一員となるにふさわしい者にしてください」と私に語りかける者たちの声を聞いています。しかし、私はあなたがたに告げます。1950年以降、私は新たな弟子たちと僕たちを育て上げ、彼らが直感と霊感を通じて私のメッセージを受け取り、人類に語りかけるようにするのです。

6. あなたがたは、「天の梯子の七つの段階」がどのような意味を持つのかと自問している。そして、あなたがたの師は断言してこう告げる。数字の「七」は霊性を意味する。それは、私が選民であるイスラエルに見てみたいと願う霊性そのものである。 あなたがたは、すべての美徳と開花した能力を携えて、私のところに来なければなりません。あなたがたの成長の第七の段階、すなわち第七の段に到達したとき、あなたがたは私の元へ辿り着き、天があなたがたを迎え入れるためにその門を開くのを見るでしょう。

私は一瞬たりともあなた方を離れることはありません。もしあなた方の心に痛みがあるとしても、それは私があなた方を捨てたからではありません。私の愛は無限だからです。その理由は、父があなた方が目覚め、覚醒した状態を保つために、その痛みがあなた方に届くことを許されたからです。

7. 愛する民よ、あなたがたは人類を代表して私のそばにいる。あなたがたは、私の選民であるイスラエルの部族の一部、すなわち14万4千人の「印を刻まれた者」を構成している。しかし、あなたがたの中には霊的な者もいれば、物質的な者もいる。

8. 人類の苦難は甚大であるゆえ、この平和と慰めのメッセージを、あなたがたは地の隅々まで届けなければならない。わたしはあなたがたの旅の荷を、わたしの愛の賜物で満ち溢れるほどに満たし、また、あなたがたの道を阻もうとする闇を払いのけるために、剣をあなたがたの手に授けた。

9. この第三の時代において、私はあなた方のために食卓を整え、あなた方の魂に霊的な糧を与えた。なぜなら、あなた方が霊化に至るよう、あなた方を照らすのは聖霊だからである。

10. この第三の時代において、エリヤは先駆者であった。彼は、私の愛の囲いの中であなた方を一つにまとめ、互いに赦し合い、愛し合うことを学ぶよう、この道を歩み続ける手助けをしている。私の教えに従う者は皆、光と魂の平安に到達し、その存在から喜びが溢れ出るだろう。

11. わたしの愛において、わたしはあなたがたに自由意志を授けた。それは、あなたがたが自らの意志によってわたしのもとに来るためである。しかし、あなたがたは自ら高みへと昇ることができなかったため、わたしはあなたがたのもとに来て、神の愛の優しさをもって道を教えようとしたのである。

12. 真の霊性主義者は、その言葉ではなく、その良き模範によって見分けられる。あなたがたの昇華を助けるために、私の輝く光線があなたがたの世界へと降り注ぎ、あなたがたの魂を照らし、高めてくれる。

13. 人々は、心の奥底にまで届く私の愛と、私の言葉を必要としている。師は、あなたがたの魂が日々ますます照らされ、無知から解放されてより高い領域へと昇華できるよう、たゆまず奮闘している。

14. 私の王国の門は開かれており、父の「御言葉」は、再び道を示すために、限りない愛を込めてあなた方の元へ届いている。

15. 私は再び人類のもとへやって来たが、人々は私を感じ取ることができなかった。それは、私が霊的な姿で現れたのに対し、彼らの物質主義があまりにも強かったからである。あなたがたの魂は私の神聖な霊から生まれたのであるのに——なぜ人々は私を感じ取れなかったのか。それは、彼らが自らの魂を物質主義や低俗な情欲に縛り付けてしまったからである。 しかし、ここに神の子羊がいます。光となってあなたがたのもとへやって来て、あなたがたを照らし、真理をもたらすのです。

16. わたしの言葉は、あなたがたの魂の糧であり、魂が清められ、神からふさわしいものを受け取るための、水晶のように澄んだ水である。地上の宝を追い求めるのではなく、永遠の宝を追い求めよ。そうして、あなたがたを取り巻く栄光に気づくことができるように。

17. 困難な時、悲しみや落ち込みを感じるときには、祈りの中で立ち上がりなさい。そうすれば、あなたがたの父から憐れみを受けることができる。

18. わが民よ、あなたがたは信仰と信頼を欠いていたために、落ち込んでいる。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。もし信仰が欠けていれば、勇気を失い、魂は弱く、悲しく、落ち込んだ気分になるだろう。 あなたがたに必要なすべてのものを得られるよう、父への信仰と信頼を置くことを、わたしは望んでいる。幸せになるために愛し、善良で謙虚であり、忍耐強く苦難に耐え、隣人からの侮辱を赦しなさい。

19. わたしは、あなたがたが再びわたしの教えを受け入れ、心の中にわたしを住まわせ、わたしの御心を行うために、あなたがたを呼び寄せた——そうして、あなたがたを媒介として、善行を通してわたしが自らを現すためである。

20. 第二の時代において、わたし、キリストは、ナザレのイエスの口を通して自らを現した。そして、人々がわたしから人間としての命を奪ったときでさえ、この光のメッセージは引き続きあなたがたの世界を照らし続け、これからもあらゆる時代においてそうし続けるであろう。

21. わたしの言葉の一つひとつを深く探求しなさい。そうすれば、あなたがたは真理の光に到達することができ、あなたがたの魂はますます大きくなり、わたしの霊的な光の完全な階段を登っていくことになる。

22. 私の光は常に人々のそばにあり、私の使徒たちを通して現れてきた。第二の時代の使徒たちは——聖霊の光に照らされて——私の教えの霊的な種を蒔いた。

第三の時代において、私は無限の愛をもってあなたがたを教えつつ、同時に人間の知性をも用いている。それは、あなたがたが一度この光とこの慈悲に満たされたとき、人類にこれらの光の輝きとこの慈悲をもたらすことができるようにするためである。

私があなたがたを教えるように、あなたがたも教えなさい——私から受け取ったように、無限の愛をもって、あなたがたの隣人に私の言葉を伝えなさい。隣人の過ちを指摘してはならない。なぜなら、私はあなたがたの過ちを暴露するために来たのではないからだ。私の道を歩み、たとえとげを刈り取らなければならないとしても、バラを蒔きなさい。もしとげがあなたの心を傷つけたとしても 、私はあなたの傷を癒やす。私はあなたに癒しの香油、慰め、そして魂の強さを与える。

23. わが民よ。この世には苦難がある。しかし、まことに、わたしはあなたに告げる。それは永遠に続くものではない。なぜなら、わたしは世の闇を取り除き、そこに霊的な光を残すために来たからである。そうして、この大きな苦難が永遠に消え去り、人類がわたしの御心通りに幸福を感じられるようにするためである。 しかし、あなたがたの苦しみや戦争について、父を責めてはならない。それは私の御心ではなかったからだ。

24. わたしはあなたがたに平和、一致、兄弟愛、そして善意を差し出し、互いに愛し合うべきことを教え導いてきた。わたしは、あなたがたの世界に戦士を望むことも、苦痛があなたがたを支配することも望まない。互いに愛し合い、赦し合うことを知らなかったために、そうなることを望んだのは人間たち自身である。 父である私は、あなた方を赦しました。あなた方の罪が大きかったがゆえに、あなた方の苦難もまた非常に大きかったからです。あなた方の痛みのゆえに、私はあなた方を赦しました。苦しんで泣く者は皆、天の父の憐れみと慈しみに値するからです。そして今、私はあなた方の涙をぬぐい去っています。

25. 愛し、赦しなさい。そうしてこそ、あなたがたはわたしの王国に至り、魂に光の衣をまとうことができるのだ。あなたがたが救われるよう、あなたがたの師が道を示してくれる。しかし、わたしがあなたがたに手を差し伸べるのと同じように、あなたがたもまた、隣人に手を差し伸べ、優しくその道を導き、愛と善意を示さなければならない。

26. わが民よ、あなたの苦しみの原因は何だったのか。それはあなたの過ちである。それらは茨と化し、あなたの心を傷つけた。しかし、わが愛があなたの傷を癒やす。

27. わたしはあなたがたに言う。苦しみに値するような理由を作ってはならない。天の御国に入ることができるように、美徳という白い衣をまとって、わたしの道を歩みなさい。

28. あなたがたは、輝く存在たちからなる霊的な大軍の一員となるべきである。なぜなら、あなたがたが天の穹蒼の星のように輝けるよう、わたしは聖霊の光をあなたがたに与えたからである。

29. もう一度言おう。わたしは真理であり、道であり、光であり、命である。わたしのもとに来なさい。あなたがたが、わたしの神聖な御霊のこれらの崇高な特質を活用できるよう、わたしはあなたがたを招いているのだ。

30. この時代において、私はあなたがたの霊に広大な地平線を示している。それは、あなたがたが物質主義から解き放たれ、人類に施すことのできるあらゆる善について思索にふけるためである。

31. あなたがたは、進んで従順な心をもって私の使命を果たし、肉体を制御し、魂と肉体の調和の中で私の御心を行うべきである。

32. あなたがたには、わたしの愛と霊的な恵みが与えられている。わたしの平安を持つあなたがたは、混沌の中にいる諸国民のために祈らなければならない。

33. わたしは、戦争を煽ろうとする者たち――すなわち、人々の硬い心の中に、自らを現す。それは、わたしの意志が彼らの好戦的な意図よりも強いことを彼らに悟らせるためである。もし、それらの者たちの心が依然として硬く、わたしの意志によって心を改めることがないならば、わたしの正義は地球全体に現れることになるだろう。

34. 愛する民よ、人類のために祈り、戦い、働きなさい。そうして、あなたがたを介して、人類がわたしの憐れみを受け取れるようにしなさい。なぜなら、これこそがあなたがたの使命であり、この時代にあなたがたの魂が果たすべき償いであり、それによってあなたがたは功徳を積むことができるからである。

35. イスラエルよ、眠ってはならない。聖霊の光とともに、その困難な使命を果たすために前進しなさい。この時代、若者たちは外へと出て行き、カインのように兄弟同士が互いの命を奪い合っている。

36. 立ち上がり、世界に私の光と、その大きな苦しみへの癒やしをもたらしなさい。光の剣をもって戦い、世界をその罪から救い出

せ。祈りによって、人々を惑わす悪しき影響を取り除きなさい。 私は、世界があなた方を私の神性の使者として認め、私があなた方すべてを裁くこの時代に、あなたがたが、この世の闇の陰謀を打ち砕くために、私が光と力を授けた私の僕となることを望む。

37. この時代、子供たちを偶像崇拝から守りなさい。 様々な宗教団体の中で、多くの人が私にこう尋ねます。「主よ、あなたは再び来られるとおっしゃいました。なぜ私たちの前には現れないのですか？」それは、私を理解していない人々です。なぜなら、私は今まさに私の言葉を成就し、選ばれた者たちの間で私の御心を行なっているからです。彼らこそが、人類を目覚めさせ、この時代に私の臨在を証しする使者となるためです。

38. イスラエルよ。この第三の時代において、大勢の人々があなたを待ち望んでいる。あなたが彼らに福音を伝えるとき、あなたは平和と光の虹のようであるべきだ。

39. あなたがたは、わたしの言葉を隠し、わたしの教えを歪曲する者たちに語りかける必要がある。彼らにははっきりと語りなさい。あなたがたが彼らに対して自らの立場を主張できるよう、わたしがあなたがたを助ける。なぜなら、彼らは、わたしの業に本来属さないものを付け加えたために、明日、わたしの業が非難され、わたしの律法が歪曲される原因となっている者たちだからである。

40. 人類は確信を持って私の教えを受け入れるだろうが、私の真の僕たちは、人々の前で支配者のように振る舞うことはない。明日、あなたがたは、世界が内省し、私の意志を果たすように、近きも遠きも問わず、使命を果たすために勇敢に出発しなければならない。 しかし、イスラエルよ、どれほどの試練があなたを待ち受けていることか！ あなた方を滅ぼそうとして、どれほど多くのわが子らが飢えた狼のように立ち上がるだろうか！ もしあなたがたが準備を整えていなければ、たとえそれがわが意志ではないとしても、大きな苦痛を味わうことになるだろう。あなたがた自身と人類の間に至福が満ちるよう、準備を整え、わが指示の一つひとつに従いなさい。

41. あなたがたは、自分の人生をただ流して過ごし、隣人を赦すように、わたしもあなたがたの過ちを赦すべきだとわたしに言う。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。ただ唇だけが暗記した言葉を繰り返しているだけであり、あなたがたの行いの真の実をわたしに捧げているのは、あなたがたの心ではないのだ。

42. 時折、何らかの試練があなた方にのしかかり、それを誤って神の罰だと解釈して、あなたは私にこう言う。「主よ、私は兄弟を赦したのに、なぜあなたは『私』を赦してくださらないのですか？

」そうではなく、「父よ、もし私が、あなたが私たちに教えてくださったような真実さと誠実さをもって、兄弟を赦していなかったのなら、私を赦してください」と言うべきなのです。

43. もしあなたがたが、毎日少しの間瞑想することを学び、その瞑想が霊的な生活に関わるものであれば、他のいかなる方法でも得ることのできない、無限の数の説明を発見し、啓示を受けることになるだろう。

44. あなたがたの魂には、わたしに問いかけ、わたしの答えを受け取るのに十分な光がすでに備わっている。人間の魂は、すでに高い発展段階に達している。 謙虚な境遇にある人々を観察してみてください。彼らは知識に乏しいにもかかわらず、その深遠な観察力や、他の人々にとっては説明のつかないことを、自分たちなりに明快に説明する姿勢で、私たちを驚かせてくれます。彼らはそれを本や学校から得ているのでしょうか？いいえ。しかし、彼らは直感や必要性から、霊的な祈りの一部である瞑想の賜物を発見したのです。外界の影響や偏見から隔絶された孤独の中で、彼らは永遠なるもの、霊的なもの、真実とつながる道を見出した。その程度は人それぞれ 異なるが、人生の真髄について瞑想した者たちは皆、その知性の中に霊的な光を受け取っている。

45. 人はその霊によって真理を発見し、すべての人がわたしの臨在を感じるようになる。なぜなら、その時が来れば、すべての目がわたしを見るようになる、とわたしはかつてすでにあなたがたに告げていたからである。

46. さて、あなたがたが今生きているこの時代は、まさに私の言葉と過去の預言者たちによって予告されていた時代であり、そこではすべての人々が、自らの精神の感覚と能力を通じて私を見るようになるのである。

47. 彼らが「わたしを見た」と言えるために、人間という限定された姿でわたしを見る必要はない。むしろ、彼らの精神がわたしを感じ、彼らの理性がわたしを理解すれば、彼らが「わたしを見た」と真に言うことができるのである。

48. 愛と信仰、そして知性は、あなたがたの目が見ることができる範囲よりも、はるかに遠くまで見通すことができる。それゆえ、あなたがたに私を見てもらうために、私が自分の存在を人間の姿や何らかの象徴的な形に限定する必要はない、と私は告げる。

49. あの「第二の時代」にわたしを見た者や、わたしと共に歩んだ者のうち、どれほど多くの者が、わたしが誰であるかさえ知らなかったことか。それに対して、わたしが人間として生まれたことさ

え知らなかった者たちのうち、どれほど多くの者が、霊の中でわたしを仰ぎ見、わたしの光によってわたしを認識し、その信仰ゆえにわたしの臨在を喜びとしたことか。

50. 皆、目を開き、信仰によって、あなたがたが光の子であることを証明しなさい。

51. あなたがたは皆、わたしを見ることができる。しかし、そのためには、善意と信仰を持つことが不可欠である。

52. あなたがたがすべてを知るために到達すべき、あの霊的な故郷である御国の門は、あなたがたの魂を待ち望んで開かれている。

53. 魂の解放の時が訪れたとき、光へと昇るために必要な力を備えるよう、この人生において最善を尽くしなさい。 しかし、愛と赦し、慈悲と光に満ちた者となりなさい。そうすれば、肉体を離れなければならない時が来たとき、この世の重荷を容易に振り払い、つまずくことなく、昇華の道を自由に歩み、平和の故郷へとたどり着くことができるでしょう。

54. あなたがたの成長を助けるために、わたしの言葉は再び人々に降り注ぎ、救いの道を示す。愛を込めて 、善意ある人々を手に取り、光へと導き、その道のりの一歩一歩で、これまで発見されたことのない美しさを彼らに見せていく。

55. 私があなたがたに「美しさ」について語る時、それは自然のことではない。なぜなら、自然の美しさについては、あなたがたはすでに感覚を目覚めさせ、その感性を育んできたからだ。私が語るのは、あなたがたがまだ知らない霊的生活の美しさについてである。あなたがたはそれに対して冷淡であったり無関心であったりしたため、人間の知性によって作り出されたイメージや形に満足してしまっているのだ。

56. 私は、あなたがたの永遠の至福への扉を開く鍵を授ける。その鍵とは、愛であり、そこから慈悲、赦し、理解、謙虚さ、そして平和が湧き出る。あなたがたは、これらをもって人生を歩んでいくべきである。

57. あなたがたの霊が物質を支配し、聖霊の光に喜びを見出すとき、その霊の幸福はなんと大きなものであろうか！

58. この世の試練は、あなたがたに一時的に信仰を失わせる。しかし、わたしを信頼しなさい。わたしはあなたがたが使命を果たせるよう励まし、日々、あなたがたの信仰を強め続けていく。

59. わたしは、あなたがたを通じて人類の浄化が成し遂げられるよう、あなたがたを準備してきた——あなたがたが、大きな問題に

直面している諸国民に、わたしの光をもたらすためである。人類は嘆き、霊性への道を歩み始めるための自由を求めている。

60. わたしは毎日、新たな弟子たちの到来を待ち望んでいる。彼らにわたしの業を託し、謙遜の模範として、また人類のための清らかな鏡となるようにするためである。彼らは、自分がわたしの選ばれた者であることを誇示することなく、信仰の宣教者として戦い、働き、世界にわたしの光をもたらすべきである。

61. この時代、私を聞き入れている人々の数は多いが、その心を私の神性の聖域として整えた者はわずかである。

62. あなたがたの間で私が啓示を行う時間は短い。それゆえ、私はあなたがたが準備を整えているのを見たいと願う。わが子らよ、言っておく。私の王国の門は、あなたがたが最初の時代にモーセと共にカナンの地へ至るために荒野を横断した時と同じように、あなたがたを待っている。 あなたがたは「放蕩息子」のようだ。父の懐に戻り、再び私の愛撫を感じ、私の教えを受けているのだから。あなたがたが裸のまま私のところに来たとき、私はあなたがたが恥じ入らないよう、私の霊的な マントで覆ってあげた。 私はあなたがたに新しい一日を示し、私の食卓の食事を授けた。なぜなら、私はあなたがたの転落を見てきたからであり、父として、あなたがたの痛みを共に感じていたからだ。しかし、この時、私はあなたがたに慰めをもたらした。すなわち、永遠の命のパンとしての私の言葉、そしてあなたがたの人生における私の平安と喜びを授けたのだ。それは、あなたがたが父の腕の中にいると感じられるようにするためである。

63. 霊界もまた、あなたがたが再びわたしの元に戻ってきたのを見て、喜びを感じた。霊界は、わたしの畑で働き、苦しむ者や病める者を受け入れ、闇を追い払い、魂の病める者に癒しの薬を与えるために、あなたがたに加わったのである。

64. あなたがたが私から遠ざかる時こそ、私があなたがたをさらに近くで見守り、あなたがたが深淵に落ちないようにする。なぜなら、私の愛は限りないからだ。私が荒れ狂う波の中から救い出し、救いの港を示したのは、まさにあなたがたである。私はその道であなたがたを導き、私の霊界はあなたがたを守り、私のもとへと立ち上がるのを助けてくれるだろう。

65. わたしの僕たちの数は何倍にも増えたが、人間の知性によるわたしの啓示が終わった後、従順であり続ける者はごくわずかだろう。しかし、その時、あなたがたは霊的な形でわたしの啓示を受けることになる、とわたしは告げる。わたしの教えを一ページずつ受

け取った今、あなたがたの使命は、人類に向けて呼びかけを発するために立ち上がることである。

66. あなたがたは、聖霊の賜物と私の愛を魂の中に宿しており、それによって、霊性主義的な三位一体・マリアの民として認められるのである。

67. 聖霊があなた方を照らし、教えの書は開かれたままであり、一音節一音節、この時代に師があなた方に与えたすべてのことを理解するようになるでしょう。それは人類に届けられる「第三の聖書」となるでしょう――この第三の時代に、私が人間の知性を通じてあなた方に伝えた御言葉です。

68. 私の聖霊の光があなた方を完全に照らし出したとき、あなた方は誠実さと愛をもって準備を整え、私の言葉の真意を汲み取り、それを人類への糧と癒やしとして届けることになるでしょう。

69. この人類の嘆きとすすり泣きは、私の元へと届いている。しかし、私はあなたたちに問う。誰があなたたちを傷つけたのか？あなたたちは沈黙している。それゆえ、あなたたちを苦しめてきたのは、あなたたち自身の過ちであったと、私は告げる。なぜなら、な人々は、後にその上を歩まなければならないことを理解しようともしないまま、自らの道に鋭い棘をまき散らしてきたからだ。

70. 時には、はるか昔にこの地を歩んだ者たちの過ちの結果を被るのは不公平だと、あなたがたは思うかもしれない。しかし、あなたがたのうち、その道を茨で覆った者たちの一人ではなかったと断言できる者が、いったい誰がいるだろうか。

多くの人々はこの教えを聞いて微笑むだろうが、それを嘲笑しているのは彼らの魂ではなく、彼らの心である。なぜなら、人間は霊的な事柄に関しては、常に懐疑的で不信仰であったからだ。 しかし、私にとっては、私の言葉が彼らに知られていることだけで十分である。そうすれば、彼らの皮肉や不信仰にもかかわらず、彼らの内なる何かが、この言葉には、愚かさゆえに彼らが認識できない核心が含まれているかもしれないと告げてくれるだろう。

71. 私の教えを知っている者の中で、神の正義から逃れようと望む者がいるだろうか？――誰もいない。

72. 罪深い生活を送ってきた人々のうち、生涯を通じて苦しみや痛みを知らずに過ごしてきた者はどれほど多いことか。そして、この世での最期の時が訪れたとき、彼らは神の正義を嘲笑した、あるいは少なくともその裁きから逃れられたと信じていた。 そして「霊界」にたどり着いたとき、そうした存在たちは――この世で語られていたような永遠の苦しみに出会うどころか――驚きとともに、思

索と良心の省察にふけるのにふさわしい、光と平安の息吹に包まれていることに気づいた。 その瞬間、誰が彼らに、地上で歩んできた道を再び歩まなければならないと告げなければならなかっただろうか。そうして魂は、賢明かつ容赦のない正義の重荷を自らの上に感じる。しかし、魂は物質化しており、永遠についても、魂の完成についても何も理解していない。魂は、絶対に公正で愛に満ちたものをすべて不公正だと見なして、反抗するのだ。

73. もしあなたがた全員がすでにこの知識を持っていたなら、苦労や苦しみに耐える態度は今とは異なるものになるだろう。その苦しみの中に絶望は存在せず、それどころか、魂を浄化するための償いを果たしているという内なる満足感を抱くだろう。そして、不平を言ったり反抗したりする代わりに—— それによって償いをさらに長く、苦痛に満ちたものにしてしまうのではなく——日々、希望によってその重荷を軽くし、自分の魂が汚点から解放されていると感じるよう努めるだろう。

74. 裁きの時であるこの第三の時代において、霊的な償いはその頂点に達し、その後 、新たな時代へと道を譲らなければならない。そこで私は、人々を眠りから覚まさせ、彼らの苦難の杯を永遠の命のワインの杯へと変える方法を示すために、この世に私の声を響かせている。

75. わたしは、苦難の日々を短縮し、あなたがたが自らを傷つけてきた棘から解放されるための方法を明らかにし、あなたがたが道中でこれ以上傷つくことを望まない、と告げた。わたしは、あなたがたの知性に光を与え、その苦しみの原因を理解し、それを避ける術を知らせることによって、あなたがたの過ちと戦っている。 そうすれば、あなたがたは、自分に降りかかるあらゆる出来事を、もはや運命や周囲の人々のせいにすることはなくなるだろう。なぜなら、自分自身がその責任を負っているという考えは、不運が収まるのをただ待つことを許さず、あなたがたは直ちに行動を起こし、苦しみ、罪、そして無知という重荷から自らを解放するために、全力を尽くし、意志の力を注ぐようになるからだ。

76. 光は全地球に広がっており、この言葉を聞く者は誰一人として、それが自分を混乱させたと言う権利はない。この教えが地上の諸民族に届く前に、私の霊的な臨在が彼らを目覚めさせ、彼らは良き知らせの到来を予感するだろう。

私のメッセージは、あなた方を祝福し、慰め、物質主義から解放され、真理により近い、より良い生活へと高められるよう助けるためにやって来るのです。

77. さて、弟子たちよ。もしあなたがたが一度あるいは数回、この世に戻らなければならないとすれば、それは、かつてあなたがたが育てた甘美な実を収穫するためであり、また、あなたがたの魂が、一度始めた仕事を完結させる機会を得られるという満足感を味わうためである。

78. まず、あなたの精神に課せられた仕事を完遂することなく、この惑星を去ってはならない。

79. 戻らなければならない者にとって、かろうじて始めたばかりにして置き去りにしたその仕事が、今や新たな任務や責任、苦労と結びついているのを目の当たりにするのは、なんと痛ましいことか！

80. わたしは、あなたがたが過ちを償うのを助け、ある日には失われた一年を、ある年には無駄に過ごした一世紀を埋め合わせるという秘訣を明らかにし、それによってあなたがたが永遠を手に入れることができるようにするためにやって来る。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 341

1. かつて私の愛のメッセージが理解されていたなら、人類は平和に暮らしていたでしょう。しかし、人間は自己満足を好み、私の律法を忘れてしまいました。

2. 人よ：私の業を広めようとするあなたの努力において、ただ自分の進歩のためだけに働くべきではない。この光を、例外なくすべての人に広めなさい。

何世紀にもわたって受け継がれてきた慣習的な考え方に精神的に固執し続け、それゆえに自らの偏狭さを捨て去っていない者は、あなた方のように私の光を見ることはできないだろう。

あなたがたの霊はこの神聖な啓示を受け入れた――しかし、人類に対するあなたがたの義務とは何だろうか。それは、あなたがたが自らの行いによって真理を証しすることで得た知識を、人類に提供することである。

3. わたしは、あなたがたに与えた愛のメッセージを広めるために、あなたがたを選んだのだ。 私は、私があなた方の内にも外にも存在することを啓示した。しかし、あなた方は私にこう尋ねる。「主よ、どうすればあなたのもとへ至るための完全さを達成できるのでしょうか？」それに対し、私はこう答える。あなた方は自らの功績によって、私のもとへ至るまで、ますます高みへと昇っていくのだ。それゆえ、私は常にあなた方に、霊性を高め、高みへと舞い上がり、与えられた賜物を活用するよう勧めている。

4. もはや、特定の礼拝の形式や儀式、また生命も力も持たない像などは必要ありません。あなたがたは、神の「像であり、似姿」として創造されたのです。なぜなら、あなたがたには「霊があり、善を行うための力と賜物」があるからです。使命を果たすにあたっては、生命を持ち、主の力と威光を現している被造物からインスピレーションを得てください。

大空を見上げ、周囲の環境を観察し、万物がそれぞれの役割を果たしている様子を見てください。この自然の「王なる星」がいかにして生命を授けているか、そして生命の要素と大地から芽吹く種との間にどのような調和が存在しているかを見てください。すべてが完全な調和の中で、神の偉大さを明らかにしているのです。

5. 完全なるキリストは物質を支配していたため、盲人の目を開き、足の不自由な者を歩かせるという奇跡を成し遂げた。それは、肉体を通して現れた霊であった。あなたがたは、自らの霊が肉体を支

配し、それを通して現れることができるようになるために、まだ成長しなければならない。

6. 私は再び、愛と慈悲としてあなたがたの元へやって来る。しかし、この世界には霊的な指針が必要であるため、私の光はすべての人々に注がれるのである。

7. 人々を戒めつつ、個人的な恩恵や虚栄を一切捨て去る善意の人々――人々が霊的な父から遠く離れていること、そして彼らが内省し、正気に戻り、光の御言葉に耳を傾けて霊性を高める必要があることを真に知っている人々―― 宗教や教義の如何を問わず、同胞の幸福のために尽力する者たち――彼らは真理を宣べ伝えるであろう。そして、真理こそが神である。

8. 私の教えは普遍的なものであり、人間の魂が発展するにつれて、魂はあらゆる些細な事柄を解き明かし、霊化と光、そして完全性への道しるべを求めるようになる。

9. あなたがたの神と隣人を愛しなさい。それこそが、世界的な相互理解の基盤だからである。

10. 私は、世界があなた方を通じて私の言葉を受け取れるよう、私の業をあなた方に託した。すべての人々に等しく接し、人種や肌の色による区別をしてはならない。なぜなら、すべての人が同じ霊的な糧を必要としているからだ。あなた方が行うあらゆる善行によって、あなた方の魂は喜びで満たされるだろう。あなた方は私の平安と、霊的な合一を成し遂げるために前進するためのより大きな力を感じるだろう。

11. 私は愛をもって、囲いを出てしまった羊たち――今や別の道を歩んでいる者たちの帰還を待ち望んでいる。この時、あなたがたの師は、迷い出た者たち――私が今、彼らに私の恵みと愛を豊かに注いだにもかかわらず、大きな嵐に巻き込まれているのを見ている者たち――を探し求めて、砂漠を横断している。

12. 愛する弟子たちよ、わたしから生まれた魂たちよ。この時、わたしは、世を包み込む混乱に巻き込まれないよう、わたしの力と愛をもって、あなたがたを備えさせてきた。

13. 間もなく、人間の知性による私の啓示の時は終わりを告げ、その後、あなたがたは人類の間に立ち、証しを立てるために旅立つことになる。私はあなたがたを救命ボートへと導き、第三の時代の私の兵士とした。あなたがたは、世界の人々に神への信頼と愛を実感させるために、道々で戦いながら進み出る者たちである。

14. あなたがたは、世界に対して澄んだ鏡のようであるべきだ。あなたがたは、私の言葉が最初の一語から最後の一語に至るまで成

就していくのを目にするだろう。なぜなら、あなたがたは、謙虚さと従順をもって私の使命を果たし、心に律法を刻み込んで携えていく私の僕たちだからである。

15. 師として、わたしはあなたがたに謙遜を教える。それは、わたしを模範として旅立ち、あらゆる地方へと赴くためである。なぜなら、人々はわたしの言葉に飢え、渇いているからである。

16. 愛する民よ、あなたがたは地上のさまざまな道へと旅立つ必要がある。見よ、メキシコという国でさえ、多くの者がわたしの業を知らないのだ。この世には、霊的に貧しい者たちでありながら、わたしの名において働いていると主張する者たちが、すでに台頭していることを悟れ。

しかし、わたしの神性から豊かな恵みを受けたあなたがた——その使命とは何でしょうか。それは、わたしの教えを広めることです。あなたがたは世から身を隠してはならず、また、世が欠いている慈悲を拒んではなりません。

17. 諸宗派、諸教会、そして様々な教義が、自分たちが真理の所有者であると宣言し、私の弟子であると主張することで、あなたがたの行く手を阻み、道を外れさせようとするだろう。しかし、あなたがたは、私の使命を果たすために立ち上がらなければならない。私がこの警告を与えるのは、あなたがたが戦いに備えるためである。私はあなたがたと共にあり、人々の間で、あなたがたを私の平和の仲介者として、彼らの痛みを和らげる癒しの薬として知らしめるであろう。

18. あなたがたが従順であることによって、一歩一歩、山の頂上へと登っていくことになる。そこで、私は、祝福されたイスラエルの民の十二部族のうち、印を刻まれた者たちを待っている。

19. この時代の私の教えは「第三の聖約」であり、そこには私の戒めが記されている。私はそれを比喩的な意味でも、また明確な形でも与えた。それは、あなたがた一人ひとりに定められたものをそこから読み取れるようにするためである。 わたしは、イスラエルよ、あなたの中に、消えることのない文字でわたしの言葉を刻み込んだ。それを失わせるものは何一つない。そうして、あなたがたは、わたしが完全なる知恵をもって、あらゆる時代に人類に託してきたことを証しすることができるようになるだろう。

20. 祈りによって、あなた方は、あなた方を守っている私の霊界の助けを借りて、私のもとへ至る。あなた方はすでにこの道を知っている。なぜなら、第三の時代に私が与えた教訓の中で、私はあな

た方の手を引き、祈りを通して私のもとへ至る方法を教えてきたからである。

21. わたしの言葉の光は、あなた方の前にある灯台のように、あなた方の人生を照らしている。わたしがあなた方の前にいるのだから、もはや道に迷うことはないだろう。 あなたがたは、私を愛し、私の全き栄光のうちに現れた私に出会ったからこそ、私の呼びかけに応じて駆けつけてきたのです。霊的なビジョンの中で私の御姿を仰いだ者たちは喜びに満たされましたが、あなたがたは皆、愛と信仰の目をもって私を見ました。あなたがたは皆、私の言葉を、蜜のように、選りすぐりのご馳走のように、そして癒やしをもたらす香油のように味わったのです。

22. あなたがたは、今やその味を知り、それがあらゆる完全さを備えていることを知っているから、もはやわたしの言葉の実を他の果実と混同することはできなくなるだろう。現在、わたしはあなたがたを準備している。時が熟し、あなたがたの備えが十分に整い、物質主義から解放されたとき、あなたがたが他の人々に語りかけることができるようにするためである。

23. わたしは、すべての魂に、わたしの言葉、愛、そして光の本質を注ぎ出している。わたしを求める者は、誰でもわたしを見出すだろう。

この地上に存在するあらゆる宗教、教義、信条の中で、私は霊化の中で私を求める高潔な人々——あらゆる物質主義から解き放たれ、自らの内面に私のための神殿を築いた魂たち——を見出してきた。 彼らは直感的に私から受け取った。なぜなら、私は彼らに——あなた方と同様に——第三の時代に属するすべてのことを啓示したからである。彼らもまた、聖典や、第二の時代に私が与えた言葉、そしてその解釈や論考を読み、それによって私があなた方の間に私の光を注いでいることを知り、私は彼らの精神の結実を愛をもって受け入れた。

24. 彼らは、人類が迷い、方向を見失っているのを見ると、偉大な業を準備する。彼らは気力を奮い立たせ、功績を積み重ね、私にこう言った。「無知な者たちを赦してください。 私たちには、あなたの戒めを果たすためのあなたの光、賜物、そして力が備わっています。」彼らは、過去の時代に与えられた律法と私の言葉に基づき、私の弟子たちに私から与えられた預言や予告を深く探求し、こう言い聞かせている。

「今こそその時が来た」と。それゆえ、彼らはわたしを求め、そしてわたしも彼らのそばにいる。なぜなら、わたしは人々の前から

身を隠してはいないからだ。わたしを求める者は皆、わたしをその内に宿している。

25. わたしは全宇宙の父であり、わたしの愛はすべての人の心に降り注ぐ。 私は地上のあらゆる民族のもとへやって来た。しかし、私が*このメキシコという国*を選び、私の言葉と啓示をその国に豊かに注ぎ込んだのは、 彼らが謙虚であるのを見出し、その住民の中に美徳を見出し、そして「イスラエルの民」の魂を彼らの中に転生させたからである。

しかし、*すべての*人がこの国籍に属しているわけではなく、すべての人が転生しているわけでもない。選ばれた者たちの魂は、今なお世界中に散らばっている。彼らは印を付けられ、私は彼らの目を開き、彼らの心を感受性豊かなものとし、彼らは霊から霊へと私と語り合っている。

26. *あなたがた*は、人間の知性を通じて私の言葉と啓示を受け、その賜物によって、第三の時代におけるこの業の展開を目の当たりにしてきた。それゆえ、民よ、あなたがたは私の証人であり、自分たちが目撃し、耳にしたことを確固たる確信をもって語り、私の言葉の一つひとつを深く探求し、私の律法を解釈すべき者たちである。 なぜなら、他の人々は、直感や訓練を積んでいるにもかかわらず、あなたがたが持つような完全な知識を備えてはいないからだ。彼らの功績は大きい。なぜなら、彼らはあなたがたが私を聞いたのとは異なる形で、私を聞いたからである。しかし、彼らは精神的にあなたがたと結ばれている。

いつか、あなたがたは道で出会い、互いを認識する日が来るだろう。あなたがたの霊的な眼差しは、その人々の内に宿る魂――彼らの強さと美徳――を見出すだろう。その瞬間、あなたがたは手を握り合い、自分の道と交差したその旅人もまた、私の選ばれた者の一人であることを知るだろう。

27. すべての者が、この形でわたしの言葉を聞くわけではない。なぜだろうか、イスラエルの民よ？　あなたはそれを知らない。それが、あなたたちの団結の欠如によるものなのか、それとも霊性の低さによるものなのか、わからないのだ。しかし、彼らと絆を深めなさい。彼らもあなたたちと同様に、人類に対して責任を負っているのだから。

28. あなたがたは自らの役割を果たし、彼らのために祈り、彼らを導かなければならない。わたしの選ばれた者たちの中には、わたしの神性に奉仕することを誓い、聖職者のような衣をまとっている者たちもいる。選ばれた者たちの中には、群衆の中に埋もれて誰に

も知られずに暮らす、最も謙虚な者たちもいる。また、地上の法律や政府を代表する者たちもいる。 彼らの数を把握し、彼らを見分けることができるのは、わたしだけである。イスラエルよ、あなたは霊的な準備を通じて彼らを見分けなければならない。試練の時、すなわち、わたしが至る所にわたしの種を蒔くために、イスラエルの民に散らされることを求めなければならないその瞬間、あなたがたは皆、一つの体、一つの意志をなすべきである。その瞬間、動揺してはならない。 あなた方のうちある者は、諸機関の懐に入り、そこで愛と慈悲と教えという使命を果たすことになる。他の者たちは、の大都市の住民のもとへ向かう。あなた方は、この無知な人々の真っ只中に入り、そこで、同胞たちの狂信や無知と戦うことになる。

29. あなたがたの使命が成就する時は、まだ来ていない。 私はまだ、あなたがたの数を完全に選定してはいない。あなたがたは今なお教えを受ける時期にあり、私の弟子であり、信徒である。しかし、やがてあなたがたが教師となり、人々があなたがたに一言を求め、そのあなたがたの唇から発せられる言葉が真理であり、私の純粋な教えとなる時が来るだろう。あなたがたは、何一つ付け加えることなく、それを説かなければならない。

30. 私は今、あなた方を準備している。あなた方の心を形作るというこの偉大な任務を、私自身が引き受けた。私はこれを人々に委ねなかった。なぜなら、彼らの中に利己主義を見るからだ。私自身があなた方の心を磨き上げ、あなた方が歩む道で経験した試練を通じて、それらは鍛えられてきた。あなた方がつまずいたとき、私はこう言った。「この試練は、あなた方に大きな光をもたらすだろう。」 そして、あなたがたが深く考えたとき、私があなたがたの道に置いたその試練が必要であったこと――それが、あなたがたの心の、整えられなければならない段階であったことを理解した。私の業がいかに完全であるか、お分かりだろうか？ それならば、もしあなたがたが清められておらず、もしあなたがたの中に大きな光と大きな霊性を持っていなければ、どうして私の言葉を用いて人々に語りかけることができるだろうか？

31. わたしだけがあなた方を導き、わたしだけがあなた方一人ひとりの内面を知っている。そして、あなた方の魂の強さに応じて、わたしは試練を送ったのだ。わたしがこのように教えたのは、あなた方一人ひとりが、適切な時期に、わたしの神性の使徒として旅立つべきだからである。わたしがあなた方に与えた教えは数え切れないほどある。かつての時代について、わたしはどれほど頻繁にあなた方に語ってきたことか！

この第三の時代において、私は三つの聖典を統合し、それらを用いて一冊の書物を創り上げた。しかし、私が人間の媒介を通じてあなたがたに最後のページを授けるこの1950年、師は真実を告げる。このページをもって、この書物は完結するわけではない。私は、あなたがたのために、新たな、数え切れないほどのページを書き続けていく。 私はこれからも光を放ち続け、あなたがたが私の言葉に深く入り込み、その中で探求し続けられるようにする。そして時が経つにつれ、あなたがたは立ち止まることなく、より大きな霊性へと至るだろう。

32. 1950年において、あなたがたはまだ最大の霊性には達していない——その道のりの始まりに過ぎない。しかしその後、あなたがたは、一人ひとりの内に潜在しているこの賜物を開花させていくことになる。

33. イスラエルの民よ、備えよ！　私はあらゆる時代の主である。私が人間としてこの世に降臨した後も、決して不在ではなかったのと同様に、私は去ることもない。私が去った後も、私は常にここに存在してきた。私はあらゆる時代において、また人々のあらゆる行いの前からすでにそこにあり、常に彼らの行いを記録し、常に彼らの存在を裁いてきた。 誰が、私がそうすることを妨げることができるだろうか。誰が、あなたがたが私のもとへ昇り、私を愛することを妨げることができるだろうか。誰が、私があなたがたを愛し、守り、慰め、あなたがたのすべての行いを裁くことを妨げることができるだろうか。

34. 人類を構成するあなたがたは、私から遠ざかり、もはや私の神性への愛に満たされず、物質主義に溺れ、情欲に流されて自らの霊的な使命を忘れてしまっている者たちである。しかし、父は不変であり、その法則と裁きにおいて容赦がない。私は常に同じである。 ある特定の時期には、他の時期よりも大きな愛をもって私の御霊が現れると考えるな。私は、モーセや預言者たちを通して語られたのと同じ御霊であり、族長たちや使徒たちを通して語られたのと同じ御霊であり、すべての使者たちを通して語られたのと同じ御霊である。

35. わが民よ、わたしの神性を思い起こせ。父のようでありなさい！同じ愛をもってわたしを愛しなさい！愛から冷淡へと心を変えないでほしい！今日は熱心で、明日は冷淡などとなってはならない！わたしは、あなたがたが常に愛に満ち、常に信仰深く、常に高潔で霊的であり、常に上向きの道を歩みながらわたしに近づいていく

姿を見たいのだ。なぜなら、これこそがあなたがたの霊の目標だからである。

36. なぜ、ある日はわたしに愛と信仰を示すのに、別の日にはわたしを疑うのか。なぜ、あなたがたの心はそれほど気まぐれなのか。わたしはあなたがたを堅固な岩のように見たい。あなたがたの信仰は常に変わらず、愛はますます深まっていくべきである。 私は、あなたがたが地上で育てる植物のようになることを望む。成長を止めてはならない。短期間のうちに、あなたがたのすべての賜物の豊かさと成熟を得て、私を知ることができるように。

37. わたしは、あなたがたを育む憐れみそのものである。*あなたがたは*、進んで成長しようとする植物となれ。わたしが与える露、すなわち命を受け入れ、それをあなたがたの霊の偉大さのために役立てなさい。

38. 今日、子供たちはわたしに耳を傾けており、わたしは大人や年長者たちと同じように彼らにも語りかけている。子供たちの理解力は乏しいのだから、なぜわたしは彼らに別の表現で語りかけないのか。それは、彼らの霊があなた方と同じくらい 偉大であり、わたしを理解することができるからだ。なぜなら、わたしが語りかけているのは「肉」ではなく、霊だからである。 それゆえ、私はあなたがたに言う。子供たちを軽んじてはならない。また、彼らが私を理解できないと信じ込ませてはならない。彼らを私のところに来させなさい！　彼らの霊は飢えている。私は彼らを、あなたがたと同じように育てていく。彼らは明日の世代であり、霊化という大事業において、あなたがたが築いた土台の上に、さらなる礎石を据えなければならないのだ。

39. あなたがたがこのような形でわたしの言葉を聞くのは、これが最後の朝の祈りとなるだろう。しかし、わたしに耳を傾ける者の数は、まだ少ないとわたしは見ている。人々の心は硬く閉ざされており、金と快楽だけを愛している。その心は、敵意や情欲、野心的な目標という嵐の中で、魂が乱され、滅びてしまうことを許してしまったのだ。

40. イスラエルの民だけが目を覚ますことができ、眠っている者たちのために見張っている。それゆえ、あなたがたも常に目を覚ましていなさい。わたしは岩を実り豊かな植物に変え、適切な時にわたしの種を蒔くであろう。

私が「砂の上に家を建ててはならない」とあなたがたに告げたように、私はいつ種を蒔くべきか、いつ心が受け入れる準備ができているか、いつその時が来たかをよく知っている。私の弟子であるあ

なたがたは、師がそうするように行動すべきである。心が準備ができているのを見たら、心が開かれているのを見たら――この業の光を受け入れることに飢えているのを見たら――種を蒔きなさい。 あなたがたの直感が、その時期を教えてくれるだろう。わたしはあなたがたに偉大な教訓を啓示し、あなたがたは直感に導かれて多くの業を成し遂げるだろう。

41. わたしの言葉が終わった後――この地上で、誰があなた方を教え導くのだろうか。あなた方一人ひとりが、わたしから霊感と備えを受けるのだ。それゆえ、祈りを学び、わたしとつながることを学べ。 この啓示の後も、あなた方はしばらくの間、集まり続けるでしょう。あなた方の思考の力が、あなた方の道、すなわち人生の歩みに必要なあらゆるインスピレーションを、生命と光の源から受け取れるようにするでしょう。

私はすべての人に霊感を与えるが、あなた方のうちには、優れた直感を持つために際立つ者たちがいるだろう。そして、彼らこそが、自らを「師」とも、私の「後継者」とも名乗ることなく、助言し、語りかける者となるのだ。 皆、準備をしておきなさい。その時には、私はあなたがたの信仰と進歩を試すつもりであり、あなたがた全員が私の教えを活かし、私の言葉が一人ひとりの心の中で実を結んでいることを確かめたいのです。

42. その時、私はあなたがたが泣く姿を見たくはないし、裸や飢え、見捨てられたような状態にあるのを見たくもない。あなたがたが砂漠をさまようような姿ではなく、生命力と活力、そして霊的な能力に満ちた一つの家族として歩む姿を見たいのだ。互いに愛し合い、理解し合い、助け合うことを望む。

43. わたしはあなたがたに愛を教え、兄弟愛を求めてきた。あなたがたは皆、同じ愛をもって創造され、皆、わたしから生まれたものであり、それゆえ、皆が同じ資質、同じ完全性を備えていることを、あなたがたに理解させた。あなたがたの功績が大きければ大きいほど、インスピレーションも大きくなり、あなたがたの行いもより偉大なものとなる。

44. もし確かな一歩を踏み出す自信が持てないときは、しばらく待ちなさい。 「すべての力を結集し、すべての成果を吟味し」、そうしてこそ、あなたがたは成長へと前進できるのだ。私は「あなたがたの善き決断の一つひとつを祝福する。私は、あなたがたの魂が、良心の指針を完全に明確に理解できるよう、その魂を整えていく。なぜなら、あなたがたは、この時代のように無関心なままでいることはないからだ。

45. 多くの試練があなたの前に現れるだろう。あなたは多くの抵抗と戦わなければならない。しかし、あなたはすでに最初の試練を乗り越え、私の大義のために、すでに身内から誤解されてきた。あなたはすべてを失いながらも、献身的な姿勢を貫いてきた。しかし、私のもとで、あなたはすべてを取り戻したのだ。 私は、あなたがたの家族が与えることのできなかった魂の平安を、あなたがたに与えました。私のもとで、あなたがたは霊と魂の平安を見出しました。それならば、世があなたがたを指さし、嘲笑したとしても、何を恐れる必要があるでしょうか。

46. 心配するな！　自分の信仰を確信し、その信仰に堅く立ち続けなさい。そうすれば、人々の前で試練に直面したその瞬間に、私の教えとは何か――あなたがたが心に抱いているものが正しく、善であり、価値あるものであることを――示すしるしとなることができるのだ。 あなたがた一人ひとりは、わたしの業の代表者です。あなたがたがどこにいようとも、その行いは評価されます。ですから、どこにいてもわたしの弟子であり続けられるよう、自分の行いや言葉に注意を払ってください。

47. あなたがた一人ひとりは、人生の道のりにおいて、強固な柱のような存在である。信仰を失った者に、再び信仰を取り戻させることができる。道に迷った者の魂を、混乱から救い出すことができる。それを必要とする者に、生きる勇気、安らぎ、そして平安を与えることができる。 だから、民よ、あなたの責任がいかに大きいかを心に留めておきなさい。私があなたを偶然に召したのではなく、あなたが『』を通じて私の業を発見したとき、私と人類に対して大きな責任を引き受けたのだということを肝に銘じておきなさい。

48. 私は、あなたがたの耳や心を慰めるために来たのではない。私は、霊的な啓示によってあなたがたを教え導くために来たのだ。そして、あなたがたがそれによって光に満ちた者となったとき、他の人々を教え導くことがあなたがたの使命となる。私があなたがたを「選ばれた民」と呼んだのは、他の人々よりもあなたがたを優遇したいからではない。 それは、私があなた方に私の教えを与え、すべての秘密を解き明かし、あなた方が完全な明瞭さをもって他の人々に語りかけ、彼らに私に従うよう教えることができるようにするためである。しかし、私は常にあなた方の師であり続ける。

49. あなたがたが、周囲の人々の理解力の欠如という障害や困難に直面するたびに――新たな試練があなたがたの魂を不意に襲うたびに、わたしはあなたがたにこう告げるだろう。「わたしの平安があなたがたと共にありますように」。そして、この挨拶によって、

あなたがたはわたしを認識し、心の中でこう言うだろう。「師は私のそばにおられる。今こそ、師からその霊感を受け取ろう。なぜなら、どんなに準備をしてきたとしても、この試練においては私に光が欠けているからだ。」私はあなたに光を与え、あなたの魂をエネルギーで満たし、あなたの言葉が正しく、真実と本質に満ちたものとなるよう導く。

50. 私は、私の弟子であるあなた方全員に語りかけている。1950年の終わりには、もはや「子供のような弟子」を見たくはない。だからこそ、私はこれほど多くをあなた方に語ってきたのだ。私の教えは長きにわたり続いてきた。それは、あなた方一人ひとりが学び、短期間のうちに私の弟子となれるようにするためである。

51. 私は、あなたがたの心にある感謝の念を見ている。あなたがたは私にこう言う。「師よ、私の人生と行いは、あなたのそばにいて、あなたの教えを受けるに値するものではありません。」

そのようなことを言ってはならない。私があなた方を私の弟子へと変えてあげよう。私がこれまでずっとそうしてきたように、あなた方を深く愛させてほしい。 私があなたがたの中に現れ、どれほどあなたがたを愛しているかを明らかにさせてください。そうすれば、あなたがたも互いに同じように愛し合うことができるでしょう。そして、愛の奔流であるこれらの教えの記憶が、いつまでもあなたがたの心に刻まれ、この愛に満たされたあなたがたの心が、他者、すなわちあなたがたの隣人たちに捧げられるようになるのです。

52. わたしは、隣人愛、善意、赦しという美徳を、あなたがたに授けた。この時代、これらの美徳がいかに必要とされていることか。なぜなら、人類はもはやそれらを備えていないと、わたしには見えるからだ！ そこにあるのは利己主義、不和、無愛のみであり、至る所で互いを誹謗中傷する声が聞こえてくる。 私がこう言ったことを思い出してください。「たとえ正当な 理由があっても、隣人の悪口を言ってはならない。その件は私に委ねる用意をしておきなさい。私はあなた方を裁き人として任命したのではない。私はあなた方全員に同じ賜物を与えて送り出したのだ。それは、互いを兄弟姉妹として見なすためである。」

53. 依然として、地上に存在する司法は、公正な行いを示していない。私は、憐れみの欠如、理解の欠如、そして心の硬さを見ることができる。しかし、誰もがやがて完全な裁きを受けることになる。

私はこれらの試練を許容してきた。そして、人間が私の律法を全うせず、その戒めに従うことから背を向けている限り、この地上には、その心を屈服させ、傷つける者が存在し続けるだろう。

もしあなたがたが律法を遵守するならば、この世に裁判官は必要なくなり、罰も存在せず、政府も不要となるだろう。誰もが自らの行いを決定し、すべての人々が私によって統治されることになる。あなたがたは皆、私の律法に導かれ、その行いは常に慈愛に満ち、霊性の高まりと愛を目的とするものとなるだろう。

しかし、人類は深い奈落の底へと転落してしまった。不道徳、悪徳、罪が人々の心を支配しており、その結果として、あなたがたは苦い杯を飲み干さねばならず、兄弟であるにもかかわらず、この地上で権力を振るう者たちによる屈辱に耐えなければならない。しかし、謙虚であり続け、裁きを忍耐強く受け止めなさい。*私が*完全なる裁き主であることを心に留めなさい。

54. 今日、私は御霊の光によってあなたがたを備えさせている。あなたがたには、ただ聞くだけでなく、私の言葉を理解できるよう、祈りと、生活における自己省察を求める。それを研究せよ。しかし、研究するだけでなく、その価値を理解できるよう、それに従いなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 342

1. 弟子たちよ。あなたがたは、これが私があなたがたに与える最後の教えであることを知っているからこそ、再び信仰に満ちて、私の教えが伝えられる場に立ち会っている。聖霊は、その深く愛する子供たちを教えている。これは時代の頂点であり、1950年である。この年は、イスラエルの民に対して、この形で私の言葉が与えられる最後の年であると告げられている。

急いで心を整え、その中にすべての真意――私が慈悲をもって注ぎ出す本質――を心に留めておきなさい。あなたがたは魂を整え、私の言葉の一つひとつを理解できるよう、理解力を私に求めている。 あなたがたは、自分たちの後ろにいて、これらの啓示を聞くことなく、今もなお闇の中に生きている人類を見つめ、魂の奥底で涙を流している。あなたがたは、この教えを同胞たちと分かち合いたいと願っているが、神聖なる師はこう告げている。「希望を持ち続けなさい。しかし、その前に、最初の種を蒔けるよう、まず備えなさい。」

2. 民よ、すべての者がこの形でわたしに耳を傾けるわけではない。召された者は多くても、選ばれた者は少ない。このことはわたしの手に委ねよ。しかし、あなたがたがわたしの言葉を聞いたその時から、*わたしは*あなたがたの行いを裁く。 私は、1866年から今年に至るまで現れては去っていった世代を裁き、一人ひとりにその働きに応じて報いる。民よ、あなたに言えるのはただこれだ。まだ過ちを償うことはできるし、使命を果たす機会も残されている。もしこれまで、あなたの唇が不器用であり、心が岩のように硬く、呼びかけの響きを聞き取れなかったとしても、希望を持ち続けなさい。 私は今、全人類を準備し、その精神を導き、その心を磨き上げている。彼らが今経験しているあらゆる試練は、霊化という望ましい目標へと彼らを導くものである。しかしその前に、彼らは浄化の過程を経ることになる。

3. 人よ、あなたがたがわたしのもとへたどり着くためには、自らを清め、魂を浄化することが必要です。そうして初めて、わたしを見、わたしを感じることができるのです。わたしがあなたがたに呼びかけるとき、顔を隠したり、自分の過去を恥じたりしてはなりません。なぜなら、その前に、わたしはあなたがたがすべての過ちを清め、ふさわしい者となることを許すからです。

4. それゆえ、民よ、私の周りに大勢の人が集まっているのを見かけなくても、心配する必要はない。まずは、家族と共に準備を整え

なさい。私は一人ひとりを用いていく。そして、私が蒔いたこの種は実を結び、な霊性への目覚めにとって好ましい時が訪れるだろう。今日、あなたがたは障害、すなわち前進を妨げる鎖に直面しているだけだ。しかし、すべての人にとって霊的な解放の時が訪れ、その時には、あなたがたの思考と言葉は、この人類の野原を溢れさせる川のようなものとなるだろう。

5. 今日、あなたがたは、わたしに耳を傾け、わたしの言葉を信じ、わたしからのあらゆる教えがあなたがたにとっての義務であり、わたしの律法があなたがたの霊に宿っており、そしてわたしが人間の知性を通じて千通りの方法でそれを説明してきたことに対する責任を感じている。

私は、あなたがたが明日踏み出す一歩一歩を見通している。そのために、私はあなたがたを準備させ、語りかけ、試練の中であなたがたの魂がつまずかないよう道を切り開いてきた。私があなたがたの心に築いた秘められた宝庫の中で、道中で待ち受ける試練を乗り越えるために必要な光を探し求めるよう、あなたがたが立ち止まらないために、私は預言を与えたのである。

6. 私があなたがたに光を与え、あなたがたを訓練し、私の言葉があなたがたの間で道を切り開き、私があなたがたの心に蒔いた種を育てているというのに、あなたがたのうち、誰が「自分は無知だ」「何も知らない」と言えるだろうか。イスラエルの民よ、私が与えた賜物を信じているなら、心配する必要はない。前進し、日々信仰を強め、意志を揺るぎないものにしなさい。そうすれば、何ものも、誰も、あなたの歩みを止めることはできない。

わたしはあなた方を戦士として鍛え上げている。なぜなら、あなた方は闇と戦い、悪と戦いを繰り広げるからだ。あなた方は、頑なな心を和らげ、利己的な学問や誤った信仰によって心が硬くなってしまった人々の理解を正さなければならないからだ。

7. それゆえ、神聖なる師は、あなたがたに祈りと瞑想を勧めている。私は常にこう言ってきた。「私の言葉と、私のあらゆる現れを深く探求しなさい。そうして私の弟子となり、あなたがたが直面するあらゆる試練や不幸に立ち向かえるように。」

しかし、あなたがたは、人生の道を独りで歩んでいるわけではないことをよく知っているはずだ。あなたがたには、霊的存在たち、すなわち私の神性の僕たち、高潔な存在たちが付き添っている――彼らは、あなたがたの弱さを見て、助けに駆けつけ、あなたがたに霊的な判断基準がない時にはそれを与え、あなたがたが弱った時には信仰を強めてくれる者たちである。

8. 私は、私のもとに住む高位の霊的存在たち、すなわち高潔な霊的存在たちが、この時代にこの世界へアクセスすることを許した。それゆえ、民よ――皆があなた方を支え、師があなた方を導き、私の教えがあなた方の防壁となっているのだから――何を恐れる必要があるのか。あなた方は準備ができているのだから、なぜ心が萎える必要があるのか。

9. 精神的に自らを省み、自分の思いと心を吟味し、私が召命の時からあなた方に手渡してきた書物を読み、私があなた方の心にどれだけのページを記し、どれだけの預言を託し、エリヤがどれだけの告知を与え、霊界がどれだけの備えを与えてくれたかを思い返せ。

10. 私が第三の時代にこの本を開いてから長い年月が過ぎ、あなたがたの多くはすでに長い間、その教えを耳にしてきた。それゆえ、民よ――もしあなたがたがこれらの教訓を心の中に留めてきたならば、必要なページを開き、必要な箇所を読むことができる日が来るだろう。

無数の教訓を含むこの書物は、1950年に閉じられることはなく、永遠に開かれたままとなるでしょう。ただ、その形は、あなたがたが今日持っているものとは異なるものとなるだけです。

11. わたしは、人間を通じてあなたがたに語りかけてきた。それは、わたしや、高次の領域に住む霊的存在たちとの霊的な対話をあなたがたに教えるためであり、そうすることで、あなたがたが常にこの偉大な書物から読み取れるようにするためである。

12. もしあなたがたが、わたしの霊との対話という賜物を開花させれば、もはや地上の書物に目を向けることはなくなるだろう。なぜなら、この書物の中で、あなたがたが必要とするすべてのことを読み、知ることができるようになるからだ。善に関する知識があなたがたに啓示され、愛が大きな問題を解決し、 平和と慈悲は、あなた方を支える貴重な賜物となり、あなた方はかつてないほど強い力を感じるようになるでしょう。なぜなら、あなた方は偉大な教えの解説を受け取り、私が光を与えるためにあなた方に遺したこの内なる書物から、周囲の人々の前で読み上げることができるようになるからです。 そして、イスラエルの民よ、あなたがたは私の啓示の所有者であるゆえに、人々はあなたがたに目を向けるでしょう。しかし、この特権はあなたがただけのものではありません。この賜物は、私のすべての子供たちのために用意されているのです。すべての人が霊化の道を歩み、霊と霊との対話を求めるようになるでしょう。

13. あなたがたは、これまでずっとそうであったように、これらの啓示の先駆者となるだろう。なぜなら、わたしがあなたがたを地上に遣わし、「人類に 、わたしの救いのメッセージを伝えよ！全き確信をもって語れ！わたしの御心に従って説教し、預言せよ！」と言って、使命を与えたからである。

14. 民よ、汝らはまだ準備の段階にあり、自らの賜物が完全に開花したとはまだ言えない。汝らは、この集会の親しみ深い雰囲気の中で、最初の歩みを踏み出したばかりである。しかしその後、汝らに証拠が求められる時、そしてわが意志に従って、私が汝らを通じてそれを与えるならば、その時には慈悲を注ぎなさい。 しかし、私が以前にあなた方に謙虚さを授けたのだから、私の言葉を軽んじてはならない。不毛の地に種を蒔いてはならない。直感を開花させ、適切な時に私の御心に従って語り、私があなたに示す人々の群れを、あなたの主の食卓へと導くようにせよ。

15. 今日、あなたがたは、私の意志によって割り当てられた土地に住んでいる。そこでは、平和と謙虚さともてなしの心が花開いている。この国はあなたがたの故郷であり、その懐の中で、あなたがたは私の言葉の成就を目の当たりにしてきた。私はあなたがたに私の再臨を告げ、その言葉を守った。私の業は成し遂げられた。

もしあなたがたがまだその使命を果たしていないなら、私はそのために必要な時間を与えます。しかし、父である私は、あなたがたの間で私の使命を果たし、あなたがたの進歩に応じて語りかけてきました。あなたがたの備えに応じて、その言葉を理解し、受け止めることができるよう、私の言葉を注ぎ出してきました。 私は、あなたがたに理解できないような表現で語ったのではなく、誰もが理解できる平易な言葉で語り、あなたがたがそれを把握できるようにした。私はあなたがたを集め、備えさせ、すでにあなたがたの霊の中にあった賜物を明らかにし、ただ、あなたがたの肉体的な性質がそれを知らなかったために、それを確認しただけである。

16. イスラエルの民の子らであるあなたがたは、創世以来書き記されてきたことを知っていた。あなたがたは自らの使命を知り、責任を感じていたが、地上に受肉するにあたり、あなたがたがわたしの意志と使命を理解できるよう、わたしの言葉が人間的な形をとることが必要であった。 あなたがたは、人類が打ちひしがれていた時、極めて苦い杯を飲み干していた時、贖罪が極限に達していた時に、人類を助けに駆けつけた。あなたがたはこの国に足を踏み入れ、わたしはこう告げた。「あなたがたの全存在は、人々の間で癒しと憐れみとなるよう備えられてきたのだ。」

17. 人々があなた方を認識できるよう、積極的に行動し、あなたがたがわたしの使者であることを証しなさい。そのために、わたしはあなた方を備えさせてきた。しかし、一部の人々には、依然として疑念が見て取れる。だが、、見よ、試練こそが、あなた方に必要な光を与えてくれるだろう——わたしがあなた方のために用意している、数え切れないほどの愛の試練が。

18. わたしの教えの言葉を聞く者たちよ、備えを整え、常に深く掘り下げていきなさい。それを表面的に捉えるのではなく、その真意に深く入り込みなさい。そうすれば、これらの瞬間に、霊的な領域でわたしのそばに留まり、高き来世で起きている出来事を見ることができるだろう。

19. 私は、謙虚さを教えるために、華美さを排した質素な形で自らを現した。そして、あなたがたが、この質素な現れの中にその偉大さを認識し、感じ取れるようになることが、私の意志である。私は、あなたがたがそれを通して、全存在をもって私を見、聞き、感じることができるよう、霊的な賜物を与えた。 私は、あなたがたの心のすべての感性の琴線に触れ、私の言葉であなたがたを優しく撫でてきました。この教えがもたらしたような、活気、平安、そして歓びを、いかなる人間の言葉もあなたがたに与えたことはありません。そして、私がその教えに注ぎ込んだこの「味わい」、この本質的な内容によって、あなたがたは私を認識することができるのです。

20. 1950年を過ぎれば、あなたがたの信仰はより確固たるものとなるでしょう。あなたがたの確信はより強くなるでしょう。あなたがたは、人間の知性を通じて伝えられた私の普遍的な光線が、あなたがたを励まし、導き、慰めるための言葉となったあの時を、敬意と崇敬の念をもって思い出すことができるようになるでしょう。 第二の時代においても、私は弟子たちにこう言った。「人の子は、人々に信じられるために死ななければならない。」第三の時代において、私はあなたがたにこう言う。人間を通じての私の言葉が終わった後、私はより多くの信仰を見出し、より深く愛されるようになるだろう。

21. あなたがたは、この数年間、すなわち私が説教活動を行っていた時期——私が弟子たちを準備し、彼らと共に暮らしたあの3年間——を思い起こした。彼らは私のすべての業を目の当たりにし、準備の過程において、私の心の奥底に迫り、師の中に宿る清らかさ、その威厳のすべて、そして知恵を垣間見ることができたのである。

当時の私の行いは、注目を集めるためのものではなく、この地での私の生き方は質素なものでした。しかし、準備の整った者たちは、私の臨在の偉大さと、自分たちが生きている時代の重要性を予感していました。こうして私は弟子たちを選びました。そのうちの何人かは川のほとりで出会い、「わたしに従いなさい」と言って彼らを召したのです。 彼らが私を見つめたとき、彼らに語りかけているのが誰であるかを理解し、こうして私は一人また一人と彼らを選び出した。

22. 彼らは私に従った――自らの精神に忠実に、私の命令に従い、私の愛を理解し、彼らに託された な宝を心の中に守り続けた。彼らは、この富が失われることを望まなかった。そして、私が去ってからしばらくして、彼らは私の言葉を書き留め、それを複製した。それは、これからやってくる世代や、私の声を直接聞いていない人々の心や記憶から、その言葉が消え去らないようにするためであった。彼らは、私から霊感を受けて書き記し、それらの書物が改ざんされないようにした。 それにもかかわらず、人々はそれらを改ざんし、誤って解釈してしまった。しかし、元の書物は私の真の言葉であった。

23. わたしはあなたがたに使命を告げ、あなたがた全員を選び出し、あなたがたの額にわたしの印を刻んだ。 あなたがたのうちある者たちには、「預言できるよう準備せよ」と告げ、他の者たちには、「大衆に霊的な啓示を伝えられるよう準備せよ」と告げた。また、さらに他の者たちについては、彼らの知性を通じて伝えられる『普遍の光線』が、わたしの言葉を広められるよう、準備を整えたのである。

24. 私はあなたがた全員に、尊い賜物――御霊の賜物、永遠の賜物――を託した。あなたがたは、今まさに経験しているこの時代においてのみ選ばれたのではなく、以前からすでにこの能力を備えており、この時代が過ぎてもなお、それを持ち続けるだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。その能力が開花するかどうかは、あなたがたの備えの如何にかかっている。私は、あなたがたの魂が停滞することを許さない。 私は、常に上へと続く道、私へと至る階段のために、あなたがたの魂を準備させる。なぜなら、私の王国には、あなたがた一人ひとりのために用意された場所があり、時間は迫っているからだ。あなたがたは、短期間のうちに、あなたがたの霊のために定められたその場所を占めることができるよう、歩みを速めなければならない。

25. 私の王国には階層があるか？ あなたたちはそれを知らない。私が言うのはただ一つ、努力しなさい！ あなたたちのあらゆる能力を開花させ、それを通して私を理解し、私を愛し、常に自分の使命を果たせるように、奮闘しなさい。

26. 今日、あなたがたは地球に住んでいるが、明日には、あなたがたのために新たな道が整えられなければならない。魂があの世界の入り口にたどり着くその瞬間、私はその魂を呼び寄せ、その行いを問いただし、新たな人生へと導くであろう。

27. 私は今、荒野で語っているわけではない。すべての教会で、準備を整えたあらゆる集まりにおいて、大勢の人々が私の声を聞いている。しかし、エリヤこそがあなたがたの導き手であり、 あなたがたに預言を与えるのも彼であり、あなたがたを準備させるのも彼である。彼は道を切り開く者だ。彼の存在を、あなたがたの前に、常に周囲に感じ取れ。

28. 試練に直面するたびに、光であり、道を整える者であるエリヤを呼び求めなさい。その試練の瞬間、エリヤと私があなた方のそばに居るだろう。

29. 今こそ、わが言葉の終わりの時である。それゆえ、私はこのようにあなた方に語りかける。なぜなら、私はあなた方が動揺したり、散り散りになったりすることを望まないからだ。

30. あなたがたは引き続き集まり、互いに支え合いなさい。一人ひとりが自分の賜物を現すべきである。預言者である者は、もし私の御心ならば、メッセージを受け取る準備をすべきである
– この民を導く光の告知 – そして、各自は自分の賜物に従って、利己心を捨て、深い謙虚さをもって、魂を高く掲げ、その行為が『永遠の大いなる書』に記されることを自覚しつつ、行動しなければならない。– あなたがたの行いはすべて、あなたがたの子供たち、すなわち後継者たちによって裁かれることになるのだ – 私があなたがたに命じた業こそが、聖霊の業であることを知れ。

31. 今日、私はあなた方を一つにまとめ、一つの家族として備えを整えて送り出す。目を覚ませ！ あなた方全員が、祈りをもって諸国民、統治者たち、そして大きな責任を担うすべての人々を助けられるよう、身を引き締めて準備せよ。なぜなら、これらすべての被造物の意志の上に、私の意志があり、私の不屈の正義の法則があり、贖罪の法則の傍らには愛の法則があるからだ。

32. 変わらないのは、過ちを犯した者は誰でも、その過ちを清め、贖わなければならないということだ。しかし、その贖いの中には、聖霊による慰めがある。

33. わたしは慰め主であり、約束された真理の御霊である。先祖たちの時代から、人々が最も苦い杯を飲み干すこの時が予告されていた。その時から、試練の時にあなたがたを支えるために、慰め主があなたがたのところに来ると語られてきたのである。

34. こうして、わたしはわたしの言葉を成就し、イスラエルの民よ、あなた方を備えさせた。また、わたしの弟子であるあなた方にも、憐れみと慰めと愛を注ぐ。あなた方の賜物を認識し、その道を歩む中でそれを用い、思考と祈りを通して働きかけなさい。そうして、人類の中で癒しの薬となり、悪の侵食を食い止めることができるように。

35. わたしの律法は、あなたがた一人ひとりの内にあり、使命や潜在的な賜物も同様である。感覚や能力は整えられ、魂の目は開かれている。霊は受容的である。それは、霊が神聖な火花であり、あなたがたが 、今生きているこの時を理解し、わたしの指示に従って祈り、とりなし、働きかけることができるようにするためである。

36. わたしはあなた方を祝福する。人類のあらゆる嘆きはわたしに届き、その願いの一つひとつが顧みられている。

37. 私が与えた賜物を、あなたがたが人類への愛をもって実践できるよう、改めて確認させておく。それらを、あなたがたの愛と、私が与える平和と、私の言葉から溢れ出る光で包み込んでほしい。私はそれらを、まるで妹のようにあなたがたに託す。

38. 聖書に記されているとおり、わたしはあなたがたを通して全人類を祝福し、私が彼らに豊かさと平和を与える良い時代を待つようにと告げている。

39. 今日、あなたがたは時代の頂点に立っている。私は、あなたがたが試練を乗り越えられるよう、ただ力づけているだけである。しかし、贖いの後には平和が訪れ、すべての人に祝福がもたらされ、人類が霊性化へと向かう新たな道の始まりとなるという約束が、あなたがた一人ひとりの内に宿っている。

40. 私の神聖な御霊は、あなたがたが霊的な使命を通じて築き上げた実を収穫するであろう。

41. あなたがたは、この第三の時代に私が託した黄金の種を育て上げた、たゆまぬ働き手たちであり、その良き種から、あなたがたは私にその一部を見せてくれている。 私はそれを見つめ、霊の中で、あなたがたのうちの何人かが私を理解し、私の教えと知恵によって、あらゆる道において私の代理として同胞たちに福音を伝える愛すべき弟子へと変容しているのを見る。 また、他の者たちは、試練の中で魂が勝利を収め、その道のりで遭遇したあらゆるものを乗り

越えることができたという、自らの努力を私に示してくれている。なぜなら、あなたがたは私の声を聞き、その声に身震いし、道のりで再び眠りにつくことを許さなかったからだ。

42. あなたがたは、私の呼びかけに応じて急いで立ち上がり、私があなたがたの心に刻み込んだ律法である私の戒めを聞き、深い悔い改めの心をもって、時代があなたがたを不意打ちにしたこと、そして私があなたがたの霊に託した、計り知れない価値を持つこの偉大で崇高な業を隠していたことを悟ることができた。 しかし、あなたがたの悔い改めはわたしのもとへ届いた。裁き主としてのわたしの眼差しは、あなたがたの魂が失われた時間を嘆き悲しんでいたことを見抜いた。そして最後の瞬間に、あなたがたは赦しと憐れみと慈悲を懇願している。

43. このようにして、私は深い眠りから目覚め、使命を果たし、な服従を誓う者たちを受け入れる。彼らは、私が彼らの霊に困難な使命を託したことを認識し、 また、世界が、あなたがたが旅立つことに依存しており、あなたがたの仲介を通じて救いを得て破滅から逃れ、この第三の時代にあなたがたが見出した光に癒やされることを、彼らは悟っているからだ。

44. わたしはあなたがたを準備し、再び最大の賜物を授けた。 わたしの光は、あなたがたの心と知性を照らし、あなたがたの良心には、わたしの業において負うべき責任が感じられている。それは、わたしの神性の使者として立ち上がり、人々がさまざまな形で求めてきた平和を人々に知らせることである。そうして、何世紀にもわたり恵みの生活から遠ざかっていた魂たちに、わたしの名において命を与えるためである。 イスラエルの民よ、私はそのためにあなた方を呼び寄せた。そして、声の伝達者たちを通して語られた私の言葉は、あなた方の間で、大きな鐘のように響き渡った。しかし、あなた方のすべてが私を理解したわけではない。

しかし、私の意志を解き明かした者たちは、私のもとへと立ち上がり、人生において果たすべき使命を受け取り、私を知り、自らを知り、何世紀にもわたって彼らの魂が耐えてきた束縛から自らを解放するために。

45. あなたがたは、わたしの憐れみだけが与えることのできる自由をその内に持つ魂たちであり、もしあなたがたが完全に高みへと舞い上がり、あなたがたの霊をわたしの霊と一つにすれば、もはや奴隷となることも、倒れることもないだろう。

46. わたしは、あなたがたがわたしの平安と愛を感じ、この愛によって力を得て、もはや足を止めることなく、山の頂上に到達する

まで常に前進し続けることを望んでいる—— そうして、あなたがたの霊と私の霊との間に存在する高揚と調和を通じて、人類があなたがたを媒介として私の慈悲から受け取るべき多くのものを認識できるようになり、あなたがたが、私が聖霊としてあなたがたにもたらした私の偉大な恵みと啓示の伝達者となるためである。

47. あなたがたが、兵士、使徒、弟子、そして働き手として旅立ち、解放の時を待ち望むわたしの子供たちに身を捧げることを、わたしは望んでいる。彼らは、あなたがたと同じように、命のパンが並べられた食卓を見つけることを待ち望んでいるのだ。

この人類は、苦難の時代の厳しさしか味わってこなかった。そして、その苦難は彼らの精神に深く刻み込まれてしまった。今こそ、世界が震え上がる時である。その浄化は甚大であり、痛み が彼らを目覚めさせ、書かれた私の言葉が今まさに成就しつつあることを、彼らは自ら自覚するのだ。

48. この人類は今、自らの苦痛の只中で目覚め、新たな日の光を見出そうとしている。しかし、愛する民よ、あなたは私の言葉の成就において、私の証人となり、この平和のメッセージを至る所に伝え、すべての人々に救いへの道を再び示さなければならない。

49. イスラエルよ。あなたの霊が闇と繰り広げた戦いは、壮絶なものだった。 あなたがたは私の足跡をたどろうと旅立ったが、試練に直面して驚かされた。あなたがたの中には、私を理解し、互いに認め合った者たちもいた。彼らは、私の業に欠点がなく、雪の結晶のように清らかであることを見抜いたからである。そして、献身と霊的な渇望に満ちて、人類が私の業を喜びとして受け止められるよう、行動を起こしたのだ。 一方、私の教えに心を潤されている者たちの中には、私の言葉が内包する真の意味を深く理解できていない者もいます。彼らは、私が選ばれた者一人ひとりに対して期待している「成就」とは何であるかを、理解できていないのです。

50. わたしは、あなたがたが霊的に一つになっているのを見たい。あなたがたの心の中に、わたしが与えた愛の実を見出したい。あなたがたの手が、わたしの右の手と結ばれているのを見たい。 あなたがたが、同胞たちの前で私の臨在の証しを示さなければならない時が近づいている。光と真理に満ちて、明瞭な言葉で彼らに語りかけ、あなたがたの心を私の聖霊の住まいとして示し、あなたがたこそが、この時代に私の宝庫から注がれた霊的な恵みの運び手であることを彼らに知らせるべき時である。

51. イスラエルよ、立ち上がれ。あなたの行く手を阻んだ闇を打ち破った、光の子として。私があなたに力を授けたのだから、あな

たの刷新と霊化を世界に示しなさい。あなたの良き模範と祈りによって、眠っている同胞たちを目覚めさせ、私の神聖な御霊がそうするように、彼らに語りかけなさい。 神を冒涜する者とならず、また、私の愛や隣人への愛に対して心を硬く閉ざす者となってはならない。なぜなら、あなたがたの中に私の恵みと聖霊の賜物が注がれ、あなたがたが良い種として実を結ぶためである。

52. 私は、この期間、あなたがたの魂が私のしもべとなるために費やした努力を受け入れます。そして、あなたがたの日々のご労苦の終わりに、私はあなたがたにふさわしい報いを与えます。それは、あなたがたの魂に授けられる月桂冠となるでしょう。

わたしは、あなたがたがほんの少しの理解と従順を示してくれるならば、あなたがたと共にあり、あなたがたを飾り立て、光の子として、この第三の時代の選ばれた者たちとして――すなわち、わたしが神の血によって清め、わたしを証しする者となるようにした者たちとして――ふさわしいものを与えると約束した。

53. あなたがたは自らを省み、自らの弱さと不完全さを認めた。一瞬、信仰が欠け、試練が予期せず襲いかかった。しかし、あなたがたは、その存在の最も秘められた部分まで見通す私の神聖なまなざしの前で、戦慄した。

あなたがたが、私の律法と神聖な使命に従って行動し、働き、試練に立ち向かい、それを克服して私に従うために費やした努力と耐えた苦痛に対して、私の霊があなたがたの霊に贈る称賛を感じてほしい。そして、その努力と苦痛に対して、私は計り知れない価値を持つ宝石をあなたがたに託す。 私の知恵。

54. 聖霊として、私は私の輝きをあなたがたの中に注ぎ込むが、あなたがたの霊が大きな高みに達し、あなたがたの心がより大きな霊性へと至るよう、日々さらなる努力を払いなさい。なぜなら、イスラエルよ、あなたがたが、周囲の人々にとって清らかな鏡となり、その行いによって私を証しすることが、私の御心だからである。魂のための救いの実を示し、人々の間に私の平和のメッセージを伝えてください。

55. わたしはこの時に、あなたがたを一つにまとめ、集めた。それは、使徒、すなわち兵士としての「衣」をあなたがたに与え、わたしの恵みと光をもってあなたがたの魂を飾るためである。 あなたがたのために、わたしの業が引き裂かれたり、嘲笑されたり、侮られたりしてはならない。この責任をあなたがたに託すのは、あなたがたの模範によって大衆が恵みの生活へと立ち上がり、人類がわた

しの呼びかけを聞き、わたしのもとに来るためである。わたしは彼らを待ち望んでいるからだ。

56. 私のライトセーバーは今、闇と戦い、それを打ち負かしている。私は、あなたがたが誠実さをもって高みへと昇り、私の神聖な業の中で私の律法を全うできるよう、道を整えている。 私は、人類の痛みと悲惨さに直面して、あなたがたの心が揺さぶられるよう、私の慈悲をたっぷりとあなたがたに託した。私は、あなたがたがこの時代に世界が被っているすべての痛みと、魂たちの苦難を目の当たりにさせた。それは、あなたがたが目を覚まし、祈り、私の真理を宣べ伝え、心の中に美徳を育むことによって、働きかけるためである。

57. あなたがたに、わたしを遠く感じさせてはならない。なぜなら、あなたがたは皆、霊化によってわたしを感じ、 、直接にわたしを感知するようになると、わたしはすでに告げたからである。あなたがたの霊はわたしの声を聞き、霊的にわたしの臨在を見るようになる。こうして、わたしはあなたがたの霊が、わたしの霊と永遠に一つになるのを見たいと願う。これこそがわたしの御心である。

58. イスラエルよ、従順と愛をもってわたしに仕えることができるよう、身を整えなさい。わたしは、あなたがたが真の弟子となるために、あなたがたに油を注いだのだから。

59. 今、わたしはあなたがたの中に聖霊の神殿を築き、あなたがたが新しいエルサレムに到るための準備を整えている。

60. 善意をもってあなた方に近づいてくる人々に、わたしの知恵の果実を味わわせてやりなさい。それを渇望するすべての人に与えなさい。最初の人にも最後の人にも与えなさい。わたしの平安をもって彼らを養い、それを守り、あなたがたの中にわたしの臨在があることの証しとして、人類の間に広めなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 343

1. わたしは、わたしを求めるすべての人々に、憐れみと愛として自らを現した。人々はさまざまな道を歩んでいるが、エリヤはたゆまず道を切り開き、この時代において、輝く灯台として、あなたがたに救いの港を示している。

2. イスラエルの民よ、汝らは私の言葉を全世界に伝え、荒れ狂う海の波を恐れず、人類が煽る不和に目を留めることなく、旅立つがよい。 あなたがたは、私があなたがたの霊に託した愛という武器で身を守り、私の律法によって闇の覆いを取り除かなければならない。それによって、人類は私を認識し、同様に私の愛する民の一員となるだろう。

3. 仲間たちの前で自慢してはならない。謙虚であり、彼らに良い手本を示しなさい。

4. いつの時代も、人類は私の慈悲を正しく評価することができず、宇宙に存在するすべてのものを創造した御方を誤解してきた。師は、あなたがたが私の律法——それはあなたがたに苦痛をもたらすものではなく、むしろあなたがたの魂を永遠の平安へと導くものである——を遵守することで、創造と調和を保つことができるよう、万物の根本を明らかにした。

人々はさまざまな律法を制定し、隣人たちにさまざまな道を指し示してきた。しかし、それらの道では痛みと混乱しか経験できず、大勢の人々が深淵へと転落してしまった。

5. わたしは、人類の邪悪さ——諸国民を分裂させる者たち——に歯止めをかける。彼らは団結し、罪のない命を奪うことをやめるだろう。無防備で親を失い、さまよう未亡人や子供たちを見よ。この嘆きの声は、わたしの耳に届いているのだ、おお、愛する民よ！

6. 人々は、苦痛に襲われると、その盲目さゆえに、わたしの神聖な御名を冒涜する。わたしが完全なる憐れみから彼らに与えた祝福の賜物が、果たして彼らの苦しみの原因なのだろうか。いいえ、わたしの子供たちよ。その原因は、彼ら自身の罪にあるのだ。

7. 彼らのすべての苦しみは、不従順によって自ら招いた結果である。しかし、あなたがたは、諸国民を、愛と調和、そして私が今彼らに差し伸べている平和へと導かなければならない。

8. わたしは、人々の間に偽キリストが現れると告げてきた。また、あなたがたの中にも、多くの者が惑わされ、誘惑を受け入れ、人類を に混乱させるだろう。 しかし、すべての魂は私の裁きの座の前に現れなければならない。その時、私は彼らに、私の使命と教え

をどのように果たしたかを問うであろう。また、彼らが世界に持ち込んだ愛と慈悲とは何であったのか、魂たちに問うであろう。

わが光は闇を追い払い、人類を罪から救い出し、彼らの目から暗い覆いを取り除くであろう。そうして、わが愛はあなたがたが誘惑を退けるのを助け、すべての者が、わが示した光の道を視認できるようになるのだ。

9. 戦いが近づいている、おお、愛するイスラエルよ！しかし、人類の間に現れるであろう世界観の混乱の中で、あなたがたは、霊性と愛の模範を示し、人々を物質主義に縛りつける鎖を打ち砕くことによって、平和の虹となるべきである。 あなたがたは謙虚な言葉で語り、心の中で律法を示さなければならない。そうしてこそ、世界はあなたがたを認めるだろう。

10. 準備が整ったら、あなたがたは旅立ち、自らの模範をもって、信仰、希望、そして慈悲をもたらし、海、空、砂漠、谷を越えて、人類の苦しみを和らげ、苦難の杯を飲み干した者たちにわたしの平安をもたらすことで、霊性主義的な三位一体・マリアの旗を高く掲げなければならない。

11. わたしは、第三の聖書において、光と教え、そしてわたしの使命をあなたがたに与えた。それは、第一の聖書および第二の聖書と合わせて、一つの愛と慈悲の教えを成すものであり、人々が互いに愛し合い、もはや黄金の子牛を造ったり、狂信や偶像崇拝を助長したりしないためである。それこそが、人々を真の道から遠ざけてきたものだからである。

12. わたしは、誘惑が彼らに幻想として見せかけた、不必要で邪悪なものを、もはや養わないように、魂たちを救う。これこそが、おおイスラエルよ、あなたの戦いである！わたしの愛は、地上のあらゆる道において明らかにされ、わたしがあなたがたの魂に宿した慈悲を、誰もあなたがたから奪い去ることはできない。

わたしはあなたがたの父である。愛をもって語ることを教えるために降りてくる父であり、その平安をもってあなたがたを励ます父であり、その言葉を、あなたがたの心の最も奥深くに、消えることのない文字で刻み込む父である。

13. わたしは、あなたがたがわたしを模範とするように、柔和に満ちてやって来る。預言者たちが語ったことを成就させるため、わたしは様々な語り手を通して語りかける。そして、あなたがたはわたしのそばにいるとき、平安と慰めを感じる。この第三の時代に、わたしは大きな霊的な宝を携えて戻り、それをあなたがたの霊に託すためである。

14. 師として、わたしはあなたがたに、わたしの教えの書物の新たな一ページを授ける。わたしの言葉を通して、あなたがたに慰めと恵みの命を与え、霊的にわたしのもとへと導く道を歩み続け、そこで真の至福を見出せるようにする。

15. 私の平安を感じ、その存在の最も奥底で私の声を聞き取り、この平安の使者となるために自らを準備した者たちの数は少ない。

16. あなたがたは、すでに「最初の時代」に、小羊の血によって印を刻まれたわたしの民である——すなわち、わたしがファラオの奴隷状態から救い出した民である。

17. 時の流れの中で、あなたがたの魂は様々な肉体を通じて発展してきた。あなたがたが経験してきた苦しみを知っているのは、わたしだけである。しかし、その経験を通じて、あなたがたは父にますます近づいてきた。

18. 今の時代は、明日、霊的な谷であなたがたが苦しむことのないよう、償いの時として定められている。わたしは、あなたがたの魂をあらゆる鎖から解き放ち、それがわたしのもとへ昇り、父があなたがたを待ち受ける神聖な住まいへと至ることができるようにするために来たのである。

19. あなた方への私の愛は計り知れない。私は、あなた方がその道のりでこれ以上苦しみ、泣く姿を見たくはない。私があなた方のために用意した道を歩みながら、私の律法を実践するあなた方が、喜びと歓びに満ちた姿でいるのを見たいのだ。私の霊的世界は、あなた方が困難な使命を果たすのを助けるために、いつでも準備ができている。

20. わたしの言葉は、あなたがたの魂にとって神聖な慰めである。常にそれを心の中に抱き続けなさい。そうすれば、あなたがたはわたしと共にいることになる。 もし人々が私の業を貶めたり、私があなたがたを飾った「衣」を引き裂いたりしても、彼らを赦しなさい。そのことは私に任せておきなさい。あなたがたの師のように良い手本を示せば、やがて人々はもはやあなたがたの平安を乱すことはなくなり、ただ「どうしてこれほどの大度量を得ることができたのか」と尋ねるために、あなたがたの元を訪れるようになるでしょう。

21. あなたがたが痛みに慣れてしまうことは、わたしの望みではない。もし痛みがあなたがたを清めたのなら、それはあなたがたにそれが必要だったからである。今、あなたがたは経験を積んだのだから、わたしの平安を求め、わたしの道を歩みなさい。わたしの言葉が人々の間に広まるよう、たゆまず働きなさい。

この種が花開き、実を結ぶのは、すでに整えられた畑である。なぜなら、この「第三の時代」に私が魂に授けた恵みを心に宿す三つの心が集まる場所ならどこでも、私は降りてきて、彼らに私の温もりと愛撫を与えるからである。 これらは、わたしに属する魂たちであり、わたしが呼び寄せた者たちである —— これらは、狂信や偶像崇拝を育んできた者たちであり、わたしが様々な信仰告白や儀式の中から選び出した者たちである。

22. 愛する民よ。私はいつの時代もあなたがたの魂を呼び続けてきたが、あなたがたは私の神聖な使命を果たすために、自らの物質的な本性を制御することを理解できなかった。

23. 転生した魂たちにとって、天の梯子の七つの段階がそれぞれ何を意味するのか、あなたがた全員が理解しているわけではない。それらは、すべての魂が達成しなければならない成長を意味する。なぜなら、あなたがたは、私の霊から生まれた時と同じくらい清らかな状態で、私のもとへ戻らなければならないからだ。 しかし、あなた方は数々の転生の中で魂を汚し、わたしの戒めに従わなかった。それゆえ、愛する子供たちよ、あなた方は償いをするために再びこの世に生まれてきたのである。

24. 私は、あの霊的な次元において、あなたがたが私の律法を全うしなかったことを深く悔いている声を聞いた。あなたがたは私にこう言った。「父よ、父よ、あなたの戒めを全うするために、私に地上の肉体をお与えください。」そして私は、あなたがたにこの機会を与え、新しい肉体の中で使命を果たせるよう、この世へと送り出したのである。

25. この時代、あなたがたのようなごく少数の者だけが、わたしの言葉を聞いているというのか。決してそうではない！肉体を持たない魂たちもまた、このメッセージを受け取っているのだ。

26. あらゆる時代において、私は自分の意志に従って、あなたがたに自らを現してきた。それは、神聖な愛をもってあなたがたを救ってくださった唯一の神の、ただ一つの律法、ただ一つの戒めを知らせるためであった。

27. わたしの律法は愛と慈悲である。すでに第一の時代において、あなたがたがそれに従って生きるよう、モーセを通じてそれが与えられていた。

第二の時代、私は弟子たちに私の第二の啓示について語ったが、彼らは私にこう尋ねた。「その時代、あなたの到来にはどのようなしるしがあるのでしょうか？」しかし、私は彼らに、人々は互いに拒絶し合い、大規模で殺戮的な戦争が起こり、互いに戦い合い、悪

がはびこると告げた。 今日、私はあなたがたに告げる。子供たちは幼い頃からすでに悪に染まっており、家庭にも、国家にも平和はない。親たちは子供たちに、敬意や道徳という良い手本を示していない。これらすべてによって、私の御霊はどれほど苦しんでいることか！

28. わたしの言葉は、あなたがたが家族に光を示し、彼らを闇の中に置き去りにしないために、あなたがたと共にあった。わたしは、あなたがたが盲目と無知を取り除くことができるよう、光を与えたのだ。

29. わたしは、あなたがたの魂に偉大さを与えるために来た――その偉大さは、わたしの愛であるわたしの律法の成就に根ざしている。しかし、あなたがたは、師に従うという使命を果たすことによって、この偉大さにふさわしい者となる必要がある。

30. わたしが預言者たちを通して自らを明らかにしたのは、あなたがたが飢えや渇きに苦しむことを望まないからであり、わたしの言葉こそが永遠の命のパンだからである。それは光であり、教えであり、あなたがたが「第二の時代」の人々を模範とする良き弟子となるために、わたしが与えたものである。

31. 聴衆の群れは誤っており、その「声の伝達者」を、あたかも彼がわたしの神性であるかのように受け止めている。いいえ、愛する子供たちよ。わたしはこの言葉の意味の中に、完全さからあなたがたに送る光の中にいるのだ。

32. 私は父なる愛であり、山の頂上で辛抱強くあなた方を待ち、そこから、あなた方の霊が登りつめることのできた階段を示そうとしている。しかし、あなた方のうち、力が弱すぎた者たちは、様々な宗派や宗教団体の代表者たちに訪ねられることになるだろう。

33. あなたがた全員がわたしの真の僕になるわけではなく、あなたがた全員が強くあるわけでもない。この試練が訪れたとき、あなたがたのうちの多くは、師の弟子でありながらわたしを否んだあの愛弟子のように、わたしを否むことになるだろう。

34. 私がまだ声の媒体を通じてあなたがたに語りかける時間は短い。しかし、私が去る前に、闇に包まれて深淵に落ちることのないよう、私はあなたがたを力と権能で満たしてやる。高きあの世から、私はあなたがたに励ましと、私の霊界の大軍を送り、彼らがあなたがたを助けるようにする。 あなたがたは、愛という武器で身を守らなければならない。

35. 私は、大衆へと光の火花を届けるであろうこの武器を、あなたがたに与えた。いつの時代も、私はあなたがたを守り、あなたが

たから離れることはなかった。しかし、この時代においては、もはやあなたがたは、霊から霊へと私の啓示を受け取るために、伝達者を通じて私の声を聞くことはなくなるだろう。

36. わたしの律法は人間によって定められたものではなく、わたし自身から生まれたものである。しかし、世界はわたしの教えをもとに、それぞれの理解力に応じて様々な宗教、信条、儀式を作り出し、人類に「これが真の道である」と告げてきた。しかし、わたしは宗教など作り出したことはなく、常にあなたがたに律法を示してきたのである。

37. あなたがたにこれを決して忘れさせないために、わたしはあなたがたのためにわたしの体と血を捧げた。そして、この神の愛の犠牲は、永遠にあなたがたに「互いに愛し合いなさい」と語り続けるであろう。

38. 真のイスラエルの民とは、御霊によって定められた者たちであり、私は彼らに私の言葉を豊かに与えた。それは、彼らが迷うことなく、光と愛の剣をもって私の業を守り抜くためである。

39. わたしはあなたがたの肉体には目を向けなかった。なぜなら、肉体はその役目を果たした後、土に還るからである。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。魂の衣を保つよう努め、隣人への善行をもってそれを飾り立てなさい。

40. わたしは神の愛をもってあなたがたを愛している。もう一度言う。わたしがあなたがたの過ちを赦すように、あなたがたも隣人を赦しなさい。わたしはあなたがたを裏切ったり、非難したりはしない。 私は、あなたがたの心と魂の最も深いところで、あなたがたを慈しんでいる。もし、あなたがたを侮辱する者たちの件を私に委ねてくれるなら、私は時が来れば、完全なる正義の天秤で一人ひとりの行いを量るだろう。

41. ただ、柔和さを示し、顔に微笑みを浮かべていなさい。そうすれば、あなたがたの模範によって、この世の闇を心に抱く者たちが屈服するでしょう――そうして、あなたがたが彼らに救命ボートを指し示す者となり、わたしに属するそれらの魂を救うことになるのです。

42. 人々の嘲笑を恐れてはならない。彼らに私の教えを伝え、私の王国はこの世のものではないと告げなさい。この世界を創造した神は、彼らの声に耳を傾けることも、彼らに語りかけることもなく、また、宗教団体が信じているような形で彼らに姿を見せることもない。しかし、私はすべてを聞き、すべてを見、すべてを知っている。 私は、それぞれの心が象徴的な形で私に何を求めているかを知

っている。今日、私は「第二の時代」に語ったように、あなたがたにこう告げる。「私は道であり、真理であり、命である。」

43. 病める者に心を向け、霊から霊へとわたしのもとへ昇りながら、その者に愛と憐れみを注ぎなさい。第二の時代のわたしの模範を手本としなさい。わたしはあなたがたの心に繊細さを注ぎ込み、光と癒しの賜物を与えた。あなたがたの魂を高めなさい。そうすれば、わたしはあなたがたを介して、病める者に癒しの香油を与えるであろう。

44. わたしは石でできた教会を望んではいない。あなたがたの魂と心の中に存在する教会を求め、あなたがたの中に霊性が宿っているならば、そこに住まいたいと願っている。

45. 1950年以降、あなたがたは私の祈りの家に集まり、自分たちの内に霊性が宿るよう備えることになる。あなたがたはもはや人間の知性を通じて私の言葉を聞くことはなくなるが、霊と霊とで私と語り合うことができるようになり、あなたがたの賛美歌は、あなたがたの魂を高揚させるものとなるだろう。

46. 試練は厳しいものとなり、あなたがた全員が揺るぎない姿勢を保てるわけではない。 あなたがたの多くは深淵に落ち、闇を切り開くためにわたしが与えた光を失うだろう。しかし、粘り強く堅固であり続ける者たちは、わたしの天国にふさわしい者となるだろう。わたしはあなたがたに教えを与えるが、それを学び、理解するのはあなたがた自身の務めである。

47. イスラエルよ。私があなたがたに慈悲に次ぐ慈悲を注いできた66年が過ぎた。私があなたがたに恵みを与えたのは、あなたがたが私を「愛」として認識し、私の律法を全うできるようになるためである。

48. わたしはあなたがたの魂に語りかけ、それを整えてきた。それは、わたしの神聖な「御言葉」が人間の知性を通じて明らかにされるためである――そうすれば、この啓示の最後の瞬間が訪れたとき、あなたがたがわたしにこう言うことがないようにするためである。「私たちはあなたの教えを何も理解していませんでした。今もなお、あなたが私たちに託した使命の責任を理解していない、子供のような弟子たちです。」 それゆえ、愛する民よ、私は決してあなた方を捨てたことはなく、たゆまず私の言葉を授けてきた。そして今この瞬間に至るまで、私の普遍的な光はなおもあなた方の元へと降り注ぎ続けている。

49. わたしは完全そのものであり、命そのものであり、愛そのものである。あなたがたが道に迷うこと、すなわち、わたしがあなた

がたを罪の泥沼から引き上げた後、再びかつての道に迷い込み、わたしの恵みを失い、闇へと戻って、人類の愚かさや物質主義にまみれてしまうこと――それは、あなたがたの師の御心ではない。 いいえ、愛するイスラエルよ、私はあなたを「霊性主義的、三位一体・マリア主義の民」と呼んだのは、あなたが私から受けた無限の恵みを人々に示すためである。

50. わたしはあなたに多くのことを預言し、こう告げた。「イスラエルよ、備えよ。偽りのキリストたちがあなたがたの中に現れる時が来るからだ。あなたがたは試練に遭い、巧みな人間の言葉があなたがたの耳に届くであろう。そして、もしその時に備えができていなければ、あなたがたは誘惑の網にかかってしまうだろう。 あなたたちは自らを相続権を失った者とし、私の恵みの賜物を拒むことになる。私が与えたパンを捨て去り、 、私の神聖な御心ではないにもかかわらず、本当に飢え、困窮し、ぼろぼろになったような気分になるだろう。

51. それゆえ、イスラエルよ、わたしがわたしの言葉によってあなたがたに真の道を示し、あなたがたがわたしの御心を行うため、また、良き模範を示し、その使命を忠実に果たす弟子となるために、わたしの律法を与えたことを悟りなさい。

52. わたしはあなたがたに不可能なことを求めているわけではない。わたしがあなたがたに期待していることはすべて可能である。わたしがあなたがたに負わせた十字架は、あなたがたの肩を押しつぶすことはない。もし時折それが重く感じられるとすれば、それはあなたがたが師を理解しておらず、物質主義から自らを解き放つことができなかったからである。

53. 初期の時代、モーセはイスラエルの先頭に立ち、40年間にわたり彼らを導いて荒野を通り抜け、カナンの地へと向かわせた。しかし、不従順、不信仰、そして物質主義ゆえに、ある者は神を冒涜し、ある者は背き、またある者は反抗した。 しかし、モーセはこの状況において、彼らが至高者の御心を傷つけることなく、彼らの不従順に目を向けず、天からマナを降らせ、岩から水を湧き出させてくださったその父に対して、謙虚かつ従順であるよう、知恵と忍耐をもって彼らに語りかけた。

54. 愛する民よ、私がこれらの例をあなた方に伝えるのは、あなたがたが正しい道を歩み、脇道を探さないためである。もし脇道を探せば、自らに苦痛をもたらすことになるからだ。私はあなたがたを真の道に導いた。それは、あなたがたが奮闘し、働き、私の慈悲

と限りない憐れみにふさわしい者となり、旅の終わりに約束の地を見出せるようにするためである。

55. やがて、あなたがたは、私の神聖な御言葉が、声の担い手たちの知性を通じて引き続き示されるよう私に願い求める時が来るだろう。そして、あなたがたは、私が与えた象徴の前でひざまずき、神性に対し、その光が降りてきて、律法について語り、この道を歩み続けるための愛を授けてくださるよう祈るだろう。 しかし、それが起こったとき、あなたがたは、イエスの離別が定められた後の「第二の時代」と同様に、もはやこの形では私の声を聞くことはなくなることを思い出すべきである。そしてその瞬間から、あなたがたは、私の臨在があなたがたと共にあったこと、そしてあなたがたが感覚に縛られるあまり、私の言葉に慣れきっていたことに気づくであろう。

56. イスラエルよ、あなたの目覚めは遅く、非常に遅くなるだろう。そして、それこそが、私の最も慈愛に満ちた父の心が限りなく苦しむ理由となるのだ。

57. 愛する民よ、わたしはあなたがたの魂を喜びたい——あなたがたがわたしのもとにたどり着いたとき、こう告げたいのだ。「愛する子らよ、報いを受け取りなさい。わたしの愛があなたがたの額に月桂冠を授け、わたしの天国の門を開き、あなたがたがわたしの愛の中で、父にある至福を享受できるように。」

58. 人間の意志が頭をもたげ、私の神聖な御言葉は人間の知性を通じて現れ続けること、また私の普遍的な光は1950年以降もなおしばらくの間降り注ぎ、声の媒体を通じて伝えられるだろうと主張している。

あの肉体へと転生した魂たちは、大きな過ちと重大な過失を犯した。なぜなら、彼らが「私が完全そのものである」ということを忘れ、「私が容赦なき法そのものである」ということを忘れ、「私の言葉は王の言葉であり、撤回されることはない」ということを忘れてしまったからだ。 なぜなら、私はあなたがたに、宇宙において私の言葉が成就しないことなどあり得ない、むしろ王の星が輝きを失うことの方が先だと告げてきたからだ。

しかし、私は、人間の知性を通じての私の啓示が終わる時期をあなた方に示しており、それは必ず起こる。だが、私はまた、あなた方を見捨てはしないこと、あなた方の準備を見守り、弟子たちの祈りを聞き届けることも告げてきた—— 最後の瞬間に、方向性を見失わないよう、そして私がこの世で彼らに与えた命を最後の瞬間まで活用し、新しい世代が愛と理解と慈悲をもってこの地球を引き継げ

るよう準備できるよう、最後の指示を与えなければならない者たちの祈りを、私は聞き届ける。私は、私の愛する民が歩むべき道を切り開く。

59. まことに、あなたがたに告げる。1950年を過ぎれば、この啓示はもはや与えられなくなる。もし人が、わたしの意志を無視し、その気まぐれでこの業を形作り、それをそのまま世界に与えようとするならば、その人はわたしの前でその責任を問われることになる。 わたしはあなたを準備し、愛する民よ、こう告げてきた。「わたしの御心は守られ、わたしの言葉はいつの時代にも成就する。」そして、わたしはあなたに告げる。あなたがたがもはやこの形でそれを聞くことのない時が来るのだ。 それゆえ、私の言葉を心の中に蓄え、これらの啓示の真意を大切に守りなさい。なぜなら、明日には、あなたがたは父に無駄に祈ることになるだろう。私の普遍的な光は、もはや人間の知性を通じて私を現すために降りてくることはなくなるからだ。

60. 備えよ、従え、働き、そして私があなたがたに与えたものを、隣人に与えよ。 語り、福音を伝え、すべての人々が目覚めるようにしなさい。しかし、物質主義的な業を成し遂げようとし、私の律法にそれを付け加えようとする者たち――すなわち、「師は、彼らが努力し、その願いが強ければ、今後も代弁者を通じて啓示を続けるだろう」と主張する者たちは、偽りの啓示しか聞くことはできないだろう。

61. 今日、イスラエルの民よ、私の聖霊の光があなたと共にあります――あなたの師のように戦い、働きなさい。

62. わたしの知恵は偉大だが、あなたがたの務めは、わたしの言葉を研究し、解釈することである。戦い、働き始めなさい。あなたがたの道中で、わたしの光と教えを渇望する者たちに出会うからである。堕落した者、謙虚な者、そして高潔な人々にも出会うだろう。あなたがたは彼らすべてに語りかけ、彼らにわたしの業を示さなければならない。 これらの人々の心の扉に近づき、一度、二度、そして三度とノックしなさい。しかし、もし扉が閉ざされたままであれば、先へ進みなさい。もし彼らが耳を傾けないばかりか、嘲笑するならば、忍耐を持ち、励まし、慰め、そして魂の癒やしを必要としている大衆のもとへ行きなさい。彼らに近づき、私の言葉で彼らを「油を注ぎ」なさい。

63. あなたがたの心を惑わすあらゆるものから離れ、祈りに専念しなさい。そうして、あなたがたの魂が神であり主である方と結びつくようにし、目が見えない同胞たちにとっての模範となりなさい

——彼らに霊性を示しなさい。あなたがたの心は啓発され、そうしてあなたがたは、私の真理をもって人々の群れを教え導くことができるようになるだろう。

あなたがたの言葉に慰めを感じる心がある。そうして、あなたがたは全人類を目覚めさせなければならない。そうすれば、利己主義も悪意も、苦々しさも不和も、もはや存在しなくなる。そして、彼らが私の元に来たとき、私は彼らにこう告げるだろう。「主のもとに来て、魂の成長のために私の光の一粒を持ち帰るあなたがたは、幸いである。」

64. 人々は私の言葉に飢えている。私の扉を叩くのは、助けを必要とする者たちであり、私は彼らをあなたがたの世話に委ねた。あなたがたが新しい世代を受け入れるためである。

65. 毎日瞑想し、霊と霊との間でわたしと交わりを持ちなさい。その道はエリヤによって整えられており、彼は灯台のようにあなた方を照らしてきた。彼は、この第三の時代におけるわたしの啓示の先駆者であっただけでなく——その使命は永遠に続くのである。

66. 1950年以降、わたしに耳を傾けた人々の群れのうち、ある者は引き続きわたしのそばに留まり、他の者たちは それぞれの道へと去っていくだろう。わたしの選ばれた者たちについても同様である。ある者は、霊性によって前進する者たちを一つにまとめるために急いで旅立ち、他の者たちは再び物質主義に固執することになるだろう。

67. わたしの真の弟子たちは、準備を整えて出発し、わたしの使命を忠実に果たすだろう。彼らは、わたしの息子ロトのようになるだろう——すなわち、ソドムとゴモラが清められるというわたしの戒めを受けたとき、その地を去ることで清らかさを保つことを知っていた者である。わたしの弟子たちもまた、あらゆる試練を乗り越えるだろう。

68. あなたがたの魂に、常にアブラハムの模範を刻み込み、心に留めておきなさい。私が彼に自分の息子を犠牲にするよう求めたとき、彼は私を信頼し、その偉大な信仰と従順さを示した。しかし、彼が最愛の息子を犠牲にしようとしたとき、私は天使を遣わし、彼の手を止めさせた。 そして、私は彼の信仰と従順のゆえに、人類が彼の仲介によって恵みを得るという偉大な約束を彼に与えた。しかし、私はあなたがたに犠牲的な死を求めたわけではない——私がアブラハムのことを思い起こさせるのは、あなたがたが彼の信仰と従順を模範とするためであり、あなたがたが永遠の命を得ることを約束するのだ。

私の平安があなたがたにあるように！

教え 344

1. あなたがたは、私が毎日、開かれた書物としてあなたがたの目の前に示してきた御言葉を聞いている。私はその内容をあなたがたに啓示し、誠実さと光をもたらした。私は、あなたがたを変容させるために、私の御言葉と愛の真髄をあなたがたに与えた。

2. わが業の懐においてよみがえったあなたがたは、幸いである。わたしは、あなたがたが明日、人類に対してわたしについて証しをする者となるよう、霊的な視線をあなたがたに向け続けている。

3. 多くの者が、さまざまな国々からやって来て、私があなたがたにもたらした御言葉の一部を受け取ろうとするだろう。私がこの救命ボートを示すのは、苦しむ者たちや難破した者たちである。

私が、他の罪人を救うために、罪人たちを用いたことを心に留めなさい。 今日、彼らは水晶のように澄んだ水が湧き出る岩であり、私の囲いの中にいる羊であり、私の選民の部族である。私は彼らを用い、私の奉仕に捧げた。彼らは三位一体・マリア主義の霊性主義者であり、父を崇め、心の花を父に捧げるために、一つの祈りの中で結ばれている。

私は、彼らの魂が完全なものとなるよう、彼らの中に私の慈悲と光を注ぎ込みました。彼らは、受け取り、その仲介を通じて人類に伝えるために選ばれた者たちです。彼らは、この第三の時代の私の兵士であり、私の働き手であり、私の弟子たちです。 私は、水晶のように澄んだ水の泉と、清らかな実を結ぶ木を、彼らの世話に委ねました。再び荒野を横断するに足る信仰を持っていたのは、彼らです。エリヤのように旅立ち、大群衆を呼び集めるのも、彼らです。

4. 選民イスラエルよ。あなたには、同胞たちにわたしについて証しをするという、主からの使命が与えられている。あなたは、人類から認められる強きイスラエルである。なぜなら、わたしはあなたに、わたしの恵みと聖霊の光を注いだからである。

5. イスラエルよ、この時を無駄にしてはならない。あなたがたが弱く、困窮することのないよう、将来、私の教えを豊かに受けられるようにしておく必要があるのだ。 わたしは、去った後もあなたがたから離れることはない、と告げた。しかし、だからといって自分自身を過信してはならない。また、今、人間の知性を通じてあなたがたに託しているわたしの言葉を、無視して見過ごしてはならない。わたしがあなたがたを人類のもとへ遣わすとき、あなたがたが直感的にわたしのメッセージを受け取り、霊的にわたしの臨在を感じられるよう、今から準備をしておいてほしい。

6. 準備の仕方を心得ている者は皆、私の言葉の伝達者となるだろう。この1950年が過ぎ去れば、人類の苦難は甚大であるため、あなたがたの目は多くの奇跡を目撃することになる。イスラエルよ、戦いに備えよ。しかし、この神聖な大義を十分に理解した上で備えよ。 なぜなら、あなたは世の誤りを正し、依然として『私は今もなお彼らを通じて啓示を与えている』と言い続ける、そうした「声の伝達者」たちの脳に宿る執着と混乱を取り除かなければならないからだ。しかし、その時には、彼らの知性には私の光は宿っておらず、私があなたたちに与えているような慰めと知恵の言葉も、彼らからは発せられることはないだろう。

7. あなた方は限界があり、他の人々の計画や思考を覗き見ることはできない。しかし、鋭い視力を持つ父は、明日何が起こるかすべてを見通すことができる。

8. わたしは、あなたがたがわたしの真の弟子となり、真の道を示すことができ、人類にわたしの業を紹介するわたしの使者となることを望んでいる。あなたがたが内に宿す光をもって闇を追い払い、あなたがたが光の子であることを示しなさい。

9. あなたがたの道のりに現れる試練に直面しても勇気を失ってはならない。また、あなたがたに近づいてくる人々に対して臆してはならない。なぜなら、彼らは霊的に助けを必要としている者たちであり、善行を積むことなく、わたしの神性の前に立っている者たちだからである。 あなたがたは、謙虚な者となり、私があなたがたに示した慈悲を誇示することなく、人々の痛みを和らげ、その心を整える用意のある者となりなさい。そうして、あなたがたの唇から愛と光の言葉が溢れ出るようにしなさい。

10. イスラエルよ、わたしはあなたの中に偽りを見たくない。いつの日か、その偽りは暴かれるだろう。そしてその時、世界はこう言うだろう。「*これ*らが師の弟子たちなのか？*もし彼らが*偽りの弟子であるなら、彼らの間に住み、偽りを伝えようとした師もまた偽りだったということになる。」

11. あなたがたは、善行と、自らの刷新と霊化を通じて、わたしの真理を証ししなければならない。わたしは、明日、人類からこう言われることを望まない。「なぜ、神の御言葉を受けたにもかかわらず、あなたの選ばれた者たちは、苦しみの中で慰めを感じ、病を癒やす香油を受けたいと願った私たちに、憐れみを示さないのか？」と。

これらすべてを行うことは、これらの心の中に信仰を育み、世界があなた方を認めるために、あなた方に課せられた務めである。

12. あなたがたの使命は、旅人たちが木陰の涼しさを感じ、その猛烈な歩みから休息を得られるようにすることである。しかし、私は霊的に彼らに語りかけ、彼らが悔い改めを感じ、私の神聖な御霊の前で自らの 過ちを告白するように導く。そして、私が両手を広げて彼らを受け入れ、たとえ彼らがまだ大いなる罪人であっても、決して拒絶しないことを彼らに理解させるのである。 彼らは霊的に、私の声を聞くことになるだろう。「愛する子供たちよ、私はあなたたちのために大きな苦しみを背負ってきた。しかし今こそ、あなたたちを新たに生まれ変わらせ、魂を解放する時である」と。私は、彼らがすべての過ちを悔い改め、自らの悪行を恥じるように導く。

13. それゆえ、イスラエルよ、わたしは日々あなたを教え、わたしの律法があなたの心に刻み込まれるようにする。わたしは良心を通してあなたたちに語りかけ、あなたがたが従わなかったわたしの律法の戒めが何であるかを示す。そうして、あなたたちは一歩一歩、新たに生まれ変わり、わたしの知恵に満ちた民となっていくのである。

14. あなたたちは自らその変容を目の当たりにし、かつての自分たちがどのような者であったか、そして現在の自分たちがどのような者であるかを知るだろう。そうすれば、最も頑なな心さえも、あなたたちの言葉を受け入れるようになる。あなたたちは彼らの助言者となり、清らかな心をもって彼らに善を行い、真の道を示すことになる。

15. 人類が、目が見えない指導者たちから、いったいどのような導きを期待できようか。あなたがた、すなわち光の子らだけが、そのような導きを与えることができる。なぜなら、わたしがあなたがたを通して自らを現すからである。

16. 人類に大きな試練が迫る時が来るだろう。しかし、わたしの庇護の下にあるあなたがたは、働かなくても養われる鳥のようになるだろう。 その時、人類は、これほど大きな災厄と悲惨の真っ只中にありながら、あなたがたが生きる勇気を失わず、また、あなたがたがわたしに従ったゆえに、闇の勢力があなたがたを捕らえることができないことに、驚嘆するだろう。

17. あなたがたは、人々の痛みを和らげ、長い間、祈りの中で魂を高揚させることなく過ごしてきた神を冒涜する者たちに、祈りを教えるという使命を帯びている。

18. しかし、そのためには、日々ますます霊性を高め、物質主義から自らを解き放たなければならない。なぜなら、私はあなたがたが過激なスピリチュアリストになることを望んでいないからだ。い

や、私の目には狂信は忌まわしいものであり、私があなたがたの中から排除したいのはまさにそれである。良心が、あなたがたに、万物と調和して生きるべき道を教えてくれるだろう。

19. あなたがたがこの言葉を聞く時間は短い。それゆえ、あなたがたが私の教えを深く探求し、それを理解して準備を整えられるようにすることが、私の意志である。

20. 神聖なる師から学びなさい。その師は、書き残され、明日あなたがたが喜びとする教えを授けてくださる。なぜなら、人間の知性を通じて師の声を聞くことができる時間は、すでに残り少ないからだ。

21. 父の慈悲があなたがたの魂に注がれ、それを励まし、こう告げている。「わたしの教えから学びなさい。あなたがたは依然として、わたしの力を感じることのできない、弱々しい子供たちだからだ。」わたしは、あなたがたに自らの使命を悟らせるため、あらゆる瞬間に、あなたがたの良心を通しても語りかけている。

22. 私は右手に律法を、左手に天秤を握っている。この啓示の形で、私はあなたがたの中から去ることになる。しかし、心配するな。私は霊的に私の言葉であなたがたを養うからであり、あなたがたは孤児になったような気持ちにはならないだろう。 私はもはや人間の知性を通じて啓示することはないため、あなたがたは自分自身の内に私を宿すことになる。しかし、私はあなたがたの魂が私の神聖な霊と交わり合うよう準備を整えておいた。そうすれば、私の意志が及ぶときはいつでも、あなたがたは私の導きを受け取ることになる。

23. 私が去った後、あなた方の闘いが始まる。

24. わたしは、あなたがたがそれを学び、破らないようにと、わたしの律法を託す。主に対して功徳を積みなさい。今こそ、あなたがたが魂の底から真の献身をもって、わたしにこう言うべき時だからである。「主よ、わたしたちの中に御心を成し遂げてください。」

25. 私は大きな愛と忍耐をもって、あなた方を汚れや様々な世界観、偶像崇拝から救い出した。なぜなら、あなた方は像や黄金の子牛の前にひれ伏していたからだ。いつの時代にも、どれほどの愚かさがあったことか！しかし、私はあなた方が盲目的に道を歩むことのないよう、常に光として、慈悲として、愛として、あなた方に自らを現してきたのである。

26. 現代において、わたしは再び、あなたがたの魂が歩んできた、そしてそこで苦痛を経験してきた様々な道から、あなたがたを救

い出した。あなたがたの魂がこの惑星にやって来た際に成長できるよう、わたしはあなたがたに幾度もの転生を許してきた。しかし、この時代、わたしはあなたがたが深い無気力状態に陥っているのを見つけた。「第二の時代」の預言をあなたがたに思い出させてくれるような、準備の整った心は一つも見当たらなかった。しかし、あなたがたが互いに愛し合うよう、改めて教えるために、人間の知性を通じて私を現すことが、私の意志であったのだ。

27. 私の愛と光は、明日あなたがたが世界に私の律法を示すことができるよう、恵みの露としてあなたがたの魂に降り注いだ。もしあなたがたが備えることを知っていれば、あなたがたを烙印を押し、苦痛を与える手など存在しないだろう。

28. あなたがたは、「第二の時代」の使徒たちのように旅立つべきである。彼らは、出発して私の教えを広めるための準備をし、適切な時を待つことを知っていた。私は、様々な宗派や宗教団体の中から、私に属する者たちを選び出す。彼らは私を認識し、自らの使命を果たすことを知るだろう。

29. あなたがたは、人類に私の教えを伝えるために旅立つべきである。そうして、私の天の御国の平和が人類に届くようにするためである。なぜなら、私の目は、彼らの痛みと絶望を見ているからである。

30. これこそが、愛する民よ、私があなたに差し出したものであり、あなた方は私の約束が成就するのを見るだろう。あなた方の魂は、山の頂上に到達するまで、一歩一歩登り続けていく。

31. 人々の噂や彼らの裁きを恐れてはならない。あなたがたの神の裁きを恐れなさい。私が裁き人として容赦がないと、あなたがたに告げたことを思い起こしなさい。それゆえ、人生の道のりで何一つ欠けることがないように、常に父として、神として、私を求めなさい。

32. わたしは、悪を束ねて火の中に投げ込むためにやって来る。なぜなら、あらゆる悪い種は、あなたがたに恵みの命を与えるために届けられるこの言葉である、わたしの神聖な鎌によって刈り取られるからである。

33. 師として、わたしは常にあなたがたを待ち、教え、道を導くためにここにいる。わたしの言葉を聞きに来るあなたがたは幸いである。なぜなら、あなたがたは後に、同胞たちに福音を伝えるために旅立つことになるからだ。わたしを理解し、わたしの教えを実践する者は、その霊のために至福を勝ち取るであろう。

34. あなたがたの中には、「主よ、なぜ私たちはあなたを感じることができなかったのでしょうか」と私に言う者もいる。しかし、私はあなたがたに言う。あなたがたが善行を成し遂げ、隣人に憐れみを示したとき、私を感じなかったというのか。 自分の使命を果たしたとき、満足感を感じないというのか？　なぜなら、そのときに感じる満足感は、あたかもわたしを感じているかのようだからだ。悪を行う者はわたしから遠ざかり、そうなればわたしの存在をほとんど感じることができなくなるのだ。

私は、あなたがたが行うあらゆる善行、あなたがたが示す慈悲の中にいます――それは、パンを分かち合うときだけでなく、愛と慰めの言葉を贈り、魂を励まし、この人生の苦しみの中で な心を慰めるときにも現れています。 どれほど多くの人々がほんの少しの愛を必要としていることか、どれほど多くの見捨てられた女性たちが励ましの言葉を渇望していることか。そして、あなたがた、わが選ばれた者たちは、助けを必要とするすべての人々に愛と励ましと力を与えるために、立ち上がらなければならない。

35. 世界は、その堕落、混沌、そして悪へと向かう猛烈な勢いの中で滅びつつある。しかし、わたしは、難破した者たち――すなわち、わたしの言葉を聞いたことはないが、その魂がそれを受け入れる必要を感じている者たち――を救うために、この舟をあなたがたに託した。それゆえ、わたしはあなたがたに彼らを目覚めさせ、この時代にわたしの臨在を人類に証ししてほしいと願う。

36. この時代、私が人間の知性を通じて自らを明らかにしたことを証しなさい。そして、不信仰者たちにこう言いなさい。「もし私が第二の時代に、人々と共に生きるために人間となったのなら――なぜ今日、私の恵みによって備えられた罪人たちを通じて、自らを明らかにすることができないというのか？」と。

37. なぜ、あなたがたは人間の行いにはより大きな信頼を寄せながら、あなたがたの神であり主である者の奇跡や寛大さを疑うのか。

38. イエスとしてこの地上を歩んだ私の足跡を思い起こしなさい。幼少の頃からすでに律法の学者たちに語りかけていたことを思い出しなさい。私はあなたがたに祈ることと、謙虚であることを教えた。 私は馬小屋で生まれ、十字架の上で死んだ。そして、私があなたがたにこの教えを与えたのだから――世界が堕落の極みに達しているこの第三の時代に、なぜあなたがたは私の言葉を聞き入れないのか。また、私が第二の時代に教えた道を、なぜ私があなたがたに示してはならないというのか。

39. 人々は憎しみと悪意を胸に抱き、不必要なものを追い求め、また、狂信もまた彼らの心の中にあった。

40. 民よ、あなたがたは私にこう問う。「主よ、あなたが御恵みをもって私たちを備えてくださった以来、なぜ私たちの道には試練が増えたのですか？」そして私はあなたがたに答える。第二の時代において、私はあなたがたに、苦しみを受け入れ、謙虚であるよう教えたのだ。 思い出してください。彼らは私を十字架へと連れて行き、私のこめかみに茨の冠を押し付け、私の手に葦の杖を持たせて、私を嘲笑しました。しかし、私は穏やかで謙虚であり続けました。私は、人類の救いの象徴として、自分の血を流さなければならないことを知っていたのです。 私がこうした苦しみや不快な味、苦難を拒んだと、いつあなたがたは知ったのか？決してない。私はあなたがたすべてへの愛ゆえに苦しみ、あなたがたに救いへの道を示すために血を流したのだ。しかし、今の時代のあなたがたは、血を流すことはない。ただ、善意をもって に備え、世に私の真理を語り伝えるだけである。

41. わたしはあなたがたに剣を与え、あなたがたをわたしの兵士と呼んだ。あなたがたは、わたしの言葉によって励まされるわたしの軍勢の一部である。そして、わたしはあなたがたに言う。戦いなさい。この世を恐れてはならない。わたしはあなたがたの父であり、あなたがたを守り、啓発し、あなたがたが人類の犠牲とならないようにするからだ。

42. 愛する民よ。やがて、わたしの言葉があなた方を救うことをすぐに悟るだろう。あなた方が苦しみを抱えたり、つまずいたりすることがないよう、わたしは慈愛に満ちた父としてあなた方のそばにいたのだ。

43. 私は、あなたがたが明日、周囲の人々の模範となるよう、忍耐をもって引き続き導いていく。

44. 世から離れなさい。そうすれば、あなたがたの魂はわたしの憐れみを受け入れ、わたしの平安と愛を失うことがない――世がその邪悪さによって生み出した茨に遭遇することがないように。わたしはあなたがたを深淵から引き上げ、導いてきた。それは、あなたがたの魂が一歩一歩、わたしに近づいていくためである。

45. わたしの光は決して人々から離れたことはなく、わたしは常に彼らの心に寄り添っている。なぜなら、どうしてわたしが自分の子供たちを半ばで置き去りにできようか。そして、痛みの嘆きの声を耳にするこの時に、彼らをわたしの憐れみなしに放置できようか。

私はあなたがたの痛みを取り除き、命の木の下で休ませ、その実で養ってあげた。私が去った後も、あなたがたは飢えも渇きも感じることなく、その実と水とパンを、渇きと飢えに苦しむ者たち、困窮している者たちと分かち合うだろう。

46. 激しい嵐に見舞われ、絶望の淵にある諸民族を見よ。 それゆえ、私はあなたがたを準備し、啓発する。あなたがたが師のように歩み出し、あなたがたを介して、彼らが私によって魂の落ち込みから解放されるためである。なぜなら、私は彼らに真理を悟らせ、彼らの魂と知性を照らし、この世に生じた混乱から彼らを解き放つからである。

47. わが子らよ、準備を整えなさい。そうして、わが力と光をもって地上の諸国民を導き、彼らにわが平安を感じさせてあげなさい。

48. 祝福された無垢さは、この世の堕落に染まってしまっている。若者たちは息をのむような速さでその道を歩み、処女たちでさえも、羞恥心、貞操、そして品位を失ってしまった。これらすべての美徳は、彼らの心から 消え去ってしまった。彼らは世俗的な情欲を育み、自らを破滅へと導く快楽だけを渇望している。 私は、あなたがたが立ち上がり、魂の成長に向けて確かな一歩を踏み出すことができるよう、はっきりと語りかける。

49. 私は、あなたがたが身を引き締め、神と交わりを持つことを望む。そうして、私の業に込められた慈悲を現わすためである。

50. 愛する民よ。あなたがたは今、山の頂上に到達できるよう、一歩一歩登り続けている。第六の燭台の光が宇宙を照らし、私は魂たちを導き、高めて、私のもとへ至らせるのである。

51. わたしは、あなたがたが再びわたしの教えを受け取り、聖霊の光があなたがたの魂から闇を追い払うことができるよう、ある期間をあなたがたに託した。罪人たちの知性を用いて、わたしはあなたがたに、言葉は簡潔ながらもその意味に真理を含む、わたしの知恵を授けたのである。

52. 明日、あなたがたは旅立ち、地上のさまざまな道々で福音を伝え、わたしについて証しをなすべきである。そうして、人々が害悪や罪、不和を取り除き、すべての人がただひとりの父の子であることを自覚できるようにするためである。なぜなら、霊にとって、社会階級も、人種も、貴族の家系など存在しないからである。 あなたがたは皆、ただひとりの父から生まれ出たものであり、私のもとへ帰らなければならない。

53. 人類は現在、その不従順の結果として大きな浄化に苦しんでいる。しかし、この苦難の杯を自ら招いたことを、人類は理解していない。だが、父である私は、この時代に、あなたがたが肩に背負っている十字架の重さを和らげるために来たのである。

54. 諸民族は古来より互いを軽んじてきた。それゆえ、国境や異なるイデオロギーを作り出し、互いに距離を置いてきたのである。

55. わたしがあなたがたの中に現れたのは、あなたがたがわたしを手本とし、荒野で灼熱の太陽の光に打ちのめされないようにするためである。わたしは、あなたがたが人類に道を示すことができるよう、わたしの知恵をもってあなたがたを鍛えてきた。

56. 第二の時代において、私は十二使徒を人類を教えるために備えさせた。しかし、この第三の時代において、私は14万4千人を一つにまとめ、彼らを準備させた。それは、この民を通して人類が再び私の慈悲を受け取れるようにするためである。

57. 愛するイスラエルよ。人々は、その不従順と、 な魂を弱め、わが意志である霊化を妨げた肉体の弱さゆえに、どれほど遅れをとってしまったことか！

58. 私の教えを学び、深く探求しなさい。そうすれば、明日、あなたがたはそれを隣人に伝えることができるだろう。私はこの時代に、私の教えによって人類を混乱させるために来たのではない。私はただ、彼らを罪から解放し、彼らが真の道を歩み、私の平安を得るために来たのだ。愛する民よ、私があなたを強め、戦いに立ち向かえるようにする。

59. あなたがたが、もはや声の媒体を通じてこの言葉を聞くことのない時が近づいている。しかし、わたしはわが子らから離れることはない。あなたがたは確かに、この啓示が途絶えることを感じるだろう。しかし、わたしが初めから霊的にあなたがたと共にあったように、終わりまでそうあり続ける。それがわたしの意志だからである。

60. 愛する弟子たちよ。私は、この第三の時代に私があなた方に託したものを、あなた方の行いによって証ししてほしいと願っている。すでに第二の時代において、私はあなた方に「互いに愛し合いなさい」と告げた。

人々があなた方の話を聞きに来たら、彼らに道を示し、彼らがどれほど道を誤っていたかを悟らせ、私があなた方に与えた教えの一つひとつを説明しなさい。なぜあなたがたがスピリチュアリストであるのか、なぜイスラエル人であるのか、そしてなぜマリア派の三位一体信者であるのかを、彼らに語りなさい。 あなたがたはイスラ

エル人であると私が言ったことを思い出してください——肉によるのではなく、霊によるのです。なぜなら、あなたがたはアブラハム、イサク、ヤコブの真の子孫であり、私が「イスラエル」と呼んだのは、彼が試練の中でその強さを証明したからであり、それゆえ、あなたがたもまたイスラエル人として強くなければならないからです。 あなたがたがスピリチュアリストであるのは、私があなたがたに、御霊をもって私を求め、私を愛するよう教えたからである。

61. なぜあなたがたはマリアを慕い、愛するのですか。それは、私が「第二の時代」において、母としての彼女の慈愛の中にあなたがたを託し、彼女の御霊があなたがたのため、そして全人類のために取り成してくださっているからです。

62. レビ族は、神の僕、すなわち祭司となるために、すでに第一の時代に選ばれていた。そしてこの第三の時代において、レビ族は再び私の神性の奉仕に捧げられている。彼らは自らの使命の成就に身を捧げている者たちである。

63. 民よ、ユダのように振る舞ってはならない。ペトロのようにわたしを否んではならない。トマスのようにわたしを疑ってはならない。しかし、もしあなたがたにそのような弱さがあるとしたら——あなたがたはわたしの御霊にどれほどの苦痛を与えることか！

目を覚まし、祈りなさい。私の使徒たちの従順さを模範としなさい。彼らのように、誰も他者より偉くなろうとしてはならない。私にとって、あなたがたは皆等しいのだから。そして、あなたがたの行いに応じて、 魂の昇華は決まるのである。 私が弟子たちに語ったように、あなた方にもこう言おう。「父の家には多くの住まいがある。」しかし、あなた方はそこに住むにふさわしい者にならなければならない。あなた方のうち、早く到着する者もいれば、遅く到着する者もいる。善行と律法の遵守によって、あなた方の魂が高みへと昇ることを許しなさい。

64. あなたがたが来世に到ったとき、私はあなたがたの善行と悪行が記された書物を示すであろう。そして、私の正義の天秤があなたがたの功績の側に傾けば、あなたがたの魂は喜びに満たされるだろう。しかし、もしそうならなければ、あなたがたはこの惑星に戻り、もう一度償いをしなければならない。 その使命を果たした者たちは、霊界からさらに高みへと昇り続けるために功徳を積み続け、試練の炉を勝利して通り抜けた天使たちや私の霊界がそうしているように、人類のために戦い、働き続けることになる。

65. このようにして、あなた方は徐々に真の至福を勝ち取り、ついには私の神聖な霊と融合することになる。なぜなら、あなた方は

自分たちが私から生まれ出たものであり、清らかで純粋な姿で私のもとへ帰らなければならないことを知っているからだ。

66. もしあなたがたが、苦しみによって魂がいかに深く清められるかを理解できれば、その苦しみを愛するようになるだろう。しかし、「肉」は魂を弱くしてしまう。だが、私はあなたがたが誘惑から身を守るために、祈りについて語ってきたのだ。

67. この言葉がもはやあなたがたの耳に届かなくなったとき、あなたがたは、これまで積み重ねてきたすべてのものを人類に伝えるために旅立つべきである。そうして初めて、あなたがたはわが教えの偉大さを悟り、高みへと昇り、霊から霊へと、わが神性との対話を交わすことを理解するようになるだろう。あなたがたがひとたびわが元に来たとき、わたしはこう告げるであろう。

『わが平安があなたがたと共にありますように！』

教え 345

わが平安があなたがたと共にありますように！

1. 皆さん、マスターのもとへようこそ！

2. 愛する民よ。私があなたがたの間で裁き人として立ち、私の民イスラエルを心の奥底まで裁いてから、まだほんの数回の朝の礼拝が過ぎたばかりである。その際、ある者たちは祈りと執り成しを捧げていたが、他の者たちは霊的な啓示に対して無関心で、この世の誘惑に対してのみ心を開いていた。 真の霊的な備えと受容の心を持つ者もいれば、後退に陥っている者もいた——私の子供たちの一部は日常のルーチンに埋もれ、また霊的な備えのない者もいた。

3. わたしは民の愛を吟味し、彼らがまだ互いに兄弟愛をもって愛し合っておらず、わたしの選民である民が、霊的な調和をまだ実感し、実践していないことを発見した。

4. 私は会衆の祈りを聞いた。ある者たちからは過ちに対する悔い改めが示され、またある者たちからは、世界平和とイスラエルの民の団結を求める控えめな願いが表れていた。 しかし、神と世界に対する自らの責任を自覚し、真の霊的な洞察をもって、教えを渇望して主の前に謙虚に立ち上がることができた者——裁き主の前に首を垂れて立ち、神が何よりも愛であることを知る子供たちのように父の腕に寄り添うことができた者は、実際にはいかに少なかったことか。

この祝福された機会、この恵みの瞬間に、父は霊的な恵みを注ぎ出された。父は、その霊感、正義、そして教えを、一部は人間の仲介を通じて、そして大部分は霊から霊へと、特に御自身の民に、また地球上の人々や全世界にも伝えられた。

5. これはすでに、私が審判者としてあなたがたのもとを訪れた最後の説教であり、人間の知性を通じて伝えられた私の光線が、すべての州の「働き手」たち、すべての教会の代表者たち、そしてスピリチュアリズムの三位一体・マリア派の奉仕者たちに囲まれ、彼らの知性を通じて、私の業を伝え、聴衆の群れの信仰を鼓舞した。

6. 来るべき時代には、再びあなたがたがこのように団結している姿を見るだろうが、もはやこの種の集会の場ではなくなろう。民はそのことを霊の中で予感し、すすり泣いた。「肉」は弱く 、迫り来る別れと、こうした集会の終焉に抵抗していたのだ。

7. エリヤはあなた方を準備し、その霊的な指であらかじめこの瞬間を指し示していた。それは、民全体が目覚め、奮い立ち、警戒を怠らないようにするためであり、この裁きと恵みの時を無関心なま

ま迎えることがないようにするためであった。 なぜなら、エリヤは魂の道において常に先駆者として現れ、道を整え、いばらや岩を取り除き、私の子供たちの足が道中で傷つかないようにするからです。 彼は、良心を通じて魂の最も深いところまで語りかける霊的な鐘を鳴らし、あなた方を目覚めさせ、光で満たし、来るべき御方の声を聞くように導くのです――その御方は常に「私はここにいる」とおっしゃる方です。なぜなら、父はあらゆる瞬間、あらゆる場所に臨在しておられるからです。

8. 私は裁きのあらゆる瞬間に人々の心を探り、そこには痛み、不安、そして暗い予感に満ちているのを見つけた。 私は、その鼓動を聞き、その願いに耳を傾けるために近づいた。その願いは、ますます霊的なものから遠ざかり、その源から離れていく。なぜなら、それらは物質的なもの、ただこの世の知識や欲望だけを渇望しているからだ。こうして私は、人類、すなわち人間に出会った。彼らはこの世の富にのみ心を奪われていたが、その魂は恐怖に満ち、ただ一筋の光、一粒の希望の火花だけを保っていた。 しかし、私はその火花を消し去ることはしなかった――それどころか、私の真理と慰め、励まし、そして私の本質をもって、それを生き生きと蘇らせたのである。私は、その恵みの瞬間に、私の存在が感じられ、私の本質が例外なくすべての人々の内に宿るよう、これらを霊的に全世界に注ぎ出した。というのも、エリヤもまた、その前に自らを現していたからである。

私が来たとき、魂と心はすでに、あらゆる時代、あらゆる世において神の先駆者であるエリヤの霊によって整えられていた。なぜなら、エリヤとは、常にあなた方のそばにいて、あなた方がめったに感じ取ることができなかった存在だからである。

9. エリヤは、神の右に坐する偉大な霊であり、その謙虚さゆえに自らを神の僕と呼ぶ者である。私は、彼や他の偉大な霊たちを媒介として、霊的な宇宙を動かし、偉大かつ崇高な御計画を遂行する。そう、わが弟子たちよ、私には、創造を統治する大勢の偉大な霊たちが仕えているのである。

10. そこで、あなたがたはこう自問するだろう。「すべてを行うのは父ではないのか？」しかし、私はこう答える。私がすべての霊の中にいるからこそ、私はすべてを成し遂げる者なのだ。 私はすべての被造物の中にあり、私なしには何一つ動くことはない。しかし、私が多くの霊に命を与えたのと同様に、 、私は彼らすべてに、私の業、私の働きへの分与を与え、私の創造の中での場所――私の右側にあるふさわしい場所――を与えたのである。

私が、最初の人から最後の人に至るまで、あなたがた全員を、過ぎ去ったあの恵みの朝のために備え終えた後、エリヤは主に向かって、雑草が生い茂る畑を示した。しかし、父は彼にこう言われた。「そのままにしておきなさい。雑草はまだ少し増え、さらに繁茂し、その根を深く張り、地の上でさらに広がっていくであろう。」 しかし、まもなく収穫の時期が訪れ、まもなく鎌が振るわれる。その時、悪しき種の中に、たとえ実にまばらであっても、小麦も混じっているだろう。しかし、それは私の納屋に保管され、その時の機が熟し、大地が適して肥沃になった時に再び蒔かれることになる。一方、雑草は束に縛られて火の中に投げ込まれるのだ。

11. わが民よ、悪は人々の間で増大している。 善、美徳、愛は、悪、病気、災い、疫病、そして不幸の侵入に対して無力であった。堕落した者たちの蒔いた種はすべて、善人の心を蝕み、多くの人を躓かせ、忠実な者たちの数を激減させた。それは、悪が人類に対して大きな力を振るってきたからである。

12. 私は、あなたがたに与えられた自由意志のために、このようなことが起こることを許した。なぜなら、人間のあらゆる堕落、あらゆる闇、そしてあらゆる迷いの背後には、神聖な光、すなわち、消え去ることのない、そして決して消え去ることのない霊が存在するからである。「光の魂」と呼ばれる根源的な存在があり、それは父が与えた口づけ――すなわち、私がすべての子供たちを戦いの道へと送り出す際に用いた神聖な印――を、汚れなく守り続けている。この印がある限り、これらの魂のうち、一つとして失われることはない。

13. 道に迷う者の数は多い。しかし、地球上、すなわち地球の人口を構成する様々な国家の懐において、取るに足らない村々や低地においても、自らを高く掲げ、主と結んだ契約を守り、大衆にとっての模範であり、霊的な支えとなる心を持つ人々が決して欠けているわけではない。 彼らが祈るとき、私にこう問いかける。「なぜこれほど多くの悪が存在するのですか？　なぜ人々の心に悔い改めが生まれないのですか？　なぜ人類は善や平和に向けて目覚めないのですか？　なぜ人々は互いに理解し合い、愛し合い、神における兄弟姉妹として互いを認め合うことができないのですか？」

14. しかし、父は、目を覚まし、祈り続ける者たちに心の平安と希望を与え、こう告げられる。「最も多くの罪を犯した者たち――この人類に最も な苦痛をもたらした者たちが、やがてはあなたたちにとって最大の恩人となるまで、待ちなさい。なぜなら、彼らは実際には『死ぬ』ことはないのだから。」 死ぬのは罪であり、その肉

体は消え去り、人間の罪の原因である闇の勢力も消え去る。しかし、その精神に導かれた魂は、たとえ大きな試練や、大きな償い、そして魂の浄化を経験しなければならなくても、たとえ肉体の死を経なければならなくても、たとえ贖罪の過程で自分を包む闇が永遠に続くように感じられたとしても——たとえその悔恨の炎が地獄の炎であるかのように感じられたとしても。これらすべては過ぎ去り、魂はそれらすべてを経て、健全かつ清らかな姿で現れるだろう——それは、溶鉱炉を通った金よりもなお清らかな姿として。

15. あなたがたは、人間の外見だけからその人生を想像したり評価したりすることはできない。あなたがたの地上の存在以前に、他の世界や、あなたがたには計り知れないあの世で何が起こったのか、あなたがたは知らない。しかし、私の教えを思い出せ。それこそがあなたがたの道である。

16. 人間の目には見えず、人間の科学では捉えられない力が存在し、それらは絶えずあなた方の生活に影響を及ぼしている。そこには善なるものもあれば悪なるものもあり、光に満ちたものもあれば闇に満ちたものもある。

17. これらの影響はどこから来るのか。それは、精神、理性、そして感情からである。

18. これらすべての波動は空間を満たし、互いに競い合い、あなた方の生活に影響を与えている。これらの影響は、肉体をまとった魂からも、また地上の肉体を持たない存在からも発せられている。なぜなら、地上においても、あの世においても、光の魂もいれば、迷いのある魂もいるからだ。

19. もしあなたがたが、それらの力の始まり、起源がどのようなものであったかを私に問うならば、父はこう答えます：

20. 世界が存在する以前、あらゆる生き物や物質が生命を宿す以前、すでに私の神聖な精神は存在していた。しかし、万物の統一体である私は、自らの内に計り知れない空虚を感じていた。なぜなら、私は臣下のいない王のようであり、弟子のいない師のようであったからである。それゆえ、私は自分と似た存在を創造する計画を立てた。彼らに私の生涯を捧げ、深く、心から愛し、その時が来れば、躊躇することなく、十字架の上で彼らに私の血を捧げるほどに。

21. あなたがたが存在する前から、すでにあなたがたを愛していたと私が言っても、それを不快に思わないでほしい。そう、愛しき子らよ！

22. 神が「父」と名乗ることができるようになるために、神は御自身の懐から霊——神の神聖な性質に似た被造物——を生み出され

た。これがあなた方の起源であり、こうしてあなた方は霊的な命に目覚めたのである。

23. しかし、父は無限であり、あなたがたの魂を創造した後、子供たちに理解されることを切望されたため、物質的な生命を創造し、あなたがたの一時的な住まいの一つ――この世界――を創造されたのである。

24. 父は、子がいかなる不完全さにも遭遇することなく、一歩一歩、あらゆる行いの中に父の痕跡を見出せるように、完全かつ無限の忍耐をもって、すべてを形作り、整えられた。 なぜなら、すべては初めから一冊の本のように計画されており、そのページの中で、あなたがたは時が経つにつれて、私に対して投げかけるであろう問い――「私は誰なのか、どこから来て、どこへ行くのか」――に対する、待ち望んでいた答えを見出すことになるからです。

25. すべての準備が整うと、私はその魂に、この地上での肉体を与えた。それは、知恵と完全さをもってその魂のために創造された素晴らしい世界に住むための、杖であり、衣となるものであった――主の子らにとって、そのすべての教訓と美しさをもって、この世から始まり、無限へと続く梯子として差し出された一冊の本であった。

26. そして、すべての準備が整うと、私は転生した魂、すなわち人間にこう言った。「ここがあなたの一時的な住まいである。自分の道を歩み、泉の水を飲み、果実を味わい、楽しみ、これらすべてを通してわたしを認識しなさい。」

27. これが、あなたがたにとって物質的な人生における始まりであったが、父がここで語っていることは遥か昔のことであり、時の流れの中で埋もれてしまったのである。

28. 時間を測定し計算するための、あなた方の計算や最高の科学でさえ、神のみが成し遂げることのできる業の始まりを特定するには不十分である。なぜなら、神こそが、常に時間の彼方に存在し続ける唯一の存在だからである。

29. 科学者はこの世界の年齢を正確に特定することさえできないのだから――私がそれを明らかにしてやらない限り、どうして彼が「普遍的生命」の始まりを探り当てることができるだろうか？ とはいえ――あなたがたが、自分たちの手の届かないところにあることを知りたくて頭を悩ませることのないよう、かつてあったもの、今あるもの、そしてこれからあるものがすべて内在する、遍在する父が、この日にあなたがたに語った知識に満足すべきである。 あなた

方の生命の始まりははるか昔にあり、その知識は時の流れの中で失われてしまった。

30. 人間がこの世で生き始めたとき、彼らは純粋さと無垢に満ちた霊的な生活を送っていた。しかし、父はあなた方に問う。私は、これらの被造物の純粋さ――すなわち、彼らの無知や知識の欠如から生じた純粋さ――に満足していたと、あなた方は信じているのか？ いいえ、弟子たちよ。この無知ゆえに、父は認識も理解も愛もされ得なかった。この霊的な功徳の欠如ゆえに、父の神聖な性質のどれ一つとして評価されることはなかった。そして、私はあなたがたが、私の高次の意志に従属する卑しい被造物となることを望まなかった。あるいは、あなたがたが作り出すような機械――自らの意志も、自らの命も持たないもの――のようになることを望まなかったのだ。

それゆえ、私は魂に自由意志という賜物を与え、肉体には、魂に人間生活の秘密を明らかにすることを許した。しかし、私は直感を通じて、創造主である父の存在を魂に知らせた。肉体の弱さを鑑みれば、私の正義と知恵、そして私の声が宿る霊の光に導かれる魂の強さこそが、その支えであった。

31. 魂が肉体の感覚による「声」によって人間の生に目覚めたその瞬間、魂は霊的な生を放棄し、試練の炉、闘争、苦難、痛み、あらゆる思考・言葉・行いの結果が始まり、魂と人間の能力の開花が始まったのである。

32. そう、わが子らよ、人間が創世以来、自由意志に基づいて経験してきたあらゆる思考、言葉、行いの結果は、目に見えない力、すなわち善と悪の振動を生み出したのである。

33. 自由意志を行使して健全な生き方を始め、自分自身と隣人の幸福を求めようとした者たちは、癒やしと慈愛に満ちた波動を生み出した。 しかし、同じ自由意志を行使しながらも、良心の声に耳を傾けず、自らの身体に固有の利己的な傾向に従った者たちは、有害で誘惑的な力を生み出した。

34. これら両方の波動は空間に留まり――人々の思考や過去の行いに応じて、その強度を増したり減らしたりする準備ができていた。しかし、これらの目に見えない力は、魂の進化から切り離されたままになるわけではない――いいえ、弟子たちよ。これらの波動は、すべての魂の上に潜在的な形で残り、それぞれの思考や行いに従って作用するだろう。

35. 良心の光に導かれた者たちは、悪しき影響を退け、慈愛に満ちた、癒やしの波動へと向かった。 しかし、自由意志を行使して神

の戒めに反する行いをした者たちは、破滅的で不吉な波動を引き寄せ、それによって自らの混乱を増大させた。そして、この不均衡こそが、今日に至るまで人間を苦しめている病気や低俗な情欲の源となっているのである。

36. 永遠におけるあなたがたの始まりと未来を知るわたしが、最初の人類に、悪の勢力と戦うための武器を与えた。しかし、彼らはそれを軽んじ、悪対悪の戦いを好んだ。その戦いでは、双方が敗北して終わるため、真に勝利する者は誰もいないのである。

37. もしあなたがたが、私が人類に悪と戦うために与えた武器とは何であったかと問うならば、私はこう答える。それは、祈り、律法への堅忍、そして互いへの愛であったのだ。

38. わたしは、善と悪の力の起源についてあなたがたに語ってきたが、今、こう告げよう。これらの波動は、主の子らを試練にさらすために、わたしが創造するすべての世界に届く必要があったのだ。しかし、それによってわたしが望んだのは、あなたがたの破滅ではなく、あなたがたの完成であった。 その証拠は、私が常に子供たちに自らを現してきたことにある――良心を通じてあなたがたに語りかけたにせよ、使徒たちを通じて教えを授けたにせよ、あるいはあの「第二の時代」のように、イエスとして人間となり、子供たちの間に身を置いたにせよ。

39. どんなに未開に見える人種や部族であっても――たとえ、手の届かない森に住んでいるためにあなたがたが知らない人々であっても――私の愛の現れを経験しなかった者など一人もいない。彼らは危険にさらされた瞬間、自分たちを守り、護り、導く天の声を耳にしてきたのである。

40. あなたがたは、決して見捨てられたまま生きてきたわけではない。あなたがたが命を得て以来、創世の初めから、あなたがたは私の愛の盾の下に守られてきたのである。

41. 子供たちを慈しんで愛する人間の親たちよ。もし子供たちがこの世に生まれて間もない頃、つまり、あなたの世話や献身、愛を最も必要としている時に、彼らを運命に任せることができるだろうか。 私は、あなたがたが、たとえ子供たちが成人した後でさえも、子供たちのことを心配しているのを見てきました。過ちを犯した者や、あなたがたを傷つけた者たちでさえ、あなたがたは最大の愛をもって気にかけているのです。しかし、*あなたがた*がこのように子供たちの苦難に 反応するならば――あなたがたが存在する前からすでにあなたがたを愛していた天の父の愛は、いったいどのようなものでしょうか？

42. 私は常にあなた方を助けにやってきました。そして今、あなた方の魂がより高い段階へと発展したこの時期に、私は、悪の勢力を打ち砕くためにどのように戦わなければならないか、そして善の波動を増幅させる方法を、あなた方に教えてきました。

なぜなら、かつての人々が「悪」を描写し、それに人間の姿を与え、霊的な存在であると見なしていた古い信仰観、図像、形象、そして象徴的な名称——現代の世代にまで受け継がれてきたそうした信仰観——は、消え去らなければならないからだ。 なぜなら、あなたがたはそれを自覚することなく、それらを通じて、現代の人類が到達した精神的な発展にふさわしくない、迷信的な神話や崇拝を生み出してしまったからである。

43. あなたがたは私にこう言う。「父よ、もし私たちが自由意志という賜物を悪用し、良心の声に耳を傾けず、あなたの律法に背くことによって悪の波動にさらなる力を与えてしまったのなら——霊的に自由になり、天国の平安を得るためには、何をすべきでしょうか？」 父はこう答える。あなたがたの霊と私の霊が切望する自由は、あなたがたの償いの功績によって得られるのである。

44. いつ、あなたがたは霊的な解放を得るのでしょうか。父は現時点ではこれを明かされませんが、ただ、私の愛があなたがたに与えてくれる武器をもって悪の勢力と戦い、私の律法に堅く立ち、大きな試練の中で強さを保つよう、あなたがたに求めておられます。そうすれば、今日、人種、言語、肌の色によって分断され、様々なイデオロギーによって教義、権力争い、敵対関係に分裂している人類の心の中に、わたしの王国が築き上げられるのを目にすることになるでしょう。人々が霊と真理のうちに留まり、美徳を保ち、わたしの教えに固く従い、畏敬の念をもってわたしの御名を口にするのを見るでしょう。 しかし、ああ！ あなたがたは、どれほど多くの苦難の瞬間、そしてどれほど多くの誘惑を経験しなければならないことか！

45. 目を覚まし、祈りなさい。わたしの御名によって勝利を収めなさい。そうすれば、あなたがたは真に霊的な変容を成し遂げたことになるでしょう。 天国があなた方の内に訪れ、平和と真の歓喜の微笑みが現れるでしょう。たとえ話に登場する「放蕩息子」は父の家へと帰還し、あなた方は、これほど多くの 闘争と転落を経て、人類が遂に善意ある人々に約束された平和を勝ち取るのを目撃することになるでしょう。

46. 私の教えに力を得て、この光を人類と分かち合いなさい。悪の根源が何であるか、そして愛と美徳という武器を手に取ることで、いかにして悪と戦うことができるかを、人々に伝えなさい。

47. あなたがたは、人間がこの世に現れたとき、善と悪の波動はすでに存在しており、私の賢明で慈愛に満ちた正義が、当初から、良心の光に忠実な魂も、自由意志に導かれた存在も、この世に転生することを許してきたと語っている——ある者は人類の贖罪のために、またある者は人類の祝福のために。 それゆえ、人類の歴史のあらゆる時代において、偉大な精神が現れるのを目にしてきた——ある者は善のために、またある者は悪のために——力と活力に満ちた魂たちである。そして、人間として転生し、慈善の行いを行うこれらの魂たちの姿を目にしたとき、なぜすべての人間がそうではないのか、理解できなかったのだ。 人類は、彼らを非凡な人間と見なしてきた点で誤っていた。なぜなら、他の人々がほとんど成長しないのと同じ時代に、彼らはこれほど大きな力、これほど多くの光、これほど多くの愛、知恵、あるいは美徳をもって自らを現すことができるのだから。 その理由は、これらの魂たちが、地球上でその成長を始めるために生まれたのではなく、あなた方にも知られていない他の世界や場所で、すでに浄化された魂たちだからです—— 彼らは、わずかな種を蒔くためにあなた方のところに来たのではなく、他の時代や場所で彼らが育て、熟成させた収穫、すなわち実りを携えてきたのです。彼らはその味わい、その生命力、その本質をあなた方の唇へと届け、あなた方の存在を幸福で満たしてくれました。 彼らは、あなたの魂に模範を示し、あなたの人間としての心に励ましと支えを与えてくれた。その中には預言者もいれば、族長や学者、王もいた。また、裁判官や教師であった者もいた。さらに、自然や心、魂の美しさを伝え、あなたの心に創造の美しさを実感させてくれた者たちもいた。

48. また、人類の存続のあらゆる時代を通じて、悪意に満ちた男女が露わにしてきた暴力に、あなた方は驚嘆した。歴史の書には、彼らの名前が記されている。あなた方の存在の記憶の書、すなわち神があなた方のすべての 行い、すべての業を書き記し、記録しておられるその書にも、同様に彼らの名前が記されており、 そして、あなた方は、一つの魂、一つの人間の心が、これほどまでに悪への力を秘め、自らの行いに戦慄することなく、これほどまでの勇気を維持し続けられること、また、神がすべての子供たちにその良心を通じて求めておられる説明責任の声を聞かずに済むよう、良心の声を沈黙させることができることに、驚いてきた。 そして、この惑星に

おけるそれらの魂たちの生涯は、どれほど長く、長く続いたことか。

私の愛と正義に、自由意志に基づいて反抗したこれらの人々を、私は用いて、まさにその不従順を利用して、彼らを私の僕とした。自由に振る舞っていると思い込んでいたが、彼らのすべての思考、言葉、そして行いは、自分自身に対しても、他者に対しても、私の正義の道具であったのだ。

49. しかし、その支配はいつ終わるのだろうか？——父はあなたがたにこう告げる。悪の支配が人類を（完全に）支配したことは一度もない。なぜなら、最も堕落した時代でさえ、わたしの教えに従順であり、わたしの律法の使徒であった、わたしに忠実な人々がいたからだ。しかし、この戦いは初めから常に存在してきた。

これまでの戦いにおいて、この二つの力のうちどちらが優勢だったのか？　それは悪の力だ！　それゆえ、私はあなたがたを助け、あなたがたの希望と私への信仰を新たに蘇らせ、あなたがたの心に温もりを与え、そしてこう告げるために、あなたがたの間で肉体をもって声を上げなければならなかった。「あなたがたは道において*一人ではない*。私は決してあなたがたに嘘をついたことはない。」私があなたがたの中に植え付けた原則を、決して変えてはならない。これこそが、善と愛の道である。

50. 神にとって、宗教という名称も、宗教組織も存在しない。父にとって重要なのは、正義と愛の律法に従って魂たちが行った行いだけである。

私は確かに常にあなた方と共にあり、創造のあらゆる存在の中にいます。しかし、必要に応じて、私を限定し、近づき、私の愛によって感覚的に認識できるようにする必要があったとき、私は常にそうしてきました—— シナイ山で人間に聞こえるように私の声を響かせたときであれ、預言者たちの口を通して語ったときであれ、また、私が人間となり、あの「第二の時代」に私自身の「言葉」を具現化して、生ける言葉と奇跡となり、人間の血を持ち、あらゆる人の最も物質的な目にも見える、知覚できる存在となるためであったのだ。 今、この第三の時代においても同様であり、私は、さまざまな年齢、国籍、社会階級の男女の中からあなた方のうちから人々を選び出し、ある者たちを通じて、また他の者たちを通じて、そしてすべての人々を通じて、同じ言葉、同じ意味、同じ啓示、そして同じ証しを与えているのである。

51. しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。エリヤは常に先に存在していたのである。人間がこの惑星に住むようになる

前に、エリヤはやって来て、人間に霊的な雰囲気を与え、あなたがたの住まいのあらゆる地域を霊的な本質で満たし、この惑星を単なる地上の楽園に変えるだけでなく、魂のための聖域へと変えるためであった。 人間が単に自然の前にひれ伏してそれを崇拝するだけでなく、自然を通して自らの神の臨在を発見できるようにするためであった。 あなたがたが到着する前から、エリヤはすでにそこにいた。なぜだろうか。それは、父が、最初の住人から最後の住人に至るまで、その声を知らせるために来なければならなかったからである。そしてまことに、最初の者たちは私を聞き取った。たとえ彼らが私の全き栄光を目にすることはなく、いかなる象徴においても私の神聖な御霊を見ることはなかったとしても、彼らは私が霊であることを知っており、私の臨在を感じていたのだ。 彼らは、私が存在すること、私が語ること、私が彼らの父であること、私が彼らを見つめ、裁くこと、私があらゆる善を与え、あらゆる悪に対して彼らを懲らしめ、叱責することを知っていた。

52. しかし、あなたがたがエリヤの存在について証しを立てられるように、わたしは彼を「最初の時代」に遣わし、受肉させて、彼自身と彼の父について証しをさせるためであった。 そして実際、彼は人類を驚かせ、その顕現や行い、言葉によって人々を驚嘆させた、あの非凡な霊の一人であった——科学者ではないにもかかわらず、自然の力をその手中に収めていた男——人間でありながら、死を克服し、それを乗り越えることができた人間—— その呼びかけによって自然の力を呼び起こし、人類の不信仰と唯物主義を驚愕させた男——魔術師ではないにもかかわらず、実際に肉体から離れた魂を支配する力を持っていた男であり、彼はこれらすべてについて、周囲の人々に確かな証拠を示した。

53. エリヤは預言者として立ち上がり、間もなく成就し、それを聞いた証人たちがその成就を目の当たりにした預言や、長い期間にわたって与えられた預言——それらは後の世代によって証しされた——を語った。 また、彼は正義の手をもって異教徒たちを懲らしめることで、主の僕たちを守った。 さらに、目に見えない神を信じ、その神を礼拝する者たちの堅固な信仰を強め、異教徒たちの物質主義、迷信、異教を罰した。 わたしは彼を通じて御自身を現し、彼の口を通して人々に語りかけた。わたしは彼の右腕に力を授け、エリヤ自身が死を乗り越え、真の命の中にあったという証人となるよう、彼を復活させたのである。

54. 彼は、道を整え、人々を深い無気力状態から目覚めさせ、日ごとに、世代から世代へと、親から子へと、これほど深い愛をもっ

て師、すなわちメシアの到来を待ち望んできた人々の希望を蘇らせるために、メシアに先立って来なければならなかった。 私は、エリヤが真実と霊において、道を切り開く者である洗礼者ヨハネとなるよう導いた——すなわち、「備えよ、悔い改めよ、祈れ。天の御国は近づいている」とあなたがたに告げたその人である。 そして、洗礼者ヨハネの預言を信じ、その言葉に畏れを抱き、断食し、祈りを捧げたイスラエルの民は、自らの魂と心を清め、その中に、まもなく到来する福音、すなわち主の御国の到来を感じ取ったのである。

55. わたしは、洗礼者ヨハネが人間となる前から、母の胎内に宿る前から、そしてそれゆえに彼の幼少期や青年期、さらには最期の瞬間に至るまで、その生涯が並外れたものとなるよう導いた。それは、彼の存在が、 まるで鐘が眠る者を目覚めさせるように、また羊飼いが羊の群れを一つに集めるように、あなたがたを一つにまとめ、川のほとりに導き、あなたがたを清め、あなたがたの体を洗うためである。それは、主との交わりを受け入れることができるのは、このようにしてのみ可能となる魂の清めの象徴である。

56. エリヤは、従順で謙虚な僕としてすべてを準備するという使命を果たした後、その事柄を主の御手に委ね、こう申し上げました。「父よ、ここに群衆がいます。ここに霊的な群れがいます。私はこれをあなたの御手に委ねます。なぜなら、そこなら安全だからです。最も安全な囲いは、あなた自身の父なる御心だからです。」

57. わたしは第三の時代にエリヤを再び遣わした。そして、師として、あの第二の時代に彼について予告し、こう告げていた。「まことに、エリヤはあなたがたの中にいたが、あなたがたは彼を認識しなかった。わたしは再びこの世に戻るが、まことに、あなたがたに告げる。わたしの前にエリヤが現れるであろう。」

師の御言葉は一つ残らず成就するものであるから、第三の時代にエリヤは私の前に現れ、魂たちを目覚めさせ、聖霊の時が扉を開いたことを予感させ、すべての魂に と告げ、目を開き、第二の時代から第三の時代へと閾を越える準備をするよう促したのである。 この第三の時代におけるエリヤの啓示をより理解しやすいものとするため、私は彼に、ある義人、すなわちロケ・ロハスを通じて自らを明らかにさせた。

58. エリヤはあの世から霊的にこの男を啓発し、彼に霊感を与え、彼を力づけ、初めから終わりまで、そのすべての道を導いた。しかし、まことに、あなたがたに告げる。人間の中からロケ・ロハスを選んだのは*彼*ではない。 私が彼を選び、私の慈悲によって整えられたその魂を遣わしたのである。私は彼に、同じく私によって整え

られた肉体を授けた。そして、あなたがたも知っている通り、彼は謙虚であり、その謙虚さと徳によって、父は偉大な業を成し遂げたのである。彼は預言者であり、御言葉の伝達者であり、預言者であり、導き手であった。これらすべてにおいて、彼は民に輝かしい模範を残した。

彼は、モーセが荒野でそうであったように、自らの民から嘲笑され、侮辱され、預言者エリヤのように迫害され、民のために祈り、彼らを擁護するために山々の頂上に身を隠さなければならなかった。

彼は、その師と同様に、祭司や律法学者たちから嘲笑され、非難された。その師と同様に、彼を信じ、従い、彼を取り囲んだのはごくわずかの人々だけだった。彼の手からは癒しの力が溢れ出し、奇跡を起こしたが、それはある者には信仰を呼び起こし、またある者には混乱をもたらした。 ある人々にとっては、彼の口から発せられた預言の言葉が、文字通りその通りに成就した。彼の口からは、傷ついた心に慰めあふれる助言が語られた。

彼の知性は偉大な霊感を受け入れることができ、義人、使徒、預言者たちと同様に恍惚状態に陥ることができた。彼の霊はこの世や肉体から解き放たれ、霊界へと入り、謙虚に主の秘宝庫の扉へと至ることができた。 この高揚を通じて、主の光が差し込む前に、エリヤの霊は最初の証人として自らを現した。

59. 彼を準備させ、彼を照らし、そして出席者たちに対して確信を与えたのは、エリヤの光であった。その光は証しし、こう告げた。「私は預言者エリヤである。タボル山での変容のあの者である。」

彼は裁きや使命、そして死について語り、その場にいた人々は本当に心を揺さぶられた。そして、その動揺は、主への信仰と信頼、そして献身から生じたものだった。 しかし、エリヤは、第三の時代に父の臨在がもたらされるよう、この新しい啓示の道を整え、また、主が人間の仲介を通じてこの世に来られるようその道を整えた後、人々の耳と心、そして全存在を準備し、聖霊の御言葉を注意深く聞き取れるようにした。

エリヤは、眠っている者たちをすべて目覚めさせ、汚れのある者たちをすべて清め、寒さに震える者たちをすべて御霊の炎で包み込み、すべての魂を真理の道へと導く道や小道、大通りを築くために、霊的に人類の中に留まり続けた。なぜなら、エリヤはこの民の間だけで働くのではなく、その闘いにおいて、その御霊は全人類を包み込んでいるからである。 彼がロケ・ロハスを通じて御自身を現さ

れたとき、第三の時代の門が世界に向けて開かれた。なぜなら、今こそ、14万4千の霊が次々と転生してくる時代だからである。

60. ロケ・ロハスは、最初に印を与えられた者であった。私は霊から霊へと彼と語り合い、こう告げた。「まことに、大いなる民衆が私の言葉を求めて集まり、そこから活力を得るであろう。しかし、彼らはまだ未熟であるため、私は声の媒体を通じて、私の言葉と業を明らかにしなければならない。 私は彼らの額に三角形の印を付けなければならない。それは、彼らが14万4千人の一人であり、私がすでに「第二の時代」に別の預言者を通じて予告した者たちの一員であることを、彼らに認識させるためである。彼らはこの時代に、人類の中で困難かつ偉大な使命――すなわち、救済、霊化、そして高揚という使命――を果たすために遣わされるのだ。

61. ロケ・ロハスを通じて、私はあなたがたに、あなたがたが第六の封印の時代にあり、その書物があなたがたのために第六章、第六の部で開かれたことを理解させた。その七つの封印のある書物は、人類の存在の予見された歴史である。なぜなら、人々がそれを経験する前に、神のみが人類の歴史を書き記すことができたからである。 そして、その書は秘密に封印されていたため、その内容を人類に明らかにするためには、ただ一つの手、すなわち聖なる清らかな手、完全な手によってのみ開かれることができた。それが「子羊」の手であり、それは、第二の時代における教えと犠牲の死――崇高な愛の犠牲――を通じて、あなたがたが知った神ご自身の手であった。 彼こそが、その書を開くにふさわしい唯一の存在でした。なぜなら、地上にも、天にも、創造の空間にも、いかなる世界にも、その書を開き、その内容を魂たちに明らかにするにふさわしい霊は、一人も存在しなかったからです。

62. 私はこの啓示を通じて、あなたがたが第六の封印に属していることを伝えた。しかし、あなたがたはそれ以前の五つの封印にも属しており、永遠の世界に入るまで、第七の封印を通過しなければならない。

63. 七つの封印とは、あなたがたの人生であり、あなたがたの歴史であり、あなたがたの闘い、勝利と敗北、苦しみ、戦い、そして最終的には、栄光に満ち、賛美の歌に満ち、主の右の座で、主のすぐそばで行われる霊的な祝宴に満ちた、あなたがたの救いである。しかし、わが民の間には混乱があり、その混乱の後、わが代弁者たちの中に、主として、聖霊として、あなたがたを彼らから解き放つための真の準備が見当たらなかった。

64. エリヤは七つの封印を解くことも、それをあなたがたの国民に植え付けることもなかった。ロケ・ロハスも七つの封印を解くことはなかった。「七つの勝利の書」を解いたのは、私ご自身である。 神のみが、御自身の内なる秘められた事柄、すなわち御自身の秘密を、御自身の子供たちに啓示することができた。確かに、聖霊は私の預言者たちや使徒たちを通して、あなた方に偉大な教訓を啓示した。しかし、あなた方がその内面を覗き見ることができるように、御心を開くことができるのは、あなた方の主のみである。預言者たちは比喩的な意味であなた方に語りかけたが、父はあなた方のために、預言の実現と成就をもたらされたのである。

65. あなたがたはすでに、私が常にあなたがたと共にあり、あなたがたの原始的な武器、すなわち本来の武器に輝きを与えてきたことを悟っている。それは、あなたがたが、あなたがたが存在する前からすでに存在していた悪を打ち負かすためであり、常に善き霊感を受け入れるためであり、あなたがたの祈りと徳によって、常に霊的な光の世界の善き波動を引き寄せるためである—— そうして、夢の中や仕事中、試練や危機的な瞬間に、常に待ち伏せし、快楽や儚い富、偽りの光、学識や栄誉に満ちた悪の道を約束してきた誘惑の罠に決して陥らないようにするためである。それらは今日あるが明日には消え去り、 しかし、大きな苦渋を残すもの。

66. あなたがたはすでに、常に道を切り開き、常にあなたがたの後を追ってきた羊飼いがいたことを悟っているはずだ。それはエリヤである。そして、もしあなたがたが私にこう言うなら、「師よ、この終わりの時代において、あなたの足跡をたどるための偉大な模範が欠けていました」と。それに対し、師はこう答えるだろう。「ロケ・ロハスを良き模範とせよ！」 彼はエリヤの写しであり、羊飼いとしてあなた方を見守り、その生涯を私の奉仕に捧げた。そして彼の中には、清らかさ、高潔さ、そして愛があった。それは、私が高き彼方から彼に授けた「 」という使命に、彼が忠実であり続けたからである。

67. ロケ・ロハスが律法を制定したわけでも、人類に授けたわけでもない。彼はただ父の代弁者に過ぎず、その知性と口を通じて、父の律法が言葉となって人々の心に届くようにしたのだ。 声の伝達者として、彼は私の腕の中に身を委ね、私からインスピレーションを受け、恍惚の状態に入ることができた。その際、エリアスは彼の仲介を通じて語り、第三の時代に主の食卓に着いた最初の参加者たちに、最初のパン、最初のワインの一滴、そして最初の食事を授けたのである。

彼は、あなたがたがつまずかないよう、真理の道へと導き、また、あなたがたが狂信や偶像崇拝に陥らないよう注意を払いました——また、霊性主義を唯物論的な科学と混同しないよう注意を払った。それらの科学は確かに「霊」について語るが、私の子供たちすべて——宗派や教会に属する者たちを除いて——に慈悲の実践を教え、純粋な言葉を授けるわけではないからだ。

預言者として、彼はわたしを見ることができ、彼の言葉を聞く者たちに、彼らの信仰が強められるよう、真実な証しをすることができた。そして、彼の証しは常に真実であった。

68. しかし、ロケ・ロハスの後にも、あなた方には他の模範がいました——完全なものではなかったとしても、あなた方の心に種を残してくれるような人々です。先を行く兄弟たちの良き模範に、励まされなさい。しかし、完全な裁判官のような厳しい目で見なしてはならない。そうすれば、あなたがたが彼らに求める完全さを見つけることはできないだろう。だが、兄弟姉妹の誰かに誠実さを求めれば、それを見つけるだろう——勇気や熱意、自己犠牲、そして献身もまた発見するだろう。

69. あらゆる美徳のうち、あなたがたは兄弟姉妹の中に、ほんの一粒、微かな一片しか見出せないだろう。しかし、それはそれでも何かである。なぜなら、それは私が弟子たちの心に蒔く種だからだ。あなたがたは皆、そのような弟子たちだからである。しかし、もし完全さを求めたいのなら、私の言葉の中にそれを求めなさい。私の言葉の中には「師の中の師」がおられ、その方は誇りなくこう告げられる。「彼は真に完全である！」と。

70. 1866年以来、私があなた方に与えてきた啓示は、まもなく終わりを迎える。しかし、もし師がもはや人間の知性を通じて語らなくなり、この啓示が私にとってもあなた方にとっても終わりを告げたとき——その時、エリヤは何をなすのだろうか？

71. 私はすでに、あなたがたが人間の仲介を通じて私を受け入れてきた後、霊から霊へと私を受け入れるようになる、と告げた。果たして、私の別れの翌日には、あなたがたの対話はいきなり完全なものとなるだろうか。イスラエルの民は、私の別れの翌日からすぐに、私の神聖な霊との偉大な霊感や完全な対話を持ち始めるだろうか。今ここで、私はあなたがたに告げる。いいえ、そうはならない。私はすでに、これらの説教の中で、瞑想と準備の期間について告げ、命じてきた。なぜなら、私はあらかじめ断言しておくが、その熟考と準備の期間において、エリヤはあなたがたと共にいるだろう。しかし、それは霊的な形でのことである。預言者たちの霊的な視

線がそれを証しし、あなたがたの心は彼の臨在、彼の温かさ、そして彼の預言と励ましを感じるだろう。

72. わたしの民が準備を整えたとき、主は「雲」、すなわち霊的かつ普遍的な雲に乗って来られ、真に準備の整った者一人ひとりと対話を行い、準備ができていない者をその準備へと導き、また、これらの教えから遠く離れている者たちを目覚めさせるであろう。 その時、私がアクセスできるのはあなた方だけにとどまらず、この啓発された民だけにとどまらず、私の霊的な対話のために開かれた扉を見つけるでしょう。まことに、地球上の至る所で、人々はすでに私を待ち望んでいるのです。

私があなたがたに告げたように、すべての人がその準備を整えているわけではない。しかし、忠実な者たち、不屈の者たち、多くの苦難を耐え抜き回心した者たち、そしてその準備を保ち続けた者たち——そこでは、私を待ち望んでいる。私は彼らを見ており、決して彼らを失望させることはない。私は御霊と真理をもって、彼らと共にいる。

73. 世界中で、霊から霊へと啓示を受ける幻視者や預言者たちが現れるだろう。さまざまな年齢や国籍の男女が、偉大な霊感について語るようになる。その時はすでに近づいている、おお、民よ。それゆえ、あなたがたが誘惑や混乱に陥らないよう、わたしはあなたがたを目覚めさせ、訓練し、教え導いているのだ。なぜなら、来るべき時代には、この人類の間に大きな迷いが生じるからである。

74. わが王国である霊化は、北から吹く風がすべてをなぎ倒し、すべての木を曲げ、すべての森を震わせ、扉を叩き、あらゆる存在の顔を打ちつけるように、大きな歩みで近づいている。同様に、スピリチュアリズムもまた、光と愛の嵐としてやって来るだろう——すべてを巻き込み、なぎ倒す嵐として。 しかし、それは人々の心の中で、あらゆる制度の中心で、すべての 国家とあらゆる人種の懐の中で成し遂げられるだろう。それは私の王国であり、聖霊の支配であり、霊的高揚と平和と愛の支配である。

75. まことに、そのとき、あなたがたは、人類が人から人へ、心から心へと目覚め、聖霊の神殿、聖所、真の教会へと入っていくのを目撃することになるだろう。それは普遍的な業であり、神の律法、すなわち正義と愛の律法である。 しかし、人々がスピリチュアリズムによって混乱に陥っていく様子を、あなたがたは目撃することになるだろう——彼らがそれを志そうと、追い求めようと、あるいはそれを見つけたことを喜ぼうとも。

人々が霊的な混乱や、激しい狂信に陥っていくのを目にすることになるだろう。なぜなら、ある教えが真に人の心に根を下ろすためには、まずそれ自体が、人類にとって狂信や偶像崇拝の温床とならなければならないからだ。

第三の時代において、人々の霊的な狂信は極めて大きなものとなるでしょう。人々は、公的生活そのものを軽んじ、自らの肉体を軽んじ、多くの地上の法律を無視してでも、ただひたすらに霊的なものに身を捧げようとするほど、その狂信に身を委ねようとするでしょう――魂の存在のためだけに考え、夢を見、生き、地上のことを忘れるために。しかし、その時こそ、物質に内在する法則――それらは精神的な世界において正義の原則を体現している――が、彼らを目覚めさせ、彼らを苦しめ、彼らを叱責し、彼らを正すという役割を果たすことになるだろう。

76. この業の弟子たちであるあなたがたもまた、14万4千人の印を刻まれた者たちとして、また、あらゆる時代を通じて父から教えられてきた霊的イスラエルとして、その偉大な霊的な知恵の書と、平和の旗印、正義の武器、啓示、預言、直感、解釈、そして私の御言葉の研究という賜物をもって、人類に向かって「これは父の御業である！」と告げ知らせるという大きな責務を負うことになる。これこそが真のスピリチュアリズムであり、これこそがそれを実践する正しい方法である！これこそが、父が聖霊として教えられた崇拝であり、礼拝である！」

77. そこでは、あなた方の畑は果てしなく広がり、あなた方を待ち受ける仕事がある。そこでは、昼に夜はなく、仕事には疲労がなく、戦いには死がない。そこでは、あなた方の魂のための祝宴、愛と救いの祝宴、闘いの祝宴があるのだ！

あなたがたの働きが大きければ大きいほど、喜びも大きくなり、あなたがたはこの世から次の世へと移り行く際、魂の中に、使命を果たした成果を携えていくことになる。それは、あなたがたが主の忠実な者たち――平和と愛を蒔くためだけにこの世にやって来た魂たち――に属していたことの、最良の証拠となるのだ。

高き来世から、あなた方はこの世の闘いを見下ろすことになるでしょう。そこから、光と愛の種が至る所に浸透し、すべてを変容させ、人類のあらゆる原則をその根幹から揺るがすのを見届けるでしょう。そして、あなた方は、父の御心に従い、この世に戻るよう命じられるのを、従順かつ服従の心で待ち望むことになるのです。

まだ仕事を終えていない者、その業を完遂していない者は、再び戻らなければならないでしょう。また、他の者たちは、他の世界へ

、他の魂の結びつきの懐へと向かわなければならないでしょう。しかし、これを悲しむ必要はありません――神の懐における永遠の安息などと考えてはなりません。

78. 休息を考えるのは、弱さゆえに「肉体」である。 しかし、魂にとって休息は最悪の罰となる。なぜなら、魂にとって最高の報いは、活動、仕事、闘いだからである。それによって魂は、決して休まず、決して眠らず、決して疲れることのない神を模範として、父を賛美するのだ。完全に発展している魂には、疲労もなければ、夜も、飢えも、渇きもない。

79. 死が、高き来世においてあなたの魂を目覚めさせるだけで十分であり、その瞬間から、魂は混乱することなくすべてを理解し、私にこう言うだろう。「父よ、今日、私の翼は無限を包み込むために開き、今日、私はあなたが常に私に与えてくださった光によって、すべてを理解することができます。 私の役割、私の使命を示してください。」と私に告げるのです。今日、自分たちを取るに足らないと感じているあなたがたが、他の世界へと旅立ち、そこで宇宙の美しい業に触発された偉大な魂、預言者、師として現れることになるかもしれないことを、果たして知っているでしょうか？

80. あなた方はそれを知らないが、父ははっきりとこう告げている。あなた方の日々の働きは死をもって終わるわけではない、霊的に私の元へたどり着いたとしても、あなた方の道は終わらない、あなた方の前にはまだ見たり体験したりすべきことが多くあり、学ぶべきことも、成すべきこともたくさんあるのだ、と。

81. あなたがたは地上で、人間の知性を通じてこのわたしの言葉を聞くが、あなたがたよりも高い生命段階にいる者たち、すなわち他の魂たちもまた、同様にそれを聞き取っている。それは、さらに高い生命段階に居を構える他の霊的存在たちが、そこでそれを聞くのと同じである。なぜなら、第三の時代において父が光の霊たちと共に繰り広げるこの「協奏曲」 は、普遍的なものだからである。私はこう述べた。私の光線は普遍的であり、私の言葉と（そこに含まれる）霊の本質も同様に普遍的であり、霊たちが到達した最も高い段階においてさえ、彼らは私を聞き取っている。あなたがたは現在、この啓示において、人間によるものという最も不完全な方法で私を聞いている。

82. それゆえ、私は今、あなたがたをより高い啓示に向けて準備させている。そうすれば、あなたがたが霊界に入り、この地球を完全に去ったとき、新たな生命の段階と一体となり、父があなたがた

の霊と共に奏でる「協奏曲」を聴くことができるようになるためである。

今日、あなたがたはまだ物質界に身を置いている。この言葉によって、あなたがたの心と霊を癒やしなさい。そして、地上ではあなたがたに属していた者たち――あなたがたが今もなお父、夫、妻、兄弟、子供、親族、あるいは友人と呼んでいる者たち――は、別の生命段階にあり、同じ言葉を聞いている。 しかし、彼らにとってその言葉の意味、その本質は異なるものであり、たとえ同じ喜び、同じ慰め、同じ励まし、そして同じ糧を享受しているとしても。

83. このコンサートは――と師は問う――実に素晴らしいものではないでしょうか？ あなたがたがここで霊的な糧として受け取っているものが、他の天体――あなたがたが愛する存在たちが暮らす他の世界――においても、喜びと霊的な命の源となっているという考えに、あなたがたの魂は喜び、歓びを感じないだろうか。あなたがたがかつて知っていた存在たち、スピリチュアリズムを通じて、あなたたちにとってこれほど近く、同時にこれほど遠くにある存在たちのことである。

84. そうして、わが弟子たちよ、私は光に満ちてあなた方を整え、慰め、私の業が示す果てしない地平線を見させてあげる。それは、あなた方がこの希望と光のメッセージを全人類に伝え、人間生活と霊的生活の真の意味を人々に悟らせるためである。

しかし、私の教えを言葉だけで伝えるのではなく、行いを通じて伝えなさい。なぜなら、私はあなたがたが私の教えの実践に全身全霊を捧げ、それによって「世には世のものを、神には神のものを与える」ことを知る、真のスピリチュアリストとなることを望んでいるからです。 あなたがたの肉体に必要なものは、正義と慈悲と愛をもって与えられ、あなたがたの魂に必要なものも、同様に愛と慈悲をもって与えられるべきである。あなたがたは、この世の義務に充てる時間と、霊的な修行、霊的な行い、そしてそれらの発展に充てる時間を、それぞれ持つべきである。

85. このようにして、狂信、偶像崇拝、物質主義、さらには迷信のあらゆる兆候や痕跡が、あなたがたの 魂から剥がれ落ち、あなたがたの心から取り除かれるでしょう。 そして、この清らかさ、この誠実さ、この素朴さと高潔さをもってスピリチュアリズムを実践することで、あなたがたは、第三の時代に父があなたがたに期待する崇拝のあり方について、人類に真の模範を示すことになるでしょう。

86. 強くあれ——単にこの業の弟子となるためだけでなく、癒しの力に満ち、賜物に溢れた、この業の師となるために。あなた方の胸の中、すなわち私があなた方一人ひとりの心に置いたその目に見えない箱の中に、これらすべての力を発見しなさい。

87. 自分の内面へと立ち返りなさい。そうすれば、そこには聖所、すなわち契約の箱が見つかるでしょう。あなたは、恵みと祝福の泉、源泉を発見することになるでしょう。

救いようのない魂など存在せず、誰一人として相続権を剥奪された者などいない。私の神聖な慈悲の前では、全宇宙において、自らを貧しいと称したり、父に見捨てられたり、主の地から追放されたりしたと言える者は、ただ一人もいない。

自分が見捨てられたと感じる者は、自分の中に恵みの賜物を見出せていないか、あるいは今まさに罪の中に迷い込んでいたり、目が曇っていたり、あるいは自分に値しないと感じているからなのです。*あなたがたは*、常に自分の中にこれらの恵みの賜物を見出さなければならない。そうすれば、私の臨在が決して欠けることはなく、「パン」、「癒しの香油」、「武器」、「鍵」、そしてあなたがたに必要なすべてのものが、常に自分の中に備わっていることを体験するだろう。なぜなら、あなたがたは私の王国と私の栄光の相続人だからである。

88. これが、この恵みの日に、私があなたがたの良心に書き記す私の言葉である。

89. 目を覚まし、祈りなさい、おお、民よ。なぜなら、回復の種、すなわち贖いの種が、あなたがたや人類のすぐそばにあるのと同様に、雑草が撒く種もまた、わが深く愛する子供たちの心の中で大いに芽吹いているからである！

90. 目を覚まし、祈りなさい。鎌が近づいているからだ！その鎌は人の手にあるのではない——それは私の手にあるのだ。

91. わたしは、人の手が破壊、死、そして戦争をもたらすことを許すが、それはある一定の限界までである。人の不義、堕落、盲目さ、そして権力への欲望は、この限界を超えることはできない。

その時、わたしの鎌がやって来て、わたしの御心によって定められたものを、知恵をもって刈り取るだろう。なぜなら、*わたしの*鎌には、命と愛、そして真の正義が宿っているからだ。しかし、民よ、目を覚まし、祈りなさい！

92. 私は、あなたがたをそのように見たいと願っている。そして、あなたがたの祈りの力の中に、私は赦す理由も見出した。あなたがたのとりなしによって、私は心動かされ、私の正義を差し控える

ことになるだろう。あなたがたの嘆願の中に、私は泣き悲しむ者たちに与えるための癒しの薬を見出すだろう。あなたがたの魂の高揚の中に、私は同様に、人間が引き起こす破壊を食い止める理由を見出すだろう。

93. それゆえ、おおイスラエルよ、あなたがたが執り成し、祈り、赦し、愛することを、わたしは望む！

わが平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 346

1. わたしは、あなたがたの心を和らげ、あなたがたの霊にわたしの平安を感じさせるために、あなたがたにこの言葉を授ける。

2. わたしは光であり、命である。わたしのもとに来る者は、この恵みの一部を受ける。父として、あなたがたが霊的な恵みを失い、自由意志によって物質主義的な傾向を育み、それによって苦痛を招くとき、わたしは苦しむ。あなたがたが苦しみ、泣くのは、あなたがた自身の不敬虔のせいである。 しかし、私はあなたがたから闇を取り除き、あなたがたの道の茨や岩を取り除いて、あなたがたが私の道を求め、過去を忘れ、ただ未来だけを見据えることができるようにする。

3. わたしは常にあなたがたと共にあり、良き助言者であり、忠実な伴侶となり、あなたがたが誘惑に陥らないよう、あなたがたの良心を通して語りかける。

4. あなたがたは、父が育ててきた植物のようなものです。私は良き園丁としてあなたがたの中にあり、イラクサを引き抜き、食い荒らす虫を取り除きます。私はあなたがたの魂を、私と調和するように育てます。

5. あなたがたは難破した人々であり、私はあなたがたが荒れ狂う海の波に飲み込まれて滅びないよう、救命ボートを示しています。私がペトロに言ったように、水の上を歩いてください。しかし、彼のように「先生、助けてください。私たちは沈みそうです」などと言ってはなりません。 もし信仰と愛が一つとなって一つの力を形成する時、あなたがたは魂の中に大きな力を感じるだろう。そして、あなたがたの父の力が支えてくれるので、あなたがたの肉体さえも水の上を歩くことができるようになる。しかし、決して主を試そうなどと考えてはならない。

6. その行いによって父に喜ばれる者は幸いである。なぜなら、私はその人が捧げたものの何倍ものものを与えることによって、黙ってその人に報いるからである。

7. 苦しむ者、目の見えない者、迷っている者の数は多い。しかし、父である私は、彼らに私の憐れみを授けるために、彼らに近づいている。

8. この啓示は1950年まであなたがたとともにあり、あなたがたの心に刻み続けられるであろう。しかし、その時が来るまで、わたしがあなたがたを導き、わたしに近づけるようにする。第三の時代が到来したから、わたしはあなたがたに教えを授けたのである。そし

てその時代において、あなたがたは天のラッパの声を聞き、それがあなたがたの魂を目覚めさせたのである。

あなたがたの中には、「父よ、なぜ私は再びこの地上に生まれてきたのですか」と私に尋ねた者もいた。そして父はこう答える。「あなたがたの魂が失われた清らかさを取り戻すためである。」しかし、、まことに、私はあなたがたに言う。贖罪に至った者は幸いである。その者は、清められ、その使命を果たしたゆえに、私の御国に属するからである。

9. あなたがたは、選民であるイスラエルの民の一部であり、私はあなたがたに光の衣を与えた。それは、明日、あなたがたが教師として、人類の導き手として旅立つためである。この時代、私はすべての子供たちを呼び集めている。そして、私と共にあり、私を愛する者は皆、戦い、働きかけるために立ち上がるだろう。

10. 誘惑は依然としてあなた方を包み込んでいますが、私が予告した時が来れば、その誘惑は封じ込められ、あなた方の道には、あなた方を導く光だけが残るようになるでしょう。

11. あなたがたは今、闘いと労働の時代にあり、自らを清め、過去を清算すべき時にある。なぜなら、私がその遺産を託したのは、あなたがたの「肉体」ではなく、私から生まれたあなたがたの魂だからである。

12. 私はその魂を清め、浄化しなければならない。そうして初めて、魂は私のもとへ戻り、永遠に私の神聖な御霊と融合し、私の天の御国を喜び楽しむことができるのだ。

13. 愛する子らよ、わずかな数でここに集まったあなたがたに、まことに、わたしは告げる。わたしの鋭い視線は、今こそわたしの臨在の時であると心の中で感じている、わたしの選ばれた者たちを至る所で見出している。 彼らは、あなたがたのように私の言葉を耳で聞いたわけではありません。しかし、彼らの霊の中では、私が再び人類の間にいること、霊的に「雲の上」から来たことを告げる声を聞き取っているのです。ある者には、霊の目をもって私を見ることを許し、ある者には直感の力を通じて、残りの者たちには、私の愛を強く感じさせ、私の霊の臨在を悟らせるのです。

14. 今、私は人々の心の扉を叩いている。 準備の整った者たちに出会う一方で、様々な宗派や宗教に固執し、一時的に道から迷い出てしまったために眠り込んでいる者たちもいる。しかし、今や、私の大きな鐘が彼らに呼びかけを響かせる時が来た。そうして、すべての者が私のもとに来、魂の復活を受け、一つとなり、地上で私の平安を感じ、約束の地へと至ることができるように。

たとえ話

15. 美徳と力に満ちた偉大な主が、高い玉座に就いておられた。その支配の領域には、大勢の人々、数百万、いや数千万もの生き物たちが主を取り囲んでいた。しかし、、この群衆の中から誰もその支配者に近づくことはできず、遠くから彼を見るだけだった。それでも、彼らの心の中では、もっと近づき、主のすぐそばにいたいと切望していた。

すると突然、扉が開き、そこから血を流す子羊と、「ここに光がある。ここには、入りたいと願う者すべて――心に美徳を宿す者すべて――のための開かれた扉がある。さあ、ここへおいで！」まばゆい光が見え、群衆は歓喜に満ちてその扉へと向かった。ある者たちはたどり着き、その建物の中に入った。しかし、道中で茨の茂みにぶつかり、それ以上進むことができず、全員が行き着くことはできなかった。また、他の者たちは、その扉をくぐるのを阻む大きな障壁にぶつかった。

しかし、その支配者、すなわち全能の主は、高みから群衆を見下ろし、こう告げられた。「入りなさい、入りなさい。子羊が、あなたがた全員が私の王国へ至る道を示すために、その最も清らかな血を流してくれたのだから。」

16. 祝福された子供たちよ。私は、私の崇高な愛をもって、あなたがたの魂に自由を与え、罪の鎖からあなたがたを解き放った。私の最も尊い血によって、私はあなたがたの魂が報いを勝ち取り、私の王国に到達するまで高みへと昇りつめることができるよう、その機会を与えたのである。

たとえ話の終わり

17. 民よ、わたしの言うことがわかるか。その支配者こそ、あなたがたの永遠の父、偉大なるエホバである。開かれるその扉とは、あなたがたの師であるイエス、すなわち、あなたがたを救うためにこの世に生まれ、あなたがたの魂に光と復活を与えるために、血の一滴まで流し尽くした、犠牲となった小羊のことである。

18. 今の時代、わたしは再びあなたがたに肉体という器を託した。それは、あなたがたが過ちを償い、罪とこの世のあらゆる誘惑から背を向け、段階を追って山を登り、そこで両手を広げてあなたがたを待ち受けるわたしの元へたどり着くためである。

19. わたしは、あなたがたが罪から遠ざかり、誘惑を退けることができるよう、祈りの中で高みへと昇る方法を教えた。なぜなら、

こう記されているからだ。「もはや魂の死はない。わたしは道であり、命であるから」。そして、わたしがあなたがたにこう思い起こさせる時が来るだろう。「おお、死よ、お前の力はどこにあるのか？ 墓よ、お前の勝利はどこにあるのか？」と。真実、罪こそが死の原因であり、この時代、私は聖霊の光によって罪を取り除いているのだ。

20. やがて、あなたがたが人類の間に少しずつ蒔いてきたものの収穫を目にする時が来る。あなたがたが畑を耕し、その良き実によって人類が養われるように、わたしはあなたがたの手の中に農具を託した。

21. わたしは、わたしの言葉という繊細な彫刻刀であなたがたの心を磨き、聖霊の光であなたがたを照らした。 わたしは最高の師であり、あなたがたに教えを与え、あなたがたを赦し、真理の道へと導くために来た。また、最高の医者としても、あなたがたの魂をその病から癒やし、その痛みから解放するために、あなたがたの間におる。

22. わたしがあなたがたに教えを与えるのは、あなたがたがそれを実践し、心に愛と清らかさを抱くためである。たとえ誘惑があなたがたに迫っても、あなたがたの中にその居場所を見出せないようにするためである。なぜなら、わたしが自分の光と愛によってあなたがたを強くし、あらゆる弱さを退けさせるからである。

23. 祝福された民よ。戦争にまみれたこの世界が、いかに苦難の杯を飲み干しているかを見よ。しかし、私はあなたをそのすべてから守ったのだ。これを偶然のせいにしてはならない、祝福された民よ。あなたは恵まれた民であり、私の言葉によって自らを備え、それを世界に示すためにある。これこそが私の御心である。

24. 選民イスラエルよ、あなたはわたしの器である。わたしは、人類の闇を追い払うために、わたしの力と光をあなたの手の中に託した。

25. あなたがたの従順と使命の遂行によって、あなたがたは霊的に変容し、霊の軍勢と一つになったと感じるようになる。そうして、あの高き来世においても、引き続きわたしの僕であり続け、二度とわたしから離れることがないようにするためである。

26. わたしは、あなたがたが自らを新たにし、一歩一歩山を登っていくことができるよう、この時をあなたがたの備えのために託した。

27. まことに、あなたがたに告げる。わたしの愛と聖霊の光は、全人類に注がれている。しかし、わたしの使徒ヨハネが「第二の時

代」に予見したように、戦争が諸国を襲った。果たして、わたしがあなたがたのためにこれらの苦難を用意したのだろうか。わたしが死そのものだろうか。いいえ、わが子らよ、わたしは命であり、すべてのわが子らに命を与えたのである。

28. 私があなたがたの魂に託したあらゆる転生において、私は常に、真の生活への呼びかけをあなたがたに送ってきた。しかし、この光は、選ばれた民イスラエルであるあなただけのためのものではない。なぜなら、あなたは全人類の代表者だからである。

29. わたしはあなたがたの霊に語りかけ、あなたがたの心の扉を叩き、良心を通じてわたしの存在を感じさせる。それは、あなたがたの霊に課せられた責任を自覚させるためである。

30. わたしは、ただ一つの道をあなたがたに示してきた。なぜなら、わたしは唯一の神であり、唯一の律法であり、魂がわたしの御心を行うことができるよう、いつの時代も、ただ一つの教えを伝えてきたからである。

31. 私は愛に満ちた言葉をもって、あなたがたが自らの使命を果たすことができなかったことを悟らせています。なぜなら、私は人類が迷い、その盲目さと物質主義によって、人間自身が作り出した誤った道へと導かれてしまったのを見ているからです。それはまるで、人間が魂に暗い目隠しを被り、私の恵みから自らを遠ざけてしまったかのようです。

32. わが民よ、人類がいかに多くの誤りに囚われているかを悟りなさい。無知ゆえに、彼らは物質主義の中でわたしを求め、その心は偽りの神々を崇拝している。それゆえ、彼らは霊的にわたしの臨在を感じ取ることができなかったのだ。 わが子らは美しい言葉に喜びを見出し、光と真理の道を歩んでいると信じているが、この時代において、無限の彼方からその光を送り出す、救いの星としてのわが御霊を認識してはいない。

33. わたしはあなたがたをこの世から選び出した。あなたがたは教養もなく取るに足らない者たちではあるが、聖霊の光によって世界にわたしの真理を説き、この人類がもはや誤りに陥ることなく、その霊が恵みの命を持ち、心の中でわたしを感じ、霊性を備えることができるように、あなたがたを通してわたしの言葉を表したのだ。

34. わたしは、あなたがたをわたしの恵みの所有者とするために選び、また、あなたがたがわたしを理解したならば、直ちに道を歩み出し、同胞を破滅から守り、悪に満ちた海で難破した者たちを救

い出し、誘惑の奴隷となっている者たちを解放するために、あなたがたを選んだのである。

35. 第三の時代において、私はすべての者に等しく呼びかけを送り、私の羊たちが皆、羊小屋へと戻ってくるようにする。

36. わたしは魂を闇から救い出し、その眠りから目覚めさせる。なぜなら、わたしはあなた方を創造し、深く愛しているからであり、第二の時代には、人類への愛ゆえに、あなた方の救いのためにわたしの血を流したからである。

37. あなたがたが備えを整え、わたしの神聖な大義の戦士となるよう、わたしはあなたがたに多くの霊的な恵みを与えた。あなたがたがわたしの御心を理解できるよう、啓示と直感という形で、わたしのメッセージを託したのだ。

38. 愛するイスラエルよ、私はあなたに告げた。やがて、*偽りの*イエスを招き入れるために、邪悪な代弁者たちが立ち上がり、物質的な野望に駆られて、自分たちを通して主が語っておられると偽り、人々を欺く時が来るのだ。 偽りの「指導者」や偽りの「預言者」、偽りの「戦士」たちが現れ、その言葉と物質的な野心によって、あなた方を光と真理の道から逸らそうとするだろう。

39. わたしはあなたがたに警告してきた。毎年、こう言ってきたことを思い出してほしい。「愛する民よ、備えよ。わたしの臨在を活かし、心の中にわたしの言葉を蓄えよ。そうすれば、それが明日、あなたがたを励ますものとなり、こうして時が訪れる際に、あなたがたが準備不足で迎えることのないように。」

40. わたしは、あなたがたが気を取り直し、声の担い手たちの模範となるよう備えるために、この最後の三年間をあなたがたに託した。そうすれば、彼らがあなたがたを、神の師の真の兵士であり、真の弟子であると認めるようになるためである。しかし、あなたがたのうちの多くは、この恵みを妨げ、それに気づこうとしなかった。

わたしはイスラエルにこう言った。「人類が、いかに闇や狂信、偶像崇拝に包まれているかを見よ。それゆえ、彼らの心には権力への渇望、貪欲、傲慢が芽生え、彼らを驕らせている。これらすべては、わたしの鋭い眼差しには忌まわしいものである！」 しかし、私はあなた方を啓発し、手を取り、あなたがたが世界に向けて光の道を示すために旅立つことができるようにしたのだ。

41. すでに第二の時代において、私はあなたがたに、これから起こる試練を告げるために、私の預言を与えた。私は、大地が揺れ動

き、自然の力が解き放たれ、疫病、嘆き、そして死が各地を荒廃させ、戦争の知らせが人々の心を恐怖で満たすだろう、と語った。

42. 私は、人類の前に光として現れる者である――私は、魂に指針を与え、私の力と愛を魂に託し、魂が肉体を支配し、その肉体が私の意志に従うようにする者である。

43. 私の正義が人類の好戦的な衝動を食い止め、人々は互いに愛し合うようになる。利己主義も、独善も、理解の欠如も、もはや存在しなくなる。 すべての者は神の法に従って行動し、すべての者は創造主の意志に従うだろう。地上には平和が訪れ、諸国はもはや互いに戦争を仕掛け合うことはなくなる。科学さえも、わたしを認めるようになるだろう。すべての者が へと歩み出し、同じ道を求め、同じ目標を掲げ、この世には道徳、慈悲、そして真の調和がもたらされるだろう。

44. 愛する民よ、道を清め、歩けるようにするのは、あなたたちである。なぜなら、大勢の人々があなたたちの後を追ってやって来るからであり、その大群衆を、わたしはわたしの言葉をもって備えさせるからである。

45. イスラエルよ、それはどのような時代になるのか。あなたは知らないが、私はあなたに告げる。人類が私の平和と愛を受け入れ、私の神聖な憐れみによって守られ続けるために、戦いに立ち上がれ。

46. あなたがたが、人間の知性を通じて私の言葉を受け取ることができる期間は、ごく短い。 しかし、ある者たちは――その知性に応じて――こう言う。「父は愛そのものであるのだから、どうして私たちを見捨てることができるだろうか？愛である父には、私たちに近く、極めて近くいてくださる義務がある――今日、私たちが危険にさらされ、まだ父の教えを理解しておらず、父が与えてくださった多くのものをまだ自分の中に蓄えておらず、まだ弱いこの時に。」 神は愛に満ちた神であり、時代の流れの無慈悲さに私たちを委ねることはできない。神は至高の愛であり、私たちが神の律法を破ったとしても、私たちを叱責することはできない。愛そのものである神は、私たちが神の至高の御心に従わないとしても、私たちを問責することはできない。 御言葉は、その律法が守られていない場所からだけ取り去られるでしょう――特定の場所では、御光と御言葉が取り除かれるでしょう。しかし、私たちが積極的に働きかける場所においては、主は私たちと共にいてくださるのです。」

しかし、師はあなたがたにこう言われます。「私は、人間の理解の欠如が、私の真の言葉に対する障害となることを知っていました

。しかし、聖霊の神殿においては、あらゆる宗派、あらゆる宗教共同体の考えが一つに統合されるでしょう。」

47. 師は長い間、あなたがたと共にいた。私はあなたがたを備えさせ、私の光をもってあなたがたを私の選ばれた者として印をつけ、あなたがたが堅固に、かつ従順に生きるよう、私の平和の口づけを与えた。自ら備えを済ませた者には、父の奥義に深く入り込むことが許され、それによって私の業が秘密ではないことを悟るようになる。

48. この世で孤独だと感じるな。私が日々、私の言葉を通してあなたがたにもたらす慈悲と平和と慰めを、しっかりと受け取れ。私は、あなたがたが明日、自らを導く術を身につけ、私の思考の波動を受け取れるようになることを望んでいる。 明日、あなたがたがもはや声の媒体を通して私を聞くことができなくなったとき、 私の教えを実践し、霊的に私の光を受け取ることを学ぶことが必要です。私の霊的世界は、あらゆる霊的な啓示のたびに、あなたがたと共にあります。

49. あなたがたが準備を整えれば、人類にこの光と平和のメッセージを伝えることを妨げるような障害も距離も、もはや存在しなくなるでしょう。 あなたがたは、同胞たちにとって謙虚さと柔和さの模範となり、わたしがあなたがたを通して彼らに命と励ましを与えるであろう。わたしの畑で働きながら年老いた者たち、すなわち、若き日に世の放蕩から背を向けた者たちよ、あなたがたは永遠の喜びを享受するであろう。 しかし、この世で報いを求めたり、称賛されることを期待したりしてはならない。そのような虚栄心は、私があなたがたの魂に託した恵みを奪ってしまうからだ。人類の理想が善であれ悪であれ、それを尊重せよ。しかし、あなたがたは良心を通して私の声にのみ耳を傾け、団結し、謙虚であり、人々の尊敬に値する者となるようにしなさい。たとえ話

50. ある地域には、多くの困窮者がいました。しかし、莫大な富と財産を持つある紳士が、彼らを呼び寄せ、自分たちが欠いているものを与える日を告げました。

その時が来ると、困窮している人々はあの主のもとへやって来て、こう言った。「主よ、私たちはあなたの呼びかけに応じて急いで参りました。今、私たちはあなたの御前にいます。」

その主の眼差しは、困窮者たちの裸身と貧しさを前にして、憐れみと慈愛に満ちていた。そして主は、彼らに与える愛の贈り物を送るために、彼らの住まいがどこにあるのかと尋ねた。すると彼らは

こう答えた。「主よ、私たちには住まいも宿もありません。暗い夜が私たちを襲う場所こそが、私たちの憩いの場なのです。」
そこで、その主人はそれぞれに自分の富から惜しみなく分け与え、こう言われました。「もしこの愛の贈り物が足りなくなったら、必要な時にまた来なさい。さあ、その道を歩み続けなさい。」
51. 同様に、孤児となり、夫を亡くした未亡人もその主人の前にやって来た。すると、主人は彼女たちの手に愛の贈り物を置いた。若者たちや処女たちが、嘆き悲しむ泣き声を上げ、安らぎも慰めも得られずにやって来た。すべてを見通していたその主人は、彼らにも同様に自分の富を分け与え、自分のマントで彼らの裸身を覆ってやった。力が尽き果てた老人たちがやって来ると、彼は彼らに励ましと安らぎ、そして安寧を与えた。
52. ある者もまたある者も、その町を去っていった。しかし、彼らに多くのものを与えたその主は、、再びその人々の群れに会いたいと願う日が来た。彼らがその富をうまく活用できたのか、それとも再び貧困に陥ってしまったのかを見極めるためであった。しかし、その主は、彼らが再び苦痛に包まれているのを見た。
たとえ話の終わり

53. 師はあなたがたに問う。「私があなたがたに語ったのは、誰のことか？」そして、あなたがたは私に答える。「師よ、私たち自身のことです。」
54. 1950年以降、あなたがたがもはやこの形でわたしを聞くことができなくなると、人類には大きな試練が訪れるだろう。しかし、愛する民よ、わたしの力と、愛と、慈悲を信頼しなさい。あなたがたは、周囲の人々の模範となりなさい。そうすれば、わたしはあなたがたを媒介として、彼らを破滅から救うことができるのだ。
55. 人類は苦難の杯を飲み干しており、その嘆きはわたしのもとへ届く。しかし、愛と慈悲として、わたしは常に人々のそばにいてきた。わたしは父であるが、人類の嘆きに直面して、何をすべきか。それは、いつの時代もそうであったように、わたしの愛を注ぎ出し、魂たちを励ますことである。
56. 弱い者は、自分の魂に課せられた使命による苦しみよりも、この世から受けるものによって、より大きな苦しみを味わうことになる。あなた方を斜め目で見つめ、あなたがたが弱く、わたしの律法を破っているのを見る者たちは、あなた方を中傷し、わたしの戒めを十分に果たせていないことを指摘する者たちでもあるだろう。

57. わたしはたびたび、あなたがたを迷わせようと待ち伏せている誘惑について警告してきた。しかし、あなたがたは戦いの場において不屈の戦士でなければならず、試練においても、また悪意の罠においても、弱さを示してはならない。

58. わたしの知恵を受け入れるために真に備えを固めたわたしの民は、その数はわずかである。

59. わたしは、謙虚で、慎み深く、知的に未熟な者たちを通して自らを現し、世界にわたしの力と知恵の証拠を示してきた。

60. 私は、さまざまな知性の器を通じて、あなたがたを正し、私の愛、私の光、私の慈悲を与え、徳を教えるために、私の言葉をあなたがたに授けた。それは、聞き手の群れが恵みの命へとよみがえるためである。

61. 人は私の真理を渇望しているが、その心には憎しみ、雑草、悪意が潜んでおり、様々な世界観が、 異なる教えや別の律法によって人を惑わそうとしてきたため、人は迷いの中に陥っている。

62. 愛する民よ、あなたの神との交わりを求めなさい。物質的な対象に頭を下げたり、それを崇めたりしてはならない。
なぜなら、私は決してそのようなことを教えたことはなく、神秘主義をもたらしたこともないからだ。私は、物質主義があなたがたの道を阻むことのないよう、ただあなたがたの魂に私の光と慈悲を注ぎ込んだだけである。

63. あなたがたが目を覚まし、祈り、学び、探求するならば、1950年が終わりを迎える頃、私から多くのものを受け取るだろう。あなたがたは成熟した魂であり、私はその魂たちに、私の慈悲の多くを託すつもりだからである。 しかし、私はあなたがたにこう告げた。もし準備不足のために、あなたがたが私について証しすることができないならば、石たちが語り、人類の間に私が存在することを証しするだろう、と。

64. わたしの言葉の中で、あなたがたが理解していなかったことを説明したのは、あなたがたがわたしの業にもたらした過ちを正すためである。なぜなら、もしあなたがたがまず自らの過去の習慣から清められなければ、どうして隣人に良い手本を示すことができようか。

65. わたしはあなたがたを赦し、飾ってやったのは、あなたがたが後に人々に対して同じ恩恵を施せるようにするためである。 私は、あなたがたが戦いに立ち上がり、人間の心に侵入した闇と狂信を排除できるよう、私の言葉を光の剣として託した。なぜなら、それは悪しき種のようなものであり、激しく増殖してしまったため、人

類は真理の道から迷い出てしまい、魂の完全性を追求することができなくなってしまったからである。

66. わたしがやって来るのは、世界がその過ちに気づき、わたしが示した道からこれ以上逸れないようにするためである。その道には、あなたがたの足を血だらけにするような茨や小石などない。

67. 人間は、この時代にあなたがた全員が大きな試練にさらされていることに気づかぬまま、わたしを試そうとして立ち上がる。なぜなら、世界は自らの科学と富を誇り、わたしをその王であり主であることを否定したからである。それゆえ、人々は、わたしが人間の知性を通じてあなたがたに自らを明らかにしたことも否定するだろう。 しかし、このようにわたしを否定する者たちは、その魂に愛と憐れみが注がれるであろう。それは、彼らが目覚め、 で築き上げたものがはかないものであり、崇高で永遠の命はわたしの中にあることを悟らせるためである。

68. 民よ、私の御言葉を伝える者たちによるこの最後の啓示の瞬間を無駄にしてはならない。なぜなら、私はこの御言葉によって、あなたがたがあらゆる試練に耐え、人類の迷いと利己主義と戦うための「光の武器」を手にできるよう、あなたがたを準備しているからである。

69. 自分たちを弱くも無意味にも感じてはならない。なぜなら、あなたがたが「第三の時代の戦士」として立ち上がるために、わたしはあなたがたに、わたしの慈悲と教えと愛を豊かに授けてきたからである。

70. 人間の心は、わたしの愛を感じ、わたしの神聖な御名を賛美するだろう。父として、わたしは誰に対しても慈悲を拒むことはない。わたしは迷える者たちの闇を取り除く。なぜなら、わたしの聖霊の光は、魂たちを解放するためにこの世の闇を追い払うからであり、それこそが、わたしがいつの時代も救ってきた者たちである。

71. イスラエルよ、もしあなたが霊的な境地に至れば——その時、誰があなたの道を阻むことができようか。 その時、どんな視線が矢のようにあなたを貫くというのか？　あなた方はただ微笑み、心の中に喜びを見出し、あなたを抱きしめようと差し伸べられる手を見るだろう。そして、それはあなた方の闘いに対する前もって与えられた報いとなり、人生の道で経験するのは痛みだけではないようにするのだ。

72. わたしは、あなたがたが光の武器、すなわち愛の剣を携え、信仰と希望と慈悲の旗を高く掲げる戦士となるよう、この教えの中でまだ多くのことをあなたがたに託すつもりだ。

73. イスラエルよ、あなたにまだ欠けているものは何か。それは、思いと行いを一つにして立ち上がり、自らを新たにし、人類がその不完全さを認識できる、澄み切った鏡となることである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 347

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. この日、わたしはあなたがたを迎え入れ、祝福する。あなたがたの魂は、わたしの教えを受け入れるために、御霊の声に耳を傾ける準備ができている。わたしはあなたがたの心を読み、あなたがたを慈しみ、わたしの言葉を授ける。それは、あなたがたの人生の苦しみを和らげる癒しの薬となるだろう。

2. しかし、私はこの時にあなた方を慰めるだけでなく、私の弟子となるよう招いている。あなた方に告げる。自分の十字架を背負い、私に従いなさい！　一歩一歩を踏み出すたびに、第二の時代における私の模範を思い起こしなさい。あの時代に私が人間として来られたことは、決して無駄ではなかったのだ。

3. わたしの苦しみ、わたしの言葉、そしてわたしの至高の戒めは、あなたがたの魂に刻まれている。そこには、わたしが三つの時代にわたって書き記した書物があり、すべての使者を通じて伝えたわたしの言葉があり、証しと行いがある。 あなたがたが自分の魂の奥深くへと入り込むことを学べば、そのすべてを自分の中に見出すことができる。あなたがたは、その道を歩み抜き、成熟の頂点に立っているのだから、もはや霊的には幼子ではない。第一の時代、第二の時代、そして第三の時代にわたしの言葉を聞いたあなたがた――どうしてこのメッセージを疑うことができようか？ 私が戻ると約束し――「私はもう一度、あなたがたのところへ来る」と告げたのだから、私があなたがたの魂に刻み残した予告を、どうして消し去ることができるだろうか。 しかし、私はその方法を明かしはしませんでした。ただ、時期と出来事を知らせ、私の再臨を告げる兆しを示しただけでした――すべてをあらかじめ予告しておいたのです。今、私はこう告げます。大きな試練が訪れるでしょう。それは、聖霊が人類の中でその使命を全うするために、あなたがたの霊に降りてきたことを、あなたがたが確信できるようにするためです。

4. 今こそその時である！わたしが与えたすべての予告は成就した。御霊と真理をもって語った者たちのすべての預言は実現した。

5. 私はここに臨在しており、常にあなたがたと共にあり、身を隠したことは一度もありません。この時代、すなわち「第二の時代」における私の別れから「第三の時代」における私の到来に至るまで、私は人類のために常に臨在してきました。私の光は常にあなたがたの間で輝き、私の愛も変わらず、私の教えや模範も変わりません。ただ、啓示の段階が異なるだけなのです。

この時代、私はあなたがたに私を理解してもらうために、私の言葉を肉体的に聞こえる形にした。あなたがたが 私の啓示を理解できるよう、私はあなたがたの言葉を用いた。そして今、私はここにいる、民よ。愛に満ちて、両手を広げてあなたがたの中にいる。父が迷い子を迎え入れるように、私もあなたがたを迎え入れたのだ。

しかし、私はあなた方を私の弟子としたい——あなた方に、私のすべての言葉と啓示の証人になってほしいと願っている。私は、「第三の時代の遺言」、すなわちこの時代にふさわしい尊い書を、あなた方の心に刻み残したいと願っている。

6. あなたがたは、数多くの伝達者を通じて私の言葉を聞いてきた。彼ら一人ひとりは、この時代に私から与えられた使命、すなわち極めて重要な役割を果たすよう命じられている。 その責任は極めて重大であり、人間の脳を通じて啓示が伝えられるこの時代が終われば、私はこれらの伝達者一人ひとりに説明を求め、彼らは私の言葉、すなわち私が彼らの脳に授けた光について、私に対して説明責任を負わなければならない。その光は言葉へと変換され、私を愛する民に忠実に伝えられるためのものであった——そして彼らは私の前でその責任を問われることになる。 しかし、民もまた、受け取ったすべての言葉について、わたしに説明責任を負わなければならない。そして、完全な活動の時が来れば、わたしはすべての人々に説明を求めるであろう。

7. 今日、私は父として、また師としてあなたがたのところに来た。イスラエルの民に対する私の裁きはまだ始まっておらず、私はまだあなたがたに収穫を求めてはいない。今日、私はまだあなたがたに時間を与えているが、師はこう告げる。その時間を、行動し、学び、深遠な私の教えを深く理解するために用いなさい。そうしてこそ、あなたがたは私を愛し、常に私に従うことができるようになるのだ。

8. わたしは、あなたがた一人ひとりのために、わたしの御霊の中に場所を用意している。あなたがたが一度この高い報いに値する者となれば、わたしのところに来ることになる。それまでは地上で奮闘し、その後は、わたしの御心によってあなたがたを遣わす道において奮闘し、あなたがたが任務の達成をわたしに捧げることができるようにしなさい。 私が常にあなた方と共にあり、私の視線がどこへでもあなた方を追いかけており、一人ひとりのあなた方への私の守りは限りなく、あなた方の痛みは私に見過ごされることはなく、私はあなた方の心の奥底を読み取り、あなた方の未来を知っていることを忘れないでください。

9. さあ、民よ。わたしを愛し、わたしの教えを学びなさい。そうすれば、わたしがあなたに伝えたいこと、そしてあなたに遺したいことをすべて理解できるようになるだろう。 父である私は、愛に満ちて、あなたがたに戒めと使命を与えるためにやって来た。なぜなら、あなたがたは人類に対して責任を負う民であり、教師であり、模範であり、導き手とならなければならないからだ。それゆえ、私は日々あなたがたに教え、私の「言葉」は絶えることなく語り続けた。私は、あなたがたが私の声を聞き、やがて心を開き、私を理解できるよう心を整えることができるよう、 な長い時間を与えたのだ。

10. 第二の時代において、私はわずか三年間だけ、あなたがたに語りかけた。私の言葉は絶え間なく注がれた。当時、私は昼夜を問わず、弟子たち——すなわち、私の声を聞こうと近づいてきた者たち——に語りかけた。私はあなたがたと共に暮らし、あなたがたは私のすべての行いを見てきた。あなたがたは私の誕生の証人であり、人間としての私の成長を目の当たりにしてきた。 私はあなたがたから身を隠したりはしなかった。私のすべての行いが知られることを望んでいた。しかし、民よ、あなたは裁き人でもないくせに、私を裁いた。あなたは私の幼少期や青年期を裁き、私の受難を裁いた。そして、あなたは私の被造物であるにもかかわらず、時に私を見誤った。あなたがたは私の一部であり、私の子供であるにもかかわらず、父としての私の行いを非難したのだ。

11. 私は愛であり、赦しである。私は憐れみの眼差しであなたがたの裁きを見つめ、こう告げた。「いつの日か、長い試練と、人生における大きな経験を経て、あなたがたはイエスが人類に注ぎ出した愛——その律法と慈悲——を悟るだろう。そして、もはや決して、イエスがあなたがたのために示した道から逸れることはなくなるだろう。」 あなたがたは自らの過去を悔い改め、すべての過ちを償い、私の教えに従う機会を私に求め、自発的に私のしもべとなるだろう。

しかし、私はあなた方を僕として見たいわけではない。——私は、あなた方が常に私の子供であり、私の弟子であり続けてほしいと願っている。なぜなら、私には僕などいないからだ。あなた方は皆、私が私の性質、私の力、そして私の恵みを与えた被造物である。あなた方は皆、私のものである。たとえ世界が私を認めようとしなくても、世界は私のものであり、私にはそれを愛する権利がある。

人類よ、あなたがたは私があなたを愛することを妨げることはできない。しかし、あなたたちは自らの道からあらゆる混乱を遠ざけ、救いの港へと導く光を求めるために奮闘しなければならない。

12. 愛する魂たちよ、この時代、あなたがたは数え切れないほどの試練に直面してきた。あなたがたは何度もつまずき、その「肉体」さえも涙を流させるほどであった。しかし、霊は「肉体」よりも強いのではないのか？　私が、あらゆる逆境と戦うために、計り知れない力をあなたがたに与えなかったのか？　あなたがたは、私の霊そのものの一部ではないのか？

あなた方には、力があり、能力があり、エネルギーがあります——これから直面する、魂に対するあらゆる危険と戦うために必要なものはすべて備わっているのです。今日、私はあなた方に警告します。なぜなら、あなた方はこの道のりで、今日直面した危険よりもさらに大きな危険に遭遇することになるからです。 しかし、だからといってその道を立ち止まってはなりません。思考が混乱に陥ることを許してはなりません。

13. 私は、迫害の時代、異なる信仰を持つ人々からの非難の時代が訪れることを、あなたがたに告げてきた。しかし、あなたがたは私の弟子であり、力と光を持っている。それによって、あなたがたはあらゆる世界観、人々があなたがたに提示するあらゆる「光」に打ち勝つことができるだろう。 当初、あなたがたは彼らに物質的な本や、いかなる物質的な著作も示すことはできないだろう。あなたがたが提示できるのは、ただ自分の信仰と愛だけであり、これらの精神的な美徳は、彼らには手出しできないものである。あなたがたは、大きな信仰が自分の存在を包み込んでいることを内面で感じることになるだろう。そして、それだけで耐え抜くには十分である。あなたがたは、他の人々の道において、壊れることのない柱となるだろう。

14. たとえ物質主義的な世界観があなた方に迫ろうとも、たとえ人々が科学によってあなた方を誘惑しようとも、彼らの前で頭を垂れてはならない。あなた方の心の中では、私の愛が満ち溢れ、私の律法——それは容赦なく、時代を超えて不変である——を生き、感じることになるだろう。そして、あなた方から生まれる世代へと、それを伝える術を身につけることになる。 なぜなら、私はこの民を、他の諸民族の教師として残すつもりだからである。私は、あなた方一人ひとりを、私が私の意志に従って枝を伸ばす大きな木の根株として用いる。あなた方の美徳が大きければ大きいほど、あなた方の足跡をたどる者たちの光はより大きなものとなるだろう。

15. あなたがたの家族のために戦い、私があなたがたの世話に委ねた被造物たちの信仰のために尽力しなさい。彼らは恵みと能力を携えており、霊化の道において一歩前進するだろう。彼らはあなたがたの言葉を裏付けるだろう。そして、あなたがたがもはや彼らのそばにいなくなっても、彼らは地上で両親が従った律法を思い出し、それに忠実であり続けるだろう。

16. これがイスラエルの民の物語である――私が彼らを「私の光と知恵の受託者」と呼んだゆえに、私を忠実に従うであろうその民の物語である。あなた方には人類に対する困難な使命があり、時として一方に、また時として他方に傾くようなことは許されない。 あなたがたは自分の進むべき道を知っている――あなたがたがまだ私と霊と霊との対話をする準備ができていなかったため、あなたがたの父が肉体をもって現れ、あなたがたに語りかけ、導くために降りてきたことを知っておきなさい。

17. あなたがたがわたしを理解できるよう、わたしは啓示を分かりやすくし、言葉を明確に示してきた。 しかし、この時代が過ぎ去り、1950年が過ぎれば、あなたがたは従うべき道を確実に知るようになるでしょう。あなたがたは私と対話するようになり、直感が、私の教えをどのように実践すべきか、この貴重な種を、それを必要としている人々の心にどのように届けるべきかを教えてくれるでしょう。 あなたがたは、一粒の種も無駄にすることなく、またむやみに蒔くこともなく、土が整えられた場所――つまり、直感が「この種は発芽するだろう」と告げる場所に、それを蒔くことになる。そうして、あなたがたは種を蒔く人のようになるのだ。

18. あなたがたは使徒たちの模範に倣って旅立ち、人々の道々で、その心と魂に種を蒔くことになる。しかし、あなたがたが示さなければならない書物は、あなたがた自身の人生、あなたがた自身の模範、あなたがたの信仰、そしてわたしへの信頼そのものである。これは、あなたがたが言葉で語ることのできるどんな言葉よりも、人々を納得させるだろう。 それゆえ、民よ、今日この日から、この使命を果たすための大きな決意を固めなさい。

19. わたしは、わたしの代わりにあなたがたをこの地に残す。御言葉を伝える者たちの唇は沈黙するが、あなたがたの唇は備えられ、あなたがたの心は霊感に満たされるだろう。わたしは、この限りない霊感の道にあなたがたを導く。そうすれば、明日、あなたがたは、まだ知らない教えについて語るようになるだろう。

20. わたしは、あなたがたを、わたしを待ち望む人々の心の奥底へと入り込ませる。あなたがたは、わたしの使者として外へ出て、

ある人間を介してわたしを聞いたときと同じ畏敬の念と愛をもって、聖なる啓示について語るだろう。あなたがたの口は鍛えられているが、言葉には注意を払わなければならない。なぜなら、あなたがたの唇は決して嘘をついてはならないからだ。 私は高き来世からあなた方を見守り、あなた方の模範は消えることのない文字として刻み込まれるであろう。そう、イスラエルの民よ、私はあなた方を、使命を果たす道へと一歩一歩前進させている。あらゆる業は、理解されるまでに一定の時間を要する。私は、あなた方が充実と成熟に至り、霊化への道を歩み始められるよう、この時間を与えたのである。

21. わたしは、あなたがたの以前の慣習を一気に取り上げたのではなく、わたしに喜ばれないものを、徐々に捨てさせてきた。わたしは、霊によって祈ることを教え、静寂と瞑想、そして神との交わりの中に入り、あなたがたが父とどのように語り合うべきかを示した。

22. 民よ、そのようにして、あなたは歩みを続けていくのだ。祈りはあなたの盾となり、信仰はあなたの救いとなる。 試練の時、わたしの臨在はあなたがたと共にあります。あなたがたは心の中で、今この時のように「わたしの平安があなたがたと共にありますように」というわたしの挨拶を聞き、そして、わたしの力強い腕があなたがたの腕の中にあり、わたしの言葉に従順に行動するすべてのことに対して、わたしから祝福と確証が与えられるという確信を感じるでしょう。

23. これまで、あなたがたは子供や弟子として私のそばに留まってきた。そして私は、あなたがたを慈愛をもって教え導き、あなたがたがそれらによって養われるよう、最も愛に満ちた言葉をあなたがたの心に注ぎ込んできた。 魂は愛によって養われるものであり、それ以外に魂の糧となるものはない。だから、もしあなたがたが、この愛、すなわち私の言葉の中に宿るこの本質から遠ざかれば、空虚さ、孤独感、そしてこの愛の撫でを受けたいという切実な欲求を感じるだろう。そして、あなたがたが私のもとに戻るとき、心の空虚さは再びこの水晶のように澄んだ水で満たされるのだ。

24. 私は、あなたがたが渇きを感じることのないよう、常に恵みとインスピレーションに満ち溢れ、あなたがたの心に私の御霊の愛が息づくように、この泉の壺を縁まで満たしました。

民よ、たとえ私の言葉がこの形では途絶えたとしても、この泉は枯れることはない。その時、あなたがたは私の放つ光、私の言葉を、祈りや恍惚のうちに受け取るようになるだろう。 すべてはあなた

がたにとって理解できるものとなるだろう。その時、私は異国の言葉を使うことはなく、これまであなたがたに語りかけてきたのと同じ霊的な表現で語り続ける。そして、あなたがたの備えが大きければ大きいほど、より高次の教えの内容を理解できるようになるだろう。

25. わが民よ、私はあなたにどれほどの啓示を与えることか！人間の仲介を通じて語られなかったすべてのことを、私は今後、霊から霊へとあなたたちに伝える。しかし、そのためには、あなたたちは引き続き献身的に祈らなければならない。 祈りを通じて、あなたがたは恍惚の状態に至り、魂が高揚したとき、神聖なる師がその御言葉をいかに明確に示し、たった一文ですべてを語ってくださるかを実感するだろう。そして、私があなたがたに与えるこの一文を、深く探求し、周囲の人々に広めなければならない。そうして、1950年以降も、民はこの形で学び続けることができるのだ。

26. わたしは、あなたがたを一日たりとも怠惰にさせてはいない。あなたがたが準備を整えたとき、わたしの霊感は絶えることなく続くであろう。あなたがたが準備を整えているのを見かけるたびに、わたしは常に、魂に関わる偉大な教えを啓示し、新しい世代に役立つ偉大な預言を与えるであろう。なぜなら、あなたがたは多くの教えを文書として残すことになるからだ。

1950年以降、私はあなたがたにこれらの霊感書き留めることを許す。それは、それらが脆弱な記憶から消え去ることなく、人類への遺産として永遠に保存されるためであり、また、この世界が私に思い起こさせるあの計り知れない渇き—— すなわち、愛と真理、理解、そして教えを通じた霊的な啓示への渇きが満たされるように、イスラエルの民は使者として、あらゆる地域、大勢の人々の元へそれらを届けなければならないのだ。

27. すべてを包み込む審判の時が到来し、あらゆる行いとあらゆる宗教団体が、わたしによって裁かれることになる。誤ったものはすべて暴かれるため、人間の魂からは嘆きの叫びが漏れ出るだろう。真実のみが輝きを放つことになる。 人類の中に目覚めが起こり、その時、人々は私にこう言うだろう。「父よ、私たちにあなたの助けを与えてください。私たちを導く真の光を与えてください。」そして、その光と助けとは、聖霊の教えであり、私があなたがたに与えた教えであり、私がすべての者の父であるゆえに、彼ら全員にも属するものである。

28. わたしの霊は、すでに人々の孤独——誰もが心の中で感じている空虚さ——を見ている。彼らがこの空虚さを地上の快楽で埋め

ようとし、その渇きを癒やすものを見つけられない様子を、わたしは見ている。 彼らは至る所でこの安らぎ、この癒やしを求めているが、やはり見つけることはできない。しかし、いつ——人類は自問する——そして、誰のもとで、私たちはこの癒やしと平安を見出すことができるのだろうか？

しかし、父は人類よ、こう告げる。「わたしはあなたたちを待っている。あなたたちに必要なものはすべて、わたしの中にあり、あなたたちの中にある。だが、あなたたちはそれを探し出す術を知らなかったのだ。」 あなたがたはさまざまな道で迷い、平和などない場所でそれを求めてきた。あなたがたは、真の愛や真の光などない場所で、それらを探し求めてきたのだ。わたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたの心を満たすべき愛をわたしのもとで見出し、魂の平安、光、そして癒しの香油をわたしのもとで見出すだろう。

あなたがたはすでにその探求に疲れ果て、もはやわたしの御霊の扉を叩こうとはしない。あなたがたは愚かだが、わたしはあなたがたを待っている。もしあなたがたがわたしの扉を叩けば、それはすぐに開かれ、あなたがたを中へ迎え入れるだろう。 わたしは、王国のすべての富をあなたたちに示し、かつての苦しみについて慰めてあげよう。そうすれば、あなたたちは無駄にした時間を悔やみ、自分の過ちを嘆き、赦しと新たな機会をわたしに求めるだろう。わたしはあなたたちにすべてを与える。あなた自身と隣人のために、わたしに求めるものはすべて、わたしが与える。 私の富は 限りないが、それは霊的なものである。もしあなたがたがこの宝を私に求めれば、私はすべてを与え、こう告げるだろう。「これを使いなさい！」と。なぜなら、私があなたがたに与える恵みと賜物は、どれも永遠の命に由来し、すべての人々のために用意されているからである。

29. こうして、私はこの時代にやって来たのだ、民よ。そして、あなたがたの中には、私を、世界の諸国の戸口を一つひとつ叩いて回る巡礼者として見た者もいた。扉を開いた者もいれば、閉ざしたままの者もいた。 しかし、私はこれからも扉を叩き続け、父として、また師としての使命を果たし、一歩一歩、あなた方を私の道へと導き、光を与えるでしょう。そうすれば、あなた方全員が正気に戻り、自分たちの人生の意味を理解するようになるでしょう。

最終的な目標は愛であり、わたしの律法の成就である。あなたがたがこれを行わない限り、愛を実践しない限り、わたしの戒めに従わない限り、あなたがたは迷い続けるだろう。しかし、わたしは限界を設けており、その限界はまもなく到達する。

30. 予告されているあの世界的な大試練――あなたがたが苦難の杯の最後のひと滴を飲み干さなければならないその試練――の後、回復の始まりが訪れる。その時点で、人類は悔い改め、正しい道に戻らなければならない。人類は自らのすべての過ちを認め、わたしを見出さなければならない。

31. そう、イスラエルの民よ、わたしの啓示の証人であるあなたよ、わたしが語り、人類を裁く声を聞いているあなたも、よく耳を傾けなさい。わたしの言葉を心に留めなさい。あなたもまた、この人類の一員だからだ。あなたたちもまた、わたしの御霊に、心の空虚さをさらけ出し、渇きと飢えを抱いてやって来た。あなたたちは、愛の泉でその渇きを癒やしたのだ。 それゆえ、悪が自分たちの中でより強かったために、まだわたしを見出すに至っていない者たちのことを思いなさい。しかし、いつの日か、その悪は縛り上げられるだろう。

32. 人類は、わたしの律法を全うし、自らを新たにし、わたしと平和に生きるために、広大な場を見出さなければならない。わたしは、彼らが経験に満ちた状態で出会えるように、あらゆる道を歩ませたのである。

私の意志に従ってこの地上にやって来た、私の子である人間は、その魂を苦しめる数え切れないほどの試練を経験してきた。しかしその後、もしその信仰が揺るぎないままであれば――その者が得る報いは、なんと大きなものになることか！ 苦難、混乱、そして危険を乗り越えた後、その者は私の霊の光を見出すだろう。

33. それゆえ、わが民よ、試練に直面することを恐れてはならない。大きな葛藤に巻き込まれることを恐れてはならない。その中にあって、あなたがたは滅びることはない。わたしは、すべてのわが子らに、 という備えを与え、彼らの感受性を目覚めさせるであろう。 試練と経験、そしてその実りがあった後、わたしはあなたがたに語りかけ、こう告げるだろう。「見よ、この試練がいかに有益であったか、あなたがたがいかにその中で強くなったか、そして今、あなたがたがいかに健全で、癒されているかを。わたしの望みは、あなたがたが滅びることではない。ただ、あなたがたの魂を強靭にし、試練や嵐にもかかわらず、わたしを愛し、わたしを知るようになることだけである。」

34. 試練の火や苦難を乗り越えてきた国々があるが、彼らにはわたしが報いを用意している。辛抱強く苦しみ、わたしを信頼した者たちは皆、霊的な平安を得、あらゆる試練を乗り越え、わたしにつ

いて証しをするだろう。そして、イスラエルの民はこの証しを受け入れるであろう。

35. わたしの言葉はあらゆる分野に影響を及ぼす。わたしはあなたに、すべての国々を示した、民よ。あなたたちと接する中で、わたしはそれらの国々の苦しみや苦難について語り、こう告げた。「祈りなさい、民よ。節制し、悔い改めなさい。そうすれば、試練にあるそれらの国々を助けることができるのだ。」 あなたは、堅固な地に足を踏み入れたゆえに強いのだ。祈り、備えよ。そうして他者にとっての防壁となり、手を差し伸べて、それを必要とするすべての人に憐れみを施すことができるように。

たとえその人々を知らなくても、あなたがたは隣人に憐れみを示すことができる。大きな力と恵みに満ちたあなたがたの霊は、私があなたがたに授けたその善を、彼らに送り届けることができるのだ。

それゆえ、民よ、私は何よりもまず愛を求めている——あなたがたが私と自分自身を知ることができるように、愛を求めているのだ。愛は私の律法の根源的な原理である。愛はあらゆる行いの最終目標であり、私が常にあなたがたに教えてきたものである。愛、平和、そして慈悲——これらの美徳はあなたがたの中にあり、愛することを学ぶ必要さえもないのだ。

36. 愛は学ぶものではなく、感じるものであり、自分の中に宿っているものである。そして、あなたがたは、すべての被造物と同様に、創造された時に、そのすべての能力と特質を受け取っている。だから、自分自身の内面に深く入り込み、私があなたがたの本質に植え付けた美徳を探し求め、その道を歩む中でそれを実践しなさい。

37. イスラエルよ、もしあなたが人類の中で自らの使命を果たし、与えられた賜物を開花させ、人々に実感させ、わたしの神性に喜ばれ、満足のいく実を蒔き、収穫することができれば、あなたはどれほど幸せになることか。 完全な活動の時はまだ来ていないが、すでに近づいている。それは、あなたがたが人類と向き合い、歩みを確かなものにし、証しを真実なものとするために、すべての光と知恵を に活用しなければならない時である。

38. こうして、わたしはあなたがたを備えさせ、警告するのだ。わたしの御言葉がある毎日、あなたがたは警告、すなわちあなたがたの父からの助言を聞いている。なぜなら、明日、あなたがたはそれを必要とするからだ。今日、あなたがたはわたしに耳を傾けているからこそ、平安にあるのだ。 しかし、大きな戦いの時代が訪れる

だろう。わたしは、あなたがたがそのような時代に備え、団結し、その結束によってさらに強くなり、もはや弱点となる箇所が一つも残らないようにしたい。そうして、わたしが去るまさにその時に、イスラエルの民がわたしの周りに集まり、わたしの最後の言葉を聞くことができるように。それは、地上の父がすべての子供たちに囲まれて最後の助言を与えるように、 子供たちはその人生の最後の瞬間を待ちわびて――互いに愛し合い、父の美徳に励んで強くなり、人類を導く一つの体、一つの意志となることを約束するのです。

こうして、私はあなたを置き去りにしたいのだ、民よ――責任に満ちてはいるが、恵みにも満ちており、あなたがたがあらゆる瞬間に強くなれるように。

39. イスラエルよ、わたしはあなたを祝福する。あなたがたが集うさまざまな家々において、わたしはあなたがたの善き行いを祝福する。 わたしはあなたがたの心にさらなる感受性を与え、こう告げる。完全ではないもの、わたしへと導かないものをすべて取り除きなさい――適切な時にわたしが裁きを下せるよう、それを取り除きなさい。そうすれば、イスラエルの民は痛ましい裁きを受けることもなく、また、その不完全さゆえに、主が再び十字架上で血を流し、死んでいく姿を見ることもなく、むしろ、愛に満ちて全人類を教え導く主の姿を見ることができるだろう。

40. 私があなたがたを力づけ、あなたがたにとって糧となる私の言葉を与えるこの恵みの日に、私はあなたがたを準備を整え、あらかじめ警告して送り出す。今こそ私の言葉の終わりの時であり、私はあなたがたに、その最後の瞬間まで私に従うことを望む。そうしてこの言葉があなたがたの魂に刻み込まれ、あなたがたを照らし、これから訪れる時代に向けてあなたがたを強くするのだ。

41. これこそが、今日、わたしがあなたがたに与える教訓である、民よ。あなた自身のため、そして大いなる裁きに直面しているイスラエルの民のために祈りなさい。同様に大いなる試練に直面している世界のためにも祈りなさい！ 魂を高め、これらすべての試練について思いを巡らせずに、一日たりとも過ごしてはならない。わたしはあなたがたの願いを聞き入れ、わたしの御心に従って、あなたがたの願いを叶えてあげよう。

42. 謙虚な者たちよ、あなたがたは私の憐れみを待ち望み、自分たちよりも高い御心が 、あなたがたの上に君臨していることを知り、私にご自身の命を委ねる権利を認めている。私はあなたがたを祝福する、わが子らよ。あなたがたの十字架は軽くなるであろう。

43. なぜあなたがたが試練を受けたのか、執拗にその理由を私に問う者たちよ、私はこう言う。黙れ、その理由を私に問うな！ あなたがたは、私に対する自分の罪を本当に知っているのか？　あなたがたの魂が、私から生まれた時と同じくらい清らかな状態で私のもとに戻れるよう、私がどのようにしてその魂を清めるのか、本当に知っているのか？　それゆえ、私はあなたがたにこう言う。私が日々送る試練を、ただ忍耐と備えをもって受け入れてほしい。なぜなら、私の力は常にあなたがたと共にあるからだ。

44. わたしは、あなたがたが自らを正しく導き、愛する者たちを救いへの道へと導くために必要な光を、あなたがたに与えてやる。

45. わたしは、あなたがたに、あらゆる試練の中であなたがたを救う、父との対話という尊い賜物を授ける。この朝、わたしの癒しの香油と慰めは、あなたがたすべてと共にあり、世界と共にあり、またわたしから生まれたすべての被造物と共にあります。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 348

1. 愛する民よ。師は、あなたがたがこれを心に刻み込んで携えていけるよう、教えの書をページごとに与えている。これらの教えは、明日、あなたがたにとって計り知れない価値を持つ宝となり、地上の使命を果たし、魂の報いを得る助けとなるだろう。 あなたがたの闘いによって、この教えは人々の心に深く刻み込まれ、あなたがたは約束の地へとたどり着いたとき、勝利の歌を歌い上げるでしょう。

2. 私は、あなたがたが準備期間中に、私の宝庫から不足しているものを引き出し、それを隣人に与えることを許します。なぜなら、様々な道を通って、私の選ばれた者たちがやって来て、私の弟子となり、働き手となり、私の業を守る兵士となるからです。

3. 全被造物は私の律法に従っており、万物は調和の中で私を崇めている。 大空に目を向ければ、私の知恵が創り出した輝く星々が見えるだろう。それらの中に、従順と調和の模範を見出し、この栄光と完全さに触発されて、深く思索し、良心を通じて私の父なる声に耳を傾けるようにしなさい。 木々は、常に美味しい実を実らせる。あらゆるものに父は現れ、あなたがたに語りかけている。それは、あなたがたが深く考え、私が与えた律法に従うためである。

4. わたしは部族、民族、国家を創造し、すべての人に、その霊的成長に必要なものを与えた。あなたがたは、星々や人の手によって作られた物の中でわたしを崇拝してきた。今こそ、あなたがた自身の中にわたしを探し求めなさい。内なる静寂に入る者は幸いである。その者はわたしの臨在を感じ、魂の平安を得るからである。

5. あなたがたは、人間の科学によって鍛えられていない、未熟な頭脳を通して、わたしの言葉を受け取った。しかし、わたしは彼らを、わたしの普遍的な光線が宿る台となるよう、あらかじめ備えておいたのだ。

6. あなたがたは、わたしの言葉を聞くとき、父が肉眼に見える形で現れることを望むだろう。しかし、わたしはあなたがたに言う。心を整えなさい。そうすれば、わたしを感じることができるだろう。なぜなら、わたしは、この苦痛の時代にあなたがたを慰めるためだけでなく、第二の時代にイエスとしてあなたがたと共にいたときにすでに約束していた教えをもたらすために来るからである。

7. わたしの模範、わたしの受難は、あなたがたの魂に刻まれている。そこには、三つの時代を通じてわたしが記した書物があり、わたしの使徒たちの言葉、証言、そして行いがある。あなたがたが自

分の魂の奥深くへと入り込むことを学べば、そのすべてを発見することができるだろう。

8. この時代、師は山の頂上から、私があなた方を待ち受けているその場所から、あなた方に語りかけている。 私は、あなたがたの魂が私のもとへと昇りつめるよう、その魂に命を与える。私の愛を感じ、あなたがたの中に私の平安を抱きなさい。この世においても、また霊的な谷においても、道に迷った者たちを探し出しなさい。「主よ、私たちはあなたの足跡をたどります。この大義を守る勇敢な兵士にしてください」と私に告げたあなたがたは、幸いである。

9. わたしは、あなたがたが真理を見出す道を、改めて示す。あなたがたが人類にわたしについて証しをし、あなたがたの模範によって来るべき世代を備えさせ、彼らがこのわたしの愛を心に抱き、わたしの平安を感じられるように、わたしはあなたがたに教える。そうすれば、あなたがたは、第二の時代の使徒たちを模範とする弟子たちへと変えられるだろう。

わたしは、あなたがたのうち数人をさまざまな地方や国々に遣わし、道に迷った人々に道を示すようにする。しかし、あなたがたは謙虚な心を持って旅立ち、わたしがあなたがたに託す多くの人々のために、清らかな模範とならなければならない。あなたがたは、聖霊の光が輝いている松明のようでありなさい。

10. わたしは、選ばれた者たちを、彼らの過ちを問うことなく、わたしの言葉によって導く。わたしは最高の医者であるから、彼らの魂を癒やす。そして彼らを立ち上がらせ、こう告げる。「わたしがあなたがたに差し出すこの真理の道を歩みなさい。そうすれば、やがてわたしのところへたどり着くであろう。」

11. あなたがたはイスラエルであり、私はその中から14万4千人を選び出し、私の神聖な印を刻んだ。それは、あなたがたを媒介として人類が救いを得るためである。

12. さまざまな国々の男女や子供たちがわたしを求めるだろう。そして、選ばれた民であるあなたがたは、仲介者であり、わたしから賜物を受けた者である。そうして、あなたがたの道筋にある枯れ果てた野原や砂漠が、肥沃な畑へと変えられるのだ。

たとえ話

13. 広大な土地には、ごく少数の住民が住んでいた。彼らは、やがてこの惑星の四方から、さまざまな人種や肌の色を持つ旅人たちがやって来て、 のその土地に住むようになる時が来ることを知っていた。 ある謙虚な若者が、真理と平和、光と愛の言葉をもって彼ら

を導いた。ある老人は人々の群れを訪ね、彼らがその地へたどり着かなければならないという呼びかけを伝えた。彼は彼らを導き、準備を整え、その恵まれた土地について語った。
やがて、人々が次々と到着する時が来た。そこで、若者は老人にこう言った。「あなたは私に何をもたらしたのですか？」すると、老人は答えた。「ここに、私が準備し、ここまで導いてきた人々がいる。彼らはあなたの弟子となるためだ。」 すると、若者は彼にこう言った。「祝福あれ。これからも、さまざまな道や迷路の中で、迷い出た羊を探し続けてください。輝く灯台となって、地の四隅を照らし、迷い出た羊をあなたの肩に担いでください。」
14. その老人は、大衆を一つにまとめ、集めるために、献身と服従の精神をもってその道を歩み続けた。そこで、その若者はその地の住民たちに向き直り、こう言った。「私は、あなたがたを私の愛をもって整え、教えを授けた。なぜなら、あなたがたは、まもなくやって来る大勢の人々を聖霊の光で照らすための媒介者となるからだ。見よ、私は永遠の命のパンを食卓に並べた。あなたがたはこの同じパンをもって人類を養わなければならない。」
たとえ話の終わり

15. わが子らよ、私はこのようにあなたがたに語る。私の教えの真意を深く考え、その若者と老人がそれぞれ誰であるかを理解せよ。あなたがたを教え、近づきつつある世界観の戦いに向けて備えさせるのは、他ならぬ私である。その老人はエリヤ、すなわち善き羊飼いであり、私の羊の群れを一つにまとめ、集める者である。
16. 平和が回復し、痛みが和らぐよう祈ってきた民よ――今や、間もなく、あなたがたは喜びのうちに、同胞たちの生きた声の証しを耳にし、祈りの価値を実感することになるだろう。
17. 今日、わたしはあなたがたに私の助言と警告を聞かせる。なぜなら、明日、あなたがたはそれらを必要とするからだ。わたしはあなたがたに、一致することを求める。そうしてこそ、あなたがたは強くなり、弱点となる箇所が一つもなくなるからだ。 死が近づいていると感じる父が、最期の瞬間に子供たちを呼び寄せ、最後の助言を与えるように、私もまた、あなたがたに語りかけ、互いに愛し合い、理解し合い、徳において強くなり 、世界のために見守り、祈る一つの霊を形成することを私に約束してほしいと願う。
18. わたしはあなたがたに大きな使命を託すが、同時に平安と力を与える。あなたがた自身は、自らの行いを裁くことはできないだろう。しかし、裁き主であるわたしが、あなたがたの行いを量り、

その実を受け取り、やがてあなたがたのすべての労苦と努力の結果を明らかにしてやる。

19. より高い御心があなたがたの運命を導いていることを認める、謙虚なあなたがたは幸いである。あなたがたはそれをわたしの神性に帰し、あなたがたの人生を委ねる権利をわたしに認めている。なぜなら、わたしが常にあなたがたへの愛の証しを与えていることを知っているからである。

20. あなたがたは、父が目を向けている霊性主義の民である。あなたがたが世界を目覚めさせ、聖霊の光を受け入れるようにするためである。

21. 人類は宗教を通じてわたしを求めますが、その中には、その行いにおいて霊性を示すものもあります。

22. わたしはあなたがたにわたしの業を託し、あなたがたを啓発した。それは、あなたがたが人々の心の中でたゆまずわたしの言葉を育み――律法の旗を掲げて進み出し、良き兵士として愛をもって、わたしがあなたがたに託した大義を守るためである。

23. わたしの霊は、良き働き人たちの収穫を喜びとするが、働き人が眠り込んでしまい、わたしが託した種を育てる術を知らなかったのを見ると、苦しみも感じる。

24. あなたがたが今まさに苦難の杯を飲み干しているとき、父は静かにあなたがたに耳を傾け、霊的にあなたがたを慰めてくださる。

25. この時代、わたしの業の中で恵みの生へと生まれ変わった人々の数は多い。しかし、あなたがた――最初に選ばれた者たち――は、明日、あなたがたがもはや代弁者を通じてわたしの言葉を聞くことができなくなったとしても、同胞たちが孤児になったような気分になったり、方向を見失ったりすることがないよう、備えをしておかなければならない。

26. 人類は、初めの時代の律法と、旧約聖書および新約聖書に記されていることしか知らない。しかし、第三の書は今、人々が備えと理解の欠如から歪めてしまったものを統合し、正すことになる。人類は、私のメッセージを深く研究し、言葉の一つひとつの中核に深く入り込み、唯一の理想、唯一の真理、そして霊性へと導く唯一の光を見出さなければならない。

27. 愛する民よ、私があなた方に託したこの宝を守る術を身につけるよう、備えなさい。

28. あらゆる啓示において、人間の知性によってわたしを理解する者たちは幸いである。その家族の一人ひとりが、最初の人から最

後の人に至るまで、皆、わたしの霊的業の懐に抱かれている家族は幸いである。彼らは従順な家族となり、わたしが人類の模範として示す、祝福された種となるであろう。

29. わたしはあなたがたに、魂の命について――あなたがたが「来世」と呼ぶものについて、そしてわたしの神聖な高貴さについて語ってきた。しかし、これらの教えには何の秘密もないと、あなたがたに告げる。 なぜなら、清らかな者は、高き来世の命――聖霊の光に照らされたあの霊的世界、そして愛の絆で結ばれたその住人たち――を仰ぎ見、理解する特権を得るからである。その者は、預言者たちがあなた方に語るあの山の頂を目にするだろう。そここそが、父が全人類を待ち受けている場所である。

30. 私の霊界は、あなたがたが霊化に至るよう、たゆまず働き、インスピレーションを与え、養い続けています。あなたがたが使命を果たす上で、より大きな進歩を遂げられるよう、霊界はあなたがたを支えています。

31. 長い間、あなたがたは私の啓示の中で、霊性化を知らない同胞たちを教え導くために、あなたがたが師のようにあるべき日が来ることを聞いてきた。 やがて、聖霊の光があなた方を完全に照らし、啓発する時が来るでしょう。そうして、あなた方は世界に私の業、この時代に与えられた私の言葉――あらゆる魂を神の御国へと導く光――を広めることになるのです。

32. 私があなたがたの人間としての生活のために託したことに従って生きなさい。命の木の果実を糧とし、その枝の下に安らぎと保護を見出せることを悟りなさい。その木を自ら手入れし、その枝と果実が増え続けるのを見届けなさい。

33. 泉は、砂漠を横断する旅人たちの渇きを癒やし、彼らが力を取り戻せるよう、その水晶のように澄んだ水を川のように注ぎ出すであろう。

34. 羊の皮を被った狼が、旅の途中であなたたちを待ち伏せするだろう。しかし、あなたたちは警戒し、祈り、深淵に落ちないよう注意しなければならない。 時折、太陽の光線が容赦なくあなた方の存在に降り注ぐのを感じるだろう。しかし、私は、私の霊的世界が、あなた方の道のりの上に、まるで防護の外套のように覆いかぶさるよう導く。あなた方は、この人類の中に新しい世界を築くために、私を助けてくれるだろう。

35. あなたがたは、明日戦う覚悟のある弟子たちである。あなたがたは勇敢であり、私が人類のためにあなたがたの手の中に託した多くのものを、次へと伝えていくことになる。

36. 私は、あなたがたが律法を破ることを望まない。あなたがたのうち数人は闇に打ち負かされてしまったが、それは、深い愛をもってあなたがたを呼ぶ牧者の声に耳を傾けようとしなかったがゆえに起こったことである。

37. あなたがたは私の言葉に慣れきってしまい、師が人間の知性を通じてあなたがたに語りかけることをやめるのではないかと疑っている。 しかし、私はあなたがたに言う。なぜ、私の崇高な御計画に干渉するのですか。私はあなたがたにその時期を明示しました。あなたがたが私にこう言うことは、私の御心ではありません。「師よ、運命の打撃や戦争が世界を恐怖に陥れていることを考えてください。今こそ人類にとって試練の時なのです――それなのに、あなたは私たちと別れるおつもりなのですか？」

そうすれば、あなた方の良心が答えて、私が長い間、あなた方に私の言葉を託してきたことを自覚させてくれるだろう。しかし、父として、また師として、1950年以降も今日と同様に、あなた方の祈りを通じて、あなた方のあらゆる願いを聞き届けるつもりだ。

私が去った後、あなたがたは皆、等しく私の使命の成就に専心し、それぞれの賜物を開花させるべきである。そして私は、あなたがたが新たに生まれ変わるよう、あなたがたの良心を通して語りかけ、あなたがたが破滅に陥らないよう、聖霊の光によって真の道を悟らせてあげよう。

38. いつか、慰めと、彼らの魂に対する私の憐れみを求めて大勢の人々があなたがたのところにやって来たとき、私はあなたがたを啓発し、霊感を与え、彼らがあなたがたを介して私の御言葉を受け取れるようにする。私は、あなたがたが「光の子ら」として認められるよう、私の恵みをあなたがたに託したのだ。

39. 愛する民よ、わたしはお前たちを清めた。この時代に、お前の霊に大きな使命を託したからである。それは、お前が功徳を積み、人類に善を行うことによって、わたしの教えの真理を証しするため――そうして、来世においてわたしの平安を得、もはや闇の中で滅びることがないようにするためである。 私は、あなたがたの魂が私の元へたどり着いたとき、こう言ってくれることを望んでいる。「師よ、私は自分の歩む道においてあなたの御心を果たしました。そして今、再びここに参りました。どうか、あなたの神聖な憐れみに沿った指針と使命を、私の霊に託してください。」

40. あなたがたが霊的に高まれば、子供たちはあなたがたに従い、大衆もあなたがたを敬うようになる。なぜなら、あなたがたが聖霊の光を内に宿す、成熟した魂であることを彼らが認めるからだ。

そうすれば、取り残されていた者たちも、あなたがたの模範を見て道に立ち返り、あなたがたの右手を握り 、あなたがたの足跡に従うようになるだろう。 真理を渇望する者たちがあなた方に近づいてきたら、彼らが柔和な子羊となるよう、彼らに私の言葉を授けなさい。

41. この時代、悪は束ねられて火の中に投げ込まれるだろう。わたしがこれらすべての業を行う。そして、イスラエルよ、あなたは世界に対し、人々が今まさに生きているこの時代について、またあらゆる出来事の理由について語らなければならない。わたしがあなたがたに真理を託したのは、あなたがたへのわたしの愛が深いからである。あなたがたは、偉大な啓示と預言の管理者である。

42. あなたがたを通して、律法は新たな世代に改めて知らされることになる。それゆえ、わたしはあなたがたに「備えよ」と告げたのだ。あなたがたは、未来への道を整えるために来たのである。そうすれば、将来の新たな世代はもはや偶像崇拝者とならず、人類を欺く偽預言者も彼らの間から現れることはないだろう。

43. イスラエルよ、これらすべてを世に明らかにしなければならない。様々な世界観が生まれたこの時代、宗派は宗派と対立し、教派は互いに争い、さらにはあなた方を拒絶することになるだろう。

しかし、あなたがたは光と平和の子らであるから、彼らにこう告げなさい。「真理は『第三の聖書』の教えの中に含まれている。そこには、この時代に主が臨在し、来られるという証しがある。」あなたがたは人類にこの書を指し示し、わたしの律法を全うすることによって、その真理を証ししなければならない。

44. しかし、イスラエルよ、もしあなたが眠りにつくなら――諸国がわたしの正義によって懲らしめられるとき、どれほどの苦痛が生じるだろうか。彼らは真の神を求めることを知らず、ただ自らの世界観の中で迷い、あなたがたに彼らの偽りの神々を認めるよう強要し、それによってあなたがたを惑わそうとするだろう。

45. わが民よ、警戒して生きよ。あなたがたが無知な者とならないよう、わたしはあなたがたにわたしの言葉を豊かに託したからだ。あなたがたはわたしの臨在を感じ取ることを知っており、わたしはあなたがたに、わたしの言葉の真意を悟るよう教えてきた。

46. 私が去った後、多くの者が、私が引き続き彼らの知性を通じて自らを現すと、あなた方に信じ込ませようと努めるだろう。しかし、私はそれらの脳の中で自らを現すことはなく、私の霊的世界もそうはしない。というのも、1950年以降、霊的世界もまた、あなた方に自らを現すために人間の脳を用いることはなくなるからだ。 あ

なたがたは、霊的な方法によってのみ、私の霊的な光の世界と交わることができるようになるのだ。

47. 私の去った後には大きな出来事が起こるだろうから、いかなる欺きにも陥らないよう、従順な子供たちでありなさい。しかし、あなたがたは眠っている者たちを目覚めさせ、再び偶像崇拝に陥ってはならない。 そうすれば、あなたがたが祈りを捧げるその瞬間、私の励ましを感じ、私の恵みの流れを受け取ることになるでしょう。そうして私は、あなたがたが誤りに陥っていないという証拠を、あなたがたに与えるのです。

48. わたしの視線は常にあなたがたに注がれており、決してあなたがたを見捨てることはない。 私の霊はあなたがたと共にあり、あなたがたの闘いを注視し、陰謀や危険からあなたがたを守ります。私の律法を遵守しなさい。そうすれば、人間がその律法をもってあなたがたの道を阻むことはありません。もしあなたがたが私に喜ばれる者であれば、世に対して立ち向かい、すべての隣人との兄弟愛を感じることになるでしょう。今こそ、世が私の光を認識し、私の使者を拒絶しない時が来たのです。

49. あなた方には、隣人たちが互いに暴力によって命の糸を引きちぎらないよう、周囲の人々から闇の存在を追い払う力がある。

50. しばらくの間、私はこの世が自らの意志を行使することを許すが、その後、全世界において私の意志が成就されるであろう。人類が飲み干そうとしている苦難の杯を前にして、目を覚まし、祈り続けよ。なぜなら、年月は過ぎ去り、あなたたちにとって時間は驚くほど早く過ぎ去ってしまったからである。

わたしは、あなたがたが歩むべき道を示し、必要なものはすべて与えてきた。それは、わたしがあなたがたの魂を見守ってきたからである。わたしは、永遠の命のパンをもってあなたがたの魂を養い、その眠りから目覚めさせ、自らの使命を認識し、わたしの業における責任を感じ取れるようにしたのだ。

51. 物質主義と無理解は甚大であった。それゆえ、愛する弟子たちよ、あなたがたは魂を成長させることなく、慣れ親しんだ日常のルーティンに留まってしまったのである。

52. いつの時代においても、私は愛に満ちた言葉を通じて、私があなた方に託した御業を人類に知らせるために、あなた方が何を怠ってきたかを気づかせてきた。しかし、*もしあなた方が*備えを怠ったならば——どうして人類が、あなた方を通じて私の平和、私の光、そして私の愛を得ることができるだろうか。私の教えを至る所に広めるという使命を、私が託したのはあなた方なのだ。 私は、あな

たがたの霊がその担い手である尊厳を、あなたがたに明らかにした。

私は、あなたがたに、あなたがたが何の功績も積んでいないにもかかわらず、愛と私の恵みによってあなたがたを選び、油を注いだと告げた。私があなたがたを選んだのは、あなたがたが、私の教えを心に刻み込み、それを世界に示す使徒となるためである。

53. 時は過ぎ去ったが、あなたがたはまだ何の功績も積んでいない。あなたがたは、倒れた者を立ち上がらせるために、腕を伸ばさなければならない。闇の中にいる同胞たちに、明るい日の光を示し、私が常にあなたがたと人類の中に現れてきたことを彼らに悟らせなければならない。

54. 第一の時代、私はモーセを通じて、あなたがたをファラオの隷属から解放した。私はモーセを私の民の先頭に立たせ、約束の地、カナンの地へと導かせたのである。

55. 第二の時代には、神聖なる師であるイエスが、わたしの心構え、臨在、そして力を示してくれた。しかし、人間は自らの利己主義と物質主義ゆえに、わたしを拒絶した。

56. 現代において、あなたがたは再び奴隷となっている――もはやファラオの奴隷ではなく、誘惑の奴隷である。なぜなら、誘惑はあなたがたを服従させるために富、快楽、権力を与えたからであり、あなたがたの多くは弱さゆえに堕ち、光の道から逸れてしまったのである。 私があなた方から恵みを奪ったわけではない。あなた方自身が、私の律法を全うしなかったことによって、その恵みを自ら遠ざけてしまったのだ。しかし、理解に欠けるこの世界はそれに気づいておらず、人々は自分たちが作り出した業を、同胞に押し付けている。

57. 「最初の者たち」が陥った誤りはどれほど大きく、また、あなたがたも、あなたがたに語りかけたのはまさに同じ神であり、したがって、あなたがたが受けた教えも律法も異なるものではなかったということに気づかなかったために、同じ誤りに陥ってしまったのか。

58. ただひとりの神が常にあなたがたに御自身を現してこられた。わたしは決してあなたがたを見捨てたことはなく、常にあなたがたの心に寄り添ってきた。イエスは第二の時代にわたしの神聖な愛を明らかにし、師として、律法への従順の模範をあなたがたに示した。わたしはあなたがたに祈りを教え、道を示した。

59. この第三の時代において、神の御心は成就しつつある。なぜなら、あなたがたは、私の教え、すなわちあなたがたの魂のための

永遠の命のパンを受け取ったからである。しかし、私はあなたがたに、1950年以降、人間の知性を通じてはもはや私の言葉を聞くことはできず、ただ魂の成長を通じてのみ、私と霊と霊との間でつながることになると告げてきた。

60. 私は、あなたがたが自らの責任を省み、理解し、慣れ親しんだ日常の惰性を捨て、魂が前進することを許すようにと、この3年間、伝達者たちを通じて私の啓示を託してきた。しかし、あなたがたの多くは依然として眠り続け、理解も高揚も得られずにいる。

なぜ、イスラエルよ、あなたがたは、私が与えた詳細な教えの研究と解釈に専心しなかったのか。盲人たちは依然として光を見ず、あなたがたは足の不自由な者たちを癒やして、彼らが私に従うようにすることができなかった。そして、大衆は混乱し、果たして真の道を見つけたのかと自問している。

61. あなたがたのうちの多くは、私の律法を履行していると信じていたが、それは大きな誤りである。なぜなら、彼らは同胞に悪い手本しか示していないからだ。彼らが原因で、人々は混乱し、偶像崇拝を育み続け、様々な人間の想像を通じて真の神を探し求めているのである。

62. 愛する民よ、あなたはわたしの啓示の終わりに、まるで親を失ったかのように取り残されるだろう。しかし、「第二の時代」の時と同様に、あなたがたは、わたしが去った後に、わたしを理解するようになる。もはやわたしの言葉を聞くことができなくなった後、あなたがたは、わたしがしばしば教えてきたことを悟るだろう。しかし、あなたがたの目覚めは遅すぎるだろう。

それゆえ、民よ、私は父なる心の深い痛みをもって、あなたがたに律法の遵守と従順の欠如を指摘する。私は、明日、人類があなたがたを、私の神聖な恵みに値しない民と見なすことを望まない。しかし、多くの人々は——あなたがたのように私を聞いたことがなくても——私のメッセージを信じ、私を愛するだろう。

63. 私はあなたがたの誤りを指摘したのは、あなたがたが私の業を真理の光に従って示していないことを理解させるためであり——あなたがたが自らを新たにし、私から受けたものを世界に明らかにするためである。

64. あなたは、私が慈愛に満ちた父であるからこそ、イスラエルよ、すなわち「私」である私が、あなたがたの過ちを責めることはなく、あなたがたを私のマントで覆い、世に真の弟子、兵士、そして明日の教師として知らしめなければならない、と述べた。 もし私がそう行動したなら、イスラエルよ、私は自らあなたたちへの愛を

拒むことになるだろう。なぜなら、その時が来れば、あなたたちは言葉や行いによって私の真理を証しすることができなくなり、そうなれば、未来の人類は私の啓示を否定することになるからだ。 の完全さは、決してあなたたちの不完全さと混ざり合ったことはないのだから。

65. わたしはあなたがたに、愛と憎しみ、わたしの光と闇、謙遜と傲慢が争うこの時代において、あなたがたが謙遜の側にあるのだと告げた。 しかし、明日、あなたがたが目を覚ましたとき、無駄にしてしまった時間を悟り、心の中に限りなく深い悲しみを感じるだろう。そしてその時、あなたがたは、私の真理を伝えるために準備を整えてきた「声の担い手」たちの使命を、真に評価できるようになるだろう。

私の平安が、あなた方とともにありますように！

教え 349

1. 愛する民よ。あなたがたはこの時代に私が来ると信じてきた。そして、私の啓示の最後の日々においても、あなたがたは私の言葉を渇望して、疲れを知らずに急いで私のもとへやって来る。多くの者が招かれた。私はすべての人にこの泉の水を授けたが、私を聞き、理解した者はわずかであった。しかし、私は自らを現し、全世界に愛を注ぎ出した。

2. 第二の時代において、わたしはあなたがたにこう告げた。「見ることなく信じた者たちは幸いである！」そして、この時代においても、わたしはあなたがたにこう告げる。「わたしを見ることなく、信じ、わたしの業に忠実であり続けたあなたがたは、祝福される！」

3. 私の到来は、あらかじめ告げられていたのだから、あなたがたにとって驚きであるべきではなかった。しかし、あなたがたは私がいつ来るのかを知らなかった。

第二の時代に私が去った後、私の言葉は弟子たちによって書き留められ、彼らはそれを他の新しい弟子たちに伝え、世界中に広められた。

私の再臨という約束は、私に直接従った者たちにとって、過酷な闘いにおける励みであり、美しい希望であり、知識を渇望する彼らの魂の糧であった。そして、世代から世代へと、私の弟子たちは、師の再臨を目にすることを待ち望んでいた。

しかし、見よ、世代は次々と続いていった。数多くの存在が地上に転生するためにやって来たが、その約束が現実となるのをこの目で見ることなく、彼らはあの世へと帰っていった。 何世紀も、いや何千年もの歳月が過ぎ去った。しかし、その時が告げられ、私の霊的な臨在が新たな時代を切り開いたとき、私は、人々が私の言葉を心から消し去ってしまい、私の再臨を待ち望んで目を覚ましていた者はごくわずかであることに気づいた。

4. わたしは、派手さを排し、ひっそりとあなたがたのところへやって来た。しかし、わたしが自らを現したその方法は、多くの人々を驚かせ、ある者にとっては疑いの種となり、またある者にとっては嘲笑の的さえとなった。 しかし、鋭敏な精神と明晰な知性を持ち、忍耐強く待ち続けた者たちだけが、私が自らを現すために選ぶあらゆる形において、私を感じ取ることができた。とはいえ、その約束はすべての人に与えられたものであり、その成就もまた、すべての人に向けられている。

5. これが、この時代における私の啓示である。人間は、いつの時代も私の声を伝える者であった。 私が人間を選んだのは、人間が私の子であり、私の作品だからである――これが理由だ。そして、この子は、まだ完全にはなっていないため、私の に値しないと感じているかもしれないが、私はその不完全さの向こう側に、私の精神の一部であるその光の粒――私の言葉を伝えることのできる、知性ある存在、すなわち私が特に愛する被造物――を見出している。

6. 人間であるあなた方は――果たして、自分の「良い」子供たちだけを愛しているのでしょうか。私は、親たちが、病んだ子供や道を踏み外した子供たちを、その苦しみから解放するために、より深い思いやりをもって支えているのを見てきました。 私は、謙虚で素朴な男女、罪人や無学な人々の中で、この使命を果たすために、この時代を選んだ。なぜなら、彼らの中に私は感謝の心を見出し、彼らは自らの使命を立派に果たすために、自らを清め、高みへと昇ることを知っていたからである。

7. もし私がこの時代に、イエスを通して行ったように、あなた方に語りかけるために人間として現れなかったとしたら、その理由は次の通りである。 あなたがたは、今日、これほどまでに物質主義に染まり、自分たちが生きるこの世界で恐れを抱き、弱まっている自らの霊の声を聞き、それに従うことさえできない状態で、果たして私の霊的な声を聞き、神聖な言葉を感知し、理解することができただろうか？

8. それゆえ、私は人間を選び、彼に霊的な能力を授け、私の声を伝える者とならせた。そして、この啓示を通じて、私は信仰を見出し、多くの人々に理解されてきた。しかし、他の人々は不信仰のままであった。

9. 私は霊界が同じように人間に現れることを許し、霊界の存在たちと肉体を持つ者たちとを結びつけた。

10. あなたがたは、あらゆる苦難の杯の「味わい」を味わい、痛みも平和も知ることが必要である。そうしてすべてを知り、それをあなたがたの存在の一部とするためである。なぜなら、私はあなたがたが真の弟子となり、言葉よりも行いによって教えることを望んでいるからである。 模範は言葉よりも力があり、あなたがたは私の業をすべての隣人に届ける必要がある。これこそが、それを広める最善の方法である。

11. 忍耐強く働き、最後まで揺るぎなくありなさい。何ものも、あなたがたの道を阻んではならない。あなたがたが和らげるべき痛みは大きく、あなたがたが取り除かなければならない闇は多いから

だ。何よりもまず、あなたがたは父と自分自身を信頼し、あなたがたの賜物の価値を認識しなさい。

12. イエスが第二の時代に、御自身に従う人々の群れに向けて御言葉を語られたとき、彼は一つの教えの中ですべての人、そして一人ひとりに語りかけ、 彼に近づいた者たちの内なる生活を明らかにされた。 しかし、人々がイエスの御前に持ち出した様々な願いや苦境、意図にもかかわらず、イエスの賢明で的確かつ明快な御言葉は、常に痛みを癒やし、問題を解決し、疑念を払拭した。 一部の人々の準備の整っていない心は、その言葉を吸収することも、その意味を解釈することもできなかったが、「肉体」よりも感受性が高く、神聖な輝きに敏感な霊魂は、それらの教えを受け入れ、熟考し、肉体との戦いに打ち勝った後、ついに信じるようになった。 なぜなら、より高次の師、すなわち無限の慈愛に満ちた父のみが、人々の内面で繰り広げられているドラマを見抜き、その魂を鎮め、慰めることができたからである。

13. 多くの人々は、弟子たちが師と共に暮らす姿を見て、イエスが成し遂げたのと同じような業を彼らにも期待していた。しかし、彼らがまだ、霊的に成長し始めたばかりの幼子に過ぎず、主の偉大な教えを理解しようと努力しているだけであることに気づくと、しばしば失望した。しかし、イエスはまだ群衆に向かってこう言っていなかった。
「この弟子たちの言うことを聞きなさい！」とまだ言っていなかった。イエスは説教の間、彼らを教師として紹介することはなかった。彼らはまだ、後に輝きを放つために磨かれつつある石に過ぎなかったのだ。

14. 弟子たちは、イエスの御言葉を聞こうと近づいてくる幼い子供たちを追い払おうと、どれほど頻繁に試みたことか――自分たちは正しいことをし、それによってより深い敬虔さを保っているのだと思い込んでいたが、子供たちもまた弟子たちの仲間入りをしなければならないことを理解していなかったのだ。そうしたことが起きたとき――子供たちが母親たちと共に立ち去っていくのを見て、彼らはどれほどの痛みを感じたことか！

15. イエスに従う民は、イエスや弟子たちの行いを常に注意深く評価していた。ある弟子が剣を抜いて師を守ろうとしたとき、その行動は群衆から非難された。 しかし、イエスは忠実な弟子たちを、ある日まで引き続き導き、訓練し続けられた。その日、イエスは彼らにこう言われた。「わたしは、あなたがたをわたしの代わりに残

しておく。それは、わたしがあなたがたにしたことを、あなたがたが人々に施すためである。」

16. 彼らのあらゆる不完全さ、過ち、無知は、まるで不要な衣のように脱ぎ捨てられ、彼らを遣わした方の賜物と権威を身にまとうようになった。 こうして彼らは師に代わって行動できるようになり、たとえ民から容赦なく詮索されたとしても、彼らに非難すべき点など見つからないだろう。彼らの 主の教えを宣べ伝えるために必要な高みに達するまで、彼らはどれほど自分自身と闘わなければならなかったことか！しかし、まことに、あなたがたに告げる。彼らの模範は決して消えることのないものである。 彼らは私の業を証しするために、その道のりでどれほどの謙虚さと愛を広め、その模範は人類にとってどれほど実り豊かで祝福に満ちたものであったことか。何世紀も経った今も、彼らの名と記憶は人々の心の中に生き続けており、私は「第三の時代」、すなわちその後の時代に、彼らが私の真理を証しすることを知っていたからこそ、彼らの偉大な業を証しするのだ。

17. 今日、私が「第二の時代」と同様に、再び弟子たちや幼子たちに囲まれている今、私は同じようにあなた方を備えさせ、恵みと力を授けている。あなた方は彼らと同様に、狼の中にいる羊のように取り残されるだろう。しかし、落胆してはならない。また、偉大な業を成し遂げ、人類に模範を残すことが不可能だと思ってもならない。

18. あなたがたは知らず知らずのうちに徳ある生活を送り始め、その歩みは、ますます深い理解へと、そしてあなたがたの使命のさらなる開花へと導いていくでしょう。あなたがたは、自らの模範が持つ力や、使命の遂行に専心するときに及ぼす影響を、まだ知らないのです。

19. 私は、苦難と厳しい試練の中を突き進むこの謙虚な民の行いが、この人類の未来において、輝く文字で刻まれるのを見ている。

20. あなたがたの愛と慈悲の行いは、どれほどの闇を払拭し、あなたがたの霊性の高まりの力の前では、どれほどの狂信の祭壇が崩れ落ちるだろう！ なぜなら、あなたがたは、私の平和と愛の教えを、視線に、唇に、心に、そして精神のあらゆる能力の中に宿すことになるからだ。

21. 今日、わが言葉がまもなくこの形では語られなくなる今、私はあなたがたにこう告げる。これらの啓示が途絶えるからといって、あなたがたの心が冷めたり、互いに疎遠になる理由にしてはならない。あなたがたは、使命を果たすにあたり、まだ独力で戦うこと

はできない。まだ、互いに温もり、命、そして励ましを与え合うことに頼らなければならないのだ。 私は、去った後も、あなたがたが集まりを続けるよう見守りたい。なぜなら、私はこれからもあなたがたの働きを導き、これらの愛すべき集いにインスピレーションを注ぎ込むために身を捧げるからである。私は、あなたがたが今そうしているように、忍耐をもって私の言葉、私の新たな啓示に引き続き向き合ってほしいと願う。なぜなら、神聖な光はこれからも、あなたがたすべてに限りなく降り注ぎ続けるからである。

22. 私の教えを学ぶ際には、いかなる論争や激情も避け、決してな判断力を曇らせないようにしなさい。敬虔さと高揚である霊性こそが、常にあなたがたの集まりを支配すべきであり、あなたがたは自分たちのことだけを考えるべきではない。 病める者、弱き者、あるいは人生に疲れ果てた者たち――彼らが実践する様々な信仰において失望を経験している者たち――霊的な糧への飢えと渇きを抱く者たち、その願いが理解されないために屈辱を受け、身寄りのない者たちを、あなたがたの真ん中に招き入れなさい。 すべての人を愛し、彼らをここに招き入れ、集いの中で彼らに慰めを与え、彼らの傷を癒やし、彼らが祈れるよう助け、そして皆が一つになって祈りを捧げ、私のもとに来なさい。私を父として、また医師として求めなさい。そうすれば、その行為だけで十分であり、私は癒しの香油を注ぎ、あなた方に奇跡を授けるであろう。

23. あなたがたの集いが霊的であればあるほど、より大きな奇跡が現実のものとなるのを見ることになるだろう。あなたがたの中から、わたしの教えを正しく解釈する者たちが現れるだろう。そして、彼らがその解釈をあなたがたに伝えるために語る時、わたしは彼らを啓発し、その瞬間に彼らに霊感として与えられる言葉を彼らに告げるだろう。 しかし、誰も虚栄心から語ってはならない。そうしてこそ、自らの貴重な賜物を奪われることがないのだ。

24. 私がこの時代に、この啓示を授けることによって、あなたがたの備えに報いてきたように、将来の時代においても、あなたがたの向上と、私の業に対する熱意のために、同様に恵みを授けよう。あなたがたがそう行動すれば、私の再臨を知ったとき、私のメッセージを知りたいと願う男女があなたがたの元を訪れ、私があなたがたに教えたこと、そして第三の時代に私が人類にどのように語りかけたかについて、熱心に尋ねてくるでしょう。

しかし、「黄金のペン」たちが現在執筆しているその書物――すなわち、声の伝達者が言葉へと落とし込み、それが書物のページに集められ、大切に守られているその霊感こそが、パンを渇望するす

べての人々、そして魂の糧を求めるすべての人々に、私が残す聖なる遺産となるのである。

25. これらのページを、忘却の片隅に放り投げてはならない。なぜなら、それらは、あなたがたの唇がまだ必要な雄弁さをもって語ることを知らない、戦いの日々において武器となるからだ。あなたがたの弱き記憶が私の教えを忘れてしまっても、これらの印刷された言葉は、私があなたがたに教えたのと同じ説得力を持って語りかけるだろう。 この教えの光は、あなたがたが証しをする人々の心に浸透し、彼らは深く心を揺さぶられ、聖霊としての私の啓示を信じるようになるだろう。

26. あなたたちにとって戦いの時が訪れ、民が力強く勇敢に、信仰に燃えているのを実感することになるだろう。その時が来たかどうかを知るために、あなたは周囲の人々に尋ねる必要はない。むしろ、あなたの父があなたに向けて発する呼びかけを感じるだろう。預言者たちは、その責任が終わることはないため、目を覚ましているだろう。彼らの霊的な目は、畏敬と愛をもってあの世界へと入り込み、そこから、民を正しい道へと導くしるしをはっきりと見ることになる。そして、この世においても、その成就の時を告げる出来事が起こるだろう。

27. すべてを説明し、明らかにするこの簡潔で明快な言葉によって、すでに理解していないことが、あの時代について、さらに何を知りたいというのか。あなたがたもまた、同じ明快さをもって教え導き、人々の真の教師であり助言者となるべきである。

28. 各地はあなた方をその守護者として仰ぎ、預言者たちは信仰を得ることになるでしょう。あなた方の慰めとなり、癒やしとなる言葉は病める者たちから切望され、あなた方の助言は切実に求められ、試練の時にはあなた方の祈りと執り成しも同様に求められるでしょう。

29. これほどまでに、あなたがたの使命を果たすのにふさわしい美しい時があるだろうか！ あなたがたの魂が花開き、賜物を開花させるための、なんと素晴らしい機会であろうか！ これまで無益に生きてきた多くの人々が、有益で意義ある行いを行うことによって、善において強くなり、立ち上がっていく姿を見るとき、あなたがたはどれほどの幸福を感じるだろうか！

これこそが、あなた方の使命です。隣人を救い、その人が失っていた光を取り戻させ、神の恵みにあずかることを実感させること。その人が自ら奪っていたすべてのものを再び手に入れ、神の平安、神の知恵、そして神の愛の所有者となるのです。

30. この時代に向けた準備には、神秘主義も人間の理論も含まれてはならない。あなたがたは、カルトや形式主義の従者となるのではなく、活動の時へと踏み出す、素朴な教師でなければならない。

31. 人類が今や霊的な生活へと目覚めつつあることを理解せよ。まもなく、その進歩を明らかにする大きな出来事を目撃することになるだろう。長い間敵対してきた国々が同盟を結び、互いを認め合う姿を見ることになるだろう。多くの対立する民族が融合していくのだ。 霊性化に根ざさない教え――それらはかつて人々を支配してきたが――は、かつてそれらを救いをもたらすものとして と称していたまさにその人々によって排除され、高きものへと向かう新たな教えが現れるだろう。 それらは最も純粋な霊性へと至る前兆となる動きであるため、私はそれらが広まることを許す。しかし、あなたがたが地上でこうした出来事が現れるのを見れば、人々の精神が、また別の大きな時代の終わりに至る準備ができていることを知るだろう。

32. 今日「賢者」と呼ばれる多くの人々は、その時代には頭を悩ませ、動揺するだろう。一方、正義を愛するゆえに迫害され、屈辱を受けてきた人々は、その均衡と道徳的再生の日々において、自らの渇望や、救いをもたらす理想が輝きを放つのを目にするだろう。

33. この惑星において、霊的な命は完全に顕現し、その影響をすべての人々に実感させるだろう。そして、かつて唯物論者であった者たちは、口を閉ざし、書物を閉じ、霊的な目を開いて、自分たちが否定してきたその命を見つめ、大衆に対して閉ざしていた扉を開くことになるだろう。

34. 彼らは、私の光が地球全体に輝き、すべての魂が照らされているのを見るだろう。宝庫は開かれ、その内部を覗き見たいと願う者は、ほんの少しの愛をもって準備さえすれば、誰でもそうすることができるだろう。

35. そうして人類が私の教えを知り、その真意を理解したとき、人々はそれに信頼を置き、それが正義と愛、そして隣人への敬意をもって生きたいと願うすべての人にとって、確かな道であり、導き手であるという信念を強めるだろう。

この教えが人々の心に根付くとき、それは家庭生活を照らし出すだろう。すなわち、親を徳に励まし、夫婦を忠実さに導き、子供たちを従順にさせ、そして教師たちを英知で満たすことになる。 統治者たちを寛大にし、裁判官たちに真の正義を行使するよう促すだろう。科学者たちは啓発されたと感じ、その光は人類全体とその精神

的発展に関する偉大な秘密を彼らに明らかにするだろう。このようにして、平和と進歩の新たな時代が始まるのである。

36. スピリチュアリズム――私がこの教えに付けた名称である――は、神秘主義でも狂信でもありません。この教えは、礼拝の簡素化と、魂の最も純粋な高揚を勧めています。それはあなた方をその道へと導き、一歩一歩、真理の道へと踏み出させてくれるのです。

37. わたしを理解し、わたしの教えの真髄を少しでも悟っている者は、なんと少ないことか！ わたしの弟子たちの中にも、先祖の伝統や慣習に固執しようとする姿勢――すなわち、民が備えを進める上での妨げとなっている多くの習慣や儀式を手放すことへの恐れ――が見て取れる。 しかし、私はその小さな者たち、その弱い魂たちを助け、彼らが強くなり、最初の弟子たちに追いつけるようにする。なぜなら、あなたがた全員が、ただ一つの決意の下に団結すべきだからである。

38. この民の使命は、説教を行い、その道筋でわたしの言葉を蒔き散らすことによって、この世の平和のために働くことである。そうして、この地上の谷が天の故郷の反映となり、その住民たちが、わたしの王国に住む義人たちの姿に似るようになるためである。

39. この世でその目標を達成するためには、あなたがたは戦い、苦しみ、涙を流さなければならないが、その戦いの中で勇気を失ってはならない。人間の心の不完全さや厳しさによって、あなたがたは揺らぐこともあるだろうが、同胞を裁いてはならない。 第二の時代において、わたしの弟子たちは、いかなる隣人に対しても非難を行わなかったことを思い起こせ。わたしだけが、わたしに従う者たちの行いを正し、裁いた。もし誰かが、他者の行いに憤りを感じ、わたしの元に来て、「主よ、なぜあの兄弟は罪を犯したのですか？このことで彼に何が起こるのか、彼の人生の歩みにどのような影響が及ぶのか？」と尋ねてきたとき、私はこう答えた。「もし彼が罪を犯したのなら、あなたも同じ過ちを犯してはならない。また、自分がより完全であり、私によりふさわしいという感覚を得るために、彼に罰が下ることを期待してはならない。」 また、私が弟子たちと共に最後の晩餐を祝った日、ユダが行った行いは皆に知られていたにもかかわらず、私の臨在は沈黙を命じ、誰も彼を非難せず、誰も彼を不義者や裏切り者とは呼ばず、誰も彼を叱責したり、恩知らずだと言ったりしなかった。 沈黙が保たれたのは、弟子たちがすでに師からこの教訓を学んでいたからであり、ユダを問いただし、裁いたのは、彼自身の良心だけだったのだ。

40. だから、この時代において、あなた方もそうあるべきである。たとえ他者がどれほど無知で過ちを犯しているように見えても、裁いたり、非難したりしてはならない。 あなたがたの願いをわたしに委ね、良き弟子としての義務を果たしなさい。模範を示しなさい。なぜなら、あなたがたが虚栄心なく、誠実にそうするならば、周囲の人々の心に共鳴を見出し、やがて彼らが同じ道を歩み、同じ導きに従う姿を見ることになるだろうから。

41. 民よ、目を覚まし、祈りなさい。団結と平和のために努めなさい。あなたがたはすでに今年の最後の日々を迎えている。わたしはあなたがたが団結している姿を見たいと願っている。わたしは、すべてのひな鳥がその翼の下に保護を見出したヒバリであった。そうして、あなたがたが散らばらないよう、これからも温もりを与え続けたい。あなたがたが、後続する人々を導くことを真っ先に理解できるよう、わたしはしばしば教えを授けてきた。 彼らの間には、まだ信仰が確固としていない者もおり、あなたがたが彼らを助ける必要があることを心に留めておきなさい。そして、私の言葉を何度も聞いてきた者たちの中にも、弱い者がいるのだ。 彼らに私の言葉を繰り返し伝え、道から逸れないよう温もりと命を与え、そして自らの行いをもってこの世界の平和のために尽力しなさい。祈りなさい。そうすれば、その祈りは隣人の人生を照らすことになるでしょう。そして、あなたの魂は平和のヒバリへと変容し、師のように大地の表面を飛び回り、善意を持つすべての人々に私のメッセージを届けることになるでしょう。

42. しかし、種を土に蒔いたその瞬間に、その実りを期待してはならない。私はあなたがたに、霊的な種は、あなたがたが畑に蒔く種と同じ場所で発芽するわけではない、と告げた。物質的な種が七日で発芽するとしても、霊的な種は、七秒で芽を出すこともあれば、永遠の七つの段階を経て芽を出すこともあるのだ。 あなたがたは愛をもって種を蒔き、育てなければなりません。そうすれば、いつの日か、永遠の命に属するあなたがたの霊魂は、自ら蒔いた種が発芽し、成長し、花を咲かせ、実を結ぶのを見る喜びを味わうことになるでしょう。それだけでなく、たった一粒の種を蒔いただけなのに、その実が何倍にも増えるのを見ることになるのです。

43. このようにして、私はあなたがたには理解できないことを教え、説明し、あなたがたを日々強くしている。なぜなら、私はあなたがたが精神的に強く、肉体的に健康である姿を見たいと願っているからだ。

44. 弱さや病を感じている者は皆、私の御臨在によって力を得、私の慰めを感じ、自らの使命への信仰と信頼をもって立ち上がれ。まさにこの信仰こそが、身を引き締め、さらに前進するための支えとなるのだ。 もしあなたがたの苦しみが長く続くならば、私が与えるその力によってそれを乗り越えなさい。もしあなたがたが周囲の人々の痛みを見て、それを取り除きたいと思うなら、慰めの源のもとに来なさい。そうすれば、その痛みはすぐに平安と微笑みに変わるでしょう。死などない場所に死を見出してはなりません。なぜなら、私は命そのものであり、人間であるあなたがたは皆、私の中に生きているからです。

45. 霊界に住む存在たちのために祈りたいと思うなら、彼らを呼び、 それらの存在たちに近づくために、日や時間を決める必要はない。あなた方を彼らと結びつける愛からそうしなさい。そして、彼らが霊的な生命に属し、永遠に生き、時の流れに支配されていないことを心に留めなさい。

46. 今、互いに近しいその世界と交わりを持って生きなさい。愛の絆をより強固なものにしなさい。そして、地上においてあなたがたと結ばれていた存在たちが、霊的な階段においてあなたがたよりも高い位置にいるならば、彼らはあなたがたの人生において助けとなるでしょう。 逆に、彼らがまだ遅れをとっており、あなたの祈りや助けを必要としている場合——あなたが彼らに示せる手本として——彼らを助けてください。そうすることで、あなたはこの世界に調和と平和をもたらすことになるのです。

47. 愛する者たちと再び会いたいという焦りを露わにしてはならない。この焦りは、彼らの姿や顔、振る舞いを目の当たりにして、ほんの一瞬でも彼らに喜びを感じたいと願う人間の心から生じるものである。 その焦りを抑え、真の霊的徳をもって、その再会の喜びに満ちた瞬間が来るまで待ちなさい。そうすれば、その後、あなたがたは皆、私の右手に導かれる同じ道を共に歩むことになるでしょう。

48. あの世の存在たちのために、目を覚まし、祈りなさい。あなた方から何も必要としない者たちにとって、あなた方の祈りは、挨拶となり、口づけとなり、霊的な抱擁となるでしょう。しかし、あなた方の助けを必要とする者たちにとって、あなた方の祈りは、試練と償いの道において、癒やしとなり、解放となり、愛撫となり、そして励ましの声となるでしょう。 本来あるべき安息の地、すなわち彼らが属し、待ち受けている世界へと昇ることができなかった霊的存在たちが、祈りによって引き寄せられるこの世からの声を聞き

取るとき、彼らは眠りから目覚め、死からよみがえり、救いへと向かっていくでしょう。

49. しかし、人類は、これらの存在たちの生活を照らし出すことも、彼らの物質化を解消することもできない。人類には、彼らを圧迫している良心の呵責と苦痛の鎖を断ち切る力はない。

光を持つあなたがたよ――祈り、このあなたがたにとって未知の世界に憐れみを示し、彼らが解放され、本来属すべき命への道を歩み始めるよう助けてください。彼らの存在を恐れて後ずさりしたり、彼らを恐れたりしてはなりません。 私は、あなたがたが共に祈り、私のもとに来るために、あなたがたを一つに集めます。そうして私はあなたがたを迎え入れ、すべての人を包み込むために広がらなければならない平安を授けるでしょう。なぜなら、あなたがたは皆、私の深く愛する子供たちだからです。

50. わたしの神聖な御霊が、あなたがたを抱きしめ、祝福します。あなたがたが光と力と知恵に満ちあふれるよう、わたしの言葉を受け入れ、わたしの御心を知るためにその言葉に深く入り込んでください。わたしは、あなたがたが受け取ったものを大切に守り、それを正しく解釈できるようになることを望んでいます。

51. わたしの愛の表れを通して、あなたがたは、わたしがあなたがたに命を与えているのを感じたはずです。あなたがたはわたしの温もりと守りを感じ、もはや冷たさを感じることなく、信仰と希望に満ちた存在となっているのです。

52. わたしの言葉の一つひとつは使命であり、わたしはあなたがたがそれを果たすために急いで立ち出してくれることを望んでいる。質素で謙虚な被造物たちを通して与えられたわたしの預言は成就し、あなたがたはそれについて証しをすることになる。

53. わたしの業のために、あなたがたのうちの多くの者が不当に非難されるだろう。しかし、あなたがた自身でその件に介入してはならない。それをわたしに委ねなさい。そうすれば、わたしがあなたがたを守ってあげる。ただ、この光を広め、謙虚であるよう努めるだけでよい。 あなたがたが攻撃される時はいつでも、私が与えた武器、すなわち愛と敬意と謙虚さを用いなさい。あなたがたへの批判が激しくなればなるほど、私はあなたがたの中で私の力をより強く示すであろう。 そして、この世を超えて霊界を覗き見る賜物を持つ者たちよ――私の言葉を裏付けることで、弱い者たちを力づけてください。また、高きあの世の声を聞くために高みへと昇る賜物を持つ者たちよ――私のメッセージを伝える準備をしてください。こ

れらの高次の啓示は、たとえ最大の試練にあっても、あなたがたの魂を支え続けるでしょう。

54. あなたがたの行いは、永遠に記録され続ける。それゆえ、私の奉仕に身を捧げたあなたがたは、知性と語りの賜物を正しく用いなさい。

55. わたしは、あなたがたがそれを蒔き、育てられるよう、教えを種として与える。準備の整ったあなたがたの心が、その働きを始める時が来たと感じたなら、立ち上がり、飢えたすべての人々と分かち合いなさい。そうすれば、その種は実を結び、増え続けるだろう。

多くの人々は、その精神がまだこれらの教えを理解する準備ができていないため、福音を正しく受け入れることができないだろう。また、その貴重な実を盗んで悪用しようとする者もいるだろう。しかしその後、彼らは後悔し、「放蕩息子」のように私のもとへやって来るだろう。それでも私は、彼らが無知のゆえに失った種を補い、善意を持つすべての魂がそれを手に入れるようにする。

56. もしあなたがたが、私の教えの中に、あなたがたの精神が必要とするすべての光と励ましを見出すことができるようになれば、あなたがたは最後まで私に従うことになるだろう。あなたがたは疲れを感じることもなく、私の言葉を広めるという使命を妨げられることもなく、また、不運な出来事によって揺らぐこともないだろう。一つの教訓を理解したら、次の教訓を深く探求し、私があなたがたに学び、養いを得るために残した「無限の教訓」という書物を読み進めなさい。そこから生きるために必要なものを引き出しなさい。私の弟子として生きなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 350

1. 私は、人類を代表して、イスラエルの民の小さな群れであるあなた方を受け入れます。あなた方は、私の調べに耳を傾け、物質という枠を超えて見渡すために、この世から身を離しています。私は、あなた方を私の庇護の下でその道を歩ませます。そして、あなた方一人ひとりが、地上の道の終わりに達した時に躓かないよう、ランプを携えることになるでしょう。

かつて、あなたがたの魂が肉体から離れ、私のもとへ昇り、その行いを私に捧げる時が来れば、あなたがたは皆、自分の行いや歩みが「人生の書」に記されているのを見ることになるでしょう。そして、私と共に、その行いを裁くことになるのです。

2. 今日、わたしはあなたがたの魂が、その使命を果たすために自由であることを望んでいる。奉仕の心を持って、わたしの霊感に耳を傾け、人生の旅の終わりが近づいていること――それはまさに目前にある――を視覚し、感じ取り、あなたがたがまもなく、わたしが与えるべき報いを受け取ることを実感してほしい。

わたしはこう告げよう。「わたしのもとに来なさい――人間の知性を通じてわたしの言葉を聞き分けることができた者たちよ、わたしの戒めの中で生き、愛と赦しを蒔いてきた者たちよ。」

3. 心の中に私の言葉を宿し、人生においてそれに従う者は皆、私の王国を所有し、健康と霊感、そして預言の賜物を持つことになる。このようにして、私の弟子たちは、無学であろうと学識豊かであろうと、貧しかろうと富んでいようと、子供であろうと大人であろうと、私の律法を実践することができるようになる。

無学な者は啓発され、知恵をもって語るようになる。この世で何一つ所有していない者は、霊的に高まり、世の富に対して無関心になるため、すべてを所有しているかのような感覚を抱くようになる。その人は、自分には持っていない者たちにも自分の宝を分かち合うことができるため、その心は喜びで満たされるだろう。 そして、魂が深く発達した子供たちは、確固たる口調で語り、その証言は新たな入信者たちの信仰に火をつけるだろう。

4. わたしから学んだ者たちよ――謙虚であり、忍耐強く教え、人々の過ちを赦しなさい。

5. 私は、あなたがたが、私と最高の完全さをもって交わることができる新しい世代に命を与えるよう、あなたがたを準備してきた。その時、人々は私が彼らのもとに来るのを目撃し、彼らの魂の中に私の王国が築かれるのを見るだろう。

6. 警戒を怠らず、あらゆる試練に備えて生きなさい。 今日、あなたがたは人類の苦しみと、あなた自身の苦しみを私の前に差し出している。しかし、私はあなたがたに言う—— 。その杯を取り除き、平安を感じ、それを伝えなさい。私はあなたがたを慈しみ、喜びを与える。もしあなたがたが、ある魂を苦しみや悪徳から解放すれば、あなたがたはさらに一段階昇り、神聖な業において師と共に働いたという喜びを感じるだろう。

7. わたしの天使たちが、あなたがたと共にありますように。あなたがたの主であるわたしが、あなたがたの道のりを共に歩みます。

8. 今、私はあなたがたの心に聖域を築いている。私は、豪華な住居や、人間の無益な贅沢を求めはしない。私は、私の呼びかけに耳を傾ける、質素で、優しく、謙虚な心を形作っている。

9. 私が人間の知性を通じてあなた方とつながりを保つのは、あとわずかな間だけである。私は、あなたがたが明日、世界に平和をもたらすことができるよう、準備を整えている。私の慈悲は、道に迷った者たちを破滅から救い出す。もし私が清らかな魂だけに目を向けるだけなら、私は父とは言えないからだ。義人たちはすでに私の王国に住んでいるのだから。

10. 人間は、様々な信仰観を通じて私とつながろうとしたが、霊的には停滞してしまった。それゆえ、私はあなたがたに私の言葉を託したのだ。そうして、あなたがたが明日、立ち上がり、人々が自らの不完全さを映し出せる澄んだ鏡となるためである。

11. わたしはすべての人の心に非常に近い存在であるが、人々はわたしを理解しなかった。あなたがたがわたしを理解できるよう、わたしはあなたがたの言葉で語りかけてきた。もし、より洗練された言葉で教えを説いたとしても、あなたがたはわたしを理解できなかっただろうからである。それゆえ、弟子や信徒たちが混乱したり、わたしの愛を拒絶したりすることがないよう、わたしは平易な言葉で語りかけるのである。

12. あなたがたの準備と刷新によって、人類は善を受け取るだろう。なぜなら、そのように備えられたあなたがたの一人によって、祈りだけで、人類を苦しめている災難を食い止めることができるからだ。

13. あなたがたが理解できなかったことを、私は説明する。そうすれば、明日、あなたがたもまた、人類を完全に明瞭に教え導くために旅立つことができるだろう。もし千の知性の器が鍛え上げられていれば、私はそれらを通して私の教えを広めるだろう。

14. 第二の時代において、私は十二人の子供たちを選び、彼らを私の使徒とした。彼らは私に従うために財産を捨て、家族のもとを去った。

また、私が「この世の富を捨て、十字架を背負って、わたしに従いなさい」と言ったあの者も、私のそばにいました。しかし、彼は富を手放すことを拒み、私にこう言いました。「主よ、私はあなたに従うことはできません。」

15. わたしは慈悲そのものであり、あなたがたに犠牲的な死を求めることはない。なぜなら、わたしの弟子たちもまた、自らの意志、すなわちわたしの神の律法への従順に基づき、人の漁師となるために旅立ったからである。

16. 今日、あなたがたはわたしの弟子である。しかし、あなたがたが喜びと慰めと平安を得られるように、わたしの言葉をあなたがたの心に宿らせてほしい。

17. 第二の時代に、姦淫の女が群衆に追われていたとき、私がその追跡者たちに「あなたがたのうち、罪のない者が、まず石を投げなさい」と言ったことを思い出してください。同様に、この時代においても、私は再びその姦淫の女を赦します。 それゆえ、私はあなたがたに、隣人の事柄に干渉してはならないと告げる。彼らを裁くために裁判官になってはならない。なぜなら、あなたがたに対しても、私はこう言うからだ。「あなたがたのうち、罪のない者は誰か？」

18. わたしは光であり、慈悲であり、あなたがたに何が欠けているかを知っている。それゆえ、無防備な人類はわたしのところに来る。そして、わたしは彼らにこう言った。「その苦しみを耐えられるものとしなさい。わたしはそれを知っているからだ。わたしは慰めであり、慈悲であり、赦しである。」

19. この時代、人類は自ら育んできた観念によって方向を見失い、混乱している。そのため、あなたがたの多くは、第三の時代における主の御臨在を疑ってきた。しかし、わが子らよ、私はあなたがたに告げる。心構えを整え、この言葉が私の神聖な御霊から発せられたものであることを理解せよ。

20. 私は、あなたがたが人間の知性を通じて私の神性が啓示される形を理解できるよう、光を与える。 この語り手は、私を通じてあなたがたに語りかけるために、私が用意した単なる道具に過ぎない。聖書には、私が自らを明らかにするために来ると記されている。すなわち、私は、純真な心、不器用な知性、雄弁ではない唇を用いて、あなたがたに律法、正義、そして愛について語るのだ。

21. 私はいつの時代も、大きな光を宿した魂たちを地上に転生させるために送り続けてきた。それは、彼らの模範と愛によって、人類が混沌、憎しみ、そして混乱から救われるためである。

22. 愛する民よ、わたしはあなたに、あなたがたもまた「第二の時代」の使徒たちのように、人を救う者へと変えられるだろうと告げた。 愛と、苦しむ者への憐れみを胸に、あなたがたは旅立つだろう。その道中で、いったいどの心があなたがたを拒むだろうか。迷える魂は、その渇きを癒すために、私の教えの光と水晶のように澄んだ水を受け入れるだろう。

23. 悪がこれ以上はびこることを許してはならない。若者たちは滅びつつあり、乙女たちはその繊細な若さのうちに泥沼に引きずり込まれている。同胞たちに憐れみを持て。人類が今まさに飲み干そうとしている苦難の杯を見よ。

24. 私の預言は今、成就しつつある。それゆえ、あなたがたには、準備を整えておくようお願いする。そうすれば、あなたがたの使命を果たすべき時が来たとき、弱さを感じることはないだろう。

25. 今、私は、諸国へ遣わすべき者たちを選んでいる。彼らは、私があなたがたに託した教えの使者となるのだ。私があなたがたの肩に負わせるこの十字架を、重荷として受け止めてはならない――それは輝かしい十字架であり、担いやすいものである。

私は、最初の人から最後の人まで、あなた方を私の働き手に変えていく。私の霊の軍勢があなた方を見守り、もしあなたがたが戦いに赴き、第二の時代の使徒たちのように地上の所有物を捨て去るならば、私は人類を回心させるために必要なすべてのものをあなた方に与える。

26. わたしは象徴的に、14万4千人の「印された者たち」が、わたしの選民であるイスラエルを構成すると告げた。あなたがたは世界に救いの舟を示すことになり、あなたがたを媒介として、わたしは人類に平和と慰めを与える。

27. あなたがたに苦痛をもたらすのは、わたしではない。あなたがたの苦しみの根源は、あなたがたの不完全さと不従順にある。 わたしはあなたがたにこう言った。「目覚めよ、愛する民よ。試練があなたの扉を叩いているからだ。」しかし、あなたがた全員が目を覚まし、祈り続ければ、試練は取り除かれるだろう。そして、誘惑があなたがたに迫っても、その罠には陥らないだろう。

28. あなたがたが試練を無事に乗り越えられるよう、わたしは自分の光をもってあなたがたに印をつけた。この賜物は、この世のあらゆる富や宝よりも価値がある。それは、この第三の時代に、わた

しがあなたがたの魂に刻んだ神聖な口づけであり、それによって、あなたがたは、人生における最大の不幸や最も困難な瞬間にあっても、わたしの平安を感じることができるのだ。

29. この賜物には、あなたがたが肉体や魂の病を癒やすための癒しの香油が含まれている。それは、自然の力が解き放たれたときにそれを食い止める力があり、不和や な戦争を平和へと変える武器を持っている。それはあなたがたの霊的な遺産の一部であり、この時代に活用し、開花させるべきものである。

30. あなた方の心は、人生において何か偉大なものを持ちたいと願っていたが、それが、この世の所有物や富ではなく、精神の賜物であることを知らなかったのだ。

31. 人が抱くことのできる、天の父に似るということ以上に大きな志があるだろうか。まことに、あなたがたに告げる。これこそが、あなたがたが抱くべき最大の願いである。

32. あなたがたの主に似ることは、決して不可能なことではない。それゆえ、わたしはかつて人間としてこの世に生まれ、わたしの生涯と模範を通じて、あなたがたが愛と正義において神聖な御霊に似るよう教えるために来たのである。 まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、私のようにあることを目指して自分の人生を捧げるならば、他の道ではむなしく探し求めていたあの幸福と平安を見出すことになるだろう。そして、その平安は内面的なものにとどまらず、外面的なものにもなる。なぜなら、今のように過ちがそうしているように、もはやあなたがたの良心が、一歩一歩、毎日、非難を浴びせる必要がなくなるからだ。

33. わたしを愛し、イエスにおいてわたしを手本としなさい。あのガリラヤの謙虚な師を通して、わたしの力、知恵、そして富が、この世のものよりも偉大であることを、わたしがあなたがたに示したことを思い出してください。なぜなら、わたしのすべての業は、すべてのものを創造した命、力、そして光の源である愛から生まれたものだからです。

34. 同様に、この第三の時代において、私の業を手本とする者たちに勝利がもたらされることを、私はあなたがたに告げる。なぜなら、あなたがたが戦うための武器は、私があの時代に用いたものと同じものとなるからである。

35. 私がイエスを通して「私は世の光である」とあなたがたに告げたように、私もまた、あなたがたが隣人の人生において灯台のような存在となり、その存在が常に慈愛に満ち、その影響が癒やしとなることを望んでいる——すなわち、あなたがたの思いが清く、感

情が誠実であることを。 そうすれば、人生がいかに軽やかであるか、この地上の生き抜く闘いがいかに容易であるか、そして隣人に仕えることがいかに美しいかを、あなたがたは体験することになるでしょう。そうして、あなたがたは功績によって「光の子」となるのです。

36. わたしの言葉の影響を受けて、あなたがたの心にはどのような志が芽生えているのか。もしかすると、この世の哀れな野心だろうか。いいえ、愛する民よ。わたしの言葉は、あなたがたの中に、真理の道において魂を高めようとする高貴な願いを呼び覚ますのである。

37. また、私があなたがたを貧しく、泣きじゃくり、惨めで病み、ぼろぼろの服を着て、あるいは飢えに苦しむ姿で見たいと思っていると誤解して、私の教えを誤って解釈することのないように願う。 いいえ、私が望むのは、あなたがたが な物質的な生活の闘いを、霊的な使命と調和させる方法を学ぶことです。そうすれば、この世で必要なものを手に入れつつ、同時に、霊が自らの賜物を発揮し、使命を果たすための時間を、ほんの少しの間でも確保できるようになるのです。

38. わが民よ、わたしはあなたを準備している。あなたが人類の中でこの時代の預言者――すなわち、わたしが来るべき出来事を告げ、あなたたちにわたしの命令と指示を与えるための、良き預言者となるために。

39. わたしはあなたがたに告げる。もしあなたがたが、いつの日か欺瞞や嘘をまき散らすようなことがあれば、痛みと涙をもってその汚名を洗い流さなければならない。そして、あなたがたの嘘が広まるほど、またそれらが引き起こす害が大きければ大きいほど、あなたがたの浄化もまた大きくなるのである。人類の間に悪を広める者たちが、果たして正当に「光の子ら」と名乗ることができるだろうか。 いいえ、愛する弟子たちよ！

40. 日々、わたしの教えを受けにやって来る人々の群れよ、わたしはあなたがたにどれほどの光を与えたことか。もしあなたがたがうたた寝をしてしまい、ある試練に一瞬にして不意を突かれ、つまずいてしまうようなことがあれば、それは公正ではないと肝に銘じておきなさい！

41. 痛みで満たされたあなたがたの心は、私にこう告げる。「師よ、あなたは私たちを、不誠実や裏切り、あるいは失敗をする者だとお考えなのですか？」しかし、私はあなたがたにこう答える。そう、民よ、確かに私は、あなたがたが約束を破る者だと見なしてい

るのだ。「第二の時代」の十二人の弟子たちのうち、私が提示した王国がこの世のものではないと確信したとき、私をこの世の司法に引き渡した者が一人いなかったか？ ペトロは、百人隊長が私を逮捕したその瞬間、師をそのように守り、書かれているよりも長く師のそばに留めておきたいという思いから、百人隊長に致命的な一撃を加えなかったか？ 私が「常にあなたがたと共にいる」と何度も約束していたにもかかわらず、トマスは私の霊的な臨在を疑うことを敢えてしたではないか。なぜ私が今日、あなたがたを疑ってはいけないというのか。確かに、試練の瞬間に誰もが私の言葉を無視するわけではない。なぜなら、今日でもあの時代と同様に、忠実な者たちがおり、義務を重んじる者たちがおり、従順で強い者たちがいるからだ。

42. 弟子たちよ、この時、私があなたたちに言うのはただ一つ、「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈りなさい」ということだけである。

43. イスラエルよ。私があなたがたの心が冷めているのを見ると、私の霊は悲しむ。そして、私が刷新と従順への決意を見る時、私の霊は喜びで満たされる。

1950年以降、激しい嵐があなた方を襲うことを、私は知っている。しかし、あなた方は、 にある私の言葉の光によって、あらゆる災いから救い出した、選ばれた民である。あなた方の間からも、不誠実な言葉が数多く耳に入ってくるだろうが、私は、私の選ばれた者たちの間に混乱が生じることを望まない。 しかし、こうした出来事の中で、わたしの真理は偽りを一掃し、聖霊の光によって、あなたがたは強くなり、わたしの業を守る術を知り、他者から混乱を遠ざけることができるでしょう。なぜなら、あなたがたは光の子らだからです。

44. わたしが世の光であるように、あなたがたも人類の中で光でなければならない。人々は、わたしの霊感に耳を貸さなかったために苦しみ、泣いている。しかし、あなたがたこそが彼らを導くべき者たちである。あなたがたは旅人のオアシスとなり、柔和に彼らにわたしの平安を与えなければならない。

45. もしあなたがたが備えを怠るならば、わたしは「最後の人」が「最初の人」となることを証明し、たとえその者がわたしの言葉を聞いていなくとも、その心にわたしの律法を刻み込むであろう。

46. まことに、イスラエルよ、わたしはあなたに告げる。あなたがたは、他の人々に光と平安を与える助言者となるべきである。あなたがたは、適切な時にわたしの業を守り、最も反抗的な者の心に

も柔和に語りかけるべきである。そうすれば、彼らが柔和な子羊のようになるのを目にするだろう。

かつて陥った過ちを再び繰り返してはならない。それは、あなたがたの魂に後退をもたらしただけだからである。光と教えをもたらすために、団結せよ。

47. 子供たちが善と悪の結果を正しく理解できるようにしなさい。私があなたがたに示した模範を、子供たちにしっかりと伝えなさい。彼らを準備させなさい。彼らは、明日、私に仕える者たちの一人となるのだから。私が望むのは、あなたがたが喜びと安らぎに満ち、善のことだけを考え、私の聖霊の光に導かれる姿を見ることです。

48. 私はあらゆる瞬間に、あなたがたをあらゆる過ちから守っている。同様に、あなたがたも他者のために祈らなければならない。至る所に苦しみがあるのを見なさい。見捨てられた子供たち、泥沼に引きずり込まれた若者たち、妻の不貞など。しかし、もしあなたがたが、罪を犯し、人々から非難されている女性に出会ったなら、彼女に真の道を教え、彼女を取り巻く恨みや動揺から遠ざけ、彼女が新たに生まれ変わるよう導きなさい。

49. イスラエルよ、この世に憐れみを示しなさい。私が「第二の時代」にこの世に語りかけたように、あなたたちもまた、同じように私の言葉をこの世に伝えなさい。

50. わたしは人類に「第三の聖約」を残す。そこには知恵の宝が収められており、それはあなたがたのもとに届く。なぜなら、わたしはあなたがたを、その宝を受け取るにふさわしい者とさせるからである。あなたがたの汚点 には目を向けず、わたしは愛であり、完全さそのものだからである。しかし、エリヤはあなたがたの魂をますます清めていくだろう。

51. あなたがたは、わたしに耳を傾けるために、この世から身を引いた。わたしは謙虚な者たちのそばにいて、彼らの心に聖所を築き上げている。第二の時代において、わたしはあなたがたに語りかけ、愛と慈悲と赦しの教えを与えた。しかし、世は自らの理解に従って、他の信仰告白を作り出した。それでも、父であるわたしは、すべての子供たちを照らし続けてきた。

あなたがたのうちの多くの者が、私にこう言います。「父よ、私の同胞たちは、もしかすると誤りに陥っているのでしょうか？ それなら、なぜ彼らに道を示してくださらないのですか？」と。しかし、まことに、私はあなたに告げます、祝福された民よ。あなたたちを照らした光——私があなたたちに与えた教えは、すべての人に等

しく与えられたものです。しかし、人々は自らの自由意志に従い、私を受け入れようとはしませんでした。

私は子供たちを強制はしない。一人ひとりが自らの意志に基づき、自らの努力によって私の道にたどり着かなければならない。なぜなら、私は今、全人類を照らしているからだ。私を受け入れた者もいる――それは、祝福された民イスラエルである。他の者たちには、直感を通じて道を示し、また啓示を通じて、彼らは第三の時代の光を受け取っている。

52. 私はいつの時代も愛を説いてきた。愛は、私が全力を注いだ防護壁だからである。心に愛を持って生きる者は幸いである。その者は、次第に人生のあらゆる問題を乗り越えていくからである。人生において愛を胸に抱き、その歩みの中で愛を現す者は幸いである。なぜなら、その行いは、その者自身にとっても、他者にとっても祝福となるからである。

53. わが子らよ、私を父として、また霊として認識しなさい。そうすれば、もはや偶像崇拝の中に私を求めることはなくなるだろう。あなたがたは常に、聖霊の光として私を魂の中に宿しているのだ。

54. あなたがたが慈悲を実践するとき、私はその慈悲の中にいます。そして、あなたがたが私のすべての使命を果たすために立ち上がる時、幸いなことよ、祝福された民よ。私の祝福は永遠にあなたがたの中に留まるからです。

55. あなたがたは、もはやこれらの媒体を通じてわたしの言葉を聞くことはなくなるだろう。しかし、この期間はあなたがたの魂を準備するために定められていたものであり、1950年を過ぎれば戦いが始まる。わたしはあなたがたから離れることはないが、あなたがたが霊化することは必要である。なぜなら、準備を整えた者たちを通じて、わたしはこれからも霊から霊へと自らを現していくからである。 預言者たちは引き続きわたしを見るだろう。そして、 霊性へと向かう者たちには、わたしは直感を通じて語りかけ、彼らの中にその直感が宿るだろう。

56. 祝福された民よ。第二の時代において、わたしは弟子たちにこう言った。「天と地の一切の権威が、わたしに与えられている」。まことに、あなたがたに告げる。どこへでも行き、わたしの言葉と、わたしの愛と、わたしの教えを伝えなさい。

57. 同様に、今、私はあなたにこう言う、祝福された民よ。あなたがたは準備の整った弟子たちである――あなたがたは、地上のあらゆる道を歩み、私の言葉と愛を伝えなければならない者たちであ

る。 再び、心に疑いを抱き、「あなたがたが受けたものはすべて嘘に過ぎなかった」と言う者が立ち上がるだろう。彼らが信じるためには、再びわたしの脇腹の傷に触れる必要があるだろう。

58. 私は、長い間私の教えを聞いてきたにもかかわらず、私の弟子ユダ・イスカリオテのように私を拒絶し、私の業を売り渡す者を見ている。 しかし、私はそうした心たちに近づき、私の正義によって彼らから虚偽を取り除いてやる。なぜなら、私の業は清く純粋であり、何の欠点もないからだ。それはその完全な清らかさをもって、すべての心と魂の中に復活するだろう。それが私の御心だからである。

59. 父のもとに来なさい。あなたがたのために用意された祝宴に来なさい。この食卓には、あなたがたの魂のための永遠の命のパンがある。わたしは弟子たちを準備している。そうすれば、明日、あなたがたは、父のもとに行っていたこと、そしてあなたがたが自分の心を父の聖所として整えたゆえに、父があなたがたの心に住まわれていることを証しすることができるだろう。

60. あなたがたは、私の宝庫から「死者」に命を与える力を授かった者たちである。それは、あなたがたが師に似るためである。

61. もしあなたがたが、私が教えた通りに備えることを知っていれば、私の霊的な恵みがあなたがたと共にあり、あなたがたが到達する霊性によって、周囲の人々は、あなたがたが光の子であり、私の高貴な資質を内に宿しながらも、最も謙虚な姿を見せていることを悟るでしょう。

62. 愛する民よ、高みへと登りなさい。あなたの魂の進歩を妨げてはならない。あなたの師が与えてくれた教えを活かし、それを心に刻み込みなさい。なぜなら、人間の知性を通じてわたしを聞き取ることができる瞬間は、ほんの一瞬に過ぎないからである。

63. 来るべき世代のために『第三の聖書』を準備しなさい。大勢の人々がやって来るだろう。そして、あなたがたが準備を整えていれば、私の聖霊の導きのもと、彼らに語りかけることになるだろう。

たとえ話

64. 広大な土地を所有するある主人が、一本の力強い木にたどり着いた。その木の下には、水晶のように澄んだ水の泉があった。そこで彼は、通りかかった旅人たちを呼び止め、その木の木陰で休んで、泉の水で喉の渇きを癒やすよう招いた。

65. その主は、その旅人の中から七人の男を選び出し、彼らにこう言われた。「あなたがたは私の恵みを求めた。そこで、私は今、あなたがた一人ひとりにこの土地の広大な区画を託す。あなたがたは、この種を蒔き、それを育て、豊かな収穫をもたらすよう、良き働き手としてその土地で労苦し、働かなければならない。 なぜなら、人々の群れは膨大であり、彼らは飢えと渇きに苦しんでいるからだ。」それから、その主は彼らに種と農具を託し、自分が去った後も彼らが人々の群れを受け入れられるよう、木と泉の世話をすべきだと皆に告げ、さらにこう付け加えた。「畑を整え、そこにこの黄金の種を蒔きなさい。 豊かな収穫を得られるよう、この泉の水で畑に水をやり、その果実が常に良い味を持つよう、その力強い木を育てなさい。皆で協力して働き、そして空腹で喉が渇き、疲れ果てた人々の群れがやって来た時には、彼らに木陰と、その果実の甘さを差し出しなさい。 彼らにパンと水を与え、彼らが力を取り戻し、私の平安を心に抱けるようにしなさい。」その主は男たちに向かってこう言われた。「私は今、ここを去るが、あなたがたは私の存在を心の奥深くで感じ続けるだろう。私の視線はあなたがたを見つめ、私の耳はあなたがたの声を聞き続けるのだ。」
たとえ話の終わり

66. まことに、わたしはあなたがたに告げる。この第三の時代において、わたしは自分の働き人たちを呼び寄せ、彼らにその嗣業を授けた。それは、あなたがたが父のように祝宴を準備し、わたしの言葉に飢え渇く者たちを迎え入れるためである。彼らは、あなたがたを介して、わたしがあなたがたに託した霊的な宝を受け取るであろう。

67. あなたがたは、霊的な囲いへと導かれたわたしの羊である。この時代にあなたがたを導く羊飼いは、エリヤの霊である。誰もこの羊飼いを見ることはできないが、誰もがその存在を感じている。それを自覚している者もいれば、知らない者もいる。

68. 私がその権限を持つ者として第六の封印を解いた直後、エリヤは『いのちの書』の第六章を開いた。

69. 第六の封印は、あなた方に何を明らかにしたのか。この時代に世界に示すために、その書はどのようなメッセージをその懐に秘めていたのか。それは、霊的な生活、自己認識、あなた方のあらゆる特質の啓示、霊的賜物を開花させる方法、知性を通じた霊的な啓示、そして霊から霊への啓示である。

70. あなたがたの魂は、啓発されたと感じ、使徒や天使たちに守られていると実感しているため、歓喜に満ちている。 あなたがたの羊飼いに忠実でありなさい。そうすれば、この地上の旅路の全行程において、今あなたがたを包み込んでいるこの祝福された平安を感じることができ、彼がこの異教的で偶像崇拝的、物質主義的な世界に対して私の正義を宣言するとき、身を隠すために逃げ出す必要はなくなるでしょう。 そう、民よ、エリヤはあなたがたの中にあり、偽りの神の祭司たちを再び試練にさらし、どちらが真の神であり、どのようにその神を崇めるべきかを改めて彼らに示すだろう。しかし、エリヤは人間となるために来るのではない。 霊的存在が地上でその存在を現すために、人間の肉体は必ずしも必要ではありません。ましてや、ある世界と別の世界との間の扉を開く鍵を手にしているエリヤにとってはなおさらです。

71. 霊界は、自らの存在と現存を人々に証明するために、さらに人々に近づいてくるだろう。至る所で、新たな時代が幕を開けたことを執拗に告げる兆し、証拠、啓示、そしてメッセージが現れるだろう。

72. 争いが生じ、人々の間に動揺が広がるだろう。なぜなら、宗教の指導者たちは、それらのメッセージを信じる人々に恐怖を植え付け、科学はそれらの*事実を*虚偽であると断じるからである。

それを受けて、一般の人々は勇気を奮い起こし、自分たちが受け取った証拠の*真実*を証しするために立ち上がるだろう。科学に見放されながらも、霊的な方法で健康を取り戻した人々が立ち上がり、奇跡的な治癒や、無限の力と絶対的な知恵の啓示について証言するだろう。

一般の人々や無名の人々の間から、その言葉が光に満ちて神学者や哲学者、科学者たちを驚かせる男女が公の場に現れるだろう。しかし、論争が最も激化し、貧しい者たちが屈辱を受け、彼らの証言が高慢な者たちによって否定される時、 、エリヤが学者たち、貴族たち、支配者たちを問いただし、試練にさらす瞬間が訪れるのだ。

その時に、偽り者や偽善者たちには災いがある。なぜなら、完全な正義が彼らに降りかかるからだ！　それは裁きの時となる。しかし、多くの魂がそこから真の命へと立ち上がり、多くの心が信仰へとよみがえり、多くの目が光へと開かれるだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 351

1. わたしは光であり、愛であり、慈悲であり、赦しである。あなたがたの幸福と人類の幸福のために必要なものを、わたしから受け取るために、ここへ来なさい。

2. 師の周りに集う愛する弟子たちよ。あなたがたは、私の知恵を受け取り、人生に方向性を与え、私があなたがたに託した使命を果たすためにここに来ているのだ。

3. もし師が、私の知恵のすべてをあなた方に語ったとしても、あなた方は決してそれを理解することはできないだろう。それ以前に——私があなた方のために宝庫に秘めておいたものを発見するに足る、あなた方にはどのような功績があるというのか？　あなた方を私の神聖な霊感を受け取るにふさわしいものにするのは、魂の高揚である。

4. あなた方は成長してきた。そしてこの期間、私はあなた方がすでに理解できることを明らかにしてきた。しかし、あなた方の理解に制限を設けているのは私ではない——私からより多くを受け取るためには、あなた方自身がさらに高みへと昇らなければならないのだ。

5. 私があなたがたに教えたことは、あなたがたの使命が何であるか、また、あなたがたに語りかけた方の教会を自らの内にどのように築き上げるべきかを理解するには十分である。そうして、人類の世界観を統合し、この教えを「第二の時代」におけるイエスの教えや、「第一の時代」の預言者や悟りを開いた者たちが語った言葉と結びつけることを理解できるようになるためである。

6. 私がこの時代に到来したのは、多くの者が期待していたような肉体的な姿ではなかったが、あなたがたは、人類を第二の時代および第三の時代の私の教えを理解へと導く者となるべきである。

7. わが民よ。この形でのわが啓示を終える時は近づいているが、あなたがたはさらに備えを固めなければならない。

8. この世には多くの誘惑がある。しかし、あなたがたが私の業をより深く理解し、肉体を制御するにつれて、ますます完全さに近づいていくであろう。

9. 霊性を高めよ。そうしてこそ、あなたの魂は、到達すべき目標である永遠の完全性への昇華の道を歩み続けるために必要な高みに達することができるのだ。

10. 第二の時代の私の言葉を思い出してください。「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」と。しかし今、私はあなたがたにこう

言います。「あなたの体には体にふさわしいものを与え、あなたの魂には魂にふさわしい高揚と進歩を与えなさい。」

11. 今、私の「言葉」は人間となってはいない。それは「霊的な形で」、雲に乗ってあなたがたのもとへやって来て、あなたがたには理解できなかったことを啓示するのだ。

12. 長年にわたり、誘惑はあなたがたの道のりにその姿を現してきた。それは、あなたがたを真の道から逸らし、混乱させ、方向感覚を失わせようと熱心に努め、それによってあなたがたの心に不安を残してきた。

13. 啓示と直感を通じて、私はこの世界にメッセージを与え、準備の整った人々、選ばれた魂たちを遣わし、彼らを媒介として人類に語りかけてきた。そして、あなたがたの心が準備を整えるたびに、あなたがたは私の霊を宿してくれた。 私は、教えとして、また慈悲と平和として、あなた方の生活の中に自らを現してきました。しかし、私がその啓示を信じたか否かについては、私は気にかけませんでした。なぜなら、師として、また父として、私が切に願うのは、良心を通じて、またあなた方の内なる平和と高揚を通じて語りかけるその声を、あなた方が見分けられるようになることだからです。

14. 私は、あなたがたの肉体ではなく、魂を救うために来たのである。それゆえ、私は愛をもってあなたがたに語りかけてきた。それは、あなたがたが高揚し、第一の時代の先祖たちのように、第二の時代の使徒たちのようになり、そして第三の時代の私の弟子となるためである。

15. あらゆる発展の段階において、あなたがたの魂は物質化されたままであった。それゆえ、あなたがたは私の愛から遠ざかり、誤りに陥り、私の言葉に別の解釈を与えてしまったのである。

16. あなたがたは今、人間の知性を通じて伝えられるわたしの御言葉を聞くことができる時期の終わりに近づいている。つまり、これが最後となる。しかし、あなたがたがわたしの御言葉を理解せず、それに慣れきってしまい、魂の高揚をほとんど示さないため、わたしの父なる心は痛みを感じている。 しかし、あなたがたの準備不足を理由に、私が今後も人間の脳を通じて御言葉を伝え続けるだろうか？　いいえ、愛する民よ。あなたがたは、私が完全そのものであり、私の御心はただ一つであることを聞いてきたはずだ。

父の御心が、果たして人間のようなものであり得るだろうか？もしそうであれば、私は完全ではなく、あなたがたの創造主でも、あなたがたの神でもあり得なかっただろう。私の言葉と御心が成就

しないことなどあり得ない。むしろ、王の星が輝きを失うことの方が先だろう。

17. すでに最初の時代において、預言者たちはこの恵みの時代を予告していた。そして今、この時代において、私は聖霊の光によってあなたがたの魂を整え、あなたがたが日々ますます高みへと昇っていくようにしている。

18. あなたがたは、私の言葉を声の媒体を通じて一度も聞いたことがなく、また私の普遍的な光の顕現に立ち会ったことのない者たちでさえ、私が彼らの心を整えるために高められるのを見ることになるだろう。そして彼らは、直感を通じて私の神聖なメッセージと指示を受け取るようになる。彼らは、第二の時代の使徒たちのように、私を愛するようになるだろう。 彼らにおいては、「最後の者が最初の者となる」という私の言葉が成就するであろう。

19. イスラエルの諸部族よ、あなたがたの使命を果たしなさい。人類に対する責任を自覚しなさい。あなたがたが私の律法の伝達者であり、私があなたがたに託したスピリチュアリズムの教えの使者であることを認識しなさい。

20. イスラエルよ、一つ心、一つの意志となって、団結し、熱意を持って歩み出し、私の律法と神聖な御心に従いなさい。私があなたの救い主であることを、あなたは知っているはずだ。

21. わたしは、わたしの教えをあなたがたの心に刻み込み、わたしの神聖な輝きは、あなたがたの魂において、あなたがたを強め、活気づける生命の源となってきました。それは、あなたがたが使命の成就に取り掛かり、人類に対して年上の兄弟姉妹のような存在となり、従順と柔和さをもって、わたしの道へと彼らを導くことができるようにするためです。あなたがたは、明日の教師となるべき者たちなのです。

22. あなたがた「最後の者たち」よ。わたしの民を未知の存在として見なしてはならない。この時代、わたしは人類が彼らを通してわたしの慈悲を得られるよう、これらの魂を転生させるために遣わしたのである。

23. この世にはどれほどの混乱があり、どれほどの欺瞞があることか。それは、人間の脳が私の律法に従う代わりに、唯物主義、異教、偶像崇拝に陥り、不十分な人間たちが、あえて「私の神性の代理人」と名乗り、私の神聖な声、私の愛、そして私の光の代弁者であると称したからである。 しかし、私は彼らが利己主義、闇、狂信、虚偽、不和を助長しているのを見ている。だが、私は完全そのも

のであり、あなたがたが赦しを得られるよう、霊性と愛の道を示す者である。

24. 物質主義と偶像崇拝が世界を支配している。それゆえ、人類は誘惑に負けて堕落してしまったのである。

25. 師は、人類に私の真理を語るために、誰を用いるだろうか。それは、私が選んだ民であるイスラエルである。

26. 霊的に師の周りに集まれ。あなたがたは私の弟子たちであり、私はあなたがたに、開かれた書物のように私の教えを与え、それに伴い聖霊の光の明晰さをも与えた。それは、あなたがたが私の言葉を理解し、それに従い、消えることのない文字としてあなたがたの心に刻み込むためである。 あなたがたは光の子らであり、自らの行いを通じて人類に霊性、愛、そして信仰を示すことで、 人類に良き模範を示すべき存在である。

27. 師は、この第三の時代に霊的にあなたがたの元へ来られ、人間の知性を通じて御言葉を授けておられる。この教えは、光の一筋のようであり、あなたがたの魂を目覚めさせ、これがあなたがたの神であり主である御声、すなわち、その子を呼びかける父の御声であることを理解させるために到来したのである—— 教えや模範、崇高な原則の中に言葉として溢れ出る師の声であり、それによって、あなたがたの魂が、わたしの神聖な霊の特質を身にまとっているのを見出すことができるようにするためである。

28. 愛する民よ。わたしは、あなたがたにわたしを模範としてほしいと願う——あなたがたが「わたしの姿と似姿」となることを願う。 それゆえ、私はあなたがたのところにやって来て、私の声を伝える者たちの知性を通じて、私自身を明らかにしたのです。私が選び、備え、清めたのは、まさに彼らであり、あなたがたが彼らの霊的賜物を通して私の言葉を受け取れるようにするためです。彼らは堅い岩であり、私はそこから、あなたがたの魂のための水晶のように澄み切った清らかな水を湧き出させたのです。

29. 私はこの時代に、「盲人」たちに私の光を見させ、彼らに新しい日の光を示すために来た。 私は、私の臨在を証しし、私の愛と真理をあなた方に伝え、あなた方の間に疑いが生じないようにするために、あなた方のところへ来た。私が望むのは、あなたがたが私の言葉を聞いたとき、その真意を悟り、信仰と愛に満ちて、あなた方の父のもとへと高みへ昇ることである。

30. あなたがたが自らを汚し、父から遠ざかってしまったことを深く悔い改めることを、私は望む——霊的なものに対して感受性を持ち、あなたがたの心が、父のために備える聖所となることを。そ

うして、あなたがたが父の愛、平安、光、そして永遠の命を自分の中に宿すことができるように。

31. わが子らよ、あなたがたの魂があらゆる物質化から解放されるよう、準備を整えなさい――そうして、あなたがたの目の前の暗い覆いを取り除き、わたしのすべての栄光を見ることができるように。この世の感覚への執着が、あなたがたにわたしの臨在を完全に感じさせず、あなたがたの心の中に注がれたわたしの知恵を高く評価することを妨げてきたのである。

32. 私があなたがたの魂に与えた教えは、なんと完全で清らかなことか。それは、あなたがたが私の霊的な恵みにふさわしい者となり、この宝の相続人となるためである。明日、あなたがたは私の神聖な御霊に導かれて、苦しみ、 に助けを必要とする人類に慈悲を示すために旅立つのだ。そうして、預言はあなたがたにおいて成就するであろう。

私は、あなたがたを通じて、人類に救いの港、すなわち救命ボートを示す。まことに、あなたがたに告げる。地上に生きる諸民族、諸国家、そして大衆は、道を踏み外し、恵みの命を殺してしまったのだ。

33. *あなたがた*はもはや「死者」の一員ではないことを悟りなさい。なぜなら、わたしがあなたがたに命を与えたからである――わたしのもとに来る者は皆、よみがえるからだ。この命とこの力が、あなたがたをわたしとの交わりの中に留まらせてくれるようにしなさい。この光、この栄光から目を背けてはならない。わが子らよ、あなたがたの父の憐れみがどれほど大きいかを悟りなさい。

34. あなたがたは、私が信頼を置いている民である。なぜなら、あなたがたは人類に希望と慰めを与え、その闇を追い払う輝く松明となるからである。 人々は絶望の中でわたしを求めます――ある者は科学を通じて、またある者は偶像崇拝の中で。もし、女性たち、子供たち、若者たち、そして大人たちが、父の臨在を感じられずに嘆き、わたしを呼び求めているのを見たら――すなわち、彼らに平和と慰めと憐れみをもたらすために戻ってくると約束した、その救い主の臨在を感じられずに―― もし、この人類が自らの痛みの中で清められ、浄化されていくのを見たら、あなたがたは、わたしと調和して、この人類のために見守り、祈る準備を整えなければならない。そうして、あなたがたを媒介として彼らがわたしを聞き、わたしの聖霊の光によって照らされるようにするためである。

35. 私は、最も頑なな心でさえも、私の愛の触発を感じられるように導く。そうして、それらがもはや人類に苦痛をもたらす石でなくなるように。

36. 祝福されたイスラエルの民よ、今こそ、あなたがたは備えを整え、困難な使命を果たすために確かな歩みを進めなければならない時である。

37. わたしは、あなたがたを霊的に解放し、あなたがたが背負ってきた重荷を取り除き、この世に縛りつけ、あなたがたの魂がわたしのもとへ昇ることを妨げてきた鎖を解き放つために、わたしの言葉をもって来たのである。

38. あなたがたは、私が義人たちの霊化を見たいと願う民である。

39. 愛と謙遜と柔和さをもって、あなたがたの十字架を背負いなさい。なぜなら、私があなたがたのシレネ*となるからである。人類に良い手本を示し、人々が自らの姿を映し出すことができる澄んだ鏡となりなさい。慈愛深くあり、 あなたがたの力を隣人と分かち合いなさい。 私は、あなたがたが笑顔を通じて、父が与えてくださった愛を世界に示してほしいと願っている。なぜなら、自然の力の容赦なさに直面しても、私はあなたがたを一人にしないからだ。

誘惑や大きな試練があなたの道を阻むであろうこの大きな危険の時代において、あなたは私を非常に身近に感じるでしょう。なぜなら、私があなた自身の中にいるからです。そうすることで、私の神聖な正義の顕現を前にして世界が感じるような恐怖を、あなたが抱くことがないようにするためです。

**スペイン語の原文では、ツィレネウスは「Cirineo」と記されています。これは、イエスが十字架の重みに耐えきれず倒れた際、その十字架を背負うのを手伝った男の名前です。聖書では、彼はキレネのシモンとも呼ばれています。*

40. 律法に背いてはならず、わたしの愛から離れてはならない。この世の悪に染まってはならない。ただ、父から遠ざかることだけを恐れなさい。その恐れこそが知恵の始まりであり、それによってあなたがたは至高の至福を得るからである

41. 常に備えを怠らず、わたしがその手に託した業を見守ることを知る者は、絶えずわたしの宝庫から天の御国の憐れみ、すなわちわたしの祝福を受け取るであろう。そして、その者こそが、人類の前で忠実かつ真実な証しを立てる者となるのである。

42. わたしは、あなたがたが道中で遭遇する迫害から身を守るために、光の武器、すなわち強力な武器をあなたがたに託した。誘惑は、あらゆる瞬間に、まるで猛禽類のように、あなたがたの魂から、わたしが託した恵みと賜物を奪い取ろうと待ち構えている――あなたがたから良き種を取り去り、もみ殻だけを残そうとしているのだ。 誘惑は、あなた方を飲み込もうとする飢えた狼のようだ。しかし、あなた方は、私が与えた真理のうちに生き、自らの模範によって人々にこの道を示す、良き弟子となるべきである。

43. もしあなたがたが目を覚ましておらず、祈ってもいなかったならば、誘惑は竜巻のようにあなたがたに襲いかかり、あなたがたの聖域を打ち倒し、あなたがたの松明の光を消し去り、教えを奪い去った。そうして、あなたがたは私の憐れみを奪われたと感じ、無力であり、私の御前でまるで被告人のように感じた。 あなたがたは泣き、悔い改めの心を抱いた。あなたがたは父に再び憐れみを求めて懇願し、そうして私は再びあなたがたの手に「光の書」を授け、あなたがたの理解を明らかにし、あなたがたの心を整え、新しい衣を与え、こう告げる。「立ち上がり、目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、誘惑に陥ることはない。」

44. 愛する民よ、父が子供たちの従順と義務の履行を喜ばれるよう、団結しなさい。

45. わたしは、あなたがたがただ一人の弟子のようにあり、世界にただ一つの教えをもたらすことを望む。

46. わが民よ、私が御言葉の中であなた方に託した「光の剣」――すなわち祈り――をもって戦い、誘惑に打ち勝ちなさい。 私の愛の炎をもって戦い、雑草を焼き払い、聖霊の光をもって戦い、迷える者たち、無知な者たち、偶像崇拝者たち、堕落した者たちから闇を追い払い、物質的な聖域で私を求め続けた無垢な者たちを導きなさい。

47. このささやかな集いの場を司るあなたがたは、この人々の群れを温かく迎え入れ、私の言葉の簡素さをもって、彼らに私の愛について語りなさい。 あなたがたは彼らに、私が罪人たちを慕って来たのだと告げなさい――彼らを裁くためではなく、彼らが私を知り、彼らの涙をぬぐい、彼らの魂から闇を追い払い、彼らの目の盲目さを癒やし、私の臨在を感じさせ、見させてあげるためである。 このようにして、あなたがたは私の名において、「死者」たちに命を与えるのだ。選ばれた民よ、あなたがたは人類にとって輝く星となるのだ。

48. あなたがたはわたしの言葉を心に刻み込んだ。そして、あなたがたが準備が整ったとき、わたしの神聖な御霊がこの祝福された書物を通じて、あなたがたの隣人たちに伝えられるだろう。わたしは、魂が養われ、強められるよう、このパンを増やしていく。

49. あなたがたの使命の成就は、地上に生きている間だけ心にかけるべきものではない。なぜなら、地上ではその第一歩を踏み出すに過ぎないからだ。あなたがたは、大衆が偶像崇拝から離れ、戦争の武器を捨て去り、心の中にわたしの平和のメッセージを受け入れられるように導かなければならない。 しかし、あなたがたの魂は、肉体を脱ぎ捨てた後もなお、人々が平和と善意を持ち、聖霊の光を内に宿し、高みを求めて霊的に高められるのを見るまで、たゆまず戦い、働き続けるでしょう。

あなたがたは世代から世代へと戦い続け、そのようにして山を登り続け、頂上に到達するまで進むでしょう。そこで、あなたがたは自らの行いの実によって慰めを受けることになるのです。

50. 1950年以降、あなたがたがもはやこの形でわたしを聞くことができなくなっても、動揺してはならない。また、「私はどこへ行けばよいのか？この道において、どのような使命を果たさなければならないのか？主よ、あなたの御心は何なのか？」と言ってはならない。

まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは私の霊感を受け、魂が私を聞き取り、私があなたがたの手を取り、隣人へと向かうために歩むべき道を示すのを感じるだろう。 わたしは、あなたがたの目がわたしを求める者たち――わたしを呼び求める者たち――を見、あなたがたの耳が彼らの声を聞くように導く。そして、わたしを求める者たちが、あなたがたを求めることを、あなたがたは知るようになる。その時、わたしはあなたがたを霊感で満たし、あなたがたを媒介として、その大衆に光を与える。

51. 人類はその苦しみの中で清められ、さらに清められていく。そうして魂が覚醒し、その実が苦味と死を内包していることに気づくようになるのだ。彼らは救い主を求め、迷い出た道を見出すだろう。しかし、この光と平和と愛のメッセージを、私は選ばれた者たちを通して世界に伝える。

52. あなたがたは、神の光がすべての人々の道を照らす、新しい日、恵みの時代に生きている。わたし、師は、あなたがたを迎え入れ、わたしの膝の上で休ませ、祝福する。そして、ここでこの民を慈しむのと同じように、わたしは全世界に祝福と恵みを注ぎ出す。

53. わが弟子たちよ、あなたがたはこの時代のわが教えを聞くために準備を整えた。あなたがたは、かつて私があなたがたに近づいた時と同様に、信仰と希望を持ってここへやって来たのである。

54. 私があなたがたに示す道は、律法の道である——あなたがたがその道を歩む際に安心できるよう、広く、明確に定められた道である。この律法を全うすることこそが、あなたがたの救いの代価である。あなたがたは救われ、この道の終着点に到達し、義人の賜物と力を手に入れたいと願うか。あなたがたには、その目標を達成するために必要なすべてが備わっている。 私があなたがたに美徳を授けたのは、あなたがたが自らの理想を成就するためである。

55. もし、御自身の精神の勝利を勝ち取るための戦いが困難だと感じるなら、あなたがたが持つ力を活用しなさい。もしこの世の不運があなたたちを圧迫するなら、忍耐をもって身を守りなさい。 人々の無理解によって苦しむならば、魂を高揚させ、ここ、わたしとの交わりの中で、 嘆きを静め、この世界に再び平和をもたらしなさい。それは、悩みや復讐心ではなく、良き弟子として愛し、赦す心をもって行いなさい。

56. 私があなた方に授けたこの教えを、あなた方の歩む道で広めなさい。そうすれば、世界はこの教えによって養われるだろう。なぜなら、人々が苦しんでいる飢えと渇きは、圧倒的なものだからである。

57. 同胞たちがあなた方にその苦境を訴えてくるその瞬間を、無駄にしないでください。その魂に慰めを与え、その苦しみ和らげてください。なぜなら、彼らの魂の貧しさや病は、肉体が経験する苦しみよりも、はるかに痛ましく、重苦しいものだからです。

58. 弟子としてのあなた方の言葉には、隣人の心を包み込む霧や悲しみを払いのける力がある。

59. わたしは、あなたがたがわたしに示す、魂を完成させ、人間の知識を超え、神の宝庫へと入ろうとするその祝福された願いを満たすために、あなたがたを呼び寄せた。そして、あなたがたの願いに耳を傾け、あなたがたの進歩を切望するわたしは、あなたがたが幸福を感じられるよう、わたしの言葉を豊かに与えてきた。

60. 今の時代が過ぎ去り、この啓示の記憶だけがあなた方の心に残るようになったとき、あなた方は自らを幸せだと感じるだろう。そして、書物の中で私の言葉を読むとき、あなた方が私の子供として私に寄せている愛と優しさをもって記されたそれらのページに、涙をこぼすことになるだろう。

61. あなたがたが、この人類の前に、わたしの真理の証人として立つ時が、すでに近づいている。 しかし、今この時からすでに決意を固め、勇気を奮い立たせなさい。なぜなら、あなたがたを待ち受ける試練は大きなものだからだ。愛する弟子たちよ、何ものにも臆してはならない！そして、わたしの言葉があなたがたに「愛と真理」というただ一つの道筋を示したように、あなたがたもまた、人類の間にこの種を蒔き続けるたゆまぬ種蒔き人とならなければならない。

62. あなたがたの杖は祈りであるべきだ。それはあなたがたのために善を備え、整えてくれるだろう。 この祈りの中で、あなたがたの準備が整えば整うほど、自分の魂が他の次元、より高く、より崇高な段階へと移りゆくのを感じるでしょう。そして、その次元において、あなたがたは平安を呼吸し、そこに住む存在たち――正義と徳を備えた者たち――から霊感を受け、彼らはあなたがたを私の御前に導いてくれるでしょう。この交わりの中で、私はあなたがたに新たな啓示と使命を与えるのです。

63. 私は、あなたがたが今、長い旅路から休息し、この地上の谷でこれ以上涙を流すことなく、魂を高みへと舞い上がっていくことを望んでいる。

64. 私は、あなたがたに告げる。この世で、人類の利己主義と権力への欲望、愛と慈悲の欠如がもたらす結果として、最大の災難が起こるのを、あなたがたは目撃することになるだろう。イスラエルよ、あなたがすべての自然の力を解き放ち、同胞たちが鞭打たれるのを見たとき、この時代に、あなたは何をなすのか。

この世界では大地震が発生し、大水が堤防を越えて溢れ出し、海の一部は陸地となり、他の国々は大水に飲み込まれることになる。人々は救いを求めて、自らの住む地域から、さらには母国からも避難することになるだろう。 大洪水は、太古の大洪水のように多くの都市を荒廃させ、この厳しい裁きから逃れられるのはごく一部のみとなる。

65. これほど多くの苦難と苦痛から逃れ、この国に救いの箱舟を求めてやって来る人々を、あなたがたはどのように迎え入れるだろうか。あなたがたはわたしの御心に従い、パンと住まいを彼らと分かち合うだろうか。

66. まもなく、世界にとって大きな出来事が起こる時代が始まる。大地は揺れ動き、太陽はこの世界に灼熱の光線を降り注ぎ、地表を焦がすだろう。大陸は極から極へと苦痛に見舞われ、地球全体が

浄化され、その厳しさと贖罪を感じない生き物は一人もいなくなるだろう。

67. しかし、この大いなる混乱の後、諸国は平穏を取り戻し、自然の力も落ち着くであろう。この世界が今生きているあの「嵐の夜」*が過ぎ去れば*、平和の虹が現れ、万物はそれぞれの法則、秩序、そして調和へと戻っていくであろう。

68. 再び、あなたがたは澄み渡った空と肥沃な野原を目にするだろう。川の流れは再び濁りを失い、海は穏やかになる。木々には実がなり、野原には花が咲き、収穫は豊かになるだろう。清められ、健康を取り戻した人間は、再び尊厳を感じ、自らの昇華と、わたしのもとへの帰還への道が整えられているのを見るだろう。

69. 誰もが根本から清められ、浄化され、来るべき新時代を目の当たりにするにふさわしい者となるだろう。なぜなら、私は新しい人類を堅固な土台の上に築かなければならないからだ。

70. この世に美徳が復活するのを待ちわび、降りてきて私が彼らに託した使命を果たそうとしている霊的存在は数多くいる。その時が来たら、彼らを受け入れる準備を整え、 心構えをしておきなさい。そして、慈悲の行いによって、あなたがたの浄化の期間を短縮しなさい。

71. 私はすべての家庭を訪れ、その良心を通じて統治者たちの魂――家長たち、裁判官たち、教師たち――に語りかけ、彼らの中に法を深く刻み込んでいく。

72. 長い間この世を支配してきた悪の支配は、まもなく消え去り、御霊の支配、すなわち人間の中に存在する霊的な賜物や能力の解放に道を譲ることになる。それによって、人間は極めて崇高な使命を帯びることになるのだ。

73. あなたがたのうちの多くは、私が今日告げているこれらの出来事の証人となるだろう。信仰を持つ者もいれば、信じない者もいるが、あなたがたはこれらの言葉が成就するのを見ることになるだろう。

74. これらの預言が成就するのを、目を覚まして待ち望みなさい。試練によって弱まることがないよう、常に目を覚ましていなさい。そして、わたしの言葉を心に深く刻み込んでおきなさい。なぜなら、その一つひとつには、あなたがたが人生でそれを活用する術を知っていれば、あなたがたを救う知恵と力が込められているからである。

75. 祈りを捧げ、私の教えに従って自らを守ることができれば、あなたは霊的な進歩を遂げ、まもなく迎える新たな時代を、自覚を

持って歩み抜くことができるようになるだろう。 あなたがたは、行動の中や集まりの中で私の臨在を感じ、私から霊感を受けて、私の弟子としての尊厳にふさわしい行いを成し遂げるでしょう。

76. たとえ互いに遠く離れていても、霊の兄弟姉妹たちの願いや理想に調和して生きなさい。あなたがたの魂は彼らの魂と一つとなり、あなたがた全員がわたしとの交わりの中で生きるべきである。これがわたしの御心である。

77. わたしの言葉を聞くとき、わたしの励ましを感じてほしい。それは、それを理解できる者すべてにとっての命であり、そうしてあなたがたが明日、わたしの律法を全うする弟子となるため――ソドムやゴモラに糧を与えないためである。わたしは、魂の真の富とは何かを理解し、霊的に高まり、わたしの王国を相続するにふさわしい者となるよう、あなたがたにこの言葉を与える。

78. あなたがたが闇に沈むことのないよう、わたしは聖霊の光をあなたがたに与える。あなたがたが心の中にわたしを住まわせ、それをわたしの神性の聖所へと変えることができるように、わたしはあなたがたに語りかけたのである。

79. この時代、世を養っているものは何だろうか。それは、高慢、虚栄、敵意、そして魂と体を病ませる堕落した快楽である。しかし、わたしはあなたがたをこの肉欲から解放したいと願っている。それゆえ、わたしはあなたがたの魂に、ただ白い衣だけを残しておいたのだ。 人生の旅路の終わりに、私は父なる腕の中であなた方を迎え入れ、こう告げたい。「ようこそ。私の律法に従って生きることを知り、この世から離れ、私の働き手となったあなた方よ。」

80. わたしの言葉を聞き、それを実践する者は皆、わたしの宝庫からわたしの憐れみを受けるにふさわしい者となる。その者は、他者にとって明瞭な鏡となる者である。その者には、癒しの賜物、すなわち預言の言葉が宿る。その者は、わたしの言葉に渇く者たちにとって、水晶のように澄んだ水の泉となるだろう。 わたしは彼の中にわたしの神聖な御言葉を宿し、わたしの癒しの香油を託す。そうして、苦しむすべての人に慰めを与える者となるためである。

81. 私が、彼が定住するあらゆる場所に平和と喜びが満ちるよう導き、あらゆる偶像崇拝と戦うために、彼に剣を託す。

82. あなたがたの子供たちに、未知なるものの中にわたしを求めるよう教えなさい。あなたがたはわたしと共に食卓を囲み、もはや偶像崇拝者ではないのだと、彼らに告げなさい。もし彼らがわたしを拒むなら、彼らを愛し、彼らを赦しなさい。

83. 諸国は国境を定め、戦争に赴き、死をまき散らしている。しかし、私は御霊によって、ある人々を準備するために来た。その人々とは、明日、御霊から御霊へと私を求める新しい世代の一員であるあなた方である。その時には、地上の諸国民はもはや戦争の準備をすることはないだろう。人々は自らの魂の中で私を受け入れるようになる。

84. わたしは、あなたがたが「最初の者たち」となり、福音を伝える準備を整え、隣人たちの模範となることを望んでいる。

85. 汚れのある者はわたしのもとへたどり着くことはできず、そのとき、あなたがたの苦しみは甚大となる。だから、あなたがたが清められることを、わたしは望んでいる。その苦しみを和らげるために、わたしのもとへ立ち上がれ。

私は、あなたがたの魂に安らぎと喜びが満ちるよう——あなたがたが霊的な山の頂へと昇りつめることができるよう——あなたがたから悪を取り除きます。

86. 師と人類への愛を抱き、わたしの慈悲を惜しまないでください。同胞たちを な狂信から解放するよう努めなさい。そうすれば、わたしの霊的世界はあなた方と共にあります。わたしの証人となりなさい。そうすれば、わたしはあなた方を通じて世界に福音を伝えるでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 352

1. 私の霊があなたがたの元に訪れる瞬間は、祝福された時である――その日は、私の光によって道が照らされ、弟子たちが私の言葉を渇望して、これらの集いの場へとやって来る日である。

2. 民よ、私はあなたを受け入れる。ようこそ！

3. わたしはあなたがたの祈りを聞き、その心の底からの願いに応えて、人類の上にわたしの慈悲を広げ、すべての人間が霊的にわたしの愛撫を感じられるようにする。

4. 善意と信仰をもって、あなたがたは心を整え、神の教えを受け入れるために、肉体的にも精神的にも準備を整えた。

5. この準備によって、あなたがたは私の愛の御言葉があなたがたと共に在るようにしているのだ。

6. 弟子たちよ、太古の昔から、私はあなたがたを、今この瞬間にいる地点――すなわち、あなたがたの父との「霊から霊への対話」を理解することを可能にする霊的成長――へと導く道を整えてきた。

7. それによって、私が決してあなた方を無計画に歩ませたことはなく、私の律法を全うするあなた方の歩みが、神の御計画に従っていたことを、あなた方に理解させようとしているのだ。

8. あたかも私があなたがたの影であるかのように――私は常にあなたがたに付き添い、あなたがたが命と真理の道へと歩みを進めるよう、常に助けてきた。なぜなら、ひとたびあなたがたがその道に踏み出せば、私が*あなたがたの*足跡を追うのではなく、*あなたがたが私の*足跡をたどることになるからだ。

9. ここ、わたしの道の上こそが、あなたがたの精神が秘めているすべての賜物を見出す場所となる――それは、旅の途中で待ち受ける数え切れないほどの危険から身を守るために必要な武器を、精神が自らの内に見出す唯一の道なのである。

10. 多くの人々にとって、人生の道は過酷で長く感じられてきた。それは、自分自身の過ちや弱さこそが、自らの存在という十字架をますます重くしているということを、彼らが理解しようとしなかったからである。

11. 彼らには理想と愛が欠けていたため、物質主義的な生活の懐に身を投じた結果、ついには嫌悪感と倦怠感を抱くようになったのである。 この世に嫌気がさしたこれらの魂たち――何世紀にもわたる倦怠感を人間的な部分に投影してしまった者たち――に、私はこの時代に、励ましの言葉を届けた。その言葉は、まるで繊細な彫刻

刀のようで、彼らの心の荒々しい岩塊を少しずつ削り取り、やがて美しく調和のとれた形 へと仕上げていく —— 単なる形や外見だけではなく、真の命、霊的な命そのものである。

12. 私は、この岩からその硬さだけが残ることを望む。それは後に、真理のみが宿る聖所の礎となるだろう——私の律法が守られ、良心の声が聞こえる教会である。

13. この第三の時代に、人間の知性を通じてあなたがたを教えようというわたしの努力は、神聖な忍耐に満ちていた。なぜなら、この啓示が終わったとき、わたしの言葉があなたがた一人ひとりの心に留め置かれることを、わたしは望んでいるからだ。 そうして明日、あなたがたが証しをなすべき時が来たことを悟ったとき、あなたがたの魂がこの本質で満たされていることを感じ、私があなたがたの中に注ぎ込む霊的な霊感を発することを、あなたがたの唇が拒むことがないように。

あなたがたは、大勢の人々に囲まれているのを見るでしょうが、それでも一瞬、孤独を感じることもあるでしょう。しかし、その孤独は外見上のものに過ぎません。なぜなら、私とつながるだけで、内面において私の慈愛に満ちた助けを感じ、さらに、肉眼には見えないものの、魂の感覚には捉えられる光の世界の存在を感じることができるからです。

14. 霊的な命とつながる祈りの秘訣を知っているにもかかわらず、あなたがたは孤独や見捨てられたような気持ちになるだろうか。あなたがたの本質には師の力が宿っているというのに、不運に打ち負かされてしまうだろうか。 いいえ、愛する弟子たちよ、信頼を失い、使命の道で弱気になってはなりません。そうすれば、自分たちを社会から疎外された者だと考え、涙を流すことになるでしょう。しかし、その涙は、あなたがたが自らの内面に抱え、見ようとしなかった宝の上に落ちていることに気づかないまま、涙を流すことになるのです。

15. 今すぐ、あなたがたの宝箱を満たしなさい。しかし、その中に何を収めているか、またあなたがたが所有するすべてのもの、そしてそれぞれの賜物をどのように用いているかを、しっかりと自覚した上でそうしなさい。

16. あなたがたが、ただ口先だけで「私は御国の相続人である」と繰り返すだけではいけない——私が望むのは、あなたがたが、なぜ私の相続人であるのか、そしてその相続財産とは何なのかを、真に理解することである。

17. 自分の魂の中に抱いているものを根底から知っている者だけが、私の業を広めることを理解できる。自分が知っていること、持っているものすべてを自覚している者だけが、大きな試練に直面しても揺るがないでいられるのだ。

18. あなたがたがわたしに耳を傾けているこの期間、霊的に進歩していることがわかる。なぜなら、良心の光に照らして自らを省みれば、道徳的に向上し、信仰が深まり、わたしの言葉から放たれる力を自分の中に取り込んでいることに気づくはずだからである。 しかし、私はまた、あなたがたにこう告げる。今日までに達成したことに満足してはならない。停滞することなく、一歩一歩、完全なる境地へと向かう道を歩み続けなければならないのだ。

19. 今や、あなたがたは自分が歩む道を知り、どこへ向かって歩んでいるのかを知り、高い理想を抱いている。

20. あなた方のうち、どれほど多くの者が、人生の闘いに打ち負かされて、行いに粘り強さを欠き、どこへ向かっていたのかも知らず、目標も救いの希望も持たずにたどり着いたことか。しかし今日、あなた方は信頼と理想に満ちた新しい人生を送っている。これは、あなた方の霊的な道における前進ではないだろうか。

21. 私の光は、信仰と希望の光を持たない魂たちが転落する深淵からあなた方を守るために、かねてよりあなた方の道に輝き続けてきた。

22. 人間に降りかかる苦しみを知る私は、教えをもってやって来て、災難に耐え、誘惑に打ち勝ち、悪や不幸に勝利する方法を彼らに明らかにする。このようにして、あなたがたは私の愛のさらなる現れを目の当たりにしたのである。

23. 私は、あなたがたを一つにまとめ、創世の初めから人類に与えてきた私の約束に従って、新しいイスラエルの民を形成し始めるために、あなたがたのところへやって来たのである。

24. 静寂や瞑想の瞬間に、何か霊的なものが近づいてくるのを感じたことが、しばしばあったのではないだろうか。それは、あなたがたがまだこの地上に来る前から、私の約束があなたがたの魂に刻まれていたからであり、その時が来ると、その直感がはっきりと現れ、あなたがたの道のりにおいて私の臨在の瞬間を感じさせるのである。

25. この予感は、この言葉を聞いたあなた方の中にだけあったのだと誤解してはならない——いいえ、それはすべての魂の中にあったのだ。なぜなら、私の新しい民は、人種、家系、性別、肌の色、言語の区別なく、全人類を構成するからである。

26. 今日、地球上の人々が、史上最も苦い杯としての痛みを飲み干しているこの時、私は、試練を経た後、瞑想し、さらには祈りを捧げている多くの同胞たちを見出した。私は、大罪人や頑なな放蕩者たちでさえも、 自らの行いを止め、良心の声に耳を傾ける準備をしているのを見た。

27. これこそが、御霊が心に私の約束を啓示し、人が心の中で「私の中に宿るこの希望は、いったいどこから来るのだろうか」と自問した瞬間であった。

28. 私があなたがたに告げよう。それは私の神聖な御霊から湧き出るものである。私の正義の杖は、あなたがたの心の岩に触れ、そこから悔い改めの水晶のように澄んだ水が湧き出るようにする。あなたがたはその水で自らの汚点を洗い清め、再生に至り、そこから愛が湧き出るようにするのだ。

29. あなたがたが私の正義をいかに厳しく、容赦なく、そして容赦なく判断しようとも——まことに、あなたがたに告げる。その中に、あなたがたは常に私の父なる愛を見出すであろう。

30. 自分自身に注意を向けてください。あなたがたは苦しみによって絶えず清められていますが、同時に、わたしの言葉が与える慰めと癒し、そして力を持っているのです。

31. 人類よ、私はあなたに新しいことを語っているわけではない。なぜなら、初めの時代の律法には、すべてが語られているからだ。しかし、あなた方の霊的な未熟さと理解力の未熟さゆえに、あなた方の父は、イエスとして人となり、この世に生まれて、御業によって律法の内容をあなた方に明らかにしてくださったのである。

32. しかし、人類の各世代は、わたしの言葉の核心に迫ることを理解できず、その結果、この時代に、最初の時代の律法と、第二の時代のわたしの行いおよび言葉についての新たな解説が必要となったのである。

33. わたしは今、心を探している。ある者たちには、あたかも第一の時代にわたしの戒めが刻まれた石板であるかのように、わたしの律法の戒めを書き記したい。一方で、他の者たちには、イエスが十字架にかけられた木のようにあるように、彼らを引き寄せたいのである。

34. そう、人類よ、人々の間にはこれほど大きな霊的な遅滞が存在するため、彼らが目覚め、そして——一度目覚めたら——かつて啓示されたすべての事柄の解説である私の新しいメッセージを受け入れることができるよう、過去のことを繰り返す必要が生じるだろう。

35. 私は、自己省察にふけっている人、良心の試練に直面している人、あるいは祈りに没頭している人に出会ったその瞬間を巧みに利用し、その人に、真の命への復活の時が来たことを告げる。 それは、魂が、この世に縛り付けていた鎖を断ち切り、 、その存在の最も純粋な部分から自由への叫びを放つ瞬間である。それは、長い監禁の末、ついに目の前で、自らの苦難の源であった鉄格子が開くのを見る囚人のように—— 荒れ狂う海に必死に立ち向かい続けた難破船の乗組員が、ついに地平線に待ち望んだ浜辺を目にするかのようだ。

36. 私はあなたがたに告げる。この時代に人間が自ら招いた試練は極めて厳しいものである。なぜなら、それらは人間の救いのために必要不可欠だからである。

37. すべての人にとって最も愛する者に対して、神の正義が執行され、すべての人間の行いについて問責が行われるのである。

38. さて、愛する民よ。あなたがたは、まだ未熟な心で捉えられる形において、わたしの臨在を予感していた——ここに、あなたがたがそれを感じ、理解できるよう、わたしの言葉を人間的な形に落とし込んだわたしがいる。 あなたがたは、自らの過去、現在、そして待ち受ける永遠について、多くの思索のひとときを過ごしてきた。今、あなたがたは人類に対して大きな霊的な責任を担っている。それは、私の新しいメッセージ——第三の時代の山のふもとであなたがたが耳にしたこの言葉——の証人となるという責任である。

39. あなたがたは、「肉」やこの世に対して、もはやその奴隷とならないよう、まだ多くの戦いを繰り広げなければならない——また、あなたがたの心を大いに清め、それを私の言葉のふさわしい担い手としなければならない。

40. それゆえ、あなたがたが常に目覚めた状態で生きられるよう、私の業があなたがたを絶え間ない闘いにさらし、試練が人生における賢明な教訓として欠かされることのないようにすることが必要なのです。

41. 私はあなたがたに保証する。苦しみの中で信仰を強めた者こそが、その生涯を通じて、最大の不屈の精神をもって私の律法に忠実であり続ける者となるだろう。なぜなら、恩恵を受ける時だけ信仰が蘇るのを感じる者たちがいるからだ。 しかし、彼らが願い求めたり期待したりすることが叶わないと、彼らは私に背を向けてしまう。だが、これは信仰ではない。これは、人生の大きな戦いのなかで避難所を求めるための砦にはなり得ないのだ。

42. 人間が、霊的な贖罪とは何を意味するのかを悟ることが、いかに重要であるか。そうして初めて、魂には神のみが知る過去があるという認識のもと、愛と忍耐と敬意、さらには喜びをもって、自らの苦難の杯を受け入れることができるのだ――それによって、、過去および現在の汚点を洗い流し、負債を清算し、律法の前で功徳を積むことができると知っているのである。

43. 愛をもって苦しみ、私の正義を尊重し、各自が自ら招いた結果に身を委ねていなければ、苦痛の中に魂の高揚は訪れない。しかし、試練の只中におけるこの高揚こそが、人々に「霊的償いの法則」とは何かという認識をもたらすことができるのである。

44. これらの啓示を前にして震えることはない。それどころか、この言葉が、あなたがたが抱いていた「永遠の罰」という概念や、かつて「永遠の火」について与えられてきたあらゆる解釈を打ち砕くのだという考えに、喜びを感じなさい。

「火」とは、魂を苦しめ、そして溶鉱炉の中で金が精錬されるように、魂を浄化していく痛み、自責の念、そして悔恨の象徴である。この痛みの中に私の意志があり、私の意志の中には、あなた方への私の愛がある。

45. もし、人間の罪を根絶するのが火であるというのが真実であるならば、罪を犯した者たちの肉体はすべて、この地上の生において火の中に投げ込まれなければならないはずである。なぜなら、死んでしまえばもはやそれを感じることができないからである。 なぜなら、肉体は決して霊界へと昇ることはないからだ――それどころか、その役割を終えると、肉体は地球の内部へと沈み、そこから生命を授かった自然へと溶け込んでいくのである。

46. しかし、もしあなたがたが、「永遠の火」と呼ばれるものが肉体ではなく魂のために用意されていると信じているならば、それはさらなる重大な誤りである。なぜなら、霊界には物質的な要素は存在せず、また火が魂に作用することもないからである。物質から生まれたものは物質であり、霊から生まれたものは霊である。

47. わたしの言葉は、いかなる信仰上の確信をも攻撃するために下されるものではない。そう考える者は、大いに誤っている。わたしの言葉は、正しく解釈されてこなかったすべての事柄、それゆえに誤りを生み出し、人類の間で世代から世代へと受け継がれてきた事柄の真意を明らかにするものである。

48. もし私の律法と教えが、魂を誤りと罪から救い出すことができないとしたら、それらはどのような価値があるというのか。そして、もし永遠に、終わりのない贖罪の中で滅びなければならない者

が大勢いるとしたら、人間としてこの世に私が現れたことに、いったいどのような意味があったというのか。

49. わたしの言葉に耳を傾けなさい。そうすれば、それがどれほど多くの闇からあなた方を解放してくれるかを体験することになるだろう。わたしの言葉に耳を傾けなさい。そうすれば、あなた方の魂が切望しているすべての な啓示――あなた方が持つべき知識、そしてあなた方の疑念に対するあらゆる説明――を発見することになるだろう。

50. 人間が、その存在の次元へと人生の道を向けるために、霊的な生活について知るべきすべてのことを、私は教えの中であなた方に啓示する。

51. そうすれば、あなたは魂の発達について理解を深め、魂が通過する段階について知識を得、償いの意義を知るようになるでしょう。 しかし、もしあなたがたが私の教えを真に理解したいと願うならば、あなたがたが今生きているこの物質主義の次元を離れることを学ばなければならないと、私は告げます。この次元からは、真理の光を見ることは不可能なのです。

52. 理性だけでは、この著作の内容を理解することはできない。私の霊的教えの核心に迫るためには、魂の感受性と直感も必要である。

53. これこそが、私が弟子たちに「霊から霊への祈り」を教える理由である。なぜなら、この種の祈りなしには、人々は他の手段によって知性の啓発を得ることはできないからである。

54. 預言者たちが予告した時代――すなわち、真理の霊が到来して万物を明らかにすると言われる時代――は、まさにあなたがたが今経験しているこの時代そのものである。 しかし、私は、この形で自らを現すことで、あなたがたを驚かせたかったのです。それは、私が人間の知性を通じて霊的に自らを現すと述べられている預言の真意を、あなたがたが理解できているかどうかを試すためでした。

55. 今日、私が人々自身を通して自らを現すという私の約束が成就した今、 私が教えた祈りの方法と、この世で高みへと至る道を、あなたがたが世界に広めることこそが、私の啓示の最大の目的の一つであったことを、決して忘れないでほしい。そうすることで、人は、自分の魂、理性、そして心の中で私の臨在を感じるために、どのように備えるべきかを学ぶことができるのだ。

56. 愛する民よ、この第三の時代に、人類に対して私の霊的な臨在を告げ知らせるのが、暴れ狂う自然の力や、解き放たれた嵐、都市を破壊する地震、大地を荒廃させる海、そして陸地が海と化すよ

うな現象ではなく、あなた方自身であったほうがよいと思わないか？ 愛と慈悲に満ちた行いによって、こうした出来事に先んじて対処するほうが、あなた方にとってより霊的であり、人間らしいことだと、思わないのか？

57. 真実と霊において備えなさい。そうすれば、私はこの民を、信仰の堅固なノアのように用い、彼らに の霊的な箱舟の建造を勧めるであろう。その懐において、人々は救いを見出すのだ―― 信仰と霊性、そして慈悲によって築かれたこの箱舟は、真の平和と安全の神殿となり、物質的・霊的双方の災難における避難所となるであろう。

58. 時が過ぎ、人々が私の啓示の真実を証明するために証言やしるしを検証し、探究するようになれば、彼らは、この時代に起こったすべてのことが、私の啓示の終わりと新たな時代の始まりを世界に告げた数多くのしるしのひとつに他ならなかったことを理解するだろう。

59. 第三の時代の預言者たちは、なんと深く眠り込んでいたことか！ 彼らが目を開き、来るべきものを見る準備をすることはめったにない。それゆえ、この民は未来について知るべきことをすべて知っているわけではない。かつて他の時代には、イスラエルが預言者たちを通じて、出来事が起こる何世紀も前から準備され、警告されていたのとは対照的である。

60. 今日、私がそうしているように、あなたがたを警告し、目覚めさせるのは、私の言葉でなければならなかった。この日、私はまた、神の正義が地上の権力者や統治者たちを襲うことを告げ知らせる。彼らもまた、その魂を清めなければならないからである。 彼らはますます試練にさらされることになる。なぜなら、そのようにして、私は試練の時代に続く平和と繁栄、そして団結の時代を準備するからである。

61. 新たな大洪水の後、虹が輝き、それは平和と、人類が霊的にその主と結ぶ新たな契約の象徴となるであろう。

62. あなたがたは厳しい戦いに備えなければならない。なぜなら、あなたがた全員が、悪の竜と戦わなければならないからだ。その竜の武器とは、名声への渇望、憎しみ、地上の権力、放縦、虚栄、利己心、嘘、偶像崇拝、そして狂信である―― これらはすべて、人間の心から生まれた悪の力であり、あなたがたはそれらを打ち負かすまで、大きな勇気と信仰をもって戦わなければならない

63. もし、あなたがたの「光の武器」によって、情熱という竜が倒されたならば、人々の目の前で新しい世界が現れるだろう――同

じ世界でありながら、より美しく見える*新しい*世界だ。なぜなら、その時、人々はすべての行いに精神性の理想を吹き込み、自らの幸福と進歩のためにその世界を活用するようになるからだ。

64. 人々の心は高潔になり、知性は啓発され、精神はその存在を証明することができるようになる。あらゆる善 が繁栄し、あらゆる高尚なものが、人間の業の種となるだろう。

65. 物質的な面においても、あなたがたは同様に変容を経験することになるだろう。川は豊かな水に満ち、不毛の土地は肥沃になり、自然の力は本来の軌道に戻るだろう。なぜなら、人間と神の間、人間と神の御業の間、そして人間と生命の創造主によって定められた法則との間に、調和がもたらされるからである。

66. 私の言葉は、あなた方にとって空想のように思えるだろうか？　それは、あなた方が、地上の時代の終わりと、霊的な時代の始まりに立っていることに気づくことができないからである。 この世でのあなた方の歩みはあまりにも短いため、多くの者は、物質的な生活や霊的な生活の中で起こっている変化に気づくことができません。なぜなら、こうした移行が完結するまでには、時には何世紀もの時間を要することもあるからです。信仰と善行、そして祈りによって高められ た知性による探究のみが、時間の人々への影響を自覚することを可能にするのです。

67. 懐疑的な心で私の言葉を聞いているあなたがたも、いつか霊界に到った暁には、この真理をその全容とともに理解できるようになるだろう。なぜなら、その時には、あなたがたが地球に居住していた様々な機会における自らの存在を比較検討し、それぞれの地上の段階や霊的な時代における発展、目的、そして原則を評価することができるようになるからだ。 その時、あなたがたは、これほど長い間「人生の弟子」であり続けてきた者たちにふさわしい行いを成し遂げるために、自らの魂の経験を活かす術を知らなかったことを嘆くことになるだろう。

68. 私はこれらの言葉をあなたがたの精神に刻み残しておく。そうすれば、その成就を目の当たりにしたとき、あなたがたは私の言葉を祝福し、私の教えを証し、私が今、あなたがたに預言しているすべての出来事の説明を行うために立ち上がるであろう。

69. わたしの言葉を信じなかった者、あるいは拒んだ者たちは、その成就を目の当たりにしたとき、非常に大きな後悔を抱くことになるだろう。そして、彼らが疑ったことを悔い、赦しを請う言葉が彼らの心から自然と湧き出るだろう。 しかし、私はまた、彼らのう

ちには、熱意に満たされ、私の教えをたゆまぬ情熱をもって広める者たちとなる者たちがいることも知っている。

70. 人間は、自らの信仰を生き生きとした炎として保つために、常に、思索を促し、感情を高揚させるような非凡な出来事を必要としてきた。 精神的な成熟が欠けているため、真理が単純明快な形で現れ、謎のベールに包まれていない場合、人間はそれを疑ってしまうのである。

71. あなたがたは常に苦しみを通してわたしを求めてきたが、愛と感謝の心に基づいてわたしを求める者はごくわずかである。

72. 人間は自分自身を知るべきである。そうして初めて、自分は単なる物質であるだけでなく、精神という高貴で善良な本質の部分も持っていることに気づくことができるのだ。

73. 精神的に高度に発達した者たちは、マリアを特定の姿を与えることなく、霊として認識する。しかし、目で見なければ信じられない者たちは、その精神的な未熟さゆえに、自らの精神的な資質を表す像を求めざるを得ない。

74. もしあなたがたが、精神の賜物を開花させるために肉体を制御し、師を模範とするならば、善を行うために必要なものはすべて、わたしから受け取ることができるだろう。しかし、それは他人の前で自慢するためではなく、師に従うために行うべきである。

75. もしあなたがたが神を求めるなら、霊的なもの、善、自然の驚異の中に神を求めなさい。しかし、像の中に神を求めてはならない。

76. マリアは、神性とそのほど深く融合し、三つの啓示の形態——父、御言葉、そして聖霊の光——が示すように、神性の側面の一つを形成している霊である。この意味で、マリアは神の慈愛を明らかにし、体現する神の霊そのものである。

77. マリアは、あなたがたにインスピレーションを与え、功徳を積むよう励まし、あなたがたが生きるこの世の試練を、受容と準備の心をもって受け入れるよう促す存在である。そうすることで、試練の只中で霊的な幸福を見出し、それがあなたがたの魂をより高い高みへと導く助けとなるからである。

78. 魂は神を喜び、神に参与することになる。しかしその前に、魂はさまざまな肉体に宿ることで成長し、その後、高い生命の次元においてその成長を続け、やがて永遠の完全性へと至らなければならない。

79. わが民よ、ただわが言葉を聞くだけで満足してはならない——その真意を深く探求せよ。そうすれば、もはやこの形でわが声

を聞くことができなくなったときにも、あなたがたは力を得て、人類に善を行うことによって、師の模範に従うことができるだろう。あなたがたの行いは、常にわが真理に基づいていなければならない。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 353

1. 父の心は、あなた方を受け入れるために愛に満ちて開かれている。なぜなら、私はあなた方の苦しみを目の当たりにし、あなた方に私の憐れみを注いでいるからである。

2. この第三の時代において、恵みの泉は溢れ出ている。第二の時代に私が御言葉をもって使徒たちを備えさせたように、この時代には、聖霊の光をもって全人類を照らす。なぜなら、私はすべての人を、神の子と名乗るにふさわしい者とすることを望んでいるからである。

3. あなたがたは、選ばれた民イスラエル、すなわち強き者、恵まれた者であり、あなたがたは皆わたしの子供であるゆえに、全人類の群衆を先導していかなければならない。この時代において、わたしは罪人を選び出し、「放蕩息子」にその魂を救う機会を与える。

4. 私は、だれ一人として失われることを望まず、あなたがたのうちの誰一人として私の懐から離れることを望まない。なぜなら、私の愛は唯一無二だからである。ここに、私の憐れみと完全な愛がある。

5. また、私はあなたがたの心の汚点を暴くことも、それを見ることもない。あなたがたが「父よ、私たちはこの道を、いかなる汚れもなく歩みたいのです」と私に告げる時、私はその悔い改めの心を聞き取る。そうすれば、私はあらゆる罪を赦す。

また、あなたがたが「父よ、私たちはあなたの足跡に従いたい」と私に言うのを私は聞き、私はあなたがたにこう言います。「この美徳に満ちた道を歩みなさい。それは、あなたがたの心から罪が取り除かれる、清らかな道なのです。」

6. あなたがたは、愛する者たちと連絡を取れるよう、わたしに願い求めている。そして実際、この恵みの日に、主はあなたがたにこう告げる。「わたしは、この恵みを最後にもう一度だけ与える。まことに、あなたがたに告げる。今年を過ぎれば、人間の知性を通じてこのような啓示はもはやなくなるからだ。 しかし、あなたがたが私に光を求められているあの魂たちは、これからは霊から霊へとしか、あなたがたに語りかけなくなるだろう。それゆえ、私はあなたがたの魂がますます高められるよう、あなたがたを準備させ、この恵みを受け取れるようにしているのだ。

7. 民よ、あなたがたは決して無防備になることはない。なぜなら、私は決してあなたがたから離れたことはなく、常に私の憐れみの

優しさをもってあなたがたを守ってきたからだ。時折、私から離れてしまったのは、あなたがたの方であったのだ。

8. 今日、私はあなたがたに、あなたがたには父がおられることを思い出させてあげよう。それは、あなたがたを真の道へと導くために、その慈悲を授けてくださる、極めて慈愛に満ちた父である。

9. 人間は、あなたがたの目に暗い目隠しを付け、安全な道から逸らさせ、深淵へと、闇へと導いてしまった。しかし、まことに、わたしはあなたに告げる、祝福された民よ。わたしはあなたがたが滅びることを望んでいない。それゆえ、わたしはあなたがたの救いのための新たな機会を授ける。

10. 今、私はあなたがた一人ひとりの心に「愛」という言葉を刻んでいる――イスラエルの民にとって最良の防御である愛――全人類にとって最も強力な武器である愛――あなたがたを真に光の王国へと導く愛である。

11. かつて、あなたがたは「放蕩息子」のようにこの世の道を歩む、迷える者たちであった――魂は乱れ、心は失望し、存在の最も深いところに刻み込まれた憂いを抱え、慰めの言葉も、導いてくれる手も見つからず、時には砂漠の蜃気楼が目の前に現れたこともあった。 そして、ようやく確かな道を見つけたと思ったその瞬間、あなたがたは自分が間違っていたこと、そして目の前に現れた光が単なる幻に過ぎなかったことを悟ったのです。

12. この時、あなたがたは光の道へと足を踏み入れた。あなたがたをこの道へと導いたのは偶然ではない――それは私の意志であった。まことに、愛する民よ、私はあなたに告げる。「私の意志なしに、木の一枚の葉さえも動くことはない。」なぜなら、あらゆる被造物の定めは、私の中にあるからである。

13. 父はあなたがたにこう告げる。第二の時代に、イエスの遺体が墓の洞窟へと運ばれたとき、わたしの霊は、闇の中にいた魂たちに光を与え、彼らを鎖から解き放つ準備を整えた。その瞬間から、「永遠の」夜に呪われていたそれらの魂たちは、光を受け取ったのである。

14. わたしの言葉は成就する。魂たちは、わたしの恵みと愛によって復活を授かり、霊的な谷においてますます高みを求めるようになる。なぜなら、彼らは自分たちの主であり、救い主であり、彼らの先頭に立つことのできる方を見出したからである。彼らは主に「ホサナ」と歌い、わたしは彼らにさらなる恵みを確かに与える。 彼らをあなたがたの守護天使へと変え、1950年以降、あなたがたを導かせることである。あなたがたは直感を通じて彼らのメッセージや

助言を受け取り、試練の時には、わたしの名において彼らを呼び求めることができる。彼らの意志はわたしの意志であり、あなたがたへの彼らの愛にはわたしの愛がある。なぜなら、彼らは子羊の最も清らかな水で身を洗い、この恵みにふさわしい者となったからである。

15. あなたがたは、人類がそれによって統治されるよう、律法が授けられた選民である。そして今こそ、人類がわたしの戒めに従い、光と真理の道へと立ち上がるべき時である。

16. わたしは三つの時代にわたり、あなたがたにわたしの神聖な光を授けてきたが、あなたがたに「異質な味わいの果実」をもたらすわけではない。この第三の時代におけるわたしの教えは、これまで常にあなたがたに託してきたものと同じ霊的な教えである。

17. いつの時代も、魂は物質化してきた。それゆえ、人類は方向を見失い、完全性へと導く道を霊的に歩む術を知らないのである。

18. 師は、あなた方を選び出し、準備を整え、真理を求める心の中に私の言葉を蒔く働き手へと変えるために、あなた方のそばにいました。しかし、疑いと霊性への欠如こそが、私の業がまだ全人類に認められていない理由なのです。

19. この時代にわたしに耳を傾けた者の数は少ない。わたしの普遍的な光線は、あなたがたを照らし、準備を整えた。それは、すべてのわたしの子供たちが、あなたがたを通じてわたしの呼びかけを聞くことができるようにするためである。

20. イスラエルよ、自信と勇気を持って愛の剣を手に取る準備をせよ。その剣をもって、わが啓示の最終段階にあってもなお、この形であなた方を待ち伏せている闇と戦うのだ。

21. わが神聖な言葉は、人間の知性を通じて啓示された。それは、わが言葉の本質によって、あなたがたの魂を高めるための備えと命を与え、あなたがたが人類の模範となるためである。

22. わたしは、あなたがたの魂が高められるよう、また、あなたがたがわたしの言葉の使者となり、人々が御霊の業の進展を妨げる障壁とならないよう、あなたがたの魂に教えを授けた。

23. この世は異教と偶像崇拝を助長している。わたしは、狂信を助長したり、わたしの業に宿る霊性を否定したりするような教えを、あなたがたに与えたことは一度もない。自然の力はわたしを証ししているが、この世は深い眠りについており、魂が深淵と闇の中に留まることを許している。イスラエルよ、従順の心と、あなたの霊にある力をもって立ち上がり、世界に語りかけ、世界を目覚めさせなさい。

24. あなたがたは備えをしておらず、わたしの教えを集めもせず、研究もしてこなかった。それゆえ、わたしはもはや、声の媒体を通じてあなたがたに自らを現すことはしない——いや、わたしの意志はただ一つであり、それは、目に見える世界でも目に見えない世界でも、全世界においてわたしの言葉が成就されることによって明らかにされるからだ。 1950年以降も、私は霊から霊へと、引き続きあなた方を導き、啓発し続ける。

25. あなたがたは滅びることはない。もしそうなら、私はもはや神ではなくなってしまうからだ。しかし、私から生まれたものはすべて、私のもとへ戻らなければならない。だが、魂は自らを清め、その闘いの中で功績を積み重ね、私の透徹した視線の前に、その清らかな収穫を広げなければならない。

26. 勇気を持って立ち上がり、闇や欺瞞に立ち向かえ。この時代にあなたがたが受け取った真理を示しなさい。

27. 羊飼いのエリヤがあなたがたに先立ち、あなたがたが理解できなかったことを解き明かすだろう。自らを鍛え、柔和で謙虚な羊のようになりなさい。そうして、あなたがたが私の神性から受けたものを、この世に証ししなさい。

28. マリアは、そのマントであなた方を覆い、その母なる心から神聖な慈愛が溢れ出るでしょう。そうして、あなた方がそれを心の中に抱き、それがあなた方の励ましとなるように。

29. 民よ、身構えなさい。あなたがたには困難な時代が訪れようとしている。準備不足のゆえに、何も与えることのできない、盲目で貧しい人間に導きを求めたりすることは、私の御心ではない。私はこの時代に自らを現し、盲人に光をもたらし、その道を示すためである。

30. 師が、はるか昔に、あなたがたは偽りの代弁者たちの欺瞞と戦わなければならないと告げていたことを思い出せ。なぜなら、来るべき時代には、偽りの働き手が現れるからである。

31. あなたがたが弱かったり、知識に欠けていたりすることは、私の御心ではない。しかし、もしあなたがたがそう感じるならば、それは私の教えが欠けていたからではなく、あなたがたがそれを心に刻み込んでいなかったからである。 あなたがたの多くは、人間の知性を通じて告げられた通り、私がまだ長い間、師としてあなたがたと共にいると信じている。しかし、私はあなたがたに告げる。その時は終わりに近づいているのだから、目を覚ましていなければならない。それゆえ、私はあなたがたに、準備を整えておくよう告げ

る。なぜなら、あなたがたの中に、世界に私の教えを伝える教師たちが現れるからである。

32. 人類はわたしを求め、わたしの業を求め、そしてあなた方を求めるだろう。最も激しく冒涜した者こそが、最も早くわたしを求める者となる。そのとき、あなた方は、その者にわたしの教えについて語る準備ができていなければならない。

33. イスラエルよ、決して私の慈悲を否定してはならない。また、私の真理を隠すために口を閉ざしてはならない。 あなた方ほどこの知恵を備えている者は誰もおらず、たとえ最も理解力の乏しい者でさえ、適切な時が来れば、あなた方の言葉の一つも聞き逃すことはないだろう。あなた方が準備を整えれば、あなた方の唇からは、世界を驚嘆させる言葉が湧き出るだろう。

34. イスラエルよ、この機会を無駄にしてはならない。常に使命を果たす準備を整え、闇の中にいる者たちに光を与えよ。わたしの言葉を信じなさい。時が経てば、地上のあらゆる教えの中で、ただ一つだけが残り続けることがわかるだろう。それは「愛」の教えである。

35. 明日、大勢の人々が旅立つだろう。その時、あなたがたは彼らを導き、彼らの偶像崇拝や狂信を取り除かなければならない。そして、私の光が彼らの心と魂に輝き、彼らが無限なるものへと視線を向け、私の御姿を仰ぎ見ることができるよう、祈らなければならない。そのとき、私は彼らにこう告げるだろう。「父のもとへようこそ。あなたがたは、私への信仰と希望をもって、私の言葉を受け入れる準備をしてきた。そして、私はあなたがたを受け入れる。」

36. 太古の昔から、わたしはあなたがたの魂を徳の道へと導き、わたしの霊感を与え続けてきた。

37. わたしは常に、正義と愛、そしてわたしの律法への従順を、あなたがたの目の前に示してきた。この戦いはあなたがたにとって骨の折れるものに見え、この道を歩むことは困難であった。それゆえ、わたしは絶えずあなたがたの心を磨き続けている。

わたしの言葉は、硬い岩塊に近づき、絶えずそれを削り、形を整える彫刻刀のようだ。それは、わたしがあなたがたに授けた美徳が祭壇の上で輝きを放つ聖所を築くためである。 私はそこに住み、あなたがたの信仰を見つめ、あなたがたの祈りを受け取りたいと願っている——そこでは、私の意志に従い、あなたがたは私の神聖な御言葉を宝箱のように大切に保管すべきである。そうすれば、明日、あなたがたが自分を見失ったと感じ、この人生の逆境に囲まれたとき、心の中に宝を携えていること、その宝の所有者があなたがたの

魂であることを思い出し、そして、渇きに苦しむ人々、私が真理を渇望していると見ている人々に、憐れみを示さなければならない。私があなたがたに与えたパン、すなわち魂を養う「命のパン」を、彼らに与えなさい。

38. わたしの言葉は、今まさに魂たちを呼び集め、彼らに勇気と力と信仰を与える、響き渡る鐘のようだ。

39. あなたがたは、道の行き先を見出せない旅人のように、方向を見失ってさまよってきた。しかし、人類のためのこの な闘いの時において、父はあなたがたに近づかれた。人生の浮き沈みがあなたがたを圧迫し、不正が頂点に達している今、私は闇を追い払う輝く光として来たのである。

40. 私があなた方を呼び寄せたのは、あなた方が祝福されたイスラエルの民の十二部族の一員だからである。私は、あなた方の魂が私の平安を感じることなく、また、私が私の食卓であなた方に振る舞った最高の料理を祝宴で味わうことなく、この時が過ぎ去ってしまうことを望まなかった。

41. 私は、あなたがたの魂を歓迎し、私の言葉をあなたがたの心に刻み込み、律法を示し、聖霊としての私の神聖な臨在を感じてもらうために、父なる腕を広げている。

42. わたしは、あなたがたにわたしの慈悲を余すところなく授けるために、あなたがたの霊的向上と高揚を待ち望んでいる。今なお、罪の鎖があなたがたを縛っている。それゆえ、父はこう告げる。「わたしはあなたがたを厳しい戦いにさらしたが、その障害を乗り越えるために必要な力を与えたのだ。」

43. 罪から解放され、憎しみや悪から身を解き放ち、私の教えによって備えを整えるために、私のところに来なさい。なぜなら、明日、あなたがたはこの真理の使者となるべきだからである。

44. 惑わされてはならない。また、この世の様々な信仰観をわたしの業に付け加えることによって、わたしがあなたがたに教えた道を歪めてはならない。そうすれば、わたしはあなたがたを、わたしのたとえ話にある愚かな乙女たちのように、灯を消して眠りについた、不甲斐ない弟子たちとして責めることになるからだ。

45. 私があなたがたに示した道は、あなたがたの魂が私のもとへ至るために清められる、まるでるつぼのようなものである。

46. 父があなたがたをその中に置かれるこのるつぼこそが、あなたがたに正しい道を見分けさせ、善行や使命の遂行、そして霊的な償いを通じて、魂を清めるよう勧めるものである。

47. あなたがたが私の臨在を感じ、私の神聖な御霊の霊感を受け取るためには、自らを清めることが不可欠である。それゆえ、私はあなたがたに祈ることを教えたのである。

48. わが平和はすべての家庭に満ちていなければならない。あなたがたの子供たちは、平和の種のような存在でなければならない。あなたがたは、正義と愛と慈悲、そして良き手本によって彼らを導かなければならない。あらゆる家庭に、私は巡礼者として身を寄せ、そこで、 家族の父たちの良心の中に宿るわが律法について語り、彼らがわが意志に従うようにする。

49. わたしは人々の住まいに入り、彼らの貪欲を取り除く。互いに愛し合い、平和に暮らせるよう、兄弟姉妹として生きることを彼らに教える。

50. 祝福された民よ。私が今、あなたがたに語りかけているこの時代は、その終わりが近づいているが、それは悪の終焉の始まり、すなわちこの時代に世界を蝕んできた堕落の頂点を告げるものである。

51. 聖霊の光は、その全き輝きを帯びて、全地球に照らし出されるであろう。わたしのすべての子供たちはその輝きを目にし、それによって、彼らは平和に満ちた新しい命へとよみがえることになる。

52. わが民よ、これらの出来事はいつ起こるのか。あなたはそれを知らない。わたしは預言を、ただあなたがたの心に刻み残すだけである。しかし、あなたがたが準備が整えば、わたしの臨在を感じ、霊から霊へとわたしの声を聞くことは、あなたがたにとって難しいことではないだろう。

53. 明日、あなたがたは、私が求めたように霊的に一つとなり、そうして旅立ち、困難な使命を果たすことになる。あなたがたは、私があなたがたの間で私の御心を成し遂げられるよう、それぞれの思い、理想、そして意志を一つに結集するのだ。

54. 祝福された民よ。わたしの言葉を心に刻み、熟考し、学び、探求しなさい。そうすれば、わたしがあなたがたに残したこの糧の味わいを感じることができるだろう。あなたがたは旅立ち、家族のもとへ、さまざまな地方へと向かい、わたしの平和と光と恵みの使者となるだろう。わたしはあなたがたを、それらをもたらす者とするのだ。

55. あなたがたが暮らすこの地の片隅に、わたしの御霊の光が降りてきた。それは、あなたがたの存在を照らし、利己的な存在から、隣人との真の兄弟姉妹へとあなたがたを変容させるためである。

56. 私が私の言葉の中であなた方を「私の畑の働き手」と呼ぶのは、人々の心の中に愛を育む完全な方法を教えるために、私があなた方のところに来たからである。

57. 私はまだ、あなたがたにぶどうの木の果実を求めることはない。なぜなら、私にふさわしい実を捧げられるようになるには、あなたがたが私から学ぶべきことがまだ多く残っているからだ。とはいえ、私の啓示がこの形では永遠ではなく一時的なものであり、あなたがたは私の教えの最後まで学び続けなければならないことを、よく心に留めておくべきである。

58. あなたがたが長い間聞き続けてきた、霊的に集まりへと招くあの響き渡る鐘は、今や最後の音を鳴らしている。 その響きは重く、正義に満ちている。なぜなら、もはやそれは、無知な者たちを霊的な祝宴へと招く歓喜の呼び声でも、病める者たちに対し、ただ私の生ける御言葉を聞くだけでその重い重荷から解放されるよう呼びかける声でもないからだ。 今や、それは長い間神の教えを受けてきた弟子たちを呼び集める目覚めの呼び声である――それは、私の真理、賜物、使命、そして恩恵の証しを受けたすべての人々に、父であり師である私の周りに集まり、その最後の教え、最後の生き方の指針に耳を傾けるよう命じる声である。

59. この瞬間の重要性を自覚し、世の誘惑や空虚な快楽から身を引いて、霊においてわたしと共にいる魂たちは、祝福されるであろう。 なぜなら、彼らは私の神聖な戒めを解釈し、それに従うことを理解するからである。彼らは引き続きぶどうの木を育てることができ、一日の働きの終わりに、霊を通して私の呼び声を聞いたとき、彼らの霊化、愛、そして高揚による、私に喜ばれる実を私に捧げることができるだろう。

60. 1950年という年は、この民の心に刻まれている。なぜなら、それは、人間の知性によるわたしの啓示のこの段階を終結させるために、わたしの御意志によって定められた年だからである。

61. わたしは、あなたがたが苦しみの中で、わたしの教えに励ましと光を見出せるように、それを送った。なぜなら、人類にとって大きな試練の時が到来しようとしており、わたしはわたしの民が、無傷で、かつ勝利を収めてそれを乗り越えることを望んでいるからだ。

62. 私は、あなたがたが依然として信仰において弱い姿にあるのを見ている。自然の要素が解き放たれるだけで、あなたがたの心は恐怖に満たされてしまう。なぜなのか。あなたがたが私の律法が示

す道を歩んでいるならば、自然の力はあなたがたに従い、あなたがたを尊重しなければならないと、私は言わなかったか。

63. ああ、民よ、それは、あなたがたの良心が、一歩一歩、あなたがたが善良な弟子として義務を果たしていないと告げているからなのだ！

64. 自然界の諸王国は、あなたがたの声を聞き、あなたがたに従い、敬意を払っている、と私が言うとき、私は嘘をついているわけでも、大げさに言っているわけでもない。

イスラエルの歴史は、わたしの真理の証しとして記されており、その中では、神の民がどのようにして再び され、自然の力や要素から認められ、尊重されたかを知ることができる。なぜ、これがあなたたちには当てはまらないというのか？

もしかして、私の力や人類への愛が、時とともに変わったとでも思っているのか？　いいえ、この言葉を聞く者たちよ、私の霊の光があなた方を包み込んでいる。私の力と愛は永遠であり、不変である。

65. 今、私は、この民、すなわち新しいイスラエルが、信仰と力と霊的な光に満ちて人類の中に現れ、かつての時代のあの民が、生ける真の神の存在と正義について証しをしたように、世界に対しても、私の存在と愛と正義の真実について証しをすることを望んでいる。

66. あなたがたは、世界という「新しいエジプト」に囚われた民であり、ファラオとは、人々を奴隷化し、苦しめる支配的な唯物主義であることを忘れるな。 しかし、敵に決して打ち負かされないよう、戦いの場で団結し、共に旅を続けなければならないことも忘れないでほしい。そうすれば、イスラエルの民が解放への道のりで経験した、あらゆる奇跡や力強い御業が、今は霊的な形ではあるが、再び繰り返されるのを目にするだろう。

67. わが民、愛する民よ。もしあなたがたが真に霊の自由を愛し、正義への飢えと渇きを抱き、自ら引きずっている恥と悲惨の鎖が本当に重くのしかかっているのなら、霊的に団結し、真摯に祈り、決意を固め、信仰と霊感と理想の光に照らされ、 そして、新しい「約束の地」へと旅立ちなさい。その存在は、かつて「最初の時代」に荒野の試練と苦難に耐え抜き、神の約束の成就を成し遂げたイスラエルの民にとってのカナンの地がそうであったように、確かなものである。

68. あなた方を目覚めさせているのは私の声である。もしあなたがたがこの声を聞き逃したとしても、明日あなた方を目覚めさせるために、この声が二度と訪れることはないだろう。

69. イスラエルよ。私があなたの心と魂に刻み込んだ私の教えへと、たゆまず歩み出なさい。私は、あなたがたの心の奥底に語りかけ、私の愛の炎を感じさせ、あなたがたの魂を私の神聖な御霊の光と恵みへと高めるために、あなたがたに近づいてくる師である。

70. わたしは、あなたがたを滅びから救うために、たゆまずわたしの憐れみを注いでいる。医師として、わたしはあなたがたに私の香油を塗る。また、父として、わたしはあなたがたに近づき、慰め、あなたがたの不完全さを自覚させる。

71. 祝福されたイスラエルよ、私はあなたに問う。もし明日、主がもはや人間の知性を通じて御自身を現さなくなったとしたら、あなたはどうするつもりか。あなたはまだ、私の業の偉大さを理解する能力を持っていない。だからこそ、私はあなたがたに、狂信や偶像崇拝に陥らないよう、私の言葉を学び、深く探求すべきだと告げてきたのだ。

わたしはあなたがた全員に語りかけ、すべての人をわたしの食卓に招き、すべての人を最上の席に着かせた。あなたがたも謙虚であるようにと、わたしの霊の謙虚さを示したのだ。

72. 愛する民よ、今こそ、あなたがたが穏やかで謙虚であるべき時であることを悟りなさい。そうしてこそ、あなたがたは、父の真髄、愛、そして力をその内に宿す真の霊性者となり、その道を歩み始めることができるのです。 なぜなら、私は聖霊の光をもってあなたがたを教え導いてきたからであり、たとえ今あなたがたがまだ弟子であるとしても、明日には師となるべきだからである。

73. わたしは、あなたがたが世界を養うために必要なものをすべて与える。あなたがたは、諸国、諸民族、村々、そして地方へと赴き、わたしがあなたがたに託したものを伝えなければならない。そして、霊感によって、あなたがたは、同胞たちにとって、光、恵み、愛、そして教えの尽きることのない泉となるだろう。

74. 私は決して、不必要なことや悪いことをあなたがたに教えたことはない。私の律法と業は清く、物質主義とはかけ離れている。それゆえ、私は狂信や偶像崇拝を排除し、霊的なものを体現する物質的な象徴さえも、あなたがたから取り除いた。私は、祈り、私を求めるための純粋で完全な方法を、あなたがたに教えたのである。

75. イスラエルよ、明日、あなたがたが礼拝所を狂信の館へと変えてしまうことなど、私の意志ではない。なぜなら、私はあなたが

たに、霊性主義の教えをいかに実践すべきかを教え導いてきたからであり、もしあなたがたが私の教えを活かしたならば、霊と霊との直接の対話を持つことになるだろう。そうしてこそ、あなたがたの間には常に調和と兄弟愛が保たれるのである。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 354

1. 再び師のもとへ来なさい、おお、弟子たちよ。あなたがたは、父が送る挨拶と助言を聞くことができる山のふもとに、できるだけ早くたどり着こうと歩みを速めている。

私が無限の彼方からあなた方に送るこの声の響きを聞き始めたその瞬間から、あなた方の魂は上昇し始め、高みへと昇り続け、頂上に達して、私が愛と知恵の永遠の教えを授けているその場所に私を見出すのです。

2. このように、あなたがたは私の啓示のたびに、山のふもとから登り始め、私の教えが終わりを迎える頃には、私の霊と一つとなり、融合した状態で山頂に到達できるよう準備を整えるのです。

3. 今、私は人間を通じての啓示のこの段階において、最後の教えをあなた方に与えている。そしてあなた方はそれを熱心に聞き、その真髄を一滴一滴飲み込み、信仰を強めている。それによって、あなた方は私の霊を喜ばせている。なぜなら、私の言葉がこの形で終わるとき、あなた方は忠実な証人として残ることになるからだ。私は、人々の心の中で私の業を継続できるよう、準備の整ったあなた方を残していく。

4. 深く考えれば、私があなた方を私の庇護の下に迎え入れたのは、あなた方を真の使徒へと変えるためであることに気づくでしょう——私があなた方に語りかけたのは、ただ私の言葉を通じてだけでなく、あなた方の人生の試練や出来事を通じてもあったのです。私は、あなた方を真理の宣教者としてこの世に残したいがゆえに、それらの中であなた方を形作り、清めてきたのです。

私の言葉を、心がそれを感じず、私の教えを実践せずに口に出してはならない。そうすれば、この時代において、あなたがたの行いは、過去の時代における言葉以上に語りかけ、あなたがたは謙遜、服従、そして霊的な高揚の模範を示すことになるだろう。 私は、世界があなたがたが苦しみ、魂の強さを示す姿を見る時、たとえ最大の苦痛の中にあっても、信頼することを学び、さらには微笑むことさえ学べるようにしたいのです。あなたがたが私の教えに従うならば、あなたがたの働きは、人々の心に良き種を残すことになるでしょう。

5. もはや人類に嘘をつくことはできない。人類は、真実も欺瞞も見抜くことができるほどに発展しているのだ。

6. ファリサイ派やサドカイ派の宗派が民の上に立ち、偽りの手本をもって民を惑わし、欺いたような事態が、あなた方の間で繰り返

されてはならない。現代において、わが民の懐の中に、そのような宗派が現れてはならない。わが新しい使徒たちの間には、ファリサイ派もサドカイ派も存在してはならない。説教する準備ができていないと思う者は、私の弟子へと変えられるまで、口を閉ざし、手を組んでいなければならない。そうして初めて、その者は口を開き、私の言葉を語り、魂の中に秘めている宝を溢れ出させることを許されるのだ。

それゆえ、私はあなたがたに多くのことを語ってきた。それは、あなたがたを十分に備えさせてから送り出すためであり、世がその理論であなたがたを惑わしたり、あなたがたが心の中に築き上げた神殿を破壊したりすることがないようにするためである。これこそが、私が長い時間を割いてあなたがたを教え導いてきた理由である。それは、私の言葉があなたがたの魂を清め、信仰が深く根を下ろし、あなたがたの肉体さえも霊化に参与し、こうして準備を整えたあなたがたが、私の道具として、あなたがたに授けられた力と恵みを世界に現すためである。

7. 私は、この時代の人類の中に私の愛の種を蒔くために、科学者や哲学者、あるいは学者たちを利用しなかった。私は、謙虚な者たち、霊的な高揚を渇望し、渇きに苦しむ者たち――永遠を渇望し、宇宙の平和を切望する者たち――を選んだ。この渇きに苦しむ者たち、そして世の富を欠く者たちは、霊的イスラエルの民に属している。

私がこれらの者たちを呼び寄せ、これほど大きな使命を託したとき、彼らを偶然に選んだわけではない。私は、それぞれの魂を賢明に選び出し、彼らに私の声を聞かせ、その道と日々の務めを割り当て、耕作地と種、そして農具をも与えたのである。なぜなら、地上の謙虚で貧しい者たちよ、あなたがたが一度準備を整えれば、私はあなたがたを世界へと送り出し、この光を示し、差し出すためである。その光は、あなたがたを至福で満たし、やがて地球全体へと広がっていくであろう。

8. わたしはあなたがたに、わたしの約束の成就を待ち望ませたが、今この時代になって初めて、その成就を目の当たりにしている。あなたがたは過去の転生において、わたしがあなたがたのもとへ戻ってくるというこの約束の成就を求め続けたが、見出すことはできなかった。しかし、永遠の命を持つあなたがたの魂は、戦いで破れ果てた衣服のように、その一時的な鞘を脱ぎ捨て、希望を固く持ち続けてきた。そしてついに、私の言葉は必ず成就するというあなたがたの信仰と信頼が報われるのを見ることとなった。今日、あなた

がたは、私へと続くその長い道が、魂の前に開かれているのを見たのである。

9. かつてのわたしの律法と教えは、今、わたしがあなたがたに示している道と同じ道ではなかったのか。わたし はあなたがたに言う。初めの頃からあなたがたに教え、啓示してきたわたしの教えにおいて、わたしは、今日あなたがたに語っていることを理解できるよう、あなたがたを準備してきたのだ。 モーセや預言者たちを通して、私はあなたがたに律法を知らせた。それは、あなたがたが互いに正義と敬意を持って生き、節度ある秩序ある生活を通じて、私に敬意を捧げるためであった。

あなたがたは、善を行うときのみ恵みの中に生きられること、また、あなたがたの行いが律法の規定に従うならば私がそれを報いること、そして、その声に耳を傾けなかったときには、父に喜ばれていないと感じ、良心がその不忠を責めたことを悟っていた。

しかし、あなたがたは私の使徒たちを通してこれほど賢明な教えを目の当たりにしていたにもかかわらず、それらが霊的な命への認識へと導くものであることなど、全く気づいていなかった。人類は、その視線を、あなたがた全員が持つことになるあの驚くべき命の敷居を越えることはなく、その命こそが、あなたがたが創造された目的である。

10. 時は流れ、私はあなたがたにイエスを遣わした。そして、イエスを通して、私は人々の魂と心に語りかけた。それは、人々が、自分たちに語りかけるその方が、自らの生涯と模範をもって教えていることを感じ取り、その教えが天からのメッセージとして、真の生活への招きとして受け止められるようにするためであった。 そして、あなた方は目と心と魂を開き、その言葉が誰から発せられたものかを知ったのです。

あなたがたは、その模範、奇跡、そして教えを受け入れ、彼を通して霊的な生活の美しさを垣間見た。 あなた方は、あの謙虚な師が、この世を支配するために来たのではなく、地上に留まるために来たのでもなく、ただ短期間この世を通り過ぎ、救いの業を成し遂げた後、来たがった故郷へと戻り、そこで弟子たちを待ち受けるために来たのだということを悟ったのです。

11. しかし、人々に無限の愛を示すために来られたその師は、いったいどこへ帰られたのでしょうか。慈愛と知恵の源であられたその方は、どこから来られたのでしょうか。そして、弟子たちは、その「命のパン」と「愛のぶどう酒」をどこで求めればよいのでしょうか。

どれほど多くの人々が彼を愛し、彼を感じていたことか。そして、彼が去っていくのを見たとき、彼らは彼が帰ったその安息の地まで、彼について行きたかった。それは、師の声が彼らを呼び、愛撫しているのを感じたとき、彼らの魂が命に目覚めたからである——人間の 愛の感情、物質的な自然、そして霊的な生活の意義とは何かを解き明かした、あの教えによってである。

12. わたしは、あなたがたにこの世を軽んじさせることもなく、また人々から美味しい食事や、心身を健やかにする喜び、あるいは家族に対する神聖な義務を奪うこともなかった。ただ、人々をこの地上の生活の道徳的な道へと導き、魂をわたしへと続く無限の道へと導いただけである。

その神聖な教えによって美徳は花開き、魂は、私の戒めに従うあらゆる存在の道のために、昇華への扉が開かれているのを見た。しかし、その時期が過ぎた後、私が再び言葉をもって現れ、私の業を継続し、イエスとして語ったこと以上に多くのことをあなた方に啓示することになるとは、誰も予想していなかった。

13. 私がこの世を去る前に、弟子たちにこう言った。「慰め主、すなわち真理の御霊があなたがたのところに来る。その御霊は、御自身の宝庫にあるものをあなたがたに啓示してくださる。」 しかし、終わりのない御霊のいのちの神秘を知りたいと願ったあなたたちには、次々と訪れる人生、次々と訪れる試練が待ち受けており、その一つひとつが、あの言葉の成就であった。 あなたがたは、父が約束を破ることはできないと知っていた。なぜなら、初期の頃から、父から発せられる言葉はすべて成就することを経験してきたからだ。そしてついに、この時代に、あなたがたの希望に対する報いを得たのである。

14. ここに、わたしの業の続きを見よ。聖書に記されている通り、大いなる天使の群れに囲まれて、第三の時代に慰めの御霊として来たわたしの姿である。

私の従者であるこれらの霊的存在たちは、私があなた方に約束した慰めの一部を体現しており、彼らの有益な助言や徳の模範を通じて、あなた方はすでに彼らの慈悲と平安の証を受け取っている。私は彼らを通してあなた方に恵みを与え、彼らはあなた方と私の御霊との間の仲介者となってきた。

あなたがたは、彼らに固有の恵みの賜物と謙虚さに気づくにつれ、彼らがあなたがたの人生の中で成し遂げたのと同じような、清らかな行いを行うよう鼓舞された。彼らがあなたがたの家を訪れたとき、あなたがたは彼らの霊的な存在によって光栄に感じた。

15. もしあなたがたが彼女たちの寛大さを認識したのなら、祝福あれ。しかし、師はこう告げる。「彼女たちは最初から徳の高い存在だったとでも思っているのか？　彼女たちの多くが地上に生息し、弱さや重大な過ちを経験したことを知らないのか？」

しかし、今、彼らを見てください。彼らにはもはや何の欠点もありません。それは、彼らが良心の声に耳を傾け、愛に目覚め、かつての過ちを悔い改めたからです。あの試練の炉の中で、彼らは清められ、高みへと昇るにふさわしい存在となり、今日、人類に奉仕することで、私に奉仕しているのです。

彼らの霊は、愛から、隣人を支えるという使命を引き受けました。それは、彼らが地上に生きた際に果たせなかったことをすべて償うためであり、神からの贈り物として、かつて蒔かなかった種を蒔き、かつて行った不完全な行いをすべて正す機会を捉えたのです。

それゆえ、皆さんは今、彼らの謙虚さ、忍耐、そして柔和さに驚きを感じています。また、時折、彼らが償いのために苦しむ姿を見てきたことでしょう。しかし、彼らが直面する障害よりも大きな彼らの愛と知恵は、あらゆるものを乗り越え、彼らは自己犠牲に至る覚悟さえ持っています。

16. 彼女たちの苦しみを増大させてはならない。 従順であり、理解を示し、彼女たちの助言に従いなさい。彼女たちの慈愛に応えなさい。彼女たちはあなた方の霊的な兄弟姉妹なのです。そうすれば、明日にはあなた方も彼女たちが今日あるような存在となるでしょう。あなた方もまた、あの世界に住むことになるのです。そして、あなた方の愛と努力と悔い改めが、あなた方の中に残された汚れを洗い流し、彼女たちのように清く純粋な存在となるでしょう。 あなたがたの粘り強さと善への愛が、地上で不幸や悪に巻き込まれて取り残された者たちへ祈りを捧げるよう促し、あなたがたは父にこう言うでしょう。「主よ、たとえ私の兄弟姉妹には見えも触れもできない姿であっても、苦しむ人々に平和と健康のメッセージを届けるために、私を戻らせてください」と。そして、私はあなた方にその恵みを授けるでしょう。 そうすれば、あなた方は天使のようになり、贖罪の世界を訪れることを妨げるものは何もなくなり、その際、私があなた方を私の子供として託した、あなた方の中にある恵みと慈愛の源を携えていくことになるでしょう。そして、あなた方が魂を溢れさせるほどに、より穏やかになり、より大きな高揚感を得るようになるでしょう。

17. 私が最後に鐘を鳴らし、私の子供たちを呼び集めて、私の言葉を最後に聞かせる時、この霊的な大軍による啓示もまた終わるだ

ろう。あなたがたはもはや、賜物を持つ者たちを通して彼らを聞くことはなく、その助言をこの形では聞くこともなくなるだろう。しかし、彼らはあなたがたから離れることはなく、守護天使として、また人々の守護者として、これからもそこに留まり続けるだろう。あなたがたが祈り、彼らの助言を求めさえすれば、それだけで 、彼らは助けに来てくれる。しかし、彼らの影響を感じられるよう、純粋な心でそうし、彼らの存在を疑ってはならない。なぜなら、これほど高い霊化の段階にある存在たちには、隣人に対する慈悲しか存在しないからだ。

18. この時代、霊界は何を教えたのか。それは、ただ私の啓示の解説と解釈をもたらしたに過ぎない。霊界は、私が以前に語らなかったことを、あなた方に啓示したり教えたりしたことはない。霊界は私の教えを先取りすることはなかったが、それでもなお、私の啓示が人々に伝えられる時が近づくにつれ、預言者であり、先駆者であり、告げ知らせる者であったのである。

19. あなたがたが、これらの存在たちの啓示を受け入れるために知性を捧げる準備をしていたとき、その能力を持つあなたがたは、彼らに固有の誠実さと力という証しを受け取った。あなたがたの霊的な兄弟姉妹たちは、その言葉の中にどれほどの謙虚さを示し、私の業に対してどれほどの従順と愛を示したか。そして、彼らの教えによって、あなたがたの人生がいかに照らされたことか！

20. わが最後の啓示の日がすでに近づいている。もし、あなたがた、声の担い手であり、言葉の伝達者である者たちが準備を整えなければ、私があなたがたに残さなければならない最後の啓示、命令、そして指示を受け取ることはできなくなるだろう。しかし、その時期が過ぎれば――わが宝庫があなたがたのために用意しているものを受け取るために、あなたがたはどれほど努力しなければならないことか。 あなたがたは、その貴重な賜物を通じて本来受け取るべきであったものを、霊から霊へと受け取るために、功徳を積まなければならない。

この段階が終わる時、私の霊界は、従順な僕として自らを現すことをやめ、たとえ私の名において呼びかけられたとしても、もはや人間の脳を用いることはなく、ただ呼びかける者たちを啓発し、彼らに有益な助言を授けることに留まり、すべての人々に慈悲を注ぎ出すことになる。

私は、私の霊を顕現させてきたあらゆる時代や期間において、それぞれの時代を限定してきたのと同様に、この日も定めた。そして、私が私の霊の軍勢に囲まれて到来したこの時代において、1950年

がその終わりとなる。これは、私がすべての伝達者を通じて語ってきたとおりである。

21. この時間を有効に活用せよ！ 弟子たちよ、粘り強くあれ。信徒たちよ、熱心に努めよ！ なお、あなたがたの中には、無気力な者もいれば、現在経験している時代の流れや、民に迫りつつあるその時について無知な者もいる。ある者たちは、引き続き霊界 に呼びかけようとしており、またある者たちは、私が決定を撤回することを期待している。しかし、私はどちらの願いも、彼らが私に求めていることを叶えるつもりはない。

22. 目を過去に向け、モーセが人生の旅路の終わりに差し掛かった際、彼の周囲で起こった出来事を魂で思い起こしなさい。民は、その男にあなたがたの父の化身を見出した。あなたがたは、彼が霊的に力強く、正義に満ち、また彼が定めた律法や掟において賢明であることを知っていた——
戦いにおいては勇敢であり、試練においては献身的で、信仰と行動力、そして生命力に満ちていたことを知っていた。

民が過酷で長い旅の途中で休息をとっている間、モーセは目を覚まし、その魂をわたしのもとへと高らかに掲げ、祈りによって力を得て民を見つめ、愛で包み込んだ。

民が戦いで動揺し、信頼の欠如から不平を漏らす中、モーセは両腕を掲げてエホバに呼びかけ、彼に従う者たちのために力と勇気を懇願した。そして祈りを終えると、民のもとに戻り、彼らの戦いを力強く鼓舞し、こうして彼らを勝利へと導いた。

23. 数多くの戦い、数多くの試練を経て、民はついにその指導者を信頼し始めた。民は、彼がいつの日か自分たちを去らなければならないこと、あらゆる人間と同様にこの世の生涯を後にし、天へと舞い上がらなければならないことなど、思いもよらなかった。

そして、私が定めたその日が、ついに訪れた。 モーセの残された日々はすでに数え切れるほどであり、定められた日数以上は*決して*過ぎることは*なかった*。そして、自らの最期を予感した彼は、まだ到達していなかったカナンの地を見渡せる山に登った。その山から、彼は民をその眼差しで包み込み、こう言った。「約束の地にたどり着くまで、進み続けなさい。」

24. 民は、自分たちの指導者であり、立法者であり、預言者である彼の最期の時が来たことを知ると、私に向かって祈りを捧げ、こう言った。「主よ、彼を私たちのそばに留めてください。私たちはまだカナンの門にたどり着いていないのです。彼が私たちをそこまで導いてくれるようお許しください。そして、その後で彼を御許へ

お連れください。」 男女は打ちひしがれ、大人も子供も泣いたが、その時が訪れ、その指導者の命は、ほんの一瞬たりとも延ばされることはなかった。 しかし、これは、民の悲しみや、彼らが私の化身と見なしていたその人物に示した愛を前にして、私が心を動かされなかったからではなく、その時が定められていたからであり、私の御心は賢明で、取り消すことのできないものだからである。

25. モーセは私のもとへ来り、民はその後継者に従った。その時、イスラエルはモーセが彼らに授けた力を試した。彼らは障害を認識し、解き放たれた自然の猛威から身を守ることができ、こうして戦い、敵を打ち破った。 彼らは苦難に耐え、約束の地へと導く道から逸れることなく、主がモーセを御許に召されたことが正しかったことを証明した。というのも、モーセは自らの使命を果たし、もはや父の慈愛に満ちた懐で安らぐことができたからである。民は、私が選んだ者を通じて彼らに与えた律法を生き、従うことを学んだのである。

26. イエスは三年間、弟子たちと共に暮らした。イエスは、深くイエスを愛する大勢の人々に取り囲まれていた。弟子たちにとって、師が神聖な教えを説くのを聞くこと以外に何もないほどであった。イエスの足跡に従う中で、彼らは飢えも渇きも感じず、 つまずきも障害も一切なく、その集団を取り巻く空気は平和と幸福に満ちていた。それにもかかわらず——ある時、彼らが愛するイエスを仰ぎ見て特に心を奪われていたとき、イエスは彼らにこう言われた。「今、別の時がやってくる。私はあなたがたのもとを去り、あなたがたは狼の中に放たれた羊のようになるだろう。 その時が近づいている。私は、来た場所へ戻らなければならない。あなたがたはしばらくの間、独りになるだろう。そして、愛と正義を渇望し、飢えている人々に、あなたがたが見聞きしたことの証しを伝えなさい。私の名において働きなさい。そうすれば、その後、私はあなたがたを私のところ、永遠の故郷へと迎え入れる。」

27. その言葉は弟子たちを悲しませた。その時が近づくにつれ、イエスは別れについて語るたびに、その予告をより力強く繰り返された。 しかし同時に、イエスは、ご自身の霊が去ることはなく、これからも世を見守り続けると告げることで、耳を傾ける者たちの心を慰められた。彼らが当時の人々に、慰めと希望のメッセージとして御言葉を伝える準備をするならば、イエスは彼らの口を通して語り、奇跡を行われるだろうと。

28. 聖霊は、これらの言葉をもって、その時代の終わりを告げられた。そして、イエスが公の秩序を乱した者として裁かれるべく群

衆に捕らえられたとき、弟子たちは動揺し、イエスを と告発する者たちに立ち向かった。しかし、師は彼らの心を落ち着かせ、こう言われた。「心配するな。わたしの時はまだ来ていないのだから。」

多くの人々は、イエスの弟子たちを散らし、師ご自身をも懲らしめようとしていた。しかし、自ら身を委ねるべき時を知っておられたイエスは、その民が試練に勇敢に立ち向かえるよう備えさせるという使命を、引き続き果たされた。

29. しかし、主が敵の手に身を委ねたとき、弟子たちは抗議し、憤慨して言った。「なぜ、主はこのように自ら身を委ね、抵抗されないのですか？ なぜ、主が誰であるかを知らない者たちから逃げないのか？」そして、その弟子の一人が剣を抜き、師を逮捕しようとしていた者の一人を傷つけた。しかし、主はその弟子の方を向き、こう言われた。「剣を鞘に納めなさい。そのようにしてわたしを守ってはならない。予告されていた時が来たのだ。書かれていることは、必ず成就しなければならない。」

30. 群衆の中に主の姿を見た男たちや女たちは、今や主を永遠に失うこと、もはや主の神聖な御言葉を聞くことはなくなるのだと悟った—— 師が彼らを霊的な領域に住まわせ、恍惚の中で天の父の御足元へと導いてくださったあの日々が永遠に過ぎ去り、もはや彼らの中に生き続けるのは、あの交わりと至福に満ちた幸せな日々の記憶だけになるのだと悟った。

31. 弟子たちは、無実の師のために慈悲を請い、かつてあの短い数年間に見ていたように、再び師が自由の身となり、道や村々で説教する姿を見られることを願った。 しかし、主を愛する群衆の涙や懇願は十分ではなく、主の命は定められた時刻を超えて延長されることはなかった——ほんの一瞬たりとも。

32. 犠牲が全うされ、弟子たちが日常の生活に戻り、悲しみに満ちた心が落ち着いてから初めて、彼らは学び始め、深く思索を重ね、師が御業を未完のまま残したのではなく、それが完全に成し遂げられていたことを理解した—— 師は未知の王国から来られ、その業を成し遂げた後にそこへ帰られたこと——人間として、また神の使者として、その生涯が模範であったこと、そしてこれが一つの段階となり、尊い時を築き上げ、師が信者たちの心に知恵の宝を残し、彼らが約束された王国へと至るための な道を示してくださることを。

33. しばらくして、彼らは、師が彼らに霊感を与え、使徒としての使命を遂行する際に奇跡を授けてくださっているという、ますます確かな証拠を得るようになった。そして、彼らが師の愛のメッセ

ージを待ち望む人々に伝えるために準備を整え、身を引き締める時、師の御霊が彼らの口を通して語っておられることに気づいた。 これらの最初の弟子たちは、まさに主の代表者であり、彼らを導いてくださった方を模範としたため、罪人たちの間で主の偉大な御業を再現した。

34. この使命を果たす過程を通じて、彼らは師をはるかに深く理解するようになり、師から託された使命を遂行するために、啓発され、その御霊に満たされていると実感した。

35. イエスを通して語られた神聖な「言葉」は、その働きを続けるために今、あなたがたの元に戻ってきたものと同じである。 私は、自ら選んだ男女を通して御自身を現してきました。彼らは人間らしく、質素で謙虚な人々であり、その困難な使命を果たすために自らを準備し、この時代が終わってもなお、あなた方の間に生き続け、働き続け、私との霊的な対話を得るために最大限の努力を尽くすでしょう。

36. モーセは象徴的に山に登り、その生涯の旅路の終わりに達したとき、私のもとへと昇った。イエスは十字架の上に掲げられ、そこから私と合一するために高みへと舞い上がった。 しかし、今日、私が私の代弁者たちを通して語ってきた「第三の時代」において、私が引き上げるのは、ただ私の「普遍的な光線」のみである――それは、私が用いてきた器たちへと降り注ぐ際、この世界を極から極へと照らし、揺るがしてきた、あの力強い光線である。

あらゆる被造物は、わが霊の知恵と力であるその光を受け取った。そして、この段階においてわたしに仕えた代弁者たちは、わたしについて証しをするために、しばらくの間この世にとどまることになる。

37. 声の担い手たちよ：祈りに専念し、質素に生き、私の言葉を常に魂の中に生き生きと抱き続けなさい。そして、私の啓示の最終日が来たならば、モーセと心を一つにし、この時が、使徒であり律法者である彼が、私の御前でその業を捧げる瞬間が近づいているのを見たあの時と似ていることを思い起こしなさい。 師と一体となり、十字架上のその死の苦闘 を体験しなさい。そうして、祈り、あの死の瞬間に彼が言ったように、「すべては成し遂げられた」と告げなさい。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 355

1. 私は、この時代に地上の谷に集まっているイスラエルの民を祝福し、また、この民に属し、霊的な谷に住む存在たちをも祝福する。なぜなら、両者とも、その使命を果たそうとする努力において、ただ一つの決意を持っていたからである。それは、兄弟姉妹を愛し、彼らに仕えるということである。あなたがたはこの目標によって結ばれ、両者とも完全な調和の中で生き始めている。

2. わたしは、あなたがたをさまざまな住処に住まわせるために遣わした。それは、そこから平和のために立ち上がり、兄弟姉妹の魂に光と正義の輝きをもたらすためである。 あなたがたは、わたしに従うあの偉大な民の一員として、最大の試練の時、この地上にやって来て、善と悪とのこの戦いで兵士として戦っている。そして、この戦いに身を投じたとき、あなたがたは強く、確固として、自らの使命を確信していた。

3. 私の言葉を理解できるよう、心を整えて私の言葉に耳を傾けなさい。理性さえも介入させてはならない。この啓示のひととき、全神経を研ぎ澄まし、注意深く、熱意を持って臨み、私の言葉を指針として心に留め、仕事に取り組む際には細心の注意を払いなさい。

4. あなたがたはすでに確信を持ち、使命を果たす道を歩んでいる。あなたがたは、知識への渇望と、霊的な生活に関する知見を得たいという願いを満たす、わたしの教えのすべてを心に受け入れている。

5. わたしから学び、あなたたちが必要とする働きかける力を自分の中に取り入れなさい。わたしは尽きることのない源である。しかし、わたしがこれを誇りをもって言っているのだとは思うな。なぜなら、わたしは万物の創造主であるにもかかわらず、あなたたちに謙虚さを教えているからだ。それゆえ、あなたたちの救いに必要なものはすべて、わたしに求めなさい。もしあなたたちの知性に光が欠けているなら、それを受け入れなさい。 あなたがたの計画に弱さがあるなら、私があなたがたを強くし、意志の力を与えます。隣人への愛を感じられず、その能力を私に求めてくるなら、私はそれを与えます。しかし、あなたがたは最初からこれらすべての能力や資質をすでに持ち合わせており、それらはただ、それらを目覚めさせ、豊かに響かせ、活動へと導く声を待ちながら、あなたがたの魂の中で眠っているだけであることを知ってください。

6. わたしは今、あなたがたが人々を教え導き、物質主義者たちをわたしの弟子へと変えることができるよう、あなたがたを準備して

いる。この人間を通して与えられた言葉は、人類のごく一部にしか聞かれていないが、すべての人が、あなたがたの証しと、わたしが『』に記した書物を、今この世代と将来の世代への遺産として受け取るようになるであろう。

7. わたしは、もはやあなたがたの魂の中に無知や抑圧を見ることを望まない。わたしは、あらゆる重荷を打ち破り、あなたがたの体を正しく統べ、魂と体をわたしの律法の中に保つ力をあなたがたに与える。そうして、わたしが地上であなたがたに与えた人生の最期の時において、あなたがたが自らの業を完遂し、高き来世へと導く道を整えるのを見届けるためである。

8. あなたがたが現在経験しているこの期間は一時的なものであり、永遠のただ中の一瞬に過ぎない。それゆえ、私はあなたがたに、これを深い教訓として受け止めるよう勧める。なぜなら、それは、あなたがた一人ひとりが手にすることになる「霊的知恵の書」を構成する、数多くの教えの一つだからである。この人生において、あらゆる経験と、できるだけ多くの功徳を積み重ね、その道を短縮するようにしなさい。 あなたがたが歩まなければならない道は遠く、歩みを速める必要があります。

9. 良心が許す範囲を超えて、この地上に深く根を下ろしてはならない。 精神的な進歩のためにも生きられるよう、この世が提供する実りを節度を持って利用しなさい。その美しさや豊かさをすべて備えたこの人生は、あなたがたが他の生命世界で、至高の完全さをもって生きるようになるあの生命の、ほんの微かな反映に過ぎないのです。

10. わたしはあなたがたに、この地球を一時的な住まいとして与えた。そして、あなたがたが肉体を持ったとき、あなたがたはこの人類の一部を成していた。 しかし、あなたがたが「肉体」という船の舵取りとなり、その進路を導き、この大海原において従順な船のように操縦されるように、私はあなたがたの魂に光を与えた。それは、私が示した道筋に従い、あなたがたの運命を示すしるしに常に従い、待ち受ける港にたどり着くまで進むためである。

11. わたしは、あなた方を一筋の光のように、共同体や社会の懐へと送り出しました。そして、あなた方が生きるこの小さな世界において、自らの賜物を現し、隣人に仕え、彼らが人生の課題を解決できるよう助け、その道を導いてほしいと願っています。わたしは、あなた方が同胞の幸福のために働くことができる場所に、賢明にもあなた方を配置したのです。

12. あなたがたの使命はなんと困難なものであり、混乱の一瞬にして、いかに容易に道を踏み外してしまうことか！ それゆえ、私は常にあなたがたに祈りを勧めてきた。「目を覚まして祈りなさい」と私は言った。それは、あなたがたが誘惑に陥らないためである。、常にあなたがたの行動において正義と愛を勧める良心の指針に、注意深く従って生きなさい。

13. あなたがたは、わたしの業の協力者となるためにこの地上にやって来たのだ。なぜなら、「わたしはこの時代、悪と戦うために、大軍に囲まれてやって来る」と書かれているからであり、今、わたしは行動をもってその言葉を裏付けている。 霊的な存在もいれば、肉体を持った存在もいる、大勢の軍勢が、この浄化と回復の業を成し遂げ、すべての魂を本来の場所へと戻すために、私と共にやって来たのである。

14. わたしはあなたがたに、瞑想し、悔い改めるよう求める。なぜなら、あなたがたがわたしの言葉を最後に聞くことになる、その厳しい時、厳粛な日が訪れたからである。そして、わたしがあなたがたを清く、罪のない状態にしてほしいと願っているゆえに、あなたがたはあらゆる不純さを自らから振り払わなければならない。 あなたがたの善行を一つにまとめ、私に捧げなさい。なぜなら、私はその実を何倍にも増やし、それを慰めと希望と平和のメッセージとして人類に届けることを、あなたがたに申し出たからである。

15. しかし、私がここにいる、私の弟子であるこの民を裁くとき、私は諸国もまた裁くであろう。そして、私はすべての人々に、私の愛の遺産である『第三の聖書』を残す。それは、私がすべての子供たちに分け与えている賜物と恵みを、あなたがたも享受できるようにするためである。

16. 指導者たちが厳格で屈服を知らず、民を容赦なく苦難の深淵へと追い込んだ諸国は、その重荷に耐え続けた。しかし、その苦しみにもかかわらず、彼らの魂は屈服せず、私に向かって目を上げることもしなかったし、解放を私に求めることもなかった。 彼らは今なおその高慢に固執しており、その傲慢な頭は、慈悲を乞うために屈することはなかった。彼らは、私が今まさに、あらゆる被造物の道に現れて、その試練に耐えるのを助けていることを知らず、悪名高い戦争の苛酷さに耐えることを選んだのである。

17. 憎しみによって心を硬くしたこの人類は、わたしの存在を感じようとはせず、わたしが彼らのすべての苦しみを知り、感じていること、そして彼らが切望する自由と勝利を授ける用意があることを知らない。しかし、人々が望むそれらの恵みは、彼らの「肉体」

ではなく、彼らの魂に与えるであろう。 私は彼らに、自らの肉体、そして彼らをこれほどまでに縛りつけてきたこの世界に対する支配権を与える。私は彼らに物質主義に打ち勝たせ、霊的な恵みの所有者とする。そして、私の霊である知恵の宝庫（ ）へと彼らを導き入れ、そこで彼らの知識への渇きを癒やし、真の命に関する知識を身につけさせるのだ。

18. 権力や優越性への執着を、魂を癒やす願いへと置き換えなさい。そうすれば、あなたがたの働きが、正当な満足と喜びをもたらしてくれることに気づくでしょう。

19. いつになったら、あなたがたはわたしを認識し、わたしの律法を遵守することを知る、調和のとれた従順な家族を築くようになるのだろうか。その時はすでに近づいている。これからあなたがたに降りかかる試練を経て、あなたがたは平和へと立ち返り、互いへの愛と尊敬を真の神への崇拝へと昇華させるだろう。

20. わたしは今、あなたがたを裁いている。そして、わたしの裁きが容赦ないのと同様に、わたしの愛と赦しも、あなたがた一人ひとりに対して示されている。もし、この世の裁判官たちがそうするように、わたしがあなたがたの行いを量り、あなたがたを断罪し、取り返しのつかない形で責任を追及したとしたら、あなたがたはどうするだろうか。わたしがあなたがたの裁判官であると同時に、あなたがたの弁護人でもあることを悟りなさい。 わたしを理解し、わたしがあなたがたの父であることを悟りなさい。だからこそ、わたしはあなたがたが救われることを願っているのだ。あなたがたの弱さにもかかわらず、わたしはあなたがたを限りなく愛しているからである。

21. 今日、人々に降りかかっている試練、そしてこれから訪れる試練は、彼らの魂を強め、彼らにふさわしい場所に導くことになる。 すべての被造物は、すでに始まっている霊化の時代に入るために、清められ、準備が整うまで、自らの過ちを償うことになる。そして、この浄化の時期が終われば、あなたがたは私に感謝するために私のもとへ戻ってくるだろう。あなたがたは、これまで耐えてきた苦痛について嘆くことはなく、ただ、昇華のために戦うための強さを感じるだけとなるだろう。

22. しかし、あなたがたが苦難の杯を飲み干す間も、自分を卑下したり、わたしの慈悲によって軽んじられていると感じたりしてはならない。あなたがたは、わたしの愛によって清く、健やかで、強く創造されたのだということを心に留めなさい。そして、その姿のまま、わたしのもとに戻らなければならない。

23. 私があなたがたに与えるこの人生は、魂に必要な功徳を積むために、なんと豊かで長いものであろうか！あなたがたが歩むこの道において、魂に本来備わっている美徳を証明しなければならない――しかし、それは私に対してではない。私はあなたがたを知っており、あなたがたに何ができるかを知っているからだ。むしろ、まだ自分自身を知らないあなたがた自身に対して、それを証明しなければならないのである。

24. 今日、あなたがたは長い間生き、成長してきたため、私の現在の啓示を理解するのに十分な準備が整っている。 あなたがたの学びと探求のために、私は、尊い愛の遺産である教え、すなわち『命の書』を遺します。その一ページ一ページが、私が に、あなたがたの限られた言葉を用い、あなたがたの理解力に合わせて記した知恵を明らかにしています。 この知識は、あなたがたの祈りがもはや言葉を用いるのではなく、霊的な言葉、すなわち高潔な魂がその神に対して抱く愛の表れである誠実な表現を用いるようになったとき、あなたがたを私との完全な交わりへと導くでしょう。私はその愛を知っており、喜びをもって受け入れます。

私は、あなたがたがこのように私と語り合うことを望んでいる。そうしてこそ、私はあなたがたに未来を啓示し、指示を与えることができるからだ。しかし、あなたがたが受け取るこれらの預言や指示は、あなたがたの隣人たちに知らせるべきである。あなたがたがこのように準備が整えば、これまで閉ざされていたあなたがたの唇は開かれるだろう。偉大な言葉の賜物が現れ、今日まで秘めてきたことが完全に明らかにされるだろう。

25. 他者の痛みに共感できるがゆえに、癒しの賜物を求めたあなたがたは、その働きが花開くのを目撃することになる。そして、あなたがたの祈り、言葉、あるいは眼差しが、病める者たちに癒しの香油をもたらすだろう。

この世界の平和、人々の間の調和と兄弟愛を願う者たちよ――その力を内に宿し、歩む道に平和を蒔き、さらに平和が欠けている場所へ魂を送りなさい。あなたがた全員が悟りを開き、自らの賜物が生き生きと息づき、完全な明瞭さをもって現れるのを感じる時が、すでに近づいている。

26. この時代、ある者たちは、あなたがたの魂に届いた、大きな鐘の音のような私の呼び声を聞き取った。しかし、他の者たちは、いまだあらゆる道でエリヤによって探し求められている。

27. あなたがたは、様々な信仰告白や異なる世界観の中でわたしを探し求めてきたが、救いの舟を見つけることはできなかった。し

かし、わたしはあなたがたに告げる。わたしは再び道を示し、あなたがたがわたしを理解できるよう教えを与える。

28. この第三の時代にエリヤが集めた大群衆のうち、ある者たちは依然として自らの自由意志に従い続けている。しかし、他の者たちは、わたしに従い、わたしの畑で働くという信仰と決意を、わたしに示してくれた。

29. あなたがたは、困窮し、渇き、飢えながらここへやって来た。しかし、わたしはあなたがたを、力強い大木の葉陰で休ませ、癒やし、水晶のように澄んだ水と永遠の命のパンを与えた。

30. 心の中に真理を宿し、荒れ狂う波間に漂う難破者たちを救うために旅立った者たちよ、彼らには幸いがある。

31. 民よ、わたしはあなたを通して大いに自らを現し、最上の食物であなたを養い、計り知れない価値のある宝石をあなたに託し、恵みの衣を与え、あなたがたが茨を感じないように、足に靴を履かせてやった。 あなたがたは、私にこう言う小さな子供である。「神聖なる師よ、私はあなたの教えを心に刻み込み、それを人類に伝えていきます。私は、この光を世界に届けるあなたの使者となります。」

32. 師はあなたがたにこう告げる。私はあなたがたを準備し、私の律法を託したのは、あなたがたが「第二の時代」の弟子たちのようになるためである。

33. 私は、あなたがたの魂がもはや闇の中に留まることのないよう、平安と聖霊の光を与えた。

34. 私が人間の知性を通じてあなたがたに与えた啓示は、なんと歓迎すべきものであろうか。霊感は、輝く松明のように、これらの心の底から湧き出ている。彼らは、私がますます磨きをかけ、形を与え、そこから最も純粋で澄んだ水が湧き出るようにしている岩塊である。彼らは、私があなたがたに私の言葉を与えるための導管である。

35. その泉を見よ。良き実をたわわに実らせた枝を持つ力強い木は、旅人に木陰を与え、あなたがたを情熱や野心的な野望、誘惑から解放し、安らぎを与える。 あなたがたは、私の言葉を聞いても私を認識できない、耳の聞こえない者でも、目の見えない者でもない。もしあなたがたが私の声を聞き、この光を魂の中に受け入れるならば、すぐに私を理解し、私を認識していない人々のために祈ることを知るようになるだろう。

36. 霊性への道に身を向けなさい。そうすれば、あなたがたの思考の闇が消え去り、美しい光に照らされるのを体験するでしょう。

あなたがたは父の霊感を受け、その輝きを感じ、人類に対して澄んだ鏡のようになるでしょう。そうすれば、あなたがたの顔には、他者に対する喜びと慈愛が映し出されるでしょう。

37. 善行を為しても自慢しない者は幸いである。その者は来世において宝を得るからである。あなたがたがわたしの業において行うことに対して、見返りを期待してはならない。あなたがたの行いに対する報いは、わたしに任せておきなさい。

38. もう一度言おう。互いに愛し合うべきである。なぜなら、あなたがたは人種や肌の色が異なっていても、父の目にはただ一人の子として映っているからだ。

39. あなたがたは父から生まれた魂であり、私はあなたがたに私の慈愛を注いでいる。そして師として、あなたがたの過ちを正し、あなたがたを私の弟子へと変えるために、教えを託しているのだ。

40. かつて私があなた方に約束をしたので、今日、その約束を果たします。私は再びやって来て、あなた方が受けるに値する苦しみからあなた方を救い出し、国から国へ、世界から世界へと、互いに愛し合うべきであることを思い出させるためです。

41. それゆえ、民よ、わたしはあなた方を呼び寄せた。それは、あなた方がすべての国々において、わたしの平和と光と愛の使者となるためである。あなた方は、ラッパを鳴らし、その呼び声によって人類を目覚めさせるべき、わたしの使徒たちである。 あなたがたは、その音があらゆる魂と心に響き渡るべき霊的な鐘のような存在である。それゆえ、今、わたしがあなたがたを準備しているのは、あなたがたが地のあらゆる場所に至福をもたらす民となるためである。

42. 使命を果たす過程でこの世の命を失う者は幸いである。その魂は、至福と勝利に満ちて、わたしのもとに来るからである。

43. 1950年以降も、私は引き続き、霊から霊へと、あなたがたに御自身を現していく。その時、あなたがたの使命は終わらない。あなたがたは私の教えを実践し、師である私のように、私の教えを広めていくことになる。あなたがたは、自らの模範によって教え、人類に福音を伝える、良き弟子たちでなければならない。

44. あなたがたは、「黄金のペン」によって書き記されたわたしの教えを、完全な純粋さと明瞭さをもって広めなければならない。そして、これらすべてのテキストをまとめて一冊の本とし、人々に知らしめなければならない。それは、この時代に、父なる神が聖霊として、人間の知性という器を通じて口述された『第三の聖書』である。 その中で、私はあなたがたに一音節ずつ私の教えを与え、あ

なたがたがそれを深く理解し、実践できるようにする。私がこの形で語りかける時間は、すでに短くなっている。しかし、あなたがたが準備を整え、あなたがたの心が私の神性の聖域であるならば、私はあなたがたの中に宿るであろう。

45. 私があなたがたに教えを与えるのは、あなたがたが「光の子ら」となるためである。私があなたがたに知恵を与えるのは、あなたがたが明日、導き手となるためである。なぜなら、あなたがたは、疲れ果て、飢え、渇き、ただ苦難の杯を飲み干したばかりの人々の群れを受け入れることになるからだ。 わが弟子たちよ、あなたがたには、彼らの唇からその苦い杯を取り除き、彼らに恵みと平安を与え、救いの港へと導く使命がある。立ち上がり、一つの体となり、わたしを愛し、人類に奉仕するという一つの意志を共有せよ。

46. 彼らの欠点や罪に目を向けてはならない。なぜなら、すでに第二の時代において、私は赦すことを教えたからだ。思い起こせ。罪深い女が私の足元にひれ伏したとき、私は彼女を非難する者たちにこう言った。「あなたがたのうち、罪のない者が、まず石を投げなさい。」 彼らは良心の声を聞き、愕然とした。そして、その女性が顔を上げたとき、私は彼女にこう言った。「あなたを告発する者たちはどこにいるのか。家へ帰り、もう罪を犯してはならない。」 愛する弟子たちよ、あなたたちもまた、隣人を裁いてはならない。なぜなら、あなたたちの行いを裁くことができるのは、私だけだからである。

47. 魂は、雪の結晶のように清らかな状態で、わたしのもとに来なければならない。祝福された民よ、この御言葉をもう受け取れなくなった後も、孤児のように感じることなく、心の中にわたしを宿し、霊と霊とでわたしと交わることができるよう、備えなさい。

48. 私はいつの時代も、あなたがたに道を示し、あなたがたの魂を照らし、あなたがたが私の神聖な御業に結ばれるようにしてきた。

49. あなたがたの中には、この第三の時代に、私が人間の知性を通じて確認した律法を全うした者たちがいる。あなたがたは、私が世界に示した模範であった。しかし、あなたがたの中には、その道半ばで立ち止まってしまった者たちもいる。

50. あなたがたは私にこう尋ねる。「師よ、私の人生において功徳を積むためには、どの道を歩むべきでしょうか？」そして、あなたがたが無知に陥らないよう、たゆまず教えを授ける師として、私はあなたがたに光を与え、霊感を与え、良心を通じて語りかけ、私の畑で働くよう導いてきた。

51. 私は、あなたがたが力強さを感じ、たゆまず努力し、働き続けられるよう、力強い大樹の実を豊かに与えている。

52. あなたがたに何一つ欠けることがないように、私はあなたがたの魂を私の慈悲で満たした。私は、私の言葉の真髄をもってあなたがたの渇きと飢えを癒やし、計り知れない価値を持つ宝石として、私の業をあなたがたの手の中に託した。

53. あなたがたの中には、光の道を歩み、その道で活力を得た者たちがいる。一方で、迷いの道を歩み、人生において苦痛と疲労に襲われた者たちもいる。

54. わたしは、人種や肌の色、社会的階級や地位を問わず——彼らが知性を鍛え上げていたか、あるいは未熟で鈍い知性を持ち合わせていたかを問わず——選ばれた者たちを呼び寄せた。 私は彼らをこの世から選び出し、私の光と恵みをもって彼らを準備し、彼らを通して私を現すようにした。私は、この世に疲れ、この世に失望した男性、女性、子供、そして大人たちを呼び寄せた。

苦い杯を飲み干した女性たちを、私は清め、慰め、私の奉仕者へと変えた。この第三の時代に、世の堕落によって滅びつつある若者たちには、私は一線を引いた。私は彼らに私の食卓の食事を与え、この時代に私の働き手、すなわち弟子たちの数を増やすよう招いた。

55. あなたがたは私の奉仕に身を捧げ、人生の旅の目的地にたどり着けるよう、私に助けを求めている。私はあなたがたを励まし、助け、魂と体を強め、あなたがたが私のもとへたどり着けるようにする。

56. あなたがたが深淵に落ち、飢えた狼の餌食になりかけたとき、私はあなたがたを救った。あなたがたの中には、私からの大きな愛を悟り、私の名を賛美する者もいる。しかし、他の者たちは、自ら招いた苦しみだけを私に突きつけている。

57. あなた方のうちには、私に奉仕するために、この地上での命の日々を延ばしてほしいと願う者もいます。しかし、他の者たちは、疲れ果てた足や、この人生の浮き沈みによって傷ついた心を私に訴えかけてきます。しかし、私はあなた方に言います。私はあなた方全員を、この惑星に住まわせ、魂の昇華のために称賛に値する行いを成し遂げるよう遣わしたのです。

58. まことに、あなたがたに告げる。わたしは罪人を救うために来たのだ。あなたがたの中には、わたしの教えに従おうと決意している者もいる。 しかし、他の人々は自分の意志のままに生き、私にその苦しみをさらけ出している。だが、父はあなたがたにこう言わ

れる。「わが子らよ、あなたがたは私の教えに従っていないことを悟りなさい。それゆえ、たとえそれが私の意志ではないとしても、苦しみがあなたがたを襲っているのだ。」エリヤを、迷い道や藪の中であなたがたを探し求め、再び羊の囲いへと導く、たゆまぬ羊飼いとして認めなさい。

59. 彼は、その羊飼いの腕の中であなたがたを休ませ、私の御前に連れて行ってくれる。そして、あなたがたが再び私の憐れみ、赦し、そして祝福を受けられるよう、その群れのために祈ってくれるのだ。

60. 今日、あなたがたは私に何を願うのか。あなたがたが必要とするもので、私が与えないものなどあるだろうか。あなたがたは、私があなたがたを赦し、戦いのなかで励ましてほしいと私に言う——さらに、あなたがたは苦しんできたので、慰めが必要だと。私にとって見過ごされるものは何一つない。 私はあなたがたの足跡をたどり、泥棒のようにあなたがたの心に忍び込み、あなたがたの内に何があるかをすべて見極めた。あなたがたが私に求めるものはすべて、あなたがたに与えられるであろう。

61. 霊においてわたしの臨在を求めるあなたがたは、外的な礼拝を行う必要も、儀式や式典に出席する必要もない。あなたがたは、わたしの御心に従って集まるべきこの質素な集会所にやって来て、わたしの御言葉を聞くために、そしてここで、わたしを見出すために心を高めているのだ。

62. わたしは今、第二の時代の使徒たちを模範とする、善意ある魂たちを求めている。今日、わたしは人間となるために来たのではなく、わたしの啓示は微妙なものだ。それゆえ、あなたがたは、わたしからのあらゆるしるしや示唆を感知できるよう、自らを準備し、清めなければならない。

63. 疲れを知らぬ羊飼いであり、戦いながら人々の魂を整えるエリヤを模範としなさい。彼の困難な任務を助け、自らの賜物を見出した時には喜びなさい。魂の目を開き、この世にいながらにして、他者——すなわち霊界における完全さ——をすでに垣間見なさい。

64. 高次の存在たちや義人たちがそうしているように、あなたがたも、使命を果たした成果をわたしに捧げなさい。わたしの業を表面的に探求してはならない。そうすれば、それを理解することも、その完全性を発見することもできないからだ。それを、わたしが人類に残す「第三の聖書」として受け止めなさい。そして、過去においても、わたしは同じ愛をもってあなたがたに語りかけてきたことを思い出せ。「第一の時代」に民に語りかけた正義の声を持つエホ

バ、その後、救いの言葉を持ったイエス、そして今日の慰めの御霊は、すべて人間の魂をただ一つの道へと導いてきた。あらゆる時代を通じて、あなたがたの上に輝き続けてきたのは、まさにこの同一の神聖な御霊である。

65. あなたがたは、苦しみが和らぐと、そのときだけ「あなたを愛しています」と言って、その後立ち去ってはならない。花々が、たとえ天候が荒れていても、その美しさと香りを保っている様子を見よ。あなたがたもまた、平穏な日々においても、試練の日々においても、私を愛さなければならない。

たとえ話

66. ある若者が、荒れ狂う海の上の舟に乗っていた。しかし、激しい波にもかかわらず、舟は揺れることなく静かだった。

その若者は、この海の真ん中で、難破したように見える12人の質素な男たちを見つけた。彼は彼らを自分の舟に引き上げ、こう言った。「私があなた方を港まで連れて行き、あなた方に欠けているものを与えてあげましょう。」男たちは救い主の前にひざまずき、感謝を捧げた。しかし、心の奥底では、彼と共にいるに値しないと感じていた。

その若者は、彼らの様子を見てこう言いました。「私は罪人を救うために来たのです。貧しい人々を探し出し、私の恵みによって彼らを豊かにするために。病める人々を探し出し、彼らに健康を与えるために。」

その難破者たちはこの言葉を耳にすると、荒れ狂う海の波に飲み込まれそうになった自分たちを救ってくれたあの若者が誰であるかを悟った。そして彼らは彼に言った。「主よ、私たちと、苦難にあるすべての人々のために、新しい日の光が昇りました。」

その若者は彼らにこう言った。「さあ、この荒れ狂う海を渡る方法を教えよう。」すると、救われた十二人は、救い主の声に呼応して、その舟の進路にある荒れ狂う波が穏やかになり、従順になっていくのを見て、驚嘆した。

戒めや律法を無視し、罪人となり、苦難に遭っていたその難破者たちは、悔い改め、彼にこう言った。「主よ、もう一度、あなたの教えをお授けください。」

そこで主は、完全な教えが記された開かれた書物を彼らに見せ、こう言われた。「今、この舟をあなた方に託す。船難に遭った者たちを救うためだ。」彼らはその使命を喜んで受け入れ、この使命を果たすために従順であることを誓った。

その船の航路では、海で溺れかけていた人々が救われ、男たちは、主が彼らに授けてくださった力に確信を持ち、驚嘆した。
たとえ話の終わり

67. 師は真実を告げる。世界が堕落の頂点へと向かっているこの第三の時代に、私はあなたがたを呼び寄せた。それは、私が託した教えを通じて、あなたがたをこの船へと救い入れ、人類にその教えを示すためである。

68. この教えの時期を経て、あなたがたは世の中で自らの使命を果たすことができるようになるだろう。あなたがたは守護天使たちに導かれ、信仰と正義を規範とするだろう。 無知に対しては断固として立ち向かうべきだが、教え導き、正すという困難な任務にあたっては、慈悲と忍耐もまた用いるべきである。

69. わたしはあなたがたの祈りを理解し、願いを聞き、希望と願いを知っている。だからこう告げる――心配するな、あなたがたに欠けるものは何もない。あなたがたは霊的な使命を果たすために必要なすべての助けを得ることになるし、肉体の維持のためには、わたしが必要とするものを与える。

70. この恵みの朝、私はあなたがたを祝福する。あなたがたの誠実な祈りは、私が今、そして永遠に祝福しているように、諸国民を包み込む外套のようになるであろう。

私の平安があなたがたにあるように！

教え 356

1. あなたがたは、わたしの到来を信じた者たちである。わたしの啓示もすでに最後の年を迎えているが、それでもなお、あなたがたは、あたかもわたしの弟子となり始めたあの頃のように、わたしに耳を傾けるために急いでやって来る。

2. この時代、多くの人々が召されましたが、わたしに従った者はわずかでした。しかし、すべての人々にわたしの御霊の光が降り注ぎました。あの「第二の時代」に、わたしが「見ずして信じた者たちは幸いである」と言ったように、今、あなたがたのためにこう繰り返します。「見ずして信じ、わたしに従い、忍耐強く留まり続けたあなたがたは幸いである！」

3. とはいえ、私の啓示やこの形での私の臨在について、誰も驚くべきではないと申し上げなければならない。なぜなら、それはすでに「第二の時代」において、私によって預言され、約束されていたことだからである。 私はあなた方を驚かせたわけではない。それが私の意図ではなかったのだ。もし私の到来に驚いた者がいたとしても、また私の啓示を知って多くの者が驚愕したとしても、それはあなた方が霊的に深い眠りに陥っていたからに他ならない。それは、あなた方が目を覚ましていなかったために起きたことである。

4. 第二の時代に私が去った後、私への信仰を守り続けた者たちの間では、世代から世代へと私の再臨が待ち望まれていました。神の約束は親から子へと受け継がれ、私の言葉は、私の帰還を目撃したいという切なる願いを生き生きと保ち続けました。どの世代も、自分たちの世代において主の言葉が成就すると期待し、自分たちがその恵みを受ける世代であると信じていました。

5. こうして時は流れ、世代も移り変わり、人々の心からは私の約束がますます押しやられ、人々は目を覚まし、祈ることを忘れてしまった。

6. 何世紀も過ぎ去り、人類が、私が最も予想外の瞬間にやってくることさえもはや想定していなかった時——人々が真理から最も遠ざかっていたその時、私は御言葉の成就として、私の霊的な臨在を感じられるようにした。

7. 私がその時代の人々に自らを現すために選んだ形は、多くの人々を驚かせ、さらには、私の過去の啓示について事前に熟考することさえせずに、それを非難するよう促すことさえあった。

8. 私が告げ知らせるためにどのような形を選んだとしても、私を受け入れる準備ができていなかった者たちをすべて混乱させただろ

う。しかし、目覚めて準備ができていた者にとっては、、私が啓示のために用いたどのような形であっても驚きではなかっただろう。なぜなら、その者はどのような啓示の形においても私を感じ取っていたからである。

9. この時代にわたしを信じたすべての人々――わたしを感じたすべての人々、そしてわたしに従ったすべての人々――まことに、わたしはあなたがたに告げる。彼らは霊的にわたしを待ち望んでいたのだ。自覚することなく、彼らはわたしの再臨を求め、わたしの言葉を待ち望んでいたのである。

10. あの時のわたしの約束は、ある一つの民族のためではなく、全人類のためであった。それゆえ、今日、わたしはあなたがたにこう告げる。わたしの光は、声の媒体という知性の器官を通じてわたしを聞くこの人々の群れだけに降りてきたのではなく、新しい時代の到来を人々に実感させるために、あらゆる人々の道のりにおいて、千差万別の方法で自らを現しているのだ。

また、私はあなたがたにこう言わなければならない。ある者たちは――日々、そして生から生へと私を待ち望んでいたにもかかわらず――あなたがたが私を見ているような姿で私が現れたのを見て信じることができず、私の存在を否定し、遠ざかってしまった。なぜだろうか？　それは、彼らが長い間、自分の想像の中で、私が選んだものとは正確には異なる現れ方を作り上げていたからである。

11. 私の決定と啓示は、いかなる人間の推測や想像をも超えていることを理解してください。

12. 私の業は、人間が真理や完全性として理解しうるものをはるかに超えているという証拠を、私はあなた方に数多く示してきた。

13. 一部の人々を最も混乱させたものの一つは、限られた人間の知性によって表現された私の教えである。 しかし、その理由で戸惑いを覚える人々が、もし私の言葉の奥底に迫ろうとするならば――まことに、私はあなたがたに告げる。彼らはすぐに、私がなぜ、教育を受けていない、さらには不純な人間をわざわざ選び、私の教えを伝えるようにしたのか、その理由に気づくことになるだろう。 そうすれば、彼らが気づくのは、私がこの手段を選んだ理由が、私の愛と正義、そして人間の魂がその父と直接つながることができるようにする永遠の法則にあったということだ――それは、魂の性質と身体の能力が同時に参与するコミュニケーションの形である。

14. 自分が罪人であることを知っている者が、このような恵みを受けるに値しないと考えるのは当然のことである。しかし、私があ

なたがたの現状を超えて見据え、あなたがたの不完全さを超越していることを、あなたがたも知ることは、 かつ当然のことである。

15. あなたがたは私の一部であるのだから、私がしていることはただ一つ、あなたがたが私の中に生きるために、あなたがたが清められ、完全になるのを助けることだけであることを理解しなさい。

16. 他者が罪人のために功徳を積むという時代は、もはや時代遅れである。そのような時代はすでに過ぎ去ったが、それらの功徳は模範として今なお残っている。

17. 今日、自らの魂の救いのために功徳を積むべきなのは、罪人自身である。その過程において、私はその人の導き手、師、そして救い主でありたいと願っている。

18. この世で、親が善良な子供だけを愛し、悪い子供を嫌悪したことが、いったいあっただろうか。私が、親たちが最も深く傷つけられ、苦しめられている者たちに対してこそ、最も愛情深く、最も細やかに接している姿を、どれほど多く見てきたことか！ *あなたがたが*、私の行いよりも大きな愛と赦しの業を成し遂げることができるなど、どうしてあり得ようか。師が弟子たちから学ばなければならないなどということが、かつてあっただろうか。

19. それゆえ、私が自分の者たちの誰一人として不適格だとは考えていないことを知れ。したがって、救いへの道は、あなたがたがそれを歩むよう永遠に招いているのである。また、光であり、平和であり、善である私の王国の門も、律法と真理から遠ざかっていた者たちの到来を待ち望みながら、永遠に開かれているのである。

20. これらすべてのゆえに、私は罪深い被造物の群れの中から、私の言葉を聞かせるための道具として用いる者たちを選び出そうとしたのである。

21. 私がこの奉仕のために選んだ者たちの間には、どれほど多くの真の再生の事例があったことか！ どれほど多くの回心と悔い改めの証しがあったことか！

22. わたしは、わたしの再臨は御霊によるものであると予告したが、この時代に、その予告を成就させたのである。 私が求めていたのは人間そのものだったのに、なぜ人間以外の手段を選んで、自らを現すべきだったというのか。この人々の群れがほんの少し霊的になるだけで十分であり、そうすれば彼らの感受性によって、私の存在と本質を感知し、この種の啓示を正しく、かつ自然なものと受け止めることができたのである。

23. 言っておくが、最初の瞬間から私の存在を感じ取れるほどの十分な感受性を持ってやってきた者ばかりではなかった。 というの

も、「 」の人々は、この光を見、私の言葉の本質を捉えるために、霊的な目を研ぎ澄ませてやって来たのに対し、他の人々は肉眼で探求するようにやって来たため、彼らの判断、評価、観察は表面的なものに留まり、常に外見的な事柄にしか及ばなかったからである。というのも、彼らは言葉の意味や本質を探求する代わりに、言語の正しさの程度を評価し、それに基づいて、発言者の人生や生活態度、話し方、さらには服装に至るまでを探り出そうとしたからである。

24. 当然のことながら、後者たちは、この教えに関してまだ初心者に過ぎない者たちの 不完全さを見出さざるを得ず、その結果、彼らは私の教えからあらゆる真実を否定した。一方、前者は、私の僕たちの過ちや限界、貧しさを見過ごした。彼らは、彼らがただの人間であり、それゆえ過ちを犯すものであることを考慮に入れ、ただその言葉の意味や本質のみを追求したからである。それゆえ、彼らはこの「花束」の中に、私の霊の存在を見出したのである。

25. 私の言葉に必要な注意を払わず、その内容に深く入り込まない者は、決してその真理を見出すことはできず、また、あらゆる疑念の解明や解消も得られないだろう。

26. 弟子たちの間に、ほんのわずかな誤りや疑いも生じないように、私の言葉そのものの中で、すべてを説明しているのは、他ならぬ私である。

27. 私が、この言葉の本質、すなわち、あなたがたの言語という人間的な形式を超えたところにある真意を探し求めることを学ぶべきだと、何度あなたがたに語ったかを思い出してください。私が、言葉の地上的形式にこだわってはならないと語ったことを思い出してください。 そうすればその真意を見いだせないからだ。また、私が罪人、すなわち未熟な知性を持ち、教育も学問も受けていない人々を通して自らを現してきたことを常に心に留めておくべきだと、私が言ったことも思い出してほしい。そうすることで、言葉の外面的な形式に過度な重要性を置かず、私の啓示が持つ真実を認め、またそれらの身体に帰すべきものは身体に帰属させることを学ぶのだ。

28. すべての者が私の光を求めたわけではなく、また、弟子となるよう努めた者ばかりではなかったことを悟りなさい。さて、なぜ多くの者が私に背を向け、なおも私の働き手たちによって失望させられたと主張し続けているのか、その理由を知りなさい！

29. 彼らは渇きに苦しむ心であり、尽きることのない真理の泉のそばにいながら、身をかがめて満腹になるまで飲むことができなか

った者たちである。彼らの内には非常に大きな空虚があり、、魂が必要とするものを見つけられないまま、探し求め、叫び続けている。しかし、いつの日か彼らは再びこの道に近づくでしょう。その時、彼らの痛ましい経験が、もはや外見的なものではなく、より深いところにおいて私を求めなければならないと彼らに告げるでしょう。彼らが戻ってきたとき、あなたは、私を熱心に聞き入れた者たち――すなわち、師のもとにとどまり、その信仰と霊性の高まりに対して、大きな神秘と教えを明らかにする光が注がれるという報いを受けた者たち――の中に、知恵が輝いているのを見るでしょう。

30. あなたがた全員が、私の啓示に立ち会うためにここに来る前に、私はあなたがた一人ひとりを試した。私は弟子たち一人ひとりに賢明な証拠を送り、あなたがたに私の臨在を証しする機会を与えさせたのである。しかし、まことに、あなたがたに告げる。ある者たちは、身を委ね、謙虚に、そして私の呼びかけに従順であった一方で、他の者たちは、彼らもまた私の声を聞いたにもかかわらず、信仰も意志も持たず、しばしば高慢や嫌悪、さらには反感に満ちていた。知性が曇り、心が毒されているとき、魂は何を捉えることができるだろうか。そのような性質を持つ人間は、不完全さしか見ることのできないだろう。

31. わたしはあなたがた全員を試す。わたしに従う者たちでさえ、わたしは絶えず試している。それは、あなたがたの全存在が強められるためであり、また――この手段によってわたしの言葉がもはや聞かれなくなったとき――彼らがわたしの言葉に含まれる知恵を持ち、同時に、この教えを真の純粋さをもって広めるために必要なすべての力を備えているようにするためである。

32. わたしの弟子たちは、今のようにわたしの声を聞くことができなくなったとき、自分たちの模範が非常に重要になることを確信しなければならない。なぜなら、その時には、優れた弟子たちが自らの行いを通じて他の者たちを導くことになるからだ。彼らは、わたしの言葉について証しをする際には、常にその証しを行動が伴わなければならないことを知らなければならない。

33. もし明日、この民に対する証しの時が来たときに、わが民がわが言葉に従って生きず――その行いをわが真理に合わせないならば、たとえわが言葉がどれほど完全であっても、それを繰り返したところで何の役にも立たないだろう。

34. 私の言葉を人々の心に実感させたいと願う者は、愛を身にまとい、憐れみに満ち、謙遜と忍耐を蓄え、赦す用意があり、隣人の苦しみを和らげようとする善意を持たなければならない。そうすれ

ば、その人は、最も頑なで に抵抗する心でさえも、私の弟子たちの心の中で効力を発揮する私の言葉によって揺さぶられ、動かされるのを体験することになるだろう。

35. あなたがたは、多くの同胞がこの言葉を聞いて忍耐強くいられない理由が、彼らがあなたがたの不完全さを見抜いたことにあることを知っているのだから、あなたがたの模範が彼らに多大な影響を与えることを自覚し、可能な限り、私の律法に背くようなことをしないよう努めなさい。

36. 私は、あなたがたが自分自身に満足し、あなたがたが私の業の清さと真実を彼らに示す術を知らなかったために、誰か一人の同胞が正しい道から逸れてしまったと、良心が決して責めることのないようにしたい。

37. 私が「第二の時代」に人々の群れに語りかけたとき、私の言葉――その意味も形式も完全なものであった――は、すべての人々に聞き届けられた。人々の心の奥底まで見通す私の眼差しは、一人ひとりが内に秘めていたすべてを見抜いた。ある者には疑いがあり、ある者には信仰があり、またある者からは恐怖に満ちた声が私に向かって語りかけた。それは、その痛みゆえに私から奇跡を期待していた病人たちであった。 私が「父のもとから来て、人々に天の国をもたらす」と語るのを聞いて、嘲笑を隠そうとする者もいれば、私に対する憎しみと、私を黙らせたり排除したりしようとする意図を、私がその心の中に発見した者たちもいた。

38. それは、私の真理に心を刺されたと感じた、高慢な者たち、すなわちパリサイ人たちであった。 なぜなら、私の言葉はこれほど明確で、愛に満ち、慰めに満ちていたにもかかわらず――そして常に力強い御業によって裏付けられていたにもかかわらず――多くの人々は、私を「人間イエス」として判断し、私の生涯を探り、私の着る服の質素さや物質的な富の絶対的な欠如に注目することで、私の存在の真実を見出そうとし続けたからである。

しかし、私を非難するだけでは満足せず、彼らは私の弟子たちをも非難し、彼らが話すときも、道で私に従うときも、食卓に着くときも、彼らを厳しく監視した。ある時、私の弟子たちが食卓に着く前に手を洗っていなかったのを見たとき、パリサイ人たちはどれほど激怒したことか！ 身体の清浄さと魂の清らかさを混同してしまった、哀れな者たちよ！彼らは、神殿で聖なるパンに触れるとき、手は確かに清かったが、その心は腐敗に満ちていたことに気づいていなかったのだ。

39. 私がこの世で説教をしていた間、弟子たちがすでに師であるとか、*彼らの言うことを*聞くべきだとは一度も言ったことがない。彼らはまだ、私の言葉の光に魅了され、喜んで私に従っていたが、それでも過ちを犯すことのある生徒に過ぎなかった。なぜなら、彼らが変容し、その後、人々の模範として働くようになるまでには、ある程度の時間が必要だったからだ。彼らは、後に石をダイヤモンドへと変えることができるようになるために、神の愛という彫刻刀によってまだ磨かれている最中の岩塊であった。

40. もし私が、私の弟子たちが過ちを犯したと告げるなら、私が群衆に語りかけたあの出来事を思い出してほしい。 その中には、幼い子供の手を引いたり抱きかかえたりしている女性たちがいた。すると、弟子たちは、子供たちが私を邪魔するかもしれないと考え、私の言葉は大人だけに向けられたものだと誤解していたため、その母親たちに子供を連れて退くよう告げるという過ちを犯してしまったのだ。 なぜなら、彼らは、私の言葉が、老人であれ、成熟した大人であれ、若者であれ、子供であれ、その人の「霊」に向けられていること、また、性別は「霊」とは何の関係もないため、男性であろうと女性であろうと区別がないことを知らなかったからである。

41. 幼子たちに祝福を授けてくださるようイエスに近づいたあの母親たちは、どれほどの痛みを味わったことか。そして、私の弟子たちのその行為を目の当たりにして、私が言葉の中に注ぎ出していた慈悲と愛を、どれほど疑ったことか！ それゆえ、私は声を高めて彼女たちにこう告げなければならなかった。「子供たちを私のところに来させなさい。」

42. 私はそれらの過ちを利用して、弟子たちに教訓を与えた。オリーブ園で私が捕らえられたとき、弟子の一人であるペトロは、私を守ろうとして、大祭司の召使いに剣を振るった。そこで私は言った。「剣を鞘に納めなさい。剣に訴える者は皆、剣によって滅びるからだ。」

43. 私は弟子たちと別れた。そして、弟子たちは私の代わりにその場に残り、その行いと言葉によって証しを立て続けた。私の霊は彼らに光を注ぎ、この世に私の種を広め、愛と謙遜と高揚の模範として後世に語り継がれるような、あらゆる行いに彼らを導いた。 彼らはもはや弱々しい子供たちではなく、情熱に燃える弟子たちへと変貌し、地上で師にふさわしい代理人となっていた。臆病さや疑い、過ちは、彼らがあらゆる行いにおいて示した真理に取って代わられていた。

44. 愛する民よ、あなた方もまた、この時代の私の啓示の期間中、過ちを犯し、弱さを抱え、誘惑に陥り、一時的に疑いを抱いたことがある。 しかし、私はこの啓示を一時中断し、あなたがたに熟考し、準備を整え、強くなるための時間を与えるつもりである。なぜなら、あなたがたもまた、地に残り、私の言葉の証しを立てることになるからだ――その証しは、あなたがたの行いを通じてなされるものである。

45. しかし、あなたがたの使命が苦労や苦しみを伴うものになるかどうかなど、気にする必要はない。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが霊的な備えを成し遂げれば、何事も困難でも重荷でもなくなるだろう。

46. 気づかないうちに、あなたがたは徳のある生活を送り始めるだろう。そして、それこそが、あなたがたが周囲の人々に私の真理について示す最も明確な証となるのだ。

47. あなたがたは、不完全さにもかかわらず、すでに幾度となく奇跡を成し遂げてきたことを心に留めておきなさい。ですから、あなたがたの内なる霊性が完全に開花したとき、その行いはさらに偉大なものになることを覚えておきなさい。

48. 私は、あなたがたが、自分たちの模範が他者に与える影響を、まだそれほど重要視していないことを見ている。あなたがたは、自分の言葉や祈り、そして行いに宿る力について、はっきり認識しようとはしなかった。

49. あなたがたの行いが人々の心に蒔く種を知っているのは、わたしだけである。そして、その種が枯れることのないよう、わたしは命と愛の露をあなたがたの蒔いた種に注ぎ下ろしている。しかし、あなたがたは、その行いをまだ始めたばかりなのだから、それを諦めないためにも、その行いの真実を信じることが必要である。 あなたがたが行うすべてのことに常に目を向ける人々が存在することを自覚しなさい。そして、それらの視線が常に、わたしの教えへの従順の模範を見出すことができれば、それは良いことである。

50. あなたがたの歩みの道において、無知という目隠しは数多く取り除かれてきた。あなたがたの言葉によって、多くの同胞が罪の道から立ち返った。あなたがたの平和を愛する模範は、不和の嵐に翻弄されていた多くの家庭が、再び調和を取り戻す助けとなった。多くの病人は、あなたがたが注ぎかけた癒しの恵みをその苦しみの中に感じ、それによって苦しみから解放された。また、あなたがたは、世の迫害や危険に直面する多くの心を強くした。

51. それなのに、なぜあなたがたは、自らの行いにそれに見合う価値を認めないのか。私は、それを自慢しろと言っているわけでも、世間に知らしめろと言っているわけでもない——いいえ、ただ、私が憐れみを注ぐあらゆる場面において、あなた方を貫くあの な光が、隣人の人生においてどのような意味を持つかを、あなたがたに認識してほしいのです。そうすれば、もはやあなたがたは、自分たちの蒔いた種を見捨てることはできなくなるでしょう。

52. 愛する種蒔き人たちよ！ 私の平安を世界中に広めなさい。その中には、私の愛、私の慈悲、私の真理、そして私の癒しの力があるのだ！この癒しの力を、祈りの中に、思考の中に、言葉の中に、眼差しの中に、愛撫の中に、そしてあなた方の全存在の中に宿しなさい。そうすれば、断言するが、この地上でのあなた方の霊的な日々の働きこそが、あなた方にとって満足に満ちたものとなり、決して苦いものにはならないだろう。

53. まもなく、私はもはやこの姿で現れることはなくなる。しかし、私は私の力と光に満ちたまま、あなた方を残していく。それゆえ、私があなた方を、まるで狼の群れの中の羊のように置き去りにするのではないかと恐れてはならない。

54. わたしの言葉が途絶えることが、あなたがたが冷める理由になってはならない。この啓示が途絶えることが、あなたがたが互いに距離を置くことにつながってはならない——それどころか、まさにその時にこそ、あなたがたはさらに団結し、闘いと試練に立ち向かえるようにしなければならない。

55. あなたがたが肉体的には互いに離れている限り、魂のレベルで互いに近づく時はまだ遠い。

56. 今のところ、あなたたちはまだ互いの顔を見て、声を聞く必要がある——今のところ、あなたたちはまだ互いに温もり、力、信仰、そして勇気を与え合う必要があるのだ。

57. わたしは、あなたがたに対し、わたしが去った後も、しばらくの間は集まりを続けてほしいという意志を表明した。それは、あなたがたの準備が整い、集まりの場においてわたしの霊的な臨在を証しするにふさわしい者となるためである。 しかし、一度あなたがたの信仰が強まり、決意が熟し、霊から霊へとわたしを求め、受け入れることに慣れたならば、あなたがたは、魂を解放し高揚させるこの教えの種を蒔く者として、さまざまな道へと散っていく準備が整うだろう。

58. わたしは常にあなたがたの集いに臨み、その場において、あらゆる知性の器官にわたしの霊感注ぎ込むであろう。しかし、今す

でにあなたがたに告げておく。わたしの言葉がもはや聞こえなくなるあの日が来ても、わたしの光が降り注ぐのを待ち望む今と同じように、教えを広める際に変わらず同じ感動を抱き続ける心を持つ者たちは、幸いである。

59. 私は、あなたがたの集いが平和に満ち、瞑想が深まり、私の言葉の核心を見出せるようにしたい。しかし、そのような場で決して争いや激情が生じないようにしなさい。そうでなければ、あなたがたは闇しか刈り取ることにならないからだ。

60. わたしは、あらゆる誘惑への扉を閉ざす目に見えない鍵をあなたがたに与える。しかし同時に、インスピレーションへの扉を開く。なぜなら、第三の時代の啓示がまさにその時に豊かにあなたがたに注がれることを常に心に留めておきなさい。この啓示は、わたしの声の伝達者たちを通じてなされたが、それはただあなたがたを準備させるためだけのものであったからだ。

61. 霊性化、内面の集中、そして思考の高揚こそが、新たな啓示への扉を開く鍵となる。その光の中で、あなたがたはあらゆる秘密と、まだ解明されていないすべての事柄の解明を見出すだろう。

62. あなたがたは、引き続き新しい教会員を引き寄せるよう努めなさい。彼らは、やがて「最後の者たち」となる新しい弟子たちであり、彼らに対しても、私は同様に私の霊を注ぐであろう。 あなたがたの心は、他者の苦しみに対して閉ざされてはならない——それどころか、弱者や苦しむ人々、疲れ果てた人々、魂の飢えに苦しむ人々、愛を渇望する人々に対して、あなたがたの憐れみは最も大きなものでなければならない。

63. あなたがたは、集まりが霊的な力を備えるよう努めなさい。その力は、この時代にわたしの言葉が大勢の人々を引き寄せ、集めたのと同じように、あなたがたの隣人を引き寄せるものである。

64. あなたがたが思いを一つにし、隣人の事柄をあたかも自分のことであるかのように受け止めるとき、その集いにおけるあなたがたの祈りは奇跡を起こすだろう。そうすれば、慰めや、彼らの肉体や魂への癒やし、そして彼らの心に訪れる平安、彼らを真の命へと高める光が、彼らに注がれるのを感じるだろう。

65. 私の臨在を示すこれらすべての証拠を前にして、あなたがたの心は、現在の時代の終わりを惜しむことはないだろう。なぜなら、あなたがたは私の言葉を文書として持ち、それを万全の準備をもって解釈することができるからだ。そうすれば、あなたがたはそれを深く感じ取るだろう。

66. 私の教えを広める者たち、澄んだ視界と真実の言葉を持つ預言者たちが現れるだろう。あなた方は、病人を癒すために、より霊的な方法を用いることになる。 私があなたがたに授けた癒しの力は、まず病人の魂に届き、その魂に、衰弱した肉体を立ち直らせるよう促し、苦しみや情欲を克服して、魂の真の自由を取り戻す方法を教えるだろう。

67. あなたがたのすべての働きは謙虚かつ控えめであるべきであり、誰も心の中に嫉妬や虚栄心を芽生えさせてはならない。もしそうなれば、あなたがたは「霊から霊への対話」という奇跡が起こるのを見ることができないだろう。それは、現在の段階が終わりを告げた時に、あなたがたが実践し始めるべきことなのである。

68. 私がこの啓示の最後の数日間、啓示と真髄と教えに満ちた言葉をもって、あなたがたが――それを聞くために――備えてきた努力に報いたように、あなたがたの「霊と霊との対話」の時代には、私はインスピレーションと預言によってあなたがたの昇華に報いるであろう。それらは世界を震撼させることになるだろう。

69. 私の弟子たちの熱意、敬意、従順さは、霊的な恩恵をもって報われるであろう。

70. 他の国々から人々がやって来て、私が何を教え、何を予告したのかを尋ねるだろう。その時、あなたがたは私の言葉を繰り返すことになる。しかし、もし私の教えの一部あるいは多くがあなたがたの記憶から消え去っていたとしても、あなたがたは、現在「金の羽根」と呼ばれる弟子たちに私の霊感によって口述されているその書物を参照することになるだろう。

71. この書物は、私の言葉がすべての人々のためにあったのと同様に、例外なく、また特権なく、すべての人々のためにあるべきである。そうしてこそ、私の教えはごく少数の者の心の中に埋もれることなく、永遠にその光を放ち続けるであろう。

72. 私はすでに今、この民に対し、まもなく手にすることになるこの書物に注意を払うよう戒めている――その教えを忘却の彼方に委ねたり、そのページを閉じたままであったりしてはならない、と。 これから訪れる戦いの日々において、あなたがたはこの教えの中に、戦いに必要な武器、人類があなたがたに投げかける問いに対する適切な答え、そしてあなたがたが直面する試練の解決策を見出すことになるのだということを心に留めておきなさい。

73. この書は、記憶力の弱い弟子を助け、言葉遣いが不器用な者をも助けるであろう。そして、その目的が隣人への慈悲と愛にインスピレーションを得ているからこそ、この書は必要となるのである

。そうして、彼が私の言葉を繰り返すその瞬間に、 朗読を通じて、私の存在を人々に感じさせ、声の媒体を通じて私を聞いたことのない人々にも、その存在を味わわせることができるようにするためである。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがこの形で私を受け入れる準備をするならば、 、あなたがたの証しは純粋であったゆえに、疑い深い者や心硬い者たちでさえも震え上がるだろう。

74. すでに今、私はあなたがたに、準備のために役立つであろうこれらの助言を残しておく。

75. 私が去った後も団結を保ち、私の教えを深く探求し、熟考しなさい。そうすれば、あなたがたの民が戦いに立ち向かうのに十分な強さを持つ時が来るのを、あなたがたは悟るだろう。

76. 私が今、あなた方に託している使命を遂行するために旅立つにあたり、その時刻や日を誰かに尋ねる必要はない。かつての預言者たちが、内なる神の呼び声を聞き、信仰に満ちてその導きに従い、私の御心を果たすために旅立ったように、あなた方も心の中で私が定めた時を感じ取るだろう。

77. あの時代、預言者たちの任務は極めて困難であり、民に指針を示し、彼らを目覚めさせ、励ますという責任も非常に重くなるだろう。私の光の明瞭さが常に彼らに届くように、彼らは十分な備えを保たなければならない。決して虚栄心に惑わされたり、嘘によって誘惑に陥ったりしてはならない。

78. また、この世には、あなたがたが出発の時を悟るためのしるしや手がかりとなるような出来事も起こるだろう。

79. その時、あなたがたは一体何を知ることができないというのか。あなたがたの心にはどのような疑いが生じるというのか。あなたがたに投げかけられるであろう質問のうち、答えられないものは一体何だろうか。

80. わたしは、あなたがたの人生において最も深遠な事柄であるにもかかわらず、わたしの言葉とすべての業を簡潔に説明してきたのだから、あなたがたもまた、同じ簡潔さをもって、周囲の人々にわたしの教えを説明しなければならない。

81. そうすれば、あなたがたは、弱者や光を渇望する者たちにとっての砦となるだろう。彼らはあなたがたの助言を求め、試練の瞬間にあなたがたの祈りを願うことになる。

82. この民がそれを大切にし、活用することを知れば、それは彼らにとって素晴らしい活動の時期となり、また、与えられたすべて

の賜物を豊かに享受する、あなたがたの魂にとって光に満ちた機会となるだろう。

83. あなたがたは、どれほど多くの回心の事例を目の当たりにするだろう！　肉体や魂の病を患う者たちにおける、どれほど多くの奇跡的な癒やしを！　それまで社会から疎外されて生きてきた同胞たちが、あなたがたが『』で彼らの本質の中に発見するよう教えた賜物を、同様に現すのを見たとき、あなたがたはどれほど喜ぶことか！ かつて自分たちは相続権を失った者だと考えていた者たちも、あなたがたの賜物を見たとき、あなたがた全員が私の相続人であることを認め、また、たとえ私の完全なる愛の法則に基づき、時折それを差し控えることがあっても、私があなたがたに与えたものを決して取り戻すことはないと認めるでしょう。

84. 私の言葉が、あなたがたが確かな足取りで「行動の時」へと踏み出し、その過程で霊性と謙遜の模範を示すことができるよう、いかに準備を整えているかを悟りなさい。

85. 今こそ、あなたがたが備えを固める時である。なぜなら、人類はすでに目覚めようとしているからだ。

86. 私は、あなたがたを祈りながら見守る者としてここに残す。なぜなら、あなたがたは、地球上のすべての民族を震撼させるような大事件の目撃者となるからだ。 あなたがたは、この世界でこれまでに起きた中で最も恐ろしい戦争を目撃することになるでしょう。さまざまな宗教団体や教義間の争いを経験し、飢餓や疫病、死が国や都市を荒廃させるのを目にすることになるでしょう。そして、これらすべてが、ある時代の終わりを告げるものとなるでしょう。しかし、その後、あなたがたは生命の復活を目の当たりにすることになるでしょう。

何世紀にもわたって敵対し合ってきた民族たちが団結する様子を、あなた方は目の当たりにするでしょう。民族や人種間の和解を目の当たりにし、互いへの愛によってそれが確固たるものとなるのを見るでしょう。あなた方は、主要な宗教団体の地上的権力が消え去り、至る所で霊性化の果実が明らかになるのを見るでしょう。

学識者として知られる多くの人々が混乱に陥り、偉大な指導者たちが動揺し、何を言えばよいのか分からなくなるのを目にするでしょう。それは、真理の光が彼らを打ちのめすからです。一方、正義と真理への愛ゆえに常に迫害され、屈辱を受けてきた人々は、地平線に自由と正義の太陽が輝き出すのを目にするでしょう。

87. これは、人々の霊的進歩が完全に顕現し、人々の彼方に存在する霊的な生が、彼らによって真に実感されるのにふさわしい時となるだろう。

88. ただこの世だけを愛してきた人々が、霊の眼差しをもって真の生命を見つめるとき――人類を苦しめてきたあらゆる悪の加害者たちが、しばしば真実を否定してきた自らの書物を火の中に投げ込むとき、それは唯物主義の崩壊となるだろう。

89. 誰に対しても私の光を拒むことのできない私は、すべての人にその光を与え、それによって知性の扉をインスピレーションへと開き、知恵と永遠、そして高みへの招待とするであろう。

90. おお、弟子たちよ、私の教えを深く探求し、そのどの部分も、後退、退行、停滞、あるいは混乱を意味するものではないか、言ってみよ。

91. もしあなたがたが私の言葉に対する信仰を完全に持っているならば、それを魂に不滅のものとして刻み込み、あらゆる行いにおいて霊性が表れるようにしなさい。

92. わが言葉は、わが意志に従ってあなたがたの心に築かれるべき王国を約束する。それはあなたがたの人生を照らし、その光が家庭、両親、夫婦関係、子供たち、そして隣人の中に満ち溢れるためであり、それによって統治者は寛大に、教師は賢明に、裁判官は公正になるためである。

93. これが私の教えである。人々がただ自らの魂の顕現と実現を求めるだけの、そうした学問と、この教えが混同されることを許してはならない。

94. 私はこの教えを「スピリチュアリズム」と呼んだ。それは、魂の昇華を説き、人間が自己の完成のために持つあらゆる賜物を明らかにするからである。

95. 現時点で、この教えの真髄を予感している者は、いかに少ないことか！私を徐々に理解し始めている者は、ほんの一握りに過ぎない！あなた方の大部分は、依然として、魂に何の益ももたらさない伝統や慣習に溺れているように私には見える。

96. あなたがたがわたしの業の中で築き上げてきたこれらの習慣、伝統、そして行いを捨て去ることになると、多くの人の心の中にどれほどの恐れが見られることか！そして、あなたがたは、これらの伝統に従うがゆえに、わたしの律法の真の成就を放棄しているということを理解しようともしないまま、そのことを指摘されると、どれほど心を傷つけられていることか。

97. 外見的な神への崇拝が、いつの時代においても人類の霊的停滞の原因であったことを悟りなさい。しかし、あなたがたは再びこの過ちに陥ってはならない。霊的に前進し、完全さに達するためには、私への崇拝が内面的で、純粋で、深く、霊的なものであることが不可欠であることを、常に自覚しなさい。

98. わたしは、わが民を無知や誤りから解放するために、知恵と正義をもって彼らを試す。彼らを狂信に陥らせないよう守り、そのためにも、わたしは彼らを試すのである。

99. 隣人を愛し、平和を広め、わたしの言葉を伝え、慈悲を示し、人類の平和のために祈ること――これこそが、わたしがあなたがたに期待する霊的な礼拝であるが、そのために、あなたがたは、集まる集会所においても、またご自宅においても、外的な礼拝行為を必要としない。

100. よく考えてみよ。あなたがたが真の霊性において一つにならない限り、あなたがたの祈りは、隣人に実感されるほどの力を持ち得ない。

101. この言葉ゆえに、自分たちは十分に清いとして、隣人を裁こうとする者たちは、立ち上がってはならない。まことに、わたしがあなたがたに告げる。ある者の行いも、また別の者の行いも裁くことができるのは、わたしだけである。

102. たとえ、あなたがたが兄弟たちがわたしを裏切るのを目撃する時が来たとしても、同様に、あなたがたは兄弟たちを裁いてはならない。なぜなら、魂の清さあるいは不浄さを裁くことができるのは、わたしだけであると、わたしがあなたがたに告げたことを思い出すべきだからである。「裁いてはならない」とわたしはあなたがたに言ったが、良い助言を与え、周囲の人々が誘惑に陥らないよう努めなさい。 しかし、もしそれができないのであれば、真理にとどまるよう努めなさい。そうすれば、道から逸れた者たちが、自らの過ちに気づき、あなたがたがわたしの戒めを堅く守り通してきたことを理解して、その道に立ち返る日が来るでしょう。

103. あなたがたが一致し、平和であるように、目を覚まし、祈りなさい。すでにあなたがたは、わたしの言葉の終わりの日々にいる。そして、最後の日が来たとき、あなたがたが霊的に一致している姿を見たいと、わたしは願っている。

104. あなたがたが、兄弟姉妹の一人が民から孤立することを防げるよう、わたしは多くの教訓を与えてきた。わたしをほとんど聞くことができなかった者たちは、弱いかもしれないことを理解せよ。彼らに力と信仰を与えよ。また、わたしを頻繁に聞いてきた者たち

の中にも、揺らぎのある心を持つ者がいるかもしれない。だから、あなたがたは彼らに、人生の道において温もりと励ましを与えなければならない。

105. 民よ、あなたがたが一度団結すれば、世界の平和を祈るために集い、その際、思考の翼に乗って平和の鳩へと変容した魂を、諸国民へと送り出すことになるだろう。

106. あなたがたの祈りの結果が直ちに現れることを決して期待してはならない。時には少し待たなければならないこともあれば、長く待たなければならないこともあり、また時折、あなたがたがわたしに求めたことが実現するのを、 目にすることさえできないこともあるだろう。しかし、それでもなお、あなたがたの使命は果たされたのである。

107. あなたがたは平和の種蒔き人であるべきだが、私はもう一度言う。時期がくる前に収穫を期待してはならない。その種が発芽し、芽を出し、成長し、実を結ぶのを待たなければならない。そして、その後に初めて収穫を行い、あなたがたの魂が満足感で満たされるのを許すべきである。

108. 弟子たちよ、あなたがたがこれらすべてを、あなたがたの兄弟姉妹の一人を通して学んでいることに驚嘆しなさい。私はその者を私の道具へと変えたのである。それは、あなたがたが、私の力が成し遂げる御業の証人となるためである。すなわち、不器用な存在を、霊的にすべての人にとって有益な存在へと変え、 また、罪人を、私の言葉を伝えるために心と知性が清らかな存在へと変えるという、私の力が成し遂げる業の証人となるためである。

109. わたしはまた、あなたがたにわたしの「声の担い手」たちを託した。それは、あなたがたが彼らを前進させ、完成へと導くためである。そして今、わたしの啓示の終わりの日々において、その「声の担い手」たちを高みへと引き上げることができた教会は、忍耐と愛をもって育てられた熟した果実の霊的な「味わい」を喜んでいる。

110. しかし、すべての者がこれを正しく行うことを理解したわけではない。彼らの多くは、声の担い手を顧みず、見捨ててしまったからだ。また、ある者たちは、思いやりも慈悲も持たずに、彼らから生命の源を奪い取り、さらに別の者たちは、生命の木の青々とした枝を切り落としてしまった。 そこが、人々がしばしば甘美さではなく苦味を感じた理由であり、そこから多くの誤りが生じた。例えば、声の担い手の不完全さに過ぎないものを完全であると見なす誤

りや、声の担い手の不純物、物質化、あるいは不完全さを私に帰する誤りなどである。

私が去った後、あなたがたは麦と籾殻を分けなければならない。すなわち、この教えを世界中に広めることができるよう、私の言葉に混入されたであろうあらゆる不純物を取り除かなければならないのである。

111. なぜ私がこれほど多くの伝達者を通じて自らを明らかにしたのかと問われたならば、こう答えるがよい。もし私が、かつてイエスとして来られたように、御言葉を伝えるために来られたのであれば、たった一人だけで十分だったのだ、と。 しかし、私の啓示は質素で教育を受けていない人々を通じて行われ、かつ私のメッセージは非常に壮大なものであったため、 、たった一つの人間の知性だけでは不十分であり、必要なだけ多くの知性が必要だったのだ。

112.私の啓示の先駆者であり、エリヤが語ったロケ・ロハスから、この時代に私が最初の言葉を伝えたダミアナ・オビエドを経て、最後の伝達者たちに至るまで——彼ら一人ひとりは、私の業の一部のみを明らかにしたに過ぎず、私のメッセージのすべてを伝えたわけではない。

113.例えば、私はロケ・ロハスを通じて、人類にとって「第三の時代」が幕を開けたことをあなたがたに知らせた。私は、その知恵、裁き、賜物、そして多くの古の預言の成就を含む「第六の封印」の開封をあなたがたに啓示し、その光をあらゆる霊とすべての肉に注ぎかけたのである。

114.「印」あるいは「しるし」の秘密は、その男を通じてあなたがたに知らされ、彼は第三の時代の選ばれた者たちの象徴的な数をあなたがたに思い起こさせた。

115.その後、ダミアナを通じて、わたしの到来の目的——すなわち、各弟子が内に秘めていた賜物、そしてわたしの啓示が終わりを迎える日付——が、あなたがたに明らかにされた。その唇から、この時代にわたしの霊がもたらし、最初の弟子たちに向けて簡潔な教えや小さなたとえ話を通じて表現した言葉が発せられたのである。

しかし、その霊的な言葉は、マリアからも、悲しみに沈むすべての心への、限りない優しさと言葉に尽くせない慰めを込めたメッセージとして伝えられた。

116.ロケとダミアナにとって、すべてはまだ始まりに過ぎず、一つの約束に過ぎなかった。しかし、年月が経つにつれ、彼らに続く「声の伝達者」たちは、「声の伝達者」という使命の神秘をますます深く掘り下げていった。それによって、私の言葉はより広範なも

のとなり、私の業は明確な形を成し、そして神秘が解き明かされるようになったのである。

117.私の選ばれた者たちの知性という器を通して私の言葉を聞いたとき、どれほど多くの心が励まされ、慰められたことか！ 彼らの仲介を通じて私を聞いたことによって、どれほど多くの魂が闇から救い出されたことか！

118.私は、自らを備え、私の奉仕に身を捧げた私の「声の担い手」たちを祝福する。

119.しかし、私はまた、あなた方にこう告げます。多くの私の子供たちが、声の担い手たちの霊性の欠如ゆえに、私に背を向け、私を否定してしまったのです。私は彼らを赦し、彼ら自身がその汚名を自ら拭い去る機会を与えます。

120. 愛する民よ。私の啓示の最後の瞬間まで、目を覚まし、祈り続けなさい。そうして、霊から霊へと続く私の啓示の新たな段階を、確かな歩みで始められるように。

わたしの平安があなたがたと共にありますように！

教え 357

1. この日、一人の青年と一人の乙女が私の前に立ち、彼らの結びつきが私の愛によって祝福され、確かなものとなるよう私に願い求めている。

2. そして、わが子らよ、私はあなた方を受け入れる――この時だけではない。あなた方は常に私のそばにいて、私もあなた方のそばにいたのだから。

3. あなたがたは、二人の結びつきを祝うためにやって来たが、わたしはこう言おう。あなたがたは、すでに長い間、運命によって結ばれているのだ。しかし、二人の交わり、すなわち結婚を証しする儀式を人々が執り行うことは、依然として必要である。そうして初めて、それが霊的にも人間的にも認められ、尊重されるようになるのだ。

4. あなたがたは単なる儀式に出席しているのではない。父からの慈愛と助言、そして師からの教えを受けるためにここに来ているのだ。

5. あなたたちは、一つの存在、一つの意志を形成するために一つになる、二つの魂、二つの心です。あなたたちは、互いに遠く離れた異なる世界にいましたが、この地上にやって来ました――まず一方が、その後に他方が。そして、この移行の過程において、あなたたちは愛と忍耐において試練に遭いながらも、わたしに忠実であり続けました。 愛と信仰をもってあらゆる障害を乗り越え、約束を守り抜いたのだ。

6. あなたがたは、主の御前にいます。主はあなたがたの魂を飾り、励ましてくださいます。そうして、私が示すこの困難な使命を通じて、私が人間の中に与えた最も崇高なものを成就させるためです。

7. 今、あなたがたは、愛と犠牲と生命――そして運命に対する自制と服従――というこの機関へと、ある理想を実現するために足を踏み入れる。そして、新しい道におけるあなたがたの歩みが確かなものとなるよう、あなたがたは光を渇望してここへやって来る。私はその光をあなたがたに豊かに注ぎ出す。

8. 男よ。私が地上の最初の男に授けた能力を、あなたにも与えた。才能、意志、そしてエネルギー――さらに力、命、そして種も。あなたは右手に象徴的な剣を、左手に盾を握っている。なぜなら、この地上の生活は、あなた方に戦いを挑んでいるからだ。その戦いにおいて、あなた方男性は兵士であり、平和と正義と美徳の守護者

であり、人類の擁護者である。私はあなた方をこの戦いの兵士とし、あなた方の左側、心臓の近くに一人の乙女を置く。 彼女は、精神的、道徳的、そして肉体的に、私が愛らしい庭園で育てた一輪の花である——人間の情熱が渇望する快楽の庭であり、神の母マリアが常に 守り、護り、その処女性と貞潔という水晶のように澄んだ清らかな水で潤している。

9. あなたは謙虚にこの花を私に願い求め、私は愛情を込めてそれをあなたに与えた。これは、この人生において男性が持つことのできる最も偉大なものである。

あなたがたは両親に縛られているわけではない。なぜなら、この使命を果たすために、あなたがたは両親から離れ、人生の闘いの道を歩み続けるからだ。 あなたがたの子供たちもまた、自らの運命への道を歩み始める時が来れば、親元を離れ、その時には、男性の心のそばに残るのは、ただその人生の伴侶だけとなる——彼が選んだ女性、喜びも苦しみも分かち合い、死だけが二人を引き離すことのできる女性である。

10. あなたたちを結びつけ、その志に力を与えるのは、私の愛の言葉である。

11. 顔を上げ、確かな足取りで歩み、互いに支え合いなさい！ 涙を拭う愛に満ちたマントとなりなさい、と私はあなたたち二人に告げる。なぜなら、霊的にはあなたたちは等しく、霊の世界には性別も区別もないからだ。あなたたちのどちらかが他方より優れているわけではない。しかし、ひとたび肉体に宿ったならば、私は男性を女性よりも優先したのだ。

12. 男性であることは、私が魂に課す試練である。女性であることもまた、魂にとっての償いである。

13. 男性には力があり、彼は常に分別を持ってその力を用いるべきである。 優しさと繊細さをもって創造された女性の中には、愛と犠牲が宿っており、この二つは互いに補い合う。この結合、すなわち魂と肉体の交わりから、生命は尽きることのない流れとして湧き出る。この種とこの肥沃な大地から、尽きることのない芽が芽吹くのである。

14. わたしはあなたがたを祝福し、わたしの主の御腕と、わたしの神聖な口づけによって、あなたがたを一つに結び合わせる。あなたがたは霊的な準備と畏敬の念を持ってここへやって来たのだから、わたしはあなたがたをこの民の模範としてここに残す。

15. この民はあなたがたの証人となるべきであり、わたしは彼らにあなたがたに対する責任を負わせる。わたしは、彼らが今この瞬

間の高揚とともに、あなたがたの道に幸福をまき散らし、あなたがたの微笑みと平安を見るたびに常に喜び、そしてわたしがあなたがたを祝福するように、あなたがたが増えゆくことを祝福することを望む。これがわたしの意志である。

16. あなたがたの契約を確かなものにしたのは、聖職者の手ではなく、わたしの永遠の律法、すなわちわたしの愛である。わたしはあなたがたを成就の道へと導く。そして、あなたがたの人生の旅路が終わるとき、あなたがたは主に対して説明責任を果たすことになる。 そしてその瞬間、あなたがたは再びこの言葉の響きを耳にするだろう――もはや人間の声の響きではなく、良心の奥底で聞き取るその声として――そしてこう言うだろう。「私たちの魂に道を示してくださった父は、今日、私たちが目的地にたどり着き、私たちの業を捧げるべきだと告げておられる。」

そこで、私はあなたがたが主を見ることができるよう、私の住まいである山の頂上で、あなたがたを待っている。その瞬間、私はあなたがたを迎え入れ、私の恵みを授け、あなたがたを祝福したい。

17. 今日、私はあなた方に種を一つだけ与えますが、明日には、あなた方はそれを何倍にも増やして私に返してくれるでしょう。しかし、もしあなた方の業が私に喜ばれるものかどうかを知りたいのであれば、あなた方の心があなた方を喜ばせ、満足感を与えてくれるかどうかで、それを確かめることができるでしょう。

マリアもまた、あなたがたを祝福し、温もりと喜びを与え、彼女が模範を示してくれたあの徳と忍耐をもって、一歩一歩、徳の道を歩むよう促しています。

18. わたしはあなたがたを祝福し、一つに結び合わせます。

19. 民よ、これらは人間を介しての私の最後の啓示である。「将来、私たちはこの結婚の儀式をどのように祝えばよいのでしょうか？」と、愛する弟子たちよ、あなたがたは私に問う。私はこう答える。あなたがたの教会の懐の中で行いなさい。この教えの使徒となる準備をしてきた者たちの前で結ばれなさい。しかし、彼らこそがあなたがたを結ぶわけではない。なぜなら、この任務を私はいかなる人間にも委ねていないからだ。 私はあなたがたの運命の主である。私と交わりを持つために、肉体と魂の両面で備えなさい。そうすれば、あなたがたの生涯の絆は、永遠の書に消えることのないものとして記されるであろう。

20. 二人の存在が一つとなり、愛と自己犠牲と献身の道を歩むこの厳粛な瞬間に、あなたがたが、これらの事柄について語っているわたしの教えを読み上げたいと望むなら、そうしてもよい。そうす

れば、わたしの言葉によって、あなたがたの心はその決意を奮い立たされ、歩みは確かなものとなるだろう。

21. 私は、あなたがたがこの素朴さをもって生きることを望み、満足と喜びをもって結婚を祝う者たちを幸いな者と称える。なぜなら、彼らは人生の道において恵みと祝福を受けるからである。

22. さまざまな宗教団体に属する人々が集まってくるだろう。ある者たちはこの霊的な儀式の真実性を理解する一方で、他の者たちはこれに憤慨するだろう。しかし、あなたがたは徳ある行いによって、私から祝福されていること、そしてあなたがたの結びつきが決して解けることのないものであることを証明するだろう。

23. 私はこの日、あなたがたにこう告げた。この儀式が執り行われる瞬間は、単にあなたがたの誓約を確証するものに過ぎない、と。なぜなら、あなたがたは以前から出会う運命にあり、すでに互いの間に惹かれ合う力と愛が存在していたからである。 私は、あなたがたの結婚が認められ、尊重されるよう、親族や友人、両親の立ち会いのもとでこの儀式を執り行うことを許し、命じる。

24. まだ、人間の精神の高みと直感は、役人や聖職者によって結ばれていなくとも、二人の人間が私の名において聖なる契約で結ばれていることを認識するには、十分に高まっていない。しかし、その時は必ず来る。そしてその時、男女が出会ったとき、どちらにも疑いは生じないだろう。 彼らは、私が定めた時を悟り、確信と安心をもって結婚の結合を祝うための準備ができるようになるでしょう。そして、祭壇の前で聖職者によって祝福されなかったからといって、社会は彼らを非難することはないでしょう。その時は必ず来ますが、それまでの間、世界が霊的に向上していく過程においては、今日私が教えた通りに振る舞いなさい。

25. 第二の時代、私はモーセの律法に従って結婚した多くの夫婦の家を訪れたが、私が彼らの多くをどのような状態で目にしたか、知っているか。彼らは争い、平和と愛と信頼の種を破壊していたのだ。 私は、彼らの心の中、食卓、そして寝床に、敵意と不和を見ました。また、法律によって結婚生活が認められてはいなかったものの、ヒバリが巣の中でそうするように互いに愛し合い、暮らし、愛しい子供を慈しみ、守っている多くの人々の家にも足を踏み入れました。

26. 同じ屋根の下に住みながら、互いに愛し合っておらず、愛し合っていないがゆえに、一つに結ばれることなく、精神的に隔たっている人々がどれほど多いことか！しかし、彼らは神の罰や人間の法律、あるいは社会の非難を恐れて、その不和を公にしない。だが

、これは結婚ではない。こうした人々には、交わりも誠実さも存在しないのだ。

それにもかかわらず、彼らは偽りの絆を装い、家族や教会を訪れ、散歩に出かけ、愛の欠如を巧みに隠すため、世間から非難されることはない。それに対し、互いに愛し合う多くの人々は、身を隠し、真の絆を秘め、理解の欠如や不当な扱いを受け入れざるを得ない。

27. 人間は、他者の人生を見抜き、正しく判断できるほどには十分に発達していない。霊的および世俗的な法律を掌握している者たちは、そのような事例を処罰するために真の正義を適用していない。

しかし、私があなたがたに予告している、人類が完成に至る理解と寛容の時代は必ず到来する。その時には、モーセ以前の族長たちの時代のように、愛し合う者たちの結びつきが、今日私が私の子供たちに対して行ったのと同じように、すなわち霊的な方法でなされるのを、あなたがたは目撃することになるだろう。 そうして、あなた方もその未来の時代には、結ばれる者たちの両親や友人、親族たちの面前で、最高の霊性、兄弟愛、そして喜びのうちに、同じように行うことになるでしょう。

28. 平和と善意に満ちた人々が地上に数多く存在するようになれば、あなたがたは私の神聖な制度が花開くのを見ることになるだろう。そして、私の律法はあなたがたの人生をより美しいものにするだろう。平和、調和、そして繁栄の時代は、あなたがたの文明や科学を損なうことなく、再び訪れるだろう。 それどころか、私はあなたがたにこう告げよう。高揚や愛、慈悲に欠けるために自己研鑽を怠りながらも、人間は多くのことを発見し、自然の多くの秘密を解き明かしてきた。それならば、私がその秘密を明らかにし、その存在を照らし、偉大で慈善的な行いを行うことができるよう、私に祈りを捧げて私のもとへ立ち返ったとき、人間はどれほど多くのことを成し遂げることができるだろうか！ 私は、人間が、この世界を、私のすべての子供たちのための光と救いと幸福の場とすることを許す。なぜなら、私はあなたがたに私の知恵と平安を授けたいと願っているからだ。

29. わたしは、降り注ぎ、あなたがたの心に浸透し、そこにその住まい、その神殿を築く、わたしの普遍的な光の輝きで、あなたがたを包み込む。その光の中で、わたしは、わたしを愛するあなたがたからの捧げ物、すなわち献げ物を受け取り、わたしの意志に対する願いであり、同時に従順でもあるあなたがたの声を聞き取る。

30. あなたがたは、経験している不運にもかかわらず、精神の高揚によって強さを示し、わたしの弟子であることに幸福を感じている。あなたがたは、霊的かつ地上の大きな戦いに巻き込まれている。わたしが与えた な時間を活用し、この戦いにおいて、定められた時に実りを収穫することを期待しなさい。

あなたがたが休息につくとき、地上の働きは日々実を結び、私の律法を全うして使命の終着点にたどり着いたとき、あなたがたの霊的な業は完全に花開くであろう。

31. あなた方の魂からは、あなた方よりもはるかに大きな苦しみを味わっている他の民族たちへの平和と安らぎを願う、絶え間ない祈りが湧き出ている。

破壊、絶望、そして死に関する報せが、あなたがたの国に届き、あなたがたを痛みと恐怖で満たしています――それは、あなたがた自身や家族の命に対するものではなく、苦しみにある、あなたがたとは遠く離れた人々、すなわちあなたがたの隣人たちの命に対するものです。私は、あなたがたの嘆願を聞き、また、これらの国々へ平和と慈悲のメッセージを届けるとき、憐れみを感じます。

32. 愛する弟子たちよ、あなたがたはこの大陸の中心に暮らしている。私は、あなたがたのイスラエルの魂を、この豊かで肥沃な土地――輝く太陽、煌めく空、緑に覆われた谷や山々、美しく水量の豊かな川、そして素晴らしい花々――つまり、あなたがたの地上の生活を活気づけ、美しく彩るあらゆるものがあるこの地へと導くことを喜んだ。 しかし、この壮麗さと優雅さの只中で、容赦ない戦争が環境を脅かしている。苦痛の叫び、嘆き、神への冒涜、そして侮辱が、あなた方の耳に届いている。だが、私はあなた方の間に戦争の気配を見出さない。あなた方は、身を守るためにも、攻撃するためにも、武器を手に取ってはいない。 この国において、私が目にするのは、正義への服従と、人間の悪に対する嫌悪だけである。しかし、私はあなた方にそれ以上のものを求めている。私は、あなた方が私を信頼し、試練の苦しみにある隣人を支えるための心の準備ができている姿を見たいのだ。

33. 今日、かつてと同様に、人類は戦争に巻き込まれて生きている。人類は平和の種を育もうとはしなかったが、その種は、砂漠のマナのように、平和を渇望する一人ひとりの人の心に、常に降り注ぐだろう。

34. 私は、家族のもとに、高貴な存在たちを転生させるために送り込んだ――幼少期から、さまざまな人種や信仰を持つ人々の心を和らげ、愛に満ちたものにするという使命を帯びた天使たちである

。しかし、人類はこれらの使者たちに何をしたのか。彼らはそのメッセージを疑い、迫害し、殺害した。

35. 私は、太古の時代から、人々が殺戮的な戦争を繰り広げるのを見てきた。古代フェニキアやシリア、そしてローマ人やギリシャ人の間でもそうであった。尊敬も、愛も、正義もなかった——彼ら自身の間にも、ある民族から別の民族に対しても。 強い者が弱い者を助け起こすことも、力ある者が困窮者に手を差し伸べることも決してなかった。文明の光を誇示した者でさえ、暗闇の中にいた諸民族に、愛や真の理想主義をもってそれを届けることはなかった。その征服は常に、暴力、敵意、権力への欲望、あるいは不正によって行われた。

父である私が、ある者にも別の者にも無知が蔓延しているのを見たとき、私は、世界観や慣習の異なる諸民族の懐に、預言者たちと先駆者たちを遣わした。それは、彼らが唯一の真理を語り、彼らを一つかつ同じ目標へと導くためであった。 彼らは語り、今日あなたがたが「第二の時代」と呼ぶその時代に、私が到来するに備えて人々の心を整えた。そして、私が到来する時が来ると、私はそれらの忠実な預言者たちの言葉を裏付け、すべてが彼らが語った通りに成就した。

36. わたしの教えは、ユダヤ民族だけを対象としたものではなかった。たとえ彼らが霊的に準備が整っており、メシアをその懐に迎え入れるために、最も初期の時代から大きな試練によって鍛え上げられていたとしても。しかし、わたしが彼らに託した聖書は、あらゆる人種の人々すべてを対象としたものであった。

その民の中から、使徒や殉教者、そして模範的な生活を送り、愛の種を蒔くことを知っていた多くの男女が現れた。しかし、他の故郷やユダヤから遠く離れた国々においても、私の最初の弟子たちによってもたらされた私の言葉は、花開き始めたのである。

37. しかし、この「新しい世界」において——私を熱烈に愛し、私を求め、その賜物と犠牲を私に捧げる人々が住むこの世界において——光が輝き、私の愛のメッセージ、すなわち、ただ互いに私の中で愛し合うことだけをあなた方に求める私の教えが、届くようになる必要があったのだ。

38. わたしを愛する者たちによる、不完全ながらも無知のゆえに捧げられたその崇拝を、わたしは受け入れた。 その後、二つの大陸間の隔たりが克服され、種がここに運ばれ、この「新世界」に蒔かれ、その住民たちの愛に満ちた心に植え付けられるようになったと

き――私を弟子と名乗る者たちは、純真な心と高潔な魂を持つこれらの人々に対して、どれほどの不正と暴力を振るったことか！

39. 彼らの純粋で誠実な礼拝の儀式や慣習は、自分たちを優越していると思い込みながら、実際には最大の未熟さの兆しを見せていた者たちからの非難と苛酷な扱いしか受けなかった。この民は、忠実な弟子たちを通じて、ようやく私の遺産を受け入れ、その神聖な純粋さと由来を理解するようになったのである。

40. 今日、私はあなたがたが再び脅威にさらされているのを見る。あなたがたの遺産を貪り、魂を乱そうとする強大な民族たちに囲まれているのだ。あなたがたはまだ輝きの頂点に達してはいないが、やがて霊的にも地上的にも輝きを放つことになるだろう。あなたがたが怠惰に陥らないよう、祈り、遺産を守り抜くべきだと、私は警告する。

41. 私はこの時代にあなたがたの元へやって来て、再び私の愛の遺産を授ける。私の種は滅びない。激しい嵐に打ちのめされることもあるだろう。しかし、その穂が自然の力によって引きちぎられても、穀粒は大地に落ち、再び発芽し、絶え間なく増え続けるのだ。

42. あなたがたが、あらゆる形の平和と善を愛する限り、あなたがたはこの世の光となり、あなたがたの国は他の国々の前に掲げられる松明となるだろう。すでにあなたがたの中には、平和の使徒となる者たちがいる。 私は、その光が彼らの言葉と教えの中で花開くよう、彼らの魂を整えてきた。そうすれば、霊的な働きをするあなたがたは、この民の幸福のために尽力する統治者たちと共に、平和と真実と正義を渇望する人々へと、その恩恵を広げていくことができるだろう。

43. 光は象徴的に東から西へとやって来たが、今や私があなた方に伝えたこのメッセージは、西から東へと旅立ち、両者は、真理の認識や文明、人種がそうであるように、一つのものへと融合するだろう。そして、あなたがたが一つになったとき、光は人間から人間へと来たのではなく、神聖な霊からその子供たちへと来たものであると悟るだろう。

44. 今日、多くの人々がわたしを拒み、わたしを否定し、新たな道を切り開こうとしている。しかし、律法のまっすぐで狭い道は、人が存在するあらゆる場所にある。なぜなら、この律法は、すべての人間の心、才能、精神の中にあり――それは、あなたがたがわたしのもとへ至る唯一の道であり、常に善と慈悲と分別を求めるものだからである。 あなたがたは大きな試練に押しつぶされ、その重みに耐えきれず崩れ落ちるかもしれない。しかし、もしあなたがたが

正義を愛するならば、以前よりも強く立ち直り、勝利を収めるだろう。なぜなら、善のみが時代を超えて存続するからである。

45. もしあなたがたがある民族のために平和を願うならば、その民族のもとへ赴く必要はない。あなたがたの心の中、あるいは家庭の中に平和を築き上げなさい。それだけで、その民族の精神に調和と団結がもたらされるのに十分である。

46. 善も悪も、遠くへ伝播し得る。それゆえ、私はあなたがたに、魂を整えて、近くにいようが遠くにいようが、助けを必要とする者たちの助けとなるよう教えてきた。しかし、戦争を煽るような考えを送ることには、くれぐれも気をつけなさい。 ある国の敗北や他の国の勝利を願ってはならない。そのような影響は確実に届き、混乱を引き起こすからだ。何よりも愛を持ち、すべての隣人に対して寛容であれ。

47. 戦争の残酷さに苦しむ負傷者たちの痛みに心を揺さぶられ、彼らに少しの平安と慰めを送りたいと思うなら、最も身近な病人を訪ね、その人を不在の者たちの代理として受け入れ、私の名においてその人にあなたの慈悲を注ぎなさい。そうすれば、私は、その痛みに満ちた国々において、多くの病人を慈しみ、癒やすであろう。

48. あなたがたの家が、周囲の人々を包み込む光が放たれる神殿となるよう努めなさい。そして、その境界を越えて、他の人々も安らぎを感じ、あなたがたの備えに与ることができるようにしなさい。

49. まもなく、あなたがたはメシアの誕生を記念することになる。人類がこの出来事を思い起こす日が近づいている。 まだ平和に暮らす人々は、喜びをもってそれを祝うでしょう。しかし、遠く離れた国々には、苦難の時代を迎え、一瞬でも不安や恐怖を忘れ、私の御霊を呼び求め、この出来事の記憶を呼び起こそうとする人々が大勢います。 また、すでに戦争の余波に苦しんでいる人々もいます。戦争は彼らを孤児とし、悲惨な状況へと突き落とし、あらゆる形の苦痛を味わわざるを得ない状況に追い込んでいます。

50. わたしはすべての人をわたしの愛で包み込み、その祈りに応え、光の川がこの人類の上に降り注ぐであろう。

51. あなたがたは備えを固め、私が二度来臨した際に明らかにしたすべての愛を心の中に留めておく必要がある。そうして、互いに完全な愛をもって愛し合い、常に真の正義の擁護者であり仲介者となるためである。なぜなら、私はあなたがたを選び、あなたがたを仲介者として、すべての人々と契約を結ぶためだからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 358

1. ここだけでなく、あなたがたが父のもとにいるために集まるあらゆる場所で、一つの魂のように御言葉を聞き入れているあなたがたすべてに、幸いあれ。

2. 私の代弁者たちの口を通して私の教えを受け取り、その後、霊的な静寂の中で私を聞くための準備の仕方を学ぶために、あなたがたに残された時間はごくわずかである。しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。私は決してあなたがたを見捨てはしない。私は、今この瞬間と同じように、常にあなたがたに寄り添っている。

3. 私は遍在しており、全宇宙に、そして私の子供たち一人ひとりの内にいます。しかし、あなたがた全員が、父の近さ、神の臨在を感じているわけではありません。

4. 私はあなたがたの心に私の聖所を置き、あなたがたがそれを開くことができるよう鍵を与えました。しかし、これはあなたがた自身の意志から生まれなければなりません。これこそが、あなたがたに課せられた義務なのです。

5. 私は、私自身の分である霊をあなた方に与え、また、この地上で生きるための物質的な器を与えました。しかし、まことに、あなた方に告げます。もし、この人生で経験しなければならない試練を乗り越える術を知っているならば、あなた方は霊的な解放に到達するでしょう。

6. 第一の時代には、私は悟りを開いた霊的存在たちに、この惑星に転生し、預言者として人類に語りかけるよう命じました。第二の時代には、私の大きな憐れみにより、あなたがたが神をよりよく理解できるよう、私の「神の言葉」が人間となりました。 私はイエスとして、あなたがたに愛について語るためにやって来ました。そして今、第三の時代において、私は再び――霊として――あなたがたに私の教えを授けるためにやって来ました。

7. 人類が霊的な成熟に達するまでには、長い時間を要しました。あなたがたは常に二つの極端に陥ってきました。一つは物質主義であり、それによってより大きな世俗的な快楽を求めようとしてきました。しかし、これは実際には有害であり、霊がその使命を果たすことを妨げるからです。 しかし、もう一方の極端、すなわち「肉」を死なせ、この人生に属するあらゆるものを完全に拒絶することにも、あなたがたは陥ってはならない。なぜなら、私はあなたがたを*人間として*、人間存在として生きるためにこの地上に遣わしたので

あり、あなたがたが「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」というように生きられるよう、正しい道を示したからである。

8. 私は、そのすべての美しさと完全さを備えて、この世界をあなたたちのために創造した。私はあなたたちに人間の体 を与え、それを通して、完全さを達成するために私が与えたすべての能力を開花させるべきである。

9. 父は、あなたがたがこの世界が提供するあらゆる善を自ら拒むことを望んでおられません。しかし、体を魂よりも優先してはなりません。なぜなら、体は儚いものですが、魂は永遠に属するからです。

10. 魂の完全性を獲得するために、奮闘し、奮闘しなさい。私は、この目標を達成するための道をあなた方に示した。私は、人生の道において陰険な攻撃からあなた方を守るために、あらゆる物質的な武器よりも優れた「武器」として、祈りをあなた方に託した。しかし、あなたがたが私の律法を全うするとき、最高の武器を手に入れることになるだろう。

11. 祈りとは何から成るのか。祈りとは、願い、執り成し、礼拝、そして霊的な黙想である。そのすべての要素は不可欠であり、一つは他から生じている。まことに、わたしはあなたがたに告げる。願いとは、人がわたしに、自分の望みを叶え、渇望を満たしてほしいと求めることである——つまり、その人が自分の人生において最も重要であり、救いになると考えるものを求めているのである。 そしてまことに、わが子らよ、父は願いを聞き入れ、それがその人の益となる限り、一人ひとりに最も必要なものを与えてくださる。しかし、あなたがたの魂の救いに反するようなものを願うことには、くれぐれも気をつけなさい。なぜなら、物質的な富や肉体的快楽、はかない権力だけを願う者は、自らの魂を鎖で縛りつけることを願っているからである。

12. 肉体的快楽は、この世においてのみならず、霊界へと移行した後も、ただ苦しみをもたらすだけである。なぜなら、そうした肉体的欲望の影響は、霊界にまで及ぶからである。そして、魂はそれらから自らを解き放つことができないため、引き続きそれらの渇望に苛まれ、転生して物質的な生活を続けるために、何度も何度も地上に戻りたがるようになるのである。 それゆえ、わが子らよ、あなたがたの魂の救いのために真に必要なものだけを願いなさい。

13. 祈りの第二の形態である「執り成し」は、隣人への愛、すなわち、私がこの世に来た際に師としてあなたがたに教えたその愛から生まれるものである。身近な兄弟姉妹のため、遠く離れた兄弟姉

妹のため、そして、さまざまな国々で戦争の被害に遭い、この世の儚い支配者たちの暴政に耐えている人々のために祈りなさい。

14. わが子らよ、備えなさい。同胞のために祈りなさい。しかし、この執り成しにおいても、祈ることを*正しく理解しなければならない*。なぜなら、重要なのは魂だからである。兄弟や両親、あるいは子供たちが病気であるならば、彼らのために祈りなさい。しかし、それが魂にとって必要なことではないのであれば、彼らがこの世にとどまることを強要してはならない。むしろ、その魂が解放され、苦しみの中で清められ、、その痛みが魂の向上を促進するよう祈りなさい。それゆえ、師はすでに「第二の時代」において、あなたがたにこう教えるよう導かれたのである。「父よ、御心が行われますように」。なぜなら、父は、どの子供よりも、その魂が何を必要としているかをよく知っているからである。

15. 祈りの第三の形態である「神聖な御霊への崇敬」とは、あらゆる完全なものへの崇敬を意味する。なぜなら、この種の祈りを通じて、あなたがたは、全宇宙を包み込む完全性、すなわち愛と一つになることができるからである。礼拝の中で、あなたがたは皆が到達すべき完全性の境地を見出すことができ、その礼拝はさらに霊的黙想へと導きます。この霊的黙想は、礼拝と相まって、永遠の命の源である神聖な御霊との合一へとあなたを導くのです――その源こそが、あなたがたに、父の御国に至るための力を日々与えてくれるのです。

16. このように祈りなさい。願いの祈りから始まり、霊的黙想に至るまで。これによって、あなたがたに力が与えられるでしょう。

17. そうして十分に準備が整ったら、あなた方は自分たちのためだけに戦うのではなく、周囲の人々がこの道を歩めるよう助けるためにも戦うべきである。なぜなら、あなた方は自分たちだけで魂の救いを得ることはできず、全人類の救いを実現するために奮闘しなければならないからである。

18. 人々はこう叫ぶ。「もし慈悲と愛の神がおられるのなら、なぜ善人は悪人によって、義人は罪人によって苦しめられなければならないのか？」まことに、わが子らよ、こう言おう。この世に生まれてくる者は、ただ自分の魂の救いを得るためだけに来るのではない。人は孤立した個人ではなく、全体の一部なのだ。

19. 人間の体において、他の臓器が病気になっているとき、健康で完全な臓器でさえも苦しむのではないだろうか？

これは、一人ひとりの人間と他の人々との間に存在する関係を理解してもらうための、物質的な例えである。善人は悪人のために苦

しむことになるが、兄弟姉妹の霊的進歩のために尽力しないならば、善人も完全に無罪とは言えない。しかし、個人として、誰もがそれぞれの責任を負っており、その人はわたしの霊の一部であり、わたしに似ているゆえに、すべての者の進歩に寄与するための意志と知性を備えているのである。

20. 太古の昔から、私は預言者たちを通じて、あなた方を導くために語りかけてきたが、私の律法を遵守するよう強制するためではなかった。

しかし、時は過ぎ去り、人間の霊魂は発展し、成熟に達し、今や霊魂としての使命を 理解することができるようになった。深淵、すなわち破滅の淵にこれほど近づいている人類は、あなた方からの霊的な助けを必要としている。

21. これは、闇と光との間の戦い、最後の戦い、最も恐ろしく、最も凄惨な戦いなのだ。現在、闇の霊たちはすべて結集しており、光の霊たちはすべて、その力に立ち向かわなければならない。

22. わたしに耳を傾けた者たちよ、聖霊の光をその内に宿す者たちよ、目覚めよ！　もはや、この世の快楽や一時的な目標に時間を浪費してはならない。人類のために戦い、父の御国がこの世に到来するよう奮闘せよ。これは、最も卑しい者から最も教養のある者まで、*すべての*人にわたしが与える使命である。

霊界はあなた方と共にあり、すべての人々*の上に*、愛と憐れみに満ちた父がおられます――人々が互いに与え合う苦しみを、限りない痛みをもって見守っておられる父です。

23. これは光と闇との戦いであり、勝利が勝ち取られるまで、あなた方一人ひとりが戦わなければならない。 わが子らよ、心を尽くして祈りなさい。この恵みの朝、父が祈りについて語られたとき、父が示された道に従いなさい。これがあなた方の使命であり、そうすることで、あなた方は自らの霊化を達成し、また、あなたがたが祈る人々の救いをもたらすことになるのです。

24. あなたがたが人間の器を通して私の声を最後に聞く時が、すでに近づいている。しかし、父は再びあなたがたにこう告げる。1950年以降、あなたがたが愛によって一つとなるならば、恐れることは何もない。

25. 私がただ心の清い者たちだけを求めているなどと思ってはならない――いいえ、私が求めているのは、道に迷った者たち、汚れを抱えた者たち、すなわち私の憐れみを最も必要としている者たちである。 また、私が偏りを持っているとも思ってはならない――贅沢な生活を送る者に対しても、貧しい生活を送る者に対しても。私

が求めているのは、光を必要とする魂――病める者、悲しむ者、飢える者であり、こうした苦しみは、富める者にも貧しい者にも等しく見られるのだ。

26. 私はすべての人々のところへ赴き、愛に満ちた正義の教えを通じて、光と慰めと希望のメッセージをもたらす。まことに、あなたがたに告げる。この泉に近づき、そこから飲む者は、決して失望することはない。 その中に自らの幸福を求めるものは、誰でもそれを見出すだろう。私があなたがたに差し出すものはすべて真実であり、私が約束することはすべて実現する。私の言葉には、今の世に満ち溢れているような嘘など一切ないのだ！

27. あなたがたが地上で疑い深い者となってしまったことについては、私はあなたがたを責めはしない。なぜなら、同胞たちはあなたがたに多くのことを約束した が、何も果たさなかったからだ。それゆえ、失望から失望へと犠牲にされ続けてきたために、何も信じず、何も期待しない人々が何百万人もいる。しかし、私はあなたがたに問う。物質主義的で、利己的で、非人間的な世界から、一体何を期待しているのか？ この世界を支配し、真の道へと導く唯一の光である良心に導かれることを拒む者たちから、一体何を期待しているのか？

28. わたしのもとに戻ってきなさい。しかし、隣人に対する不満や恨みを抱かずに近づいてきなさい。わたしのもとに来て、わたしの言葉によって、再びあなたの魂の中に信仰の光が灯されるようにしなさい。そうすれば、あなたはもはや弱くはなくなり、苦々しさはあなたから去り、人々に対する不信や恐怖の代わりに、生きる勇気、希望、そして隣人愛を持つようになるでしょう。

29. もし私の光がすべての人の心に浸透し、諸国民を導き、教えを授ける人々、そして最も重要な任務を担うすべての人々が、良心というその高次の光に導かれ、インスピレーションを受けるようになれば、その時、あなたがたはお互いを信頼できるようになる。兄弟たちを信頼できるようになる。なぜなら、私の光がすべての人の中にあり、私の光の中で、私の臨在と愛に満ちた正義が支配するからである。

30. あなたがたは今日、精神が混乱した時代に生きています。その時代において、あなたがたは悪を善と呼び、闇がある場所に光があると思い込み、本質的なものよりも不必要なものを優先しています。 しかし、常に備え、助けとなる私の憐れみは、時宜を得て介入し、あなた方を救い、真理の光に満ちた道――あなた方が遠ざかってしまったその道――を示してくれるだろう。

31. 諸民族は前進し、その科学的知識はますます増大している。しかし、私はあなた方に問う。人々がその知識に深く入り込めば入り込むほど、生命の源であり起源である*霊*的な真理からますます遠ざかってしまうような、そのような「知恵」とは一体何なのか。

32. それは人間の科学であり、利己主義と物質主義に病んだ人類が捉えるような学識に過ぎない。

33. それならば、その知識は誤りであり、その科学は悪である。なぜなら、あなたがたはそれによって苦痛に満ちた世界を創り出したからだ。光の代わりに闇が支配している。あなたがたは、人々の破滅へとますます追い込んでいるからだ。

34. 科学は光であり、光は生命であり、力であり、健康であり、平和である。これが、あなたがたの科学の結実なのか？　いいえ、人類よ！　それゆえ、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが、霊の光があなたがたの理性の闇を貫くことを許さない限り、あなたがたの行いは決して、高次で霊的な起源を持つことはできず、単なる*人間の*行い以上のものになることは決してないだろう。

35. 真の知識、すなわち善に関する知識は、わたしの中にあり、わたしこそが、わたしの啓示の保管場所として自らの知性をわたしに捧げた者たちに、その知識を啓発する者である。彼らは、自己犠牲の精神をもって、人類の幸福につながる発見や啓示に自らの存在を捧げてきた人々である。 これらの人々は、真に光の道を切り開き、同胞たちに平和、健康、慰めのメッセージを真に届けてきた。ある者は完全な業を成し遂げ、またある者は先駆者となった。しかし、どちらの者も、その業を通じて、善、愛、そして魂の高揚こそが勝利への鍵であったことを、あなた方に教えてくれたのである。

36. まことに、あなたがたに告げよう。善を行い、平和を必要とする人々に平和をもたらすという理想をもってこそ、あなたがたは私の宝庫の最も秘められた扉を開くことができる。なぜなら、愛の呼びかけに抗うことのできる扉など存在しないからだ。 それに対して、利己的で傲慢な目的に駆られて学識や知識、権力を求める者は、自らに明らかにされたいと願うものを手に入れるために、盗み、強奪せざるを得ない。

37. これらすべてから、あなたがたの科学が人類の幸福とより高い発展を目的としているならば、宝庫の扉は開かれ、人々に生命の無限の神秘が明らかにされるだろう、と結論づけることができる。

38. あなたがたは、自らの幸福のためにどれほどわずかなものしか得ていないか。それに対して、自らに害を及ぼすために、どれほど多くのものを盗んできたことか！

39. 祝福されたイスラエルの民よ。祈りの中で立ち上がり、わが臨在を感じなさい。祈りを通じてわが神聖な御霊の影響を感じる者たちは幸いである。なぜなら、わが言葉が声の媒体を通じて語られることをやめたとしても、彼らは孤児であると感じることはないからである。

40. 愛と清らかさをもって祈りを捧げ、わたしに近づくために高みへと舞い上がる者たちは幸いである。まことに、わたしは、あなたがたの祈りが高尚であるか不完全であるかを裁くことはない。わたしはあらゆる願いに耳を傾けるが、わたしは師であり、あなたがたに祈ることを教える。わたしは完全であり、あなたがたがいかなる不完全さも犯さないよう、あなたがたを正すのである。

41. 愛する民よ。父は、地上の人が人間的な範囲内で完全な業を成し遂げるのを、どれほど多くの回見てきたことか。そして、それはわたしにとって喜ばしいことだった。しかし、あなたがたは、まだ霊的な範囲内で完全な業をわたしに見せてはいない。なぜなら、あなたがたがあらゆる物質化を脱ぎ捨てて初めて、霊的な 完全性を獲得するからである。 その時、民よ、あなたがたの霊はより高次の生命を仰ぎ見、わたしの御顔を仰ぎ、わたしの愛に満ちた声を聞くことになる。あなたがたの霊は、わたしの律法を真に理解し、自分が何者であるか、かつて何者であったか、そして永遠の命において何者となるかを悟るだろう。

42. イスラエルの民よ、この時代、私があなた方を転生させるために遣わしたこの肉体の殻の中にあって、あなた方はまるで子供のようなものである。しかし、心配するな。完全性を夢見、それを求め、それに向かって努力しなさい。なぜなら、あなた方の使命は、人類のために道を開くこと、すなわち、平和と徳、教えと啓示の道を切り開くことだからである。

43. 選ばれた民よ、あなた方の使命は、人間の魂のために道を開き、その魂が自らの内なる本質の中に創造主を見出せるようにすることである。

44. 三つの時代において、あなたがたは完全性へと至る道を見出した。それは、あなたがたの良心が、燃えさかる松明を宿す輝く灯台のようなものだからである。しかし、あなたがたは弱く、この道において霊的な栄光を認識することができなかった。 虚栄と傲慢があなたの魂を支配し、あなたは与えられた賜物を、この世に王国を築くことだけに用いてしまった——あなたが属することのない王国を。それにもかかわらず、あなたは支配者となり、富を所有し、使

用人を従え、称号を名乗り、他者より自分を高め、あなたの父を忘れ、あなたの使命を忘れてしまった。

しかしその後、世界さえもあなたがたに立ち向かい、あなたがたを屈辱にさらし、服従させた。だが、イスラエルよ、あなたが陥ったその隷属の状態にあっても、あなたはわたしを忘れず、備えの時期を活かして、再びわたしへと導く道に踏み出し、良心の声に耳を傾けたのである。

45. なぜ父は、こうした転落を許されたのか。なぜ父は、あなたがたが、この人生のあらゆる虚栄、あらゆる苦難、そして偽りの栄光を知ることを許されたのか。果たして父は、本当にそれを許されたのだろうか。

そう、わが選ばれた民よ、わたしは、堕落と人間の罪の塔がわたしの前にそびえ立つことも許した。わたしは、わたしの被造物の中に、他のすべての罪の根源となる七つの大罪が現れることも許した。 しかし、まことに、あなたがたに告げよう。罪はわたしから来るものではなく、その起源はわたしにはない。わたしがただその存在を許したのは、あなたがたの魂が な経験を得て、あなたがたが神の偉大さ、その完全さ、正義、愛、真実さを評価できるようになるため——つまり、あなたがたが完全なものを高く評価し、不完全なものも知ることができるようにするためである。

46. しかし、父はあなたがたにこう言われる。「もう十分だ！ わたしは、あなたがたが捕らわれの身となり、鎖に縛られ、苦難や病に苛まれている姿を見ている。しかし、その囚われの身にあっても、あなたがたはわたしを忘れなかった。だから、わたしはあなたがたに言う。わたしと、あなた自身を信じなさい、イスラエルよ。わたしはあなたを解放する！」

47. あなたがたの成長は偉大であり、あなたがたの魂は偉大で、わたしを知っている。あなたがたはその魂の中に、真理、誠実さ、憐れみ、そして愛を蓄えている。そして、これらの賜物をもって、あなたがたは世界に平和、調和、光、そして救いをもたらすことができるのだ。

48. この世において、誰があなたたちに平和を与え、諸国を覆い尽くす戦争を食い止めることができるだろうか。あなたたちはその能力を備えている。これこそが、謙遜と柔和を基盤とする、あなたたちの真の偉大さである。 祝福された民よ、決して愛の言葉や真理をこの世の金と引き換えにしてはならない。また、お世辞によって慈悲の行いを歪めてはならない。そうすれば、あなたがたは私の弟子であるという証しを立てることができなくなるからだ。

49. この第三の時代のイスラエルの民は、謙遜と柔和と霊性の模範となるべきである。完全への道を歩みなさい。 祝福された民よ、今やあなたがたは、私があなたがたの魂に注ぐ平和、知恵、そして教えは、単にあなたがたがそれらを蓄えるためだけではなく、この教えを分かち合い、伝え、人類の間に広めるためのものであることを知っている。あなたがたは、それを実行する使命を帯びているのだ。

50. 師はあなたがたにこう告げる。悪を行わないだけでは不十分である。あなたがたは、わたしの天の御国にふさわしい者となるために、善を行うべきである。 私はあなたがたのすべての過ち、すべての転落を赦し、私の言葉と、私の血と、私の涙をもって、あなたがたのすべての汚点を清めた。それゆえ、私はあなたがたに、私がいる人生の旅の終着点にたどり着けるよう、戦い、努力することを求める。

51. 民よ、あなたがたが創造されたその瞬間に、父がすでにあなたがたに託した偉大な使命を自覚しなさい。 これが、この地上に生きる最後の機会であるかどうかは、あなた方にはわからない。しかし、もしあなたがたが使命を未完のまま残して去るならば、私は再びあなた方をこの世に送り出すだろう――ある者たちは収穫を刈り取るために、またある者たちは、すでに始まった使命を完遂するために。しかし、あなた方のうち の者たちは、もはや地上に戻ることはない。私は彼らに、霊界で働き、戦うことができるよう、使命を与えるつもりだ。

52. わたしは、高次の来世に関する偉大な教訓をあなたがたに啓示する。なぜなら、わたしは今、あなたがたを霊的な生活、すなわち真の生活――始まりも終わりもないその生活――へと備えさせているからだ。 私はあなた方を準備させ、道を示し、また扉も示すつもりだ。なぜなら、あなた方は長子であり、私が常に道を教えてきた者たちであり、あなた方もまた、他の人々にその道を教えるべきだからである。そして、私がこの世であなた方に道を示したのと同じように、あなた方も高次の彼方でその道を認識しなければならない。そうして初めて、あなた方は魂たちを、真の平和へと導く道において、引き続き導いていくことになるのだ。

53. 民よ。あなたがたが祈ることを学ぶべき時が、あなたがたに訪れた。今日、わたしはあなたがたに、地にひれ伏せとは告げない。また、唇で祈ることを教えたり、美しい祈りの言葉でわたしを呼び求めるよう教えたりもしない。 今日、私はあなたがたにこう言う。心の中で私に向き合い、魂を高めなさい。そうすれば、私は常に

降りてきて、私の存在をあなたがたに実感させてあげよう。もしあなたがたが神と語り合う術を知らなくても、あなたがたの悔い改め、思い、痛み、そして愛さえあれば、それで私には十分である。

54. これこそが、私が聞き取り、理解する言葉、すなわち言葉のない、真実と誠実さに満ちた言葉である。これこそが、私がこの第三の時代にあなたがたに教えた祈りである。

55. あなたがたが善行をなすたびに、私の平安、安らぎ、そして希望を感じたはずだ。それは、そのとき、父があなたがたに非常に近くおられるからである。

56. わたしの言葉には炎があり、その炎をもって、わたしは雑草を焼き払う。

57. 「互いに愛し合いなさい」！ あなたの隣人が崇める偽りの神を嘲笑してはならない。たとえそれがどれほど誤ったものであっても、隣人の教えを間違っているとは断じてはならない。もしあなたがたが、人から尊敬され、従われることを望むなら、まず自ら敬意を示さなければならない。しかし、誰をも恐れてはならない。なぜなら、私はあなたがたに真理と言葉の賜物を与えたからである。 立ち上がり、語り、隣人を説得しなさい。言葉には、癒やし、愛、力、そして命がある。言葉には、あなたがたが歩み出すための力がある。

58. わたしの言葉は、永遠に書き残されるであろう。あなたがたはそこから、「第三の時代の書」、すなわち**「第三の聖書」**、父の最後のメッセージを編纂することになる。なぜなら、三つの時代すべてにおいて、 神は、人類にその知恵を残すために「金のペン先」*を持っておられたからである。

**この用語は、神の啓示に立ち会い、主の言葉を速記で書き留めるという任務を負った者たちを指す。*

59. モーセは、第一の時代の出来事を消えることのない文字で巻物に書き記すために、父が用いた最初の「金のペン」であった。モーセはエホバの「金のペン」であった。

60. 第二の時代の私の使徒たちおよび後継者たちの中で、イエスには四人の「ペン」がおり、それはマタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネであった。これらは神の師の「金のペン」であった。しかし、愛と認識、そして霊的進歩の絆によって、旧約聖書が新約聖書と結びつけられる時が来ると、それらは一つの書物となった。

61. 今、あなたがたが再びわたしの言葉を受け取っている第三の時代において、わたしもまた、それが書物として残されるよう、「黄金のペン」を任命した。

時が来れば、あなたがたは一冊の本を編纂することになる。そして、この「第三の時代」の書は――その時が来れば――「第二の時代」と「第一の時代」の書とも統合され、そうして三つの時代の啓示、預言、そして言葉から、すべての魂を啓発するための**『大いなる生命の書』***が生まれるのである。 その時、あなた方は、最初の一語から最後の一語に至るまで、すべての言葉が真実と御霊において成就したこと、そしてすべての預言が、人類の父が啓示された、あらかじめ定められた歴史の成り行きそのものであったことを悟るでしょう。なぜなら、将来起こる出来事を書き記させることができるのは、神のみだからです。

**『真のいのちの書』第85の教え、24節からの解説文：「あなたがたは、この（現在編纂中の）遺言書、すなわち本書を、以前の書物と統合しようと努める必要はない。なぜなら、私がこの書物の中に、三つの時代の啓示と教えを統合し、それらから本質を抽出して、一つのメッセージを作り上げたからである。」*

62. 預言者たちが語ったとき、語ったのは彼ら自身ではなく、神が彼らを通じて語られたのである。

63. 私は、モーセや第二の時代の四人の弟子が受けたのと同様に、私の新しい選ばれた者たちに十分な準備を与えた。それは、私の言葉が完全な純粋さ、完全な明瞭さ、そして真実をもって書き記されるためである。なぜなら、それは明日の世代のためだからだ。 しかし、もし誰かがその書物に何かを付け加えたり、削除したりしようとするならば、私はあなた方を問責するであろう。

64. さて、わが愛しき子らよ。あなたがたが編纂し始めたこの書物に、誰が重要性を認めるだろうか。実のところ――誰もいない！しかし、やがて人類が、渇望と好奇心に満ちて、あなたがたにその書物を求めてくる時が来る。その時、人々は目覚め、わが言葉を探究し、それについて議論するようになるだろう。その思想の争いの中で、科学者、神学者、哲学者といった各陣営が姿を現すことになる。 諸国には、あなたがたの御言葉の証しと『知恵の書』がもたらされ、すべての人が私の教えについて語るようになる。これが新たな戦い、すなわち言葉と思想、そしてイデオロギーの戦争の始まりとなるだろう。しかし、最終的に、すべての人が真理と御霊によって、『命の大いなる書』が主によって書かれたことを悟ったとき、

彼らは兄弟のように抱き合い、私の御心通りに互いを愛し合うようになるだろう。

65. なぜ、第一の時代には、世界を一つにするためにエホバの御言葉だけでは不十分だったのか。また、第二の時代には、イエスの教えもそれを成し遂げることができなかったのか。なぜ、この時代において、1866年以来、私が御言葉を授けてきたにもかかわらず、諸国が互いに愛し合い、平和に暮らすには不十分だったのか。

66. この御言葉が全世界を照らすためには、三つの書物が一つとなる必要がある。そうすれば、人類はその光に従い、バベルの呪いは解かれるだろう。なぜなら、すべての人々が『真の命の大いなる書』を読み、皆が同じ教えに従い、御霊と真理のうちに神の子として互いに愛し合うようになるからである。

わが平和があなたがたと共にありますように！

教え 359

1. 愛する弟子たちよ。主の最後の啓示を喜びとし、この時が過ぎたら、私と語り合うために祈りの道へと歩み出してください。常に祈りなさい——平穏な日々においても、試練の日々においても。そうすれば、試練に立ち向かうための強さと勇気を得られるでしょう。

2. この時代は、私の啓示を正しく解釈できた者たちにとって、霊的な視野が広がり、幸福に満ちた時代であった。 その子は父との出会いのためにやって来て、受けた教えによって、父の胸に抱かれているかのように安心し、信念を強く持ち、また深く愛されていると感じたため、今後はただその宝を守り、自分に与えられた特権を思い出すために生きるようになるでしょう。しかし、私がすべての子供たちを等しく愛していることを知ってください。 あなた方全員が私の家族であり、たとえごく少数の者だけが人間を通じて私の啓示を直接体験したとしても、あなた方全員が私から光とインスピレーションを受け取っているのだ。

3. すべての人には、私との約束の時間が設けられており、あなた方は皆、私の元へとたどり着くことになる。 道はすでに整えられている。最も謙虚な心を持つ者たちが最初に召され、その後、他の者たちもやって来るだろう。彼らは、反抗心や偽りの高慢さを捨て、魂を低くして、謙虚な姿でやって来る。そしてその時、私は彼らの謙虚さと自己認識ゆえに彼らを赦し、彼らを待ち受ける偉大な使命を果たすための重要な任務を授けるだろう。

4. 私がすべての人を呼び集めるその時には、頑なな者たちは屈服し、心硬い者たちは思いやりのある者となり、高慢な者たちは真の従順をもって身を屈めることを知るようになる。 なぜなら、わたしの霊はすべての人を教え、わたしの深く愛する子供たちを啓発し、祝福するからであり、彼らの魂からは、父であり創造主であるわたしへの祈り、ただ一つの愛の歌が湧き上がるだろう。その日、偉大な徳を備えた魂たちがこの惑星に降り立ち、すでにここで回心した者たちは、完全なる境地への強い渇望を抱いて、他の——霊的な住処へと旅立つだろう。

5. まことに、あなたがたに告げる。わたしの教えに従ってきたあなたがたは、これらの声の伝達者たちが沈黙し、もはやわたしの言葉を伝えなくなっても、わたしがあなたがたから遠ざかっているとは感じないだろう。あなたがたはわたしを身近に感じ、内なる神殿

にわたしを宿し、その神殿の中で、引き続きわたしの声を聞き、それを通じてわたしの導きと慰めを受けることになる。

6. 1950年以降、この世界に何が起こるかについて、あなたがたはほとんど知らない。しかし、わたしはあなたがたに警告し、こう告げる。人類が現在飲んでいるその苦い杯の底には、まだ沈殿物が残っており、その苦しみはさらに大きくなるだろう。しかしその後、人類の贖罪が終わりを告げれば、その杯は取り除かれ、喜びに満ちた新しい杯が人類に差し出されるだろう。

7. 霊界は、人々の生命と完成への道のりを注意深く見守る守護者として、これからも人々を慈しみ、守り続け、それによって、私から授かった使命を果たしていくのである。

8. 私の最後の教えの後も、あなたがたは私の言葉を学び続け、何をすべきかを知るようになるでしょう。そうすれば、あなたがたは私と共に、人類を助け、守る一つの霊となるのです。

9. 神聖なる母は、すべての子供たちに最も優しい愛を注ぎ出しておられる。母は、貧しい者や孤児たちにとっては守りのマントであり、病者や無力な者たちにとっては思いやりのある世話役である。すべての人々のために立ち上がる母の御霊は、試練の時においてこの世界を助けてくださる。

10. 心の中でこの世界を見渡し、同胞たちに慰めと兄弟愛のメッセージを届けなさい。私の啓示の最終日、私はすべての国々に語りかけ、私の言葉は弟子たちの心に消えることのない形で刻み込まれるでしょう。私はあなた方を使徒としてこの世に残し、あなた方を必要とする人々の元へ赴かせるのです。

11. 安心して私の胸に寄り添い、苦難を忘れなさい。なぜなら、私の啓示の最終日、あなたがたが私の前に持ち出す大きな問題たちを、私が解決してあげるからである。

12. 備えなさい。試練の時はすでに近づいているのだから！私の霊感に献身的に従い、自らの使命を自覚して、最後の瞬間までそれを伝えてきた伝道者たちは、幸いである。

13. 預言者たちは、あたかもわたしの中で新たな犠牲の死が繰り広げられているかのような印象を受けるだろう。それは、人間への愛ゆえに、わたしの霊がその受難を果てしなく繰り返しているからである。あなたがたが救いを見出せるよう、これらすべての愛の証しを思い起こしなさい。

14. マリアは、あなたがたの長い道のりにおいて、第二の時代に私の弟子たちに対してそうであったように、あなたがたを見守り、支えとなるでしょう。彼女は愛情深く優しい母であり、その優しさ

をもってあの魂たちに勇気を与え、彼らの心を喜びで満たし、苦痛の時間を彼らと共に分かち合いました。そして、彼女が祈るとき、母の思いも天へと昇り、父の御心を待ち望んだのです。

15. 現代において、マリアは、近づきつつある試練にあなたがたが不意を突かれないよう、その霊的なマントであなたがたを覆ってくださる。

16. あなたがたは、魂と心をもって、聖霊が現れる神殿を築き上げ、この世に服従と霊性の足跡を残すことになるでしょう。

17. わたしの言葉は、新しい夜明けの光のように、あらゆる国の住民を徐々に照らし、目覚めさせるでしょう。

18. わたしは、あなたがたを約束の地へと導く星である。ここに、愛に満ち溢れ、あなたがたの魂の旅路を励ます、わたしの言葉の調べがある。

19. もし苦痛があなた方をわたしに近づけたのなら、わたしは愛をもってあなた方を受け入れる——わたしを信頼しなさい。わたしはあなた方と共にありたいし、あなた方もわたしと共にあってほしい。そうして、あなた方とわたしがこの調和の中で一つとなるためである。わたしは、あなた方の成長への道を示す旅の伴侶でありたい——常にあなた方の前を照らす光でありたい。

20. 私は、あなた方を変容させ、霊化させる師であり、あなた方の心を優しさで満たし、それがあなた方の言葉や眼差し、そして行いに表れるようにする者である。

21. 愛と調和しなさい。その愛こそが、宇宙の交響曲の中で諸世界を動かす力である。わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしの言葉の本質を受け取り、わたしの愛の計り知れない深さを感じることができるだろう。そして、あなた方もまた、悲しむ者を励まし、泣く者の涙をぬぐうことができるようになるのだ。

22. わたしはあなたがたの苦しみの中に慰めを与え、あなたがたの傷を癒やし、あなたがたの中に経験の光だけを残す。そうして、あなたがたが深く考え、魂がわたしに近づくよう努めるためである。

23. あなたがたが霊的になれば、あなたがたの行いは、わたしの前で香る薔薇のようになるだろう。あなたがたが祈るとき、わたしは声も言葉もなしに、愛に満ちた慰めの波動をもって答える。あなたがたが、その答えとしてわたしの愛撫を感じるその瞬間は、なんと高揚感に満ちたものになることか。

24. 人類よ、私の声を聞きなさい。私は、あなたがたのうち誰一人として滅びることを望んでいない。羊飼いが羊を呼ぶ声に応えて

、私の元へ来なさい。多くの人々が、苦痛の道に散らばり、取り残されている。しかし、あなたがた全員が、私の愛があなたがたを救うために待ち受けている羊小屋へとたどり着かなければならない。

25. 愛する民よ。兄弟たちと心を一つにしなさい。そうすれば、あなたがたがわたしと対話する際、わたしがあなたがたに吹き込んだ愛によって、たとえ最もひどい侮辱であっても自ら赦すことができるようになるでしょう。なぜ、、自分が何をしているのか分からない者を赦さないのですか？　その者は、自分が自らにこの悪を行っていることに気づいていないのです。

26. 第二の時代、メシアは人々の間に住み、彼らを慈愛をもって導き、その苦しみを和らげ、互いに愛し合うようにと教えを授けた。

27. その時代、私は人々が深い眠りに沈み、この世の富や財産によってのみ偉大さを誇っているのを見出した。それゆえ、約束されたメシアが、目立たない誕生の地で生まれたと知ったとき、彼らの戸惑いは極めて大きかった。

28. 私は、皇帝の臣民となっていた私の民に出会った。しかし、私は彼らに光と平安と慰めを与えた。「父の御言葉が人々に語りかけ、律法に従うよう教え、滅びから救うために来る」と、聖書に記されていた。あなたがたに救いへの道を示すためには、私が苦難の杯を飲み干すことが必要であった。

29. 幼い頃から、私は律法の教師たちに語りかけ、迷える者たちを救いの港へと導く救いの星のようであった。

30. 愛する民よ。私の使徒たちが、私の教えによって人類を準備するために戦った道は、厳しいものであった。私が去った後、彼らはためらうことなく戦いに出発し、同胞たちの悪意を恐れることもなかった。彼らは私を信頼し、日々、愛と慈悲の教えを広めていった。 しかし、人類は彼らに何をしたか。彼らを拒絶し、血の犠牲へと引きずり込んだのだ。彼らは迫害され、嘲笑されたが、それでも人生の最後の瞬間まで、私の使命を果たし続けた。

31. 現代において、わたしはあなたたちに告げる、民よ。もはやあなたがたは殉教者となることはない。今日、わたしがあなたがたに求めるのは、人類にパンと水をもたらすための準備だけである。しかし、この時代においても、人々はあなたがたの行く手を阻むだろう。

32. あなたがたはイスラエル、すなわち人類の力強い者であり、わたしはあなたがたを同胞たちの支えとして立てた。あなたがたを

通して、彼らはあなたがたの神の憐れみ、赦し、愛、そして慈悲を得るであろう。

33. 第二の時代には、あなたがたが「三賢者」と呼んだ賢者たちが、その知恵の証として、金、乳香、没薬をわたしに捧げた。素朴な羊飼いたちもまた、その捧げ物をわたしの足元に置いた。しかし今日、わたしはあなたがたの魂から、愛の捧げ物として、あなたがたの賛美と祈りを受け取っている。

34. 愛する民よ。私はあらゆる時代にわたってあなたがたに語りかけてきたが、この第三の時代において、私はあなたがたに多くのことを教えてきた。 あなたがたの中には、私の声をほとんど聞き取れなかった者もいます。しかし、私の偉大な教えは私の「金の羽ペン」によって書き記されており、もしあなたがたがもはや声の媒体を通して私の声を聞くことができなくなっても、それらは引き続きあなたがたを導き、励ましてくれるでしょう。なぜなら、私が私の食卓であなたがたに与える糧は、あなたがたにとって美味であり、あなたがたの魂を力づけることになるからです。

35. あなたがたは、わたしの言葉を受け取るその瞬間に、痛みを忘れてください。この世の誘惑から離れ、この霊的な食卓で敬虔な心を持っていてください。このような心構えをもってわたしの言葉を聞く者たちは幸いである。それは、あなたがたの魂にとっての命だからである。

36. 誘惑は、あなたがたの清らかな衣を奪い去る。しかし、私があなたがたの中に悲しみと深い苦痛を見る時、私は再び、私の霊的なマントであなたがたを覆ってあげる。

37. この人生の試練に対して強くあれ。私があなたに託した光によって、あなたの問題を解決しなさい。あなたの成長を妨げる可能性のある、あらゆる障害を道から取り除きなさい。あなたの心から狂信と偽善を排除し、この世において気高き者となり、愛と兄弟愛の絆を築き上げなさい。

38. あなたがたはスピリチュアリストである。青銅の鐘を備えた物質的な教会を建てるのではなく、あなたがたの魂の中に、あなたがたの心の中に教会を築き上げなさい。そうすれば、父はこの教会に来られ、永遠にあなたがたと共にいてくださる。私自身が、この教会の光となる。

39. 私がこの時代に、あなた方を死の眠りから目覚めさせ、新しい一日を示し、あなたがたが私の声を聞き、私を見ることができるようにするために来たことを理解しなさい。

40. あなたがたは光の子らであり、人々がわたしの業の中で発見した謎を解き明かし、すべての人がわたしを理解できるようにすることが、あなたがたに課せられている。

41. あなたがたが私の業に付け加えたこれまでのあらゆる慣習を捨て去らなければならない。そうして初めて、あなたがたは一つの目的と一つの意志をもって霊化されることになる。

42. あなたがたは悪意によって抑圧され、物質主義に縛られ、人間が築いた石造りの教会の屋根の下でわたしを待ち望んでいた。あなたがたは、この時代にわたしが霊として訪れ、教えを授けることを理解していなかった。しかし、今、わたしはここにいて、謙虚な者たちの間に現れ、人類を霊的に解放するメッセージを彼らが世界に伝えるようにしている。

43. 愛に満ちた父として、私はあなたがたのもとに来て、私の愛を注ぎます。なぜなら、裁き主である以前に、私はあなたがたを赦し、そのマントであなたがたの霊的な裸身を覆う父だからです。しかし、完全なる裁き主として、私はあなたがたに私の言葉を授け、あなたがたの魂に本来の清らかさを取り戻す機会を与えます。

44. 今こそ、あなたがたは私の律法を全うすべき時である。まさか、私を理解しなかったという理由で、私が再びあなたがたを問責することを望むのか。あなたがたは第三の時代の善良で忠実な弟子でなければならない——もはや眠ってはならない！私の傷からは、今もなお神聖な血が流れ出ていることを心に留めよ。

45. わたしの正義があなたがたの間で顕現するのを待ってはならない。民よ、立ち上がり、わたしがあなたがたに託した種が何倍にも増えたことをわたしに見せなさい。しかし、もしあなたがたがこれまで世界の回心を経験していないとすれば、それはあなたがたが準備をせず、霊的に高まっていなかったからである。

46. イスラエルよ、身を整えよ。あなたは旅立ち、私の教えを広めなければならない。そうして人類がそれを理解し、あなたがたがもはや私の言葉を聞かなくなっても、あなたがたの内に痛みがないようにするためである。

47. 選ばれた民よ、霊性を高め、前進せよ。そうすれば、時代の流れがあなた方を不意打ちにすることはないだろう。高き来世であなた方を待ち受ける報いにふさわしい者となれ。

48. 師がもはや代弁者を通じてあなたがたに御言葉を授けない時が来た。しかし、あなたがたが、わたしの教えを実践することで得た備えを失いかねない道へと立ち返ることは、わたしの望みではな

い。わたしの力を用いよ。そうすれば、あなたがたの心には光が満ちるであろう。

49. 私はあなたがたの魂の導き手であるゆえに、あなたがたの道を照らしてきた。私はあなたがたを救うために、あなたがたを鍛えている。私はあなたがたの父であり、父として、あなたがたが道でつまずくことのないよう、私の言葉を授けたのである。

50. わが子らよ、あなたがたの心の中でわたしを求めなさい。わたしはそこに住んでいるのだから。悔い改めを感じなさい。そうすれば、あなたがたは約束の地で生きることができる。

51. わたしは絶え間なく注がれる光である。

52. わたしは「永遠の御言葉」であり、あなたがたに問いかける。「いつ、わたしのもとへ戻ってくるのか？」と。

53. 幸いなことよ、祝福された民よ。わたしの平安、光、そして愛が、あなたたちと共にある。

54. わが民よ。今日は、全人類がイエスの誕生を祝う準備をする記念の日である。人々は精神的に一つとなり、願いを捧げ、 世界の平和を祈っている。 しかし、ある者たちにとってはこの祈りが心の底から湧き上がるものである一方で、他の者たちにとっては単なる言葉に過ぎない。霊性化から生まれる真の祈りは、ごく少数の者たちによってのみ捧げられている。しかし、地球上のすべての民族による準備は、霊性的な民の準備と結びついて、一つの祈り、一つの願いの祈りとなり、それがわたしのもとへ届くのである。

55. 私が師として世界に説いた愛は理解されなかった。それゆえ、人間は敵意を抱き、殺戮的な戦争を煽っている。あなたがたが後に刈り取る実をもたらすのは、あなたがたの行いである。もしあなたがたが正義を望むなら、善を行うためのあらゆる機会が与えられている。

あなたがたが使命を完全な形で果たせるよう、私はあなたがたに私の恵みを注ぎ続けている。しかし、もしあなたがたが自分の意志や利己主義を押し通そうとし、その過程で私の律法に従わないならば、あなたがたは自ら引き起こした悪に対して責任を負うことになる。

56. スピリチュアルな民よ：世界を支えるために、宇宙で作用する霊的な力と一体となることが、あなた方の使命である。また、平和と安らぎ、愛と幸福に満ちた世界を思い描く人々とともにも一体となりなさい。

57. 愛する民よ：わが言葉は、あなたたちだけを養うものではない。 私の言葉は、人間の苦しみを感じているすべての人々――人類

のために善と慈悲を切望している人々――へと、インスピレーションとして注がれている。赦し、自らの過ちを悔い改め、精神を高め、人類に奉仕するために自らを清め、自己を克服する用意のある者たちは幸いである。彼らに、私は私の恵み、私のインスピレーション、私の赦しを与える。

58. 諸国が平和に暮らす唯一の道は、イエスが「第二の時代」に世界に教えたキリスト教の原則に従うことであり、今、私があなた方にそれを思い出させているのである。

59. 人類が平和に生きるために実践しなければならないのは、愛、理解、そして慈悲の原則である。しかし、霊的な成長に欠ける者たちに対しても、私は彼らの過ちを問うことなく、私の愛と恵みを授ける。 私はあなたがたすべてを私の羊の群れと見なし、皆を等しく愛している。それゆえ、私はこう告げる。私から遠い者は誰一人おらず、私の赦しは全世界を包み込んでいる。たとえあなたがたが私の律法に背き、敵意を募らせたとしても、私は一度、そして千回と赦す。それは、あなたがたが自らを新たにし、永遠の完全さに至るための同じ機会を得られるようにするためである。

60. スピリチュアリズムは宗教ではない。それは、私がイエスという御姿を通じて、あらゆる時代、世界中のすべての人々の指針として広めた教えそのものである。それは、愛と正義、理解と赦しに関する私の教えである。

61. この第三の時代において、私は、あなたがたの精神的、肉体的、そして知的な発展に応じて、より明確にあなたがたに語りかけてきたのである。

62. スピリチュアリズムは、すべての人、そして一人ひとりの内に存在するべきものである。私は魂に語りかける。それは、魂が肉体と共に高みへと昇り、肉体が自らの魂から啓示と霊感を受け取り、それを自分自身のため、そして普遍的な幸福のために活用できるようになるためである。そうして、人類の幸福のために働くという普遍的な法則が成就されるのである。

63. 私の霊的業は、目覚め、永遠の完全性へと発展してきたすべての人々によって、いつの時代も理解されてきた。彼らは、私の恵みと神聖な知恵の尽きることのない泉から受け取り、霊界からの霊感を受けて、人類のためのより良い未来を築いてきた。 科学の進歩や人類のための慈善活動といったあらゆる発展は、教師として、公共の福祉のために活動する準備を整えている人々の精神を絶えず導く、高次の霊的存在たちからインスピレーションを受けてきたのである。

64. このようにして、脳は私の教えの真意、すなわち私の知恵の霊感を受け取る。しかし、人間の霊的な準備状況、その傾向や思考の自由度に応じて、人間はこれらの思想を自らの益のために受け入れることもあれば、自らの破滅のために受け入れることもある。

65. 科学者がその知的能力を用いて人類の破滅と滅亡のために働く場合、それを高次の霊的存在たちの霊感のせいにしてはならない。

66. これらの霊的存在たちは、彼が自然を理解し、それを探究し、その偉大な秘密を発見し、そのあらゆる現れを把握できるよう、彼の脳にインスピレーションを与えたのである。 しかし、人間には、この啓示、この恩寵を自らの望む形で活用する自由がある。それは恩恵として彼に与えられるが、もし彼の感情に高潔さが欠けていたり、堕落した本能や霊性への欠如ゆえに、悪を引き起こすためにこの啓示を利用しようとするならば、彼はそうすることもできる。

67. これこそが、私が人間に与えた自由意志であり、それによって人間は自らの行いに責任を持ち、その行いを通じて功徳を 獲得するか、あるいは不完全な行いがもたらす浄化を受けることになるのである。

68. 人間は、その霊的な本質の点において、神の「像と似姿」として創造された。なぜなら、人間は神聖な霊と同じ能力を授かっているからである。あなたがたの肉体はこの世に属しているが、あなたがたの霊魂は私から生まれ出たものであり、清く完全な状態で私のもとへ帰らなければならない。それゆえ、魂の歩む道は長い発展の道なのである。

69. 永遠の存在において、あなたの魂にとって一つの肉体だけでは不十分である。それは、この世での生涯において、あなたの肉体にとって一つの衣だけでは不十分であるのと同じである。それゆえ、魂の発展には転生が必要なのである。 それぞれの段階において、あなた方は富と貧困、健康、そして人間を襲うあらゆる病を知ることになる。あなた方は利己主義、傲慢、悩み、そして慈悲の欠如を知るが、同時に、赦しと愛、高潔さと寛大さも学ぶのである。

70. あなたがたは、さまざまな肉体に転生しながら、この時代に至るに至った。あなたがたの魂は、少しずつその汚れを洗い流してきた。というのも、当初から魂は肉体の欲望に打ち負かされ、私から生まれた時に持っていた清らかさと完全さから遠ざかってしまったからである。

71. あなたがたは第三の時代に到達し、魂は発展してきたが、肉体の本能を完全に制御し、完全に霊的な段階において生きることができるほどには、まだ十分ではない。

72. この第三の時代において、私は人間の知性という器官を通じて私の教えを説き、あなたがたの魂の発展の道において新たな機会を与えたのである。

73. 祝福された民よ。第二の時代に、私の弟子たちが、私から教えを聞き、私の偉大な御業を目の当たりにしていた間、私の教えの偉大さを理解できなかったのと同様に――私がもはや彼らのそばにいなくなった後になって初めて、自らの行いを可能な限り私の教えに合わせようと決意した――あなた方、民にも、同じことが起こるであろう。 私は、あなたがたの行いが私の業にふさわしい、価値あるものとなるよう、またそれがあなたがたにとって基盤となり、霊感の源となるよう、霊的な知恵を遺します。そして、あなたがたは、その一つひとつの行いを通じて、キリストが霊的に現れ、その無限の慈悲によって備えられた知性を通じて、恵みと知恵の尽きることのない泉として、その霊感が注がれていることを世界に告げ知らせるのです。

74. わたしは、神を「唯一なる存在」として、あなたがたの霊的な想像力を超えた無限の奇跡として、全宇宙における動きと作用を引き起こす力として――最も単純な植物の中にも、宇宙を何百万もの軌道で巡る世界の中にも現れている生命として、それらの一つとして、それらを支配する法則に背くことなく――見なすよう、あなたがたに教えてきた。

75. その法則こそが、わたし、すなわちあなたがたの神である。それは絶え間ない発展の法則であり、人間を驚嘆させ、自然の神秘にますます深く入り込むことを可能にする広大な研究の分野を人間に開くものである。

76. このようにして、神の偉大さと力が現れているこの自然に対する知識を通じて、人間と神との交わりもまた確証されることになる。

77. それゆえ、神は形でも、象徴でも、現象でもない。

78. すべての被造物は、絶え間ない発展を通じて形成されてきた――私はすでにあなた方に語った通り――生命の始まりから、すなわち、私が原子の中に生命を顕現させたその瞬間から、それが分子へと展開し、分子が元素へと発展し、そしてそれらから世界が生まれ、それらは同じ論理的かつ自然な発展の法則に従って生命を宿すようになったのである。

79. 私の教えは、あらゆる知識、あらゆる活動の基礎である――それは、人間が霊性への欠如ゆえにまだ理解できないあらゆる不思議を認識するための光である。

80. 人間の精神的進歩の妨げとなる障壁を築いているのは、人間自身である。神は罰を与えることもなければ、処刑人でもない。神は全能であり、力であり、光であり、命であり、愛である。神は、あなたがたと同じように地上に生き、同じ誘惑にさらされるために、ご自身の「御言葉」を人として現わされた。それによって、神はあなたがたをさらに深く愛されたのである。 神は知恵であり、理解であり、普遍的な平和そのものである――それなのに、私がこれほどまでにあなた方を愛しているにもかかわらず、私が人間にこれほど多くの恵みと賜物を与えているにもかかわらず、私が人間を永遠の霊的ないのちへと備えさせているにもかかわらず、どうして私が人間を罰するだろうと信じることができるだろうか？

いいえ、人類よ、あなたたち自身こそが、あなたたちを襲うこれらすべての苦痛に満ちた試練を招いているのです。あなたたちは、同胞を傷つける槍を投げつけ、あなたたちを邪魔する者を排除するために殺意に満ちた手を挙げるのです。それゆえ、私はあなたたちに告げます。私の神聖な正義に従って、浄化を受けるのはあなたたち自身なのだと。 もしあなたがたの行いが、万物を包み込む完全性に向けられているならば、その功績によって報いを受けるに値する。しかし、 もしあなたがたの行いが悪しきものであるならば、肉体であれ霊的な世界であれ、浄化を受けることになる。

81. 悪を体現する勢力は、世界を戦争へと陥れ、人々が互いに反目し合い、至る所に破壊がもたらされるよう、徐々に強大な中核を形成しつつある。

82. 今年こそが、私が人間の知性という器官を通じて、愛と赦しというキリスト教の原則をあなた方に思い起こさせる最後の年となるだろう。

83. 隣人を愛し、自分自身と平和に生き、あなたを侮辱する者を赦しなさい。なぜなら、キリストはあなた方を赦しておられ、この第三の時代に聖霊の光として現れたあなたの師もまた、人類を赦しておられるからである。

84. わが民よ。慰めと励まし、そして助言を与えるために、口を開きなさい。あなたがたのあらゆる行いが愛の模範となるようにしなさい。そうすれば、わが教えは、言葉よりもむしろあなたがたの行いを通じて、より深く理解されるようになるだろう。

85. そうして初めて、世界は、キリストが再び地上を歩まれたことを理解するだろう――それは、イエスが33年間持ち続けた肉体という形ではなく、弟子たち一人ひとりに注がれた光と霊的な知恵によってである。

86. 愛する民よ。あなたがたの魂の中に宿る高潔さと寛大さのために、わたしはこう告げる。わたしの教えを実践し、善を行い、誰をも裁いてはならない。 あなたがたの体が、堕落や不純さへと導く道具とならないよう、むしろ、それが魂を高揚させる助けとなり、たとえ誘惑にさらされても、そこから勝利を収めて抜け出せるように注意しなさい。

87. 自分の体を、魂の発展のために与えられた、もろいものとして捉えなさい。

88. 他の教えを不完全なものとして非難してはならない。ただ善を行うことに専念せよ。

89. 私は、私の純粋で清らかな業をあなた方の手に委ねます。そして、スピリチュアリズムがどのように展開していくかについては、あなた方が責任を負うことになるでしょう。

90. わたしは、決まった礼拝の儀式も、特定の儀式を行う義務も、あなたがたに残すつもりはない。なぜなら、あなたがたが再び狂信に陥ることを、わたしの望みではないからだ。あなたがたは、わたしの言葉を学ぶために集まり、その知識を他の人々にも分かち合うようにすべきである。

91. すべての民族が同じ世界観を持つようになったとき、霊化は実感できるものとなるだろう。その時こそ、キリストの御国が到来するのだ。

92. キリスト教の原則が定着し、霊性は、人類を統治すべき公正な法律を制定するための指針として人々に役立つだろう。そうして初めて、世界に平和が訪れるのである。

93. あなたがたは、私の言葉を学び、互いの悩みを打ち明け合い、公益のために何かを行い、霊的な助けを求め、霊的に祈るために、どれほど頻繁に集まっていることか。自分自身に集中しなさい。そうすれば、そのように準備された者一人ひとりが、あなたがたについて語り、助言を与えるようになるだろう。その者の中には、主が御使いを通じて与えられた御言葉が繰り返されることになる。 しかし、その人が恍惚状態にある必要はない。インスピレーションだけで、その人は慈悲を実践し、人々に私の業を認識させ、実感させる機会を得るだろう。

94. 民よ、人々のところへ行き、キリストがあなた方に語られたのと同じように、同じ慈悲、同じ目的、同じ希望をもって彼らに語りかけなさい。

95. 彼らに、この世の富が与えるものよりも大きな満足をもたらす高揚への道があることを悟らせてください。触れることのできるもの以上のものを信じ、希望を抱かせる信仰があることを悟らせてください。彼らの魂は永遠に生き続けるのだと、そしてそれゆえ、この永遠の至福を享受するために備えなければならないのだと、彼らに伝えてください。

96. このようにしてあなたがたの使命を果たし、真理と、あなたがたの行いの高潔さを携えて旅立ちなさい。そうして、あなたがたがいつかわたしの元へたどり着いたとき、わたしはこう告げるだろう。「幸いな者たちよ、わたしの分となりなさい。わたしの神性の言葉に尽くせない幸福を味わいなさい。」 物質的なことを忘れ、この世で苦しんだことを忘れなさい。そうすれば、再び痛みを感じたり、数え切れないほどの誘惑にさらされたりする理由は、もはやなくなるでしょう。

97. あなたがたは、自らの功績によって完全性への階段を登り切った霊的存在となるだろう——それはヤコブの天の梯子、すなわち地上から始まり、無限の彼方へと続く発展の階段である。あなたがたは一段一段と登り続け、やがてそれはあなたがたを永遠の命、光の王国へと導くであろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 360

私の平安があなた方とともにありますように！

1. 神の師の愛する弟子たちよ。あなたがたは再び私のところへやって来た。私はあなたがたを私の食卓に招く。あなたがたが愛をもって語ることを学んだことがわかる。最も苦難に満ちた日々でさえ、あなたがたは最大の苦痛の只中で、希望と信仰に満ちた微笑みを浮かべることができる。それは、私の教えに勇気づけられてきたからである。

2. 私は、あなたがたが常に平安と勇気、そして信頼に満ちている姿を見たいと願っている。あなたがたは今、自分の内面と外面の両方で私を完全に感じ、あらゆる瞬間に私がすぐそばにいることを実感できる時を迎えたのだ。 もはや、かつて「父よ、なぜ試練の中で私を見捨てられるのですか。なぜ私の祈りに応えてくださらないのですか」と言った者たちではありません。今日、あなたがたは試練の中で祈ることを理解し、祈った後は、私の平安が訪れるのを謙虚に待ち望んでいます。あなたがたは、師があなたがたを試すことを従順に受け入れています。

3. 今や、あなたがたは真に私の弟子である。あなたがたは自らの功績の価値を知り、過ちを見出し、それを正すことを理解している。今日、あなたがたの魂はこれほどまでに大きな光に照らされており、いつ父に喜ばれ、いつ父を傷つけたのかを知っている。

あなた方には、冷たさや落ち込みを感じる瞬間もある。しかし、そうした瞬間が過ぎ去ると、愛と信仰の炎が再びあなた方の心の中で燃え上がり、内なる神への礼拝の祭壇が再び輝きを取り戻し、あなた方は聖所の奥底で、父の臨在を感じる――その父は、あなた方が準備ができているかどうかにかかわらず、常にあなた方の内にいるのだ。

4. 私は自分の子供たちを一人たりとも呪うことはできない。それは、その子の命を奪うことを意味するからだ。私はあなた方を、死のためではなく、命のために創造したのだ。

5. おお、弟子たちよ！この時代の人々は第七日に休息し、感謝の気持ちや助けを求める願いを込めて、一瞬、魂を父のもとへと向ける。 しかし、誰もが目を覚ましているわけではなく、誰もが祈っているわけでもない。それでも、目を覚まして生きている者たち――平和と人々の幸福のために尽力する者たち――のために、私は、世界が私の平和の外套の一片、私の神聖な香油の一滴、そして私の赦

しと、私がすべての魂の救いのために与える機会が込められた私の愛の口づけを得られるようにするのだ。

6. 今こそ、魂にとって決定的な時であり、まことに戦いの時である。すべてが争いと戦いである。この戦争は、一人ひとりの人の心の中で、家族の懐の中で、あらゆる制度の内部で、すべての民族の中で、あらゆる人種の間で繰り広げられている。 地上界だけでなく、霊界においても戦いが繰り広げられている。 これは、かつての預言者たちが象徴的な形で予見し、現代の預言者や先見者たちの幻視の中にも見出されている「大いなる戦い」である。しかし、今まさに繰り広げられ、すべてを揺るがしているこの戦いは、人類そのものがその戦いの構成要素であり、またその証人であるにもかかわらず、人類には理解されていない。

今日、人類の歩みは加速している――しかし、一体どこへ向かっているのか？　人間は、これほど急いでどこへ向かっているのか？この目まぐるしい道のりの先で、果たして幸福を見出し、切望する平和や、あらゆる心が利己的に願う輝かしい人生にたどり着くのだろうか？

7. 私はあなたに告げる。人間がその慌ただしさの中で実際に到達するのは、完全な消耗である。人間の精神と心は、*人生*への嫌気と*倦怠*へと向かっており、この深淵は人間自身によって作り出されたものである。

8. 彼はこの深淵へと転落し、この完全な消耗の中、敵意、快楽、満たされない権力への渇望、罪と姦淫、そして精神的・人間的な法則の冒涜が織りなす混沌の中で、魂にとっての「見せかけの死」、心にとっての一時的な死を見出すことになるだろう。 しかし、私は、その人がこの死から生へと立ち上がるよう導く。 私は、彼が復活を遂げ、この新しい命の中で、あらゆる理想の再生、あらゆる原則と美徳の復活のために戦うように導く。それらは魂の特性であり、遺伝的遺産であり、その起源、すなわちアルファである。なぜなら、魂は私から生まれ、私から命を受け、私の完全さを飲み干し、私の恵みによって満たされたからである。

9. この大きな霊的闘争の時代に、祈りをもって人々に寄り添いなさい。彼らが泣いているのを見たら、その涙の理由そのものに心を向けるのではなく、彼らのために泣いてください。彼らはあなたの同胞であり、あなたの愛の涙こそが、癒しと慰めとなるからです。彼らが安らぎを失っているのを見たら、その安らぎのなさに加担してはならない。あなたがたは平和の子らだからだ。しかし、彼らの

ために祈り、皆が平和の天使となれ。あなたがたの魂から、愛の果実である平和を、全地球への露のように降り注がせよ。

10. 彼らが、他者の見解に反する議論を巻き起こし、考察を重ねていることを知ったなら、そのすべてを超越して立ちなさい。その瞬間、わたしの業とわたしの言葉を思い起こし、聖霊の光と、あなたがたの祈り、模範、そして言葉をもって、人々の争いや戦争を助長する理由を克服しなさい。 もし彼らが武器を肩に担いで 、そして容赦なく自らの兄弟に対してそれを向けようとしているのを見たら、あなた方もまた、愛、憐れみ、赦し、そして永遠の命という武器を手に取りなさい。

11. 平和の御国のために魂を勝ち取りなさい！罪人を恵みの生活へと回心させなさい。そうすれば、父の僕たちは増え続け、罪と破壊と死の王国は、あなたがたの戦いによって打ち砕かれるでしょう！

12. これほど大きな闇の只中にありながら、なお心の中にわたしを求める力を見出す者たち、あるいはその心にわずかな清らかさを保ち、それを短期間でも聖域へと変え、自らの良心がわたしから、自分自身について、そして隣人について語りかけることを許す者たちは、幸いである。

13. わたしは、かつてないほど人間の精神が神を崇拝する時代が来ることを、あなたがたに告げてきた。その時代には、人間は、わたしが太古の昔から完全な教えを通じて人々に授けてきた、父への霊的な崇拝を捧げるようになるのである。 私は常に偉大な啓示を行い、常に師であり続けてきた。また、父として、人間の被造物たちが私をよりよく認識し、それによって私がより完全な形で愛されるよう、私の神秘のベールを剥ぎ取ってきた。 しかし、人間にとってこの地上の存在はあまりにも素晴らしく見え、この世界が秘める宝はあまりにも豊かであったため、彼は常に、霊的な生活について語る教えを忘れてしまった。彼は、父の御業であり、高き来世の生活の微かな反映である、壮麗な物質的創造物にのみ目を向けてきた。そして、この世の富を観察し、触れ、渇望するために、目も、理性も、感覚も開いていた一方で、彼は精神の目を閉ざし、これらすべての上に、別の、驚くべき存在、さらに豊かな人生、そして真に偉大な富があるということを忘れてしまったのである。 この愛、すなわち地上の富への人間の傾倒によって、人間は自らを物質化してしまったのである。

それでもなお、その魂は私を忘れてはいない。私の存在への予感を抱き続け、さらに、この地が与えることのできない糧への渇望を

感じ取り、私を求めている。しかし、その求め方は中途半端であり、必ずしも最善の道を通っているわけではない。

14. 人間は物質化されているため、感覚に訴える礼拝を通じて私を求めざるを得ず、また、その霊の目が開かれていないため、私を見るために私の像を作り出さなければならない。 人間は精神的に感性を研ぎ澄ませていないため、私の存在を信じるには常に物質的な奇跡や証拠を求め、私に奉仕し、私に従い、私を愛し、私が与えるものに対して何か見返りを返すという条件を私に突きつけるのである。 こうして、私は、地球上の人々が作り出したすべての教会、すべての宗教団体、すべての宗派を見ている。それらは、物質主義、狂信、偶像崇拝、秘密主義、欺瞞、そして冒涜に満ちている。

15. 私がそこから受け入れるものは何か。ただその意図だけである。これらすべての中から、何が私に届くのか。それは、私の子供たちの魂や肉体の困窮、彼らのわずかな愛、光への渇望である。これこそが私に届くものであり、私はすべての者のそばにいる。私は教会や形式、儀式などには目を向けない。私はすべての子供たちに等しく寄り添う。 私は祈りの中で彼らの魂を受け入れる。私は彼らを胸に引き寄せ、抱きしめる。そうして、彼らが私の温もりを感じ、その温もりが、試練と苦難の道のりにおける励ましと原動力となるように。しかし、私が人類の善意を受け入れるからといって、彼らが偶像崇拝や狂信に包まれたまま、永遠に闇の中に留まることを許すわけではない。

16. 私は、人間が目を覚まし、魂が私のもとへと高まり、その高揚の中で父の真の栄光を仰ぎ見、典礼や儀式の偽りの輝きを忘れることを望む。 私は、彼らが真の昇華に達したとき、自らを刷新し、人間の苦難から解放され、感覚への執着、情欲、悪徳を克服して、真の自分を見出せることを望む。そうして、決して父に対して「自分は地上の虫に過ぎない」などと言わず、父が彼らを御自身の像と似姿として創造されたことを知ることができるように。

17. これこそが、おお、イスラエルの民よ、この第三の時代におけるあなたの責任の理由である！

18. わたしは、人類はわたしが肥沃にした畑のようなものであると、あなたに告げた。そして、この肥沃化の中に、人類の賜物と潜在能力の目覚めの根源がある。現在、人類は直感を通じて、また霊的な夢やその他様々な形を通じて、わたしのメッセージを受け取っている。わたしの霊界もまた、人々を目覚めさせ、準備させている。 一連の出来事や事象は、心と魂に明確に語りかけており、これらすべてを通じて、人類は多少の準備を整えることができた。人類は

、自分たちが岐路に立っていることを知っている――重要かつ霊的な豊かさに満ちた時代に入ったことを感じ取っている。神の正義が、すべての被造物に容赦なくのしかかっていることを感じ取っている。 しかし、生きた御言葉 と、彼らの目の前で示される決定的な証拠が欠けている。だが、民よ、その証拠と御言葉はあなたがたが持っている。わたしはそれをあなたがたに託した。あなたがたはこの啓示の担い手であり、それは神の愛の種であり、あなたがたは、わたしの完全な知恵によってすでに実り豊かな畑に、その種を蒔くことになるのだ。

19. 引き続き進んで祈りに没頭しなさい。そうすれば、わたしが今後もあなた方を形作ることができ、やがてあなた方を、この事業の奉仕者および使徒へと変えることができる。この事業は、あなたがたも知っている通り、わたしが「スピリチュアリズム的」「三位一体的」「マリア的」と称してきたものであるが、世界が一度わたしの律法を成就すれば、これらの名称は消え去ることになる。 その時には、名称も象徴も必要なくなるでしょう。なぜなら、あなたがたは皆、自らの内なる本質の中に、いわば霊的な石を宿すことになるからです。その石は、他のすべての石と共に、あなたがたの父であり創造主がお住まいの、真の神殿、真の聖所を形作るのです。

20. 果たして全人類が三位一体的なのか？――いいえ、弟子たちよ。すべての者が、その魂の中に三つの時代の遺産を宿しているわけではない。 過ぎ去った二つの時代の遺言さえ守っていない者も多く、中には最初の時代の遺言さえ守っていない者もいる。しかし、あなたがたは、三位一体の種――すなわち、私が三つの時代にわたってあなたがたに託した私の律法、教え、あるいは指導（あなたがたがそれを何と呼ぼうとも）を、すべての民族とすべての人々の心に蒔く種として届けることになるだろう。

私の教えを、呪いや脅し、あるいは苦痛によって強要してはならない。ただそれを提示し、あるがままの純粋で清らかな姿で示すだけでよい。この永遠の知恵の泉を差し出し、渇きを覚える者たちがその水晶のように澄んだ水を飲むことを許しなさい。まことに、あなたがたに告げる。渇きを癒されたと感じる者たちは、そのときあなたがたと共にいるであろう。 飲んでもなお渇きを癒すことができなかった者たちは、拒み続けるだろう。しかし、この件は私に任せておきなさい。また、飲むことを拒む者たちもいるだろうが、泉は永遠に存在するので、あなたは待つのだ。今日、この水を飲むことを拒む者たちが、明日もこの水を飲もうとしないならば、彼らの渇きはさらに大きくなるだろう。 渇きが彼らを苦しめ、やがて彼らは

泉へとやって来るだろう。もし近くに泉が見当たらないなら、彼らは砂漠を抜け、遠くまでその泉を探し求めるだろう。なぜなら、その水が清々しく、心を癒やすものだったことを覚えているからだ。そして、見つけるまで探し続けるだろう。たとえ私が水を拒まれたとしても、私は決してあなた方に水を拒むことはないからだ。

21. 人類はまだ霊的ではないが、すでに魂は目覚めつつあり、彼らの偶像の無感覚さと盲目さを認識し始めている。 すでに彼らは、偽りの犠牲や悔い改めの無益さに気づき始めており、私は多くの者が狂信に嫌気がさし、疲れ果てているのを見出す。 彼らは、霊的な味覚にとって甘く心地よい糧を渇望し、魂を真に活気づけるワインを渇望している。

22. 私は、霊化を志し、霊的な聖所、すなわち魂の住処へと入っていく、教会や小さな宗派、そして大規模な人々の集まりを見ている——その中には、霊的な意図に近く、私のもとへと至る道を進んでいる者たちもいる。 私はいつか彼らに報いるだろう。そして、真のスピリチュアリズム、すなわち教えと啓示に満ちた深遠な教義、聖霊による慰めと霊的な糧が、すべての人——渇望する者、渇きに苦しむ者、さらには冷淡で無関心な者たちにも——明らかにされるだろう。

23. 全人類はマリア的であるのか。まことに、わたしはあなたがたに言う。いいえ、多くの者はマリアのことをさえ知らない。 私は、人類の一部が彼女の名前さえ知らないのを見る。また、彼女によって激しい狂信、極度の偶像崇拝、冒涜、金儲けへの執着に陥っている別の大きな部分を見る。さらに、人類の霊的な母として彼女を認めない、人類や宗教共同体の一部も存在する。

24. わたしはあなたがたを「マリアの民」と呼んだ。それは、あなたがたが人類に、マリアとは誰であるかを教えることになるからだ。

25. おお、民よ、私はあなたに告げる。マリアは、第二の時代に救い主を身ごもった女性であるだけではない。 私が今述べた人類のあらゆる部分、あらゆる宗派や宗教団体、あらゆる人種、そしてすべての人々に告げます。マリアは、常に存在してきた母性的な、神聖な本質そのものです。彼女は、創造のあらゆる業の中にあなたがたが発見し、見出すことのできる、女性的な普遍的な本質です。彼女は優しさそのものであり、執り成しであり、養育する母の懐そのものです。

かつての時代においても、マリアの存在と、この地上への到来は、すでにあなた方に啓示されていた。まことに、最初の人々から最

後の人々に至るまで——すべての人々に、私は父として、裁き主として、そして師として語りかけてきたのである。

26. 初期の時代から、すでに先祖たちや預言者たちはメシアの到来について語り始めていた。しかし、メシアはただ霊として来たのではなく——女性から生まれ、人間となり、女性から肉体を受け取るために来たのである。

神の母なる霊もまた、人間となり、女性となり、清らかさの花として現れなければならなかった。そうしてこそ、その花冠から、イエスそのものである神の「御言葉」の香りが漂い出るのだ。

27. その女性が処女の年齢に達したとき、彼女は婚約した。父なる神は、彼女に使命を告げるために天使を遣わした。しかし、天使は彼女をどのように見つけたのか、婚約した処女をどのように驚かせたのか。それは、彼女が祈っているところだった。そして、彼女がすでにその準備ができていたのを見て、天使は彼女にこう言った。「おめでとう、マリアよ。あなたは神の恵みを受けた者である。恐れることはない。あなたの胎は、ヤコブの家に君臨する御方を宿すことになる。その御方の支配には終わりがない。」

28. マリアは、この世のどの王よりも力強く、偉大な王を身ごもることを知っていました。しかし、それゆえに、彼女は自らを人間界の女王と称したでしょうか？

29. 彼女は広場や通り、質素な小屋や宮殿で、自分がメシアの母となること、父の「独り子」が自分の胎から生まれることを、口にして告げたでしょうか。決してそうではありません、わが民よ。彼女の中には、この上ない謙遜と柔和さと恵みが満ちており、その約束は成就したのです。 人間の母としての彼女の心は喜びに満たされ、出産する前から——その時から、そしてその後、息子の生涯を通じて——彼女は最も愛情深い母であり、イエスの定め、彼が人間の中で果たすべき使命、そして彼が何のために来たのかを知っていた。彼女は決してその定めに逆らうことはなかった。なぜなら、彼女自身もその業に参与していたからである。

30. 時折彼女が涙を流したとしても、それは人間としての母の涙であり、息子、すなわち彼女自身の肉体に宿る痛みを、肉体という性質が感じ取ったからに他なりません。

しかし、彼女は師である息子イエスの*弟子*だったのだろうか？いいえ。マリアはイエスから何も学ぶ必要はなかった。彼女は父そのものの中にあり、ただその美しくも困難な使命を果たすために受肉したに過ぎなかったのだ。

その卓越した母の心は、ただ最愛の息子を愛することにのみ限定されていたのだろうか？決してそうではない。その小さな人間の心を通して、母なる心は、慰めや崇高な言葉、助言や善行、奇跡、光、そして真理として現れていたのだ。

彼女は決して自己顕示をせず、師の言葉をかみ砕くこともありませんでした。しかし、彼女がゆりかごの役割を果たした飼い葉桶の足元にいたのと同様に、彼女はまた、息子であり、師であり、全被造物の父である方が死に、人間としての最後の息を引き取った十字架の足元にもいたのです。

31. こうして彼女は、人間の母としての使命を果たし、すべての母たち、そしてすべての人々に崇高な模範を示した。 そして、彼女が人類から敬われ、愛され、その模範が人々の心から消え去ることのないよう、十字架上で血を流しておられた師は、十字架上の七つの言葉の一つを母に捧げ、「母よ、これがあなたの息子です！」と告げ、その瞬間、主の使徒ヨハネであった息子に向かって、「息子よ、これがあなたの母です！」と語られた。

32. それによって、主はヨハネを人類の代表として残し、人々の心の中に、普遍的な母に対する愛と敬意の聖域を築こうとされたのである。

33. 使徒ヨハネは、その母性を自分だけのものとしたのだろうか？　いいえ、実に彼は、自分の仲間たち、すなわち戦いと教えにおいて共に歩んだ同志たち、他の弟子たちのところへ行き、「主は亡くなる前にこうおっしゃいました」と告げた。そして弟子たちは、マリアが永遠の御国へと引き上げられるまで、彼女のそばに留まったのである。

34. ペンテコステの日、すなわち、人々が太古の昔から過越の祭として祝ってきたその祭りの日、弟子たちは集まっており、その真ん中にはマリアがおられた。そして、白い鳩に象徴される聖霊が近づき、その光で彼女を包み込み、恵みで満たした。

35. 弟子たちはマリアに対して、最も深い敬意と愛を抱いていた。そして、あの種を蒔く者たち、すなわち魂の医者たちが、救い主の母であるマリアに対して人間としての敬意を抱いていたのだから――それならば、彼女に続く後の世代が、なぜその敬意を抱かないというのか。 わたしはあなたがたに、マリアは永遠であると告げた。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが彼女に心を向けるならば、あなたがたのうちの多くの者が彼女を見出すであろう。

36. 私の弟子ヨハネが、パトモス島の孤独な隠れ家にいたとき、彼は来るべき時代の偉大な啓示を受け取り、霊的に高き来世へと入り込み、象徴に包まれ、様々な姿によって表された主の偉大な神秘を目撃した。そこで彼は、マリアの姿もまた見たのである。

父なる神によって、来るべき時代の人々のためにヨハネに託されたこの偉大な啓示の中で、彼は大きなしるしとして、太陽を身にまとい、足元に月を置き、額には十二の星を冠した一人の女性を見た。その女性は出産の陣痛に苦しんでおり、その痛みが最も激しくなったとき、ヨハネは、彼女を襲い、子供が生まれるのを待ち構えてそれを飲み込もうとしている、竜の姿をした悪を見ました。

しかし、主はあなたがたにこう言われる。このヨハネに父から与えられた啓示は来るべき時代について語っていたのだから、わたしはあなたがたにこう告げる。彼は「第三の時代」において、マリアがマリアの民をこの世に生み出す直前の姿と、主の民を待ち伏せている悪を見たのである。

ヨハネはまた、誕生の瞬間に、人間の悪を体現する竜に対して天使たちによる大いなる戦いが勃発したことも見た——その戦いは、今まさにあなたがたの間で繰り広げられている。なぜなら、マリアの民はすでに生まれ、地表に現れ、今日、大いなる最終決戦に臨むために、愛の盾と剣を授かっているからである。

37. 愛する民よ、この啓示はまさにこれを意味するのだ！それゆえ、父はこの日、あなたにこう告げられた。「マリアを知る者たちは、彼女の真の姿を知らない。彼らは彼女を単なる女性としてのみ見、人間としての母としてのみ捉え、彼女の周囲に崇拝、儀式、祭典、そして熱狂を生み出してきたのだ。」 この偶像崇拝によって、彼らは主の律法の成就、師の言葉、そして互いへの愛を忘れてしまった。

38. 父は、世界がこのような形でマリアを知ることを望んでおられないし、わたしもまた、人々がこのような形で彼女を愛することを望んでいない。マリアは単なる女性ではない。わたしはすでにあなたがたに語った通り、マリアは神性の中に存在し、すべての被造物の中に現れている母性そのものである。

39. もしあなたがたが、夜の孤独の中、何ものにも邪魔されない静寂の中、あの宇宙の中で彼女を求めれば、その御姿に出会うでしょう。また、花の香りの中で彼女を求めれば、やはり彼女に出会うでしょう。そして、あなたがたの母の心の中で彼女を求めれば、彼女を見出すでしょう。 もしあなたがたが、処女の清らかさの中で彼女に出会いたいと願うなら、そこでも彼女を見出すでしょう。そし

て、神の中に存在し、そのすべての被造物の中に遍在する「永遠の女性性」が映し出されている、数え切れないほどの作品の中にも、彼女を見出すのです。

40. もしあなたがたが、使命の遂行や教えの説教という道に身を投じれば、マリアの愛の本質とその御名が侵入しないよう、閉ざされた扉を作り上げた者たち、すなわち、心硬き者たちと衝突することになるだろう。

多くの人々にとって、その本質は存在しないのです。それでは、おお、民よ、あなたはどうするつもりですか？ 暴力を行使して、その壁や扉を打ち壊し、マリアの教えをその人々や民族の中に浸透させようとするのですか？ いいえ。 私はあなたがたに、ただ私の業を体現し、私の教えを示すだけでよいと告げたが、それには、多くの頑なな者たちが改心し、「まことに、普遍の母の真髄は全地球を満たしており、この教えは明快で理解しやすい」と言うほどに、魂を込めて、 心を込めて、誠実に語らなければならない。 それは、飲むよう誘うが、それを利用することを強要しない、命の泉のようだ。」

41. まことに、あなたがたに告げる。もしそうなっていたならば、私はとっくの昔に、私の力によってすべての魂を呼び寄せ、この水に浸し、それを飲ませ、あなたがた全員が定められている目的地へと導いていたであろう。しかし、あなたがたは私を通してだけでなく、自分自身を通しても、私のもとへ至らなければならない。

それゆえ、わたしはあなたがたに霊、意志、知性、能力、そして感覚を与えたのである。それゆえ、わたしはあなたがたにわたしの律法を啓示し、必要な時間を与え、あなたがたの魂を、その発展、進歩、そして救済への道へと導いたのである。 私は、あなたがたの心と言葉が、人々の間で尽きることのない泉のようになり、あなたがたの声が、あなたがたが広めるべき私の言葉を飲むよう、謙虚に招きかけることを望んでいる。

42. この水が水晶のように澄み渡り、私があなたがたに託した通り、何一つ濁りがないならば——まことに、あなたがたに告げる。その時、人々はそこで健康と救いを見出すであろう。 人々は声を張り上げて叫び、あなたがたのもとでわたしの真理を見出したと告白するだろう。これこそが第三の時代におけるイスラエルの責任であり、霊性・三位一体・マリア主義の民に課せられた重荷である。

43. あなたがたの穏やかで謙虚な歩みは、宗教共同体を揺るがし、その土台と原則を揺るがすだろう。常にわたしのものとなるあなたがたの言葉は、偽りの聖所を打ち倒し、そこから石一つ残らず崩

れ去るだろう。 それは偶像を倒し、神の崇拝の周りで、またマリアとその名のもとに作り出されたあらゆる偶像崇拝を、それが最大の誇張に至るまで一掃するだろう。これらすべては、私があなたがたの中に置き、これからも置き続ける聖霊の御言葉の炎によって焼き尽くされ、消え去らなければならない。

44. このわたしの言葉が、声の媒体を通じて語られることをやめた後、わたしは、過越の祭りに集まった「第二の時代」の弟子たちのように、あなたがたに出会うであろう。そして、わたしの聖霊が豊かに臨み、聖霊と人間の霊との完全な対話への先駆者である、この「第三の時代」の先駆者であるあなたがたに、霊から霊へと結びついて臨むであろう。

45. その時、父はあなたがたに何を啓示されるだろうか。それは、私が人間の知性という器官を通じてあなたがたに語らなかったことである。しかし、あなたがたは真の奉献と霊化を持たなければならないことを悟りなさい——この準備を成し遂げるためには、狂信や物質主義の痕跡をすべて取り除かなければならないことを悟りなさい。

この偉大な備えを、どのようにして達成するのか。今日の学びを通じて、その後の成長を通じて、そしてやがてはあなたがたの真の愛を通じてである。なぜなら、わたしの言葉は終わっていないからだ。 私の言葉は1950年で終わることはない。私の啓示は続いていく。しかし、もはや代弁者を通じてではなく、この種の啓示の形式でもなくなる。なぜなら、1950年以降、あなた方の恍惚状態はますます完成されていくからである。あなた方の霊的な高揚はさらに大きくなり、私の啓示はもはや霊を通じてのみ行われるようになる。

46. 私の「声の媒体」であった者たちは、長い道のりを歩んできた。私の光線を頻繁に受け取ってきた者たちは、さらに成長し、偉大な霊感や啓示を伝えていくことになるだろう。私の神聖な光線を数回しか受け取っておらず、私の言葉もめったに与えられなかった者たちにとっては、その時の私の霊感は大きく、非常に大きなものとなるだろう。 彼らは、自らの成長や、この道における歩みを妨げてはならない。なぜなら、この啓示の時代に人間の知性によって得られなかったものは、その時には霊から霊へと受け取ることができるようになり、そうして彼らの魂には喜びと感謝が満ちるからである。

47. しかし、わたしは、聖別された代弁者たちを通じてのみ、栄光のうちに御自身を現すわけではない。賜物を持つ者たちの上にも、わたしの神聖な御霊が輝かしく照り輝くであろう。彼らに対する

この恵みは決して少なくなることはなく、すべての人にとって等しいものである。 私の霊的世界も同様に輝きを放ち、その流れるような光線は、インスピレーションや思考へと変容して、主の弟子たちの上に注がれる。そうして、これらの光の存在たちが、この惑星の生き物たちに引き続き御自身を現すことができるようにするためである。それは、教会の指導者たち、「礎石」たち、予言者たち、そして「黄金の筆」たち、印を授かった者たち、そして印を授かっていない者たちを通じて、 象徴的な「印」の儀式を経験した者たち、そして、自分たちは私の民の一員となるには役立たずだと考えているすべての者たちを通じて。

「最初」の者たちと「最後」の者たちの上に、聖霊が注ぐ火の舌が臨む。そうして、明日——ごく近い「明日」——に、 すべての人々に告げ知らせるため——あなたがたに近づきつつあるその夜明けに、あなたがたは私の言葉を 、自分の言語を話す人々だけでなく、今日まだ知らない言語を話す人々にも伝えることができるようになるのだ。

48. あなた方は、彼らとどのように意思疎通を図ることができるでしょうか。それは、あなた方の善意、努力、熱意、そして愛によってです。「私はあなた方を支える」と、父は告げておられます。「私はあなた方の間で奇跡を行うでしょう。」 私は、あなたがたの中から、またあなたがたの教会から、私の御心によって備えられた先駆者たち、使者たちが現れるよう導く。彼らは他の言語を習得し、神の第三のメッセージである福音を、他の民族、他の人々、他の人種に伝えるのである。 このようにして、物質的な面において時を経て人の手によって破壊されてきたバベルの塔は、霊的な面においても次第に破壊されていくでしょう。 その上に、聖霊の塔、すなわち真の教会、真の礼拝の場、そして聖所が聳え立つでしょう。そこでは、すべての人が互いに手を結び、すべての言語が融合し、すべての民族と性別が父の愛の中で一つとなるのです。

49. 今朝、この恵みの朝、あなたがたは数多くの集会所において、しかしそれらは一つの民を成すものとして、わたしの御言葉を受け取った。主はあなたがたに、世界のための執り成し、憐れみ、そして祈りを求めている。 あなたがたの心からあらゆる不和や偏見を取り除き、霊的に互いに近づき、霊的に強い民を形成しなさい。そして、その霊的な力が人々に寄り添うようにしなさい。

なぜ、あなたがたは未だに、魂の中で、また思考をもって、大きな奇跡を成し遂げることができていないのか。なぜ、私があなたが

たに啓示した「祈り」という武器は、この時代にまだ栄光をもって現れていないのか。

50. 民よ、あなたがたの備えの欠如――あなたがたの一致の欠如によって、あなたがたは、常に待ち伏せている誘惑という猛禽が、あなたがたの中に侵入し、あなたがたを分裂させ、弱体化させることを許してしまった。それは、あなたがたを決して一つにさせなかった、誘惑の狡猾な策略である。

私の愛の言葉は常にあなた方と共にあったにもかかわらず、あなた方の心は依然として邪悪な囁きに傾き、依然として、迷いの光の偽りと欺瞞に惑わされ続けている。 しかし、民よ、警戒せよ。目を覚ませ、霊性主義者たち、三位一体・マリア信奉の弟子たちよ。そうして、あなたがた自身のためのこの準備の時――今まさに再び苦難の杯を飲み干している人類にとってのこの試練の時――において、 あなたがたの力の証しを示すことができるように――多くの武器ではなく、ただ一本の光の剣を手に取り、 それをもって誘惑の縄、隷属の鎖を断ち切り、壁を打ち壊し、扉を開き、魂たちを解放し、第三の時代の光へと突き進ませることができるように。

51. 人々よ、君たちは思考の力と祈りによって、これを成し遂げることができる。しかし、それは私が今、君たちに吹き込んでいる真の愛から湧き出なければならない。 団結し、互いを認め合い、赦し合い、愛し合いなさい。そうすれば、あなたがたは地球の至る所で奇跡を目撃し、私が語っているあの深淵へと猛スピードで突き進んでいる人類が、まもなく転落を経験し、「ここまでで、これ以上は進めない」という境地――すなわち、憎しみ、物質主義、肉欲、そして快楽における魂の倦怠感、嫌悪感、 憎しみ、物質主義、肉欲、そして快楽の中に魂が疲れ果てること」を意味する「ここまでで、これ以上は無理」という境地を、やがて味わうことになるでしょう。そうして、あなたがたは彼らに兄弟の手を差し伸べ、愛情を込めて触れ、目覚めさせ、こう告げるのです：

52.「見よ、もはや傲慢の宮殿など存在しない。支配者たちは玉座を去り、貪欲な富豪たちは姿を消し、戦争の武器はもはやその口から死を吐き出さない。軍司令官も兵士たちも打ち負かされた。顔を上げ、地平線に輝く新しい日の光、新しい人生を照らす新たな夜明けを見よ。」

53. 今、私はあなたがたの祈りの中で、あなたがたの魂を受け入れている。私はその中に感謝を見出したい。それゆえ、私は再びこの世に現れ、さまざまな形で人類に私の霊を注ぎたいと思う。あな

たがたの仲介なしでもそれは可能だが、その仲介を通じて、私は私の慈悲を示したいのだ。

54. こうして、この恵みの朝、私はあなた方をこうして送り出す。隣人への愛と慈悲に高められた状態で——霊的に高められた状態で、あなた方が自らの存在の中で、父の祝福を感じられるように。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 361

1. 私は、祈りを捧げているあなた方に出会い、私の霊はあなた方の内に宿る。私はあなた方の愛と信仰によって養われている。私はあなた方の実を味わい、それらは私に喜ばしいものである。それゆえ、私はあなた方を祝福し、平安を与える。

2. あなたがたの魂は、さまざまな形でわたしによって試されてきました。しかし、苦しみのある瞬間を経験したとき、あなたがたは立ち上がり、わたしがあなたがたを見捨てたのかと問いかけるのです。そして、すぐにあなたがたはわたしの元へとたどり着いたのです。まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは一人ではありません。そして、あなたがたの信仰こそが、この時代の苦難と大きな試練を乗り越えさせてくれたのです。

3. わたしを探して遠くまで旅をしてきたあなたがたは、ついにわたしを見つけました。そして、わたしの言葉を聞いたとき、あなたがたの疑いは晴れ、願いに対する明確な答えを得たのです。 至る所で、あなたがたは私の御霊を求める祈りや呼びかけを耳にしてきた。たとえあなたがたが私を呼び求めなかったとしても、私が約束した通り、私はあなたがたのところへやって来たであろう。なぜなら、私はあなたがたに、この苦痛の日々において、あなたがたの苦難に寄り添うと告げていたからである。

4. 私は、あなたがたに、これから起こることを予感し、あらゆる霊的な現れに対して警戒心を持ち、私の言葉の成就を認識できるよう、感受性を与えました。

5. わたしは、かつて語ったのと同じ愛と知恵をもって、今、あなたがたに語りかけている。そして、過去の言葉を再確認し、預言が成就していることを証明する。

6. ヨハネは、その偉大な啓示の中で、この時代に私の霊がどのように現れるか、また第六の封印が解かれる際に『知恵の書』がどのように魂を照らすかを目撃した。彼は、人間たちの間の大きな戦いや、彼らの苦難を見た。彼は、その書が封印されていたが、やがて「汚れなき小羊」によって開かれるのを見た。 そして、あなたがたには、この書のページを一つひとつ、あなたがたの霊のために示してきた。そこには、私が時の初めからすでにあなたがたに与えた律法が記されている。

7. わたしの業を吟味し、初めから終わりまで深く探求しなさい。過去のすべてを思い起こし、それをこの啓示と結びつけ、そうしてすべてがあなたがたの魂の中で生き生きと息づくようにしなさい。

私は、人々の物質的な生活のために律法と掟を定め、道徳的および霊的な生活のための教えを与えた。私はあなた方を霊の領域へと移し、あなた方はこの故郷の平安と 至福を深く味わった。それは、あなた方がそれを完全に知り、私の律法に対する知識を得るためである。

8. 高い理想のために生きなさい。そして、魂がその使命を果たす中で、生きる勇気と活力を取り戻せるようにしなさい。 人生の道において平和を広め、私があなた方に教えたその祈りをもって人々に祈るよう招き、彼らが再び創造主にふさわしい存在だと感じられるようにしなさい。彼らの心――それは処女の畑であり、私の教えにとって肥沃な土地である――を育みなさい。

9. 人類の幸福のために働きながら、私の教えに従うとき、あなたの魂は強まり、喜びも苦しみも味わい、信仰と愛の真価を悟ることになるでしょう。そのとき、闘いの中で、さまざまな信仰の告白に惑わされてはなりません。 私の教えは、あらゆる宗教や宗派を超越している。私の愛の表現である私の言葉を伝え、それを同胞と戦うための武器として用いてはならない。なぜなら、それは誰をも侮辱せず、傷つけず、ただ魂のための命そのものだからである。

10. 私があなたがたに授けるエッセンスを宿せるよう、器の内側も外側も清めなさい。 あなた方の使命は偉大である。勝利を収めるためには、協力し合わなければならない。あらゆる民族と交わり、あらゆる人種と融合し、すべての人々に私の平和のメッセージを伝えよ。その後、私はあなた方を「谷」へと導く。そこでは、あなた方は皆平等となり、人間の苦しみや利己主義は消え去り、ただ霊的存在となるのだ。

11. あなたがたは、まだしばらくの間、互いの不和を償い続けなければならないことを、私は知っている。しかし、いつの日か、自らの弱さに嫌気がさし、互いに歩み寄り、一致と調和によって強くなる日が来るだろう。

12. 私はあなたがたを清らかな存在にしたい。それゆえ、今、あなたがたは苦しみの中で自らを浄化し、魂に本来の清らかさと美徳を取り戻そうとしているのだ。今あなたがたが耐えている試練は、あなたがたを死に至らせるものではない。それらはただ、あなたがたを深い眠りから目覚めさせ、魂の完全性を追求させるためのものなのだ。

13. これまで、あなたがたは自らの行いによってその価値を証明できてはいなかったが、この民の謙遜、忍耐、愛、そして信仰が正当に称賛される日が来るだろう。 その時、多くの人々は、あなたが

たの中にこれらの美徳を見いだすと、あなたがたに名前や称号を与えようとしたり、頭に冠を戴かせようとしたりするでしょう。しかし、その時には、あなたがたはイエスを思い出し、謙虚に身を隠すことになるでしょう。私があなたがたに言ったように、あなたがたの王国はこの世にはありません。

14. もしあなたがたが人々の心を勝ち取りたいと願うなら、真実をもって、最大限の真実をもって語りなさい。あなたがたの言葉と行いに信頼が置かれるよう、最も謙虚な者たちの間で謙虚でありなさい。

15. 人類の道徳的・霊的な廃墟の中から、あなたがたの働きが姿を現すのを見るとき、わたしの霊はどれほど喜ぶことか。あなたがたの働きはすでに始まっている。癒やされた病人たち――信仰を持たなかった者たちが信仰に生まれ変わった姿――そして新たに生まれ変わった罪人たちを見よ。あなたがたの働きはまだ小さいが、わたしはそれを良しとし、その実を何倍にも増やす。

16. イスラエルよ。主は愛と憐れみに満ちて、あなたと共にいる。わたしがあなたたちに示した道において、わたしは常に、わたしの愛の証しを与えてきた。

17. わたしの「神の御言葉」は民に語りかけ、この「御言葉」は、父があなたがたに送ってくださるものであり、それによって、わたしがあなたがたの手にお委ねした働きを知ることができるのです。

18. わたしは、あなたがたの手本として、わたしの使徒たちを示している。それゆえ、この時、あなたがたが肉体を制することができるように、わたしはあなたがたの魂に自らを注ぎ込んでいる。わたしは堅い岩に触れ、そこから水晶のように澄んだ水が湧き出るようにしたのだ。

19. あなたがたは、すでに使命の成就の終わりに達したとは考えないでください。また、1950年以降も、私が人間の知性という器官を通して語り続けるとは思わないでください。私があなたがたに語ったことはすべて成就し、また成就するでしょう、愛する民よ。

20. 第三の時代において、あなたがたの魂は転生するために遣わされた。それは、この時代にわたしの神聖な御霊の臨在を活用し、使命を果たす新たな機会を得るためである。

21. 私は、あなた方への大きな愛ゆえにあなた方のそばにいて、あなた方が弱くなるのを見たくないからこそ、あなた方に力を与えているのです。

22. わたしは恵みと愛の源である。その恵みを飲み干し、あなたがたの心と魂に命を与えなさい。物質主義から離れ、わたしがあなたがたに与えた使命の偉大さを理解できるようにしなさい。

23. 愛する民よ。もしあなたがたの心が痛みで満たされているなら、私のところに来なさい。私はあなたがたの苦しみを喜びへと変え、心身ともに強め、あなたがたが満足と希望に満ちてその道を歩み続けられるようにする。

24. 私は、自らの痛みを私に訴えようと群れをなして訪れる人々を受け入れている。私は静寂の中で彼らの声に耳を傾けている。彼らは様々な宗派や教会から、このささやかな集いの場へとやって来て、私の言葉を に聞き、魂と心の中に私の平和と希望のメッセージを受け取ろうとしているのだ。

25. 彼らがこの木にたどり着くと、その木陰の涼しさを感じ、そこで休息をとることになる。そして、私のナイチンゲールのさえずりを耳にすると、喜びを感じる。そうして、彼らは私の臨在と、この木の実の甘美さを感じるのだ。

26. 聖書には、この「第三の時代」に、私が御霊として来られ、大きな鐘のように人類に呼びかけ、慰めとパンと霊的な水を授けると記されている。 わたしは、わが子らの心と魂の中に、わたしの教会を築いた。この教会の荘厳さと静寂の中で、あなたがたはわたしの臨在を感じ、そこで、あなたがたが瞑想や祈りの中でわたしに託したものを、受け取ることになるだろう。この教会の内側で、あなたがたは聖霊の光によって照らされていると感じるだろう。

27. 私はこの時代において、私の選民である十二部族を準備した。それは、すべての国々が彼らの仲介を通じて光を受け取れるようにするためである――トランペットの響きとともに、彼らが眠っている者たちを目覚めさせ、彼らが天に目を上げ、霊の目をもって私を見ることができるようにするためである。

28. 人類は方向を見失っているが、私は聖霊の光によって彼らを導き、彼らが私の言葉の真意を悟ることができるようにするために来たのである。

29. 時が経つにつれ、私の弟子たちが残した書物は人々によって改変されてきた。それゆえ、宗派間の不和が生じている。しかし、私は人類を唯一の光と唯一の意志の下に結集させるために、私の教えのすべてを解き明かすつもりである。

30. 1950年もまもなく終わろうとしている。しかし、わたしはあなたがたに詳細な教えを残した。あなたがたはこれを新しい世代に伝え、彼らが魂の平安と命を見出せるようにしなければならない。

31. 私は『第三の聖書』をあなた方の手に託す。それをもって、人類に福音を伝えよ。

32. あなたがたの心は、もはやこの形ではわたしを聞くことができなくなったときに感じるであろう郷愁を、すでに予感している。それゆえ、わたしはあなたがたにこう告げたのだ。「わたしの教えを実践し、明日立ち上がって、わたしが依然として彼らの知性を通じて語りかけていると欺瞞的に主張する者たちに惑わされてはならない。」

33. あなたがたは、わたしが御言葉の中であなたがたに語ったすべてのことが成就したことを目撃している。しかし、わたしの民の間に不従順が生じないよう、 警戒して生きなければならない。あなたがたは、弱く、まだわたしの教えを理解していない者たちの痛みを感じるだろう。しかし、あなたがたは彼らにわたしの真理を説明し、わたしの御言葉によって彼らを導くのだ。 わたしは、備えの整った者たちを通して自らを現し、また「最後の者たち」を通しても、光と霊感として自らを注ぎ出すであろう。

34. わたしは人類を見捨てたりはしない。迷い出た者たちを救い、この形でわたしの言葉を聞いたことのない者たちを、わたしの食卓へと招く。エリヤは引き続き群衆を一つにまとめ、あなたがたが彼らに、わたしの言葉が記された書物を示すことができるようにする。あなたがたを媒介として、わたしは眠っている魂たちを目覚めさせ、彼らから偶像崇拝を取り除く。 しかし、もしあなたがたが人類に語りかける準備ができていないならば、石が語り出すだろう。そして、あなたがたは、最も無学な者が私の真の弟子となり、私の真理を語るのを目撃することになるだろう。

35. あなたがたは、私の業を歪めることなく、人類に福音を伝えなければならない。また、あなたがたの師のように謙虚であり、周囲の人々の注目を集めるために豪華な衣を身にまとってはならない。

36. 明日、あなたがたは私の教えを歪めてはならない。私があなたがたに託したものだけを教えなさい。私は、あなたがたが人類の指導者であり使徒となるために、豊かな教えを与えた。もしあなたがたが、もはや声の媒体を通して私の言葉を聞くことができなくなっても、互いに支え合い、愛し合い、そうして道中で生じる問題を解決できるようにしなさい。

37. あなたがたは、人類があなたがたを通じてわたしを認識できるよう、わたしが今、一つにまとめている民である。 私は至高の慈悲そのものであり、あなたがたに最高の糧を与えてきた。あなたが

たが直面する戦いは壮大なものである。それゆえ、私は愛を込めてあなたがたに語りかける。私の業に起因するとあなたがたが誤解している誤りを取り除き、時が来れば、あなたがたが世の光となれるようにするためである。

38. 霊的な軍勢があなたがたの魂を取り囲んでおり、彼らは戦いに臨む準備ができている。なぜなら、あなたがたはこの世界観をめぐる戦いにおいて、決して独りではないからだ。私の霊界もまた、あなたがたと共にいる。これらの霊的存在たちは、あなたがたが人類の前にそのように現れることができるよう、平和と調和をあなたがたに吹き込むのである。

39. あなたがたの戦いは壮大なものとなるだろう。 あなたがたは従順の模範を示し、心の中に師の律法を掲げなければならない。あなたがたは人々を励ますだろうが、わが普遍の光はもはや現れず、またわが霊界も、あなたがたの 知性を通じて現れることはない。それでもなお、師はより高次の形で教えを与え、聖霊として力と祝福と慈悲を授けるであろう。

40. 1950年の終わりが近づいているが、眠りについた人類は、わたしを感じ取ってはいない。しかし、わたしは彼らを揺さぶり、わたしを見上げさせるつもりである。

41. これらの出来事はいつ起こるのか。その時は近い。私が人間の知性という器官を通じて行う啓示の終わりが、まもなく訪れる。この最後の数日間、準備を整えることができた伝達者たちを通じて、私はあなたがたに、偉大かつ明確な教えと、愛に満ちた使命を与えた。それは、あなたがたがもはやこの形で私の言葉を聞くことができなくなった後も、それらを実行できるようにするためである。

42. 私はあなたがたの前で私の知恵の書を開き、あなたがたがどのように使命を果たすべきか、どのように私の道を歩むべきかを教え導いてきた。私はあなたがたに危険を指摘し、障害を乗り越え、障壁を打ち破る力を与えた。

43. 私がこの形であなたたちに語りかけることをやめる前に、明日、あなたがたが新しい弟子たちに私の教えを説く師となるよう、準備をしておかなければならない。

44. もしあなたがたがこの教えを奪われたと感じるなら、その責任を私に負わせてはならない。なぜなら、私はあなたがたの魂のための永遠の命の糧である私の言葉を、あふれんばかりに与えてきたからだ。

45. 私は、私の教えを完全な形であなた方に与えました。しかし、もしあなたがたが、その教えに本来属さないものを何か加えるな

らば、あなた方の良心が、人類が明日、私の完全な教えのみを受け取れるようにするために、何を排除すべきかを告げてくれるでしょう。

46. 人類にこう告げなさい。全能の神である私は、常にあなたがたと共にあったのだと。あなたがたに欠けるものは何一つなかった。なぜなら、私はあなたがたの魂を、発展のあらゆる段階において、恵みと力であふれさせてきたからである。

47. 人よ、あなたは私の神聖な光の前で、私を愛すると誓った。しかし、あなたがたは自分自身を知らず、自らの目的や理想が何であるかも理解していないため、その物質主義こそが、常に霊の使命を果たす上での障害となってきた。それでも、私の慈悲は、あなたがたをこの試練の中で一つにまとめ、私の愛の炎を感じさせ、私の聖霊の平安を悟らせるためであった。

48. わたしは与える者である。あなたがたがわたしに求める以上のものを、わたしは与えることができる。わたしは肉体の苦しみを知り、魂を知り、あなたがたの苦難と悩みを知っている。

49. ルカ、マルコ、ヨハネ、そしてマタイは、わたしの御心によって選ばれた。 私はすべての魂に一つの使命、一つの責任を与え、彼らは粘り強さと断固たる決意、そして愛をもって私の教えを広め、第二の時代の聖書を作り上げました。そして、彼らと同様に、私は今日、あなたがたの魂を目覚めさせ、この時代を認識し、私の神性に対して誓った誓いを感じ、理解し、その使命の成就に取り掛かることができるようにするのです。

50. イエスは神の力を証しされた。なぜなら、イエスの中には、世界が神を知るために地上に現れた神ご自身が宿っていたからである。言葉と愛と真実と光をもって民に身を捧げられたのは、父ご自身であった。

51. 黄金の記憶の書に記されていることは、成就し、実現する。時が経つにつれて、すべてが成就するだろう。

52. イスラエルよ。わたしは、この時代だけにとどまらず、以前からあなたがたに語りかけてきた。しかし、あなたがたの魂は束縛されており、第一の時代、第二の時代、そして今日の第三の時代に、わたしが与えたものを活用してこなかった。それなのに、今、あなたがたは主から何を期待しているのか。あなたがたの決断と願いとは何なのか。

今、私は神の御言葉が注がれる中で、あなたがたに語りかけている。 しかし、私は、声の媒体を通じて自らを現すという形で、あなたがたに私に従うためのさらなる時間を与えるつもりはない。もし

魂が反抗し、肉体が私の戒めに従うことを拒むならば、あなたがたは私の前で詳細に説明責任を問われることになるだろう。なぜなら、私は裁き主として呼びかけを行い、あなたがたの運命の書に記されていることを理解させるからである。

魂が一度、至高の裁き手の御前に立つとき、その過ちを悟り、悔恨の念に満ちて、償いのためのさらなる時間、すなわち新たな転生を私に懇願することになるだろう。

53. 私はあなたがたの魂だけでなく、あなたがたの肉体にも語りかけてきた。魂がその使命を果たせるよう、私はその肉体に、さらなる命と力と慈悲を授けてきたのである。

54. 私は神聖な御言葉を愛を込めて注ぎ出し、私の霊と、最も慈愛に満ちた父の心があなた方のために用意していたすべてのものを授けてきた。あなた方は、私の神性において最も尊い存在である。

55. あなたがたは、声の媒体という知性の器官を通じた私の啓示の終わりに立っている。しかし、たとえあなたがたがもはや私の教えを耳にすることがなくなっても、私は引き続きあなたがたを導き続ける。なぜなら、もし私があなたがたをパンも水もない砂漠に見捨ててしまうようなことがあれば、私はもはや父とは言えないからだ。

56. 私の教えによって備えを固め、私の言葉を通してあなたがたの心に与えたものを深く学びなさい。

57. 私の光の波動を受け入れられるよう、あなたの脳を準備しなさい。大自然の力を食い止めることができるよう、あなたの賜物を開花させなさい。なぜなら、人類には大災害が降りかかるからである。

58. 私の最も慈愛に満ちた父の心は、最後の一人までもが魂の中で私の神聖な愛の温もりを感じられるように、開かれている。私は開かれた書物であり、真理であり、法である。

59. 私は人類に、私の霊の教え、愛の教え、調和の教えを与えた。私があなた方に教えを与えたのは、この時代だけではない。私の神聖な霊があなた方の魂をこの地上に委ねた最初の瞬間から、私は選ばれた者たちを通してあなた方に語りかけてきた。そして、私は決してあなた方を闇や狂信、あるいは偶像崇拝へと導いたことはない。 なぜなら、これらの行いは私の目に好ましくないからである。それらは、あなたがたの魂を光や私の愛から遠ざけ、魂を鈍らせ、救いの時を遅らせ、あなたがたに大きな苦痛をもたらすからである。

60. 人々がわたしを認識し、理解し、その心でわたしを感じ取るためには、どうすればよいのか。魂が、物質主義に縛りつけている鎖を断ち切るためには、どうすればよいのか。それは、あなた方にさらなる時間を与え、選民であるイスラエルの民の魂たちに呼びかけ、彼らが良き兵士および働き手として人類の先頭に立ち、近づきつつある戦いの指導者となるようにすることである。

61. 神聖なる師は、人間の脳を通じて御自身を現すために降りてくるが、あなたがたの心の奥底でわたしを探しなさい。わたしはそこにいるのだ。

62. 民よ、深い瞑想に身を委ねなさい。目を閉じ、霊的な視線で、私の臨在を物語る証しを渇望して、あなた方の元へと近づいてくる人々の群れを見ようとしてみなさい。

63. あなたがたは、憐れみに満ちた心で彼らを迎えなければならないことを忘れるな。なぜなら、あなたがたが私への渇望を抱いて、その渇きを癒やすためにここへやって来たのと同じように、愛に飢え、渇く者たちがやって来るからだ。

64. 準備もせずに、偉大な業を成し遂げようと企ててはならない。より深い霊性を得るよう努めなさい。そうすれば、一言、一祈り、あるいは一つの愛の行いが、あなたがたが虚栄心から成し遂げようとしたかもしれないものよりも、はるかに大きな奇跡をもたらすことができるだろう。

65. 憐れみ、そしてまた憐れみ——それこそが、私があなたがたの中に呼び起こしたものである。憐れみとは、私が教えを通じて最も強く育んできた感情である。なぜなら、憐れみとは愛と知恵の表れだからである。 まことに、あなたがたに告げる。これからやって来る隣人たちを慈悲をもって迎え入れる準備をすれば、あなたがたは彼らを最高の歓迎をもって迎え、私の真理についてあなたがたができる最も雄弁な証しを示すことになるだろう。この愛の証しに対して、抵抗する者はごくわずかである。

しかし、もしあなたがたが他の手段で彼らに私のメッセージを理解させようとするならば、多くの苦労を強いられることになるでしょう。なぜなら、この世は言葉や教え、哲学にはもううんざりしているからです。この世が恐怖に満ちて渇望し、死に至るまで渇いているのは、愛なのです。 それゆえ、私はあなた方のために繰り返します。たとえ小さなものであっても、誠実で、心から湧き出る、真実な慈悲の行いは、中身も真実もない美しい言葉による千の説教や対話よりも、はるかに大きな力を発揮するでしょう。それは、世界

の人々が日々耳にしているものの、その言葉が実践に移されることのないようなものと同じです。

66. あなたがたが語るべきことについて、さらに準備を整えなさい。たとえあなたがたの雄弁さが助けとなり、聖書が記憶の杖や支えとなるとしても。しかし、あなたの魂が具現化し、あなたの存在の最も深いところから湧き出るものが、あなたの蒔く種の中で最も実り多いものとなることを忘れてはならない――それこそが、あなたが隣人に最大の恩恵をもたらすものであり、同時に、報いを受ける時が来たときに、あなたが最大の幸福を得るものとなるのだ。

67. 愛する民よ、わたしのもとに来なさい。思考と良心を一つにし、わたしの平安を感じなさい。

68. 私が私の言葉を通してあなたがたに与えるものは、明日、あなたがたの防護壁となり、剣となり、盾となるであろう。そして、あなたがたが霊性において一つとなったとき、さまざまな宗教団体があなたがたの元を訪れ、互いに愛し合うようになるであろう。

69. わたしは、人間の知性を通じてのわたしの啓示の時代が、あなたがたの間でまもなく終わりを迎えることを、わたしの言葉の中で告げた。しかし、あなたがたはこれからも、自らの存在の最も奥底で、わたしの神聖な声の響きを受け取り続けるだろう。

70. この新しい日の光が現れたとき、あなたがたは人類の間に響き渡る大きな鐘の呼び声を聞き取った。あなたがたは、この光の輝き を目にした盲人であり、わたしの慈悲によってこの道へと導かれているのだ。

71. あなたがたは、私の弟子であり、明日私のもとに来る大衆の先駆者であり、平和と命と愛と光というこのメッセージを、使者として伝えていく者たちである。あなたがたの模範によって、あなたがたが説く真理の証しを立てることになる。

72. あなたがたが経験した試練や挫折は、あなたがたにとって経験の光となるべきものであり、それによって、明日、あなたがたが正義をもって私の道を歩むことができるようになるためである。

73. わたしは、人類の中で起こるあらゆる出来事や、あらゆる痛ましい試練の理由を、あなたがたに明らかにした――すなわち、この最大の堕落の時代に、聖霊の光によってあなたがたを照らし、わたしの選民であるイスラエルの十二部族を一つにまとめた理由である。

74. あなたがたが「最初の時代」にカナンの地へ到ったように、今日、あなたがたには真の「約束の地」へと旅立つことを望む。あ

なたがたはすでに、その頂上にあなたがたを待ち受ける大都市がある山を登るための、最初の歩みを踏み出し始めている。

75. 明日、あなたがたは孤独を感じることはないだろう。なぜなら、私が、そして私の霊界が、あなたがたのために肩代わりし、人類に私の教えの書をページごとに広めるという使命を果たせるように支えるからである。

76. あなたがたの働きは1950年に終わることはないが、多くの者がその道から外れていくであろう。しかし、揺るぎなく立ち続ける者たちは幸いである。彼らはわたしの神殿の柱となるからである。

77. あなたがたはこう自問する。「父の『御言葉』は去ってしまうのだろうか。そして、私たちはこの愛をもはや感じられなくなるのだろうか。師は去ってしまい、私たちの魂の喜びであり励ましであったあの御言葉を、もはや聞くことができなくなるのだろうか？」：いいえ、わが民よ、父は去ることはない。師は光の使命を遂行し続けるのだ。 今日、あなたがたは、ある知性の器官を通じて、あるいは別の知性の器官を通じて、わたしを聞いてきた。しかし、明日には、あなたがたの準備が整えば、もはや限界はなくなる。なぜなら、その時には、あなたがた全員が、霊から霊へと、わたしと交わることができるからだ。そして、準備の整った者一人ひとりを通して、わたしはわたしの霊感の流れを注ぐ。そうして、あなたがたは真の恍惚を知ることになる。その時、師の啓示にはもはや限界がなくなるのだ。 同じように、高い霊的段階にある霊的存在たちの啓示も受けることになるでしょう。

78. あなたがたは静かに祈り、私はあなたがたの捧げ物を受け入れ、私の祝福をもってあなたがたを飾ることで、それに応えるであろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 362

1. 師は、あなたがたが御言葉を聞くことができるよう、その限りない慈悲をもってあなたがたを迎え入れてくださる。

2. 父はあなたがたにこう告げる。私が霊的に託すものを理解し、人類の間にこのメッセージを広める準備を整えなさい。まもなく、あなたがたが「声の媒体」を通じて私の教えを聞くことができなくなる時が来るからだ。私はすでにそれを告げておいた。私の言葉は王の言葉であり、必ず成就しなければならない。

3. 1866年以来、私は人間の知性を整え、私の言葉を伝える準備をしてきたが、この啓示は今や終わりに近づいている。

4. わたしの業は新しいものではない。あなたがたはすでに、人類が発展を遂げた「第三の時代」に生きているのだ。

5. 愛する民よ、果たして私の言葉はあなた方を混乱させただろうか。私は様々な道であなた方に出会った。ある者は狂信の中に、ある者は偶像崇拝の中に——人々の運命を星々のせいにしていた——またある者は、この時代における私の存在を否定していた。それゆえ、私はあなた方が弱っている姿に出会ったのだ。 私はこの第三の時代に、私の言葉であなた方を養うために、霊的にやって来たのです。

6. 私は三つの時代にわたりあなたがたを教え導いてきたが、この第三の時代において、ある者たちは私の三位一体・マリア的霊的業の真実性を否定し、私の意志を果たしていると思い込みながら、再び偶像崇拝と混乱に陥ってしまった。

7. すでに第一の時代において、私の業は、あなたがたに唯一の真の神を悟らせることによって、その姿を現し始めていた。

8. 現代において、私は未熟な心たちを準備し、彼らを通してあなたがたに私の言葉を伝えた。なぜなら、私は常に単純さを求めてきたからである。

9. 同じように、私はモーセの知性を鍛え上げた。彼は、美徳に満ちた素朴な男であり、偉大な精神の持ち主であった。私は彼を通じて、イスラエルの民に律法を与え、約束の地へと導くために、40年間にわたり荒野を導いた。

10. 第二の時代には、預言者たちが予見していた通り、エホバの「御言葉」が人となるために来られた。しかしその前に、エリヤがその道を整えるために来たのである。

11. 今、あなたがたは第三の時代、すなわち聖霊の時代にいます。1866年以来、私は人間の知性の器官を準備し、それが 私の神聖な

光線の座として仕えるようにしてきました。そしてその時から、私は男女を通じてあなたがたに語りかけているのです。

12. これは、魂が愛をもって肉体を導き、肉体が魂の命令に従うべき時代である。

13. 魂は、階段の一段から次の段へと発展していき、そうして、地上の肉体では完遂できなかったその使命を果たすことになる。

14. 欺瞞はどこにあるのか？　どこで私の業が商売にされ、いつの時代にも与えられてきた私の言葉が誤って解釈されたのか？　私は常に、あなたがたの魂の中に私の神殿を築くよう求めてきた。しかし、あなたがたは代わりに花崗岩の教会を建て、人の手によって作られた石の装飾や像でそれをふんだんに飾ったとき、大きな混乱に陥ったのである。

15. 人類よ。私は、限られた形の中に私の霊を求める偶像崇拝者となったあなた方に出会った。私が「第二の時代」に、あなた方に教えを授けるために川のほとりに導いたことを、覚えていないのか。あの頃、私があなた方に偶像崇拝を教えたことがあったか。いいえ。今、この時代において、私はあなたがたの心の中に神殿を求めている――その神殿は、あなたがたが広めていく私の業が、私の教えと同様に明瞭で清らかなものであるため、自然の力によって破壊されることはないだろう。こうして、狂信と偶像崇拝は打ち砕かれるのだ。

16. 私は、あなたがたの心の神殿が、私がそこに住まうことができるよう、常に整えられているのを見たい。あなたがたは、野の花でそれを飾るのではなく、心の善行と祈りで飾らなければならない。この神殿の中で、私は、その光が決して消えることのない松明――すなわち信仰――を見たい。そうしてこそ、自然の力が解き放たれたとき、あなたがたは同胞たちにとっての救命ボートとなるのだ。

17. 愛する民よ、私のところに来なさい。そうすれば、私の言葉というマナがあなたがたの内に宿るでしょう。その真髄を、あなたがたの魂の命とさせなさい。私はこの時代に、あなたがたに再び私の律法、私の真理、そして私の愛を与えるために来たのです。

18. 罪のゆえに苦境にある人類を見よ。あなたがたは、彼らが祈りの中で立ち上がれるよう、わたしの教えを授けることによって、彼らを助けるために立ち上がらなければならない。

19. イスラエルよ。あなたたちにとって戦いの時はすでに訪れており、人類が極めて苦い杯を飲み干す瞬間も、もはや遠くない。その時、あなたたちは祈りの中で立ち上がり、同胞たちの大きな苦痛

を心に感じなければならない。 しかし、理解してほしい。私は 、あなた方と全人類への愛ゆえに、最後のひと滴まで私の血を流すことによって、使命を果たすための道をあなた方に示したのだ。そして、その血によって、私は私の言葉——あなた方自身を通して——で世界を準備するために来たのである。

20. わたしは悲しむ者たちの慰め主であり、あなたがたの道を歩む中で励ましてくれる慈愛に満ちた父である。諸国民は嘆き、わたしの言葉を必要とし、わたしを求めながらも、わたしを見出せないでいる。彼らは暴風雨に打ちのめされ、その邪悪の海の中で死を見出すのである。 しかし、民よ、あなた方は勇敢な兵士として立ち上がり、この時代に人類が私と共にいられるようにしなければならない。

21. イスラエルよ、わたしはわたしの力によってあなたを備えさせる。わたしの律法に依り頼み、悔い改めよ。そうすれば、罪に満ちた世界はあなたの足元にひれ伏すであろう。

22. わたしの言葉は、あなたがたに真理の光を与える。

23. 私は、この大地が死体で覆われるのを見たくはない。人類が新しいラザロのように墓から立ち上がることを望む。そして、あなたがたは、私が与えた力によって、彼らが永遠の命を見出すのを助けてほしい。

24. 民よ、あなたがたが私の御心を行うために立ち上がるのに、何が欠けていたのか。 使命を果たすという十字架を背負って立ち上がれ。義務を果たす者は幸いである。なぜなら、私は彼に約束したすべてのものを与えるからである。そして、あなたがたが私の王国に来るとき、私はこう言うだろう。「ようこそ、愛する民よ。あなたの心を開かれた書物のように整え、そこに私の神聖な教えを書き記せるようにしなさい。」

25. あなたがたはわたしの光を必要としているから、わたしはあなたがたの中にいる。この第三の時代において、あなたがたはまだ心を霊化させてはいないが、わたしは愛をもってその準備をするために来たのだ。

26. わたしはあなたがたに慰めを与え、あなたがたがわたしの言葉を活かしてきたかどうかを自覚させるために、あなたがたを試してきた。わたしの律法を全うすれば、あなたがたは真の至福を見出すだろう。しかし、あなたがたが不従順であったときはいつでも、痛みしか感じなかった。

27. 多くの人々がわたしを認識し、わたしの声を聞き、わたしのもとへと高みへと昇っていった。物質主義に疲れたこの世界もまた

、その父を求めている。しかし、あなたがたは、わたしが言葉をもって養ってきた選ばれた者たちであり、あなたがたは、隣人たちに呼びかけ、わたしがあなたがたに与えた光を受け取らせるためにいるのだ。

28. わたしがあなたがたを準備したのは、あなたがたがわたしのように、真の愛の業を成し遂げることを望んでいるからだ。

29. 人々は混乱しており、苦難の杯を飲み干しながらも、私が私の業においてこれほど多くの愛を込めて与えたものを知らない。彼らは心の中で誘惑に屈し、雑草を繁茂させてしまったが、それは私の御心ではない。

30. 第三の時代において、私は善意を持つ人々を用いました。ある者には善意を見出し、ある者には霊感を見出し、またある者には私の教えへの従順と順守を見出しました。

31. しかし、まことに、あなたがたに告げる。誘惑は、わが民を襲い、わが恵みと光から奪おうとしている。主の戦いは激しいが、わたしは、わが選民に憐れみを注ぎ続ける。なぜなら、わたしが彼らに与えた白い衣が引き裂かれているのを見るからである。

32. あなたがたの魂に欠けていたものはすべて、私が与えてきた。あなたがたが心を霊的なものへと高めることができるよう、私はあなたがたに私の言葉を与えたのだ。

33. わが民よ、身を整えよ。世界はあなたを必要としている。世界がどのように戦争を煽り立て、誘惑に襲われ、それゆえ人々が高みへと飛翔できないかを悟れ。しかし、今、私は人類を照らし、彼らが私の平和を受け入れるようにしている。

34. わたしの王国は平和と愛で成り立っている。わたしはお前たち、わたしの民に、ほんの少しの善意と、確固たる決意、そして人類に奉仕したいという限りない願いを求めている。 あなたがたには、その痛みを心の奥底で感じ取り、わたしの言葉を聞かずにただ苦しみと格闘している者たちに憐れみを持ってほしい。わが子らよ、あらゆる場所で痛みの叫びが響き渡り、人類が動揺し、罪を犯した者が清められていることを悟りなさい。

35. あなたがたの同胞の間で愛の種を蒔き広げ、彼らが救いを得られるよう、あなたがたの賜物を使いなさい。あなたがたにはそれを行う能力がある。なぜなら、私は人類に私の新たな啓示への扉を開くための鍵を、あなたがたの手に委ねたからである。

36. あなたがたが使命を果たしたとき、私はあなたがたが蒔いた、何倍にも増えた種を受け取るであろう。あなたがたは、諸国民の闇を照らすべき灯である。

37. わたしがあなたがたに与えたものは、あなたがたの魂の中に置いたものであるから、永遠のものであることを理解しなさい。わたしは、あなたがたが人類の救いのために働くことができるよう、わたしの業をあなたがたの手に委ねたのである。 わたしは、諸国民を治めるべき律法をあなたがたに与えた。しかし、その道で迷ってはならない。もしあなたがたが、この霊的な働きにおいて父と協力するならば、儀式を行ってはならず、また の偶像崇拝を助長してはならない。わたしの神聖な教えを探求し、わたしがあなたがたの魂と結びつき、霊感を通じてあなたがたに授ける神聖な意図を理解せよ。

38. わたしはあなたがたをこの世に遣わした。あなたがたはわたしのしもべである。ある者は肉体に宿り、ある者は霊として存在している。そして、後者たちは、あらかじめ用意された脳を通じて自らを現した。彼らは償いのためにやって来たのである。 これらの私の僕たちの中には愛が存在する。なぜなら、彼らは私から生まれたからである。彼らは悟りを開いている。私が彼らを私の神聖な光で満たし、すべての人にその恵みを与えたからである。しかし、彼らはその謙虚さゆえに、人類の支配者ではなく、僕となるであろう。

39. エリヤは、第二の時代に、私の到来の先駆者としてこの世に生まれた。彼は真理の預言者であり、私が遣わした者である。なぜなら、人類は偽りの弟子たちに導かれており、すべての者が天の御国に到らなければならない以上、すべての者が羊の囲いへと立ち返ることが必要だったからである。

40. 第三の時代において、私は再びエリヤを遣わしたが、それは霊としてであり、ロケ・ロハスを通じて自らを現すためであった。それによって、人々はその後、声の伝達者たちを通じた私の啓示を受け取れるようになるためである。

41. 人類が救いの舟を見出せず、新たな夜明けの光を捉えることができないゆえの苦しみを、私は感じている。

42. 過去の時代の預言を成就するため、私はこの第三の時代に霊として来臨し、人間の知性を通じて自らを明らかにした。私の霊は「雲」の中から人類を照らしている。

43. 私は真理であり、人々の心を整え、彼らが私の道を認識し、私がこの世界を見捨ててはいないことを自覚できるようにするためにやって来た。

44. 私は、開かれた書物としてあなたがたと共にいる。今、私は、かつてあなたがたの魂が受けたのと同じ教えを、あなたがたに与

えている。しかし、今やあなたがたは成長しており、それゆえ、私の神聖な御言葉は人間の知性を通じて明らかにされたのである。

45. 私は、あなたがたの魂を教え、目覚めさせ、その贖罪が何であるか、そして使命を果たすためにどのような道を歩むべきかを悟らせるために、私の普遍的な光線を遣わしている。なぜなら、魂にとって時はあまりにも早く過ぎ去り、数々の転生の中で、必要な成長を達成することができなかったからである。

46. あなたがたは、自らの肉体を制御し、それを自発的に、かつ私の律法に従順なものにする術を知らなかった。なぜなら、あなたがたは弱さを感じ、誘惑に陥ってしまったからである。それは、あなたがたが私の神聖な御言葉の本質によって自らを強めなかったからである。

47. 私は裁き主であり全能者であるが、あなたがたが私を傷つけ、私の律法に背いたにもかかわらず、私はあなたがたを見捨てたり、裁いたりすることはなかった。

48. 私があなたがたに示した完全な道へと至るべき方法を、再びあなたがたに明らかにした。それは、あなたがたが御霊の命を見いだせるようにするためである。

49. あなたがたは皆、この時代に、私があなたがたに託した使命を果たすためにここへやって来た。しかし、私があなたがたが眠り込んでいるのを見たとき、私はあなたがたに語りかけ、良心の声に耳を傾けなかったことを問いただした。

50. わたしは、水晶のように澄んだ水のように、わたしの神聖な御言葉をあなたがたの上に注ぎました。わたしの愛と御言葉の真髄を、完全かつ唯一無二の教えとして、あなたがたの心に宿らせました。しかし、あなたがたが隣人に示した模範とは、いったい何だったのでしょうか。

51. あなたがたの準備不足ゆえに、世界は、私があなたがたの手の中に託した業の偉大さを認識しなかった。人々は心の中で私の神聖な御霊の平安を感じることができず、分裂し、さまざまな理想を抱き、自らをこの世における神の代表者と呼ぶために、新たな神々や新たな律法を求めている。

52. わたしは、あなたがたが自らの過ちを悟り、他者にとっての模範となるよう、正義をもってあなたがたに語りかけた。あなたがたは光の子であり、世の味であり塩であり、霊的イスラエルの民として認められているからである。

53. わたしはあなたがたの師であり、あなたがたからあらゆる闇を取り除き、わたしの教えに従い、隣人を改心させる良き弟子へと変えるために、わたしの光を送っている。

54. わたしは、第二の時代にわたしの憐れみによって選ばれた使徒たちについて、あなたがたに語った。わたしは、彼らがわたしを信じ、わたしに従うように、彼らに証拠を与えた。彼らが、自分たちが本当に師のもとにいることを悟ったとき、彼らはひざまずいて、わたしの弟子となり、わたしの律法と業を宣べ伝える者となるために、わたしに従うことを申し出た。

55. 彼らの心は、あなたがたの心と同じように脆かった。彼らを立派な弟子へと変えるためには、師が彼らの心に一音一音、刻み込んでいく必要があった。

彼らが私の教えと、私が彼らに与えたあらゆる愛の証しを受け取った後、私が望んだのは、彼らを遣わし、私から聞いたことを語らせることだった。

56. しかし、師が去る前に、彼らの心を試す必要があった。それゆえ、私は彼らを様々な道へと送り出し、彼らの信頼、勇気、そして私の真理に対する確信を見極めようとした。しかし、師の御姿がないと、彼らはまるで幼子のように感じ、勇気を失い、意志も弱まってしまった。 彼ら自身の高揚感や自信はまだ乏しかった。こうして彼らは苦しみを感じ、涙を流した。しかし、師は彼らを再び集め、信頼と愛を注ぎ込んだ。

57. 私がこの世に降臨したとき、私はいかなる人間の理想にも触発されることはなく、また、いかなる宗教や科学の教えも受け入れることはなかった。私こそが知識そのものであり、完全そのものであり、神そのものであり、誤解されていたモーセの律法を忠実に果たすために、この世で人間となったのである。

58. 群衆がイエスの教えを聞くために集まったとき、私の使徒たちはそこに注意を向け、畏敬の念を抱きながら私の言葉を聞き入った。たった一言で、彼らは「神の言葉」の限りない慈悲を悟った。たった一言で、彼らは、私がまさに広めようとしていた教えに関する、計り知れない知恵と知識に満ちた書物を編み上げた。なぜなら、私が選んだ者たちが人類の前に立ち、彼らを愛と平和と理解の道へと導けるよう、私は彼らに完全な教えを与えたからである。

59. 私は決してあなた方を見捨てたことはなく、常にあなた方のため、全人類のために尽力し、一人ひとりに欠けているものを与えてきた。それは、あなた方の魂が強くなり、物質主義に縛りつけている絆を自ら断ち切れるようにするためである。

60. 私は再び、この時代に、力と愛として、この人類の上に霊として降りてきた。人類は道に迷い、人々は戦争の叫びを響かせたからだ——今や、自然の力が解き放たれ、試練と病が国々を襲い、家々には喪の飾りがかけられている——今や、 心は嗚咽し、苦しむ肉体は、方向を見失い、 、親切にパンや力、助けを差し伸べてくれる手を見つけることもできずに、その人生の道を歩んでいるのだ。

61. 慈愛に満ちた父は、不安や苦しみ、あるいは悲嘆の中にいる人類を見捨てることはできない。私があなたがたに与えた預言は、今や成就しつつある。

62. 私があなたがたに与えた神聖かつ霊的な律法を全うできるよう、物質主義から離れなさい。その律法は完全であり、純粋であり、光に満ちている。それによって、あなたがたは命と慈悲を見出し、愛と理解と道徳の道に自らを導くことができるようになるのだ。

63. あなたがたの心は私の愛に屈服しなかった。あなたがたの闇と無理解が、私があなたがたの魂に注ぐ完全な光の中で、私の教えの真意を見出すことを許さなかった。そして、あなたがたの耳は私の声を聞き取らなかった。 まさか、あなたがたは、イエスが降りてきて人間となり、あなたがたがイエスの存在を身近に感じ、その傷や衣に手で触れられることを望んでいるのか。いいえ、その時はもう過ぎ去ったのだ。

64. 愛する弟子たちよ、まことに、わたしは今、あなたがたの上に聖霊を注ぎ、わたしの言葉の真髄をあなたがたの心に注ぎ込んでいる。

65. 父として、わたしは、わたしの御言葉を聞く者すべて、そして、わたしの御心が示すすべての道へと歩み出そうとする者すべてを受け入れます。

66. わたしがこの時代にやって来るのは、あなたがたが再び信仰と信頼、そしてわたしの愛の温もりを感じられるように——あなたがたが永遠にわたしと共に生き、心身を癒やし、まるで開かれた書物のように、わたしの啓示と教えを読み解けるようにするためである。

67. この時代、わたしの神聖な御霊は、あなたがたの魂の前で輝く星のようだ。あなたがたが常に父であり創造主であるわたしを信頼できるよう、わたしはあなたがたに光と愛を授ける。なぜなら、あなたがたの魂に備えが整っている姿を見たいと願う時が来たからだ。もはや、あなたがたが「父は私たちから遠ざかった」と言うことを望まない。いいえ、わたしの子供たちよ、あなたがたは一人ではない。

68. あなたがたの道のりにおいて、魂が乱れている姿を見たくはない。なぜなら、真昼の光があなたがたの心を照らしているからだ。

69. この時、わたしは、わたしの宝庫にあなたがたのために保管していたものを与える。そのためには、あなたがたが心の最も奥底でわたしを求めることが必要である。あなたがたが誤りを犯さず、隣人に混乱をもたらすことなく、むしろわたしの教えを理解し、深く探求し、それに従う真の弟子となるためには、わたしの神の律法を全うすることが必要である。 そうすれば、 において、あなたがたの霊的な目にはもはや盲目さがなくなり、あなたがたの耳は私の声を聞く準備が整い、世界の救い主である師があなたがたの心に宿り、そこから御自身を現わしておられることを、あなたがたは真に感じ取ることができるでしょう。そうして、あなたがたは人々の前で証しをすることになるのです。

70. この世界が清められるためには、あなたがたが自分の人生を霊的なものとし、生ける聖所となり、自分にふさわしくないものから背を向け、自分の魂を不浄や汚れから清めることが必要です。

71. あなたがたは、何のためにここに来たのか、なぜ父があなたがたを召されたのかを知らずにやって来たが、わたしはあなたがたを受け入れ、愛をもってあなたがたを準備してきた。 たとえ短期間であっても、あなたがたに苦痛が訪れたとき、私はその後、慰めを与え、私の憐れみをもってあなたがたを励まし、勇気づけることで、あなたがたに命を与え、悪行を悔い改めさせた。なぜなら、私は本当に、あなたがたが私の御前で清く、浄化された姿で現れることを望んでいるからだ。

72. もしそうではなかったなら、あなたがたはこの第三の時代にわたしの食卓に着くことはなかったでしょう。あなたがたは、あなたがたを清める水を用いることに同意することもなく、迷いの道を歩んでいたことでしょう。しかし、父の声があなたがたの心に響き、あなたがたの感受性を取り戻させたので、こうしてあなたがたは主の御前に現れることができたのです。

73. あなたがたの信仰が消えそうになったとき、わたしはあなたがたを備えさせ、強める。その信仰に火をつけたのはわたしであり、あなたがたにそれを育んでほしいと願っている。なぜなら、わたしはその信仰が消えることを望まないからだ。わたしは、あなたがたが備えを通じて汚れから清められることを望む。あなたがたはまことに選ばれた者たちであり、いつかあなたがたが同胞たちを闇から解放することを、わたしは望んでいる。 そのためには、あなたが

たは心の底から神を認識し、すべての人の心に松明を灯すことで、私の教えを世界に広めなければならない。これこそが、あなたがたの神であり主である方があなたがたに期待し、また人類も期待している礼拝である。

74. わたしはあなたがたに、魂を高め、神聖な霊と結びつくよう教えてきた。わたしはあなたがたに刷新を求める。そしてこう告げる。あなたがたの父は愛と慈悲そのものであり、わたしはわたしの創造の豊かさの中で自らを現しているのだ。 私は、あなたがたに私の愛をどのように伝えるべきかを教え、あなたがたを解放した。あなたがたはもはや束縛の中にいない。なぜなら、私はあなたがたの中にあったあらゆる不浄なものを焼き尽くし、その炎があなたがたの行いと想いを清めたからである。私は、あなたがたをこの世に縛り付けていた絆を引き裂いた。

75. あなたがたは迷いの道を歩んできた——死へと導く道を。それゆえ、私の言葉は、あなたがたを正し、深い眠りから目覚めさせる声として、あなたがたを導いた。私は、あなたがたが忘れていたことを思い出させた。私はあなたがたを高め、あなたがたの心を聖域へと変えた。

76. これは、あなた方を救い、あなた方の目を覆っていた目隠しを取り除き、私の真実の中で私を見分けることを教えるための、私の戦いである。かつてのあなた方のような社会から疎外された者たちを、私は「光の子ら」、すなわち、まだこの世に生きている間も最高の衣をまとう選ばれた子らへと変えたのである。 あなたがたが私の臨在を自覚し、準備を整えて私の御国で生きるようになること、それが私の御心であった。

あなたがたが、霊的にわたしを仰ぎ見、感じ取る最初の者となり、そのことを周囲の人々に証しすることを、わたしは望んできた。時が来たのだと告げよ。不信者たちが信仰を持つよう、彼らは身を整えなければならない。人々に、わたしの王国は彼ら自身の魂の中に存在していると伝えよ。 眠っている者たちを目覚めさせるために、戸口から戸口へと人々の心に呼びかけなさい。彼らの中には、死が支配を握っているのだから。

77. 人々は、その儚い王座や所有物を守るために戦争を引き起こしてきた。行って、彼らにこう告げなさい。「平和の君主が、悪と戦うために来られた」と。 しかし、この戦いは愛と光の武器によって行われる。なぜなら、わたしは未亡人の嘆きと泣き声、孤児たちの嘆きを聞き、人々の不安と敵意を見てきたからだ。

78. 彼らのところへ行き、生ける神が来られたこと、彼らが自らの手で造った偶像も、物質的な神殿も必要としないこと――愛と光と平和の神が、すべての子供たちを招き、彼らに自らを新たにし、良心の声に耳を傾けるよう求めていることを告げなさい。

79. わたしはあなたがたに言う。「放蕩息子」を歓迎せよ。あなたがたは、悪に遭遇し、わたしの永遠の慈悲から遠ざかってしまったために、多く泣いてきた。あなたがたが見てきたのは、深淵と荒野だけだった。しかし今、あなたがたの渇きを永遠に癒やしてくれた生ける水の泉に目を向けてほしい。 あなたがたに実と、その葉陰の涼しさを与えてくれる「いのちの木」を見なさい。私はあなたがたに保護と糧を与え、過去の時代の物質主義を取り除いてあげよう。

80. 私は、あなたがたに福音を託します。あなたがたはこれを宣べ伝え、人類が私を知り、私の愛への渇望の中で 高みへと昇るようにしなさい。あなたがたの同胞たちに、私が愛に満ちた父として、両手を広げて彼らを待っていると伝えてください。今こそ、彼らの霊的な合一の時が来たこと――すなわち、彼らの境界を取り払い、互いの間の隔たりをなくす時が来たことを伝えてください。 なぜなら、私にとって、あなたがたは皆私の子供であり、私はあなたがた全員を等しく愛しているからだ。このメッセージを彼らに伝え、私の代理として彼らのもとへ行き、その道のりにおいて私を手本としなさい。そうすれば、あなたがたの言葉は励ましと慰めと命に満ちたものとなるだろう。

81. 人生の道において戦い、この世の闇に打ち勝ちなさい。心から偶像崇拝を排除し、すべての人がわたしのもとへたどり着けるよう道を整えなさい。あなたがたがその呼び声を響かせる場所はどこであれ、声を聞かせるのはあなたがたではなく、わたしである。そして、あなたがたがどこへ行こうとも、そこにはわたしがいる。

82. 父はあなたがたにこう告げる。「備えなさい。わたしはあなたがたの心に宿るからだ。もしあなたがたがそのにふさわしく、魂が強ければ、人類に恵みを与えるのはあなたがたではなく、無限の愛をもってするわたしである。」

83. わたしがあなたがたを用いることを理解せよ。あなたがたは、わたしについて証しをし、人類に、難破した者たちの救いの港としての平和と律法の旗を示すために、準備をしなければならない。霊化に関する諸説や誤った教えを恐れることなく語れ。父は人類の滅びを望んでおらず、すべての子供たちの救いを切望しておられると、彼らに告げよ。

84. あなたたちも、何の善も持たずにわたしのところに来たこと、真理に対して耳が聞こえず目が見えなかったことを伝えなさい。信仰を失った根っからの罪人であっても救われること、わたしがその魂を清め、浄化することを知っていると伝えなさい。 それゆえ、同胞を救うために深淵へと降りることを恐れてはならない。山に登り、そこでも施しをなさい。しかし、心からは謙虚で、柔和で、徳高い者でありなさい。導き手として、私は全宇宙に注がれている聖霊の光をあなた方に授ける。

85. もし、人々の誤った解釈があなたがたの歩みを阻むならば、健康な者は医者を必要としない、と彼らに告げなさい。 目を覚まし、祈りなさい。霊的に私のもとへ立ち上がれ。なぜなら、私はバベルの塔を打ち倒し、偶像を破壊し、学者たちを混乱させ、私の光を現し、人々の目から盲目を取り除き、敵意と悪意を根こそぎ引き抜くからである。 私は、、死者がよみがえり、自らを偉大だと思っていた者たちが自らの小ささを悟り、高慢な者たちが私の前にひざまずくように仕向ける。

86. わたしは魂の救いを求めている。この大いなる闘争の時代において、あなたがたは、わたしを再び十字架につけようとする者たちに語りかけなければならない。

87. 父はあなたがたにこう言われる。「もしわたしを愛するなら、わたしの律法を全うし、自らを磨け。もし弱さを感じたり、何かが欠けていると感じたりしたら、父に願い求めよ。わたしはあなたがたの願いを聞き入れるからだ。しかし、正しいことを願い求めよ。そうすれば、わたしはあなたがたをわたしの恵みで満たしてやる。」

88. あなたがたが備えを固めれば、わたしはあなたがたを、わたしの愛を現す使徒たちとする。しかし、自慢したり、大きな一歩を踏み出したりしてはならない。そうしなければ、道を誤ってしまうからだ。時が来れば、エリヤが聖霊の光をもってあなたがたを備えさせるだろう。

89. わたしがあなたがたに与えた賜物は、取り戻すことも、変えることもない。それらは永遠にあなたがたの魂の中に留まり、あなたがたが山の頂上にたどり着いたとき、その闘いの実を目にすることができるだろう。

90. 私の最も完全な教えに導かれ、心の中に静けさと平安を保ち、それを他の人々に分け与えなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 363

1. 愛する弟子たちよ、あなた方を強くするこの御言葉を聞きなさい。私の業の真実を確信し、それを実践し、自らの模範を通じて隣人に示しなさい。

2. 人が生まれ変わり、私の真理がその人の中に支配し、その霊的な能力が世俗的な情欲に打ち勝つとき、その人は私の業を理解したことになる。

3. 私の働き手たちの労苦は大きく、歩まなければならない道は極めて長い。彼らの働きはすでに始まり、種は蒔かれた。しかし、実を収穫し、やがて再び種を蒔くために、他の働き手たちがやって来るだろう。 わが民よ、この時代にわが業が認識され、人類がかつて経験したことのないような、わが無限の知恵の恵みを受け取れるようにすること、それがあなた方の使命である。

4. 私の光が全世界に広がったことで、あらゆる教えの中に私の真理が求められるようになった。これが、人々がそれぞれの信仰において示す行動の理由である。

5. これは、かつて預言されたことの成就である。彼らの中で、誰が真理を体現しているのか？ 誰が羊の皮を被った飢えた狼を隠しているのか？ 誰が*清らかな*衣をまとい、自らの内面の絶対的な清らかさを保証しているのか？

6. あなたがたは、私の真理を発見するためにスピリチュアリズムを実践しなければならない。なぜなら、人類は、人間の思考の発展に応じて、数多くの信仰告白や世界観に分裂してきたからである。

7. その結果、ますます多くの宗派や教派が形成されてきた。そして、それらの一つひとつに含まれる真実性を判断することは、あなた方にとって非常に困難となるだろう。

8. 私の教えは人々の思考や観念を照らし出し、やがて誰もが、自らの行いを完成させ、より完全で高次の道へと導くための基礎を理解するようになるでしょう。

9. スピリチュアリズムは、過去の信仰教義の発展に追いつこうとする新しい教えではない——いや、それは第一の時代や第二の時代の啓示と同じものである。それはすべての宗教の*基盤であり*、私はこの分断の時代に、人類がその起源を忘れないよう、このことを思い出させたいのである。

*人間の*行い、その慣習、そして様々な宗教において を喜ばせ、それらを誇りに思うために感覚に訴えかける方法は、私が世界に示そうとしているものとは矛盾している。

10. 私は、人々の間に愛への理解が生まれるよう、イエスを通じて完全な教えを残した。その影響は、世界にとって祝福となってきた。今、人々は再びキリスト教の原則に思いを巡らせている。しかし、世界はそれらからあまりにも遠く離れているため、人類が現在経験している試練こそが、師がその模範によって教えた愛を人々に思い起こさせることになるだろう。

11. 私の教えは、人類の間に常に平和が支配するように、あなたがたが求めなければならない光である。

12. 善意の意図が込められたあらゆる行いの中に、わたしの業が表れている。それは、慈善的な目標や、人類を助け、諸民族の絆を深め、人々をより高い発展と高潔さへの道へと導こうとする誠実な意図を通じて、人間が築き上げることができるすべてのものの本質的な部分である。

13. 私が再びあなたがたに教える「霊化」とは、神聖な御業であり、それは非常に偉大でありながらも、愛の行為として現れるために自らを制限することさえできるものである。しかし、誤った考えを抱いてはならない。いかなる宗教団体の儀式にも縛られてはならず、また、他の人々が不変のものとして定めた観念に従ってはならない。

14. 私は、私の業があなた方を分裂させてはならないこと、そして、私の教えを隣人と分かち合うことによって、思いを一致させ、善を行うべきであることを告げた。もし彼らがその教えに従うのであれば、その教えがどのようなものであるかは重要ではない。彼らは、隣人たちに愛を注ぐとき、霊化を感じるだろう。

15. 私の業の霊的な本質を理解し、愛と慈悲を注ぐことによって得られる満足感のためにそれを実践する者は多くいる。

16. 私の言葉がもはや人間の知性という器官を通じて聞こえなくなる時が来れば、私の名を悪用して語ろうとする者たちが現れるだろう。しかし、私はすでにあなたたちに告げた。彼らは詐欺師である！

17. わたしはあなた方を一人にはしない。あなた方の知性という器官は、絶えずわたしの霊感を受け続けるだろう。わたしはあなた方の言葉の中に、あなた方の行いの中にいる。 あなたがたは、引き続き集まって、私の言葉を思い起こすことができるだろう。それゆえ、私は、それが書面として残されることを許した。そうすれば、それはあなたがたにとって絶え間ない 研究の対象となるからだ。しかし、あなたがたの集まりにおいて、感覚を惑わすような儀式を行

うことは、私の意志ではない。なぜなら、そうすれば、私があなたがたに教えたことが、儀式や伝統へと変質してしまうからである。

18. わたしはあなたがたにわたしの業を託した。あなたがた一人ひとりは、ある道を歩み、ある義務を果たさなければならない。あなたがたの必要を、わたしの教えの指針に合わせなさい。 あらゆる行動において、あなたがたは隣人を愛し、赦し、同胞を赦す機会を見出すだろう——それは神秘的な観点からではなく、あなたがたが経験している発展の段階に調和した自然な行為としてである。このようにして、世界は徐々に私の業を理解していくことになる。

19. もし人類が私の教えを聞き、理解し、深く探求していたならば、地平線の彼方に真理と愛の道が開けていたはずであり、今のような苦痛と恐怖の試練を経験することはなかっただろう。

20. 誰も正義であり、完全である者などいないことを理解しなさい。あなた方の過ちは大きく、あなた方は自分自身と葛藤している。まさにそれゆえに、私はあなた方に私の慈悲を与えたのである。

21. 私が選んだあの弟子たちは、イエスの去りゆく姿を嘆き悲しんだが、その後、神の啓示を受け、その知性が照らされ、私の業を守るために命を捧げた。同様に、あなた方も、師の教えに関するその去りゆく姿を嘆くことになるだろう。 しかし、あなた方の心は開かれ、隣人に対する愛と憐れみに燃え上がり、隣人を愛し、赦すことによって、引き続きわたしを愛し続けることになるだろう。

22. そうして、わたしの真理は霊的に顕現し、万物はより偉大で、より公正で、より真実なものとなるだろう。

23. 人類は、全創造物を支配する普遍の法則と調和していないため、制御不能な状態が生じ、それは自然の力の猛威として現れることになる。

24. 人間は原子を分裂させ、その発達した脳はこの発見を利用して、最大の力を得ると同時に、死をもたらしている。

25. もし人類が、その科学や知性と同じ程度に*精神的に*発達していたならば、新たな自然の力の発見を人類の幸福のためだけに活用していたはずである。 しかし、人間の霊的な未熟さは甚大である。それゆえ、その利己的な知性は、人類に害を及ぼす形で創造力を発揮し、破壊の力を用いてきた。その過程で、人間はイエスの な愛と慈悲の原則から背を向けてしまったのである。 したがって、もしあなたがたが天から火の洪水が降り注ぐのを見ても、それは天そのものが開かれたからでも、太陽の炎があなたがたを苦しめるからでもない——いや、それは死と破滅をまき散らす人間の仕業なのである。

26. 私はこの時代に、あなたがたに私の愛の教えを思い出させるために来た。そして明日、あなたがたの孫たちは、彼らを滅ぼしうるより大きな力が存在することを自覚し、それを思い出すよう促す私の声を聞くことができるだろう。

27. 私は、かつて弟子たちに語ったのと同じことを、あなた方にも告げる。「誘惑に陥らないよう、目を覚まして祈りなさい」。なぜなら、あなた方は苦難の時代を経験することになるからだ。しかし、あなた方の信仰が深ければ、すべてが人類の幸福のためであることを理解するだろう。 そして将来、人々が自分たちが敵意と破壊のためだけに働いてきたことを理解したとき、自然の力は人類の益のために解き放たれ、愛をもたらし、平和のうちに留まるようになるでしょう。その時、魂は自らの成長にとってより好ましい環境に出会うことになるでしょう。なぜなら、愛する弟子たちよ、わたしがあなた方に平和と慰めを与えるために来たからです。 私はあなたがたに、より良い人生について語り、あなたがたの魂が世に示しうる偉大な奇跡を明らかにしました。なぜなら、あなたがたは盲人の目を開かせ、私の愛の言葉によって心の病める者を癒やすからです。あなたがたは、足の不自由な者たちが床を離れ、私に従うように導くことになるでしょう。

28. あなたがたが使命を果たし、霊性が高まるにつれて、わたしをより深く理解する時が来るだろう。その時、あなたがたは一体感を感じ、魂に喜びが満ちるだろう。そして、世界が、わたしがあなたがたに託したのと同じ清らかさをもって、わたしの祝福された業を認めることができるよう、あなたがたは皆、目覚め、祈ることを知るようになるだろう。

29. あらゆる宗派や教会が、わたしの業に属するものを探し求めて、自らを省みる時が来るだろう。しかし、その宝を見つけるためには、彼らが魂を高め、御霊の御声に耳を傾けることが必要となる。

30. 今日、師は引き続きあなたがたを教え、人々を真のキリスト者に変えていく。

31. わが弟子たちよ、あなたがたは、いつ自分の使命の終わりを迎えるのか、いつその戦いにおいて勝利を収めるのかを知らない。なぜなら、あなたがたは、人類の中に霊性が支配するよう、世代から世代へと働き続けていくからである。あなたがたは国境や海を越え、地方や国々、諸民族へと赴き、わが真理を広めていくことになる。

32. 第二の時代、私の弟子たちが聖霊の光に満たされ、世を恐れず、距離を顧みることなく、私の教えを広めるために旅立ったように、あなた方もまた身を整え、時が来れば、使命を果たすために旅立つべきである。

33. この時代において、私は最良の師であった。決してあなたたちに嘘をついたことはなく、常に簡潔で平易な言葉で語りかけてきた。それは、あなたたちの魂と心が私を感じ取り、力を与え、活力を与える本質から養われることができるようにするためである。

34. 私はあなた方を知っている。そして、あなた方を転生させるために送り出したすべての時代において、私はあなた方の前に姿を現してきた。しかし、あなた方の脳は、過去の転生を思い出すことはできない。

35. 私は決して、あなたがたを義務を果たす道から逸らしたことはなく、別の律法を授けたこともなく、また、人間が作り出した迷いの道へと導いたこともない。 いつの時代も、人々は自らの意志に従い、大衆に対して、自分たちの脳内で作り出した神々を提示してきた。彼らの口からは偽りの言葉や嘘の預言が語られ、解放されることも、永遠の命が待ち受けていることを悟ることもできなかった、弱き心と束縛された魂が存在した。

36. そう、イスラエルよ、人の心は常に物質的なものを崇拝しようと求め、耳は心地よい言葉に癒されてきた。それゆえ、人は私が「第二の時代」にキリスト教の教えとしてもたらしたものを、「宗教」へと変容させることで、それを改変してしまったのである。 人間の心には常に利己主義、貪欲、虚栄心が目覚めており、それらは自らを王や支配者と称し、民に自分たちにひれ伏させ、民を家臣や奴隷とし、罪に縛り付け、闇と方向感覚の喪失、そして混乱へと導いてきたのである。

37. 世界は、イエスであるわたしを拒絶し、木製の十字架に釘付けにし、その後、その十字架を崇拝の対象として、赦しを乞うためにその前にひれ伏した。今日、あなたがたは物質主義、敵意、そして悪意を助長している。今日、人類は極めて甚だしい堕落の中に生きている。

38. 人生の道において、大人、若者、処女、そして子供たちは道に迷い、私が愛と慈悲の模範をもって示した完全な道を見出せないでいる。

39. 大衆は、創造主をどのように求めればよいかを忘れてしまった。魂たちは物質に支配されてしまい、今日、彼らは泣いている。

それは、私が彼らを地上に送り出したその瞬間に、私の慈悲が与えてくれた恵みと権能を失ってしまったからである。

40. イスラエルには何が起きたのか。人類は今日に至るまで、何を味わわされてきたのか。皆がその道のりで何に出くわしたのか。それは、ただアザミと茨、そして世界観の対立による争いだけである。 全人類は誤りに囚われている。しかし、人間が乱し、誤ったものを、誰が再び整えなければならないのか？人類が欠いているものを、誰が与え、人類がこの法則、この教え、そしてこの光に導かれるようにしなければならないのか？ それは、第三の時代に「雲の中」から降りてきて、民に語りかけ、教え、彼らがその道のりですべてを失ってしまったこと、そして私が創造主として彼らの手を引き、私の道へと導き、霊的な命を知らしめるために来た、その「慰め主」、すなわち私である。

41. 明日、大きな出来事が、私が預言として与えたことを証明するだろう。そして、自然の力が各国や諸民族にもたらす苦痛によって、人々は立ち上がり、イスラエルの民を求めるようになる。

42. 戦争の気運や災い、病気、飢餓が増大しており、その結果、人々の心にも家庭にも安らぎは訪れていない。しかし、果たして私がそれを望んだのだろうか。また、私の聖霊が、あなたがたの痛みや苦しみを愉しむために降りてくるのだろうか。いいえ、愛する民よ、私の神聖な御霊の中には、果てしない悲しみが存在しているのだ。

43. 人類は、私が「第二の時代」に与えた、祝福に満ちた至高の戒め、「互いに愛し合いなさい」を忘れてしまった。

44. わたしは、人類が従順のうちに高みへと昇る時代を準備してきた。あなたがたの孫たちは、わたしがこの地上に注ぐ栄光を目にするだろう。 なぜなら、私があなたがたに地上の楽園として授けたこの世界で、私の意志は成就されなければならないからであり、高い発展段階に達し、闘い抜いてきた魂たちがこの惑星にやって来る時が来るからだ。私の神聖な光が地球を照らし、私の律法の成就がこの地上に支配するようになる。

45. 物質界での人生の最後の瞬間まで、わたしの言葉を思い起こしなさい。そうすれば、あなたがたの霊は、 あなたがたがわたしの言葉から聞き取ったこと、そして理性が忘れてしまったことすべてを思い出させてくれるだろう。

46. その最期の瞬間、あなたがたの魂は、その使命を果たすために、あと一瞬でも生を望むだろう。しかし、あなたがたの運命は果たされなければならない。

47. わたしは、混乱と不従順の時代が到来すると告げてきた。その時代には、あの「働き手」が立ち上がり、人間の知性によってわたしの啓示は完結しない、と主張するだろう。しかし、たとえ人間がわたしの意志に逆らおうとも、わたしの言葉が成就する時が必ず訪れる。

48. 私が使命と恵みを託した者たちの多くが、その道のりでどれほどの過ちを犯してきたことか。1950年以降、私の子供たちの間にどれほどの無理解が広がっているか、私は見ている。

49. 理解の欠如と愚かさによって、人間は私の助けとなる愛と権威と恵みを阻み、律法と調和と真理の真の道から逸脱している。

50. 私は、何年も前にあなたがたに与えたものを否定するものではない。私は1866年以来、最初の代弁者を通じて民に語りかけ、やがて私の言葉がもはや民の間で語られなくなる時が来ることを予言してきた。 しかし、人々の心に落胆が蔓延しているのを見たとき、私は平易な言葉で、1950年が、伝達者たちの知性を通じて私の教えが伝えられる最後の年となることを彼らに知らせた。この言葉は、まさに「ダミアナ・オビエド」という名の礼拝堂で語られたものである。

51. イスラエルは再び部族ごとに分裂し、さらに分裂を重ね、私がその手に委ねた清く純粋な律法を踏みにじろうとするだろう。イスラエルは再びかつての道を辿り、偶像崇拝と狂信に陥るだろう。イスラエルは諸宗派に目を向け、混乱と闇に陥り、人間が差し出す耳に心地よいが偽りの言葉に酔いしれることになるだろう。

52. 私の律法を理解しなかった僕たちは、私の心にどれほどの苦痛をもたらしたか。そして今、私が彼らを訓練し、任命したにもかかわらず、 今日、疑いや不安を温め、その無理解と利己心ゆえに、「私がさらにしばらくの間、民の間に留まるだろう」「私が彼らの人間的な意志に従って、再び私の普遍的な光線を降ろし、長い間、引き続き自らを現し続けるだろう」と語っている者たちは、どれほど多くの苦痛をもたらしていることか。

それゆえ、私はあなたがたにこう言ったのだ。「私が言葉の中で、優柔不断さや不確実さ、あるいは意志の分裂を示したことがあったか？」決してない、まことに。もしそうであれば、私はもはや完全ではなく、もはやあなたがたの神でも、あなたがたの創造主でもなくなってしまうからだ。

53. わたしの中には断固たる決意、ただ一つの意志がある。それゆえ、わたしは明るい日差しのように明瞭に語るのだ。そうすることで、すべての者がわたしの臨在、本質、そして力を感じ取ること

ができるようになり、霊が（*根底にある*）理性と、わたしが人間の知性を通じて与えた御言葉を認識できるようになるためである。

54. 師はこう告げる。人間は建物を建て、それを教会と呼んできた。そして、そこに入る人々は、敬意を表し、狂信や偶像崇拝を助長し、人間自身が作り出したものを崇拝している。 これは私の目には忌まわしいことであり、それゆえ、私はイスラエルの民よ、あなたがたが当初知っていたこと、聞いていたことすべてを取り除いた。それは、あなたがたが狂信を捨て去るためである。

55. イスラエルの民の礼拝所は、人類に知られるべきであり、閉鎖されてはならない。なぜなら、それらは弱者や迷える者、疲れ果てた者や病める者に、安息の場を与えるべきだからである。あなたがたの備え、わたしの至高の御心への従順、そしてわたしの律法への順守を通じて、わたしは、わたしの神性の真の弟子たちの行いの中に、自らを証しするであろう。

56. 偽りの代弁者、偽りの会衆指導者、偽りの「働き手」が現れ、彼らの神を冒涜する口が民に語りかけ、わたしの言葉とわたしの普遍的な光が、今後も民の教えとして残ると主張することについて、あなたがたは心を痛める必要はない。

私は、*誰か*詐欺師であるか、誰が私の意志に従って律法を守らないか、*誰か*がただ自分の意地を貫いているかを明らかにし、その者が犯した行いと、*その者が*作り出した律法を明らかにする。そして、彼らは拒絶され、追放されるであろう。

なぜなら、私は神の恵みと力を差し控えるからであり、誘惑が彼らをその網に捕らえるからである。それゆえ、彼らを求めに行く者は誰でも、その魂の中で私の聖霊の恵みを感じることができないだろう。

57. 教会や宗派の人々が、イスラエルが分裂し、互いに否定し合い、弱体化しているのを見れば、彼らは、計り知れない価値を持つ宝石を奪い取る理由を探し、「新しい契約の箱」を手中に収め、明日には、自分たちが人類の中で真の神の使者であり、私の神性の代表者であると宣言するだろう。

58. あなたがたは皆、律法の第一の戒めの真意を知っている。「あなたは、両親や子供たちよりも、自分自身やこの地上に所有するあらゆるものよりも、神を愛さなければならない。」 もしあなたがたがそう行動すれば、心の平安を感じ、苦しみも和らぎ、自然の力もあなたがたに慈しみ深く接してくれるだろう。そうすれば、あなたがたの魂を完成させるために定められた試練を、失敗を感じることなく乗り越えることができるだろう。

59. もしあなたがたがこの戒めを一度理解し、それに従うならば、自分の運命に満足し、人々を愛し、その命を尊重するようになるだろう。あなたがたの行いには正義が宿り、その賜物を、自分自身と隣人の幸福のために用いるようになるだろう。

60. 確かに、私があなたがたに示した道は、楽しい道ではなく、自制と私の戒めへの厳格な遵守を伴う人生ですが、それは犠牲の道ではありません。愛と慈悲は苦痛を意味するものではなく、むしろ魂にとっての喜びであり、命そのものです。そして私は、あなたがたが真の霊的な至福を知るために、この至福をあなたがたに差し出しているのです。

61. あなたがたは、律法の履行から遠ざかったとき、自らその苦しみを招いたのである。戦争の拡大とその結果を食い止めたいのか。それなら、愛し、赦し、パンを分かち合え。そうすれば、より満たされた気持ちになれるだろう。神の律法の知恵と正義に満ちた力に信頼を置けば、その律法によって守られることになる。

62. 自分の行いに注意を払う魂となり、祈りと絶え間ない備えの中で生きなさい。そうすれば、誘惑に打ち勝ち、支配的な物質主義を克服することができるでしょう。 最初は、歩き始めたばかりの幼い子供のように、あなたの歩みはふらつくでしょう。しかしその後、あなたは力強くなり、知識を身につけていき、やがてこの地上では計り知れない価値を持つ霊的な賜物の開花に至るでしょう。

63. この道を歩み始めれば、あなた方は高潔な徳を備えた人間となり、肉体を制御し、霊的な生活を送ることができるようになるでしょう。 人生の道において、良心はあなた方の灯台となるでしょう。それはあなた方の友であり、裁き手となるでしょう。それは常に真実を語りかけ、その指針は正しく、 、まさにあなた方がそれを必要とするその瞬間に与えられるでしょう。この声は、善を示す、私の常に優しく慈愛に満ちた声なのです。

64. あなたがたの人生の父であり主である私を、誰が恐れることができるだろうか。私は、あなたがたの喜びと永続的な幸福のために、あなたがたが知っているものすべて、そしてあなたがたが知らないものまでも創造した。あなたがたの理性が理解し把握しうるものよりも、はるかに無限に深くあなたがたを愛している私を、決して疑ってはならない。 私の受難の意味を思い起こしなさい。そして、あなたがたが自分たちが何者であるかを一度理解すれば、敬虔な眼差しを私に向け、私に愛を捧げ、従順に私の律法に従うようになるでしょう。

65. 私は、天のコンサートのようにあなた方に命を与える私の言葉を授ける。あなた方のうち、深い眠りに沈んでいる者もいる。しかし、私がラザロに命を与えたように、今日、私はあなた方の魂を恵みの命へと目覚めさせる。私の力を使い、立ち上がりなさい。そうして、永遠の命である御霊の命へと導く道を歩み始めなさい。

66. 神聖なる師が御言葉を撤回されるまで、残された時間はわずかである。しかしその前に、私があなたがたのために定めた使命を果たせるよう、あなたがたが準備を整えておくことを望む。私は、私の神聖なる御目に喜ばれる行いを、あなたがたに教えたい。

67. 今、私はあなたがたの知性に、明日読み、解釈すべき書物を授ける。その書物の中に、私が去った後、あなたがたは私の愛の炎を見出すだろう。そして、知性、知識、そして力――すなわち、私の神性が内包するすべてのものを証しするその神聖な教えを、あなたがたは隣人たちに分かち合うべきである。

68. この第三の時代において、私はあなたがたに、あなたがたは皆、ただひとりの父の子であり、私の無限の慈悲の目には皆兄弟姉妹であり、そして私がすべての魂に等しい賜物を授けたことを教えてきた。

69. 祝福された民よ、あなた方にとって、私の教えを広めるべき新たな成就の段階が始まろうとしている。なぜなら、あなた方は私の弟子であり、私の選ばれた者たちであり、私と同じように、人々の道に愛の種を蒔くことができるよう、備えられなければならないからだ。しかし、すべての同胞があなた方を信じるだろうとは考えてはならない。なぜなら、その多くからは、嘲笑と軽蔑しか受けないだろうからである。 しかし、その種はそれでも芽吹き、彼らは私のもとに来るだろう。

70. いつの日か、すべての自然界と全被造物が、わたしの正義の証拠と証しを示すようになったとしても、それを罰 と受け取ってはならない。それは単なる試練に過ぎず、わたしの言葉に耳を傾けなかった人類が、混乱と苦難を経験した後、自然の力が解き放たれたことを様々な原因に帰する中で、自らの過ちに気づくようになるためのものである。 しかし、あなたがたは惑わされてはならない。真の信仰と、隣人への愛と憐れみをもって、この試練に勝利し、大衆を救うために備えなければならない。

71. イスラエルの民よ、身構えよ。あなたがたが引き続き強き者であり続けるよう、わたしはあなたがたに私の恵みを遺す。 人類への呼びかけを広めなさい。わたしはすべての人の心に現れ、すべての魂に感じられる存在となり、彼らを養い、強める水とパンを与え

たいと願っている。人類が渇きに苦しんでいることを理解し、砂漠で苦しむ彼らを見捨ててはならない。

　わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 364

1. 私は愛に満ちてあなたがたの元へやって来る。あなたがたの知性を照らし、私の言葉によってあなたがたの心を感受性豊かなものにするためである。

2. この時、私は、この教えに耳を傾ける者も、それから遠く離れている者も——私を忘れてしまった者も、心の奥底に聖域を築いた者も——等しく受け入れます。

3. 師は、あなたがたが、種まきから雑草を取り除き、穀物からもみ殻を取り除き、黄金の小麦の穂だけを私に捧げる、良き働き手であることを見て、喜びに満ちている。

4. このように働くあなたがたは、私の御前に来たその瞬間に、私が種と畑を託してくれるようにと、あなたがたの父に与えた約束を果たしたのだ。あなたがたの従順さによって、私は増殖した種を思い起こさせられる。

5. わたしの働き手の数は何倍にも増えた。しかし、畑に種を蒔き、手入れをする術を知っている者たちは幸いである。彼らは豊かな収穫をもたらすだろう。

6. わたしの父の声が、すべての人々に呼びかけを送っている。しかし、世俗的な快楽のために生きる者たちは、自らの魂がわたしの呼びかけを聞き取ることを妨げる障壁を築いてしまった。彼らを目覚めさせ、良心を通じてわたしの声を聞かせるのは、苦しみである。

7. わたしの律法に従う者は、人間の律法にも従うことを理解するだろう。そして、わたしの業の中で働くことを妨げるような障害も障壁も、もはや存在しなくなるだろう。

8. もし人類が私の律法に従って生きていたなら、情欲の奴隷になることもなければ、苦しみの杯を飲み干すこともなかっただろう。

9. 彼らの不従順によって、この地球は涙の谷と化してしまった。至る所で痛みの嘆きが聞こえ、宗派や宗教の間には思想の統一もなく、互いに兄弟愛も存在しない。

10. わたしは、この民をここに備え、父の力と知恵をもって、すべての国々に届けられなければならない平和と光と愛のメッセージを明らかにさせるためである。わたしは彼らに剣と盾と軍旗を託し、わたしの御心が終わりを告げるまで、彼らがたゆまず戦い続けるようにした。

11. 愛する民よ、備えよ。そして、初めの時代のように旅立ちの準備を整え、この「谷」を後にし、約束の地 へと向かい出よ。 わ

たしを信頼しなさい。あの時代と同様に、海の水はあなたがたを通すために引き、砂漠では再びマナも、岩から湧き出る水も欠けることはないだろう。

12. 人類がひとたび私の教えに従うならば、自ら招いた苦痛に満ちた試練を、その道から取り除くことになるだろう。

13. 今日、イスラエルよ、私の言葉があなたに下る。それは、あなたがたの発展を助け、私が託した困難な使命を果たし、あなたがたの家族や隣人にとって模範となれるようにするためである。 なぜなら、イスラエルの民は、心と魂の結びつきにおいて模範となり、全人類のための鏡となるべきであり、人類はイスラエルの精神に映し出された自らの姿をそこに認めなければならないからである。

14. わたしはあなたがたの知性を照らし、あなたがた全員が、思い、言葉、そして行いによって、わたしを証しすることができるようにする。なぜなら、初心者のあなたがたは、人類の中でわたしの偉大な弟子となり、やがては導き手となるよう召されているからだ――聖霊の教えの良き教師として、物質主義に囚われた者でも、古い慣習によって愚かになってしまった者でもない者として。

15. それゆえ、私は今この時代、あなたがたに対し、私の律法に則ったあらゆる行動や振る舞いにおいて、霊性、高みへの志、簡素さ、そして誠実さを求めるのである。

16. エリヤは、私の間近に迫った別れに備えて、全世界、すなわちイスラエルの霊を霊的に整えている。それは、あなたがたが待ち受ける戦いに、勇気と光に満ちて臨めるようにするためである。

私の去った後、無気力に陥ってはならない。また、歩むべき道に留まったり、そこから逸れたりしてはならない。むしろ、謙虚かつ威厳をもって、私の教師としての地位を引き継いでほしい。あなたがたは――自己犠牲、 準備と魂の高揚、そして愛と慈悲をもって――、心があなた方を待ち望み、腕を広げてあなた方を受け入れ、私の真理と愛に渇き、飢えている魂たちが、私の選ばれた者たちの到来を待ち望んでいるあらゆる道や小道に、スピリチュアリズム・三位一体・マリアの種を蒔きに出かけなさい。 まもなく、あなたがたは世界を起こし、もはや眠らせないために旅立つことになる。それが私の御心だからである。

17. 愛するイスラエルの民よ！エリヤは、あなたがたの魂を高みへと引き上げる手助けをしてくれた。彼は、あなたがたの思いと意志を、 一つのものへと統合した。彼はすべての魂を一つに結びつけ、私の祝福された光がイスラエルの霊そのものに宿るよう導いたのだ。

18. エリヤはあなたがたに先立ち、道を整え、小道を歩けるようにする。あなたがたを清め、心の最も小さな汚れさえも取り除くのを助けるのは彼である。そうして、あなたがたの良心が常に安らかであり、私の神性への奉仕と、隣人への奉仕に備えられるようにするためである。 あなたがたが悲しみ、落ち込んでいるのを見ると、道中で新たな勇気を与えてくれるのも彼であり――危険を告げ、迷いや闇の瞬間にあなたがたを照らすのも彼である。 苦痛の瞬間にあなた方を慰め、一歩一歩、ただ一つの合一の地点へと導くのはエリヤである――それは、すべての魂が招かれている地点、すなわち高き来世であり、あなた方は魂の高揚、真の祈り、そして真の神への崇拝を通じてそこに到達するであろう。

19. 人々の裁きや批判を恐れてはならない。この時代、わたしもまた、非難され、議論され、鞭打たれるだろうが、殺されることはない。わたしの業、わたしの光、そしてわたしの真理は打ち負かされることはない。 私の教えであるスピリチュアリズムは滅びることはなく、人々の無理解、不従順、恩知らず、不信仰、そして虚栄心にもかかわらず、今後も現れ続けるでしょう。私の神聖な霊と私の教えは、これからも現れ続け、心から心へ、霊から霊へ、民族から民族へ、そして世界から世界へと、止まることなく広がっていくでしょう。 なぜなら、私の霊と私の光を止めることのできる力も、権力も、法則も、障害も存在しないからだ――私の普遍的な光を覆い隠すことのできる影などない。それゆえ、私は常に光であり、真理であり、常に霊であり続けるのだ。

20. しかし、私があなたがたに語ったように、あなたがたは私の子供たちであり、私があなたがたを弟子としたのは、あなたがたが私を手本とし、私の神性に似るようになり、聖霊であるあなたがたの父を完全に理解できるようになるためである。しかし、あなたがたは、このスピリチュアリズム・三位一体・マリア主義の教えによる霊化を通じて、これを理解することになるだろう。

21.「最初の者たち」のために祈り、また、あなたがたの後に続く新しい世代――あなたがたの後に来る者たち――のためにも働きなさい。「最初の者たち」が第一歩を踏み出したならば、あなたがたは第二歩を踏み出し、あなたがたの後に来る者たちは第三歩を踏み出すことになる。 そうして、人類は世代から世代へ、時代から時代へと、霊的に私へとますます近づき、やがて真の霊的昇華と、 、私の神性への完全な崇拝に到達するでしょう。しかし、私はあなたに告げます。全世界の平和は、一つの心にも、多くの心にも依存するものではありません――世界規模で、霊的なものである私の業の

普及も、同様です。 すべては私の意志にかかっているが、私の慈悲と限りない愛により、イスラエルよ、私はあなたがたに、魂の完成と世界的な平和をもたらす私の業に参与することを許す。わが子らよ、私はあなたがたを、私の業、この愛の業、そして光と闇との戦いに参与させたいと願ってきたのである。

22. 世界があなた方を待ち望んでいること、諸国がわたしの民を待ち望んでいること、救いの道を見出せず、真の神への礼拝を知らないこの世界――その神を見出せないこの世界が、*あなた方*と出会い、*あなた方*の中でわたしを見出し、*わたしの*声を聞き、*わたし*を見るようになることを、心に留めておきなさい。 なぜなら、わたしは*あなたがた*がわたしの姿そのものとなることを望んでいるからだ――あなたがたの魂と行いの中に、わたしの御顔と愛が映し出されることを望んでいるのだ。

23. 狂信に陥ってはならない。それはあなたがたが教えるべきことではないからだ。偶像崇拝に陥ってはならない。それはあなたがたが世界に与えるべきものではないからだ。あなたがたは、渇きを癒やす水――飢えた者を満たすパン――裸を覆う衣を、霊的に与えるべきである。

24. 私はこの第三の時代に、人間の知性を通じて自らを現した。そして、私が「足台」として恵みを与えた者たちは、聖霊の最も偉大な賜物の一つ、すなわち、世界に私の言葉を伝えるために、彼らを通して私の神聖な光線を伝達するという賜物を授かっていた。 そして、あなたがたは、非常に謙虚で、無知で、取るに足らない心たちを目の当たりにしてきた。それを通して、私は完全さ、知恵、健康、慈悲、そして励ましの言葉をもって、あなたがたを驚嘆させた――私の言葉は常に、あなたがたの心の中に、過去、現在、そして未来を読み取る、無限のまなざしそのものである。 そして、この第三の時代に、その「声の伝達者」たちを通してそれを耳にするたびに、あなたがたは、師があなたがたと共にいて、あなたがたを見つめ、耳を傾け、あなたがたの願いの最後の一つに至るまで注意を払っておられること――師があなたがたの使命の遂行を受け入れ、あなたがたのあらゆる思い、言葉、行いを裁いておられることを感じ取ってきたのです。

25. この第三の時代において、私の聖霊は高き来世の扉を完全に開き、発展に満ち、使命の成就を渇望する私の霊的な光の世界が、人間の知性を通じて自らを現し、人々と語り、私の神聖な言葉を解き明かし、 の精神的・肉体的な病を霊的な気流によって癒やすために、あなた方の元へやって来られるようにした―― それは、第二の

時代の師であるイエスが病人を癒したあの流体――愛と生命と魂の健康に満ちた流体である。

26. 私の霊界は、あなた方の友人であり、医師であり、兄弟であり続けてきた。しかし、それは愛と忍耐と慈悲に満ちた、完全な兄弟である。

27. 祝福されたイスラエルの民よ、わたしは「新しい契約の箱」をあなたがたの手に託した。あなたがたは、わたしが水晶のように澄んだ水の泉へと変える、わたしの選ばれた者たちである。そうして、人類があなたがたのもとで、命を与える水を見出せるようにするためである。

28. わたしはあなたがたの中に、わたしの霊的な恵みの賜物を注ぎ込んだ。あなたがたは、わたしの光と愛が宿るわたしの神殿である。あなたがたは、狂信と偶像崇拝に陥った大衆のもとへ、謙虚な心を持って赴き、わたしの真理を隠し、わたしの律法を歪めた者たちに、わたしの光を示さなければならない者たちである。

29. 民よ、あなたがたは心の奥底でわたしを感じ取ったからこそ、わたしの霊的な臨在を信じたのだ。それは、時を経て成長してきたあなたがたの魂そのものである。

30. わたしは、あなたがたにわが王国を求めるよう教えるために、罪人たちを通して語った。しかし、あなたがたは、わたしの業に属するものを物質化してしまった。 あなたがたは、私が語ったものとは異なる生き方を築いてしまった。あなたがたは、贖いの象徴である十字架を物質的に表現してしまった。子羊がその神聖な模範によってあなたがたを贖ったあの十字架――その十字架は、あなたがたが偶像崇拝に陥らないよう、すでにあの「第二の時代」において、あなたがたの物質的な目からは消え去っていたのだ。

31. 第一の時代においてさえ、父は預言者たちを通して、あなたがたが誘惑や偶像崇拝に陥らないよう語りかけられた。第二の時代には、私はイエスを通して、全人類に私の愛と真理の教えを授けるために来た。私はあなたがたに宗教を教えたわけではない。なぜなら、宗教は人間によって作り出されたものだからである。

32. すでに第二の時代において、私はあなたがたに「私はあなたがたのところへ戻ってくる」と告げ、その言葉を果たした。たとえ狂信や偶像崇拝がいかに甚だしくとも――ここに、再びあなたがたの師が、霊的に顕現している。私は、あなたがたの魂を高め、それが救いを得られるように、私の言葉をもってあなたがたの心を清める。

33. わが愛と平安と光を受け取った後、滅びゆく者を救う術を知り、その祈りによって「霊的な谷」に住む存在たち――聖霊の光を受け入れることができなかったあの闇の力たち――をも照らすことができる者、そのような者は幸いである。

34. 選民よ、あなたは謙虚であるが、わたしはあなたを霊において偉大かつ賢明なものとし、人類に指針と慰めを与えるようにする。わたしは様々な伝達者を通じてあなたに語りかけてきた。それは、あなたがわたしを模範として、この人類の再生のために共に働くためである。

35. あなたがたは、私が霊化を教えた民である。そうして、あなたがたが父なる神について忠実な証しを立てるためである。

36. わたしの業を完全に理解し、霊から霊へとわたしを崇めなさい。

37. 物質主義に固執しようとしてはならない。もはや混乱と闇の罠に陥ってはならない。私があなた方を罪の泥沼から救い出すこの時代に、私の光、私の愛、そして私の正義によって、私を認識しなさい。

38. あなたがたが分裂したり、わたしの教えに背いたりすることを、わたしは望まない。

39. なぜ、あなたがたの間で嵐が吹き荒れているのか。それは、あなたがたが私の言葉に対する備えと理解を欠いているからだ。私があなたがたへの啓示をこの形で終える時が来たら、私はあなたがたが、私の戒めに従ったという満足感を持って、主の前に集まることを望んでいる。

40. わが民よ、備えよ。悪しき教会の指導者たちに惑わされてはならない――彼らが自分たちの律法を押し付けることを許してはならない。なぜなら、彼らはわが教えを隠蔽し、自分たちの教えだけを広め、わが業を商売の道具とし、それを秘密や物質化に満ちたものとして提示しようとしているのを見ているからだ。 あなたがたが、清らかさと霊性をもって私の業を広めること、それが私の御心である。なぜなら、この業は私の御霊から生まれ、人類の再生に向けた私の言葉の真髄を含んでいるからである。

41. わたしは、あなたがた全員が真の使命の遂行に取り組み、わたしの業から不完全な部分を取り除くことを望む。人間の知性という器官を通じてわたしの啓示が始まって以来、あなたがたを罪から救い出すためのわたしの闘いは、いかに大きかったかを悟りなさい。

42. 私は今なお、私の羊たちがさまざまな道を歩んでいるのを見ている。しかし、エリヤは輝く灯台として、今まさにあなた方を一つにまとめ、一つの道へと集めている。彼は、私の選ばれた民が救いの港にたどり着けるよう、響き渡る鐘の音で呼びかけを響かせている。

43. 第一の時代、父はモーセを通してその民を救われた。モーセは、この困難な使命を果たすために選ばれた者であった。彼は に服従し、勇気をもってあなたがたを先導したが、民の無理解にもかかわらず、一瞬たりとも弱気になることはなかった。

44. 第二の時代、私は父の「御言葉」として、人間となり、人々の間に現れるために来た。

45. それは父の戒めであり、必ず成就されなければならなかった。人々に私の教えと真理を伝えるためには、彼ら自身と共に生きることが必要だった。私の言葉は、その本質、臨在、そして力によって現れ、人々の心の扉を叩き、それを開くためであった。

46. 私は常に、直感として、また預言的な幻視による啓示として、人類に語りかけてきた。今日、この時代において、私は預言の成就として御霊によって来臨し、人類が新たな夜明けの光を認識し、立ち上がるようにした。そのしるしはすでに第一の時代に預言されており、それらはこの第三の時代、すなわち聖霊の時代に成就しなければならなかった。

47. 私は、何も隠されたままにならないよう、あなたがたに極めて明確に語っている。もし私が第一の時代や第二の時代に、今日あなたがたに啓示していることについて語らなかったとすれば、それは父の御心であったからである。なぜなら、私自身が御言葉を成就し、今まさに、あなたがたの間にある私の臨在を証ししているからである。

48. イスラエルの民の十二部族がわたしを取り囲んでいる。わたしは、時が来たらあなたがたが出発し、人類にわたしの臨在を証しできるよう、すべての人にわたしの言葉を授ける。

49. 私がこの形で啓示を行う最後の瞬間に、立ち上がりなさい。まるで一人の働き手のように、まるで一人の会衆の指導者のように、一つに団結しなさい。そうすれば、私は心の中で喜びを胸に抱きながら去ることができる。なぜなら、私はわが民を一つにまとめ、一つの意志を持たせるように導いたからである。

50. わたしは人類の罪には打ち勝つことができない。そして、あなたがたは、自らの不完全さによって、わたしの光、愛、慈悲を破壊することはできない。なぜなら、わたしはすべての被造物の上に

立ち、どんなに強大であろうとも、わたしの知恵と力を打ち負かすことのできる力など存在しないからだ。 それゆえ、私はあなたがたに語りかけ、愛を与える。それは、あなたがたが私を父として認め、私を神として崇めるためである。

51. わたしの畑の働き人たちよ。わたしは、あなたがたに、わたしの言葉を良き種として託す。あなたがたが働きを終えたとき、それを何倍にも増やしてわたしに示してくれるように。

52. 父があなたがたの霊に与えられた約束を果たしてくださるよう、あなたがたの使命を果たしなさい。なぜ、あなたがたは、自分たちが値しないものを、わたしに与えてほしいと願うのか。なぜ、自分たちが蒔いていないものを収穫しようとするのか ？その前に、あなたがたは努力し、働かなければならない。わたしは、あなたがたの良心が非難の声を上げるようなことは望まない。

わが子らよ、あなたがたは父を理解し、努力と労働によってこの報いを勝ち取ろうとしている。それゆえ、祝福あれ。あなたがたはこの目標のために戦わなければならない。人々が物質的な目標のために身を捧げ、さらには命さえ失うことがあるとしても、あなたがたは、命を失うことのないこの霊的な目標を達成しなければならない。なぜなら、あなたがたが最後まで忍耐強くあり続ければ、永遠の命を得るからである。

53. 約束の地へたどり着けるよう、功徳を積みなさい。そこでは、その大いなる戦いから休息を得ることになるでしょう。

54. わたしの選ばれた者たちが二人、あるいは三人が集まり、その精神をわたしの神性へと高めるならば、わたしは彼らと共にあり、彼らに霊感を与えるであろう。あなたがたがわたしを呼び求めるあらゆる場所に、わたしは臨在する。なぜなら、わたしはあなたがたに、罪ある者も罪なき者も、すべての目がわたしを見、すべての者がわたしの臨在を感じるようになると告げたからである。

55. あなたがた労働者たちは、力強い大木の下にいる。なぜなら、私が両手を広げてあなたがたを待っていることを知っているからだ。あなたがたは、任務の遂行を報告すべき相手が私であることを知っている。なぜなら、これを裁くことができるのは私だけであり、これは私の事柄であり、あなたがたに報いを与えるか、あるいは責任を問うことができるのは私だけだからである。

しかし、あなたがたは父を信頼しており、たとえ私の叱責がいかに厳しくあろうとも、その叱責とともに、私があなたがたへの慈悲と憐れみを注ぎ出していることを知っている。なぜなら、私はあな

たがたを愛し、憐れみ、私の叱責の衝撃に耐え抜く力を与えているからだ。

あなたがた一人ひとりは、わたしの畑に一区画の土地を持っており、そこで種を蒔き、収穫をしなければならない。父であるわたしは、あなたがたの努力、犠牲、そして苦しみをすべて受け入れる。わたしはあなたがたの涙を見て、わたしの言葉をもってあなたがたを励まし、あなたがたが永遠へと、常に前へ、前へと歩み続けることができるようにする。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 365

1. 弟子たちよ、わたしはあなたがたをわたしの食卓に着かせ、そこで教えという豊かなご馳走——すなわち、わたしの体と血、そしてその言葉とその真意——をあなたがたに供した。それは、この糧によって、あなたがたが人生の大きな戦いで不死身となり、無敵となるためである。

2. あなたがたはわたしを取り囲んでおり、師はあなたがたの心に入り込み、あなたがたの悲しみを見ている。なぜなのか、わが子らよ。わたしがあなたがたと共にいたこの期間、質素で謙虚な人々を通して自らを現してきた中で、わたしはあなたがたを真の啓示に向けて準備してきたのだ。 しかし、これは私が人類とつながるために選んだ形の中で、最善のものでも、最も完全なものでもありませんでした。これは、あなたがたの霊の目がまもなく「雲の上」からやって来る私を見ることができるよう、また、その時にはあなたがたの魂も、高揚した天使たちと交わりを持てるようにするための、準備としての啓示だったのです。

3. 師との最も完全な交わりは、私の言葉が去った後に訪れるものである。 確かに、これらの啓示が途絶えることで、多くの人々の信仰は弱まってしまうだろう——すなわち、わたしを理解することも、わたしの教えを解釈することもできなかった者たちである。しかし、わたしの言葉を深く掘り下げ、愛の行いに時間を費やしてきた者たちは、わたしが適切な時、好機において啓示に区切りをつけ、その後、あなた方を無限、永遠、そして霊的な世界へと委ねたことを知るだろう。

4. 目を覚まし、祈りなさい。この時は決定的なものであり、試練の時である、おお、わが民よ！ あなたは人類のため、そしてあなた自身のために目を覚ましていなければならない。なぜなら、あなたの祈りは、彼らを覆う外套のようであり、また彼らを守る破壊不可能な壁のようであるべきだからだ。誘惑は千の形であなたたちを待ち構えている。惑わされてはならない。

師は、あなたがたにこれらの預言を与える。なぜなら、あなたがたは、民自身が用意した極めて苦い杯を飲むことになるからだ——それは、私があの世で飲んだ杯であり、今、私があなたがたに飲ませようとしている杯である。あなたがたは今や強くなっている。私は私の知恵と覚悟をあなたがたの魂に注ぎ込んだからであり、あなたがたが目を覚ましていれば、試練や嵐に耐え抜くことができるだろう。

5. この杯には、師の唇にこれほど苦い味を残したものは何なのか。それは、この民の不信仰である。 彼らの不従順、物質主義、偶像崇拝、狂信、刷新の欠如、彼らが到達したわずかな霊性、そして教えの時代（ ）に彼らが評価し活用したわずかなもの――この民の間で、労働者同士や教会同士の間に常に支配してきた不和と争いである。 そして、これらすべてが今や一つの杯となり、あなたがた自身がそれを飲み干すことになる。しかし、わたしはあなたがたに、この試練に耐え抜く力を与える。

6. この言葉を聞くあなたがたに、私はこう言う。あなたがたはこの杯を満たしたわけではないが、それでもその一部を飲むことになる。なぜなら、あなたがたは戦いの渦中にあり、無関心ではいられないからだ――あなたがたは、表向きは常に目を覚まし、祈り続けていたように見えたが、実際には日常のルーチンの中で深く眠り込んでいた者たちの感性の欠如に直面することになるからだ―― あなたがたは、私の業の兵士として、自分たちの仲間の中にも、外部の人々の間にもいることになるため、弱者たち、不従順の犠牲となった多くの人々、そして多くの人々による冒涜に立ち向かわなければならないからだ。

7. 明日、あなたがたが守りの盾となることを望む。しかし、一瞬たりとも弱くならないよう、備えを整え、霊的な力を蓄えておきなさい。この言葉をもって、私はあなたがたに祈りを勧め、戦いに備えさせる。そうして、あなたがたが私の胸元、すなわち私がいる山の頂へとたどり着けるように。

8. 愛する民よ、わたしのもとに来なさい。そして、わたしの戒めに従いなさい。 イスラエルよ、わたしのもとに来なさい。飢えや渇きに悩まされないよう、わたしの言葉によって養われなさい。わたしの言葉を聞き、謙虚にそれを受け入れ、心の中に留める者は幸いである。なぜなら、人類がこのパンを求める時が来るからであり、あなたがたは、わたしの業においてあなたがたに託したものを、彼らに伝えなければならないからだ。

9. 時代は過ぎ去り、あなたがたの魂は成長し、今やあなたがたは進歩と霊化を成し遂げた時代にある。

10. 私は三つの時代にわたり、私の律法をあなたがたの手に委ねてきた。私の業は、私がモーセを通じて律法の石板をあなたがたに託し、彼が四十年間、荒野においてあなたがたの導き手であった、あの第一の時代に私がすでに与えたものと同じである。

11. 第二の時代において、私は人類を贖うためにこの律法を成就させた。そして第三の時代には、聖霊として再び来臨し、あなたがたにその同じ律法を解き明かした。

12. その後、あなたがたは、私の真理の証しを人類に伝えることになる――その人類とは、信じるために肉眼で私を見ることを待ち望みながら、その後で私を否定する者たちである。

13. 世界は混乱の時代であり、あなた方にとっては闘争の時代である。1950年が終わる3年前、私はあなたがたが準備を整え、霊的に団結するよう、詳しく語りかけた。しかし、1950年が終わろうとしている今、あなた方の多くは物質主義に迷い込んでしまっている。

14. 戦いがあなた方を待ち受けており、あなた方は兵士として立ち上がらなければならない。私は、あなたがたが戦いで無敵となるよう、武器を託した。まずは、自分自身に打ち勝つことから始めなさい。

15. 長年にわたり、私はあなたがたに私の言葉を託してきた。しかし、師を理解できなかった者たちは、私がもう少しの間、人間の知性を通じて自らを明らかにするよう求めている。だが、私の言葉は王の言葉であり、必ず成就しなければならない。

16. 偽りの弟子たちは今後も存在し続け、人類を惑わすだろう。そうすれば、人々は叫んでこう言うだろう。「わが神よ、あなたはどこにおられるのか。あなたの真理はどこにあるのか。あなたの御業とは何なのか。そして、あなたの選ばれた者たちはどこにいるのか。」

17. 私が去った後、あなたがたは私の臨在を証し、私の律法に従わなければならない。そうしてこそ、この業をその純粋な姿のまま世に知らしめることができるのだ。

18. 私の啓示が伝達者たちを通じて終わると、世界は霊化、光、そして平和へとよみがえる。そして、新しい世代が到来すれば、狂信も偶像崇拝ももはや存在しなくなる。その時、人々は聖霊の神殿で私を求め、私はそこに永遠に留まるであろう。

19. この恵みの日に、わたしは、わたしの選民であるイスラエルを構成する十二部族を、山のふもとに集め、一つに結ぶ。

20. この第三の時代において、あなたがたは、わたしの言葉と聖霊の光によって備えられ、わたしが初めからあなたがたに託した使命を果たし、わたしの律法に従順な民となり、人々の間でわたしの神性の使者となるためである。

21. この日、わたしはあなたがたの備えを見守り、あなたがたの魂を受け入れる。わたしから学んだことを、わたしに示しなさい。なぜなら、わたしはあなたがたに教えと命と霊性を与えるために、わたしの神聖な言葉をあなたがたの中に注ぎ込み、あなたがたが霊的に「わたしの姿と似姿」となるようにしたからである。

22. この日、わたしの父なる眼差しは、あなたがたの内に深く入り込み、すべてを究明する。わたしは、あなたがたの魂が整えられているのを見る。そして、あなたがたに、わたしの使命を与える。それは、初めの時代からすでに記されている通り（ ）、またこの時代においても、わたしの代弁者たちによって確認されたとおりに、あなたがたがそれを果たすためである。

23. 師として、私は倦むことなくあなたがたと共にあり、あなたがたを私の弟子とするために教えを授けてきた。私はあなたがたを清め、私の血によって命を与えた。私はあなたがたを他の道から遠ざけ、狂信や偶像崇拝をあなたがたから取り除いた。 今や、あなたがたはこれらすべてから解放されている。なぜなら、私はあなたがたの心と魂に真理を植え付け、それによってあなたがたを霊化させたからであり、今日、私は『知恵の書』の新たな一ページをあなたがたに示している。しかし、その光のすべて、すなわち啓示は、私が霊から霊へとあなたがたに授けるものである。

24. あなたがたは、心を整え、魂を高め、霊から霊への完全な対話の中で、わたしの知恵を受け入れるようにしなさい。

25. あなたがたは、自分の賜物を開花させ、常に備えを固め、わたしの聖霊があなたがたの上に注がれるようにしなさい。

26. この日、私は、私の御前、マリア、エリヤ、そして初代時代の先祖たちの御前で、あなたがたにこう告げます。私の選民イスラエルを成す魂たちよ、私はあなたがたを聖別します。それは、私があなたがたのために備えてきた、偉大で崇高な使命の成就に向けて、あなたがたが最初の一歩を踏み出すためです。

27. わたしの愛の慈しみを受け入れ、人類の中でその使命を果たすことに専心しなさい。

28. あらゆる道に足を踏み入れ、同胞たちにわたしの業を示し、わたしについて証しを立てなさい。そうすれば、あなたがたはわたしの知恵と教えによって、「死者」に命を与え、人々にわたしの律法を示すことになるであろう。

29. 私があなた方に託した慈悲をすべての人と分かち合い、私があなた方に委ねた業に対する責任を心の中で感じ取り、この世を霊化するためにこの十字架を背負いなさい。

準備の整った者たちは、人々――「最初の人々」も「最後の人々」も――を、わたしの教えによって導きなさい。魂を照らす松明のようになり、飢えている者たち、そしてわたしの知恵を求める者たちのために、永遠の命のパンを食卓に並べなさい。

30. あなたがたの魂に抱く慈悲の行いをもって、証しを立てなさい。日々、たゆまず戦い、人類とあなた自身のために「見張って」いなさい。なぜなら、わたしはあなたがたがわたしの神聖な御霊のもとで一つになるのを見たいと願っているからである。

31. わたしは手に一冊の本、すなわち「いのちの書」を携えている。イスラエルよ、その書にあなたの名を記しなさい。そうすれば、あなたは永遠のいのちを得、創世の初めからわたしがあなたがたに約束してきたすべてのものを受け取ることができる。

32. わたしは、わたしの臨在、エリヤの臨在、そしてマリアの慈愛をあなたがたに与える。わたしは、霊の軍勢が、霊と真理においてあなたがたと一つになるよう準備している。あなたがたは、あなたがたの神の神殿となるべきである。それがわたしの御心だからだ。

33. わたしの崇高な愛は、あなたがたの道を覆うために、祝福された影として降りてくる。なぜなら、わたしはあなたがたが置かれている状況と、あなたがたの霊が経験している試練を見ているからである。

34. あなたがたは、この日にわたしの御言葉を聞くために、深い懸念を抱きながら準備を進めている。

祝福された民よ。師は八十四年にわたり、あなたがたを導くためにあなたがたと共にいた。しかし、私は、あなたがたが依然として最初の音節をたどたどしく発するばかりで、私の戒めに対して弱さを露呈してきたのを見ている。

35. 人類は方向を見失い、混乱し、飢えた狼の餌食となっている。人間の知力からすれば、私の別れはすぐそこにあるにもかかわらず、あなたがたは、この瞬間からあなたがたの霊が直面することになる大きな試練を知らない。

36. イスラエルよ、悟れ： わたしは、あなたがたが皆、わたしの愛の囲いの中で羊のように一つに結ばれ、集められるように――あなたがたが努力し、豊かな収穫を挙げられるように――そして、この日にうつむいてわたしの御前に現れ、ただ黄金の穂だけをわたしの目にさらすことのないように――と、あなたがたに三年の期間を与え、大いなる備えを成し遂げさせたのである。

37. しかし、あなたがたはわたしの言葉を完全に理解しておらず、わたしの霊感も理解していない。あなたがたは停滞しており、道の途上で十字架を置き去りにし、不従順によって混乱している。しかし、あなたがたの戦いは終わっていない。わたしが啓示と直感を通じてあなたがたに語りかけ、あなたがたが引き続きわたしの業に取り組み、霊的に一つとなるようにする。

38. 私が去った後、代弁者たちは互いに分裂するだろう。これらすべてを私の目は見ている。しかし、あなたがた全員が同じ備えを持つことが、私の御心である。あなたがたがそう行動するならば、私はあなたがたを目覚めた状態に保ち続ける。 私は、私の言葉とその真意を、あなたがたの心に深く刻み込んで残した。そして、「黄金のペン」たちが私の教えを書き記したものは、第三の聖書となるであろう。

39. 師は決してあなた方から離れることはない。なぜなら、私を求めるために真に備えることを知る者一人ひとりに対し、私はその高揚と霊化に応じて、霊から霊へと与えるからである。私は啓示として、直感として、そして霊感として自らを現し、あなた方が群衆を導き、山の頂上に到達できるようにする。

40. わたしはあなたがたを大きな試練にさらすであろう。なぜなら、あらゆる試練は、あなたがたに義務の履行と服従を求めるからである。

41. こうして、私はこの日、この第三の時代にエリヤが選んだ群れに語りかける。そして父として、あなたがたの使命の遂行、努力、そして献身を受け入れる。

42. 私は、伝達者たちを通じて、1950年の最終日にあなたがたが私の言葉を聞くのはこれが最後であると告げた。また、その日以降、これまでの形式で交信するために私の光線や私の霊界を呼び求める者は、嘘や欺瞞に陥ることになるとも告げた。今日、私は再びあなたがたへの指示を繰り返す。

43. 1951年が始まると、私の聖霊が、霊と霊との対話のためにあなた方を照らし、父として、私はあなた方から私の視線と愛をそらすことはない。

44. この日、あなたがたは私の霊的な恵みを活用し、魂の中に私の臨在を感じ取ることができたゆえに、私の霊の愛の涙があなたがたの上に降り注ぐ。

45. あなたがたは地上で私の使命を果たすことになる。なぜなら、私はあなたがたが準備を整え、教えと力と知恵に満ちているのを見ているからだ。

46. あなたがたは私の御心に従順であった。私は人生の道においてあなたがたを霊化させ、あなたがたの中にあった物質主義を取り除き、魂の高揚の中で私の臨在をあなたがたに実感させた。

47. 私は、光と霊的な完全性に満ちた、より大きな扉を開く。あなたがたはこの扉を通って進むことになり、また、この扉を通して、あなたがたの同胞たちを霊化の王国へと導くことになる。

48. わたしは、預言、啓示、直感、そしてわたしの神聖な御心に対する真の理解を授ける。あなたがたは、クラリネットやトランペットのように、わたしの教えを広め、それによって人類を目覚めさせるべきである。

49. 私は山の頂上であなた方を待っている。そして、あなたがたが私の使命を果たしたとき、私はあなた方に月桂冠を授ける。私はあなた方を父なる腕に抱きしめ、その従順への報いとして、あなた方は約束の地に入るだろう。そして、あなたがたが私の元に来たとき、私はこう告げるだろう。

50.「完全なる教えの書に照らして、弟子よ、ようこそ。」

51. あなたがたが私の神聖な光によって印を刻まれたその瞬間から、人類のために立ち上がるという困難かつ偉大な使命を授かったのだ。

52. 私はあなたがたが経験してきた不幸を見ているが、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの道に苦痛を置いたのは、私ではない。あなたがた自身がそう引き起こしたのであり、今日、私はあなたがたの魂に、本来あなたがたに属するものを返してやる。しかし、私はあなたがたを私の恵みで満たし、こう告げた。「あなたがたは人類の力強い者となり、彼らに私の光を伝えなさい。」

53. あなたがたは、隣人たちにわたしの業を示すとき、愛と憐れみの生きた模範でなければならない。なぜなら、あなたがたはわたしを理解することができた子らであり、わたしは、あなたがたが常にわたしの声に耳を傾け、師の足跡に従う用意ができているのを見ているからだ。

54. 長い間、私は、道に迷った人々が、私の教えを求めてあなたがたのところに来ると語ってきた。今日、私はあなたがたにこう言う。あなたがたが偶像崇拝者ではなく、光の時代に生きていることを、真実をもって彼らに示しなさい。そうすれば、彼らは霊から霊へと私を求めるようになるだろう。そうして、彼らは愛に満ちた父、全能の神、最高の医師、そして彼らの最良の友を見出すことになるのだ。

55. 哲学者たちがあなたがたのところに来たら、彼らが理解できなかったことを説明しなさい。そして、科学者たちが来たら、彼らに私の知恵の光を与えなさい。なぜなら、私の聖霊の光は、私の民すべてとともにあるからである。

56. 主の愛する弟子たちよ。この第三の時代において、わたしは、1950年が終わる頃には、人間の知性という器官を通じてあなたがたにわたしの言葉を授けることをやめると告げてきた。しかし、あなたがたがそれに基づいて行動し、信仰を強め、明日には主のようになることができるよう、慰めと指針となる言葉をあなたがたに残しておいた。

57. 人間が自分自身や様々な世界観と格闘し、真理を見出そうとするこの精神的・知的な発展の時代において、あなたがたは、人類が過去の慣習、儀式、習慣を捨て去り、精神性を包括的に知り、理解できるようになるよう、その働きに着手しなければならない。

58. 現代において、世界は互いを誤解し合っている。兄弟が兄弟を殺し、女性は貞節と尊厳を忘れ、 親は子を、子は親を誤解している。命の価値は十分に尊重されていない。人々はさまざまな理想を追い求め、彼らの間には一致が見られない。各国の指導者たちは互いに理解し合っていない。

59. それゆえ、私は霊として来臨し、人間の知性を通じて自らを顕現させた。それは、私の業こそが救いの舟であることを世界に理解させ、私が「第二の時代」に与えたのと同じ教えを、人々に思い起こさせるためである。

60. 師はあなた方から離れることはないが、もはやこの形では現れないだろう。なぜなら、あなた方は霊的発展の新たな段階に入り、そこで自らの賜物を開花させることが必要となるからだ。そうして初めて、あなた方は私の教えを活かした証を示し、私の業を広めるにふさわしい者であることを証明できるのだ。

61. 父の「御言葉」が、その力と愛のあらゆる能力を備えて、完全に準備された肉体――すなわちイエスの肉体――の中に現れたのは、ただ一度きりであった。しかし、現代においては、私の慈悲と憐れみによって、「足台」が準備され、私の御霊そのものである慰めの御霊が現れることができるようになった。 あなたがたが備えを固めれば、来るべき時代に、私の霊感を一層深く受け取ることになるでしょう。

62. なぜ私は再び来たのか、わが子らよ。それは、人間が自らの本能や情欲によって、霊性から遠ざかるものへとますます傾いてしまったからである。人間は、あまりにも異なる道を歩んできたため

、私の業を理解しようとする試みの中で、それを歪めてしまったのだ。

人間の精神的な発展が、科学的な発展と調和していないため、人間は霊的に停滞してしまった。儀式を遵守することによって、あるいは自分の行いに対する罰や報復への恐れによって、人々がより高い高みへと到達することはない。

63. ある肉体にも、また別の肉体にも転生した魂は、善の素晴らしさと悪の卑しさを知るために、さまざまな経験をしてきた。このようにして、創造主への愛から善を行うことに満足感を覚えることで、あなたがたは永遠の完全性を獲得することができるだろう。

64. わたしの業は愛であり、愛は利己心なく、自らの利益を求めずに捧げられるものである。それゆえ、わたしの教えをあなたがたに思い起こさせるために、わたしが訪れる必要があったのだ。

65. あなた方一人ひとりは、私の光によって備えられてきました。また、あなた方がまさに必要としたその瞬間に、あなた方を支えてくれた高次の存在たちの臨在も感じてきたはずです。あなた方は、師がそばにいてくださるのを感じてきました。私は、子供たちが苦難や疑念に苛まれている瞬間に、彼らと共に生きてきました。 この時代、人類を慰めるために主が許されたこれらの顕現を、誰が疑うことができようか。

66. 私は誰の自由も制限しない。あなたがたは私の業を花開かせ、それぞれの備えに応じてそれを広めるべきである。慈悲を実践することは、あなたがたにとって最良の経験となり、この美徳によって、あなたがたは霊的に高められるだろう。

67. あなたがたが、私の代弁者を通じて私から受け取ったこれらの啓示は、今や終わりを迎えようとしている。しかし、あなたがたの魂は私によって照らされ、霊と霊との対話に備えられているため、今後も私の霊感を受け続けることになるだろう。

68. 私の霊的業は、物質的な象徴や儀式を必要としない。それは、イエスが「第二の時代」に残した教えの継続である。

69. スピリチュアリズムは宗教でもなく、宗派でもなく、新しい教えでもなく、あらゆる時代の法則である。それは、イエスが「第二の時代」にこの世に残した愛であり、赦しであり、光である。もしあなたがたが私の教えを理解し、それに従うならば、スピリチュアリストと名乗るにふさわしい者となるだろう。

70. 1950年以降もなお、私が依然として人間の知性という器官を通じて自らを現していると人々に信じ込ませ続ける者たちは、自ら

裁きを招くことになり、時が来ればその結果を味わい、眠りから目覚めることになるだろう。

71. 父はもはや現在の形では現れないが、私があなたがたに与えたものはすべて、文書として残されている。

72. 私は教えの言葉を遺し、愛を注ぎ出した。それは、あなたがた全員が、その愛に触発されて行いをなすようにするためである。私はすべての侮辱を赦した。なぜなら、私は赦しであり愛であり、正義をもって自らを現すからである。しかし、それはあなたがたが理解しているような方法ではない。あなたがたは、私が解き放たれた自然の力によってあなたがたを滅ぼすことで罰を与えていると考えているが、そうではない。 いいえ、私の正義は、私があなた方を準備し、啓発して、私を理解できるようにしたとき、あなた方の自らの行いを示し、あなた方が何者であるか、そして将来何者になるかを悟らせたとき、また、世界が自ら招いた結果と、人類があなた方を通じて受け取らなければならないものを明らかにしたときに、あなた方の前に現れたのです。

73. あなたがたは、書き残されるわたしの言葉を学ぶために集まることになる。そして、それを理解すればするほど、より大きな力と励ましを得るだろう。

74. 私は、あなたがたを団結したまま、そして私の業が将来、この世界に及ぼす影響の大きさを確信した状態で、ここに残して去る。あなたがたは種を蒔く者たちであり、しかしこの地上の生涯においてその収穫を刈り取ることはない、と私はすでに語った。いいえ。なぜなら、あなたがたがこの時代に蒔くものは、明日の世界のために定められているからだ。

75. わたしの業は、あなたたちにとって、あなたたちの行いを映し出し、あなたたちが自分自身を知ることを可能にする、水晶のように澄んだ鏡となるべきである。

76. わが民よ。わたしはあなたを一人にはしない。必要な時にはいつでも、わたしはあなたと共にいる。そして、あなたがわたしの名によって語る時、わたしはそこにいて、愛と憐れみを注ぐ。

77. あなたがたの備えに応じて、あなたがたが私と調和しているときはいつでも、私から命、霊感、愛、知識、理解、力、癒しの力、そしてあなたがたに欠けているすべてのものを受け取ることができるでしょう。

78. あなたがたの浄化の段階は終わり、昇華の段階が始まる。そうして、あなたがたは天の父の愛と一つになる時、魂の内に言葉に尽くせない至福を感じるだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 366

私の平安があなた方とともにありますように！

1. 愛する民よ、私は新しいシオンの山頂から、あなたがたに私の言葉を送る。 本質、臨在、そして力において、私は人間の知性という手段を通じて、今回が最後となる啓示を行う——これは、この第三の時代に、私の神聖なる御心が、自らを現し、人々に私の言葉を注ぎ、霊から霊への完全な啓示に向けて人々を準備させ、そしてその準備を通じて、人間から私の神性への完全な崇拝を受けるために選んだ手段である。

2. これは準備の時期であった。この期間、父は御自身の霊の軍勢に囲まれ、あなたがたに教えを授け、あなたがたの前で『大いなる命の書』、すなわち『神聖な知恵の書』、そして『七つの封印の書』を開かれた。それは、この民がページを一つずつ読み進めながら、すべての教えに対する神聖な解説を聞き取り、聖霊の弟子へと、力強い使徒へと変容できるようになるためである。その使徒は、自らの模範、考え方、そして言葉によって、私の業を、今この瞬間、私があなた方に最後のメッセージを伝えているまさにその時に、苦難と痛み、そして自らの血の中に翻弄されているこの人類、この世界の心に届けるのである。

3. わたしはあなたがたのところに来て、あなたがたが備えを整えているのを見た。父に捧げるあなたがたの祈りの中に、おお、愛する民よ、わたしをその中に招き入れる聖所の建立を見る。 それは、あなた方の心そのものです、わが子らよ。その中で、私はあなた方の捧げ物、すなわちあなた方の芳香を受け取り、霊的な祭壇の足元には、あなた方の収穫——時を経て築き上げ、刈り取ってきたもの、そして今、私の働き手としてその頂点に達したものが、見えています。

裁判官として、父として、そして師として、私はあなた方一人ひとりの「一粒の種」を評している。その中には、あなた方の闘い、霊的進歩への願い、苦しみ、そして実現した理想と、まだ花開くのを見ていない理想が込められている。しかし、あなた方の精神の謙虚さはその捧げ物を捧げ、私はそれを真に受け取っている。 私の父なる手は、あなたがたが私に捧げる実を受け取るために差し伸べられている。

4. わが民の意識は澄み渡り、自らを省みている。記憶はより鮮明になり、あなたがたはあの瞬間——魂にとって幸福な朝の祈りの時——を思い出す。その時に、あなたがたは今日歩んでいる道を初め

て踏み出し、荒野に響き渡る声を聞き、また、 その声があなたがたに向けられた瞬間をも思い出すのである。 そして、その日から、不運や障害、茨に遭遇しながらも、あなた方は一歩一歩、私の足跡をたどってきたのです。

5. あなたがたはどれほど多くのことを経験し、どれほど多くのことを見て感じ、そしてついに、わが民が恐れるあの日へとたどり着いたことか！　この裁きと良心と備えの日へと！

6. 父が、この地上の現世において、また現在の肉体という器の中で、私の最後の啓示を目撃することを許してくださるかどうか、誰も知る由もなかった。しかし、あなたがたはここにいる！ あなたがたは次第に、一つの心、一人の働き手、一輪の花となり、その香りは私の玉座の高みまで届いている。 そして、この霊的な備えゆえに、私は再び、力と光と平安と恵みに満ちて、あなたがたのもとへやって来る。愛する民よ、あなたにこう告げるためだ。「あなたは見捨てられてはいない」。悲しみがあなたがたの心に忍び込むことを許してはならない――これらの伝達者たちを通して私の言葉をもう聞くことができなくなっても、落胆に囚われてはならない。 後ろを振り返らず、常に前へ進みなさい。私の業の核心の中に、一歩一歩、目標へと導く励ましを見出してください。

7. 民は準備を整え、そして向こう側、あなた方の頭上には、天もまた準備を整えている。天は、花婿の到来を待つ花嫁のように身を飾っており、この普遍的な準備は、処女の清らかさを持ち、花の香りを放ち、新たな夜明けの光を放っている。

あなた方の彼方、しかし、この栄光と審判の瞬間にあなた方の精神が高揚したその場所には、父を取り囲む偉大な霊たちがいます――まだあなたがたには知られていない霊的存在たち、明日にはあなたがたが自分の兄弟姉妹のように見て愛するようになる者たち、無限の彼方から輝く星のようにあなたがたの存在の道を照らしてきた使者たちであり、その中には、あなたがたが名前を知っている者たちもいます。それは、その霊の中に律法、すなわち不滅で不変の律法を持つモーセです。 それは、族長たち、使徒たち、預言者たち、殉教者たち、聖人たち、義人たち、無垢な者たち、そして偉大な悔い改めた者たちです。誰もが準備を整えてきました。

8. 霊的な谷があなた方の上に輝き、自然の力さえも、まるで使者のように声を上げ、人間の魂、すなわちその心を揺さぶり、「この時は、イエスが十字架上で最後の息を引き取ったあの時と同じである」と告げている。実際、この瞬間、私は「第二の時代」における七つの言葉を繰り返すこともできるだろう。それは、、私が十字架

に架けられた際に叫んだものである。 しかし、まことに、あなたがたに告げよう。それらはすでに、神の血によって人類の意識に刻み込まれているのだ。

9. 私は新たな言葉を持って来たが、それらは同じ光、同じ本質、そして同じ知恵を含んでいる。それは、聖霊が過去の時代に啓示された教えを単に繰り返しただけだ、と人間が言わないようにするためである。

10. あなたがたが準備を整え、今この瞬間にあなたがたの上に降り注いでいるものにますます深く入り込んでいくならば、ヨハネが幻視の中で見たように、玉座に坐す全能者を見ることができるだろう。あなたがたに語りかけているのは、まさにその方である――その御顔を見ることはできない方――ただ、御自身が「王の王」であり「全能者」であることをほのめかしていた方である。 まさにその方が、今この瞬間、新しいシオンの山の最も高い頂上からあなた方に語りかけ、身を引き締め、準備を整えたすべての霊的な目によって見られるようになさっているのです。 また、その方は長老たちに囲まれています――右に十二人、左に十二人――神の選民である部族の族長たち、第二の時代の使徒たち、すなわちイエスの後継者たちです。彼らは、永遠に父を取り囲み、そこから永遠にわたり、あなた方へと光を降り注ぎ続ける者たちなのです。

ある者たちは、この地球上で、あなた方に命、血、力、そして道の始まりを与えます。他の者たちは、私の業、私の受難、私の言葉を証しすることで、あなた方に霊的な命を与えるでしょう。そして今この瞬間、彼らは父と共に、その民を裁き、その種を評価し、自らの実を吟味し、同様に神聖なる裁き主の前にひれ伏しています。

11. しかし、この瞬間の私の裁きは、第三の時代の弟子たちだけを対象とするものではなく、また、その構成員の一部が肉体に宿り、他の一部が霊的な状態にある「十二の霊的部族」だけを対象とするものでもない。私の裁きは万物を包み込むものである。 あらゆる被造物、あらゆる魂が、この瞬間に私の神聖な天秤にかけられている。そして、裁きを受けた後、彼らは私によって再び確かな道へと導かれるのである。

12. 私が人間の知性という器官を通じて啓示を始めて以来、声の伝達者から声の伝達者へ、世代から世代へ、働き手から働き手へと、私の正義によって定められた、私の啓示の終わりを告げる時が、あなた方に告げられてきた。

父にとって、この時間は永遠の中のほんの一瞬に過ぎなかったが、この民にとっては、準備を整え、魂の変容を遂げ、人類の中で再

び息吹を取り戻すための、長く十分な時間であった。そして、この期間の終わりは、私の意志によって1950年に定められた。

13. 今年、私はあなた方だけに捧げたわけではない。 それは、人類の父が授けてくださった恵みであった。主の光をあらゆる良心に輝かせ、制度そのものの基盤を揺るがし、宗派や教会において聖職者たちの務めを誇示する人々を震撼させた。それは、この時代、この年に、人類が目を覚まし、祈りながら自覚に至るためであり、平和、 調和、そして兄弟愛を得、苦難の杯を唇から遠ざけ、殺戮の武器を労働の道具へと変えることができるようにするためであった。

14. 1950年の初めに、すべてがこの世界に授けられた。霊的に、私はすべての子供たちに、平和と励ましと光のメッセージを送った。私はすべての道を祝福し、すべての種に実りをもたらした。

しかし今、年の瀬を迎え、私が人間の御手から収穫を受け取りにやって来るこの時、私がその良心に問いかける——彼は私に何を捧げるのか？この世界が私に差し出すものとは何なのか？——それは、不従順、物質主義、私の神聖な正義に対する不信、そして私の力に対する畏敬の欠如である。

しかし、まことに、あなたがたに告げる。私が教え導いてきたこの民は、全人類の鏡のようであり、この世に蔓延する不和を映し出している。なぜなら、あなたがたがこの世界が権力ブロックに分断されているのを見るならば、あなたがた自身も同様に、霊的な権力ブロックに分断されているからである。 地上の偉大な民族や大国が、他の者たちを吸収し、併合し、奴隷にしようとする意図を持っているならば、この民の中にも、第一になりたいと願い、他の人々を自分の側に引き込もうとする者が大勢いるのを見る。そして、あなたがたが人類の中で、それらの偉大な民族や大国において殺戮的な戦争を目にするならば—— 人々が自ら生み出した新しい兵器の下で死に向かっていくのを見るならば、私はこの民の中にも、人々の信仰を破壊し、ある者を他の者より優位に立たせ、「第一の者」が「最後の者」を屈辱させ、互いに拒絶し合うように仕向けるために、新しい兵器を装備している者たちを見るのだ。 しかし、この世界がわたしを疑ったとしても、わたしは彼らの不信を受け入れ、 な試練に身を委ね、真に試練にさらされている。しかし、あなたたちは——おお、民よ、わたしの裁きの前で、いかにして合格しようというのか？

15. わたしがあなたがたの果実を受け取り、あなたがたに祝福を注ぎ尽くした後、こう告げる。霊的なものは死ぬことはない。消え去るのは罪だけである。情欲は消え去り、この人類の傲慢な勢力も

同様に倒れ、それらからは石一つ残らないだろう。 悪と破壊に奉仕しようとするあの人間の科学は、わが正義によって滅ぼされるであろう。また、あなたがたの間においても、わがはあなたがたの欺瞞、世俗的な心構え、そして不和を取り除き、ただ、わがが第六の封印の光を宿したあなたがたの魂のみを保つであろう―― この時代に開かれたその章には、あなたがたがその中で、主の神聖な正義の偉大な日を体験することになると記されている。

16. これは偉大な日であり、24時間で構成されているわけではない。なぜなら、あなたがたは審判の日がどれほど続くのか、いつ終わるのかを知らないからだ。しかし、いずれにせよ、あなたがたはすでに時代の頂点に立っており、主の審判の下で生きているのである。

17.「この時、目を覚まして祈りなさい」と、わたしはあなたがたに教えた。 あなたがたは私の種であり、私の弟子であり、私の民である。私はあなたがたを、この地上の他の諸国民の間に遣わし、闇の中へと導く。なぜなら、あなたがたこそが光だからである――私はあなたがたを、病者、ハンセン病患者、絶望している者たちの群れの中へと踏み込ませ、あなたがたがそこに光と慰め、癒しと平安をもたらすようにするのだ。 わたしは、あなたがたに孤児や未亡人、あらゆる形態の悲惨さ、最も卑しいレベルの罪を目の当たりにさせる。それは、苦難、見捨てられ、そして死という光景を前にして、あなたがたの魂が高揚し、感情が呼び覚まされ、心が愛の泉として開かれ、ついにあなたがたが、わたしが初めからあなたがたのために定めた神聖な使命を、人々の間で果たすためである。

18. いつになったら、あなたがたはこの世で再び「正義の太陽」を目にするのだろうか。いつになったら、人々の心の中に再び平和を見出すのだろうか。愛する民よ、いつになったら、人の魂から父の御心へと昇っていく、平和の歌、賛美の歌を耳にすることができるのだろうか。

19. 実際、その時代が来るには、あなたがたはこの世でまだ大きな出来事が過ぎ去るのを見届けなければならない。第六の封印は依然として開かれたままであり、あなたがたの間で第七の封印が解かれるためには、私がまだ多くのページをめくらなければならない。

20. 人類にとって第七の封印が開かれることを、あなたがたが世界中で認識できるよう、私はどのような前兆を与えるだろうか。それは、全世界に大きな静寂が訪れたときである。これが私のしるしとなる。しかし、愛する民よ、この大きな静寂とはどのようなものだろうか。それによって、あなたがたは驚愕する人類に対し、それ

が一つの時代の終わりと、別の時代の始まりであることを証しすることができるのだろうか。

21. 戦争がひとまず短期間止み、自然の力が鎮まり、わたしの律法と教えに対する迫害が終息したとき、人類の間に大いなる静寂が訪れるであろう。そして、その静寂こそが、人類にその秘密を明らかにするために第七の封印が開かれることを告げる前兆となるのだ。 これは、あなたがたが知らなければならない、この書の最後の部分であり、あなたがたの霊が父を認識し、自らを認識するために、この霊が宿さなければならないものである。

22. 霊化は全人類の中に現れるだろう。戦いの時は非常に近く、その前兆はすでに近づいている。人々は自らそれを招くことになる。私は、教会の指導者たち、司祭たち、すべての聖職者や牧師たちを、私の正義をもって懲らしめる。その瞬間、彼らは心の奥底で私の裁きを感じるだろう。 この時、平穏な者は一人もいない。ある者は頭を垂れ、ある者はすすり泣き、またある者は良心の声を黙らせようと試みる。しかし、皆がわたしを感じ、皆がわたしを感知している。なぜなら、この瞬間、わたしはすべての者のそばにいるからだ。

23. 私は人類の中に、ペトロが設立した教会を見出そうとするが、その礎石の上に聖堂が建てられていないことがわかる。彼の足跡に従って自らを犠牲にした者は、いかに少なかったことか。

私は、巨大な教会や大規模な宗教団体、その華やかさと富、輝きと権力を目にしますが、霊的な輝きは見えず、美徳の祭服も見えず、私の普遍的な力の一部であるような力も見出せません。そしてまことに、あなたがたに言います。 私は、あの「ペトロの後継者」たちが、霊の谷で、彼らに続き、人類を不幸と死へと導いた者たちを見つめながら、すすり泣いているのを見る――この時代に使徒やペトロの後継者と名乗る者たちの唇は、確かに愛について、キリストについて、世界平和について語っているが、その言葉の裏では、殺戮的な戦争を煽っているのだ。 ペトロは死を蒔く者ではなかった。私は彼の手から剣を取り上げた。私は彼に、他者に命を与えるために自らの命を捧げることを教えた。私は彼に、その血を流すことを教えた。それは愛の種となり、 真理の証となり、彼自身の行いの真の証印となるためであり、彼はその人生の道のりの終わりまでこれを全うした。

24. それゆえ、この第三の時代において、私が人々の模範として、また使者としてこの世に残した者たちの行いを裁くとき、私は人々にこう告げざるを得ない。彼らは愚か者のように砂の上に家を建

て、人がその父であり主である方のために真の教会を築くべきであった、揺るぎないペトロの岩の上に建てることを知らなかったのだ、と。 また、私はあなたがたに告げる。あの栄光のすべて、あの力のすべては、石一つ残らず崩れ去るだろう。

しかし、その後、大衆は一体何をするのだろうか。羊飼いのいない、囲いのない群れは、いったいどうするのだろうか。鐘がもはや羊小屋へと呼びかけなくなったとき、羊たちはどこへと足を向けるのだろうか。

25. その時、民よ、羊たちがあの世に向かって鳴き声を上げ、山の頂上で羊飼いを探し求める時、わたしの御国はすべての人々のところに来るであろう。 私は、私の約束に従い、預言者たちの言葉通り「雲に乗って」来臨し、罪人であろうと罪人ではない者であろうと、すべての目が私を見るだろう。その時、人々は霊的な衝撃に打ちのめされ、真理に恐れおののき、上を見上げ、足元にあるすべてのものを忘れてしまうだろう。 そして、彼らはもはや花崗岩の聖所を見つめることもなく、耳に鐘の音が響くこともなくなるだろう。その時、人類は――心から心へ、民族から民族へ、そして国から国へと目覚め――聖霊への渇望に駆られて立ち上がるだろう。聖霊は、その宝箱を開き、その宝を明らかにし、善意あるすべての人々の内にそれを授けるのである。

26. しかし、その時代において――私の啓示を解き明かす者たちは誰となるのか。すでに父のもとで目覚めている人類に、聖霊の神秘を説き明かす者たちは誰となるのか。

27. あなたがたはよく知っている通り、あなたがたはまさにその者となり、私によって地球上のさまざまな場所に散らされることになる。それは、あなたがたの口が真夜中のトランペットの如く響き渡り――あなたがたの証しは、人々の心を動かす力強い業となるためである。そうして、あなたがたは世界にこう告げることができるだろう。「見よ、ここに第六の封印がその栄光のうちに現れた！」ここに、その時代の頂点にある第六の封印がある！ここに、人の霊に語りかける聖霊がおられる――羊を探し求め、いかなる物質的な媒介も介さず、その声、その言葉、その調べを聞かせる羊飼いである！」そして、多くの人があなたたちの言葉に耳を傾けるだろう。なぜなら、あなたたちは確固たる歩みを進める者たちとなるからだ。

あなた方にはためらいは見られず、唇にはたどたどしさはない。あなた方は、それを受け取りたいと願うすべての人々に、明確で深遠かつ包括的な証しをもたらすだろう。そして、あなた方は使徒と

見なされ、預言者としてその言葉に耳を傾けられ、教会や家庭、そして諸機関の懐において、私の神性の先駆者であり使者として迎え入れられるのだ！

28. 強くなれ、おお、民よ！ 備えを固め、わが業があなた方の奥深くに浸透するようにしなさい。それを守り、そこにしっかりと留めておきなさい。なぜなら、あなた方はこれからそれを学び始めるのだから。 まことに、あなたがたに告げる。たとえあなたがたがすでに私の業の多くを理解していたとしても、まだすべてを理解しているわけではない。私があなたがたに与える思索の期間において、あなたがたは、驚くべき多くの教訓を理解できるようになるだろう。あなたがたは今や第三の時代に生きているが、第一の時代の預言者たちを正しく解釈することをまだ理解していない。 あなたがたは、あの第二の時代にイエスが語った御言葉に深く入り込んでおらず、聖霊があなたがたに啓示した御業を、まだ理解の中に取り込んでいない。しかし、あなたがたは、これら三つの聖書、これら三つの啓示を、自分の霊の中で一つのものへと融合させなければならない。なぜなら、それらはすべて、一つの律法、一冊の書、一つの道、一つの真理を表しているからである。

29. 第一の時代と第二の時代の書物が、再びあなたがたの手に、あなたがたの目の前に、あなたがたの霊の中に戻ってくる時が近づいている。その時、あなたがたは、現在を通して過去を理解し、過去の時代に啓示された教えによって現在を裏付けることができるようになるだろう。

30. わたしは、わたしの使徒たちの手によって、あなたがたの過去である歴史が書き記されることを許した。この第三の時代において、わたしは、わたしが選び、備えさせたこれらの代弁者たちを通して自らを現し、あなたがたに新たな啓示を伝えるためである。これがあなたがたの現在である。

また、私は預言的な口調であなた方に語りかけ、この第三の時代に預言者たちを育て上げ、これから起こる出来事についてあなた方に告げさせた。この預言こそが、あなた方の未来である。

過去、現在、未来は、あなた方そのものであり、すべてを含んでいる。私があなた方に授けるのは永遠であり、あなた方はその中に生きており、私の意志に従ってそれを所有すべきである。そうしてこそ、あなた方は単に地上の時間を所有するだけでなく、また単にこの時代の支配者であるだけにとどまらないのである。

31. 精神の腕を広げよ！　翼を広げよ！　目を開き、永遠を抱きしめよ。あなたがたは、人生や出来事の運命を自覚し、過去・現在

・未来のすべてを理解するスピリチュアリストなのだから。わが光はあなたがたに多くのことを理解させてきた。そして、準備を整えれば、さらに多くのことを理解するようになるだろう。

あなたがたは神学者や神智学者の前に立つことになるだろう。そして彼らは驚嘆するだろう。そのとき、あなたがたの中に臆病さがあってはならない。おお、イスラエルよ、信仰に欠けてはならない。そうでなければ、あなたがたは、私の目にはまことに、まことに大したことのない者たちの前で震えてしまうことになるからだ。また、他の霊的な目も、あなた方を対等な存在、この時代の「働き手」として見なすだろう——今日、私の霊的な聖歌隊の一部を成す魂として。彼らは、長い間、この地での働き手として、先駆者として、使者として、そして声の伝達者として、あなた方の間にいた者たちである。

32. 見よ、おお、予言者よ！感じよ、おお、愛する民よ、ここに存在するこの大いなる軍勢を。彼らは愛に満ち、敬意に満ち、魂に歓喜を満ち溢れさせ、あなた方のそばに、そしてあなた方の上に寄り添っているのだ。

そこにはロケ・ロハス、ダミアナ・オビエド、そして霊的な谷へと旅立ったすべての「声の担い手」たちがいます——すなわち「労働者」たち、「支柱」たち、教会の指導者たち、そして私の印を帯び、一つの民、霊的労働者の大軍を成す者たちの多くが、今この瞬間、あなたがたの中に溶け込み、第三の時代の民、すなわち、人類の中に現れる聖霊を受け入れる準備をしている、この第三の時代の霊的労働者を形成しているのだ。彼らもまた、その使命の成就を私に捧げ、その蒔いた種を私に示し、あなたがたが父にそれらを誇りをもって示せるよう、あなたがたの備えを助けてくれている。

33. あなたがたは皆、この祝福された時、この裁きと愛の瞬間に一つに結ばれ、父の前で一つの家族、一つの民を成している。今この瞬間、あなたがたの魂はどの領域で振動しているのか。それは霊的な領域である。だからこそ、あなたがたはこの平安と至福を感じているのだ。世の不幸は、あなたがたは忘れてしまった。重荷の重さをもはや感じず、口の中の苦味も、この瞬間にはただ甘さへと変わっている。なぜだろうか、民よ？　それは、あなたがたが人間や宗教的な観念、あらゆる宗派を超えて、高みへと舞い上がったからだ。あなたがたは、ひっそりと、謙虚に高みへと昇っている。なぜなら、あなたがたの喜びの叫びは、この広大な世界には反響しないからだ。しかし、あの霊的な領域では、すべての存在が創造主に敬意を表すために、高揚し、物質性を脱している姿が見えるのです。

34. あなたがたは、無限に多くの存在たちに囲まれ、包まれているのを感じている。それらは、正義の声によって目覚めたがゆえに、その存在を明らかにしているのだ。 しかし、あなたがたが人間の声を通じてその声を響き渡るのを聞くとき、全世界がその声を精神の最も奥底で聞き取り、あなたがたは私にこう問う。「父よ、天の御国、あなたの御国は、今や完全に私たちのもとに訪れるのでしょうか？」しかし、父はあなたがたにこう告げる。「私は、あなたがたがすでに心の中に天の御国を宿していることを、どれほど願っていたことか。しかし今日に至るまで、あなたがたは未だそこに達していないのだ、おお、わが大義の戦士たちよ！」

35. あなたがたは、団結を達成するために、これからも戦い、働き続け、苦しみ続けなければならないだろう。 しかし、あなたがた自身の団結を達成することこそが、父の御国があなたがたの心の奥底にあることを実感させてくれるでしょう。この御国こそが、第二のエルサレム、すなわちあなたがたが私の御心に従って住むべき「白い都」です。その門は開かれており、住民たちは準備を整えており、その城壁の内側には平和と救い、そして永遠の命が満ちています。

あなたがたは、あと少しの間、その道を歩み続けなければなりませんが、そうすれば、その都にたどり着くでしょう。今日、私は、初めの時代、モーセの時代と同じように、あなたがたにこう告げることができます。「地平線に約束の地が見えるぞ！」

36. モーセは最期の時、あなたがたが約束の地に入る姿を見ることはできなかった。また、師もまた、人間としての死の前夜、民が彼の律法に立ち返る姿を見ることはできなかった。 主が、初代にモーセが登ったのと同じ山に登り、地上のエルサレムが、いつの時代もそうであったように罪にまみれ、何世紀にもわたる眠りに沈んでいるのを見たとき、師の目と心は、その愛する都のために涙を流し、こう叫ばれました。「エルサレム、エルサレムよ、あなたは、あなたのそばにあった善を悟らなかったのだ！ 私は、ヒバリが雛たちを集めるように、あなたたちを一つにまとめようとした。しかし、あなたたちは眠り込んでしまい、私の足音にも気づかず、私の言葉も聞き取らなかった。」

今日のこの時代、この時、わたしはお前たち、民よ、同じことを告げる。「イスラエルよ、イスラエルよ、お前は長い間、わたしをそばに置いていたのに、わたしがお前たちを愛したのと同じ愛をもって、互いに愛し合うことができなかった。 父が何度もその愛と兄弟愛をあなたたちに吹き込み、ひばりに姿を変えて、その翼の下に

すべての子鳥たちが収まり、互いを認め合うことができたはずなのに、あなたたちは一つにならなかった。しかし、かつての時代と同様に、あなたたちの中には、人生の旅を続けるための力が残されている。

37. あなたがたは、約束の地を勝ち取るためにそこにたどり着くことができるだろうか。

38. はい、愛する民よ。ここからすでに、大いなる都の灯りが見え始めている。ここからも、その庭園の香りをすでに感じ取っているのだ。 また、ここからすでにその住人たちの声も聞こえてきます。この現実感こそが、あなたがたをその道から迷い出さないよう励ましてくれるのです。この美しく天国のようなパノラマは、絶えずあなたがたを前進へと誘い、その門にたどり着き、ついにこう言えるように導いてくれます。「私は自らの努力によって約束の地を勝ち取った。」

39. モーセの信仰と勇気は、第一の時代にあなた方を約束の地へと導いた――そこは、天の祖国、永遠の故郷を映し出す地であった。子羊の血、すなわち主の血が、第二の時代にあなた方を救った。これこそがあなた方の報いである。 私のものを、誰も私から奪い取ることはできない。そしてこの時代において、人間の知性という器官を通じて伝えられた私の言葉が、道の上で再びあなた方を高めてくれる――それは、私が第三の時代の偉大な教えをあなた方に啓示した手段である。それは、あなた方が道から迷い出ないよう守ってくれる良心の光であり、真実への開かれた道筋そのものである。

決して彼女から離れてはならない。なぜなら、言葉と思想の戦い、立場や私の著作に対する解釈をめぐる戦いの時代が近づいているからだ。私の律法、啓示、教えを決して誤解してはならないが、周囲の人々がそれらに与える解釈には警戒せよ。 他者が私の律法に対して行う解釈や解釈を、あなた方の判断と精神的な感性に照らし合わせて検証し、もしその解釈が正しいと認めるならば、それを受け入れなさい。 もし他者が理解においてあなた方より先を行っているならば、公平かつ公正であり、あなた方より先に目覚め、私の業の核心においてその真実、永遠の価値、その光を見出すことを理解した者たちに、第一の座を譲りなさい。

40. わたしは再び、あなた方を狼の群れの中にいる羊として残す。しかし、これらの羊は準備が整っており、羊飼いのいないまま歩むことはない。彼らは安全な道を知っており、羊囲いがある場所も知っている。あなたがたがその道を歩んでいる限り、恐れることは何もない。なぜなら、羊が狼になるよりも、狼が羊になるほうが容

易だからである。 しかし、もしあなたがたがその道から逸れ、傲慢、不従順、独善、あるいは物質主義という皮を被ることになれば、あなたがたは略奪的な狼、貪欲な狼となってしまうだろう。そうなれば、あなたがたは悲惨な目に遭うことになる！　なぜなら、より強い狼たちが現れ、より厳しい正義、罠、そして深淵が待ち受けているからだ。

41. わが道は、あなたがたの良心に刻まれている。まもなく、この地上には、もはや魂の羊飼いはいなくなるだろう。また、あなたがたの な目の前で儀式を執り行う聖職者も、神の普遍的な神殿を象徴する集会所も、もはや存在しなくなるだろう。 世界全体があなた方の神殿となり、あなた方の精神の前には、主であり、師であり、知恵と愛に満ちた、愛に満ちたイエスが、常にあなた方の声に耳を傾ける準備ができておられる。あなた方には、あなた方の心以外の祭壇はなく、あなた方の良心以外の導き手もいない。

42. これらの教えはあなたがたに啓示され、あなたがたの精神の中で形を成した。あなたがたはもはや道から迷い出ることはないだろう。なぜなら、あなたがたはその道をしっかりと認識したからである。

もし世界が、あなたがたが地上の神々も、儀式も、牧師もなしに生きているのを見れば、憤慨し、あなたがたを非難するでしょう。そして、私の真理を彼らに証しし、あなたがたの行い、徳、そして人生こそが、あなたがたを孤独にさせないものとなるはずであることを、彼らは見過ごしてしまうでしょう。 なぜなら、あなたがたは口先だけで私の業を広めるのではなく、それを生きなければならないからだ。たとえどれほど説得力のある言葉であっても、人生における一つの行いは、千の言葉よりも価値があるからだ。愛、柔和、犠牲――こうして、世界はあなたがたの中に私を見出すだろう。

43. わたしは、わたしの代わりに、あなたがたを師としてこの世に残す。たとえあなたがたがわたしの前では常に幼子のように感じていたとしても、人々の間では、あなたがたは師として、また年上の兄弟姉妹として振る舞い、遅れをとっている者たちに、わたしがあなたがたに与えたすべてのものを注ぎ込むことになるだろう。 そして、もし彼らが、愛や私の業への献身によって、あなたたちよりも偉大になったとしても、それを認め、微笑んでください――しかし、それは愛と霊的な満足に満ちた微笑みでなければなりません。なぜなら、あなたたちにとっては、本当に新しい時代が訪れるからです。その時代には、あなたたちは道の上で彼らに追いつき、すべての人が平等になるのです。なぜなら、あなたたちは皆、初めから

同じように生まれ、また、同じ者として私の元へ至らなければならないからです。

あなたがたは皆、わたしを理解できるほど偉大な存在となるでしょう。あなたがたは皆、力と知恵と愛を備えた霊的存在となり、父を感じ、理解し、わたしの意志に従って父と共に宇宙を統治することになるのです。

なぜなら、現時点では、あなたがたはより低い立場にある人間たちに対して、より高い立場にある人間たちだからです。しかし、私があなたがたにこの世界を委ね、そこで支配するようにしたのと同様に、私があなたがたを私の王国へ導いた後、あなたがたは皆、父に対して君主となり、全被造物を統治することになるでしょう。その時、あなたがたは真の偉大さを備えた支配者となるのです。誰も他者に対して自分の方が優れているとは感じなくなるでしょう。 愛があなたがたのすべての行いを決定づけ、あなたがたは父を愛し、自分自身を愛することで、常に完全な霊的な至福を得るでしょう。あなたがたは、父も隣人も、不在であるとか遠く離れていると感じることはないでしょう。ある世界は別の世界の隣にあるでしょう。それは、現在、ある家が別の家の隣にあるのと同じです。

44. さあ、民よ、弟子たちよ、わたしはあなた方を完全なる境地へと導こうとしている。そうして、わたしの御心に従い、永遠の昔から準備されてきたこの偉大な「都」へと至り、あなた方がその住人、すなわちこの平和と完全さの中での永遠の住民となるのである。

45. 1866年から1950年にかけて、これまでの啓示の形式を通じて私があなたがたに明らかにしてきたすべてのことは、『七つの封印の書』の中に記されており、この人類に起こるあらゆる出来事は、そこに書かれていることを裏付けている。私は常に、わが子らに自らを現してきた。現在、あなたがたにはまだこの啓示の形式があるが、それは今やあなたがたの間で終わりを迎えることになる。

46. わたしを啓示する新たな方法、すなわち「霊から霊へ」という完全な形が到来する。霊的な啓示は、人間の間で高い完成度に達するが、その最高度には、あなたがたが世界と肉体を離れた時に初めて至るだろう。わたしはこの賜物を通じて、引き続き多くの秘密を解き明かし、あなたがたに新しく偉大な啓示を与えるであろう。人々は霊化の道へと踏み出し、その道において、自らの事業、使命、任務、そして科学のための光を見出すことになる。

47. 霊と霊との対話を通じて、私はこれからもすべての人々から問いかけられ、求められ続けるであろう。この手段を通じて、私は

わが子らに語りかけ、彼らに霊感を与える。今日、私はあなたがたに告げる――この恵みによって、謙虚さ、柔和さ、そして畏敬の念をもって私を求める者は幸いである。なぜなら、その者は私の中に、光と啓示と恩恵の豊かで尽きることのない泉を見出すからである。 しかし、悪しき方法でわたしを求める者には災いがある。わたしは彼を訪れ、その過ちを悟らせるからである。それでもなお愚かであるならば、彼は、闇であり誘惑である、見せかけの光としか結びつかないことになるだろう！

48. あなたがたは、私の教えが始まって以来、少しずつここへやって来た。旅の疲れや病に苛まれ――そして多くの者は何の取り柄もないまま――私の足元にたどり着いた。私の言葉と愛の証しは、あらゆる不信仰を打ち破った。私の霊的な本質は、物質主義に打ち勝った。 私は、岩のように硬かった心を感受性豊かなものへと変え、罪人たちを私の僕たちとした。悪徳にふけっていた男たちや女たちを、私は再生の過程を経て、私の働き手へと変えた。 自らの歩みを導くことさえできなかった多くの人々を、私は人々の良心を研ぎ澄ますための教会の指導者へと変えた。

後に、多くの俗世的な唇が神の御言葉を語らなければならなかった。科学の光や人間の知識には閉ざされていた、多くの無学で不器用な知性という器が、霊界の光を受け入れるために進んで心を開いた。しかし、まことに、あなたがたに告げる。私は、召された者たちを階級やカースト、あるいは家系によって分類したことはない。私は科学者を拒絶せず、律法学者をも拒みませんでした。私は教養ある人々への扉を閉ざしませんでした。なぜなら、多くの場合、教養ある者は教養のない者よりも早く、そしてより深く私を理解してくれたからです。また、ある場合には、教養のない者や無知な者たちが、自分たちの魂の中に悟りが生じていることを、より早く悟ったこともありました。

49. 私はすべての人を呼び寄せた。私は使者、すなわち布告者をわが子らの道に遣わしたが、多くの者が私の呼び声に服従し従順であった一方で、他の者たちは耳を貸さず、決して私のところへ来なかった。 しかし、粘り強く留まり続けた者たち――ある者は自らの確信や信仰の中で、ある者は不信仰を克服し勝利を収めるまで、ある者は病の中、健康を取り戻すまで、そしてまたある者は私にこう言った者たち――「父よ、もしあなたが私を癒やそうとされないとしても、私はそれでもあなたに従います」と。

50. わたしを愛してくれたこれらすべての人々の中から、わたしは「働き手」からなるわたしの団体、 私の新しい使徒の群れを形成

し、人々がその陰に集い、そこで私の「声の担い手」、賜物の担い手、会衆の指導者、「柱」、預言者、「金のペン」、そして「礎石」たちを通じて、私の神聖な啓示を受け取れるよう、数多くの質素で貧しい集会所が存在することを許した。 なぜなら、私は（神の御座の前にある）七つの御霊を体現する七つの賜物を通して、この民に語りかけ、彼らを導き、備えさせてきたからである。 私の選ばれた者たちの不完全さ、彼らの過ちや理解の欠如にもかかわらず、私は常に、一言、一つの幻、一つの試練といった形で、私の業を明らかにしてきた。それは、この民にとって励ましと刺激となり、また、すでにこの啓示の真実を信じていた者たちが、二度と疑うことがないようにするためであった。

51. 多くの者が私に背を向けたにもかかわらず、多くの者がその道を歩み続け、この時代の終わりまで私に従ってきた。あなたがたこそ、この不屈の者たち、この働き手たち、そして の民の群れを率いる指導者たちである。なぜなら、あなたがたは皆、数多くの魂や心を自らの後へと引き寄せ、まさにその群れの健康、道徳、そして信仰の実践における変容を目の当たりにしてきたからである。 当初、あなたがたは彼らが貧しく、病み、困窮し、無知な姿で最初の一歩を踏み出すのを見てきたが、今や、イスラエルの群衆の口からは光が、その行いからは真実が、その生活からは再生が、そして神への崇拝からは憧れ、渇望、そして完全さが感じられる。

52. わたしは誰に対しても、わたしの言葉を拒んだことはない。わたしは常にこの民のために準備を整えており、これらすべての仲介者たちを通して、本質、真理、そして命を注ぎ出してきた。すべての者が準備の仕方を理解していたわけではなく、すべての者に霊性を見出したわけでもない。最も大きな成果を上げた者たちについては、それは彼らの備え、高揚、そしてわたしの業への献身によるものである。 しかし今、私がすべての人に予告していた最後の日がやってきた。なぜなら、この日に父が、あなたがたが受けてきた形での御言葉を永遠に終わらせなければならないことを知らない者は、一人もいないからだ。

53. 人々は、この出来事に備えができているだろうか？

54. 弟子たちは、この試練に耐えるだけの強さを持っているか？

55. 私は、ある者は強く、ある者は弱いと見ている。そして、師は強い者たちにこう言う。「弱い者たちのために祈りなさい！」また、目覚めた者たちには、「眠っている者たちのために見張っていなさい！」と。そして、最も進歩した者たちには、「取り残された者たちに対する責任を感じなさい！」と。 そして、最も多くを受け

取った者たちにはこう言われる。「そのことを自覚し、時が来たら、この教えを他の人々と分かち合いなさい！」

56. しかし、父は民全体に問う。「なぜ、なおも師を引き留めようとするのか？　なぜ、父が自らの言葉に背き、それによって不完全さの例を示すことを求めるのか？　私が不変であり、容赦なく、完全であることを、理解していないのか？　私が長年にわたり忍耐強く伝えてきた私の言葉が、あなたたちには足りないというのか？」

57. わたしの言葉は完全な業であり、今やあなたがたの中でその役目を終えた。あなたがたには賜物があり、教えがあり、わたしの啓示を所有している。わたしはあなたがたを準備してきた。これ以上何を求めることができるというのか？　おお、民よ、父にまだ何を望むというのか？

58. それにもかかわらず、眠り続けている者たち――不従順な者たち、冒涜することに慣れ、わたしの戒めを踏み越え、「我々は主の御言葉 を無視することができる。主は御自分の民に何でも与えることができる。我々の意志が成し遂げられるのだ」と言う者たちが立ち上がっている。

59. ああ、まことに、彼らは自分たちが何を言っているのかを知らず、また、父の裁きが解き放たれるかもしれないという、自分たちがさらされている危険についても知らないのだ！

60. 主の正義の偉大な日は、すでにあなたがたのもとに来ている。そして、人間の司法もまた――警戒心を強め、威圧的であり、わたしの神聖な正義によって照らされ――人々の行いを裁くために現れることができるのだ！

61. 神の御業、霊的な御言葉を受け入れた者たち――すなわち、人々を統治し、教え、その悪癖や罪を抑制し、永遠の道へと導くために、わたしの教えと律法を用いた者たちは皆、裁きの場に立っている。その中でも、イスラエルよ、あなたが第一に挙げられ、その後にすべての宗教が続く。

62. これがわが天秤である！ ここに、わたしの正義と、また容赦なき剣がある！　もはやわたしを疑ってはならない、わが民よ！ この人類のようになってはならない。彼らは、省察の年、赦しと和解の年に立ち上がり、殺戮の武器を手に取り、平和の白い布を兄弟の血で汚し、そして――まことに、わたしはあなたがたに言う――わたしの平和の提案を無視したのだ！

63. ああ、この世よ！　それは深淵の淵に立っている！　それは、大いなる苦難の杯を澱まで飲み干そうとしており、目覚めるためには、大きな苦痛の叫びをあげざるを得なくなるだろう。

64. 人間はそう望んだのだ。私は彼に私の平和を差し出し、私の愛を差し出し、彼にさらに近づいた。それにもかかわらず――彼は私の王国を望まず、自分のものを望む。私の力さえも望まず――彼は自分の力を選んだ。 私の祝祭の衣も望まない――彼はこれからも誇りに身を包み続けたいのだ。彼は永遠の命を望まず、ただ一時的な権力と、人間のすべての行いを清算する死だけを望んでいる。

65. 私は、私の平和を求め、人々の不義な戦争の中で死を迎えるすべての人々のために、あらかじめ場所を定めておいた。なぜなら、右手に武器を握って戦場にいる者は多いが、彼らの良心は彼らに語りかけているからだ。 嗚咽する良心、心の中の絶望が、父にこう告げる。「私が死を蒔いていることをお赦しください。それによって、私はあなたを傷つけているのですから。」

66. これらの人々は、わたしを感じ取った者たちである。わたしは彼らを救う。民よ、彼らのために祈りなさい。 多くの者が平和のもとへ、多くの者が故郷へと帰っていく。倒れる者たち、瓦礫の下に肉体を残す者たちは、霊において栄光のうちに立ち上がる。なぜなら、私の声が彼らをこの平和と正義の王国へと招き、こう告げるからだ。「あなたがたは地上で正義を見出せなかったが、私の正義は存在し、あなたがたを呼び、包み込み、命へと目覚めさせる。」

67. あなたがたは、まだ多くの痛ましい試練を経験することになるでしょう。 あと数時間で幕を開ける1951年は、人類にとって試練という「贈り物」をもたらすだろう。そして、父の光によって準備されていた1950年が、人々の悲劇に覆われ、彼ら自身の血に染まり、大きな出来事に揺さぶられたのであれば――まことに、 私はあなたがたに告げる。1951年は、人類をさらに激しく揺るがすことになるだろう。

68. わたしの一部であり、これらすべての試練を乗り越えるよう備えられてきたあなたがたは、「見張りをやめてはならない」、祈りをやめてはならない。あなたがたは「平和の外套」であることを忘れないでほしい。あなたがたは香油の持ち主であることを心に留めてほしい。 あなたがたはこの世における慰めそのものであることを心に留めなさい。だからこそ、あなたがたが私の普遍的な光線と私の霊的世界と結びついたままであり、至高の王国を体験するためにこの世を去りたくないというこの時、私はあなたがたを私のもとへ連れて行くことはないのだ。その時は、あなたがたにとってまだ

来ていない。まだ人々のそばに留まり、彼らにとっての祝福と赦しとなりなさい。

69. あなたがたの武器は整っている。あなたがたの力は、最後まで前進させてくれるだろう。しかし、まことに、私はあなたがたに言う。これらの不幸を、あなたがただけが感じているのだとは思わないでほしい。あらゆる試練において、私があなたがたに恵みを与えているのだと考えなさい。あらゆる苦しみや不運には、あなたがたへの恩恵と愛の証が伴うのである。

70. わたしは裁き主としてあなたがたに語りかけてきた。わたしは裁き主としてあなたがたと共にいたが、わたしの裁きは普遍的なものである。師として、あなたがたは長年にわたる教えの期間を通じてわたしを師として持っていた。その教えは、過去3年間にその頂点を迎えた。この3年間は、わたしが「第二の時代」に説教を行ったあの3年間を記念し、また「三つの時代」を思い起こすために捧げたものである。

師としての私の教えは、私の言葉そのものです。聖霊としての私の啓示は、この教えの期間全体を通じて私があなた方に語ってきたすべてのことです。この書物は、聖霊 の炎によって、あなた方の良心、すなわちあなた方の心の奥底に書き記されており、そこでは私の言葉が消えることなく残ることになります。 それは全世界に向けて響き渡る。そして、過去の時代には解き明かせない神秘としてあなたがたの中に置かれていたすべてのものは、今やこの第三の時代において、あなたがたの霊にとって驚くべき光の輝きによって明らかにされるのである。

71. わたしは、あなたがたを、わたしの業、わたしの言葉、わたしの戒めの解釈者として残す。 見よ、主の御言葉、その律法、その預言、そしてヨハネが私の神聖な戒めに従って人類に伝えたすべてのものに深く入り込もうと切望するあまり、人々がどれほど混乱してしまったことか！ 人々、神学者、解釈者たちは、いかにして真理に到達することができるのか。それは、聖霊があなたがたに語られたことについて、あなたがたが証しをすることによってである。

聖霊は、そのすべての教えにおいて光をもたらされた。聖霊は何も隠さなかった。すべてのベールは取り除かれ、宝庫は民のために開かれた。 あなたがたはこの光の管理者である。なぜなら、あなたがたは聖霊の弟子であり、子と呼ばれているからだ。だから、人々のところへ行き、彼らに理解させてあげなさい。彼らがようやくその記録を読み、以前は理解できなかったこと――すでに成就した預言や、これから現実となる預言――を理解できるようになったとき

、彼らの心にどれほどの喜びが満ちるかを、あなたがたは目にするだろう。

72. このようにして、聖霊の預言者たちよ、使徒たちよ、祝福されたイスラエルの民よ、あなたがたはこの崇高な使命にふさわしい者となるであろう。あなたがたはこの時代、私の弟子であり、私を師としてきたが、私はあなたがたに、ついに私を父として認めてほしいと願っている。

73. あなたがたは再び、わたしの愛の食卓に着かされた。あなたがたは皆、わたしの弟子である。わたしはいつもパンを十二等分にし、わたしの民の十二部族は等しくそれを食べた。

聖餐式、すなわちあの「第二の時代」において、私が使徒たちに囲まれて食事をした最後の時、私はパンを取りながら彼らにこう言いました。「これを受け取り、食べなさい。これは私の体である。」私はぶどう酒を祝福し、次のように言って彼らに飲ませました。「これを飲みなさい。これは私の血である。」しかしその後、私はこう付け加えました。「私の記念として、これを行いなさい！」

74. 第二の時代を通じて、人類はこの象徴によって養われてきた。 しかし、父が再びあなたがたの間にお現れになったとき――もはやイエスという肉体を通してではなく、「雲」の間に霊的に現れ、謙虚な人間の被造物を通じて、その神聖な御霊の光によって御自身を現されたとき――私はあなたがたにこう告げた。「時代は変わり、時は過ぎ去った。今日、*私の言葉*こそが『体』であり、 、その意味こそが『血』である。あなたがたとの師との交わりは、霊的なものである。」

しかし、私がこの形で最後に私の言葉をあなた方に与えるこの瞬間に、私はこう告げる。 この言葉は、あなた方にとって糧であり、本質であり、命であり、救いであり、再生であり、健康であり、この民にとっての希望であったが、そこには永遠の本質が含まれており、たとえあなたがたがもはや声の媒体を通じてそれを聞くことがなくなっても、それは常に、命の源として、パンとして、選りすぐられた糧として、癒しの薬として、そして希望として、あなた方の内にあり続けることを忘れないでほしい。

75. わたしがあなたがたに残すものを大切にし、常に魂の中に抱き続けてください。 しかし、もしあなたがたが師と完全な交わりに入りたいと願うなら、もしあなたがたが師を心の中に完全に迎え入れたいと願うなら、心の準備と思いの清らかさが十分であり、それによって魂は解き放たれ、その魂は私をすぐに見つけ出すだろう。

魂は、私を、生命と良き味わいに満ちた糧として変容した姿で見出すだろう。

76. おお、民よ、あなたがたが常にこの完全な交わりに入ることができるよう、このように備えなさい。私の励ましと平安が、あなたがたから決して欠けることはない。

あなたがたは私の周りに座り、この命のパンを食べている。そして、主はかつてそうされたように、今またあなたがたにこう告げる。謙虚な者たち、私を深く愛した者たち――試練にもかかわらず、忍耐強く、粘り強く私に従ってきた者たちのうちにも、私の業を人間の司法の手に委ねてしまう者たちがいるのだ。 ある者たちは、私の業、私の言葉、私の遺言を、みすぼらしい金のために引き続き歪曲し続けるでしょう。そして、あなたがたは再び自問するでしょう。「果たして私は明日、勤勉で従順な働き手から、裏切り者へと変わってしまうのだろうか？」と。

「あの師とは誰なのか」と、あなたがたの心は私に問う。そして私はこう答える。あなたがたはそれを知らない。しかし今この瞬間、私はあなたがたを備えさせ、力を与えている。そうして、あなたがたが裁きを私だけに委ねることができるようにするためである。

77. あなたがたが歩む道において、裏切り者、不誠実な者、心硬い者、弱い者、あるいは不信仰な者、冒涜者、世俗的な考えを持つ者が立ち上がるのを見たら、その者を赦しなさい――そう、赦しなさい。 愛をもって、私があなたがたに語ったこの裁きの言葉をもって、その者に語りかけなさい。しかし、それは私の裁きであって、あなたがたの裁きであってはならない、民よ。あなたがたの裁きは、まだ完全ではないからだ。

あなたがたが私の業の中で働き、それを成し遂げている間、裏切り者はいないと思いなさい――世俗的な考えを持つ者がいることを忘れ、従順な者だけがいると思いなさい。 誰をも裁かず、愛し、赦し、 ただ働きなさい。なぜなら、あなたがたの使命の遂行の背後には、わたしの正義が立ち、すべてを決定し、すべての人にその光と完全さを取り戻させ、わたしの業とわたしの律法の中で、人生の始まりにおいて完全であり、その終わりにおいても同様に完全である者たちを正し、ふさわしい者とするからである。

78. わが最後の言葉――あなたがたは、私が十字架の高みからあなたがたを導くことができるとでも思っているのか。人類は刷新されていない。嘆きの声が私に届き、人々の冒涜の言葉が私の耳に届き、人々の戦争による耳をつんざくような轟音、子供たちの泣き声、男女の絶望が私の元へ届く。 私は悲しみと貧困を見、没落しつつ

ある王国や崩壊寸前の権力、そして全人類に漂う死の息吹を見る。そして、これらすべての呪いと呪文の声の只中に、人々の間で響き渡り、私の元へ届き、私の神聖な御霊を動かす一つの声がある。 それは、「来てください！」と言う言葉である。それは、この世界が私に告げていること、「来てください！」である。なぜなら、御霊は私の約束を受けているからであり、人々は私が再臨を予告したことを知っているからであり、人々は互いに、「主は再び来られると予告された」と言って、互いに目覚めさせ合ったからである。 なぜなら、人間の正義が欠如していることを前にして、彼らは私の平和と正義を渇望し、私に向かってこう言うのだ。「主よ、なぜ来られないのですか？　なぜ私の苦しみを顧みないのですか？　なぜ私の悲劇に目を向けないのですか？」

79. おお、人類よ、今、私はあなたを見つめている。父としての私の視線はあなたを見ているが、私の目は同時に裁き人の目でもある。あなたは決して私を父として望んだことはなかった。あなたは私にあなたに対する主権を認めようとはしなかった。あなたは私を師としてではなく、ただ裁き人としてのみ望んだ。そして今、この瞬間、あなたは私を裁き人として前にしているのだ。

君の良心の重荷をさらに重くしないために、私は十字架に架かっているとは言わない。目には見えないが、私は山の上、山の頂上にいる。しかし――あの十字架の上と同じように――君を抱きしめるために、両腕を、計り知れないほど大きく広げて待っているのだ。かつて私の脇腹が裂けて、愛の水と血をあなたに注ぎ出したように、今日、私の霊もまた開かれ、すべての人々に、赦しと憐れみと平和という神聖な水と血を注ぎ出しているのだ。

80. 私の両腕は広げられている！ 私の精神のすべてが、あなたの痛みを感じています。しかし、それは肉体的な痛みでも、人間的な痛みでも、苦しむ魂の痛みでもありません。それは神聖な痛み――有限な被造物には理解しがたい、あなたがたには知り得ない な痛みなのです。まことに、私はあなたがたに言います。私は渇いているのです、民よ。私は渇いているのです、人類よ。あなたの平和と、あなたの救いと、あなたの愛を渇望しているのです！

81. 今まさに人間の声を通じてこの言葉を聞いている者たちは、この瞬間、自らの信仰の兄弟を傷つけるために手を上げるなどとは決してしないだろう。彼らは、主の前で何らかの侮辱の言葉を口にすることなどできないのだ。 しかし、この集いに立ち会っていない者たちは、互いに傷つけ合い、殺し合い、生命と幸福と愛という尊

い宝を互いに奪い合っている。これは、彼らが自分たちが何をしているのか全く理解していないからである。

しかし、この崇高な日、すなわち世界的な愛と正義の日には、肉体を脱ぎ捨てて霊的な領域を横断する者たちは皆、この山の頂上から彼らに語りかけるイエスの力強い声を再び耳にする。「まことに、今日、あなたがたはわたしと共に楽園にいるであろう。」

82. この神聖な影響の下で備えられ、目覚め、私にこう言う者たちすべて——「主よ、この『聖なる年』と呼ばれる年の最終日に、私は肉体を離れ、未知の世界へと昇ります。私をお迎えください！」——まことに、私はあなたがたに告げる。彼らは私の御国で私を見出すであろう。 しかし、神を冒涜する者たちは、肉体の目を永遠に閉じる時、霊的な目も私の光に対して閉ざされ、彼ら自身の裁きが終わるまで、その目を開くことはないだろう。

83. キリストが人間としてすべての苦痛を感じ、その苦痛の中で一時的に御霊に見捨てられたとき、彼は人間として、人間という存在としてこう言った。「わが神、わが神、なぜわたしを見捨てられたのですか？」

84. 今日、わたしと共に生き、歩み、苦しみ、罪を犯すすべての人々に、わたしはこう告げる。「『肉』の弱さを感じるなら、師がそうされたように、あなたがたの霊に呼びかけなさい。霊は『肉』よりも強いのだ。」「肉」は弱く、これからも常に弱いままである。しかし、もし試練が御霊にとってあまりにも大きく、御霊よりも強いものであるならば、わたしに助けを求めてほしい。まさにその試練の力によって御霊の不在を感じたとき、あなたがたの肉体に対して、わたしが「わが神、わが神、なぜわたしを見捨てられたのですか」と言うことを許すのは、この場合のみである。

そうすれば、直ちに、あなたがたの目と魂の中に一筋の光が差し込み、それを光の道へと引き上げ、あなたがたが一人ではないこと、神は決して見捨てないこと、父が御子らを 見捨てることはできないこと——とりわけ、大きな試練の瞬間、あなたがたが主を完全に証ししている時にこそ——を証明してくれるだろう。

85. 私は、あなたがたを団結したままここに残し、これまで常にあなたがたを包み込み、その温もりをあなたがたがすでに知っているとおり、慈愛の外套をあなたがたにまとわせておきます。

86. マリアはキリストの足元にひざまずき、人類に対してただの一言の不満も非難も口にしなかった。それゆえ、彼女は父の目には、女性としても、霊としても偉大な存在であった。なぜなら、彼女は神の中に存在する普遍的な母性の霊そのものだからである。 そし

て、この祝福に満ちた時に、私はこの愛を私の民の心に深く刻み残す。なぜなら、あなたがたは「第三の時代のマリアの民」であり、現在および未来の人類に、この愛、この香り、この限りない優しさ、この執り成し、そして人間には理解され得ないこの処女性を認識させる存在となるからだ。 そして、私の中に、そして万物の中に存在するあなたよ、あなたに「永遠に宇宙の母であり続けよ」と告げるその声を聞きなさい。そして、この時代や他の時代の人類全体を代表するこの民に、私はこう告げる。「民よ、子よ、ここにあなたの母がいる！」

87. 私は、あなた方の心に痛みも悲しみも残したくはない。なぜなら、私の神聖な御霊は悲しみ、死の悲しみに満ちているとはいえ、私はあなた方に、最後の晩餐に同席していたという記憶を残しておきたいからだ。そうして、この最後の時が、おお、愛する民よ、あなた方の心に消えることのない記憶を残す時となるように—— 愛に満ちた時間、交わりの時間、幸福の時間となるように。あなたがたは、長い間聞いてきたように、今また「御言葉」を聞いているのだから。

この時、あなたがたは霊的な飢えと渇きを癒やすまで、豊かな霊的な糧を食したのだから、世の苦しみについては考えないでほしい。 私は皆と共にいます。この瞬間、現在のことを考えないでください。私があなた方のために準備している、あの平和の時代という未来に、しばらくの間生きてみてください。そして、この食卓——愛と教えと啓示と赦しの食卓——の周りに、愛に満ちて父を取り囲む皆の姿を見てください。

88. 取って食べなさい！　わたしの言葉はわたしの体である。取って飲みなさい！　わたしの血は、あなたがたがこの第三の時代に、わたしの言葉を真に発見したその言葉の中に、わたしが込めた本質である。 声の持ち主の中にも、その声の響きの中にも、人間の言葉の外見の中にもなく、その意味の最も深いところにあるのだ。そこにこそ、私の言葉そのものの血である本質がある。それを飲み干せ。なぜなら、明日、*あなたがた*は人類の中で、パンとぶどう酒、すなわち体と血となるからだ！

89. 私は、あなたがたをこの食卓に団結して座らせたまま去る。この食卓は決して裁きの場となるべきではなく、師の教えに深く没頭し、自らの準備によって、主がいつでも御自身を現わしてくださるにふさわしい者となる弟子や生徒たちのための学びの場である。明日、私はエマオへの旅人のように、また、私の臨在と証しを必要として励ましと立ち直りを得たあの使徒たちのように、あなた方を

驚かせるだろう。 あなたがたの中に偽りがあってはならない。あなたがたの証言は常に真実でなければならない。そうすれば、あなたがたの預言的な言葉は、この愛すべき民である群衆の歩みを確実に導き、決してつまずくことはないだろう。 あなたがたは、彼らを大きな危険から守り、勝利のうちに「新しいエルサレム」の門まで導かなければならない――それは、私がこの第三の時代にあなたがたに授けた都市であり、あなたがたがその守護者として人類に捧げるべきものである――その門は全世界に向けて開かれており、真理を渇望し、霊性を切望する人々がそこを通って入らなければならない。 そして、諸国民の良き導き手であるあなたがたは、確かな足取りで彼らを、白く輝く都の中心へと導くであろう。

90. わたしの裁きは下され、教えと啓示もまた与えられた。わたしの父なる平安、わたしの愛撫は、すべての人々と共にある。感じなさい、感じなさい、わたしが真実と霊において、あなた方をわたしの神聖な胸に抱きしめていることを！

91. 聞きなさい、聞きなさい。あなたがたの心の奥底で響き始め、この瞬間、あなたがたの最も深いところで反響を求め始めている父の声を。なぜなら、私はこの瞬間から、あなたがたを「恵みの時」、すなわち霊と霊との対話の時代へと送り出すからである。

92. ああ、愛する民よ。旅立ちなさい。各家庭を訪れ、至る所に平和をもたらしなさい！私の遺言を伝え、私があなたがたに啓示し、かつて与えた言葉の成就としてこの第三の時代に託した、私の三位一体・マリア的霊の業を、最後まで守り抜いてください。

93. 私は「雲の上」から来た。そこから私は私の普遍的な光線を降り注ぎ、その光線によって、1866年のロケ・ロハス以来、1950年まで、私が私の普遍的な言葉を響かせた最後の声の伝達者たちを通じて、言葉において、本質において、臨在において、そして力において、あなたがたは私を宿してきたのである。 しかし、今日、あなたがたが、わが民、すなわちイスラエルの民の成員であり、十二部族を構成するごく少数の人々と出会ったとしても、明日には、私が人類の中に残すこれらの証人たちと 使徒たちを通じて、私の言葉は全世界に知られるようになるでしょう。 それは真理として宣言され、この地を旅する者たちにとっては救いの綱、安らぎの港、導きの星となり、全世界にとっては平和の王国となるだろう。なぜなら、これが私の御心だからである。

94. わたしは、あなたがたにわたしの平安を残して去る。さようなら、愛する民よ！まもなく、あなたがたは聖霊において、わたしを豊かに受けることになる……なぜ泣くのか、民よ？見よ、この瞬間

に、わたしがどのようにしてあなたがたにわたしの言葉を証明しているかを。わたしは引き続きあなたがたに語りかけ、わたしの使命に背くことはない。

95. 民よ、わたしのもとに来なさい！泣いていい、泣いていい。わたしはあなたの涙を受け止めるから。「肉」は弱いけれど、霊は強い。霊は、自分が何を受け取ったかを知っており、従順であり、わたしの御心に同意している。しかし、あなたがたの肉体という殻は、人生の旅路で時折弱さを感じる子供のようなものであり、あなたがた自身がそれを強くしなければならないのだ。

96. さあ、民よ、あなたの痛みをわたしの足元に置きなさい！ 心を開き、あなたの嘆きの最後の一片までもわたしに委ねなさい。そうすれば、それを平安へと変えてあげよう。長い間、あなたは、わたしの御言葉が聞かれないという事実がもたらす痛みを、沈黙させてきた。しかし、最後の瞬間、「肉」はあなたを裏切り、肉体という器は未熟であるゆえに弱くなってしまった。 私はその肉体を私の腕に抱き、優しく揺らしながらこう告げる。「恐れるな。まことに――もし人生があなたの口にとって苦い杯であるならば、私はあなたの霊を通して、それを甘くする術を知っているからだ。」

97. 涙を流し、その痛みによる悲しみを溢れさせる目よ。泣け。そうすることで、あなたがたは自らを清め、新しい時代を明確に認識できるようになるのだ！

98. 働き手となった男性、女性、若者、大人、そして子供たちよ、私のところに来なさい。あなたがたが私の神聖な御前で最後の涙を流し、悲しみの最後の息吹と最後のため息を父に委ねたとき、その御前で、あなたがたの心の痛みを和らげなさい。 残るのは、喜びと平和と楽しさだけであるべきだ。なぜなら、私はあなたがたが、果たされた義務によって良心が与える心の平安と、準備された新しい時代への希望を持つ民となることを望んでいるからだ。

99. あなたがたは、わたしの癒しの香油の持ち主である。それに力を与え、自分の体を癒やし、その健康をあらゆる場所に広めなさい。

100. あなたがたが父に託したすべてのことは、父の内にあります。私は確かにそれを聞き、あなたを気にかけています。

101. この願いゆえに――受け入れて、受け取れ！

102. 全世界は、備えることを知れば――この時代の終わりを前にして涙を流すことができるならば――私の平安と祝福を受け取る。祝福あれ！ 霊性への高まり、刷新、そして平安へと向かうならば、幸いである！

103. おお、地球よ、私の平安と祝福――あなたが勝利するための*私の*武器――を受け入れなさい！ わが軍勢があなたを助け、わが癒しの油もあなたと共にあり、まもなくあなたは、父の普遍的な御声、聖霊の御声、そして霊界の力強い御声を聞くことになるだろう。今宵、まさにこの夜、教会や家庭、そして道行く人々の中に、その御声が現れるのだ。これこそがわが意志である。

私の平安があなたがたと共にありますように！

目次

教え 339	**節番号**
魂の永遠の命に関する啓示	10
霊界に関する啓示	18
慰めの御霊の予告	25
教え 340	**節番号**
もはや単なる宗教ではない、神の御業の偉大さ	3
瞑想によってのみ受け取れる啓示	43
誰もが神を「見ることができる」	45
『第三の聖書』	67
苦しみと浄化	69
教え 341	**節番号**
選ばれた者たちの責任	2
他人を悪く言うな	52
人類が神の律法を遵守しない限り、 人類を圧迫する者が現れるだろう	53
教え 342	**節番号**
霊的解放にふさわしい時期	1
霊と霊との対話	12
メキシコにおいて、神の約束が成就する	15
霊的イスラエルの使命	34
教え 343	**節番号**
霊的イスラエルの戦い	2
『第三の聖書』	11
転生	17
ヤコブの梯子の意味	23
人間の理解のための84年間の顕現	47
教え 344	**節番号**
準備と霊的使命	1
浄化をもたらす痛み	53
魂の使命	64
教え 345	**節番号**
審判の時と、私たちの起源に関する教え	2
創造と、善と悪の始まり	10
善と悪の振動と影響	16
創造の起源	20

良心とは、私たちの中にある神の声である	30
物質的な武器と精神的な武器	36
あらゆる時代における神の先駆者、エリヤ	51
ロケ・ロハスとは誰か？	57
『七つの封印の書』	61
魂と魂の対話	71
スピリチュアリティの時代	74
休息は、	78
普遍的な精神的な波動	81
鎌は神の御手の中にある	90
教え 346	**節番号**
霊的完成への準備	1
魂の死など存在しない（95,4および146,47を参照）	19
予言	41
教え 347	**節番号**
予言	3
神が私たちを愛してくださることを、私たちは防ぐことはできません。霊的なイスラエルは、ある時はこちらに、またある時はあちらに傾くことさえできません	11
霊的な祈り	21
魂は愛によって養われる	23
多くの教えが文書として残される	26
裁きの時が来た	27
限界はまもなく訪れる	29
教え 348	**節番号**
三つの時代の例と助言	1
『第三の聖書』	26
教え 349	**節番号**
第三の時代における主の再臨	1
人間は、いつの時代においても、神の「声の伝達者」であった	5
議論や暴力の代わりに、精神化を	22
スピリチュアリストの使命	27
霊性化と正義の新たな時代	32
崇高な模範	39
霊界の存在たちとの親交の深化	45
教え 350	**節番号**

弟子たちの準備	1
あらゆる時代における輝かしい模範	14
最大の願い	31
愛の力	52
第六の封印が明らかにすること	69
教え 351	**節番号**
さらなる精神の高揚	3
霊的イスラエルの使命	19
大いなる出来事に関する預言	64
教え 352	**節番号**
準備と概念の明確化のための時期	4
霊的な目覚め	34
精神的な償い	42
永遠の火に関する誤った解釈	44
予言	54
自分を見出そう	72
教え 353	**節番号**
愛	10
霊化と完成への呼びかけ	18
悪の終焉の始まり	50
1950年の重要性	60
自然の力は精神的なものに服従する	62
教え 354	**節番号**
依然として、この世には偽善と悪意がはびこっている	11
精神的能力の発達	26
精神から精神へのコミュニケーション	27
誰もが失われた時間を取り戻すことができる	38
まずは戦い、その後に平和が訪れる	46
心から心へのコミュニケーションの時代	54
裁きと最終決戦の時代	58
人類は依然として悪の種を蒔き続けている	65
過去の時代の例	74
精神的な動揺の時代	81
第三の時代の「なぜ」	84
教え 355	**節番号**
霊化の時代	1
隣人の権利を尊重すること、それこそが平和である	19

『第三の聖書』	44
教え 356	**節番号**
この第三の時代における神の啓示の理由	3
神の言葉の真髄を見出さなければならない	27
過ちは教訓となる	40
模範の重要性	46
精神化	61
唯物主義の崩壊に関する予言	88
「スピリチュアリズム」、スピリチュアリズムではない	93
真の霊的儀式	99
「声の伝達者」の役割	118
教え 357	**節番号**
結婚式の祝福	1
平和と調和の使命	28
異端審問	38
メキシコの運命	41
善と悪の影響が及ぼす効果	46
教え 358	**節番号**
儚きものと永遠のもの	9
祈りとは何から成るのか？	11
私たちは全体の一部である	18
病んだ人間の科学と神の知恵	31
三つの時代の書	58
教え 359	**節番号**
光と神の霊感はすべての人に慰めを与える	1
真の神殿	18
スピリチュアリズムは宗教ではない	60
インスピレーションと思想の自由	64
輪廻転生の必要性	68
神は「全体」である	74
進化の永遠の法則	78
神からの助言	84
教え 360	**節番号**
魂にとっての決定的な時	6
真の交差点	9
儀式なきスピリチュアリティ	13
明確な概念	19
マリアとその母性	23
ペンテコステ	34

黙示録 12	36
永遠の女性性	39
精神から精神へのコミュニケーション	44
私たちは壁を打ち壊さなければならない	50
教え 361	**節番号**
最後の準備	1
慈悲、そしてまた慈悲	65
教え 362	**節番号**
霊的なイスラエルの成就への呼びかけ	2
「神殿」の意味	14
洗礼者ヨハネは、受肉したエリヤであった	39
イエスは、いかなる人間の理想にも影響を受けなかった	57
教え 363	**節番号**
スピリチュアリティは宗教性ではない	9
普遍の法則との調和	23
利己的な人間の行い	25
私たちの脳は転生を覚えていない	34
世界における「光の王国」に関する予言	44
教え 364	**節番号**
神の愛は不滅である	1
スピリチュアリズムは神の教えである	19
主の再臨	32
神は不敗である	50
功績の重要性	52
教え 365	**節番号**
最後の呼びかけと命令	1
スピリチュアリズムは宗教ではない	69
神の言葉は書き留められなければならない	71
教え 366	**節番号**
別れの言葉	1
神の裁き	11
イスラエルと世界は創造主に何を提供するのか？	14
成就しつつある黙示録の預言	15
第七の封印の開封	19
諸教会の裁き	23
霊的な使者たち	27
私たちは永遠の中に生きている	30
ルカによる福音書 13	36
霊から霊への完全な交わり	46

1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の教え
参考文献

ライヒル出版社、D-56329 ザンクト・ゴア、電話：+49 (0)6741 1720
『真の生命の書』第I巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻
『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も刊行）
『メキシコにおける神の啓示』（簡潔な序説）
人生に関する神の啓示
第三の時代のための予言

『人生のための書籍サービス』、マンフレッド・ベーゼ、Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン
電話：+49 (0)7371 929 66 42、Eメール：manfredbaese@gmx.de
神の愛――私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的
『El Amor Divino』――私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的
『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI、XII巻
『第三の聖書』

ユニコン財団、D-88709 メースブルク
電話：+49 (0)7532 808162、Eメール：info@unicon-stiftung.de
『真の生命の書』入門（無料）

アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ベルデラ A.C.
Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuitzco, 03550 メキシコシティ
『真の生命の書』、第I巻～第XII巻
『第三の聖書』
およびメキシコのこれらの神の啓示に関するその他の書籍

ウェブサイト

www.drei-offenbarungen.net
www.reichl-verlag.de
www.unicon-stiftung.de
www.drittes-testament.de
www.drittetestament.wordpress.com（多言語対応）
www.tercera-era.net（スペイン語）
www.144000.net（多言語対応）
www.dritte-zeit.net